京都府遺跡調査報告集

第172冊

寺町旧域・法成寺跡

２０１８

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

巻頭図版 1　寺町旧域・法成寺跡



墓地全景（西から）



土坑ＳＫ99全景（東から）



(1)土坑ＳＫ80出土遺物



(2)墓穴ＳＴ215出土遺物



(1)墓穴ＳＴ191出土遺物



(2)墓穴ＳＴ195出土遺物

序

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和56年４月に設立されて以来、37年間にわたって京都府内の各地域に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。

これらの調査成果を広く府民の皆様方にお伝えし、我々の祖先の歩んできた跡を多くの方々に知っていただくよう努めることが責務だと考えております。

本書は、平成26年度から28年度に京都府教育委員会の依頼を受けて実施した、京都市寺町旧域・法成寺跡の発掘調査報告を収録したものです。本書を学術研究の資料として、また、地域の歴史や埋蔵文化財への関心と理解を深めるために、ご活用いただければ幸いです。

発掘調査を依頼された京都府教育委員会をはじめ、京都市文化市民局などの各関係機関、ならびに調査にご参加、ご協力いただきました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

平成30年３月

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

理　事　長　　井　上　満　郎

例　　言

1．本書に収めた報告は下記のとおりである。

寺町旧域・法成寺跡

2．遺跡の所在地、調査期間、経費負担者および報告の執筆者は下表のとおりである。

遺　跡　名	所　在　地	調査期間	経費負担者	執筆者
寺町旧域・法成寺跡	京都市上京区寺町荒神口下ル松蔭町 131 他	平成 26 年 6 月 9 日～平成 28 年 8 月 2 日	京都府	中川和哉 綾部悠真 引原茂治 岡崎研一 清水早織

3．上記１事業２遺跡は本部事務所(向日市寺戸町)で整理・報告作業を実施した。作業については、調査担当者の指示のもと調査課企画調整係が協力して実施した。

4．本書で使用している座標は、世界測地系国土座標第Ⅵ座標系によっており、方位は座標の北をさす。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。

5．土層断面等の土色や出土遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を使用した。

6．本書の編集は、調査課調査担当者の編集原案をもとに、調査課企画調整係が行った。

7．現場写真は主として調査担当者が撮影し、遺物撮影は、主として調査課企画調整係主査田中彰が行った。

本 文 目 次

寺町旧域・法成寺跡発掘調査報告

１．はじめに---------- 1
２．位置と環境---------- 2
３．調査の経過・概要---------- 5
４．調査の方法---------- 6
５．北地区の調査---------- 8
６．南地区の調査----------38
７．京都府教育委員会立会調査出土遺物----------206
８．遺構・遺物の検討（総括）----------207
付編１　寺町旧域・法成寺跡の自然科学分析----------225
付編２　寺町旧域・法成寺跡出土の人骨資料----------230

挿 図 目 次

寺町旧域・法成寺跡

第１図　調査地及び周辺遺跡分布図---------- 3
第２図　調査地周辺景観図---------- 4
第３図　調査トレンチ配置図---------- 6
第４図　調査地地区割り図---------- 7
第５図　北地区断面実測位置図---------- 9
第６図　北地区土層断面図（１）----------10
第７図　北地区土層断面図（２）----------11
第８図　北地区土層断面図（３）----------12
第９図　北地区遺構配置図（１）----------14
第10図　北地区遺構配置図（２）----------15
第11図　北地区遺構実測図（１）----------16
第12図　北地区遺構実測図（２）----------17
第13図　北地区遺構実測図（３）----------18
第14図　北地区遺構実測図（４）----------20
第15図　北地区遺構実測図（５）----------21
第16図　北地区遺構実測図（６）----------23

第17図　北地区遺構実測図（７）----24
第18図　北地区遺構実測図（８）----25
第19図　北地区遺構実測図（９）----26
第20図　北地区遺構実測図(10)----27
第21図　北地区出土遺物実測図（１）----29
第22図　北地区出土遺物実測図（２）----30
第23図　北地区出土遺物実測図（３）----31
第24図　北地区出土遺物実測図（４）----32
第25図　北地区出土遺物実測図（５）----33
第26図　北地区出土遺物実測図（６）----34
第27図　北地区出土遺物実測図（７）----35
第28図　北地区出土遺物実測図（８）----36
第29図　南地区断面実測位置図----39
第30図　南地区土層断面図（１）----40
第31図　南地区土層断面図（２）----41
第32図　南地区土層断面図（３）----41
第33図　南地区土層断面図（４）----42
第34図　南地区土層断面図（５）----43
第35図　南地区土層断面図（６）----44
第36図　南地区遺構配置図（１）----44
第37図　南地区遺構配置図（２）----46
第38図　南地区遺構配置図（３）----47
第39図　南地区遺構実測図（１）----48
第40図　南地区遺構実測図（２）----49
第41図　南地区遺構実測図（３）----51
第42図　南地区遺構実測図（４）----52
第43図　南地区遺構実測図（５）----54
第44図　南地区遺構実測図（６）----56
第45図　南地区遺構実測図（７）----58
第46図　南地区遺構実測図（８）----60
第47図　南地区遺構実測図（９）----61
第48図　南地区出土遺物実測図（１）----63
第49図　南地区出土遺物実測図（２）----64
第50図　南地区出土遺物実測図（３）----65
第51図　南地区出土遺物実測図（４）----67

第52図　南地区出土遺物実測図（５）----68
第53図　南地区出土遺物実測図（６）----69
第54図　南地区出土遺物実測図（７）----71
第55図　南地区出土遺物実測図（８）----72
第56図　南地区出土遺物実測図（９）----74
第57図　南地区出土遺物実測図(10)----75
第58図　南地区出土遺物実測図(11)----76
第59図　南地区出土遺物実測図(12)----77
第60図　南地区出土遺物実測図(13)----78
第61図　南地区出土遺物実測図(14)----79
第62図　南地区出土遺物実測図(15)----80
第63図　南地区出土遺物実測図(16)----81
第64図　南地区出土遺物実測図(17)----82
第65図　南地区出土遺物実測図(18)----84
第66図　南地区出土遺物実測図(19)----85
第67図　南地区出土遺物実測図(20)----86
第68図　南地区出土遺物実測図(21)----86
第69図　南地区墓群配置図----87
第70図　墓群１　平面・断面図----88
第71図　墓群１　ＳＴ381・91・94・95実測図----89
第72図　墓群２　平面・断面図----90
第73図　墓群２　ＳＴ21・85・67・ＳＫ66実測図----92
第74図　墓群３　平面・断面図----94
第75図　墓群３　ＳＴ42・55・190・355・ＳＫ78実測図----96
第76図　墓群４　平面・断面図----98
第77図　墓群４　ＳＴ350・197・24実測図----100
第78図　墓群５　平面・断面図----102
第79図　墓群５　ＳＫ30・ＳＴ58・23・31実測図----103
第80図　墓群６　平面・断面図----104
第81図　墓群６　ＳＴ48実測図----105
第82図　墓群７　平面・断面図----106
第83図　墓群６・７　ＳＴ48・49実測図----107
第84図　墓群８　平面・断面図----108
第85図　墓群８　ＳＫ40・ＳＴ324実測図----108
第86図　墓群９　平面・断面図----109

第87図　墓群９　ＳＴ29・321実測図----110
第88図　墓群10　平面・断面図----112
第89図　墓群10　ＳＴ50実測図----113
第90図　墓群11　平面・断面図----114
第91図　墓群11　ＳＴ69・70実測図----115
第92図　墓群12　平面・断面図----117
第93図　墓群12　ＳＴ56・57・161・162・218・219実測図----118
第94図　墓群12　ＳＴ54・195・63実測図----120
第95図　墓群12　ＳＴ196・62実測図----121
第96図　墓群13　平面・断面図----122
第97図　墓群13　ＳＴ127・415・416・230実測図----124
第98図　墓群13　ＳＴ213・214・215・226・170・144実測図----126
第99図　墓群13　ＳＴ140・141・158・205・242・241実測図----128
第100図　墓群14　平面・断面図----130
第101図　墓群14　ＳＫ61・ＳＴ424・434・428・191実測図----132
第102図　墓群14　ＳＴ222・221・207・201・202・189実測図----134
第103図　墓群15　平面・断面図----136
第104図　墓群15　ＳＫ89・ＳＴ179・231・233実測図----138
第105図　墓群15　ＳＴ235・444・446・192・ＳＫ167実測図----140
第106図　墓群16　平面・断面図----142
第107図　墓群16　ＳＫ157・ＳＴ456・250・239・240・259・208・216実測図----144
第108図　墓群17　平面・断面図----146
第109図　墓群17　ＳＴ81・469・199・385・388・243実測図----148
第110図　墓群17　ＳＴ188・122実測図----149
第111図　南地区ＳＫ99実測図（１）----150
第112図　南地区ＳＫ99実測図（２）----151
第113図　南地区ＳＫ471・ＳＥ100実測図----153
第114図　南地区ＳＥ113実測図（１）----154
第115図　南地区ＳＥ113実測図（２）----155
第116図　南地区ＳＫ80・178・139実測図----157
第117図　南地区ＳＫ12・111・ＳＥ129実測図----158
第118図　南地区墓地出土遺物実測図（１）----161
第119図　南地区墓地出土遺物実測図（２）----162
第120図　南地区墓地出土遺物実測図（３）----164
第121図　南地区墓地出土遺物実測図（４）----165

第122図　南地区墓地出土遺物実測図（５）----166
第123図　南地区墓地出土遺物実測図（６）----168
第124図　南地区墓地出土遺物実測図（７）----170
第125図　南地区墓地出土遺物実測図（８）----172
第126図　南地区墓地出土遺物実測図（９）----173
第127図　南地区墓地出土遺物実測図(10)----174
第128図　南地区墓地出土遺物実測図(11)----175
第129図　南地区墓地出土遺物実測図(12)----176
第130図　南地区墓地出土遺物実測図(13)----177
第131図　南地区墓地出土遺物実測図(14)----178
第132図　南地区墓地出土遺物実測図(15)----179
第133図　南地区墓地出土遺物実測図(16)----180
第134図　南地区墓地出土遺物実測図(17)----182
第135図　南地区墓地出土遺物実測図(18)----183
第136図　南地区墓地出土遺物実測図(19)----184
第137図　南地区墓地出土遺物実測図(20)----186
第138図　南地区墓地出土遺物実測図(21)----187
第139図　南地区墓地出土遺物実測図(22)----188
第140図　南地区墓地出土鉄釘----189
第141図　南地区墓地出土銭貨（１）----190
第142図　南地区墓地出土銭貨（２）----191
第143図　石造物の計測名称図----193
第144図　墓標分類図----194
第145図　台座模式図----196
第146図　石造物実測図（１）----198
第147図　石造物実測図（２）----199
第148図　石造物実測図（３）----200
第149図　石造物実測図（４）----201
第150図　石造物実測図（５）----202
第151図　石造物拓本（１）----203
第152図　石造物拓本（２）----204
第153図　石造物拓本（３）----205
第154図　鴨沂高校グラウンドフェンス支柱工事出土瓦----206
第155図　寺町旧域復元図----209
第156図　寺町全体図及び調査地周辺拡大図----210

第157図　墓域復元図----212
第158図　紀年銘墓標の推移----215
第159図　紀年銘墓標の推移(1590～1609年)----215
第160図　墓標形式の変遷----216
第161図　戒名別使用数量----217
第162図　戒名の変遷----218
第163図　ＳＫ99・ＳＥ113における紀年銘墓標の推移----220

付 表 目 次

寺町旧域・法成寺跡

付表１　北地区近世瓦タイプ別個体数----37
付表２　南地区近世瓦タイプ別個体数----83
付表３　出土墓石総数一覧----192
付表４　台座の形式構成----219
付表５　主要遺構出土墓石の年代----221
付表６　墓穴一覧----236
付表７　土器・土製品観察表----250
付表８　瓦観察表----281
付表９　石製品観察表----283
付表10　鉄釘・青銅製品・ガラス製品観察表----283
付表11　銭観察表----285
付表12　墓石計測一覧----310

図 版 目 次

寺町旧域・法成寺跡

巻頭図版１　墓地全景(西から)
巻頭図版２　土坑ＳＫ99全景(東から)
巻頭図版３　(１)土坑ＳＫ80出土遺物
　　(２)墓穴ＳＴ215出土遺物
巻頭図版４　(１)墓穴ＳＴ191出土遺物
　　(２)墓穴ＳＴ195出土遺物

図版第１　(1)北地区北西部(６トレンチ)全景(北西から)
(2)北地区北西部(６トレンチ)全景(南西から)
図版第２　(1)北地区北西部(６トレンチ)全景(南東から)
(2)北地区中央部(１トレンチ)全景(北から)
図版第３　(1)北地区溝ＳＤ18(南から)
(2)北地区溝ＳＤ18(北から)
図版第４　(1)北地区溝ＳＤ18断面(北から)
(2)北地区溝ＳＤ18(南西から)
図版第５　(1)北地区土坑ＳＫ20(東から)
(2)北地区土坑ＳＫ20(北から)
図版第６　(1)北地区土坑ＳＫ01・02(東から)
(2)北地区土坑ＳＫ03(西から)
図版第７　(1)北地区柱穴ＳＰ13～17、土坑ＳＫ10(西から)
(2)北地区土坑ＳＫ10断面(南から)
図版第８　(1)北地区土坑ＳＫ09・21(南から)
(2)北地区土坑ＳＫ21断面(南から)
図版第９　(1)北地区土坑ＳＫ08断面(南から)
(2)北地区土坑ＳＫ08(南から)
図版第10　(1)北地区井戸ＳＥ29(南から)
(2)北地区井戸ＳＥ29(北西から)
図版第11　(1)北地区溝ＳＤ12・23(西から)
(2)北地区土坑ＳＫ19断面(西から)
図版第12　(1)北地区土坑ＳＫ04(南から)
(2)北地区土坑ＳＫ04(北西から)
図版第13　(1)北地区寺町旧域整地面検出状況(北西から)
(2)北地区寺町旧域整地面検出状況(北西から)
図版第14　(1)北地区土坑ＳＫ01(南から)
(2)北地区柱穴ＳＰ15(南から)
(3)北地区柱穴ＳＰ11(南から)
図版第15　(1)北地区柱穴ＳＰ06(南から)
(2)北地区柱穴ＳＰ05(東から)
(3)北地区柱穴ＳＰ07(北から)
図版第16　(1)北地区柱穴ＳＰ17(南から)
(2)北地区柱穴ＳＰ17(南から)
(3)北地区柱穴ＳＰ16(西から)

図版第17　(1)北地区北東部(３トレンチ)全景(北西から)
(2)北地区北東部(３トレンチ)全景(南東から)
図版第18　(1)北地区柱穴ＳＰ31～33・土坑ＳＫ30・34・35検出状況(西から)
(2)北地区土坑ＳＫ36(南西から)
図版第19　(1)北地区溝ＳＤ37(南から)
(2)北地区土坑ＳＫ42・43、柱穴ＳＰ44・45(南東から)
図版第20　(1)北地区溝ＳＤ91、柱穴ＳＰ92・93(南東から)
(2)北地区土坑ＳＫ97・99、溝ＳＤ100(北西から)
図版第21　(1)北地区土坑ＳＫ96(南から)
(2)北地区土坑ＳＫ96断面(西から)
図版第22　(1)北地区土坑ＳＫ96礎石(南東から)
(2)北地区土坑ＳＫ96(西から)
図版第23　(1)北地区土坑ＳＫ96(南から)
(2)北地区土坑ＳＫ97・99(西から)
図版第24　(1)北地区土坑ＳＫ99断面(西から)
(2)北地区土坑ＳＫ97(西から)
図版第25　(1)北地区溝ＳＤ100(東から)
(2)北地区溝ＳＤ100断面(東から)
図版第26　(1)北地区土坑ＳＫ101(東から)
(2)北地区土坑ＳＫ101断面(東から)
図版第27　(1)北地区北西部(６トレンチ)断ち割り状況(南東から)
(2)北地区北西部(６トレンチ)断ち割り断面(東から)
図版第28　(1)北地区中央部(３トレンチ)断面(東から)
(2)北地区北東部(３トレンチ)断ち割り状況(西から)
図版第29　(1)北地区南部(８トレンチ)断ち割り状況(北西から)
(2)北地区西部(11トレンチ)断面(南から)
図版第30　(1)南地区北部(５トレンチ)全景(北から)
(2)南地区北部(５トレンチ)全景(東から)
図版第31　(1)南地区中央部(２トレンチ西半)(南から)
(2)南地区中央部(２トレンチ東半)(南から)
図版第32　(1)南地区柵列ＳＡ01(東から)
(2)南地区中央部(２トレンチ東半)柱穴群(東から)
図版第33　(1)南地区建物ＳＢ01(西から)
(2)南地区瓦敷ＳＸ529(東から)
図版第34　(1)南地区瓦列ＳＸ629(西から)

(2)南地区瓦列ＳＸ629(東から)
図版第35　(1)南地区瓦列ＳＸ630(南から)
(2)南地区瓦列ＳＸ630(北から)
図版第36　(1)南地区瓦列ＳＸ630(西から)
(2)南地区石室ＳＫ628断面(南から)
図版第37　(1)南地区石室ＳＫ628、瓦列ＳＸ629(南から)
(2)南地区石室ＳＫ628(南から)
図版第38　(1)南地区石室ＳＫ628(東から)
(2)南地区不明遺構ＳＸ609(南から)
図版第39　(1)南地区不明遺構ＳＸ631(西から)
(2)南地区土坑ＳＫ526東半(西から)
図版第40　(1)南地区土坑ＳＫ526東半(東から)
(2)南地区土坑ＳＫ526断面(東から)
図版第41　(1)南地区南西部(７トレンチ)(東から)
(2)南地区南西部(７トレンチ)(東から)
図版第42　(1)南地区溝ＳＤ738、礫敷ＳＸ739、溝ＳＤ741(南東から)
(2)南地区溝ＳＤ738、礫敷ＳＸ739(南東から)
図版第43　(1)南地区溝ＳＤ741(東から)
(2)南地区溝ＳＤ741(南東から)
図版第44　(1)南地区溝ＳＤ738断面(第42図ａ－ａ'・西から)
(2)南地区溝ＳＤ741断面(第43図ｂ－ｂ'・東から)
(3)南地区溝ＳＤ741断面(第43図ａ－ａ'・東から)
図版第45　(1)南地区柱穴ＳＰ714、溝ＳＤ817(南東から)
(2)南地区溝ＳＤ817(南東から)
(3)南地区柱穴ＳＰ714(南東から)
図版第46　(1)南地区井戸ＳＥ711(南東から)
(2)南地区井戸ＳＥ711(南東から)
図版第47　(1)南地区井戸ＳＥ706・707(東から)
(2)南地区井戸ＳＥ128(南西から)
図版第48　(1)南地区溝ＳＤ124(北から)
(2)南地区溝ＳＤ124(北東から)
図版第49　(1)南地区溝ＳＤ124(北から)
(2)南地区南西部(７トレンチ)断面(南東から)
図版第50　(1)南地区北部(９トレンチ)全景(北西から)
(2)南地区北部(９トレンチ)断面(北西から)

(3)南地区北部(10トレンチ)断面(東から)
図版第51 (1)南地区北東部(４トレンチ)検出状況(南西から)
(2)墓地完掘状況(北から)
図版第52 (1)墓地完掘状況(西から)
(2)墓地完掘状況(北西から)
図版第53 (1)墓地東壁断面(南西から)
(2)墓地東壁断面(西から)
図版第54 (1)墓地墓群２検出状況(北から)
(2)墓地墓群２墓穴ＳＴ87付近断面(北東から)
図版第55 (1)墓地墓群２墓穴ＳＴ85(北西から)
(2)墓地墓群２墓穴ＳＴ85(北西から)
図版第56 (1)墓地墓群２墓穴ＳＴ85遺物出土状況(北から)
(2)墓地墓群２墓穴ＳＴ21人骨・遺物出土状況(北から)
図版第57 (1)墓地墓群２墓穴ＳＴ47銭貨出土状況(北西から)
(2)墓地墓群２土坑ＳＫ66墓石出土状況(北から)
図版第58 (1)墓地墓群３不明土坑ＳＸ363断面(西から)
(2)墓地墓群３墓穴ＳＴ55墓石出土状況(東から)
図版第59 (1)墓地墓群３墓穴ＳＴ55甕棺出土状況(東から)
(2)墓地墓群３墓穴ＳＴ55甕棺内墓石出土状況(東から)
図版第60 (1)墓地墓群３墓穴ＳＴ55甕棺完掘状況(東から)
(2)墓地墓群３墓穴ＳＴ355遺物出土状況(西から)
図版第61 (1)墓地墓群３墓穴ＳＴ190墓石出土状況(西から)
(2)墓地墓群３土坑ＳＫ78遺物出土状況(北から)
図版第62 (1)墓地墓群４墓穴ＳＴ24墓石出土状況(東から)
(2)墓地墓群４墓穴ＳＴ24断面(南から)
図版第63 (1)墓地墓群４墓穴ＳＴ24断面(南から)
(2)墓地墓群４墓穴ＳＴ24棺痕跡(南から)
図版第64 (1)墓地墓群４墓穴ＳＴ197遺物出土状況(南から)
(2)墓地墓群４墓穴ＳＴ197遺物出土状況(南から)
図版第65 (1)墓地墓群５土坑ＳＫ30上層墓石出土状況(南から)
(2)墓地墓群５土坑ＳＫ30下層墓石出土状況(東から)
図版第66 (1)墓地墓群５墓穴ＳＴ31人骨出土状況(西から)
(2)墓地墓群５墓穴ＳＴ31木質断面(北西から)
図版第67 (1)墓地墓群６・７墓穴ＳＴ48・49断面(北から)
(2)墓地墓群７墓穴ＳＴ49甕棺検出状況(北から)

図版第68　(1)墓地墓群７墓穴ＳＴ49甕棺内断面(北から)
(2)墓地墓群７墓穴ＳＴ49甕棺完掘状況(北から)
図版第69　(1)墓地墓群８土坑ＳＫ40墓石出土状況(北から)
(2)墓地墓群９墓穴ＳＴ29断面(北から)
図版第70　(1)墓地墓群９墓穴ＳＴ29甕棺内断面(北から)
(2)墓地墓群９墓穴ＳＴ29甕棺完掘状況(北から)
図版第71　(1)墓地墓群10墓穴ＳＴ50断面(西から)
(2)墓地墓群10墓穴ＳＴ50蔵骨器出土状況(西から)
図版第72　(1)墓地墓群11墓穴ＳＴ69木質出土状況(東から)
(2)墓地墓群11墓穴ＳＴ69漆器出土状況(東から)
図版第73　(1)墓地墓群11墓穴ＳＴ70木質・遺物出土状況(東から)
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ62付近断面(北東から)
図版第74　(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ62人骨出土状況(東から)
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ54(東から)
図版第75　(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ54甕棺検出状況(東から)
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ54甕棺内人骨出土状況(東から)
図版第76　(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ54甕棺完掘状況(東から)
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ54断面(東から)
図版第77　(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ63人骨出土状況(東から)
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ56・57断面(東から)
図版第78　(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ56人骨・遺物出土状況(西から)
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ196付近断面(北西から)
図版第79　(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ218人骨出土状況(西から)
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ219人骨・遺物出土状況(西から)
図版第80　(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ162人骨出土状況(西から)
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ162人骨出土状況(西から)
図版第81　(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ162人骨・遺物出土状況(西から)
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ174銭貨出土状況(南西から)
図版第82　(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ164木質出土状況(東から)
(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ414付近断面(北東から)
図版第83　(1)墓地墓群13墓穴ＳＴ144墓石出土状況(西から)
(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ215・226遺物出土状況(西から)
図版第84　(1)墓地墓群13墓穴ＳＴ215断面(西から)
(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ215遺物出土状況(西から)
図版第85　(1)墓地墓群13墓穴ＳＴ215遺物出土状況(北から)

(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ226遺物出土状況(西から)
図版第86 (1)墓地墓群13墓穴ＳＴ140・141人骨出土状況(北から)
(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ140人骨出土状況(東から)
図版第87 (1)墓地墓群13墓穴ＳＴ141人骨出土状況(南東から)
(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ158遺物出土状況(東から)
図版第88 (1)墓地墓群13墓穴ＳＴ158南側出土漆器椀(東から)
(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ158北側出土漆器椀(東から)
図版第89 (1)墓地墓群14土坑ＳＫ61上層墓石出土状況(北から)
(2)墓地墓群14土坑ＳＫ61下層墓石出土状況(南から)
図版第90 (1)墓地墓群14墓穴ＳＴ424遺物出土状況(西から)
(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ191遺物出土状況(西から)
図版第91 (1)墓地墓群14墓穴ＳＴ238蔵骨器出土状況(南から)
(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ224銭貨出土状況(東から)
図版第92 (1)墓地墓群14墓穴ＳＴ221人骨・遺物出土状況(西から)
(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ207人骨・遺物出土状況(北東から)
図版第93 (1)墓地墓群14墓穴ＳＴ201・202人骨・遺物出土状況(東から)
(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ201人骨出土状況(東から)
図版第94 (1)墓地墓群14墓穴ＳＴ201人骨出土状況(北から)
(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ189人骨・木質出土状況(西から)
図版第95 (1)墓地墓群15土坑ＳＫ89墓石出土状況(南から)
(2)墓地墓群15墓穴ＳＴ148付近断面(北東から)
図版第96 (1)墓地墓群15墓穴ＳＴ180人骨出土状況(西から)
(2)墓地墓群15墓穴ＳＴ179断面(東から)
図版第97 (1)墓地墓群15墓穴ＳＴ179蔵骨器出土状況(東から)
(2)墓地墓群15墓穴ＳＴ179人骨出土状況(西から)
図版第98 (1)墓地墓群15墓穴ＳＴ179南側人骨出土状況(西から)
(2)墓地墓群15墓穴ＳＴ179北側人骨出土状況(西から)
図版第99 (1)墓地墓群15墓穴ＳＴ231・232・234・235人骨出土状況(南西から)
(2)墓地墓群15土坑ＳＫ167断面(南から)
図版第100 (1)墓地墓群15墓穴ＳＴ192人骨出土状況(南から)
(2)墓地墓群16土坑ＳＫ157墓石出土状況(北から)
図版第101 (1)墓地墓群16土坑ＳＫ157下層断面(南西から)
(2)墓地墓群16墓穴ＳＴ239・240人骨出土状況(西から)
図版第102 (1)墓地墓群16墓穴ＳＴ239・240人骨出土状況(西から)
(2)墓地墓群16墓穴ＳＴ208断面(東から)

図版第103 (1)墓地墓群16墓穴ＳＴ208人骨出土状況(東から)
(2)墓地墓群16墓穴ＳＴ456胞衣壺出土状況(西から)
図版第104 (1)墓地墓群17墓穴ＳＴ81・469断面(南から)
(2)墓地墓群17墓穴ＳＴ81・469人骨出土状況(西から)
図版第105 (1)墓地墓群17墓穴ＳＴ81人骨出土状況(南から)
(2)墓地墓群17墓穴ＳＴ81木質出土状況(西から)
図版第106 (1)墓地土坑ＳＫ99上層(東から)
(2)墓地土坑ＳＫ99中層(東から)
図版第107 (1)墓地土坑ＳＫ99中層２(東から)
(2)墓地土坑ＳＫ99下層(東から)
図版第108 (1)墓地土坑ＳＫ99完掘状況(東から)
(2)墓地井戸ＳＥ113上層(東から)
図版第109 (1)墓地井戸ＳＥ113中層(東から)
(2)墓地井戸ＳＥ113中層２(東から)
図版第110 (1)墓地井戸ＳＥ113断面(東から)
(2)墓地井戸ＳＥ113最下層(東から)
図版第111 (1)墓地井戸ＳＥ113完掘状況(東から)
(2)墓地土坑ＳＫ471・井戸ＳＥ100断面(西から)
図版第112 (1)墓地土坑ＳＫ471・井戸ＳＥ100断面(西から)
(2)墓地井戸ＳＥ100上層墓石出土状況(北から)
図版第113 (1)墓地井戸ＳＥ100(北から)
(2)墓地土坑ＳＫ139(西から)
図版第114 (1)墓地土坑ＳＫ80断面(西から)
(2)墓地土坑ＳＫ80遺物出土状況(東から)
図版第115 (1)墓地土坑ＳＫ80遺物出土状況(西から)
(2)墓地土坑ＳＫ111断面(東から)
図版第116 (1)南地区(４・７トレンチ)断ち割り状況(東から)
(2)南地区(４・７トレンチ)断ち割り状況(南西から)
図版第117 (1)南地区中央部(２トレンチ東半)断ち割り断面(東から)
(2)南地区中央部(２トレンチ西半)断ち割り断面(東から)
図版第118　出土遺物１
図版第119　出土遺物２
図版第120　出土遺物３
図版第121　出土遺物４
図版第122　出土遺物５

図版第123　出土遺物６
図版第124　出土遺物７
図版第125　出土遺物８
図版第126　出土遺物９
図版第127　出土遺物10
図版第128　出土遺物11
図版第129　出土遺物12
図版第130　出土遺物13
図版第131　出土遺物14
図版第132　ＳＫ99　一石五輪塔１
図版第133　ＳＫ99　一石五輪塔２
図版第134　ＳＫ99　板碑
図版第135　ＳＥ113　一石五輪塔
図版第136　ＳＥ113　墓標・板碑
図版第137　その他　一石五輪塔
図版第138　その他　板碑１
図版第139　その他　板碑２
図版第140　石仏その他

寺町旧域・法成寺跡発掘調査報告

１．はじめに

この発掘調査は、京都府立鴨沂高等学校校舎改築等工事に伴って、京都府教育委員会の依頼を受け実施した。

調査対象地は京都市上京区寺町通荒神口下ル松蔭町にあり、寺町旧域及び法成寺跡の範囲に含まれることから、建物の建て替え部分について全面の発掘調査を行った。発掘調査は、校舎工事工程と並行して実施したため、平成26・27・28年の３年度にわたり、複数のトレンチを設けて実施した。調査の結果、墓地を伴う寺院跡などを検出することができた。

鴨沂高等学校と連携した総合的な学習の時間として平成26年６月21日、同年７月12日の２回にわたり鴨沂高等学校生徒約200名を対象に、現場体験授業を実施した。また、通常の現地説明会に加え鴨沂高等学校関係者向けの現地説明会を実施し、教員及び生徒約50名の参加を得た。

発掘調査に際しては、地元春日学区自治連合会、専念寺、常念寺、京都市文化市民局、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所のご指導とご協力をいただいた。記して感謝したい。

なお、調査にかかる経費は全額京都府教育委員会が負担した。

〔調査体制等〕

平成26年度調査

現地調査責任者	調査課長	石井清司
調査担当者	調査課第２係長	岩松　保
	同　副主査	引原茂治
	同　主任	村田和弘
調査場所	京都府京都市上京区寺町荒神口下る松蔭町131他	
現地調査期間	平成26年６月９日～９月３日	
調査面積	830㎡	

平成26・27年度調査

現地調査責任者	調査課長	石井清司
	調査課長	有井広幸
現地調査担当者	調査課課長補佐兼調査第１係長	細川康晴
	同　第２係長	中川和哉
	同　主査	岡﨑研一・村田和弘
	同　副主査	石尾政信・引原茂治

同　　調　査　員　綾部侑真・福山博章・清水早織・竹村亮仁

現地調査期間　平成27年２月３日～７月31日

調　査　面　積　3,670㎡

平成28年度調査及び整理

現地調査責任者　調査課長　　森　　正

現地調査担当者　調査課第２係長　　中川和哉

同　　主　　査　岡﨑研一

同　　副　主　査　引原茂治

同　　調　査　員　綾部侑真

現地調査期間　平成28年６月６日～８月２日

調　査　面　積　710㎡

平成29年度（整理等）

整理等責任者　調査課長　小池　寛

整理等担当者　調査課課長補佐兼調査第２係長　中川和哉

同　　副　主　査　引原茂治・岡﨑研一

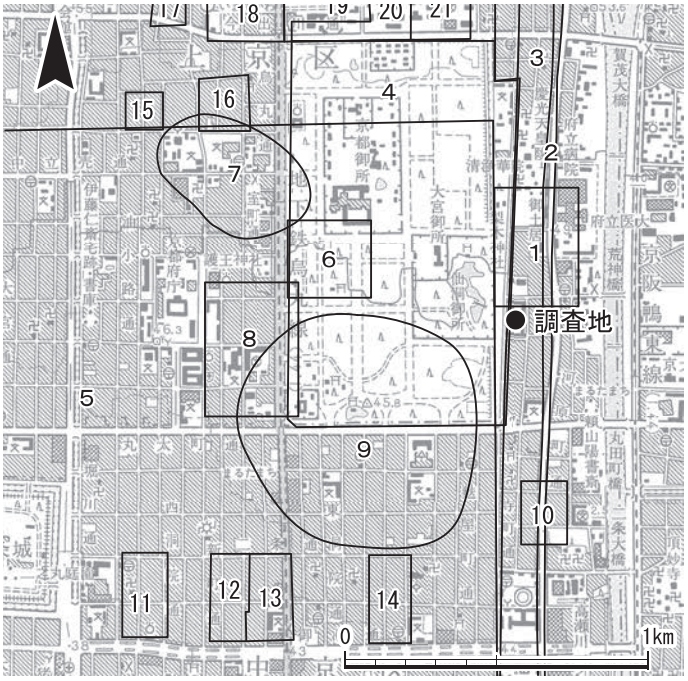
同　　主　　任　綾部侑真

２．位置と環境

今回の発掘調査地は、現在の京都市上京区寺町通荒神口下ル松蔭町にあり、京都府立鴨沂高等学校の敷地内にあたる。

調査地の西側には寺町通が接し、東側には河原町通がある。宝暦12(1762)年発刊の『京町鑑』によると、「天正まで寺町から東は河原であったことから河原町通と名付けられた」とある。これを証明するように調査トレンチ内に見られる寺町形成以前の地層は、河川起源の礫層が厚く堆積しており、調査地は鴨川の氾濫原に立地していることが分かる。河原町通に並行して流れる鴨川は古来洪水を多くもたらす川で、『平家物語』の中で、白河法皇が自分の意志で自由にできないものの1つとして挙げている。京都府教育委員会の実施した調査地北側の立会調査では、礫層中から平安時代中期の遺物が出土しており、11世紀以後に礫層が形成されたと考えられる。

寺町通は平安京の東京極通であり、発掘調査地は平安京外に位置している。平安時代中期には鴨沂高校の北東側、現在の京都御所の敷地内に土御門殿と呼ばれた２町（左京一条四坊十五・十六町）規模の藤原道長の邸宅があった。土御門殿と東京極通を挟んだ東側から鴨川までの地域に、京都盆地内最大の寺院である法成寺が建立された。法成寺は寛仁３（1019）年に九体阿弥陀堂の造営が開始され、当初は無量寿院と呼んでいたが、治安２（1022）年の金堂供養の際、法成寺と名付けられた。法成寺には阿弥陀堂、薬師堂、釈迦堂、五大堂、金堂、塔、西北院、東北院など



1．法成寺跡
2．御土居跡
3．寺町旧域
4．公家町遺跡
5．平安京跡
6．新在家構え跡
7．内膳町遺跡
8．旧二条城跡
9．烏丸丸太町遺跡
10．法興院跡
11．妙顕寺城跡
12．妙覚寺城跡
13．二条殿御池城跡
14．等持寺跡
15．革堂跡（行願寺）
16．一条室町殿跡
17．本満寺の構え跡
18．室町殿跡（花の御所）
19．相国寺旧境内
20．常盤井殿町遺跡
21．上京遺跡

第１図　調査地及び周辺遺跡分布図（国土地理院１/25,000 京都東北部）

があったとされている。過去の発掘調査において法成寺の建物を復原できる遺構は発見されてはいないが、昭和８(1933)年完成の鴨沂高等学校校舎建造に伴う工事で緑釉瓦が出土している。緑釉瓦が法成寺に葺かれていた様子は『栄花物語』においても描写されており、周辺に法成寺があったことを物語っている。平安時代の緑釉瓦は平安宮内の大極殿や豊楽殿、京内の神泉苑、東寺、西寺といった公的な場所での使用に限られていたが、私的な寺院である法成寺に緑釉瓦が用いられていることは、道長の権勢がいかに強大であったかを示している。法成寺は創建以後度重なる洪水などの災害で、その規模を縮小していき、『花園天皇宸記』によれば元弘元(1331)年の火災によって法成寺に関連した建物はなくなったとされる。

天下統一の目途が立った豊臣秀吉は、応仁の乱以降荒廃した京内に住居として、聚楽第の建築を天正14(1586)年から始め、翌年に完成させた。聚楽第から御所の間には大名屋敷が設けられ、聚楽第とともに金箔瓦が葺かれ、きらびやかな威風を誇っていたものと想定できる。秀吉は天正18(1590)年から京都の町の改造に着手する。平安時代以来の地割りである１町四方の町割を、道路に面した土地を増やす目的で、東西に２分するように道路を通す区画整備が上京を中心に実施された。また、京内に点在していた寺院のほとんどを寺町通の東側に強制的に移転させ、寺町を形成した。天正19(1591)年には当時の京都の市街地を取り囲むように南北8.5km、東西3.5km、総延長22.5kmの御土居と呼ばれる大規模な土塁と堀を築いた。御土居は江戸時代以後暫時取り壊され、現在はほとんど残されていないが、９か所が国史跡に指定され保存されている。高等学校敷地の北辺を東西に走る荒神口通は御土居の出入り口である荒神口に通じる道で、御所から比叡山に至る最短経路であった。

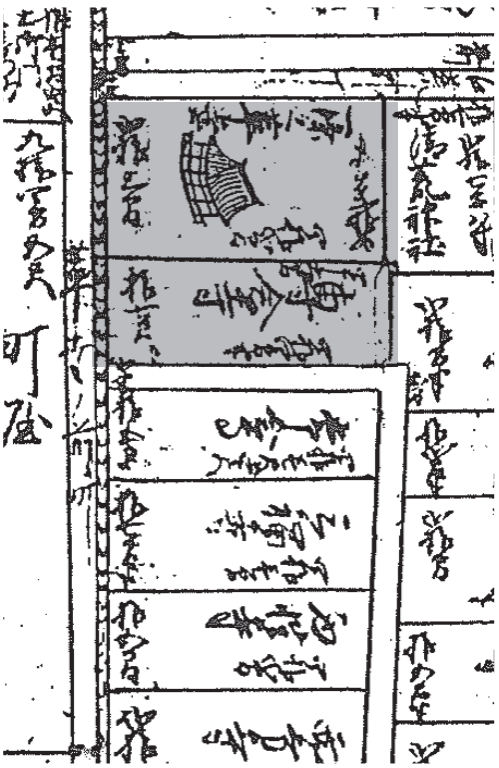
寛永14年洛中絵図(京都大学付属図書館蔵)には、鴨沂高等学校敷地に北から一条乃革堂(行願寺：天台宗)、専念寺(浄土宗)、常念寺(浄土宗)、三福寺(浄土宗)といった寺院が建ち並んでい

たことが描かれている。

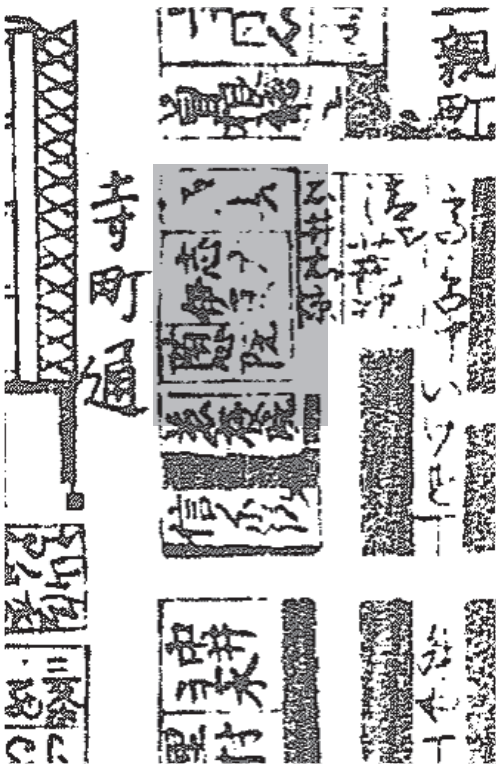
江戸時代に入ると京都では多くの大規模な火災に見舞われる。調査地周辺も宝永の大火(1708)と天明の大火(1788)の２回の大火に見舞われることになり、甚大な被害を受けている。宝永の大火の被害を受けた後に、寺町はその形を変えることとなる。北側に展開する公家町の拡張を目的として、寺町の荒神口通から二条通までの寺院は革堂が寺町通竹屋町に、その他の寺院は二条川東及び仁王門通りに移転させられることになった。専念寺、常念寺、三福寺は西寺町通に面して現在も法灯を伝えている。

寺院の移転以後、公家の宅地へと変化していくが、その後の天明の大火により公家町も消失した。

明治５(1872)年、丸太町橋の西詰南側に所在した旧九条殿河原町邸に女子教育を目的とした新英学校及女紅場が設立され、翌年英女学校女工場、明治15(1882)年に京都高等女学校、明治20(1887)年に京都府高等女学校と改名した。同志社大学設立者である新島襄の妻山本八重が勤務していた学校としても知られている。明治33(1900)年に英女学校女工場は、現在の鴨沂高校の場所に移転し、同時に旧九条殿河原町邸にあった門と茶室が移築された。明治37(1907)年に府立第一女子高等学校、大正12(1923)年に京都府立京都第一高等女学校と改名された後、昭和23(1948)年



寛永十四年洛中絵図　寛永 14（1637）年



新版増補京絵図　新地入　宝永６（1709）年

調査地

第２図　調査地周辺景観図

（『慶長～昭和京都地図集成 1611（慶長 16）年～ 1940（昭和 15）年』

大塚隆編者　柏書房株式会社発行　1944）

に府立鴨沂高等学校として現在に至っている。戦前に建てられた校舎は、モダニズムを基調とした中に和風が加味されたコンクリートの建物群で、近代化遺産として高く評価されている。

（中川和哉・清水早織）

３．調査の経過・概要

今回の調査は京都府教育委員会の依頼により実施したもので、府立鴨沂高校の新校舎建設に伴う埋蔵文化財調査である。調査地は、天正年間に豊臣秀吉が京都市中の寺院を移転させて形成した寺町にあたる。また平安時代には、藤原道長によって建立された法成寺の境内にあたるとされる。調査は、工事の進捗状況と並行して平成26年度から平成28年度の３か年に渡って実施した。

１）平成26年度の調査

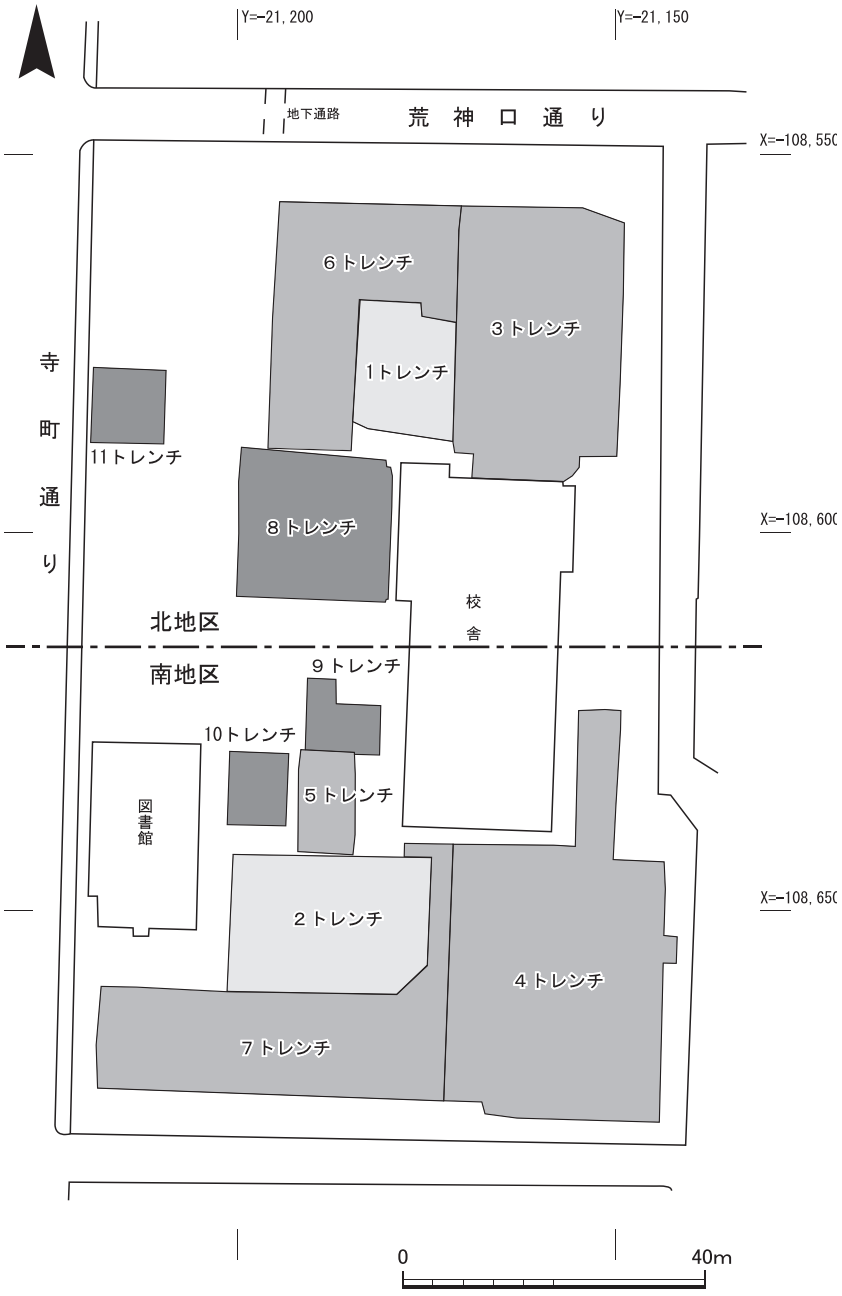
１・２トレンチの調査を実施した。校舎解体前の調査であり、土置き場の関係上、はじめに各トレンチの東側半分の調査を行い、調査終了後に反転して西側の調査を実施した。宝永５（1708）年の大火に伴う焼土層を確認し、その下面を寺町期の遺構面とした。平成26年６月21日と７月12日の２回、府立鴨沂高等学校の生徒を対象とした発掘体験を実施した。寺町期の調査成果がおおむね明らかとなった平成26年８月17日には現地説明会を実施し、209名の参加を得た。寺町の遺構面の調査終了後、下層の確認を行ったが、河川堆積であり遺構面は確認できなかった。その後、埋め戻し作業を行い平成26年９月３日に調査を終了した。調査面積は、830㎡である。

２）平成26～27年度の調査

校舎解体作業終了後の平成26年２月３日から調査を再開した。平成26年度から３・４トレンチの調査を開始し、平成27年度は５・６トレンチの調査を開始した。平成26年度調査で確認していた宝永の大火に伴う焼土層まで重機による掘削を行い、その後は人力により遺構面を検出した。３・６トレンチは校舎基礎による削平を大きく受けており、確認できた遺構面はわずかであった。第１面の調査終了後、重機によって下層の確認を行い、調査を終了した。南側では、比較的良好に遺構が残存しており、４トレンチでは墓地を検出した。墓穴が４トレンチの北辺と東辺付近にまで及んでいたため、墓地の範囲を把握するために、北側と東側の一部の拡張を行った。現地の公開は平成27年５月30日に実施し、287名の参加を得た。当日午後からは府立鴨沂高校の生徒を対象とした説明会を行った。その後、平成27年７月14日に高所作業車を使用した写真撮影を実施した。第１面の遺構面の調査終了後、重機を用いて下層の確認を行ったが、遺構面は確認できず壁面の写真撮影･図化作業を行い、平成27年７月31日に調査を終了した。調査面積は、3,670㎡である。

３）平成28年度の調査

平成28年６月６日から調査を開始し、工事の進捗状況に合わせて８～11トレンチの調査を実施した。工事と並行するため、各トレンチに矢板を打ち壁面の崩落を防いだ上での調査となった。いずれのトレンチも後世の攪乱による削平が大きく、検出できた遺構面はわずかであった。各トレンチの調査終了とともに順次引き渡しを行い、平成28年８月２日にすべての調査を終了した。調査面積は710㎡である。

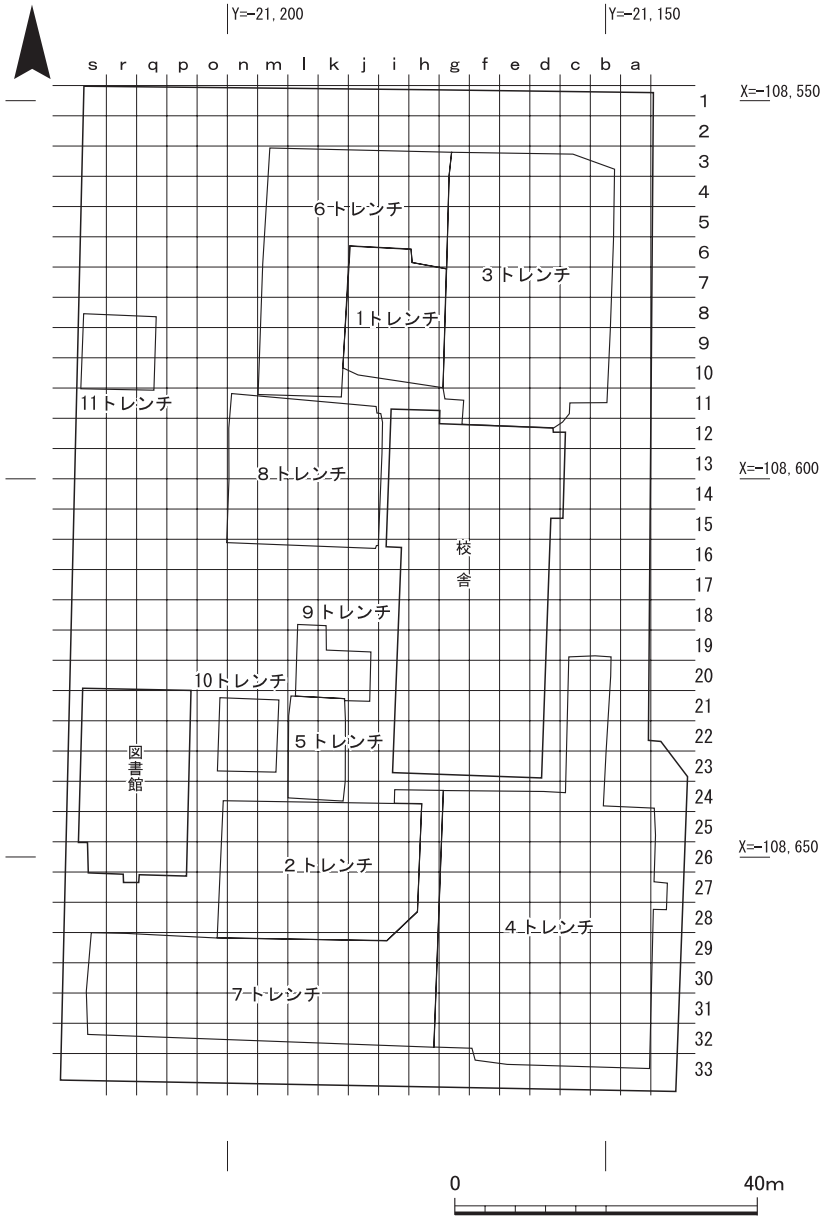


第３図　調査トレンチ配置図

４．調査の方法

１）調査の方法

調査の着手にあたっては、国土座標の基準点設置作業を実施し、トレンチの設定にあたっては、遺構面直上の焼土層まで重機によって掘削を行った。その後、人力による宝永の大火時の焼土層の掘削、その後精査作業によって遺構の検出を行った。遺構の掘削は順次行い、必要に応じて記録図面作成・記録写真撮影を実施した。遺構図面は、基本的に縮尺1/20で作成し、遺物出土状況



第４図　調査地地区割り図

など必要に応じて縮尺1/10ないしは1/5で作成した。４トレンチで検出した墓地については、縮尺1/10で墓地全体の平面図を作成し、下面から遺物が出土するごとに新しく図面を作成して対応した。墓地の調査に伴い、今回多くの人骨と墓石が出土している。人骨は脆弱なものが多く、現地でバインダー液の希釈したものを薄く塗布し取り上げを行った。また、頭蓋骨など個別に取り上げが不可能なものは周囲の土とともに取り上げ、スポンジで固定するなどして持ち帰った。墓石は現地にて観察・計測を行い、遺物観察カードを作成した。また、並行して拓本作業を実施することで可能な限りすべての墓石の把握・集成に努めた。同時に、墓石の遺物写真撮影を現地にて実施した。

２）地区割りの設定について

今回の発掘調査を実施するにあたり、調査対象範囲を国土座標系（世界測地系）の座標値を基準に、東西・南北列を４ｍ単位に分割し、１辺４ｍの正方形区割りを設定し遺物の取り上げを行った（第４図）。東西軸は小文字のアルファベット、南北軸は数字で呼称し、地区名はその組み合わせで呼称する。その際、南北・東西の順で表記する。例えば、「３ａ地区」は南北の３列（Ｘ＝－108,556～60）、東西のａ列（Ｙ＝－21,152～56）の交差する範囲を示す。

３）遺構番号について

遺構番号は調査の進捗に伴って各年度、各トレンチで通し番号を付与した。

また、遺構掘削の過程で種類を特定できたものからＳＫ・ＳＸなど遺構の性格に応じた名称を付与した。使用した略号は、建物：ＳＢ、柱穴：ＳＰ、柵列：ＳＡ、土坑：ＳＫ、井戸：ＳＥ、溝：ＳＤ、墓穴：ＳＴ、不明遺構・その他：ＳＸである。

報告にあたって各トレンチを北地区・南地区に区分して整理し、それぞれに通し番号を付与し直した。北地区はすべてを通し番号とし、南地区は最も遺構数の多かった４トレンチの遺構番号をそのまま用い、２トレンチは500番から、７トレンチは700番から、５トレンチに900番からの遺構番号を用いた。

４）報告書作成作業について

平成28年度、平成29年度は、今回の調査で出土した遺物約997箱の整理作業ならびに、報告書作成作業を実施した。

出土遺物の整理作業は、平成26年度から調査と並行して洗浄・接合作業を実施しており、平成28年度からは、注記の終了した遺物から報告に必要な遺物を抽出し、実測・拓本を実施した。

実測したもののうち復元可能なものについては、石膏による復元を実施した。遺構に伴わない遺物でかつ重要性の高いものについては、包含層出土遺物として掲載した。銭貨・墓石については、一部主要なものの実測図・拓本を掲載するとともに、一覧表を作成し付表として掲載した。

遺構は、検索しやすいように種類別番号別に記述し、遺構の個別図面については近接したものを集めて図版を作成した。また遺物については、実測図を比較的近接した遺構ごとにまとめて掲載した。

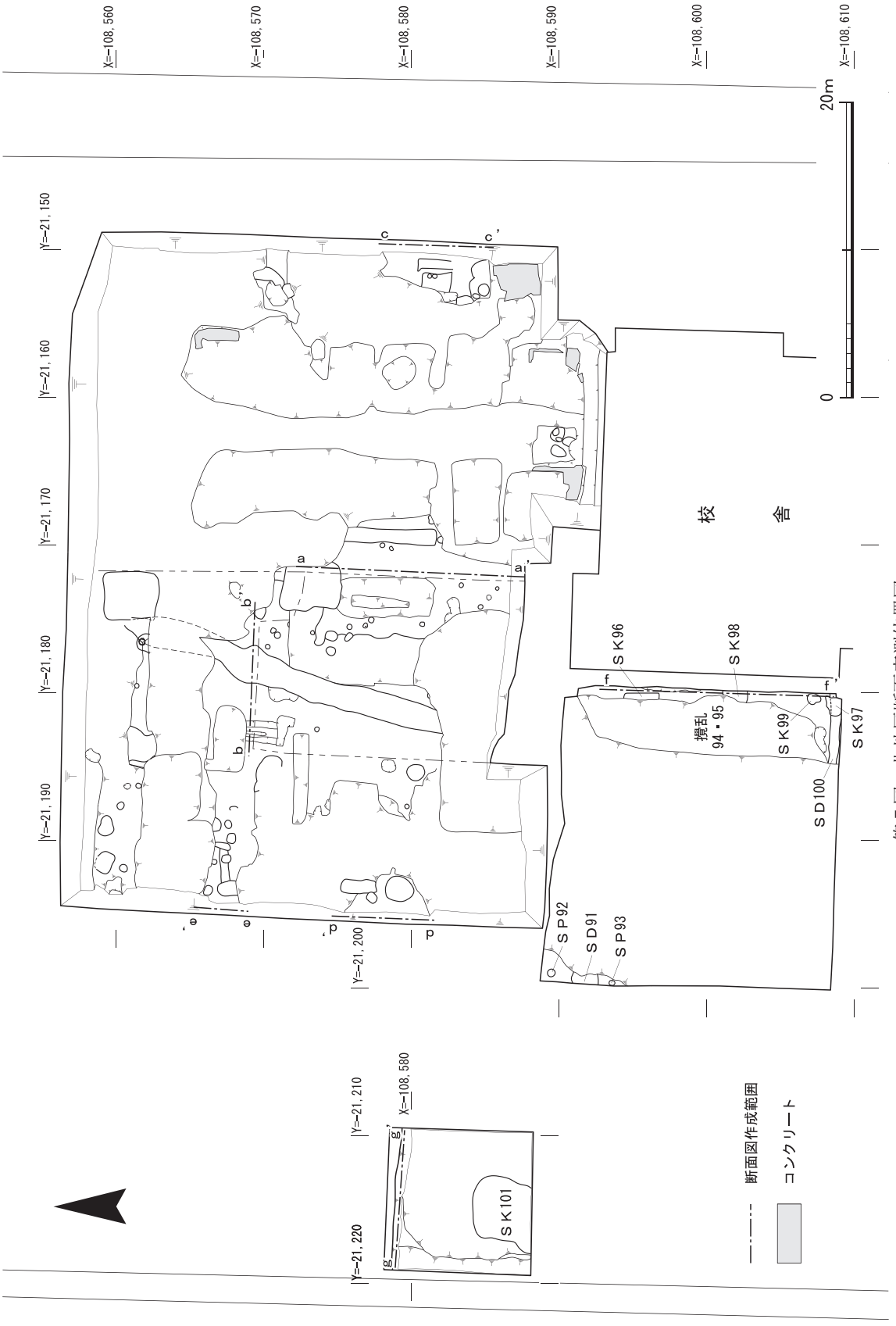
本報告では１・３・６・８・11トレンチを北地区、２・４・５・７・９・10トレンチを南地区とし報告を行う。また、検出遺構が最も集中する４トレンチの墓地については、別に項を設けて報告を行う。

（綾部侑真）

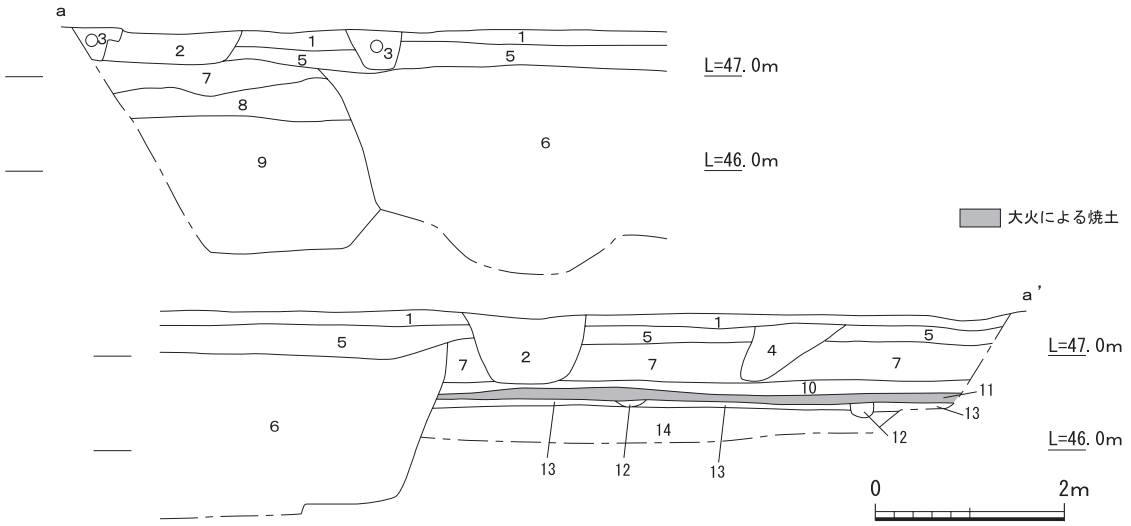
５．北地区の調査

１）基本層序と遺構の概要

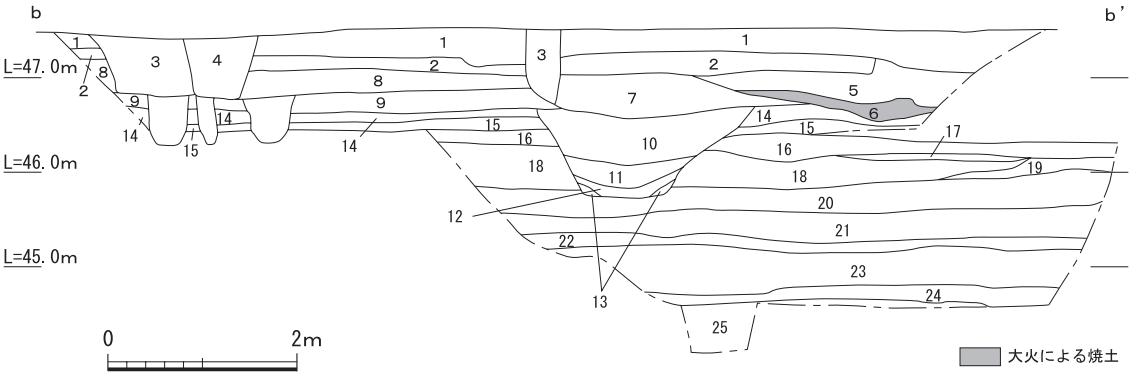
北地区は、調査対象範囲の北側に位置する。調査トレンチは、１・３・６・８・11トレンチが該当する。



第５図　北地区断面実測位置図

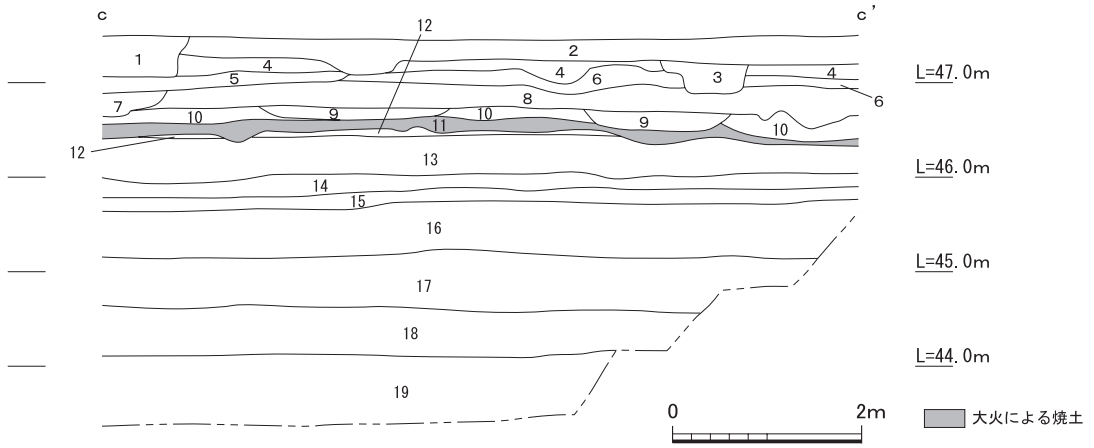


1．褐灰色（7.5YR4/1）粘質土〈３～５cm大の礫多く含む〉
2．灰褐色（7.5YR4/2）粘質土〈樹木の根痕〉
3．褐灰色（10YR4/1）粘質土〈塩ビ排水管〉
4．黄灰色（2.5Y4/3）粘質土〈土製排水管〉
5．黄褐色（2.5Y5/3）砂礫〈３～５cm大の礫含む〉
6．黄灰色（2.5Y5/1）砂礫〈３～５cm大の礫含む・ＳＫ04〉
7．褐色（10YR4/1）砂礫〈やや砂が多い〉
8．灰褐色（10YR6/2）砂質土
9．にぶい赤褐色（2.5YR5/3）粘質土
〈多量に焼けた瓦含む：ＳＫ04〉
10．にぶい赤褐色（2.5YR5/4）粘質土〈焼土・炭を多く含む〉
11．にぶい黄褐色（2.5Y6/3）粘質土
12．にぶい赤褐色（2.5YR5/4）粘質土
13．にぶい褐色（7.5YR6/1）粘質土〈整地土か〉
14．褐灰色（7.5YR5/1）砂礫

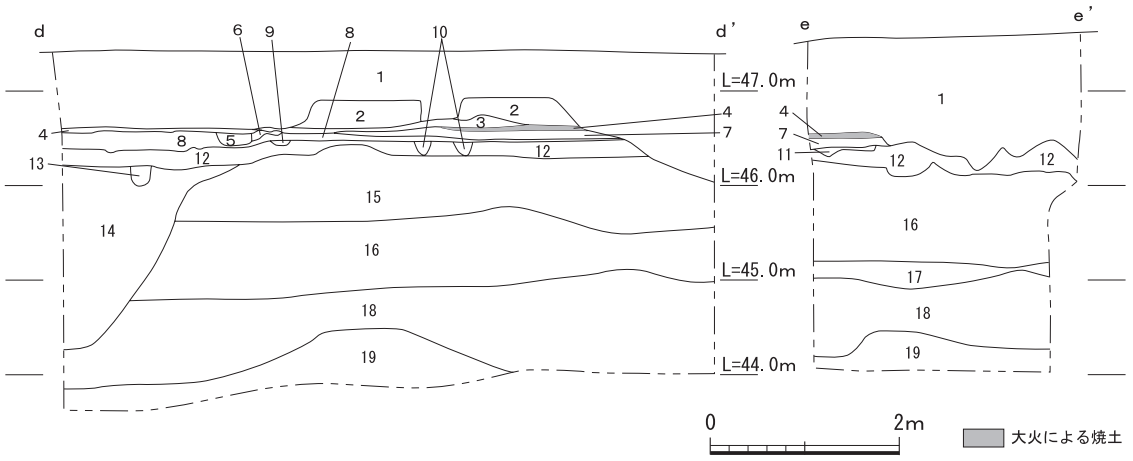


1．褐灰色（7.5YR4/1）粘質土〈盛り土〉
2．黄褐色（2.5Y5/3）砂礫〈盛り土〉
3．灰色（5Y4/1）粘質土〈樹木の根痕〉
4．褐灰色（5YR6/1）粘質土〈水道管〉
5．褐色（10YR4/1）砂礫〈盛り土〉
6．にぶい赤褐色（2.5Y5/4）粘質土〈焼土・炭混じる〉
7．黒褐色（10YR3/2）粘質土〈２～３cm大の礫含む〉
8．褐色（10YR4/1）粘質土〈３～５cm大の礫含む〉
9．灰褐色（10YR6/2）砂質土〈３～５cm大の礫含む〉
10．にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土
〈３～５cm大の礫含む・ＳＤ18〉
11．にぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土
〈３～５cm大の礫含む・ＳＤ18〉
12．灰黄褐色（10YR6/2）シルト〈ＳＤ18〉
13．灰黄褐色（10YR5/2）細砂〈ＳＤ18〉
14．にぶい褐色（7.5YR6/3）粘質土〈整地面：寺町の遺構面〉
15．褐灰色（7.5YR5/1）砂礫〈整地土か〉
16．褐灰色（7.5YR5/1）砂礫〈0.1～0.2cmの砂粒〉
17．にぶい褐色（7.5YR5/4）シルト〈洪水砂〉
18．灰褐色（7.5YR5/2）砂礫〈３～５cm大の礫含む〉
19．にぶい褐色（7.5YR5/3）シルト〈洪水砂〉
20．褐灰色（7.5YR6/1）砂礫〈３～10cm大の礫含む〉
21．灰黄褐色（10YR5/2）砂礫〈３～10cm大の礫含む〉
22．褐灰色（10YR5/1）粗砂〈0.05～0.1cmの砂粒〉
23．にぶい黄褐色（10YR5/3）砂礫〈３～10cm大の礫含む〉
24．暗灰黄色（2.5Y5/2）粗砂〈0.1～0.2cmの砂粒〉
25．にぶい黄色（2.5Y6/4）砂礫
〈３～1.5cm大の礫混じる：無遺物層〉

第６図　北地区土層断面図（１）

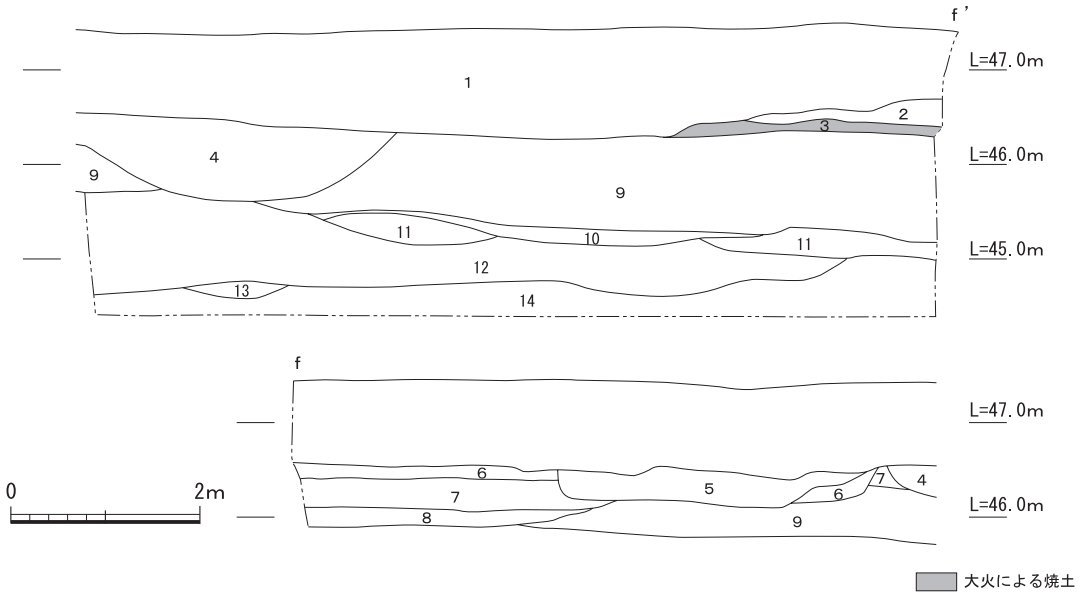


1．基礎
2．整地土
3．基礎
4．オリーブ色（5Y6/6）細粒砂〈２～10cm大の礫含む〉
5．浅黄色（5Y7/3）極細粒砂
6．にぶい黄褐色（10YR5/4）細粒砂
7．攪乱
8．灰黄褐色（10YR4/2）土
9．暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂
10．明黄褐色（2.5Y7/6）極細粒砂
11．橙色（5YR6/6）焼土〈炭混じる〉
12．明黄褐色（2.5Y6/6）細粒砂
13．にぶい黄褐色（10YR5/3）細粒砂〈礫含む〉
14．褐色（7.5YR4/3）粗砂〈拳大の礫多く含む〉
15．明黄褐色（7.5YR5/6）粗砂〈拳大の礫多く含む〉
16．にぶい黄褐色（10YR5/3）礫層
17．砂礫〈頭大～拳大の礫・瓦わずかに出土〉
18．砂礫〈拳大以下の礫・瓦わずかに出土〉
19．砂礫〈頭大前後の礫・瓦わずかに出土〉

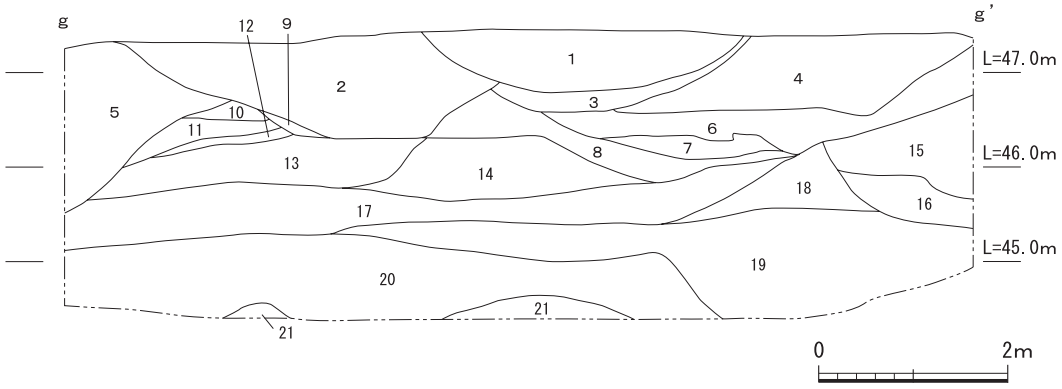


1．攪乱
2．攪乱
3．灰黄褐色（10YR5/2）砂質土
4．明赤褐色（5YR5/6）粘質土〈焼土層〉
5．にぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土
6．褐色（10YR4/4）粘質土
7．黄褐色（2.5Y5/3）砂質土
8．にぶい褐色（7.5YR6/3）粘質土
9．褐色（10YR4/4）粘質土
10．黄褐色（2.5Y5/3）粘質土
11．暗褐色（10YR3/3）砂質土
12．黄褐色（2.5Y5/4）粘質土
13．黄褐色（2.5Y5/5）粘質土
14．攪乱
15．黄褐色（2.5Y5/3）砂礫層〈瓦・土器含む・洪水砂〉
16．黄褐色（2.5Y5/3）砂礫層〈瓦・土器含む・洪水砂〉
17．にぶい黄色（2.5YR6/3）砂礫層
18．黄褐色（2.5Y5/3）砂礫層
19．明黄褐色（2.5Y6/6）　砂礫層

第７図　北地区土層断面図（２）



1．攪乱
2．にぶい橙色（5YR7/3）粗砂〈５cm大の礫含む〉
3．赤色（10YR4/8）細粒砂〈宝永の大火による焼土〉
4．砂礫（攪乱）
5．褐色（10YR4/4）細粒砂〈10～20cm大の石多く含む〉
6．にぶい褐色（7.5YR5/4）細粒砂
7．にぶい黄褐色（10YR5/3）細粒砂〈５cm大の礫含む〉
8．灰褐色（7.5YR6/2）シルト
9．褐灰色（7.5YR5/1）粗砂〈５～20cm大の礫含む〉
10．暗褐色（10YR3/4）シルト
11．にぶい黄褐色（10YR4/3）粗砂
〈１～５cm大の礫多く含む〉
12．黒褐色（10YR3/2）粗砂〈５～15cm大の礫含む〉
13．にぶい黄褐色（10YR4/3）粗砂
〈１～５cm大の礫含む〉
14．黄褐色（2.5YR5/4）粘土



1．オリーブ褐色（2.5YR4/3）細粒砂
〈３～15cm大の礫多く含む〉
2．暗オリーブ褐色（2.5YR3/3）粗砂
〈５～20cm大の礫多く含む〉
3．褐色（10YR4/4）極細粒砂
4．オリーブ褐色（2.5YR4/3）細粒砂
〈３～15cm大の礫多く含む〉
5．黒褐色（2.5YR3/2）細粒砂
〈１～15cm大の礫多く含む〉
6．にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂
〈５～15cm大の礫多く含む〉
7．暗オリーブ褐色（2.5YR3/3）細粒砂
〈５～20cm大の礫含む〉
8．黒褐色（10YR3/2）細粒砂
9．暗褐色（10YR3/3）極細粒砂
10．オリーブ褐色（2.5YR4/6）細粒砂
〈３～10cm大の礫含む〉
11．オリーブ褐色（2.5YR4/3）細粒砂
12．にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂
13．オリーブ褐色（2.5YR4/4）細粒砂
〈１～10cm大の礫含む〉
14．灰褐色（7.5YR5/2）細粒砂
〈３～10cm大の礫含む〉
15．褐色（10YR4/4）極細粒砂
〈３～15cm大の礫多く含む〉
16．にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂
17．明褐灰色（7.5YR7/2）極細粒砂
18．褐色（10YR4/4）細粒砂
19．礫
20．灰白色（10YR7/1）極細粒砂
21．灰白色（10YR8/2）粘土

第８図　北地区土層断面図（３）

（１）基本層序

各年度に設定した調査トレンチの壁面で断面図の作成を行った（第５～８図）。基準となる２層の焼土層を検出した。第１層はｄ－ｄ’でのみ確認できた。標高約46.6mに厚さ３cm程度水平に堆積する。天明の大火に伴う焼土層と考えられる。

第２層は標高46.3m付近に堆積する。厚さはａ－ａ’とｃ－ｃ’で約16cm、ｄ－ｄ’では約２cmとなる。出土した遺物から、宝永の大火に伴う焼土層とみられる。この焼土層下面を第１面として調査を行った。焼土の下層は、調査区中央から西側にかけてにぶい褐色のシルトが厚さ10～20cm堆積する。検出した宝永の大火以前の遺構は、この層の直上から掘りこまれており、寺町形成時の整地層の可能性がある。

整地土の下層には砂礫が堆積する(注１)。整地土下層に堆積する砂礫層は鴨川による自然堆積であり、各層の間には人工的に造成したような堆積層は確認できない。また、これらの層中に含まれる礫が比較的小さいことから、常時水が流れていたとは考えられ難い。よって、調査地周辺は鴨川の本流部分ではなく、その縁辺部に相当する河原のような場所であり、鴨川の氾濫によって水が溢れ出た際に、これらの砂礫が堆積したものとみられる。ａ－ａ’では、砂礫層が東から西へ向かって斜め方向に堆積していることから、北東から南西に向かって水が流れていることがわかる。ｂ－ｂ’の第16層と第18層を比較すると、上層にあたる第16層の方が礫の径が小さくなることから、寺町形成直前の新しい段階では、第18層の時期と比べて氾濫の頻度・規模が小さい環境下であったといえる。ｂ－ｂ’では23層まで遺物を包含する。

（２）調査の概要

寺町形成時の整地面直上を第１面として調査した。北地区は後世の攪乱によって大きく削平されており、部分的に遺構面及び遺構を検出した。寺町に伴うと考えられる宝永の大火以前の遺構として、柱穴・溝・土坑を検出した。また、宝永の大火以後の遺構として、井戸・土坑を検出した。第１面の下層からは、法成寺に伴うとみられる瓦が出土した。

２）検出遺構

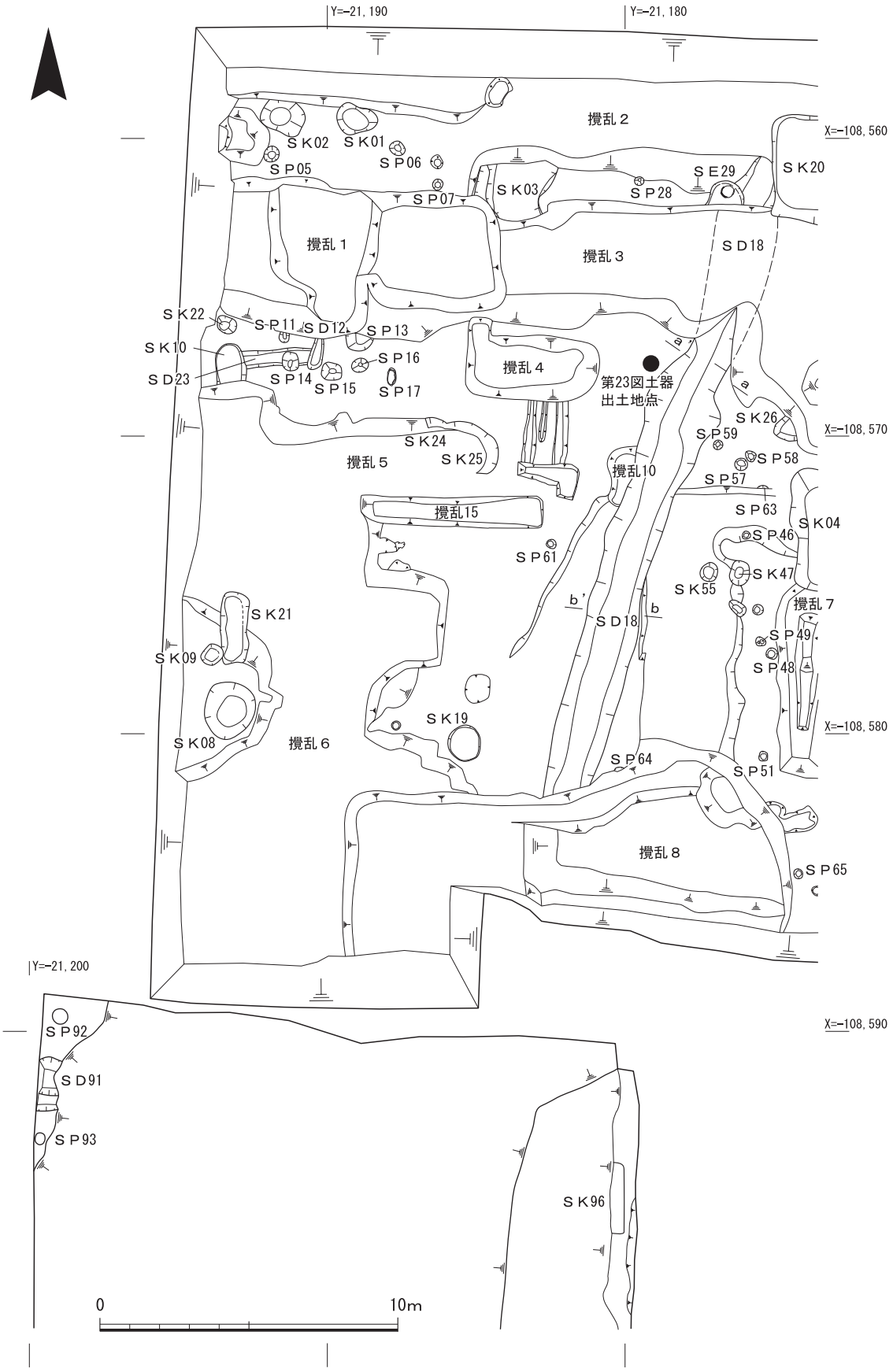
北地区で検出した遺構は、柱穴35か所、溝６条、土坑28基、井戸１基である（第９・10図）。

（１）宝永の大火以前の遺構

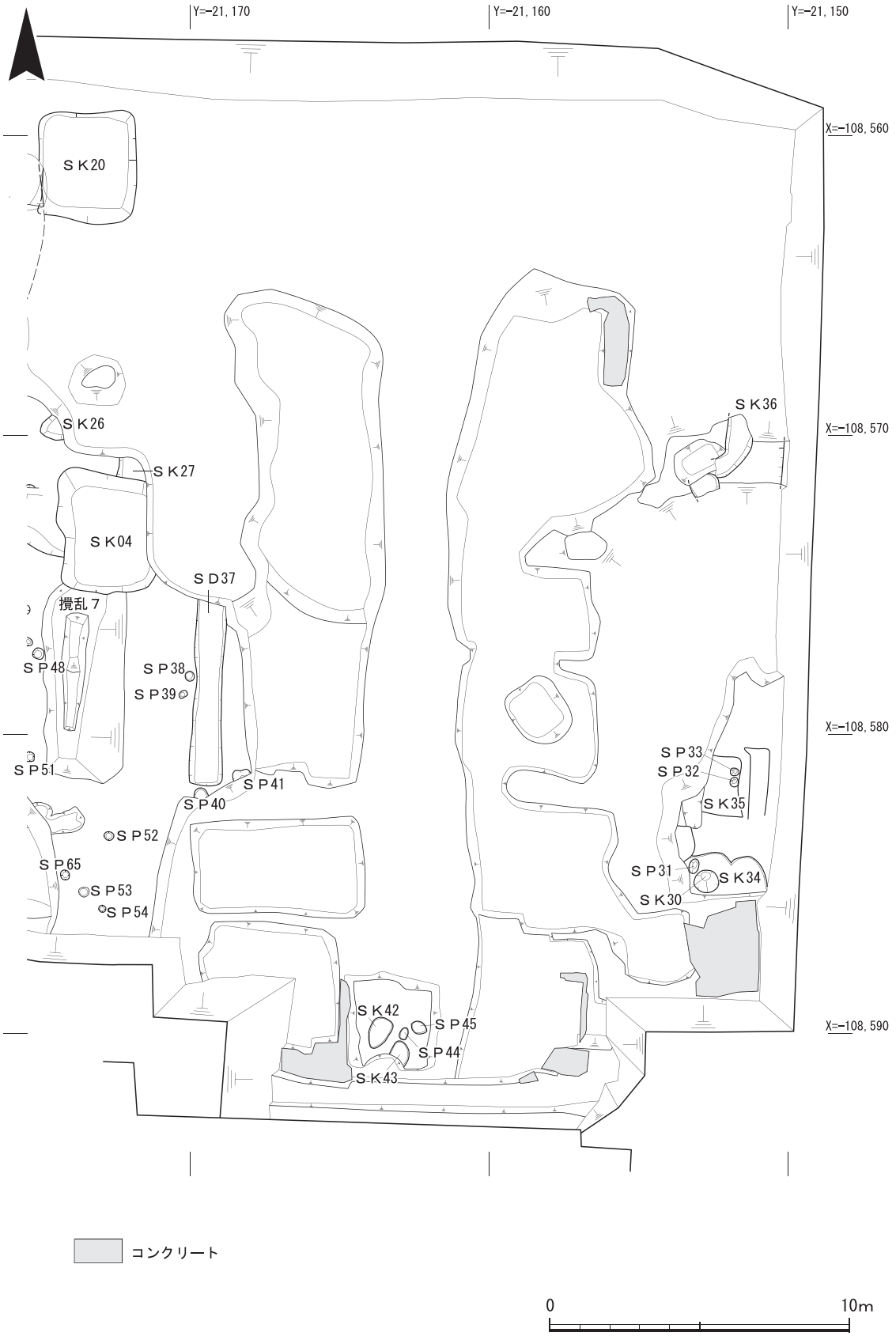
土坑ＳＫ01（第９・11図）　北地区北西隅で検出した。掘形の平面は、東辺の一部が東に膨らむ隅丸方形で、規模は長辺1.3m、短辺0.8mを測る。掘形底部東側に一辺0.25m前後の石が半円状に平らな面を内に向けて配されていた。元々円形とみられ、井戸の可能性が考えられる。掘形の両脇には褐灰色の砂質土が堆積し、裏込めとみられる。石の内側の埋土は黒色砂質土である。遺物は土師器皿などが出土した（第21図）。

土坑ＳＫ02（第９・11図）　北地区北西隅に位置し、ＳＫ01の西側で検出した。掘形の平面は隅丸方形で、規模は長辺1.4m、短辺1.1m、深さ0.3mを測る。

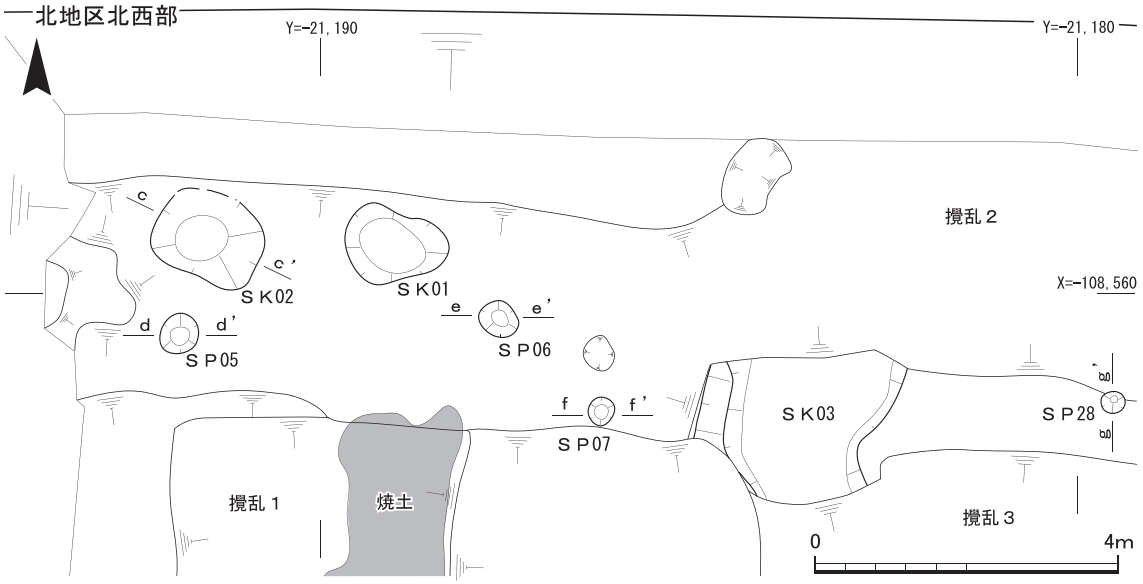
土坑ＳＫ03（第９・11図）　北地区北西で検出した土坑状の遺構である。北側と南側を攪乱によって削平され、その全容については不明である。掘形の規模は、東西2.2m、南北2.0m以上、

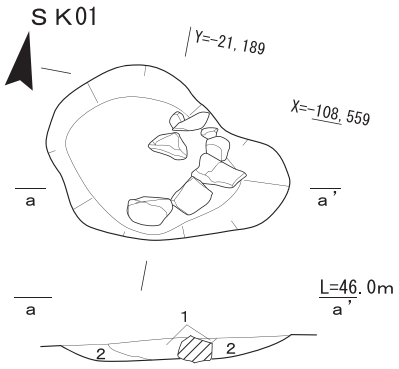


第９図　北地区遺構配置図（１）

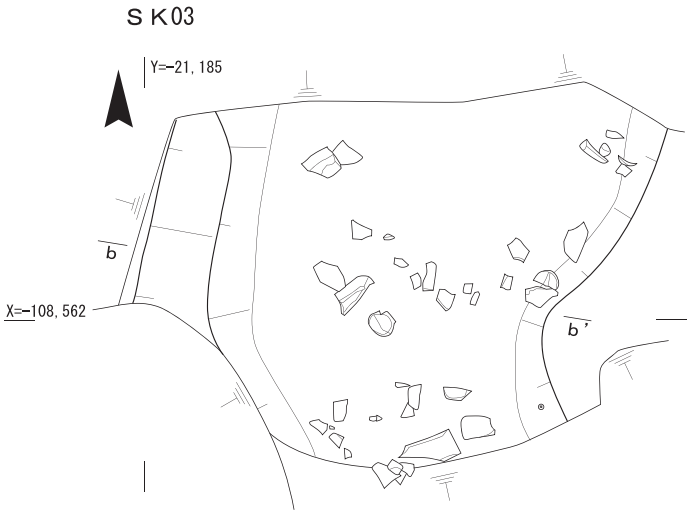


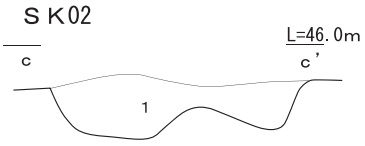
第10図　北地区遺構配置図（２）



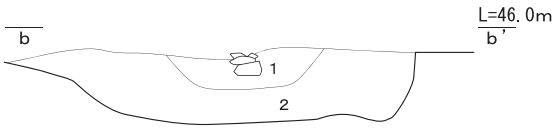


１．黒色（10YR7/1）砂質土
〈５～10cm大の礫・炭含む〉
２．褐灰色（10YR5/1）砂質土

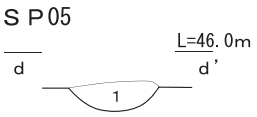




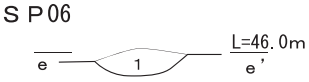
１．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土
〈５cm前後の礫含む・炭混じる〉



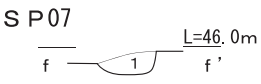
１．灰黄褐色（10YR6/2）粘質土
〈焼土・炭混じる〉
２．灰黄褐色（10YR5/3）砂質土
〈0.1～5cm大の礫混じる〉



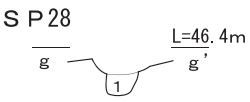
１．褐灰色（10YR4/1）砂質土



１．褐灰色（10YR4/1）砂質土



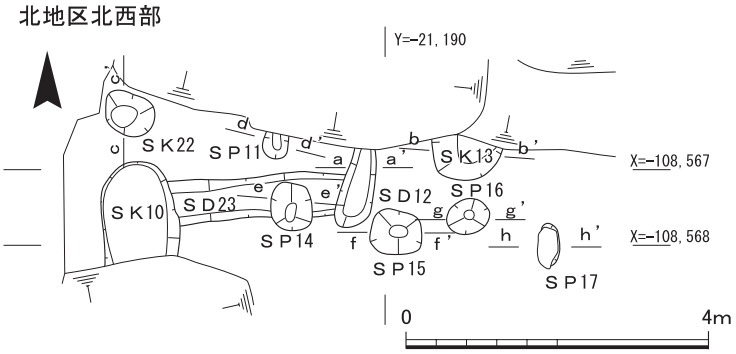
１．褐灰色（10YR4/1）砂質土

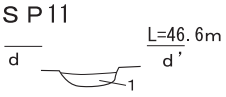


１．褐色（7.5YR4/4）粘質土

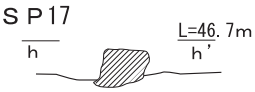


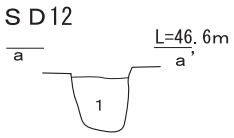
第11図　北地区遺構実測図（１）





1．灰黄褐色（10YR5/2）
細粒砂

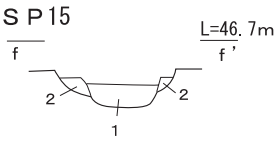




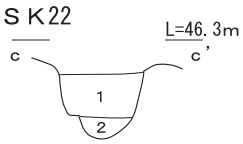
1．褐色（10YR4/4）細粒砂
〈８～15cm大の礫含む〉



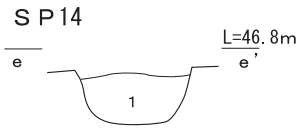
1．灰オリーブ色（5Y5/2）
細粒砂



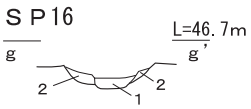
1．にぶい黄褐色（10YR5/4）
細粒砂〈５cm大の礫含む〉
2．オリーブ褐色（2.5Y4/4）
細粒砂



1．褐色（7.5YR4/4）粘質土
2．褐色（7.5YR4/3）粘質土

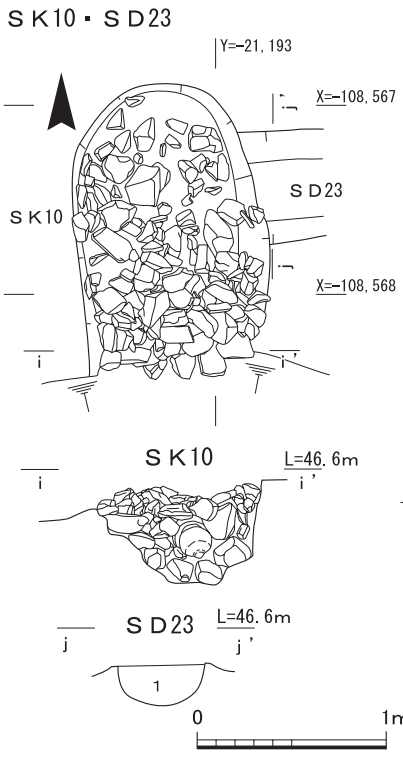


1．褐色（10YR4/4）細粒砂
〈３～15cm大の礫含む〉

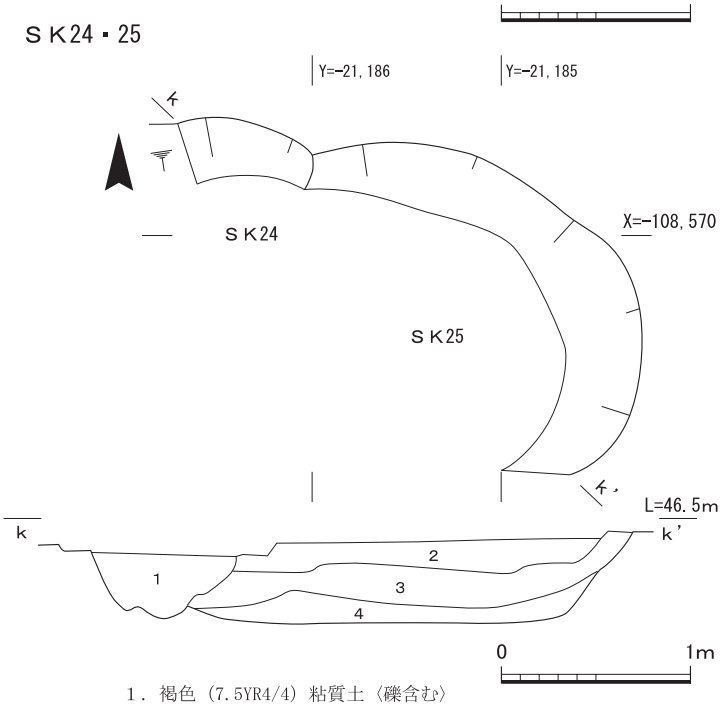


1．にぶい黄褐色（10YR5/4）
細粒砂
2．オリーブ褐色（2.5Y4/4）
細粒砂



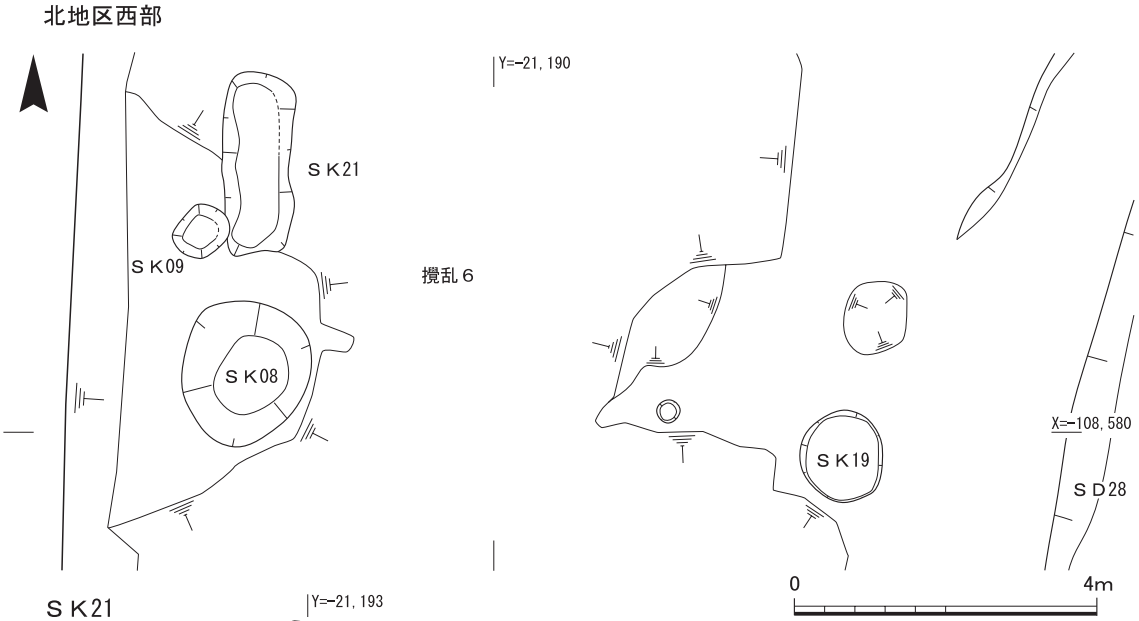


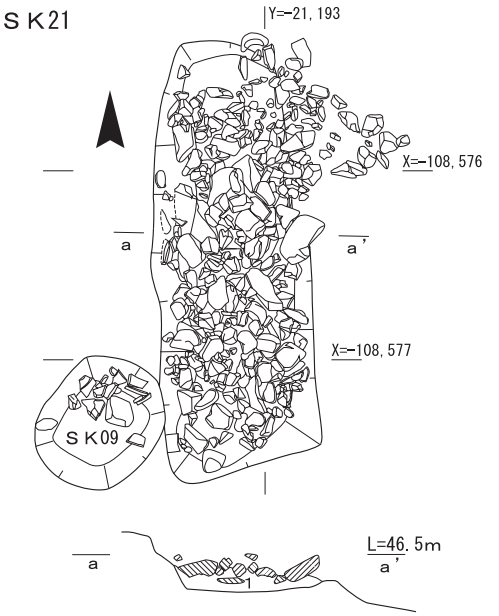
1．褐色（7.5YR4/4）粘質土〈礫含む〉



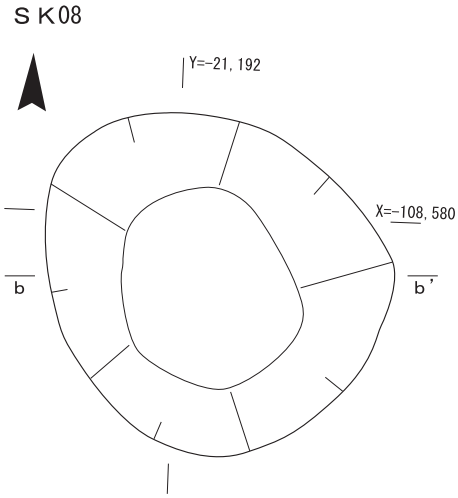
1．褐色（7.5YR4/4）粘質土〈礫含む〉
2．褐色（10YR4/4）粘質土〈礫含む〉
3．褐色（10YR4/6）粘質土〈礫含む〉
4．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土〈シルト・炭含む〉

第12図　北地区遺構実測図（２）

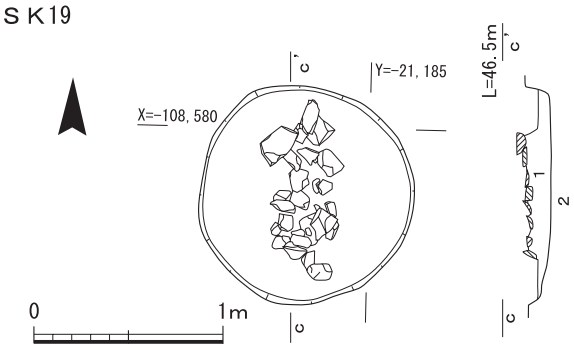




１．黄褐色(10YR5/6)砂質土



１．黒褐色（10YR2/2）粘質土



１．褐色(10YR4/6)細粒砂〈２～３cm大の小石含む〉
２．灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂〈２～20cm大の礫含む・地山〉

0　1m

第13図　北地区遺構実測図（３）

深さ0.4mを測る。埋土は灰褐色砂質土で、中央に灰褐色粘質土が堆積する。遺物は土師器皿片や瓦片、硯などが出土した(第21図)。

土坑ＳＫ08(第９・13図)　北地区西側中央付近で検出した土坑である。掘形の平面は円形で、規模は径1.6m、深さ1.5mを測る。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は土師器小壺をはじめ、陶磁器類が出土した(第21図)。

土坑ＳＫ09(第９・13図)　北地区西側中央付近、ＳＫ21の西側で検出した土坑である。ＳＫ21をわずかに削平して掘られる。掘形の平面は楕円形で、規模は長辺0.7m、短辺0.6m、深さ0.2mを測る。

土坑ＳＫ10(第９・12図)　北地区北西隅で検出した。南側は攪乱によって削平される。掘形の規模は、長軸1.6m以上、短軸1.0m、深さ0.5mを測る。主軸方向は、北に対して西に５°振る。掘形内には、拳大～人頭大の自然石が充填される。また、組合式五輪塔の空風輪が２基、一石五輪塔が３基出土した。

土坑ＳＫ13(第９・12図)　北地区北西に位置し、ＳＤ12の東側で検出した。北側を攪乱によって削平される。検出した掘形の平面は半円形で、規模は東西1.0m、南北0.6m以上を測る。埋土は灰オリーブ褐色の細粒砂である。

土坑ＳＫ19(第９・13図)　北地区西側中央付近で検出した土坑である。掘形の平面は円形で、規模は径1.1m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色細粒砂で、埋土上面の掘形中央には、0.1～0.2m大の石が東西0.4m、南北0.9mの範囲に集中している。

石室ＳＫ20(第10・14図)　北地区北側中央付近で検出した。掘形の規模は、東西2.9m、南北2.9m、深さは最大で0.4mを測る。一辺0.2～0.4mの石が内側に面を揃えて方形に並べられ、石室と考えられる。石組は東辺の南半で二段、そのほかは一段が残る。北東と東側は石が残っていなかった。石組の内法は南北2.4mを測る。主軸方向は北に対して東に１°振る。裏込め土は暗褐色砂質土である。石組の中からは、宝永の大火に伴うとみられる２次焼成を受けた瓦がわずかに出土している。

土坑ＳＫ21(第９・13図)　北地区西側中央で検出した。上層を攪乱によって削平される。掘形の平面は南北に長い長方形で、規模は長辺2.3m、短辺0.85m、深さ0.3mを測る。主軸方向は、北に対して東に１°振る。埋土は黄褐色砂質土で、上層に３～25cm大の石が多量に埋まっていた。攪乱を挟んだ北側にほぼ同軸上にＳＫ10があり、同じ遺構の可能性が考えられる。

土坑ＳＫ22(第９･12図)　北地区の北西に位置し、東壁際で検出した。掘形の平面は楕円形で、規模は長軸0.6m、短軸0.5m、深さ0.4mを測る。埋土は褐色の粘質土である。

土坑ＳＫ24・25(第９・12図)　北地区中央西側で検出した土坑である。後世の攪乱によって南西を大きく削平される。ＳＫ25の掘形の規模は南北1.7m以上である。埋土はＳＫ24が褐色粘質土、ＳＫ25が上層から褐色粘質土、にぶい黄褐色のシルト含む砂質土である。

土坑ＳＫ26(第10・15図)　北地区の北東で検出した。東側を後世の攪乱によって削平される。掘形の規模は東西0.7m以上、南北0.9m以上、深さ0.2mを測る。埋土は暗褐色砂質土である。

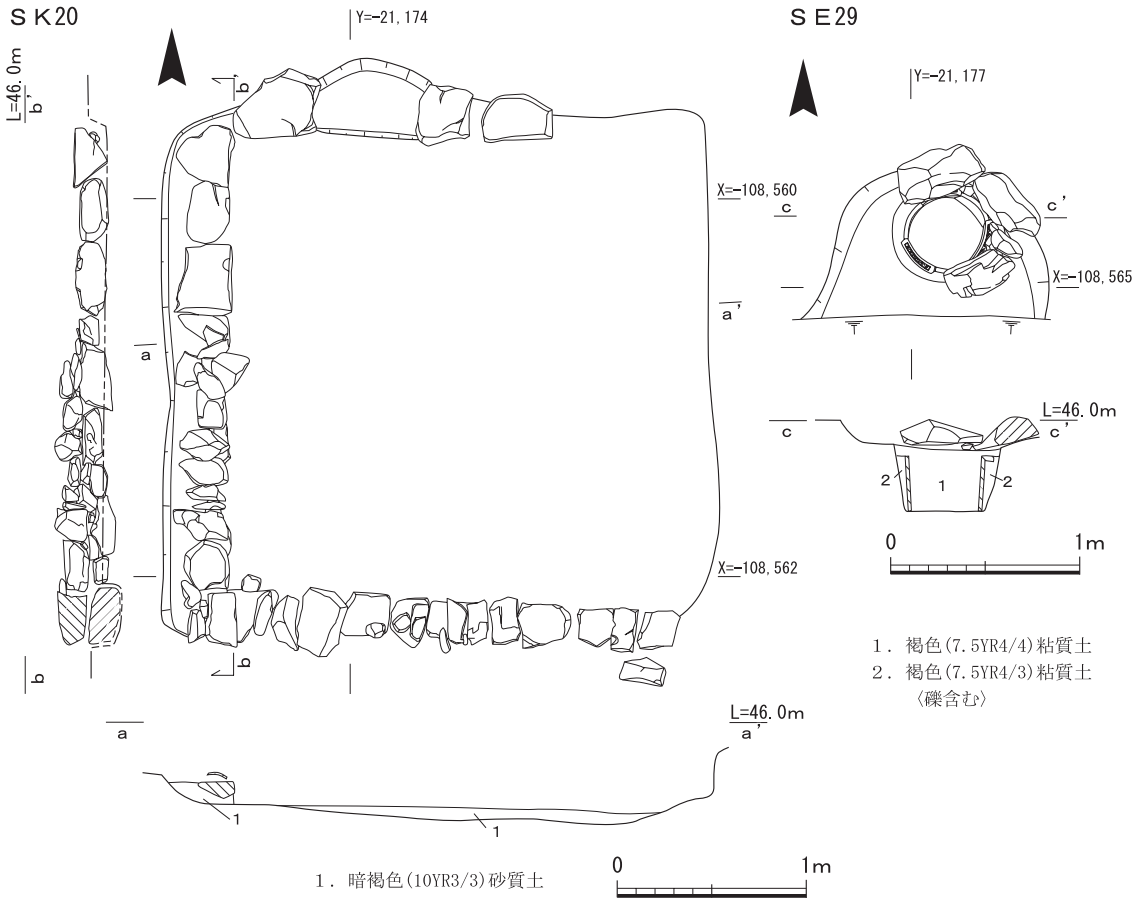
土坑ＳＫ27（第10図）　北地区の北東、ＳＫ26の南東で検出した。後世の攪乱とＳＫ04によって大きく削平され、掘形の西肩のみを確認した。掘形の規模は、東西1.0m以上、南北0.5m以上、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰黄色砂質土である。

土坑ＳＫ30（第10・16図）　北地区南東の東壁付近に位置し、ＳＫ34を完掘後に土坑底部で検出した。掘形の平面は円形で、規模は径0.7m、深さ0.08～0.2mを測る。埋土は炭が混じる灰オリーブ色の砂質土である。

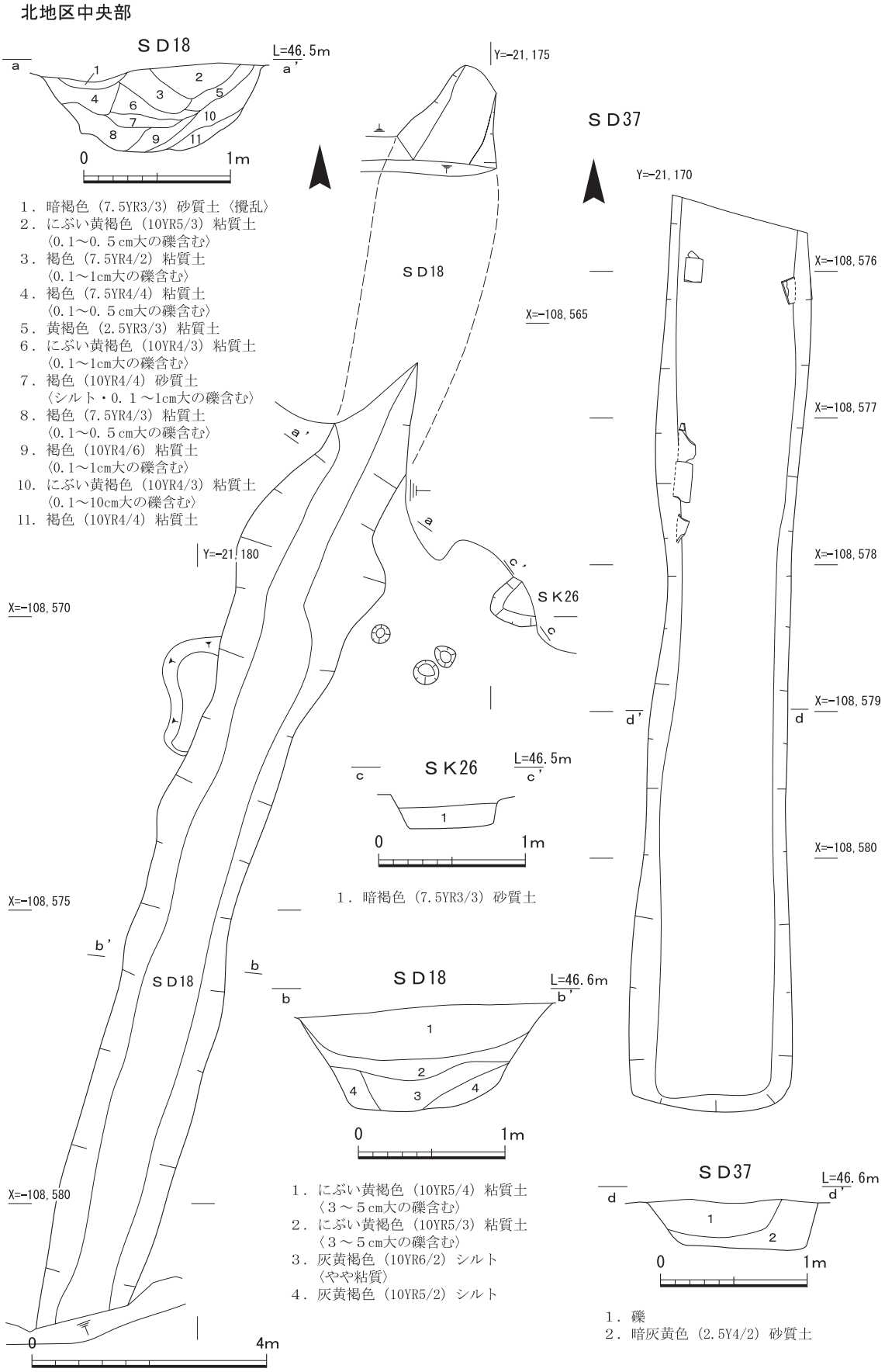
土坑ＳＫ34（第10・16図）　北地区南東で検出した。掘形の平面は不定形で、規模は東西2.6m以上、南北1.4m以上、深さ約0.2mを測る。埋土は暗灰黄色の砂質土である。遺物は土師器皿が出土した（第21図）。

土坑ＳＫ35（第10図）　ＳＫ34の北側で検出した土坑である。西側は後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は東側がへこむ方形で、規模は東西1.1m、南北2.0m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰黄色の砂質土である。掘形の底部東側でＳＰ32・33を検出した。遺物は土師器皿などが出土した（第21図）。

土坑ＳＫ36（第10・16図）　北地区北東の東壁付近で検出した。北側と南側を後世の攪乱によって削平され、遺構の全容は不明である。掘形の規模は東西3.1m、南北2.4m、深さ0.04～0.2mを測る。埋土は暗灰黄色の砂質土である。掘形底部は凹凸があり、西側が深くなる。異なる遺構



第14図　北地区遺構実測図（４）



第15図　北地区遺構実測図（5）

の可能性が考えられるが、遺物や埋土などから同一の遺構として判断した。掘形西側から土師器皿がまとまって出土した(第21図)。

土坑ＳＫ42(第10･16図)　北地区中央東側で検出した。掘形の平面は東側が細くなる楕円形で、規模は長径1.1m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は炭が混じる暗灰黄色の砂質土である。遺物は土師器皿などが出土した(第21図)。

土坑ＳＫ43(第10図)　ＳＫ42の南東約１mで検出した。南側は後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は楕円形で、規模は長径0.7m以上、短径0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗灰黄色の砂質土である。

土坑ＳＫ96(第９・17図)　北地区の南西で検出した。西側を後世の攪乱によって削平される。掘形の平面は長方形で、規模は東西0.6m以上、南北3.5m、深さ0.3～0.5mを測る。埋土は褐色の細粒砂である。検出した掘形の中位付近より上層には10～20cm大の石が密に含まれる。また、掘形南側の底部付近には一辺0.35m大の石が含まれる。掘形南端では、一辺0.4m程度の石が掘形南壁面に沿うように平らな面を上に向けて出土した。礎石の可能性が考えられる。

土坑ＳＫ97(第５・17図)　北地区南西で検出した土坑である。ＳＤ100埋没後に築かれた土坑である。掘形の平面は不定形で、規模は東西1.4m、南北１m以上、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色の極細粒砂である。遺構上面には、0.04～0.16cmの石や瓦が多数広がる。遺物は瓦片が出土した(第１図)。

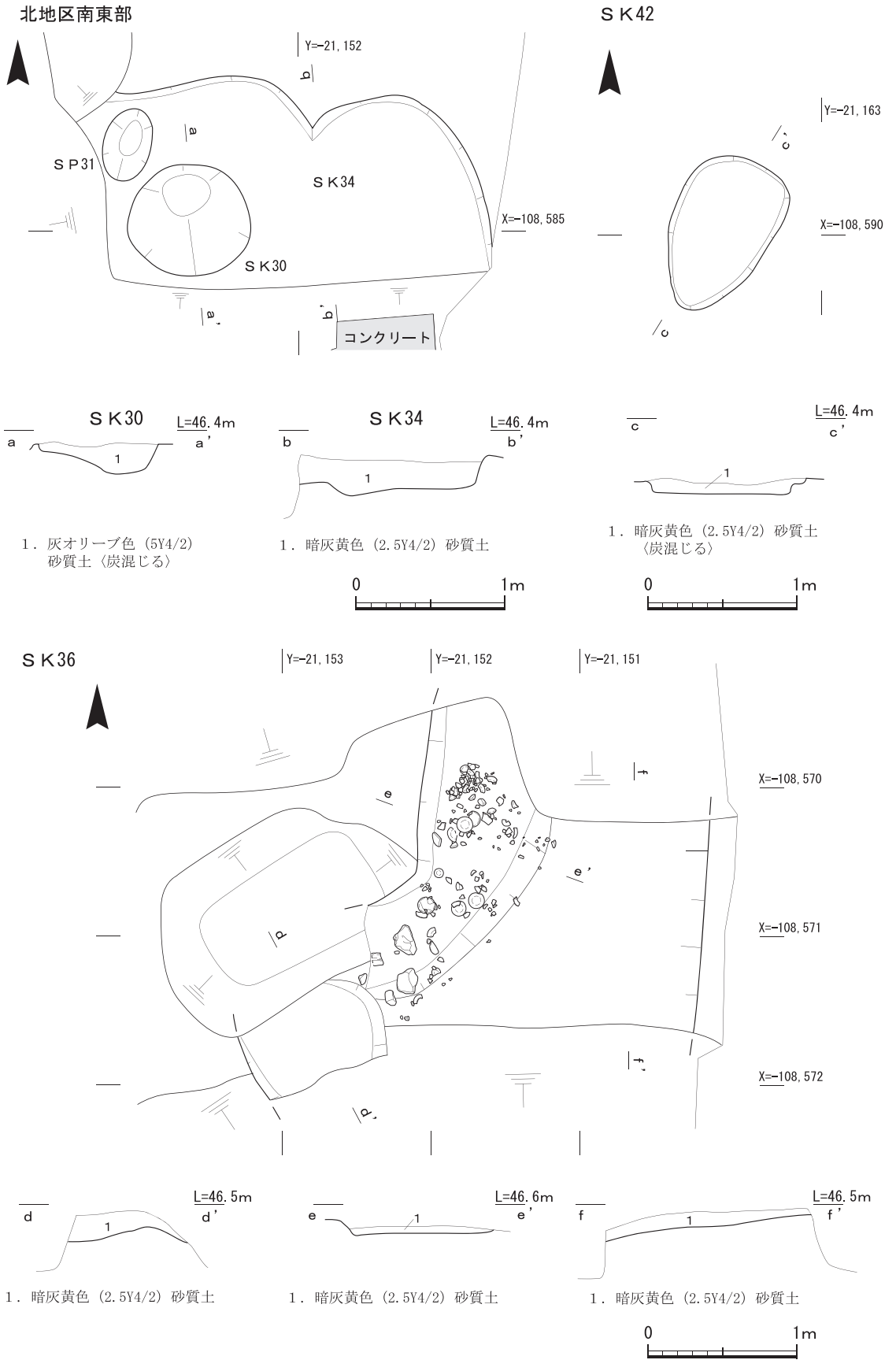
土坑ＳＫ99(第５・17図)　ＳＫ97の北方約１m付近で検出した。掘形の平面は不定形で、規模は東西0.7m、南北0.9m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色の細粒砂である。

溝ＳＤ12(第９・12図)　北地区北西で検出した南北方向の溝である。ＳＤ23を削平して掘削される。北側は後世の攪乱によって削平される。規模は検出長1.1m、幅0.3～0.5m、深さ0.35mを測る。埋土は褐色の細粒砂である。溝の北端は、攪乱の北側では確認できないため、攪乱内で途切れるものと考えられる。主軸方向は、北に対して東に５°振る。

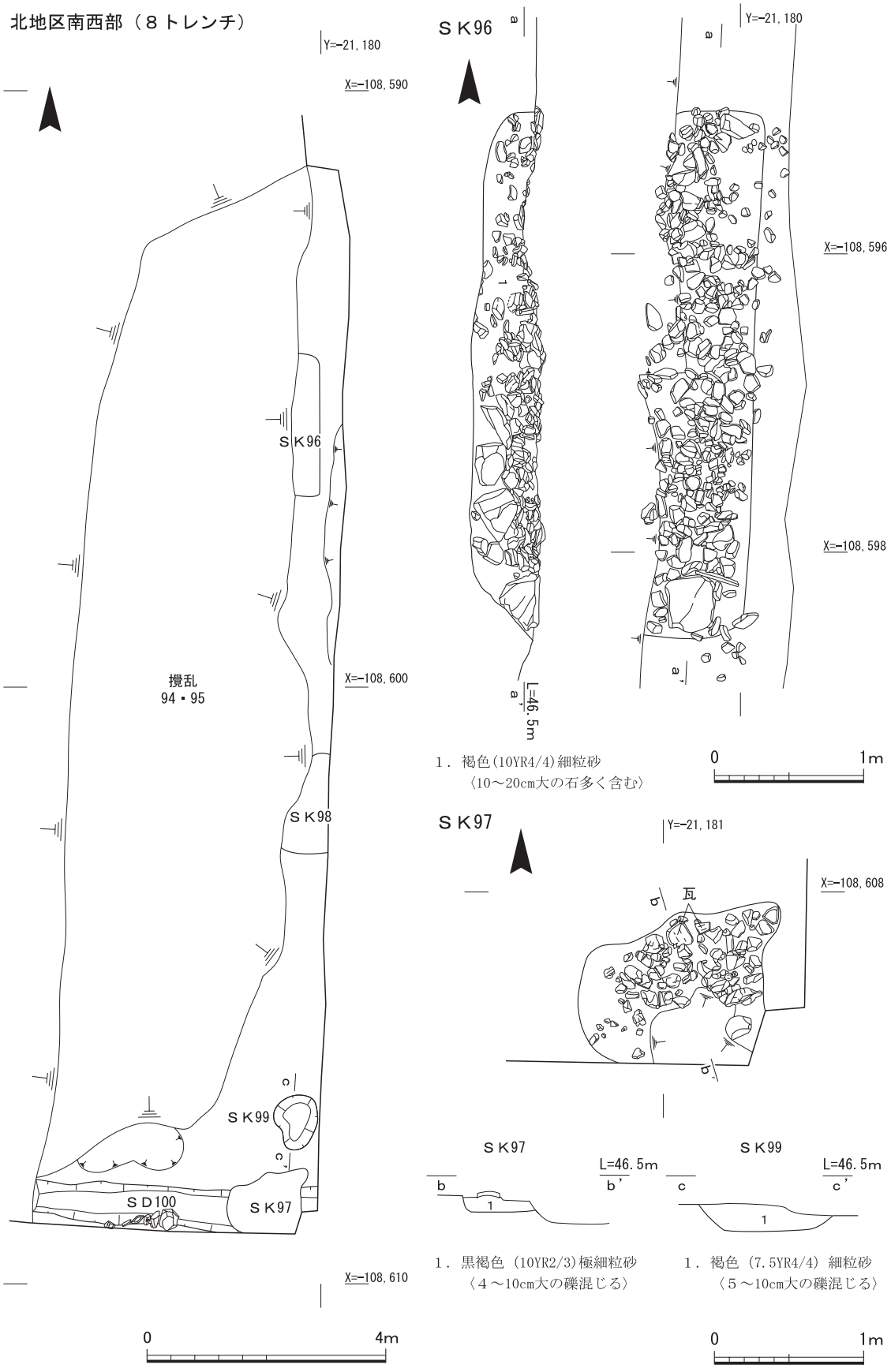
溝ＳＤ18(第９･15図)　北地区中央付近で検出した南北方向の溝である。規模は検出長22.2m、幅1.5～2.6m、深さ0.7mを測る。南北両端を後世の攪乱によって削平されるが、それぞれ調査地外へ延びると考えられる。主軸は北に対して17.5°東に振る。埋土は褐色やにぶい黄褐色の粘質土である。遺物は土師器皿などが出土しており、中世にさかのぼる可能性がある。

溝ＳＤ23(第９・12図)　北地区北西で検出した東西方向の溝である。東側をＳＤ12によって削平される。規模は検出長2.4m、幅0.5～0.6m、深さ0.2mを測る。北に対して東に87°振る。埋土は褐色粘質土である。

溝ＳＤ37(第10・15図)　北地区中央付近で検出した南北方向の溝である。溝の規模は、検出長6.2m、幅0.9～1.1m、深さ0.3mを測る。主軸方向は北に対して東に５°振る。溝底部の東西脇から、東側で１点、西側で４点の丸瓦が出土した。いずれも凸面を上に向けて壁面に沿って置かれており、西側の２点は連続して置かれていた。瓦は溝に伴うものとみられ、元々溝底部の両脇に列状に並べられていたと考えられる。



第16図　北地区遺構実測図（６）

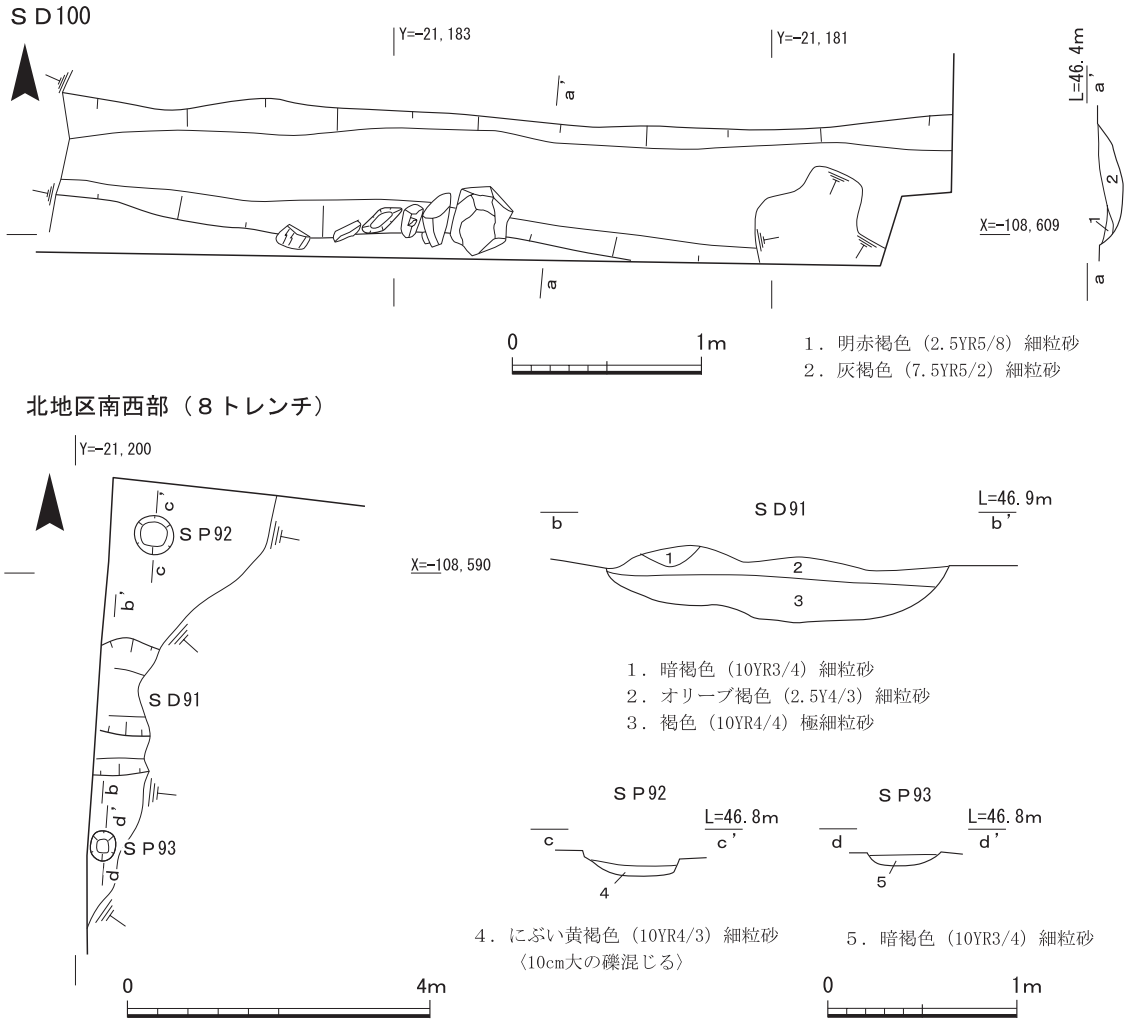


第17図　北地区遺構実測図（７）

溝ＳＤ91（第９･18図） 北地区南側で検出した東西方向の溝である。溝の規模は、検出長0.8m、幅1.8m、深さ0.35mを測る。埋土は上層がオリーブ褐色の細粒砂、下層が褐色の極細粒砂である。遺物は土師器皿の破片が出土した。

溝ＳＤ100（第５・18図） 北地区南側で検出した東西方向の溝である。両側は攪乱によって削平され、東側は調査地外へと延びる。溝の規模は、検出長4.7m、幅0.6m、深さ0.1mを測る。主軸方向は北に対して西に86°振る。埋土は明赤褐色と灰褐色の細粒砂である。遺物は土師器片がわずかに出土した。

井戸ＳＥ29（第９・14図） 北地区北側中央付近に位置し、ＳＤ18の西肩上面で検出した。北半と上層を攪乱によって削平される。確認できた掘形の平面は歪んだ半円形で、規模は東西1.3m、南北0.8m以上を測る。掘形中央付近には、長軸0.35～0.45mの自然石３個が「コ」の字状なるように長軸を横に向けて置かれる。石の下側では、掘形底部が直径0.6mの円形に一段掘り下げられる。この中からは、軒平瓦３点と平瓦３点が円形に並んで出土した。軒平瓦と平瓦は交互に並び、軒平瓦はすべて瓦当面を上に向ける。埋土は褐色の粘質土で、裏込めと考えられる瓦の外側



第18図　北地区遺構実測図（８）

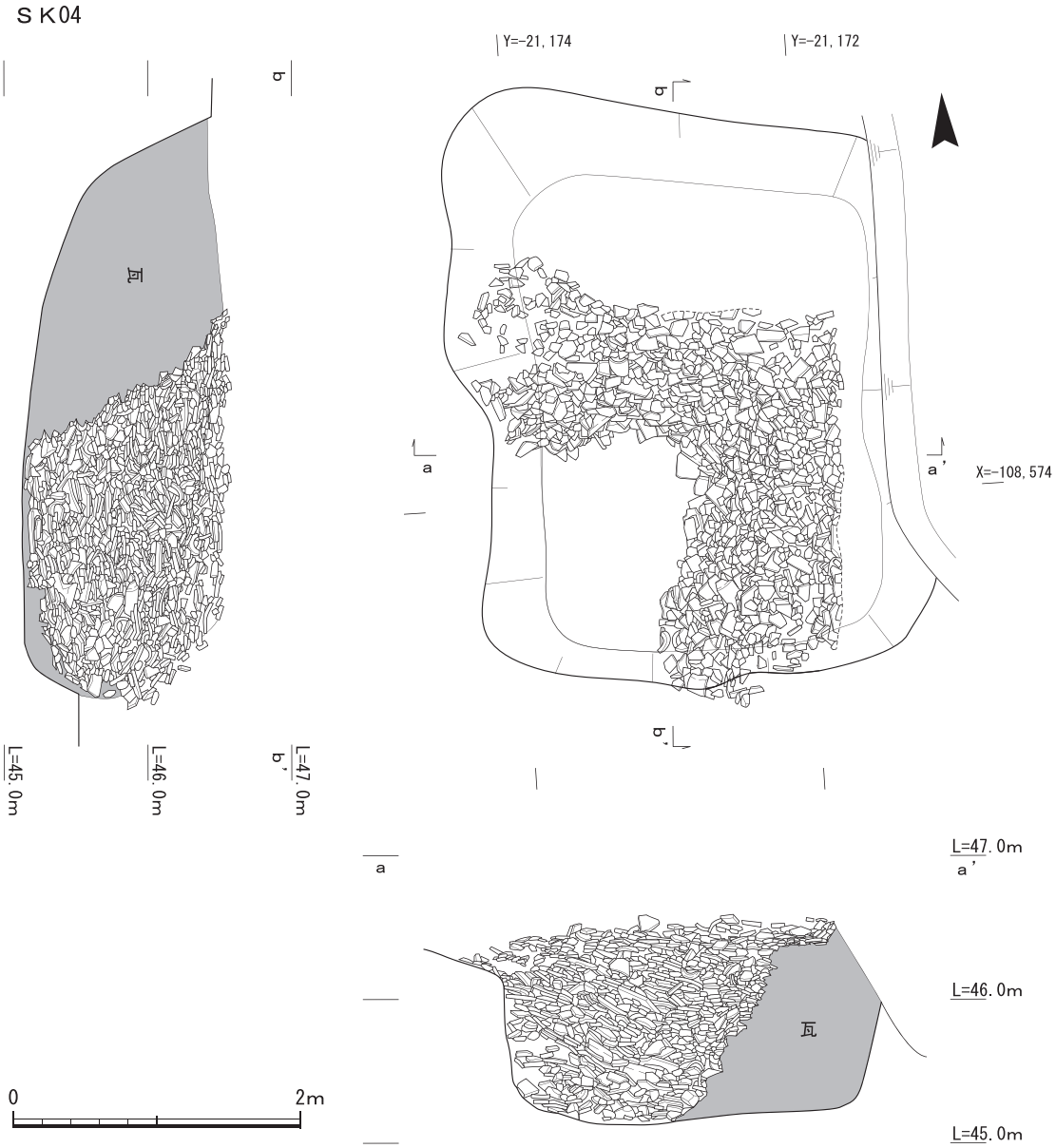
の埋土は礫を含む。石列と瓦は井戸に伴うとみられ、それぞれ石組みの井戸枠の最下段と、水溜め部にあたると考えられる。

柱穴ＳＰ05（第９・11図）　北地区北西隅で検出した。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.13mを測る。埋土は、褐灰色の砂質土である。

柱穴ＳＰ06（第９・11図）　北地区北西に位置し、ＳＰ05の東側で検出した。掘形の平面は楕円形で、規模は長軸0.6m、短軸0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色の砂質土である。

柱穴ＳＰ07（第９・11図）　北地区北西に位置し、ＳＰ06の南東で検出した。掘形の平面は円形で、規模は直径0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色の砂質土である。

柱穴ＳＰ11（第９・12図）　北地区の北西に位置し、ＳＫ22の東側で検出した。北側を攪乱によって削平される。掘形の規模は、東西0.3m、南北0.3m以上、深さ0.08mを測る。埋土は灰黄褐色の細粒砂である。



第19図　北地区遺構実測図（９）

柱穴ＳＰ14（第９・12図） 北地区の北西に位置し、ＳＤ12の西側で検出した。掘形の平面は隅丸方形で、規模は東西0.5m、南北0.6m、深さ0.3mを測る。埋土は径0.03～0.15mの石を含む褐色の細粒砂で、柱痕は確認できない。

柱穴ＳＰ15（第９・12図） 北地区の北西に位置し、ＳＤ12の東側で検出した。掘形の平面は隅丸方形で、規模は東西0.7m、南北0.6m、深さは0.2mを測る。掘形埋土はオリーブ褐色の細粒砂である。掘形中央で、直径0.3mの柱痕を確認した。柱痕の埋土はにぶい黄褐色の細粒砂である。

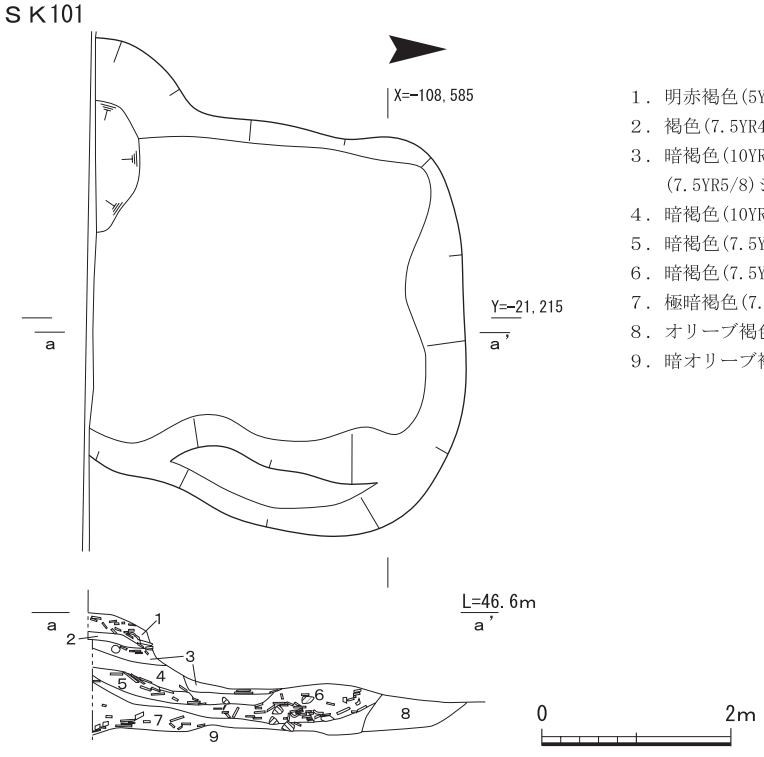
柱穴ＳＰ16（第９・12図） 北地区の北西に位置し、ＳＰ13の南側で検出した。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.1mを測る。掘形の埋土はオリーブ褐色の細粒砂である。掘形中央付近で柱痕を確認した。柱痕の埋土はにぶい黄褐色の細粒砂である。

柱穴ＳＰ17（第９・12図） 北地区の北西に位置し、ＳＰ16の東で検出した。長軸0.5m、短軸0.3m、高さ0.2mの石を平らな面を上に向けて置く。石に伴う明確な掘形は検出できなかったが、東側はわずかに掘り窪められており、柱穴に伴う根石もしくは礎石と考えられる。

柱穴ＳＰ28（第９・11図） 北地区中央付近、ＳＥ29の西側で検出した。掘形の平面は円形で、規模は直径0.3m、深さ0.11mを測る。埋土は褐色の粘質土である。

（２）宝永の大火以後の遺構

土坑ＳＫ04（第10・19図） 北地区中央付近で検出した土坑である。掘形の平面は隅丸方形で、規模は東西3.5m、南北4.2m、深さ1.4mを測る。大量の近世瓦が堆積しており、宝永の大火に伴う廃棄土坑と思われる。出土した瓦は種類別に個体数を計測した（付表１）。また、土師器皿が出土した（第21図）。



第20図　北地区遺構実測図（10）

土坑ＳＫ30（第10・16図）　北地区南東の東壁付近に位置し、ＳＫ34を削平する。掘形の平面は円形で、規模は径0.8m、深さ0.08～0.2mを測る。埋土は炭が混じる灰オリーブ色の砂質土である。出土した遺物は、18世紀末以降の様相を呈する。

土坑ＳＫ101（第５・20図）北地区の西側にあたる11トレンチで検出した土坑である。土坑の北側を検出し、掘形の平面は歪んだ方形である。規模は一辺2.2m、深さ1.1mを測る。後世の攪乱によって土坑上部が削平される。瓦片が層をなして堆積していた。瓦には､桟瓦が含まれている。土坑埋土中から炭や焼土が出土していることから、18世紀後半期以降の火災に伴う廃棄土坑と考えられる。出土瓦については、種類別に個体数を計測した（第25図・付表１）。

（岡崎研一）

３）北地区の出土遺物

（１）土器・土製品

ＳＫ34（第21図）　１・２は土師器皿である。２は内面に沈線があり、17世紀以降のものとみられる。

ＳＰ45（第21図）　３は土師器皿である。内面口縁部と底部の境が窪んでおり、16世紀末頃のものとみられる。

ＳＰ30（第21図）　４は陶器水滴で､小形の土瓶形である。肩部に鉄釉で簡略化した笹文を描く。５は陶器土瓶である。外面に透明釉を施す。京信楽系の製品とみられる。18世紀末頃以降のものとみられる。

ＳＫ42（第21図）　６～８は土師器皿である。内面に沈線を持つものがあり、17世紀頃のものとみられる。

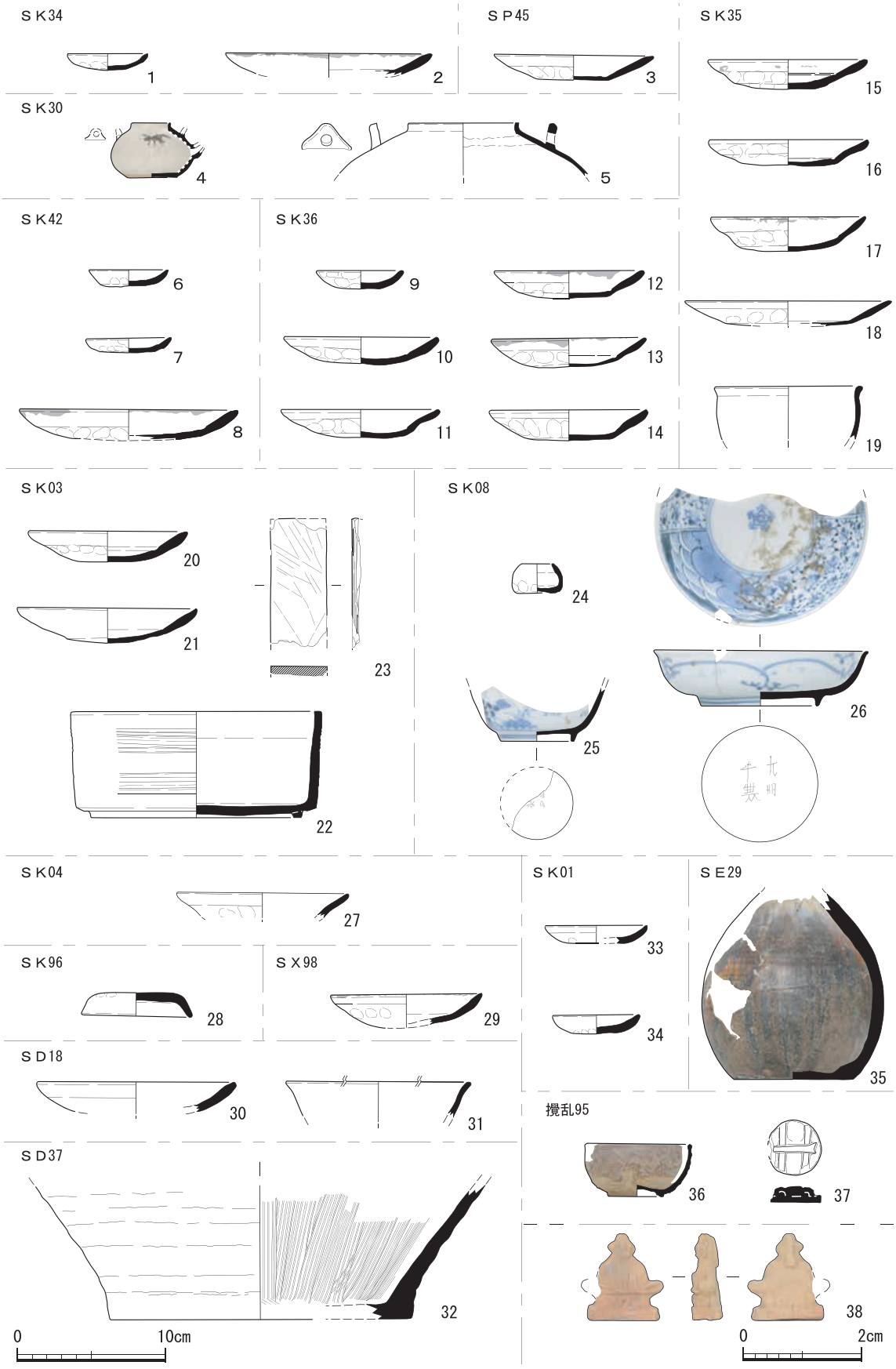
ＳＫ36（第21図）　９～14は土師器皿である。内面口縁部と底部の境が窪むものや沈線を持つものがあり、16世紀末から17世紀頃のものとみられる。

ＳＫ35（第21図）　15～18は土師器皿である。内面に沈線を持つものがあり、 17世紀頃のものとみられる。19は陶器椀で、肥前系の製品とみられる。内湾気味の椀形で、口縁端部は外反し玉縁状となる。17世紀初頭頃の製品とみられる。

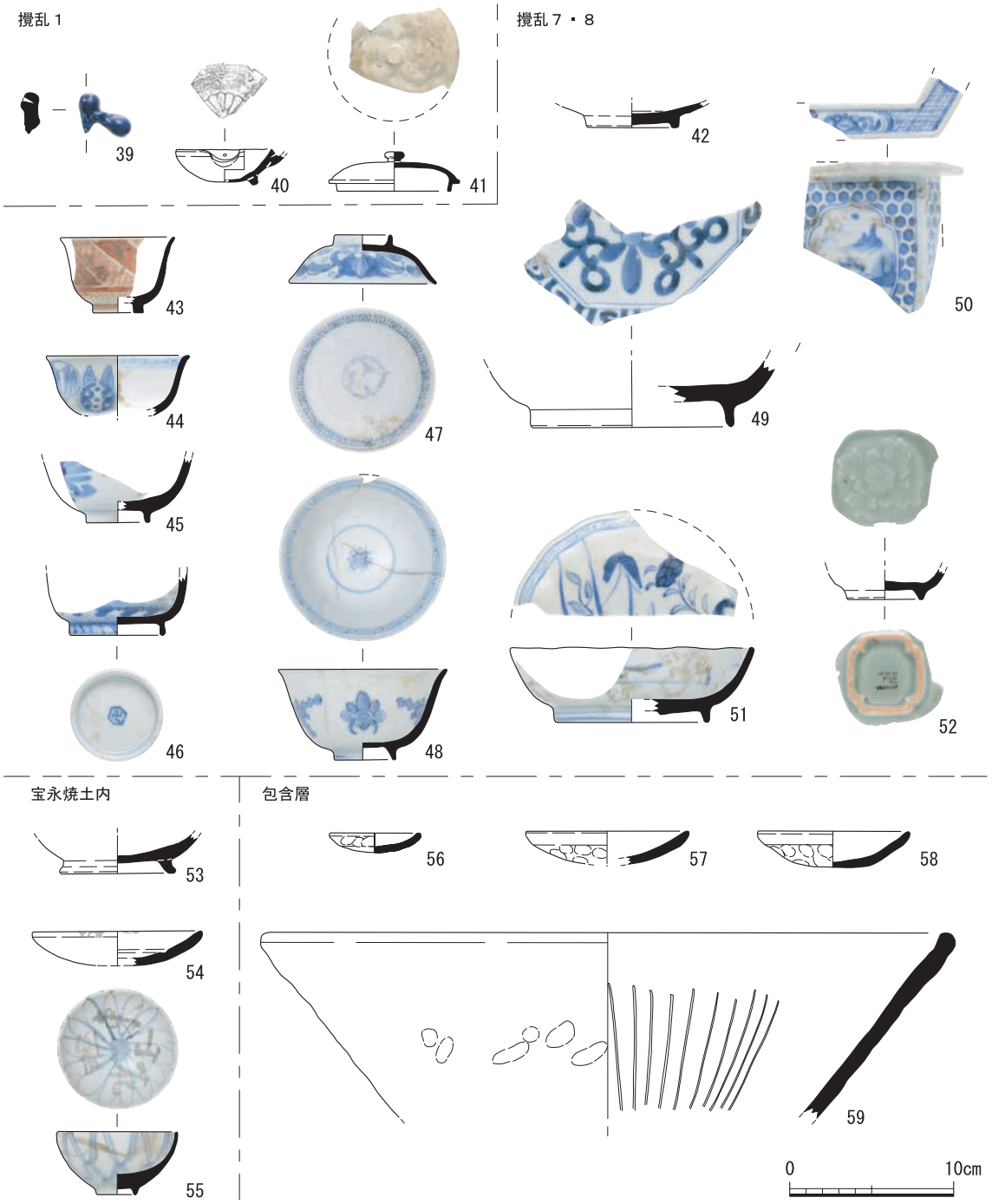
ＳＫ03（第21図）　20・21は土師器皿である。17世紀頃のものとみられる。22は陶器鉢で、外面に横方向の櫛目文が施文される。信楽系の製品と考えられる。23は石製硯である。上面が剝がれたものとみられる。

ＳＫ08（第21図）　24は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。25は染付磁器椀である。外面には草花文を描き、高台内に「□明成□□製」銘がある。17世紀後半頃の肥前系の製品である。26は染付磁器皿である。内側面に花唐草文や波文を描き、見込み中央の五弁花文はコンニャク印判である。高台内に「太明年製」銘がある。17世紀末から18世紀前半頃の肥前系の製品である。

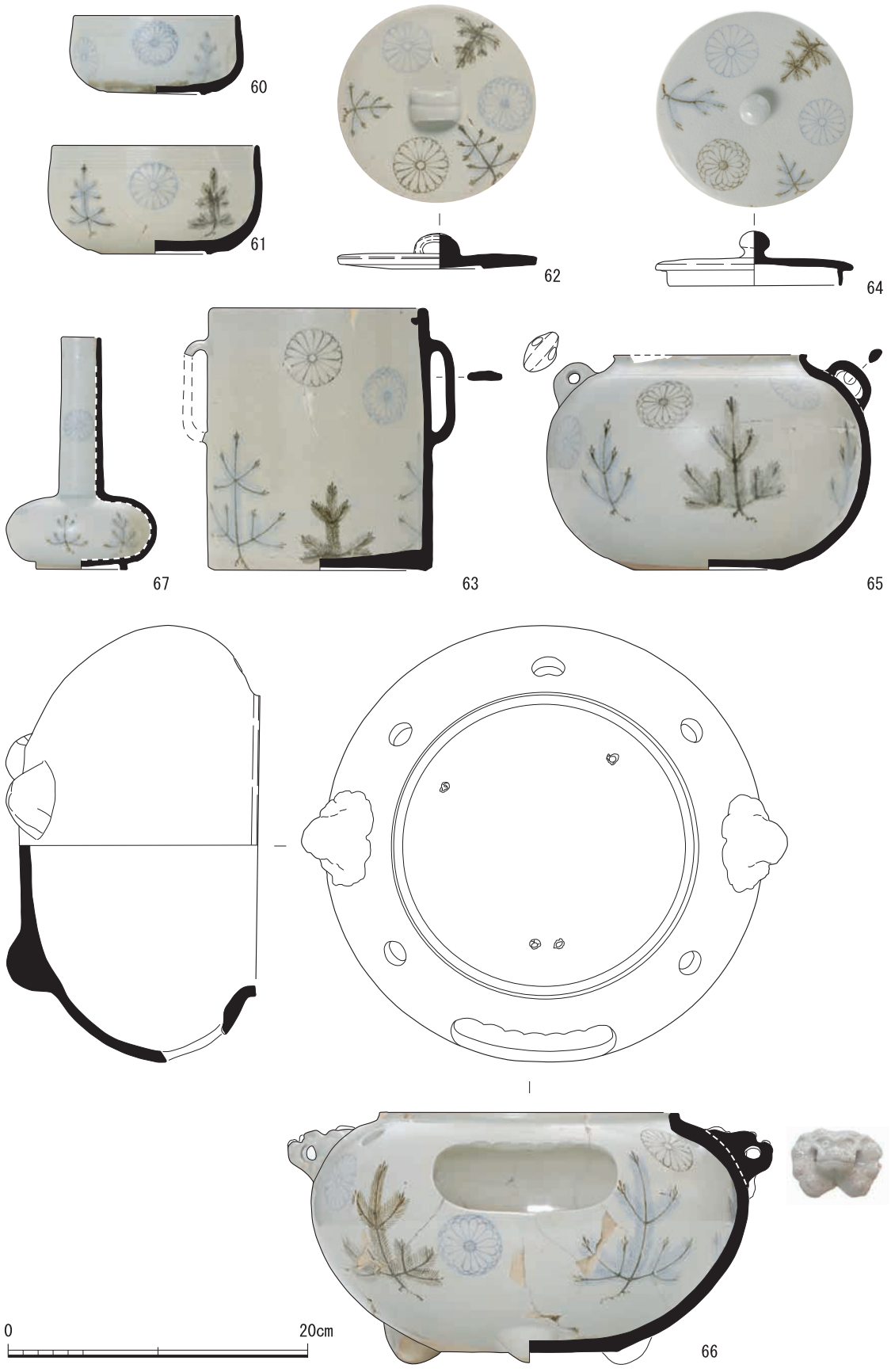
ＳＫ04（第21図）　27は土師器皿である。小片のため、時期等は不明である



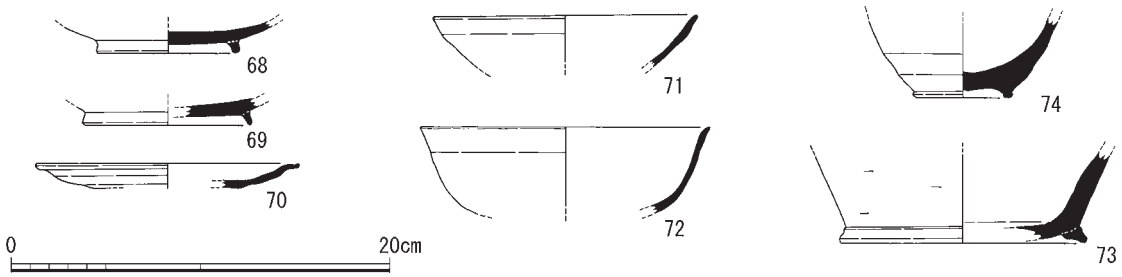
第21図　北地区出土遺物実測図（１）



第22図　北地区出土遺物実測図（２）



第23図　北地区出土遺物実測図（３）



第24図　北地区出土遺物実測図（４）

ＳＫ96（第21図）　28は土師質の焼塩壺の蓋である。

ＳＫ98（第21図）　29は土師器皿である。内面に沈線があり、17世紀頃のものとみられる。

ＳＤ18（第21図）　30は土師器皿である。31は中国製の青磁椀である。口縁端部は外反気味である。小片のため、詳細は不明であるが、龍泉窯系の製品とみられる。

ＳＤ37（第21図）　32は陶器擂鉢で、信楽系の製品とみられる。胎土に長石粒を含む。17世紀頃のものか。

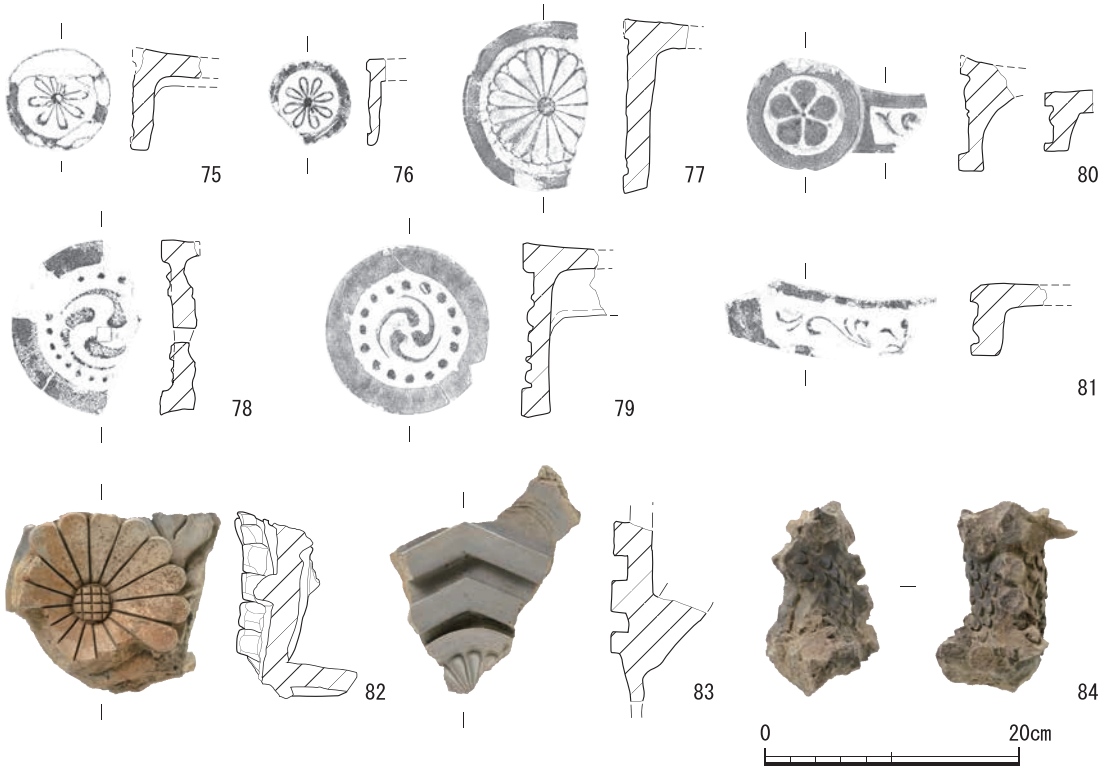
ＳＫ01（第21図）　33・34は土師器皿である。小形品なので、明確な時期は不明であるが、近世前半頃のものか。

ＳＥ29（第21図）　35は陶器徳利で、肥前系の製品である。前面に褐釉を施したあと、白色の灰釉を上掛けする。いわゆる「朝鮮唐津」と呼ばれるもので、16世紀末～17世紀初頭頃のものとみられる。

攪乱95（第21図）　36は型押し成形の土師質椀で、外面に唐草文を巡らす。外面に鉄釉を薄く施す。37は土師器のミニチュア土器釜の蓋である。玩具か。38は土製品の人形で、天神（菅原道真）像とみられる。いずれも京都系の製品とみられる。

攪乱１（第22図）　39は磁器箸置とみられ、２個の茄子を象る。肥前系とみられ、瑠璃釉を施す。底部は無釉である。楊枝立とみられる小穴がある。40は土師器のミニチュア土器片口で、内面に菊文がある。胡粉を塗った痕跡がある。41は陶器蓋で、京焼系とみられる。上面には、つまみを中心に二羽の鳳凰文を上絵付し、金彩を施す。

攪乱７（第22図）　43は肥前系もしくは九谷系の色絵磁器椀で、赤色顔料で文様などを描き、さらに金彩を施す。端反椀である。44～46・48は染付磁器椀である。端反椀が含まれており、18世紀末以降のものとみられる。48には焼継の痕跡が残る。47は染付磁器椀蓋で、肥前系とみられる。内面中央に簡略化された松竹梅文を描く。端反椀に伴うものとみられ、18世紀末以降の製品と考えられる。50は染付磁器植木鉢とみられ、型成形である。肥前系もしくは三田・王子山系の製品とみられる。平面形は六角と考えられる。51は肥前系の染付磁器鉢で、内面に草花文を描く。口縁端部は輪花形で、高台は蛇ノ目凹形である。18世紀末以降の製品とみられる。口縁端部は端反り気味で、高台は細く高めである。52は青磁皿で、型成形である。高台の形状から隅入角形を呈するものとみられる。京都系の製品とみられ、三田青磁の可能性もある。



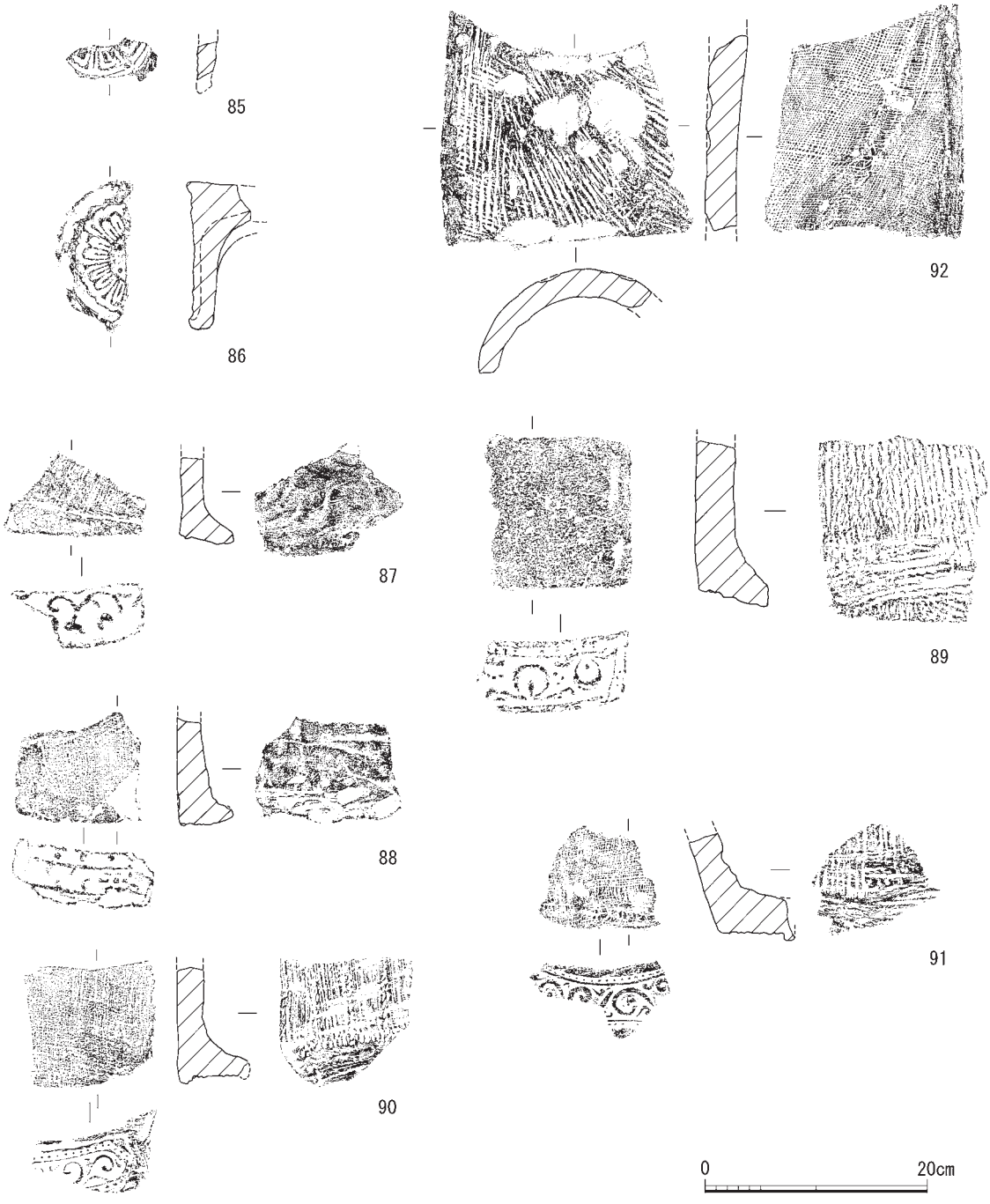
第25図　北地区出土遺物実測図（５）

攪乱８（第22図）　42は緑釉陶器皿で、高台は削り出しである。10世紀頃のものとみられる。49は染付磁器と考えられる鉢である。高台は細く高めである。焼継の痕跡がみられる。

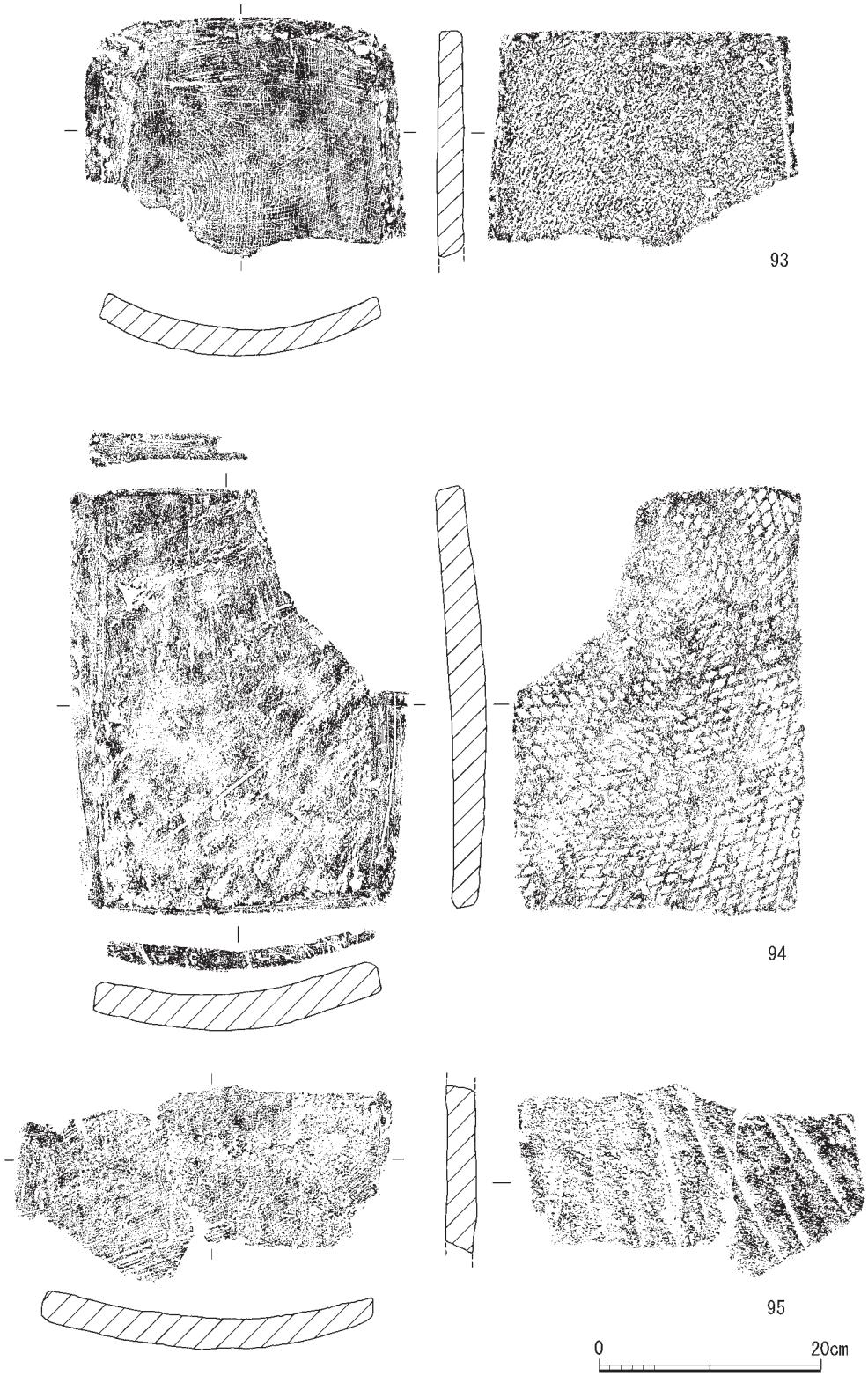
宝永焼土内（第22図）　53は須恵器壺の底部である。貼り付け高台をもつ。54は土師器皿で、内面に凹線状圏線をもつ。17世紀頃のものとみられる。55は染付磁器小椀で、外面に二本引きの網目文、内面に菊花文を描く。18世紀の肥前系磁器である。内面には「東山花陽」の文字を焼き付け、外面にも、判読できないが、文字を焼き付ける。

包含層（第22～24図）　56～58は土師器皿である。16世紀頃のものか。59は陶器擂鉢で、丹波系の製品である。内面の擂り目は一本引きである。16世紀頃の製品とみられる。

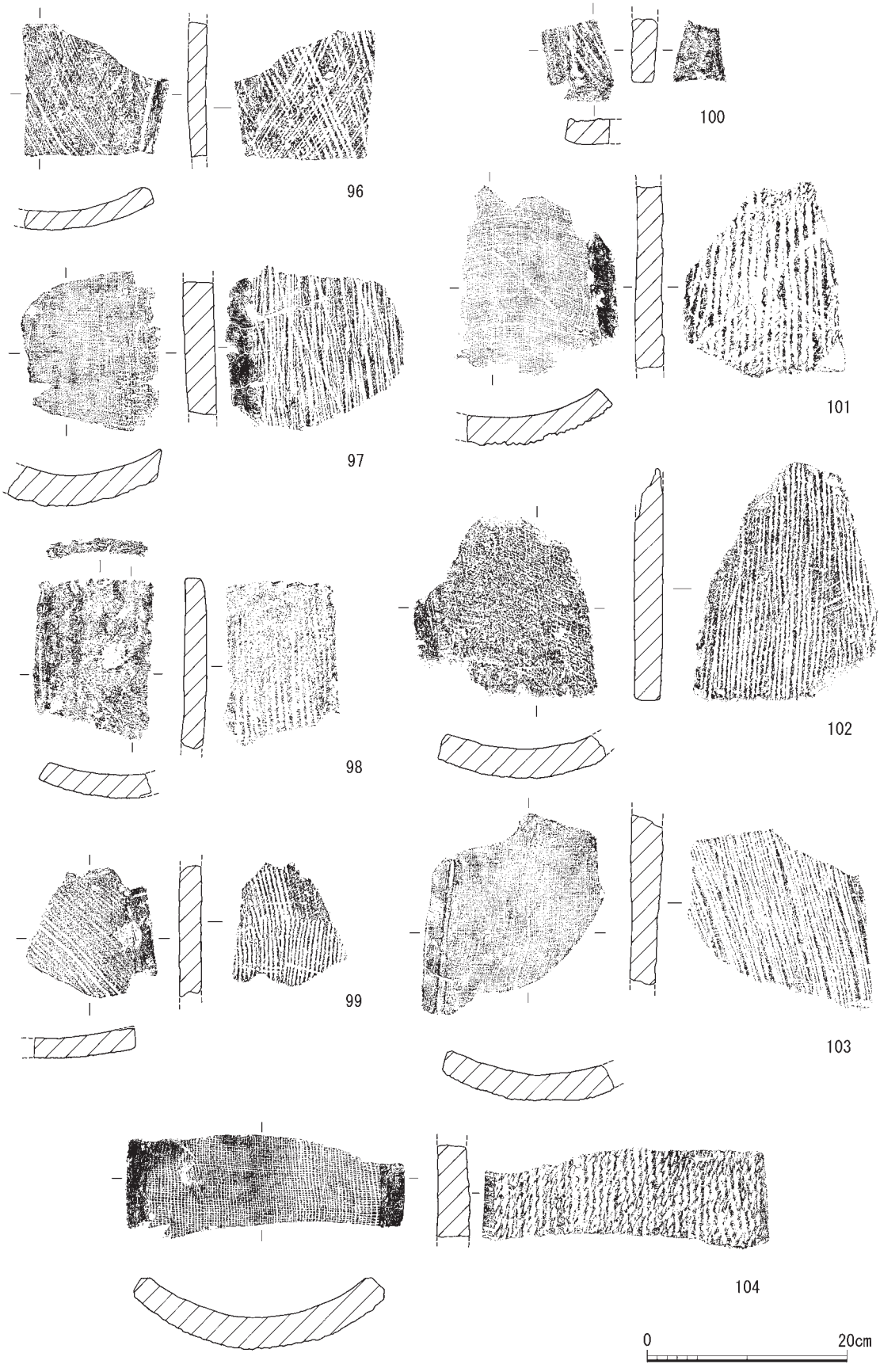
60～67は陶器の皆具である。いずれも青釉と褐釉で菊文と若松文を描く。口縁端部には櫛状工具による圏線が巡り、もともと一具のものである。菊文が多用されており、禁裏との関係が考えられるものである。18世紀後半頃以降の京都系の製品とみられる。60は浅鉢で、底部は碁笥底状である。建水の可能性があるが、やや小形である。61は60とほぼ同様の形態で、やや大振りである。建水と考えられる。62・63は水指である。蓋（62）には中央に帯状のつまみがある。身（63）は円筒状の形態で、内面口縁端部に蓋受けをもつ。外面２方向に帯状の縦耳が付く。64・65は釜である。蓋（64）の中央には宝珠形のつまみが付く。身（65）は、肩部に扁平気味の鐶座を２方向に付す。66は風炉である。肩部に獅子形の鐶座を２方向に付す。底部には、丸みをもった脚が３方向に付く。胴部上半に格座間形の風門を設ける。67は杓立である。胴部は低い扁平な球形で頸部は細長い筒状を呈する。底部には削り出しの輪高台をもつ。口縁端部には２方向に菊花の浮文をもつ。



第26図　北地区出土遺物実測図（６）



第27図　北地区出土遺物実測図（７）



第28図　北地区出土遺物実測図（８）

68・69は緑釉陶器皿である。高台は貼り付けである。70は土師器皿である。口縁端部が屈曲する、いわゆる「て」の字口縁の皿である。10世紀頃のものとみられる。71・72は灰釉陶器椀である。東海系のものとみられる。73は須恵器壺とみられる。底部外縁に「ハ」の字状に開く高台を付す。74は陶器椀で、肥前系の製品である。16世紀末～17世紀初頭頃のものとみられる。

（２）瓦（第25～28図）

75～84は近世瓦である。75・76は菊花文棟丸瓦で、棟の側面に装着される飾り瓦である。攪乱８から出土した。77は菊花文軒丸瓦で、ＳＫ101から出土した。78は三巴文軒丸瓦で、中央に角釘で固定するための穿孔がある。ＳＫ99から出土した。79は三巴文軒丸瓦で、ＳＫ04から出土した。80は桟瓦の軒先瓦で、丸の部分が花文、平の部分が唐草文である。壁面精査中に出土した。81は唐草文軒平瓦である。攪乱８から出土した。82は鬼瓦もしくは獅子口の一部とみられ、菊文を配する。ＳＫ101から出土した。83は獅子口の一部である。ＳＫ101から出土した。84は鯱瓦もしくは獅子等の棟先飾瓦の一部とみられる。ＳＫ101から出土した。

85～104は古代から中世にかけての瓦である。ほとんどのものが寺町調査後に実施した断ち割りで河川堆積層から出土したものである。85は複弁蓮華文軒丸瓦であるが、小片のため詳細は不明である。蓮華文の外周に１条の圏線が巡る。平安時代後期のものか。南北断ち割りから出土した。86も複弁蓮華文軒丸瓦である。平安時代後期のものとみられる。攪乱７から出土した。

87は唐草文軒平瓦である。平安時代後期のものとみられる。南北断ち割りから出土した。88は宝相華文軒平瓦とみられる。ＳＤ18から出土した。89～91は瓦当裏に横方向の縄タタキがみられ、亀岡市篠窯業生産遺跡群王子瓦窯で生産された11世紀の瓦とみられる。法成寺関係の瓦と考えられているものである。89は半裁花文軒平瓦である。他の出土例から緑釉瓦と考えられるが、現状では緑釉は残存していない。90・91は唐草文軒平瓦である。

92は丸瓦で、凸面に交差する平行タタキ、凹面に粗い布目が認められる。北東部から出土した。

93～104は平瓦である。94は凸面に斜格子タタキが残る。その他の瓦は凸面が縄タタキである。96・98・100は緑釉瓦であり、法成寺所用の瓦とみられる。

ＳＫ04出土近世瓦（付表１）　ＳＫ04は、宝永５（1702）年の大火で焼失した建物の瓦を埋納した廃棄土坑とみられる。出土瓦3,631点について観察した。なお、点数は破片数であり、個体数ではないことを最初に記しておきたい。

付表１　北地区近世瓦タイプ別個体数

北地区　ＳＫ04					
種別		個体数	コビキ		刻印
軒丸瓦		9	A		
			B		
丸　瓦		1834	A	233	
			B	86	
軒平瓦		45	A	3	
			B		
平　瓦		1700	A	3	
			B	11	
鬼　瓦		0			
その他	磚	4			
	道具瓦	3			
	不　明	36			
	菊花棟丸	0			
	平　安	0			
	鳥フスマ	0			
合　計		3631			

北地区　ＳＫ101			
種別		個体数	コビキ
軒丸瓦		67	A
			B
丸　瓦		1253	A
			B
軒平瓦		62	A
			B
平　瓦		4291	A
			B
鬼　瓦		17	
その他	磚	0	
	道具瓦	0	
	不　明	51	
	菊花棟丸	363	
	平　安	0	
	鳥フスマ	0	
合　計		6104	

この土坑の出土傾向の特徴は、軒瓦を含む丸瓦・平瓦の出土割合が約99％の多数を占めることである。鬼瓦は含まれておらず、道具瓦などのその他の瓦も約１％と非常に少ない。出土頻度の高い菊花文棟丸瓦が含まれていないのも特徴と言える。

丸瓦・平瓦では、軒瓦の数が少ないのも特徴的である。丸瓦では、軒瓦の割合は１％以下、平瓦では、軒瓦の割合は３％弱と非常に少ない。つまり、出土瓦の約97％が通常の丸瓦・平瓦と言える。

丸瓦・平瓦については、コビキの痕跡が確認できるものがあるが、平瓦では凹凸面共に平滑に調整されているものが多く、確認できたのはわずかである。丸瓦では、通常の丸瓦1,834点のうち約13％の233点にコビキＡの痕跡が確認できた。これは、観察した遺構出土の近世瓦では、かなりの高含有率である。コビキＡの瓦は、豊臣秀吉の聚楽第築城まで使用されていた瓦で、聚楽第築城後に形成された大名屋敷街ではコビキＢの瓦に替わる。今回の調査で出土した近世瓦の内では古様を示すものである。このことは、これらの瓦を使用していた建物が、寺町形成のごく初期の段階で建造されたもの、もしくは、旧地から寺町に移転した時に移築されたものの可能性が考えられる。また、コビキＢの瓦も含まれており、宝永の大火までの間に補修されたことも考えられる。

ＳＫ101出土近世瓦（付表１）　ＳＫ101は、宝永の大火で焼失した建物の瓦を埋納した廃棄土坑とみられる。出土瓦の破片6,104点を分類した。軒瓦を含む丸瓦・平瓦の割合は約93％である。コビキの観察は行っていない。

この土坑出土瓦で特徴的なのは、菊花文棟丸瓦が多数含まれていることである。他の遺構の出土傾向からみて、この土坑出土瓦は、寺町移転以後に建造された建物に使用されていた瓦と考えられる。（引原茂治）

６．南地区の調査

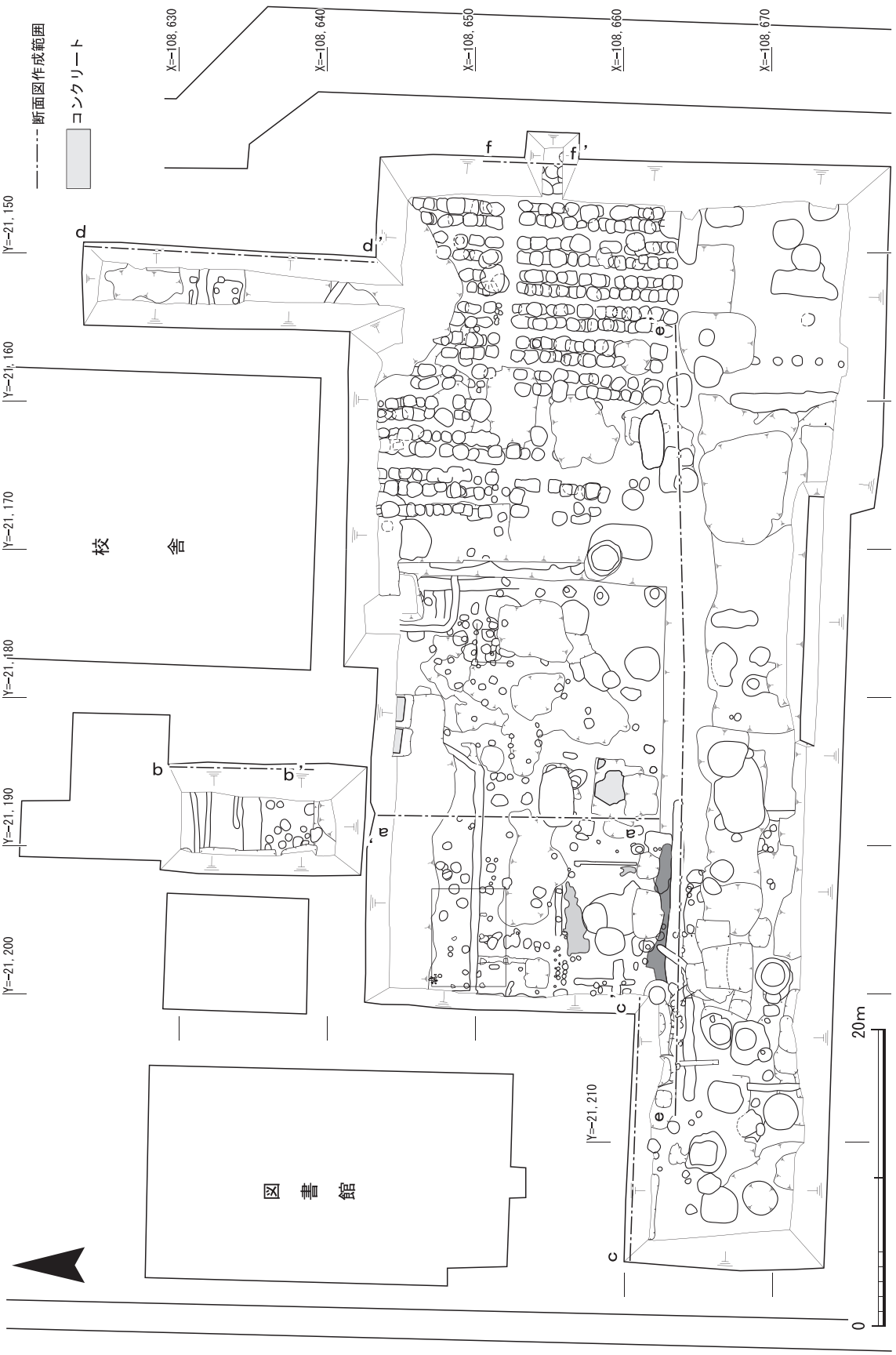
１）基本層序と調査の概要

南地区は、調査対象範囲の南側に位置し、調査トレンチは、２・４・５・７・９・10トレンチが該当する。

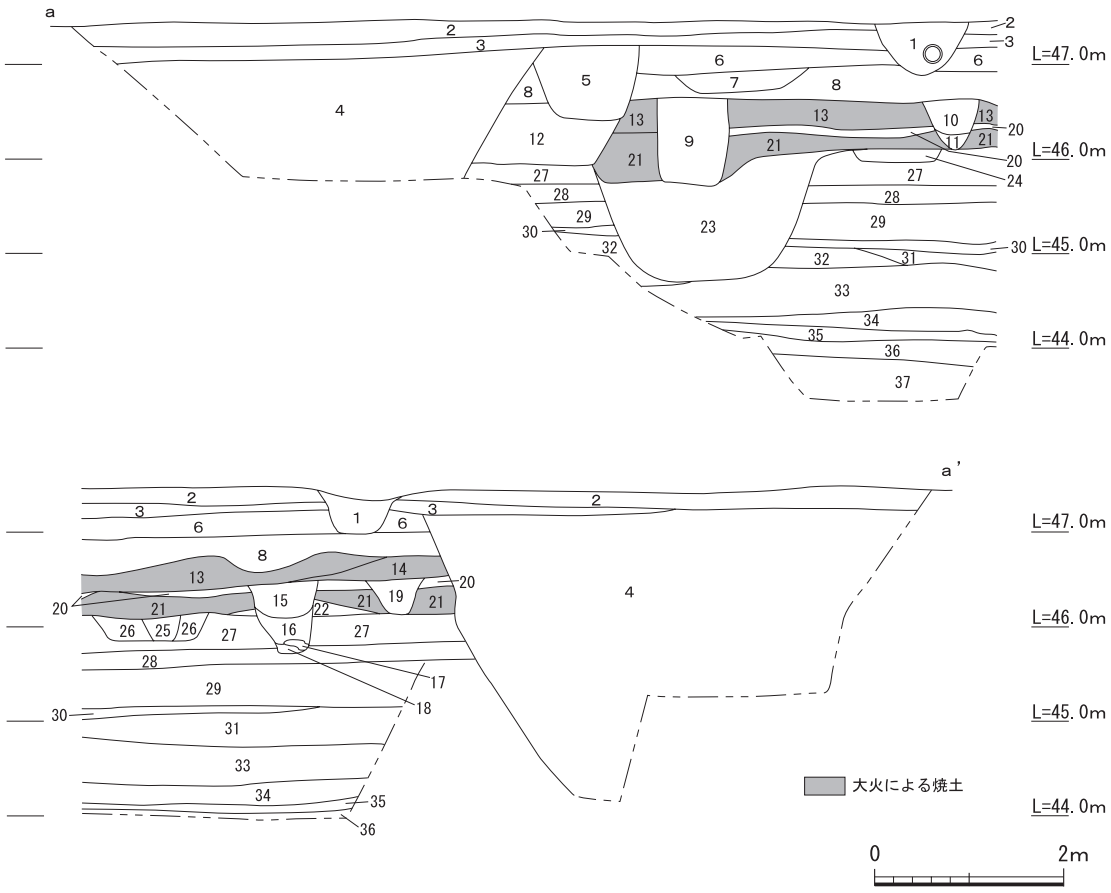
（１）基本層序

各年度に設定した調査トレンチの壁面で断面図の作成を行った（第29図）。ａ－ａ’間では、攪乱による影響が少なく、北地区と同様に、宝永５年と天明８年それぞれの大火に伴う焼土層を確認した。天明の大火に伴う焼土層は暗褐色の中粒砂で、ａ－ａ’間のほかｂ－ｂ’間で確認した。標高46.4m付近から20～30cmの厚さで堆積する。この焼土層の下層は黄褐色や灰黄褐色の細砂質シルトが10cm程度の厚さで堆積し、天明の大火以前の整地層とみられる。上層は砂礫層が水平に堆積しており、大火以降現代に至るまで繰り返し盛り土をして整地されたことがうかがえる。

宝永の大火に伴う焼土層は暗褐色の中粒砂で、調査地西側のａ－ａ’では標高46.1m付近から10～30cmの厚さで堆積する。南地区東側のｆ－ｆ’でも同じ高さに堆積するが、確認できる範

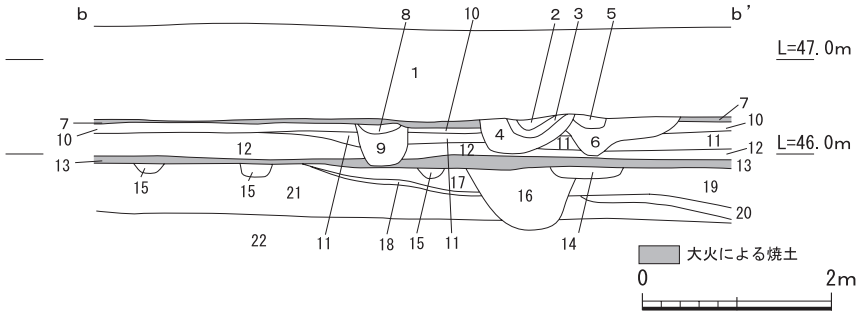


第29図　南地区断面実測位置図



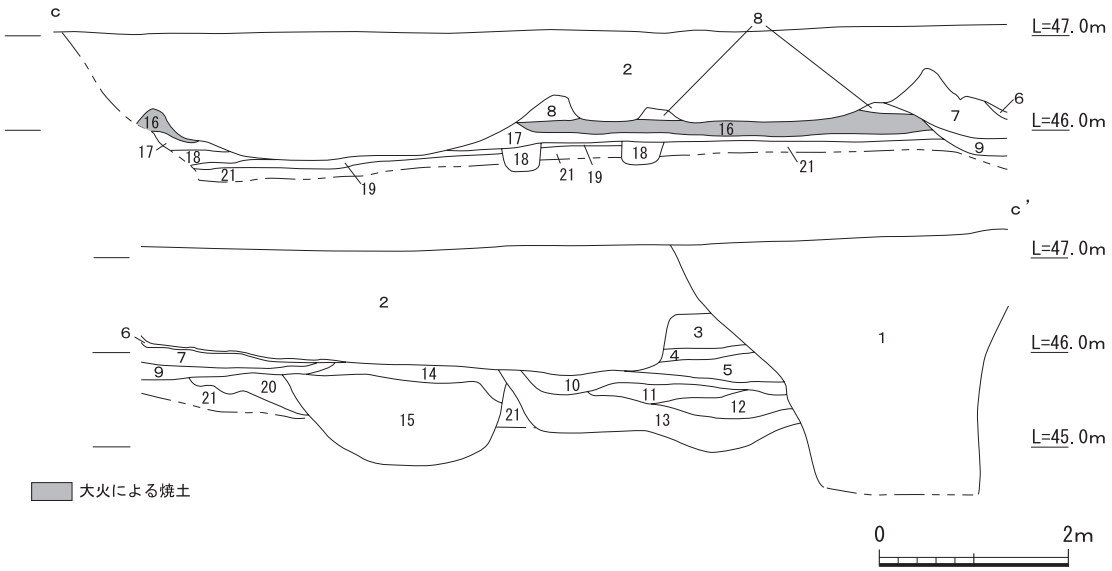
1．攪乱
2．黄褐色(2.5Y5/3)シルト
3．黒褐色(2.5Y3/1)礫
4．攪乱
5．攪乱
6．褐色(7.5YR4/3)砂礫
7．にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
8．灰黄褐色(10YR4/2)砂礫
9．褐灰色(10YR4/1)砂質土
10．灰褐色(7.5YR4/2)砂質土〈焼土含む〉
11．褐色(7.5YR4/4)砂質土〈焼土含む〉
12．黒褐色(10YR3/1)砂質土〈焼土含む〉
13．暗褐色(7.5YR3/3)砂質土〈焼土含む〉
14．灰褐色(7.5YR4/2)砂質土〈焼土含む〉
15．黒褐色(10YR3/2)砂質土〈焼土含む〉
16．暗褐色(10YR3/3)砂質土
17．褐灰色(7.5YR4/1)粘質土
18．にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
19．暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土〈焼土含む〉
20．黄褐色(2.5Y5/4)細砂質シルト
21．褐灰色(5YR4/2)砂質土〈焼土含む〉
22．暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土〈礫・土師器片含む〉
23．瓦溜まり
24．褐色(7.5YR4/3)砂質土〈焼土含む〉
25．暗灰褐色(10YR4/2)砂質土〈礫含む〉
26．褐色(7.5YR4/3)砂質土〈焼土含む〉
27．オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土
28．暗赤褐色(5YR3/2)砂質土
29．褐灰色(2.5Y4/1)砂礫
30．暗灰黄色(2.5Y5/2)砂
31．黒褐色(10YR3/1)砂礫
32．黄褐色(2.5Y5/4)細砂
33．暗褐色(10YR3/3)砂礫
34．黒褐色(5YR2/1)砂礫
35．黒色(10YR2/1)粗砂
36．黄褐色(2.5Y5/4)礫〈上面マンガン付着〉
37．黄褐色(2.5Y5/4)砂礫

第30図　南地区土層断面図(１)



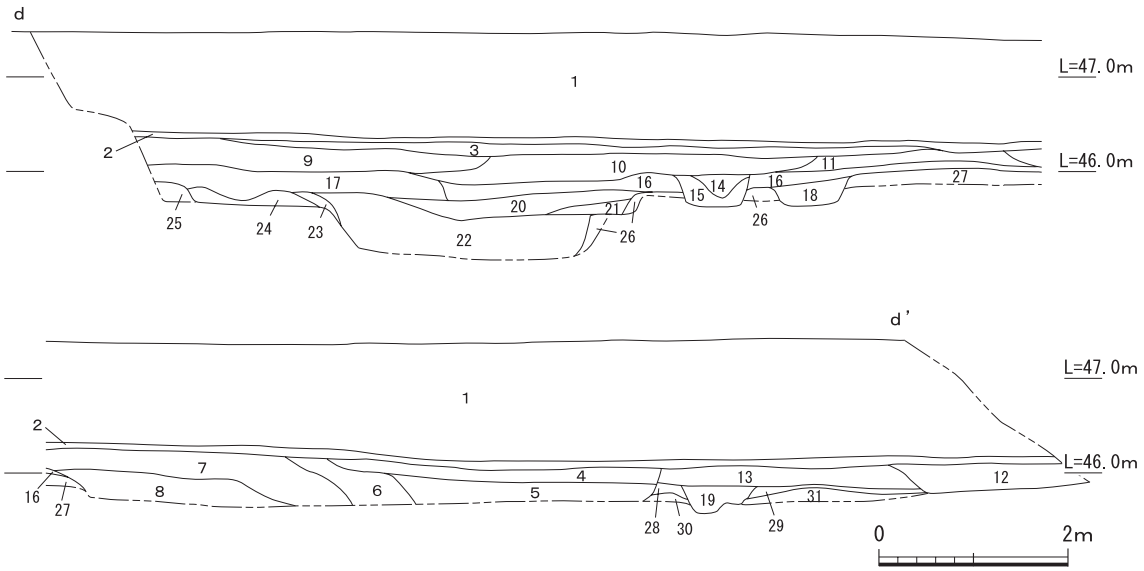
1．盛り土
2．赤褐色（5YR4/8）中粒砂〈焼土含む〉
3．褐色（7.5YR4/6）中粒砂
4．暗褐色（7.5YR3/3）中粒砂
5．暗褐色（10YR3/3）中粒砂
6．褐色（10YR4/6）中粒砂
7．褐色（7.5YR4/3）中粒砂〈焼土含む〉
8．黒褐色（10YR2/3）粗砂
9．暗褐色（10YR3/3）細砂
10．灰黄褐色（10YR4/2）シルト含む細粒砂
11．暗褐色（10YR3/3）中粒砂
12．暗褐色（10YR3/4）中粒砂
13．暗褐色（10YR3/4）中粒砂〈焼土層・土器片含む〉
14．暗褐色（10YR3/4）粗砂
15．褐色（10YR4/4）中粒砂〈ＳＤ910・911〉
16．黒褐色（10YR3/1）シルト含む中粒砂〈ＳＤ941〉
17．褐色（10YR4/4）中粒砂
18．暗褐色（10YR3/4）細砂
19．褐色（10YR4/4）中粒砂
20．褐色（10YR4/4）中粒砂〈寺町整地面〉
21．黄褐色（10YR5/6）中粒砂
22．褐色（10YR4/6）中粒砂

第31図　南地区土層断面図（２）



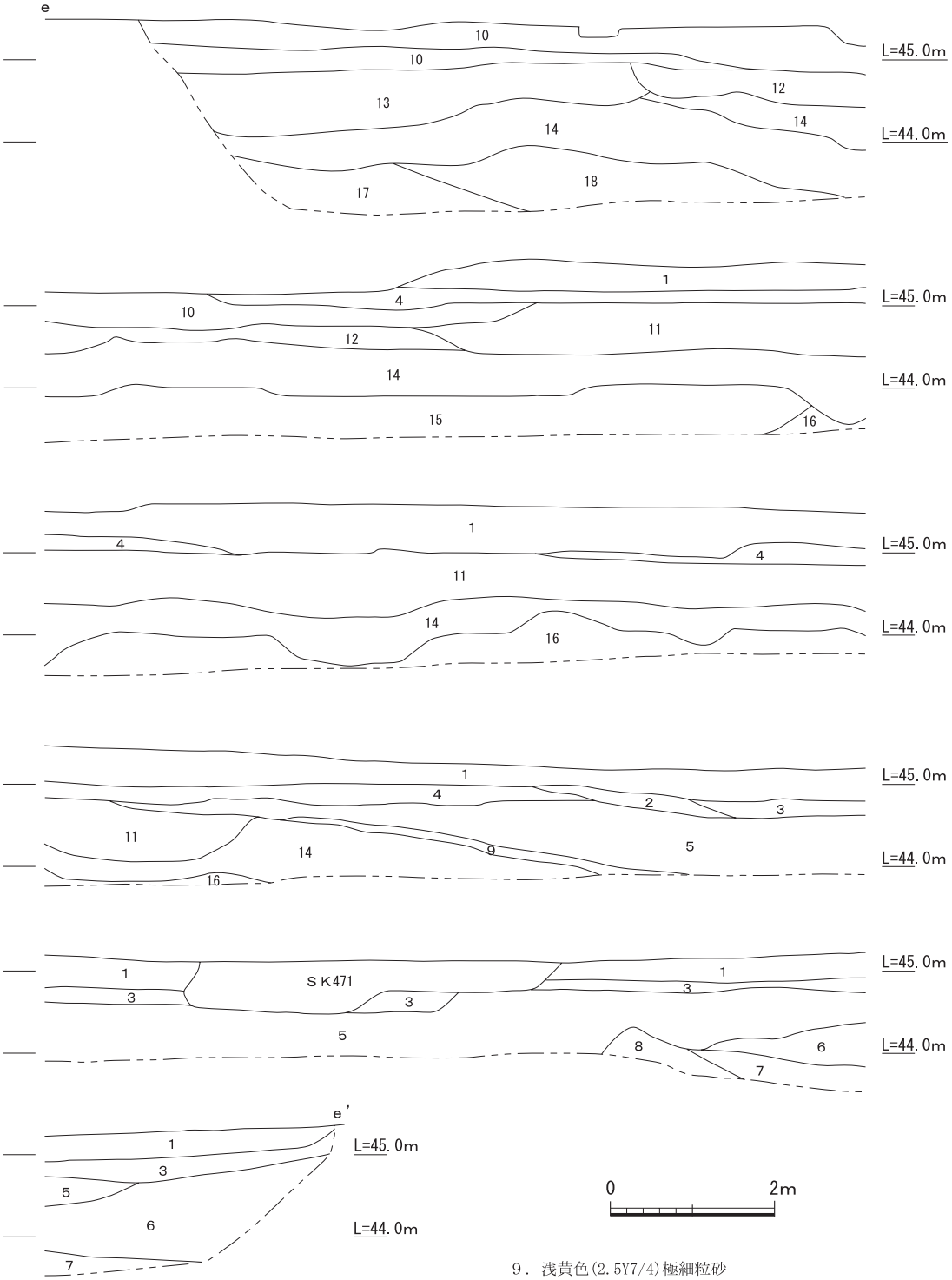
1．井戸〈ＳＥ771〉
2．攪乱
3．暗褐色(10YR3/4)細粒砂〈炭多量に含む・焼土少量含む〉
4．暗褐色(10YR3/3)細粒砂〈炭・焼土少量含む〉
5．暗褐色(10YR3/3)中粒砂含む細粒砂
6．にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂含む細粒砂
7．暗褐色(10YR3/4)中粒砂含む細粒砂
8．にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂含む細粒砂〈焼土少量含む〉
9．にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂〈炭・焼土少量含む〉
10．暗褐色(10YR3/4)中粒砂含む細粒砂〈炭少量含む〉
11．黒褐色(10YR3/1)中粒砂含む細粒砂〈炭少量含む〉
12．暗褐色(7.5YR3/4)中粒砂含む細粒砂〈炭少量含む〉
13．黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂〈炭多く含む〉
14．にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂〈炭少量含む・焼土多く含む〉
15．暗褐色(10YR3/4)細粒砂〈焼土多く含む〉
16．橙色(5YR7/8)細粒砂〈炭混じる・宝永の大火による〉
17．褐色(10YR4/4)細粒砂〈極細粒砂含む〉
18．にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂含む中粒砂〈炭混じる〉
19．にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂〈礫少量含む・整地面か〉
20．褐色(10YR4/4)中粒砂含む細粒砂〈礫少量含む〉
21．にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂含む中粒砂〈礫多く含む〉

第32図　南地区土層断面図（３）



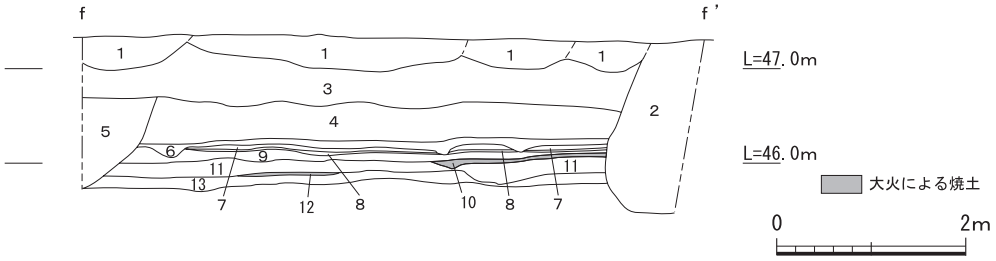
1．盛り土
2．暗褐色(10YR3/3)中粒砂
3．にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂
4．褐色(10YR4/6)中粒砂～粗砂
〈２～５cm大の礫混じる〉
5．暗褐色(10YR3/4)粗砂
〈２～５cm大の礫混じる、瓦・土師器・陶器混じる〉
6．暗褐色(10YR3/3)シルト含む中粒砂
〈１～10cm大の礫混じる〉
7．黒褐色(10YR2/2)シルト含む中粒砂～粗砂
〈１～10cm大の礫・瓦・土師器混じる、
炭化物も一部で認める〉
8．暗褐色(10YR3/3)粗砂
〈５～10cm大の礫混じる〉
9．黒褐色(10YR3/2)中粒砂～粗砂
〈５～15cm大の礫・瓦混じる〉
10．暗褐色(7.5YR3/3)シルト含む中粒砂
〈５～10cm大の礫・瓦混じる〉
11．黒褐色(10YR3/1)シルト若干含む中粒砂
12．暗褐色(10YR3/4)極粗粒砂
13．黒褐色(10YR3/1)シルト含む粗砂
〈１～10cm大の礫混じる〉
14．黒褐色(10YR2/2)シルト含む細粒砂
〈土師器片・炭化物混じる〉
15．黒褐色(10YR2/2)シルト含む細粒砂
16．暗褐色(10YR3/4)シルト含む細粒砂
17．黒褐色(10YR3/1)中粒砂
18．暗褐色(10YR3/4)シルト含む中粒砂
〈２～10cm大の礫混じる・ＳＤ09〉
19．黒褐色(10YR2/2)粗砂～極粗粒砂
20．暗褐色(10YR3/3)シルト含む中粒砂
〈２cm大の礫混じる〉
21．暗褐色(10YR3/4)シルト含む細粒砂
22．暗褐色(10YR3/3)粗砂
〈一部明赤褐色(2.5YR3/4)シルト質の土が混じる、
土師器片多量に混じる〉
23．黒褐色(10YR2/3)細～中粒砂
〈土師器片混じる〉
24．暗褐色(10YR3/3)粗砂
〈２～５cm大の礫混じる、土師器片混じる〉
25．暗褐色(10YR3/4)細粒砂
26．暗褐色(10YR3/4)細～中粒砂
27．褐色(10YR4/6)シルト含む粗砂
〈２～10cm大の礫混じる〉
28．暗褐色(10YR3/3)中粒砂～粗砂
29．にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂～粗砂
30．黒褐色(10YR2/3)シルト若干含む中粒砂
31．黒褐色(10YR2/2)粗粒砂
〈２～５cm大の礫混じる〉

第33図　南地区土層断面図(４)



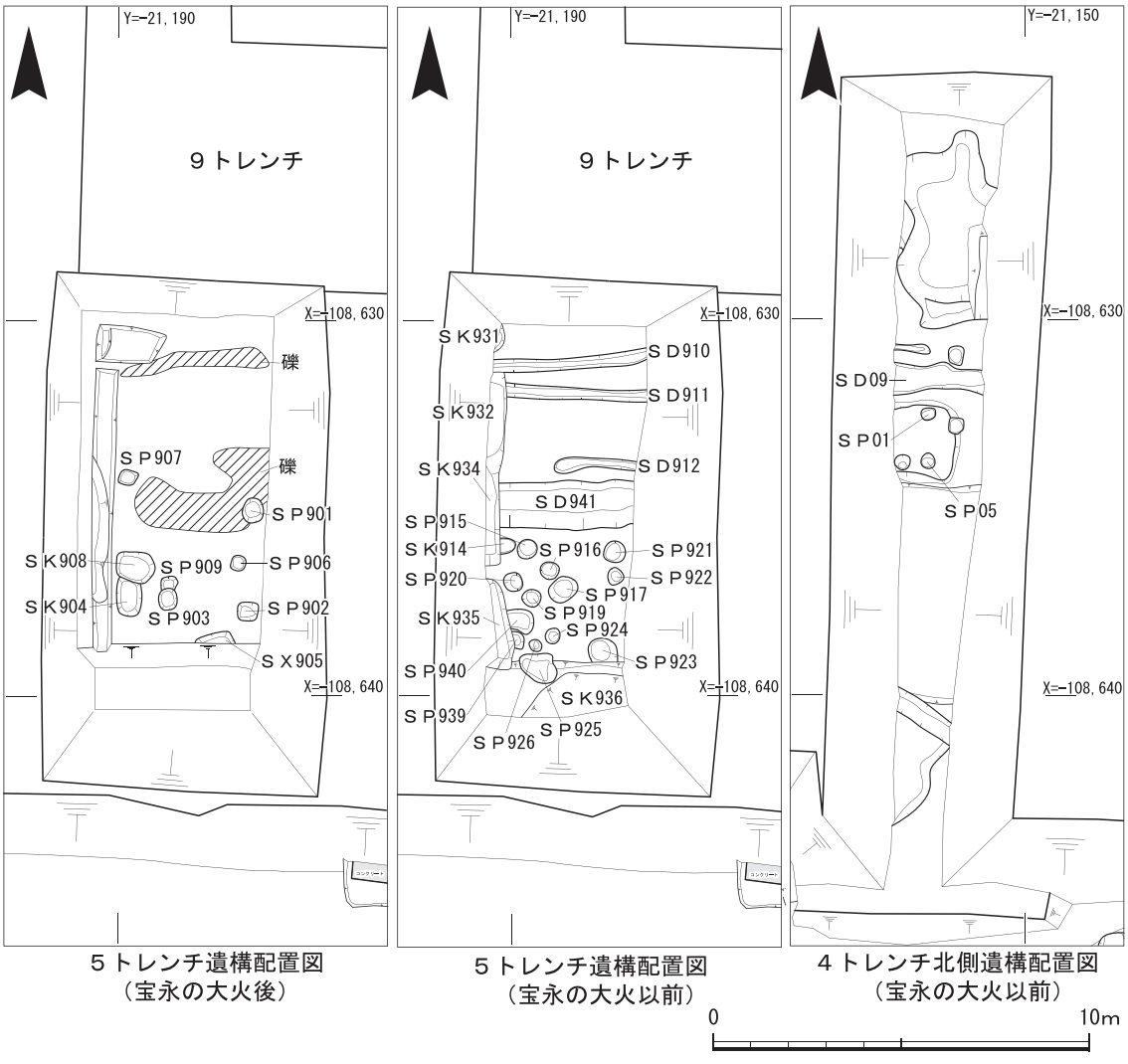
1．褐灰色(10YR6/1)粗砂〈拳大の礫多量に含む〉
2．浅黄色(2.5Y7/4)極細粒砂
3．にぶい黄橙色(10YR6/4)粗砂
4．にぶい黄橙色(10YR7/3)粗砂〈１～10cm大の礫混じる〉
5．褐灰色(10YR5/1)粗砂〈２cm～拳大の礫含む〉
6．灰黄色(2.5Y7/2)細粒砂
7．灰白色(2.5Y8/1)細粒砂
8．黄灰色(2.5Y6/1)粘土
9．浅黄色(2.5Y7/4)極細粒砂
10．にぶい黄橙色(10YR7/2)粗砂
11．灰白色(2.5Y7/1)粗砂〈３～10cm大の石含む〉
12．にぶい黄橙色(10YR6/4)粗砂
13．灰白色(10YR7/1)粗砂〈５cm～頭大の礫含む〉
14．灰白色(2.5Y7/1)粗砂〈１cm大の小石多く含む〉
15．浅黄色(2.5Y7/3)粗砂〈１～３cm大の小石含む〉
16．浅黄色(2.5Y7/3)粗砂〈５cm大の石含む〉
17．灰白色(2.5Y7/1)粗砂
18．浅黄色(2.5Y7/3)粗砂〈１cm～頭大の礫含む〉

第34図　南地区土層断面図(５)



1．暗褐色(10YR3/3)粗砂混じり極細粒砂〈攪乱〉
2．攪乱
3．暗褐色(10YR3/4)粗砂混じり極細粒砂
〈５～20cm大の礫多く混じる・攪乱〉
4．暗褐色(10YR3/4)細粒砂〈中粒砂含む・攪乱〉
5．攪乱
6．黄橙色(10YR8/8)細粒砂含中粒砂
7．灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂
8．にぶい赤褐色(2.5YR3/4)細粒砂含中粒砂
9．黒褐色(10YR3/2)細粒砂含中粒砂
10．橙色(2.5YR7/6)細粒砂含中粒砂〈焼土〉
11．褐色(10YR4/6)シルト含む細粒砂
〈13cm大の礫多く含む〉
12．暗赤褐色(2.5YR3/3)極細粒砂含む細粒砂
〈宝永の大火時の焼土〉
13．暗褐色(10YR3/3)極細粒砂含む細粒砂

第35図　南地区土層断面図(６)



５トレンチ遺構配置図
（宝永の大火後）

５トレンチ遺構配置図
（宝永の大火以前）

４トレンチ北側遺構配置図
（宝永の大火以前）

第36図　南地区遺構配置図(１)

囲はわずかで、厚さも４cmと薄くなる。北地区では標高46.5m付近で確認しており、調査対象地全体は北から南へ向かって緩やかに傾斜する地形であることがわかる。

宝永の焼土層より下層では、寺町形成に伴う整地層は確認できなかった。標高46.0m以下は、北地区と同様に鴨川による自然堆積である暗褐色や黒褐色の砂礫が堆積する。礫の大きさが北地区と比較して大きく、河川の本流部分にあたると考えられる。ｅ－ｅ’では、第５層・第９層が西から東へ向かって大きく傾斜しており、ある時期の河川西岸にあたるとみられる。ａ－ａ’の第36層は上面にマンガンが付着する黄褐色の礫層で、時期は不明であるが、低位の段丘の上面である可能性がある。

（２）調査の概要

宝永の大火に伴う焼土層の下面を第１面として調査を実施した。寺町に伴う遺構は、南地区北西で、礎石建物跡・柱穴列・瓦敷・礫敷・石列・溝・土坑・柱穴を検出した。南側と東側は後世の攪乱により上層を大きく削平され、遺構面は確認できなかったが、井戸・土坑・柱穴等を検出した。北東では、複数の墓穴を伴う墓地を検出した。宝永の大火後の遺構は、井戸・土坑・溝・瓦列・柱穴等を検出した。平成28年度調査の９・10トレンチにあたる範囲では、攪乱が全面に及び、遺構面及び遺構は検出できなかった。

２）検出遺構

南地区からは、道路状遺構１か所、礎石建物跡１棟、柱穴列２条、溝15条、井戸13基・石室１基・礫敷１か所・瓦列２条・瓦敷１か所のほか、複数の土坑・柱穴を検出した（第37・38図）。これら検出状況は、第36～38図に示した。

（１）宝永の大火以前の遺構

道路状遺構１（第36図）　南地区北西の５トレンチで、並行する東西方向の溝を４条検出した。北からＳＤ910・911・912・941である。その上層にあたる宝永の大火直後の遺構面で礫敷を検出している。礫敷は２か所に分かれ、北側で東西4.0m、南北0.5m、南側で東西3.5m、南北2.2mの範囲に広がる。南北の礫敷間は固くしまっており、礫敷が存在していたとみられ道路跡の可能性が指摘できる。礫敷は北側ではＳＤ910の範囲で分布し、南側ではＳＤ941の範囲でほぼ分布する。このことから、宝永の大火以後の改修によってそれ以前にあった溝が埋められていることになり、大火以前には両方の溝は同時併存していた可能性が高いことがわかる。ＳＤ910とＳＤ941の溝心心間の距離は約3.6mであり当時の２間に相当し、上層と同じく道路であった可能性がある。

ＳＤ910とＳＤ941の内側にあるＳＤ911とＳＤ912は礫が含まれていなかったことから、ＳＤ910とＳＤ941よりも古い並行する溝であり、同じく道路であった可能性がある。溝の心心間の距離は約1.8mであり当時の１間に相当する。これら一連の遺構が道であるならば、寺町移転時または初めごろに１間幅の道があり、宝永の大火前には２間に拡張され、宝永の大火以後にさらに拡張されたことがわかる。溝や礫敷の南側では、複数の柱穴を検出したが、塀として復原することはできなかった。

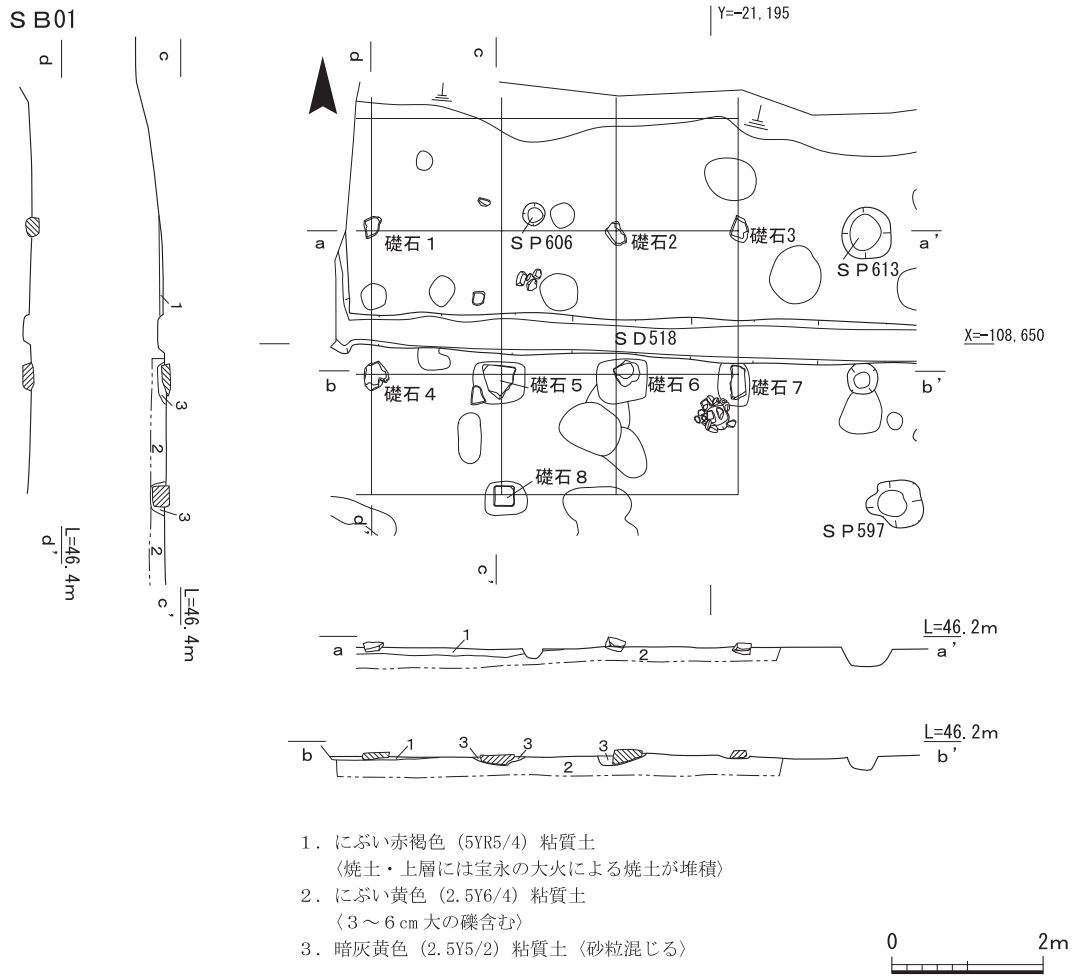
墓地の北側にあたる４トレンチ北西では、東西溝ＳＤ09を検出した。西側の溝とＳＤ09が同一

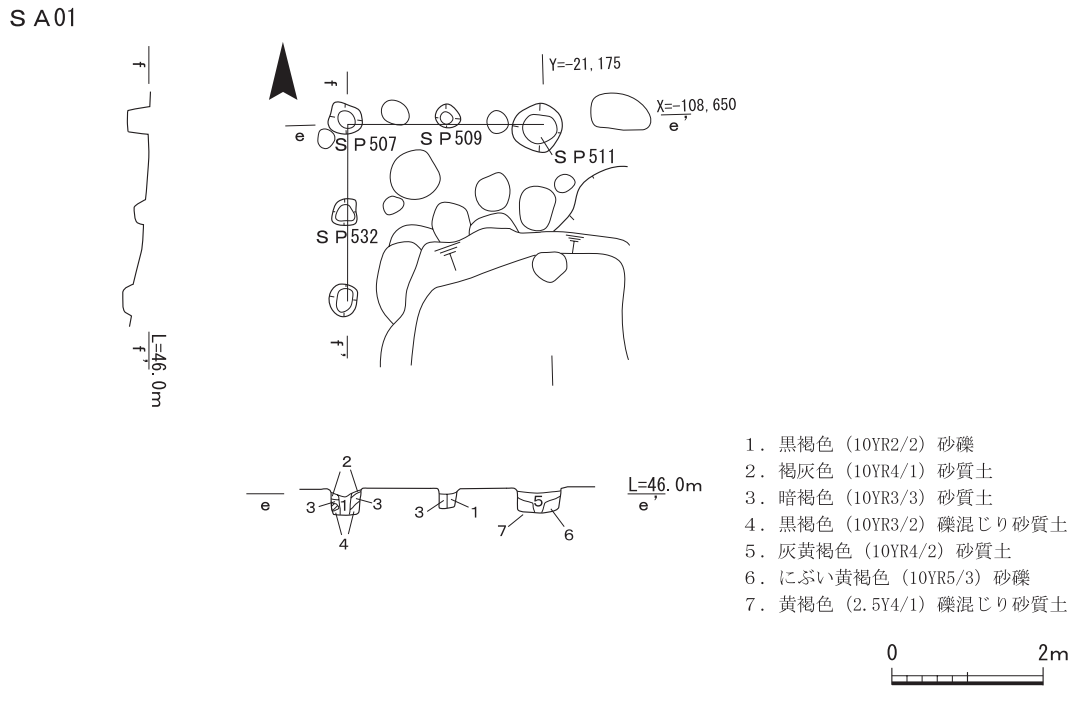


第37図　南地区遺構配置図（２）



第38図　南地区遺構配置図（３）





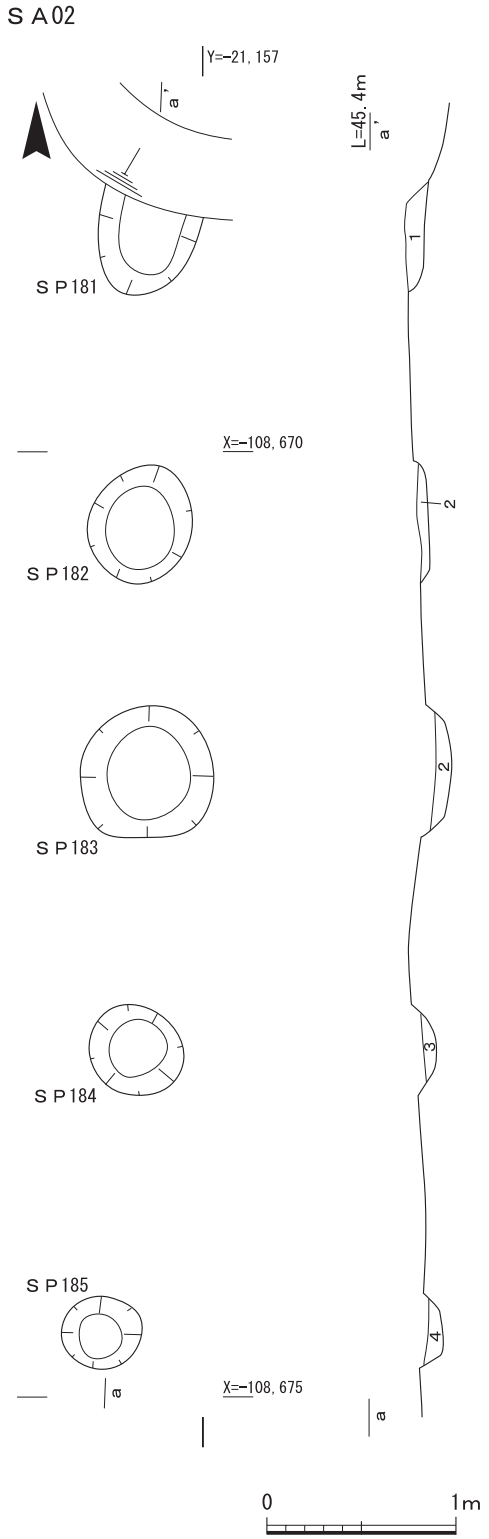
第39図　南地区遺構実測図（１）

のものかは不明であるが、溝の主軸はおおよそ真東を向くことから、連続する溝であればＳＤ910に対応するものと考えられる。南側溝に対応する溝については後世の攪乱のため検出できなかった。

ＳＤ910・911の規模は検出長4.0m、幅0.3m、深さ0.2mを測り、埋土は褐色の中粒砂である。ＳＤ912は、検出長2.0m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。ＳＤ941は検出長3.5m、幅1.2m、深さ0.6mを測る。埋土は黒褐色のシルト含む中粒砂である。ＳＤ09の規模は、検出長2.4m、幅0.6～0.8m、深さ0.3mを測る。

建物ＳＢ01（第37・39図）　南地区北西で検出した建物跡である。礎石建物で、規模は東西３間（4.8m）以上、南北２間（3.5m）以上を測る。柱間は、東西方向で1.6m、南北方向は南側で1.5m、北側で2.0mを測る。南側の柱間が狭いことから廂の可能性が考えられる。建物主軸は真北を向く。礎石は８基を検出した。礎石の大きさは、礎石１～３が0.3m、礎石４～８が0.3～0.5m大である。南辺で検出した礎石８は１辺0.3mの立方体に近い形をしており、石造物の転用と考えられる。礎石５～８には浅い掘形が伴っており、第１面より0.１m程度飛び出るように置かれる。掘形の平面は方形で、規模は一辺0.4～0.7mを測る。埋土は暗灰黄色の粘質土である。礎石１～４についても同様に、石の半分程度が埋没するが、明確な掘形は確認できなかった。

柱穴列ＳＡ01（第37・39図）　南地区中央北側で検出した柱穴列である。６基の柱穴から構成され、南北２間（2.4m）以上、東西２間（2.6m）以上で、柱間距離は1.2～1.3mを測る。主軸はほぼ真北を向く。各柱穴の掘形規模は直径0.3～0.7m、深さ0.1～0.4mでややばらつきがある。ＳＰ507は北東隅に位置し、掘形の平面は方形を呈する。規模は一辺0.4m、深さ0.4mを測る。掘形の埋土は暗褐色や褐灰色の砂質土である。掘形の中央で直径0.3mの柱痕を確認



１．暗褐色（10YR3/3）粗砂
２．にぶい黄褐色（10YR4/3）粗砂　〈３～５㎝大の礫含む〉
３．暗褐色（10YR3/3）粗砂〈４㎝大の礫少し含む〉
４．にぶい黄褐色（10YR4/3）粗砂〈２～３㎝大の礫含む〉

第40図　南地区遺構実測図（２）

した。柱痕の埋土は黒褐色の砂礫である。ＳＰ509は東西列中央に位置する。掘形の平面は円形で、直径0.3m、深さ0.3mを測る。掘形東側で直径0.2mの柱痕を確認した。掘形の埋土は暗褐色の砂質土で、柱痕の埋土は黒褐色の砂礫である。ＳＰ511は東西列東端に位置する。掘形の平面は円形で、直径0.7m、深さ0.3mを測る。埋土は下層がにぶい黄褐色や黄灰色、上層が灰黄褐色の砂質土である。掘形中央に、上層の埋土が落ち込んでいる部分があり、柱痕の可能性が考えられる。

柱穴列ＳＡ02（第38・40図）　ＳＤ124の約3.0m東で検出した南北４間（5.8m）以上の柱穴列である。北端で検出したＳＰ181の北側は攪乱によって削平される。柱間は不揃いで、ＳＰ181・182間が約1.6m、ＳＰ182・183間が1.3m、ＳＰ183・184・185間は約1.5mとなる。柱穴の掘形は円形で、掘形の規模は、ＳＰ185が最も小さく直径0.4m、ＳＰ183が最も大きく直径0.7mを測る。柱穴の埋土は暗褐色やにぶい黄褐色の粗砂で、柱痕は確認できなかった。柱穴列の主軸は北に対して１°東に振る。

土坑ＳＫ142（第38図）　南地区南東隅で検出した土坑である。掘形の平面は楕円形で、規模は、東西1.7m、南北2.0m、深さ0.8mを測る。遺物は土師器片や陶磁器類が出土した（第63図）。

土坑ＳＫ517（第37図）　南地区中央西寄りで検出した土坑である。ＳＤ518の屈曲部南側にあたる。掘形の平面は円形で、規模は径1.6m、深さ0.18mを測る。遺物は土師器皿などが出土している（第48図）。

土坑ＳＫ535（第37図）　南地区中央で検出した土坑である。ＳＡ01の東側に位置する。南側をＳＫ548に削平される。掘形の規模は、東西0.6m以上、南北0.3m以上、深さ0.3mを測る。遺物は土師器片がわずかに出土している（第50図）。

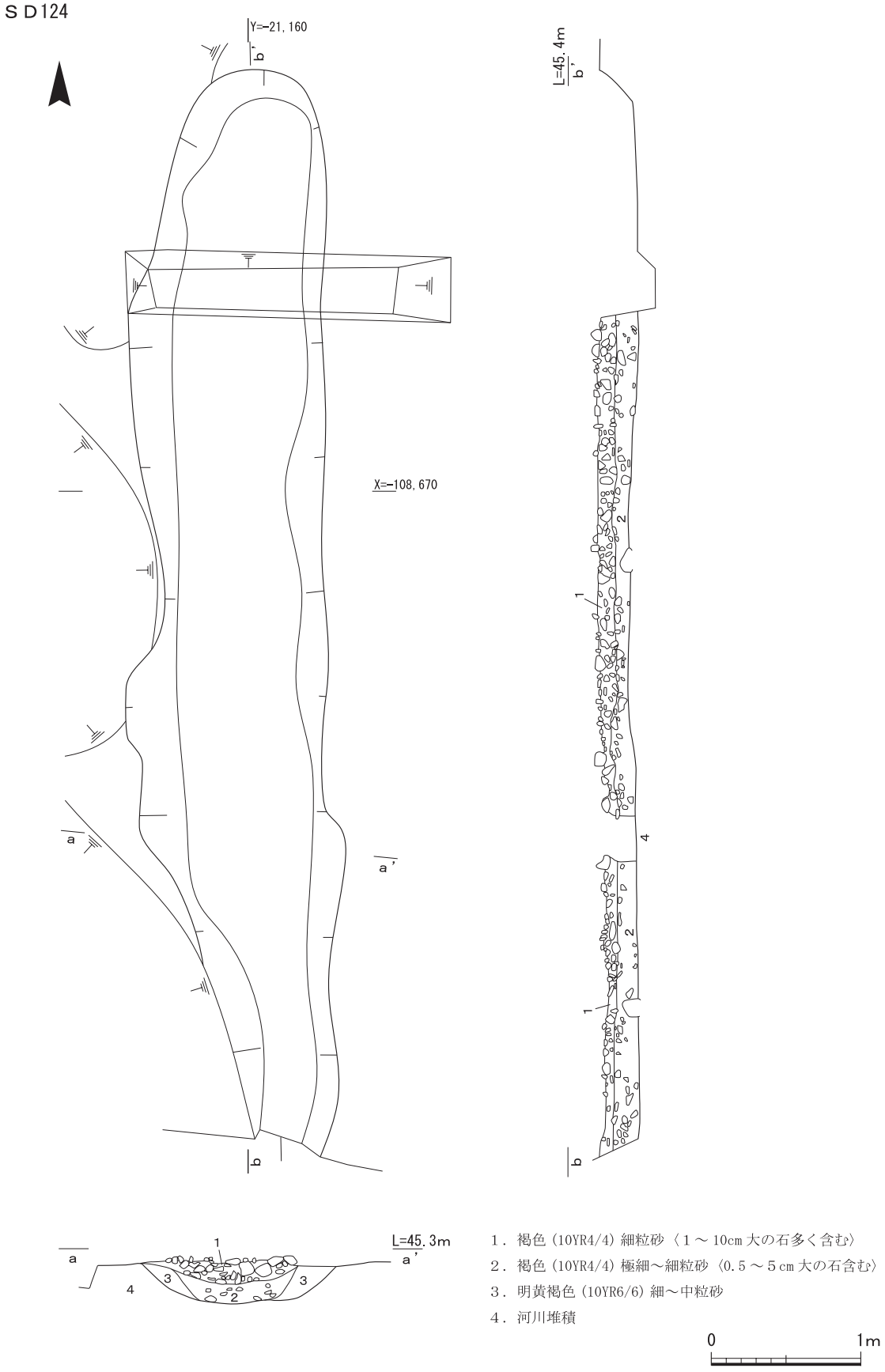
土坑ＳＫ548（第37図）　南地区中央で検出した土坑である。ＳＡ01の東側に位置する。土坑南東側を攪乱によって削平される。北側はＳＫ535と重複しており、ＳＫ535埋没後に掘削される。掘形の規模は、東西0.5m以上、南北1.0m以上、深さ0.4mを測る。遺物は土器片がわずかに出土した（第52図）。

土坑ＳＫ550（第37図）　南地区中央で検出した土坑である。ＳＫ551を削平して掘削された。掘形の平面は円形で、規模は径1.1m、深さ0.2mを測る。遺物は土師器片がわずかに出土した（第50図）。

土坑ＳＫ551（第37図）　南地区中央で検出した土坑である。北側をＳＫ552、南側をＳＫ550によって削平される。掘形の平面は楕円形で、規模は長径2.7m、短径1.7m、深さ0.17mを測る。遺物は土師器皿、天目椀が出土した（第48図）。

土坑ＳＫ552（第37図）　南地区中央で検出した土坑である。ＳＫ551埋没後に掘削される。掘形の平面は楕円形で、規模は長径1.3m、短径0.7m、深さ0.18mを測る。遺物は土器片がわずかに出土した（第53図）。

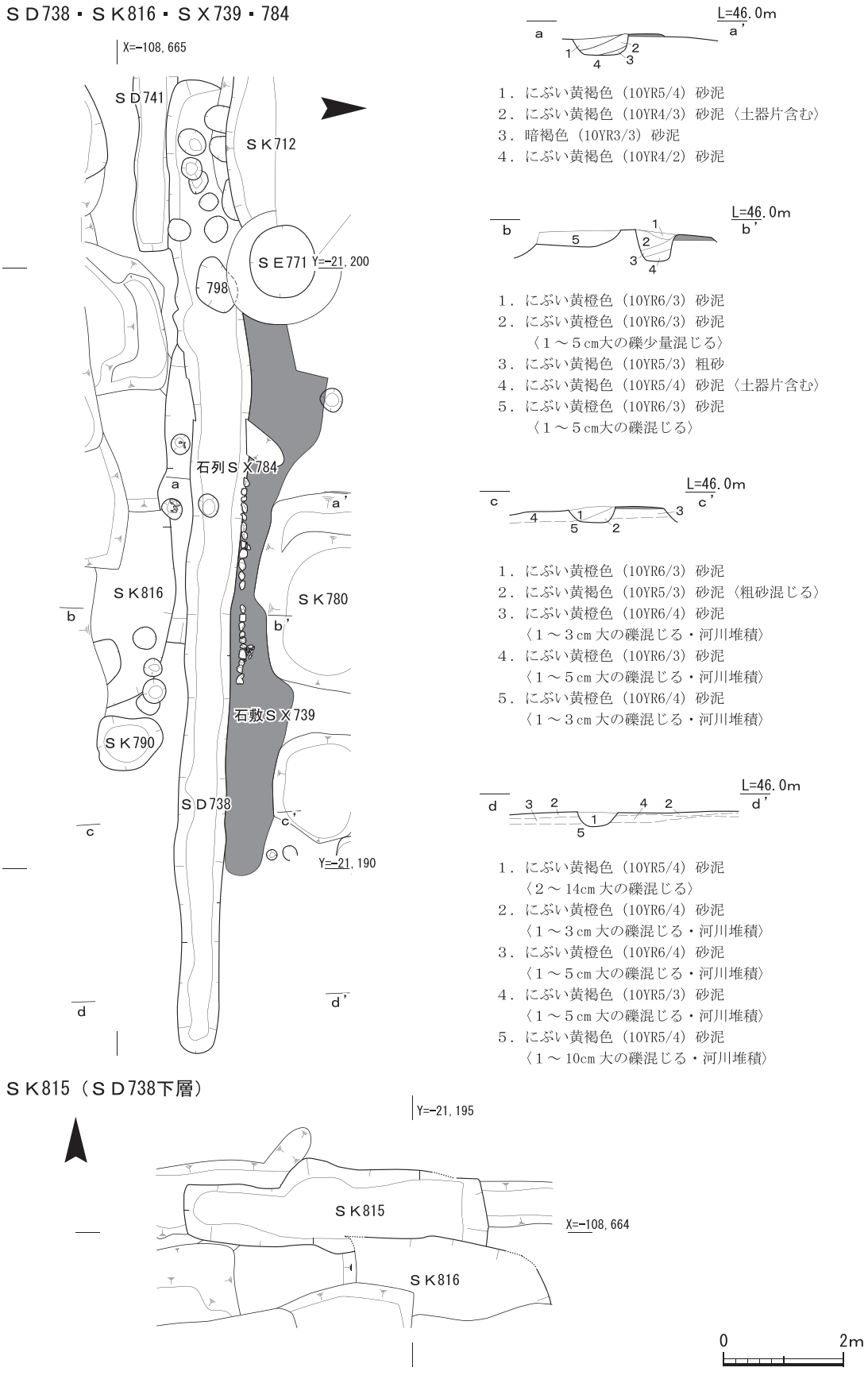
土坑ＳＫ562（第37図）　南地区中央部で検出した土坑である。ＳＡ01の北西の柱穴によって部分的に削平される。掘形の平面は方形で、規模は東西1.3m、南北1.0m、深さ0.1mを測る。遺物は土師器皿が出土した（第50図）。



1．褐色（10YR4/4）細粒砂〈１～10cm 大の石多く含む〉
2．褐色（10YR4/4）極細～細粒砂〈0.5～５cm 大の石含む〉
3．明黄褐色（10YR6/6）細～中粒砂
4．河川堆積

0　1m

第41図　南地区遺構実測図（３）



第42図　南地区遺構実測図（４）

土坑ＳＫ574（第37図）　南地区中央西寄りで検出した土坑である。ＳＫ526の南東側に位置する。掘形の平面は歪んだ円形で、規模は長径1.3m、短径1.2m、深さ0.1mを測る。遺物は土師器皿などが出土した。

石室ＳＫ619（第37・47図）　南地区中央西側で検出した。ＳＸ630の北東に位置する。方形に石組みされた石室である。掘形の規模は、長軸1.02m、短軸1.00mを測る。検出した石組は１段で、内法は長辺0.79m、短辺0.42m、深さ0.3mを測る。石組の主軸は、東に対して北に２°振り、長辺を東西に向ける。遺物は、土師器皿をはじめ多数の土器が出土した（第51図）。

石室ＳＫ628（第37・46図）　北地区西側で検出した石室である。ＳＸ609の北東に位置し、掘形南西部をＳＸ609によって削平される。掘形の平面は方形で、規模は東西2.09m、南北1.7m、深さ1.8mを測る。掘形の埋土は黄灰色の粘質土である。掘形中央に0.1～0.4m大の石を方形に組み上げる。石組の内法は、東西0.8m、南北0.7m、深さ1.5mを測る。石組の主軸方向は、長辺が東に対して北に５°振る。検出状況から、石室の可能性が考えられる。遺物は土師器皿、染付椀などが出土した（第53図）。

土坑ＳＫ704（第37図）　南地区南西部で検出した。ＳＤ738の南側に位置する。掘形の平面は方形で、規模は東西3.0m、南北3.5m、深さ0.5mを測る。遺物は、土師器皿、磁器椀や土師器皿などが出土した（第49図）。遺物が多く出土しており、廃棄土坑と考えられる。

土坑ＳＫ708（第37図）　南地区南西部で検出した土坑である。ＳＤ741から約２m南に位置する。掘形の平面は楕円形で、規模は東西2.0m、南北2.2m、深さ0.2mを測る。遺物は、土師器や陶磁器類、伏見人形などが出土した（第50図）。

土坑ＳＫ709（第37図）　南地区南西で検出した土坑である。ＳＫ708から約４m西に位置する。掘形の平面は隅丸方形で、規模は東西1.7m、南北1.8m、深さ0.63mを測る。遺物は土器片が出土した（第52図）。

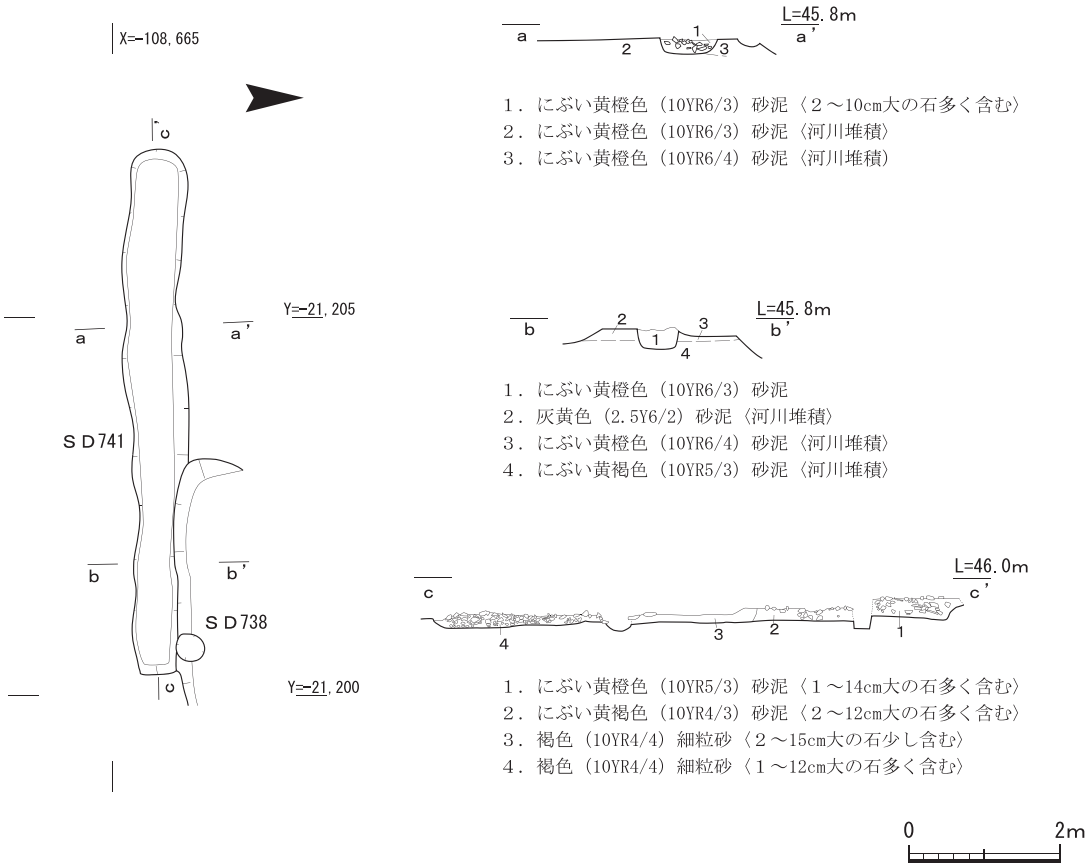
土坑ＳＫ728（第37図）　南地区南端中央付近で検出した。南側は調査地外に及ぶため、全容は不明である。掘形の規模は、東西2.0m、南北1.7m以上、深さ0.25mを測る。遺物は、土師器片や陶磁器類が出土した（第58図）。

土坑ＳＫ815（第42図）　南地区南西で検出した土坑である。上層の大半をＳＤ738によって削平される。掘形の平面は東西に長い不定形で、その規模は東西5.0m、南北1.5m、深さ0.25mを測る。遺物は、土師器皿や陶磁器類が出土した（第49図）。遺物から、寺町形成期頃の遺構とみられる。

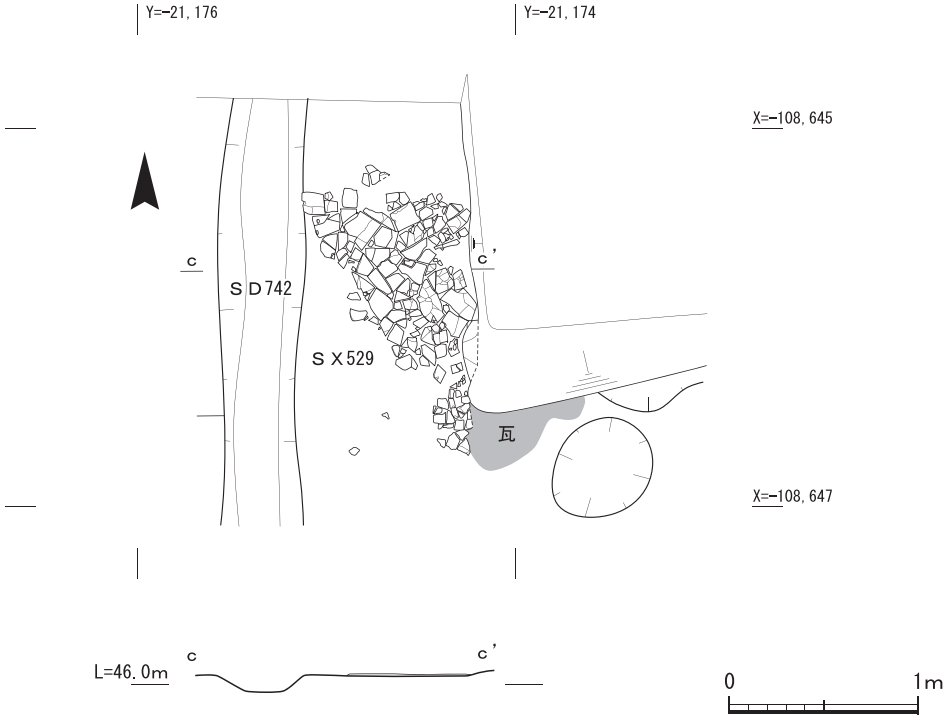
土坑ＳＫ816（第37・42図）　南地区南西で検出した土坑である。遺構の大部分を攪乱によって削平され、北側のみを確認した。掘形の規模は南北1.3m以上、東西3.1m以上を測る。埋土は１～５cm大の石を含む、にぶい黄褐色の砂泥である。

溝ＳＤ124（第38・41図）　南地区南東で検出した南北方向の溝である。検出長は7.2mで、幅0.86～1.3m、深さ0.24mを測る。埋土は、溝の両脇に明黄褐色の細～中粒砂（第３層）が堆積し、その後中央に褐色の細粒砂（第１・２層）が堆積する。褐色の細粒砂は２層に分かれ、上層は１～

ＳＤ741



ＳＤ742・ＳＸ529



第43図　南地区遺構実測図（５）

10cmの石が充填される。下層は砂の粒子が上層に比べて細かくなり、0.5～５cmの石をまばらに含む。堆積状況から、第２・３層によって溝が埋まった後、石を入れたとみられる。

溝ＳＤ738（第37･42図） 南地区の南西で検出した東西方向の溝である。規模は、検出長16.2m、幅0.6～1.0m、深さ0.2～0.5mを測る。主軸は東に対して南に２°振る。東側は攪乱によって削平されるが、さらに東へ延びると考えられる。溝北側には、礫敷ＳＸ739が広がり、通路側溝の可能性が考えられる。埋土はにぶい黄褐色やにぶい黄橙色の砂泥である。遺物は、土師器皿や陶磁器が出土した（第60図）。

溝ＳＤ741（第37・42図） 南地区南西で検出した東西方向の溝で、ＳＤ738の南西に位置する。北東部をＳＤ738によって削平される。規模は、検出長7.0m、幅0.9m、深さ0.2mを測る。主軸方向はほぼ真東を向く。埋土は２～10cm大の石を多く含むにぶい黄褐色の砂泥である。

溝ＳＤ742（第37・43図） 南地区中央北側で検出した「Ｌ」字状の溝である。溝の規模は、幅0.5m、深さ0.13mを測り、総検出長は７mである。北端は調査地外へ延びると考えられる。東側は攪乱に削平され、検出できなかった。溝の主軸は南北方向と東西方向それぞれ正方位を向く。

溝ＳＤ743（第37図） 南地区中央北側で検出した東西方向の溝である。東端はＳＤ744によって削平される。溝の規模は、検出長2.1m、幅0.6～0.8m、深さ0.1mを測る。主軸は真東を向く。

溝ＳＤ744（第37図） 南地区中央北側で検出した南北方向の溝である。ＳＤ742と交差し、ＳＤ742の下層にあたる。溝の規模は、検出長6.5m、幅0.8m、深さ0.1mを測る。

溝ＳＤ761（第37図） 南地区南西の南壁付近で検出した南北方向の溝である。溝の規模は、検出長3.6m、幅0.5m、深さ0.2mを測る。主軸は真北を向く。

溝ＳＤ817（第37図・図版第45） 南地区中央西側から検出した斜行する溝である。ＳＫ780の北西に位置する。溝の規模は、検出長2.0m、幅0.7m、深さ0.3mを測る。主軸方向は北から56°西に振る。遺物は、土師器鍋・陶器擂鉢が出土した。

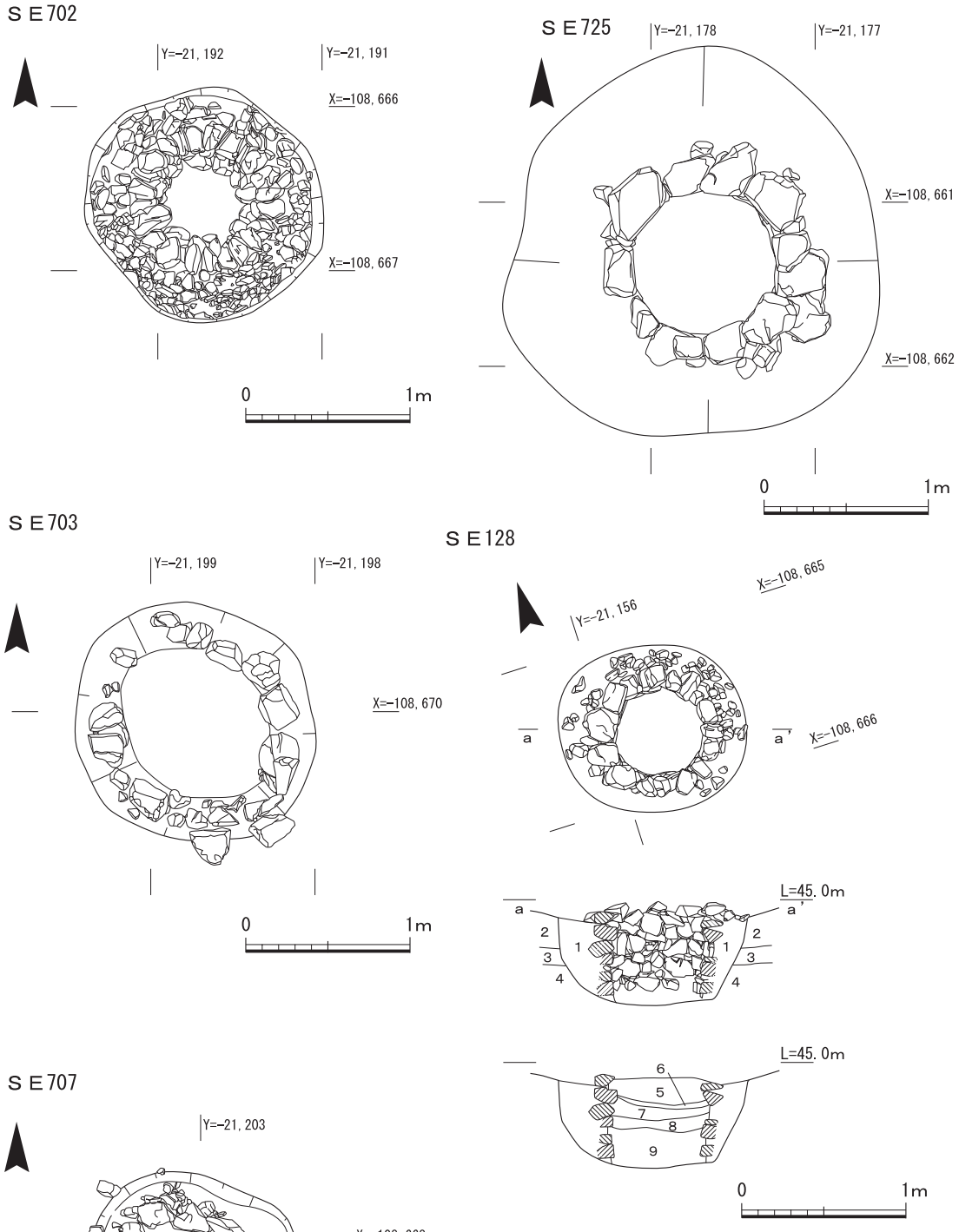
井戸ＳＥ123（第38図） 南地区南東で検出した井戸である。瓦を井戸枠に用いる。掘形の平面は円形で、規模は直径1.0mを測る。井戸枠に用いられた瓦は長辺0.28m、短辺0.25m、厚さ0.03mで、井戸枠専用に焼かれたものである。９枚の瓦を用いて、掘形とほぼ同規模の円形に隙間なく並べられる。

井戸ＳＥ128（第38図・44図） 南地区南東で検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規模は直径1.2m、深さ0.6mを測る。石組は0.1～0.2m大の石で円形に組み上げられる。掘形の埋土は黒褐色の砂礫で、径５cm大の石を含む。

井戸ＳＥ701（第37図） 南地区央付近で検出した石組井戸である。掘形の平面は南東が膨らむ円形で、規模は直径2.5mを測る。石組は0.4m大の石で円形に積み上げられ、内径は0.8mを測る。

井戸ＳＥ702（第37・44図） 南地区南側西寄りで検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規模は直径1.45mを測る。石組は0.2m大の石で円形にていねいに積み上げられ、内径は0.4～0.5mを測る。裏込めには５～10cm大の石が密に詰められる。遺物は陶磁器類が出土した（第62図）。

井戸ＳＥ703（第37・44図） 南地区南西で検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規



1．黒褐色（10YR3/1）砂礫
2．灰黄褐色（10YR4/2）砂礫〈５cmの礫混じる〉
3．灰黄褐色（10YR5/2）粗砂
4．黒褐色（10YR3/2）砂礫
5．黒褐色（2.5Y3/1）粘土
6．オリーブ褐色（2.5Y4/4）細粒砂〈シルト混じる〉
7．黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂〈粘土少量混じる〉
8．暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）細粒砂〈シルト混じる〉
9．黒褐色（2.5Y3/2）極細粒砂〈礫混じる〉

第44図　南地区遺構実測図（６）

模は直径1.45m、深さ0.5mを測る。石組は0.2m大の石で円形に組まれ、内径は0.8mを測る。検出した石組は一段のみで、西側は石の残りが悪くまばらである。遺物は土師器皿が出土した（第62図）。

井戸ＳＥ706（第37･45図）　南地区南西で検出した石組井戸である。ＳＥ707の北側に位置する。掘形の平面は円形で、規模は直径1.4mを測る。石組は0.1～0.2m大の自然石で円形に積み上げられ、内径は0.6mを測る。石組底部中央は、水溜めとして直径0.7m、深さ0.5m以上を素掘りする。地山が軟弱なため、検出面から1.5m掘り下げて掘削を断念した。掘形の埋土は上層からオリーブ褐色の粗砂、暗灰黄色の粗砂、灰オリーブ色の粗砂である。

井戸ＳＥ707（第37･44図）南地区南西で検出した石組井戸である。掘形の平面は歪んだ円形で、規模は直径1.3m、深さ0.3mを測る。石組は0.1～0.2m大の石で円形に組まれ、内径は0.6～0.8mを測る。一段のみを検出した。

井戸ＳＥ711（第37･45図）　南地区南西隅で検出した石組井戸である。掘形の平面は不定形で、規模は長軸2.3m、短軸2.2mを測る。石組は0.2～0.3m大の石で、平らな面を内側に向けて円形に積み上げられ、内径は0.7mを測る。石組の最下段は、長辺0.3m、短辺0.1m前後の石が長軸を立てて隙間なく組まれる。掘形中央は水溜めとして直径0.6mを掘り下げる。検出面から２mまで掘削を実施した。水溜め壁面ではわずかに木質が遺存しており、桶などが据えられた可能性がある。掘形の埋土は灰黄褐色や褐色の粗砂、水溜めの埋土は黄褐色の粗砂で、底部付近には黄褐色のシルトが混じる細砂が堆積する。

井戸ＳＥ725（第37･44図）　南地区中央西側で検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規模は直径2.3mを測る。石組は0.2～0.4m大の石で円形に組み上げられ。内径は0.8mを測る。

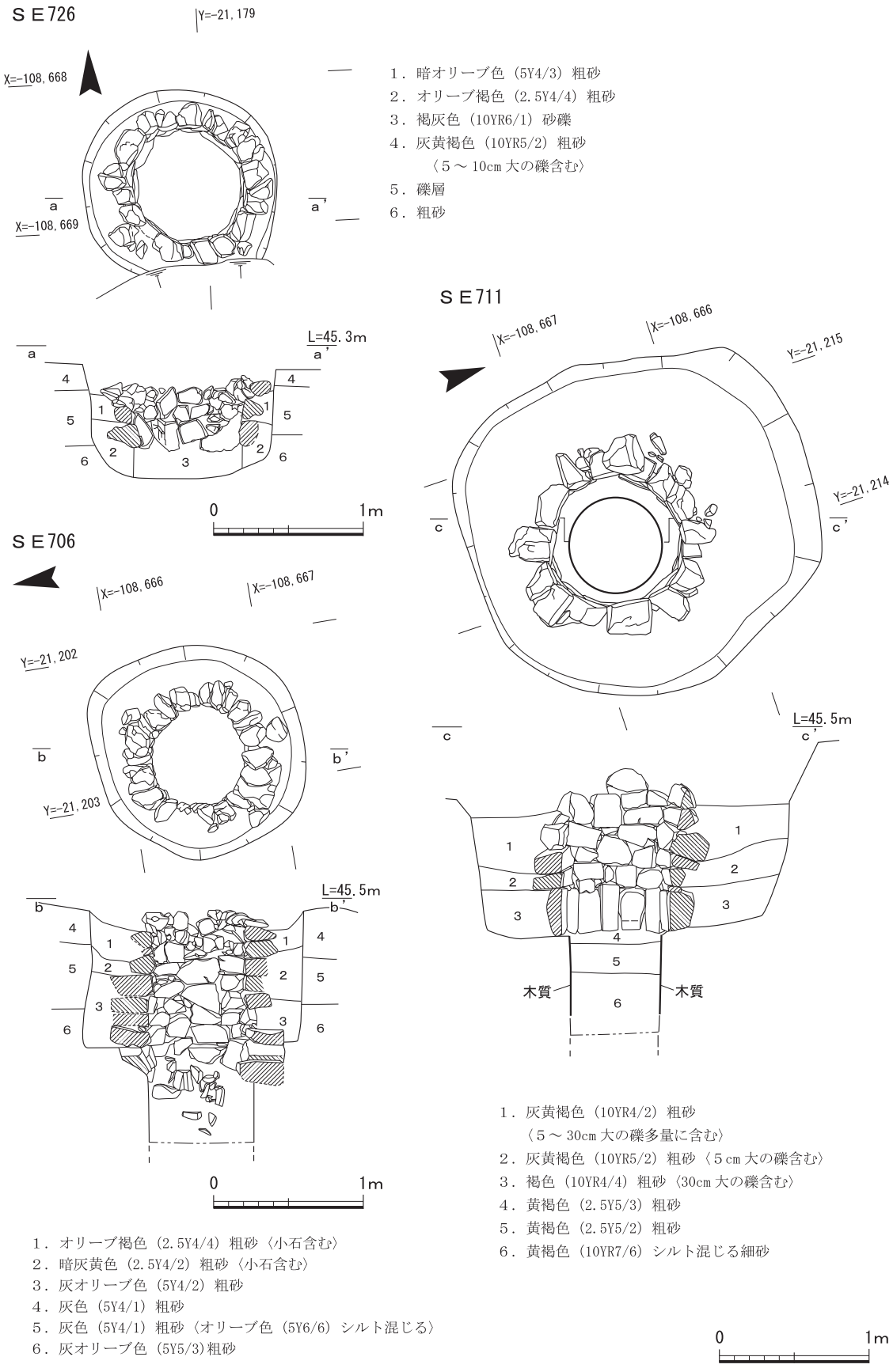
井戸ＳＥ726（第37・45図）　南地区南側中央付近で検出した石組井戸である。掘形の平面は円形で、規模は直径1.3m、深さ0.7mを測る。石組は0.1～0.2m大の石で円形に組まれ、内径は0.8mを測る。掘形の埋土はオリーブ褐色や暗オリーブ褐色の粗砂である。

瓦敷ＳＸ529（第37・43図）　ＳＤ742の東側で検出した瓦敷である。一辺0.05～0.2m大の平瓦片をモザイク状に敷き詰める。瓦は東西0.9m、南北1.3mの範囲の中に不定形に敷かれるが、元々は、さらに広がっていたと考えられる。東側は攪乱によって削平される。瓦敷の西端はＳＤ742を境に西側には見られないことから、ＳＤ742に伴う可能性が考えられる。

礫敷ＳＸ739（第37・42図）　ＳＤ738の北側で検出した礫敷である。東西9.3m、南北1.2mの不定形な範囲に直径0.01m程度の石が厚さ0.05～0.08mで敷かれていた。通路と考えられる。西側はＳＥ771によって削平される。南側はＳＤ738に沿うように広がりＳＤ738の南側では確認できない。北限と東限については不明であるが、その範囲はさらに広がると想定される。

石列ＳＸ784（第42図）　ＳＤ738の北側で検出した。ＳＸ739の上に、0.06～0.16m大の自然石が直線的に１列に並ぶ。検出長は1.85mを測る。主軸は、東に対して南に２°振る。掘形や裏込めは確認できなかった。ＳＸ739やＳＤ738に伴うと考えられる。

不明遺構ＳＸ519（第37図）　南地区中央で検出した。ＳＫ517の西側に位置する。掘形の平面



1．暗オリーブ色（5Y4/3）粗砂
2．オリーブ褐色（2.5Y4/4）粗砂
3．褐灰色（10YR6/1）砂礫
4．灰黄褐色（10YR5/2）粗砂
〈５～10cm大の礫含む〉
5．礫層
6．粗砂

1．灰黄褐色（10YR4/2）粗砂
〈５～30cm大の礫多量に含む〉
2．灰黄褐色（10YR5/2）粗砂〈５cm大の礫含む〉
3．褐色（10YR4/4）粗砂〈30cm大の礫含む〉
4．黄褐色（2.5Y5/3）粗砂
5．黄褐色（2.5Y5/2）粗砂
6．黄褐色（10YR7/6）シルト混じる細砂

1．オリーブ褐色（2.5Y4/4）粗砂〈小石含む〉
2．暗灰黄色（2.5Y4/2）粗砂〈小石含む〉
3．灰オリーブ色（5Y4/2）粗砂
4．灰色（5Y4/1）粗砂
5．灰色（5Y4/1）粗砂〈オリーブ色（5Y6/6）シルト混じる〉
6．灰オリーブ色（5Y5/3)粗砂

第45図　南地区遺構実測図（７）

は不定形で、規模は径0.45m、深さ0.5mを測る。遺物は土師器皿などが出土した(第52図)。

不明遺構ＳＸ525(第37図)　南地区中央で検出した。掘形の北側は、後世の攪乱によって削平されていた。掘形の規模は、一辺2.3m以上、深さ0.3mを測る。遺物は、土師器や陶磁器類が出土した(第52図)。

不明遺構ＳＸ729(第37図)　南地区南西で検出した。ＳＫ708の南西に位置する。北側は後世の攪乱で削平される。掘形の規模は、東西1.5m、南北1.2m以上、深さ0.2mを測る。遺物は、土師器や磁器椀が出土した(第53図)。

不明遺構ＳＸ737(第37図)　南地区南西で検出した。ＳＫ731の西側に位置する。掘形の平面は方形で、規模は径1.1m、深さ0.45mを測る。遺物は土師器片が出土した(第53図)。

柱穴ＳＰ921(第36図)　南地区北西で検出した柱穴である。ＳＤ941の南側に位置する。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色の中粒砂である。柱痕は確認できなかった。

柱穴ＳＰ915(第36図)　南地区北西で検出した柱穴である。ＳＰ921の西側に位置する。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.15mを測る。埋土は褐色の中粒砂である。柱痕は確認できなかった。

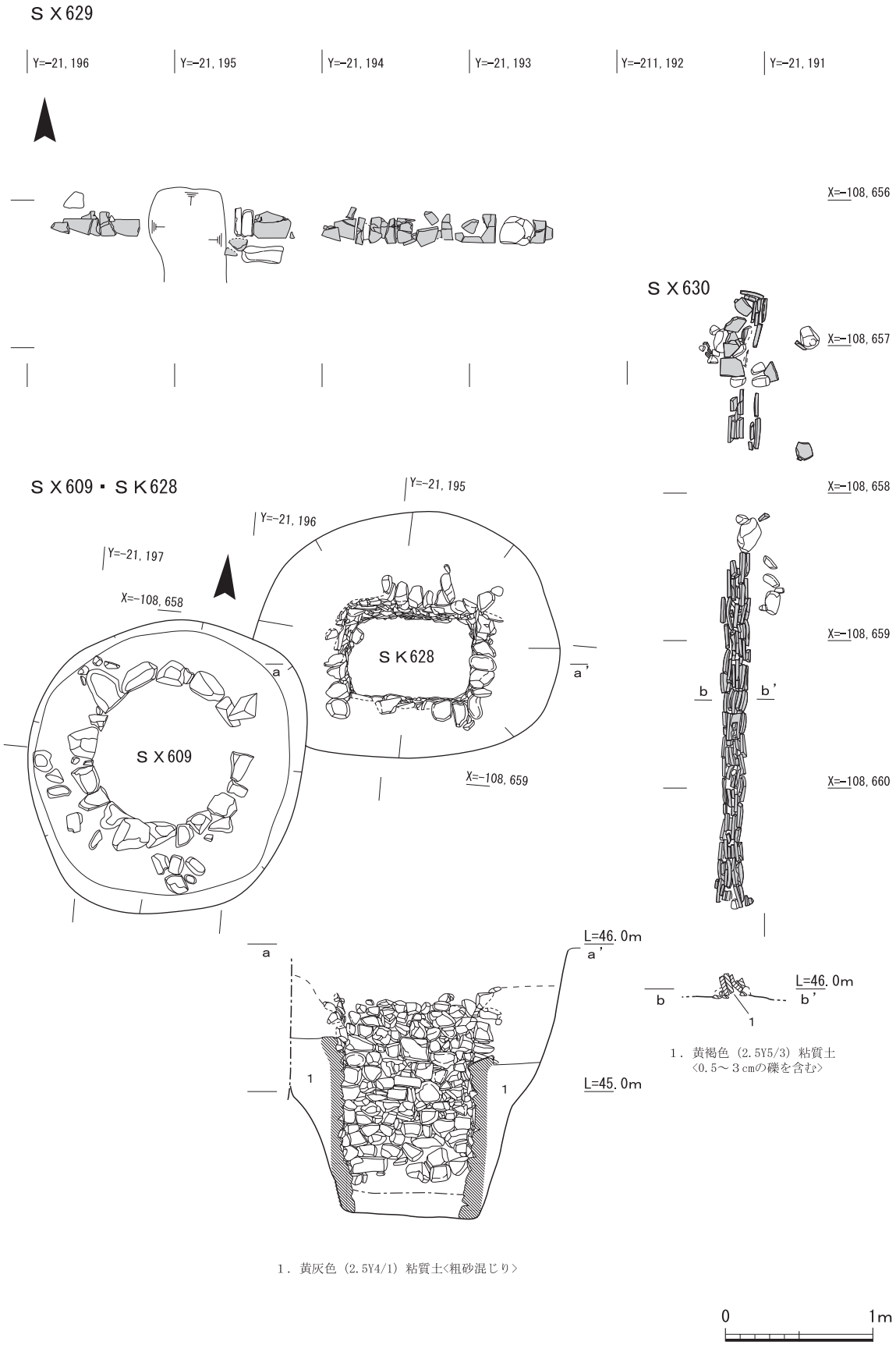
柱穴ＳＰ916(第36図)　南地区北西で検出した柱穴である。ＳＰ921の西側に位置する。掘形の平面は円形で、規模は直径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は暗褐色の細～中粒砂である。

(２)宝永の大火以後の遺構

瓦列ＳＸ629(第46図)　南地区西側で検出した。ＳＸ609の北側に位置する。検出した瓦列は、東西方向に一列に並べられ、丸瓦の凸面を上に向ける。検出長は3.4mを測る。瓦は玉縁を東に向けており、それぞれが組み合わさっていたとみられる。２か所で瓦列が途切れており、石が据えられる。それぞれの石は、瓦列の東端から西に0.1mと2.0mを測る場所に位置する。東側は0.2m大、西側は0.1～0.5m大の石が平らな面を上に向けて置かれる。検出状況から、礎石の可能性が考えられる。主軸方向はほぼ真東を向く。瓦列の南側では、瓦が平面不定形な範囲に広がって出土した。その範囲は、東西3.4m、南北0.31mを測り、掘形は確認できなかった。瓦の大半は平瓦であるが、ＳＸ529のように面を揃えないことから廃棄されたと考えられる。

瓦列ＳＸ630(第46図)　南地区西側で検出した。ＳＸ629の南東に位置する。検出した瓦列は、平瓦を立てて南北方向に並べられる。規模は、検出長4.2m、幅0.2mを測る。主軸方向は北に対して９°東に振る。瓦は東西方向に４枚程度を配置し、内側の瓦が互い違いとなるように並ぶ。瓦列北端で検出した２枚の平瓦は、長辺を東西に向けて瓦列の北東に角をつくることから、瓦列の北限と考えられる。北端から1.0～1.5mの間は瓦列が途切れる。遺構の全容は不明であるが、北東で角をもつことから、瓦列はさらに西側に広がるとみられ、ＳＸ629と一連の遺構となる可能性が考えられる。

土坑ＳＫ526(第37･47図)　南地区中央西側で検出した土坑である。ＳＫ619の南西に位置する。掘形の平面は東西に長い長方形で、規模は東西4.0m、南北2.3m、深さ1.2mを測る。土坑の掘形



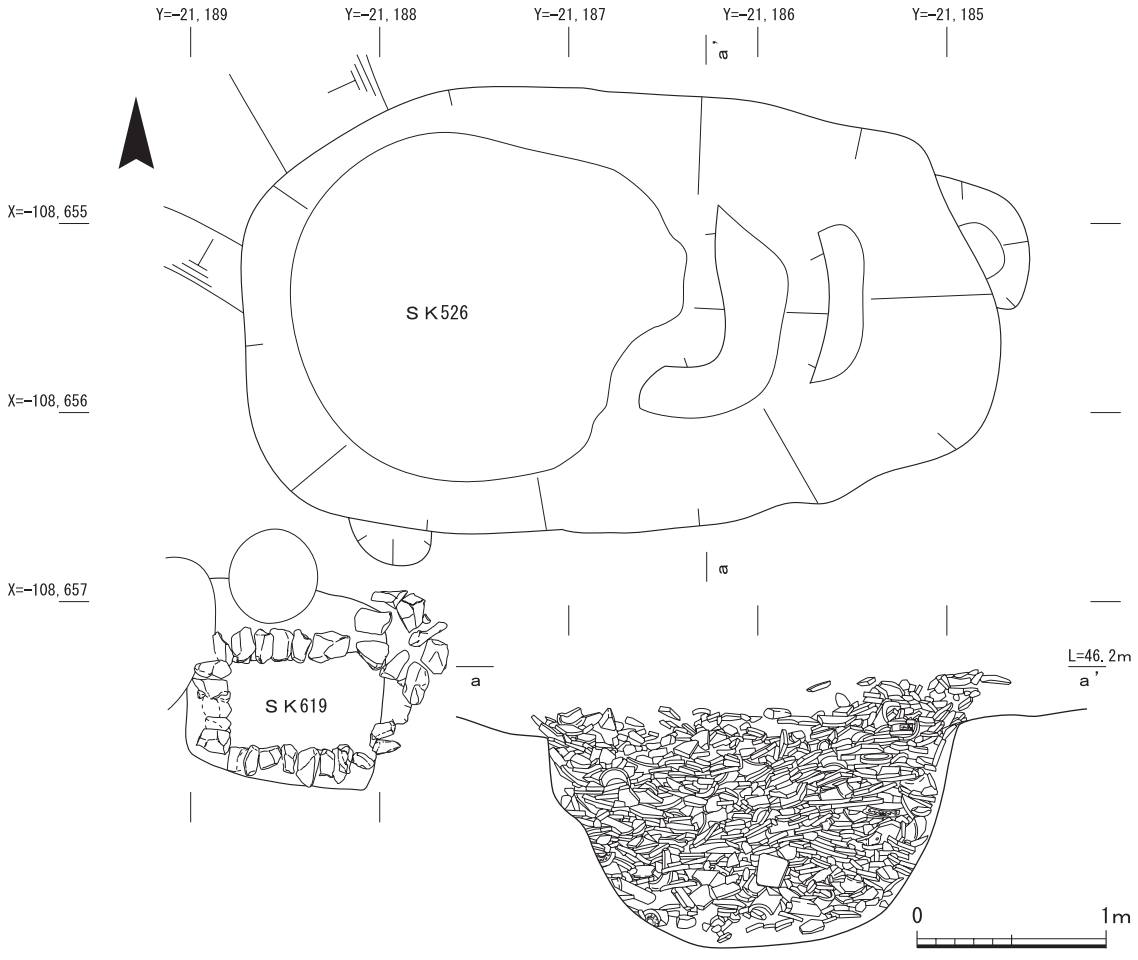
第46図　南地区遺構実測図（８）

全体から大量の瓦が密に堆積した状態で出土した。埋土には、焼土が混じるほか、瓦には２次焼成を受けた痕跡があり、宝永の大火後に廃棄されたと考えられる。そのほかの遺物は、土師器皿や陶磁器類が出土した（第51図）。

土坑ＳＫ620（第37図）　南地区中央で検出した土坑である。ＳＸ609の東に位置する。掘形の平面は不定形で、規模は、東西3.0m、南北3.2m、深さ0.8mを測る。遺物は、土師器のほか多量の近世瓦が出土した（第52図・付表２）。

土坑ＳＫ712（第37図）　南地区南西で検出した土坑である。北側は調査地外へと広がる。掘形の規模は東西3.6m以上、南北0.8m以上、深さ0.8mを測る。埋土は黒褐色や暗褐色の中粒砂含む細粒砂である。底部付近には、炭化物を多く含む黒色のシルト質細粒砂が0.2～0.4mの厚さに堆積する。遺物は、土師器皿や多くの陶磁器類が出土した。宝永の大火直後に廃棄されたものと考えられる。

土坑ＳＫ731（第37図）　南地区南西で検出した。ＳＫ712の西側に位置する。掘形の規模は東西1.0m以上、南北1.1m以上、深さ1.0mを測る。多量の瓦が出土した。埋土は、にぶい黄褐色の細粒砂である。瓦は２次焼成を受けており、宝永の大火に伴うと考えられる。壁面で観察した堆積状況から、ＳＫ712より前に掘削されており、大火後にまず瓦を廃棄し、その後土器類を片付



第47図　南地区遺構実測図（９）

けたことがわかる。

土坑ＳＫ780（第37図）　南地区中央西側で検出した土坑である。掘形の平面は東西に長い長方形で、規模は東西3.3m、南北2.2m、深さ1.2mを測り、掘形底部は段をもつ。大量の瓦が出土した。宝永の大火の片付けに伴って廃棄されたと考えられる。そのほかの遺物は、土師器皿や陶磁器類が出土した（第58図）。

溝ＳＤ518（第37図）　南地区北西で検出した、「Ｌ」字状に屈曲する溝である。西壁から東へ向かって15m直線的に延び、ＳＫ517の北側で北東へ折れる。規模は幅0.4～0.6m、深さ0.15～0.2mを測り、総検出長は17.8mである。東西方向の主軸は東に対して１°南に振る。南北方向の主軸は、北に対して34°東に振る。溝の底面には２～３cmの厚さで粘土が貼られており、水を流すことを目的としたと考えられる。宝永の大火による焼土を掘り込む形で検出したことから、宝永大火以降の遺構であると考えられる。

溝ＳＤ781（第37図）　南地区南西で検出した斜行する溝である。南西端を攪乱によって削平される。溝の規模は検出長1.7m、幅0.7m、深さ0.1mを測る。主軸は北に対して33°東に振る。

溝ＳＤ782（第37図）　南地区南西部で検出した斜行する溝である。ＳＤ781の西側に位置する。南東端を攪乱によって削平される。溝の規模は検出長2.4m、幅0.5m、深さ0.15mを測る。主軸は北に対して42°東に振る。

不明遺構ＳＸ609（第37・46図）　南地区中央で検出した円形の石組遺構である。ＳＫ628と重複する形で検出したが、この遺構の掘形がＳＸ628の掘形を掘り込んでおり、それより新しいものである。掘形の規模は、径2.0m、深さ0.25m、石組の内法は径0.9mを測る。石組は一段分が残存しており、石を縦に積む。上部の石組については不明であるが、あまり深い遺構ではないものとみられる。石組の床面には、漆喰を貼っていることから、池状の遺構の可能性も考えられる。遺物は、18世紀末から19世紀にかけての陶磁器類が出土した。

不明遺構ＳＸ631（第37図）　南地区の西側中央付近で検出した。0.2～0.4m大の石がまとまって出土した。石は平面が方形になるようにまとまって出土し、その範囲は南北0.7m、東西0.6mを測る。石はそれぞれ平らな面を上に向ける。一段のみを検出した。石塔や灯篭などの基礎構造とみられる。宝永の焼土層上で検出した。遺物は出土していない。

不明遺構ＳＸ750（第37図）　南地区中央で検出した。ＳＸ525埋没後に設けられた遺構である。掘形の規模は、径0.5m、深さ0.2mを測る。遺物は、土器片や陶磁器類などが出土した（第53図）。

（岡崎研一）

3）南地区の出土遺物

（1）土器・土製品

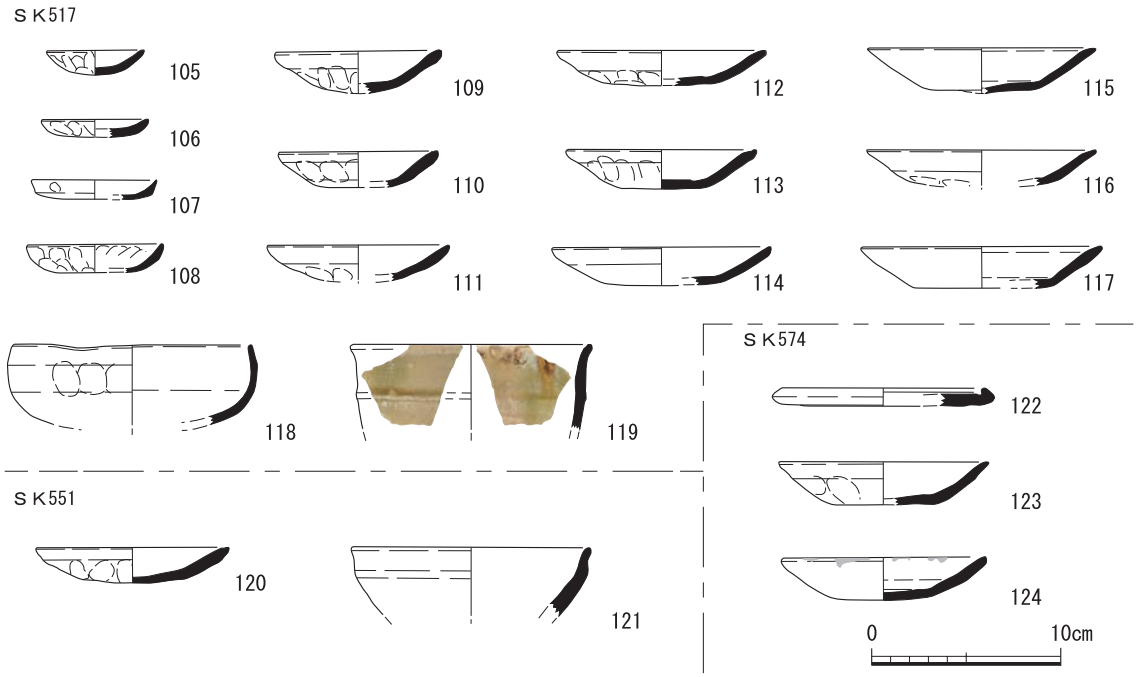
ＳＫ517（第48図）　105～117は土師器皿である。16世紀から17世紀にかけてのものとみられる。118は土師器鉢である。119は黄瀬戸向付で、瀬戸美濃系の陶器である。内面口縁端部に蔓文状の線刻がある。16世紀末頃のものか。

ＳＫ551（第48図）　120は土師器皿である。121は天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。16世紀のものか。

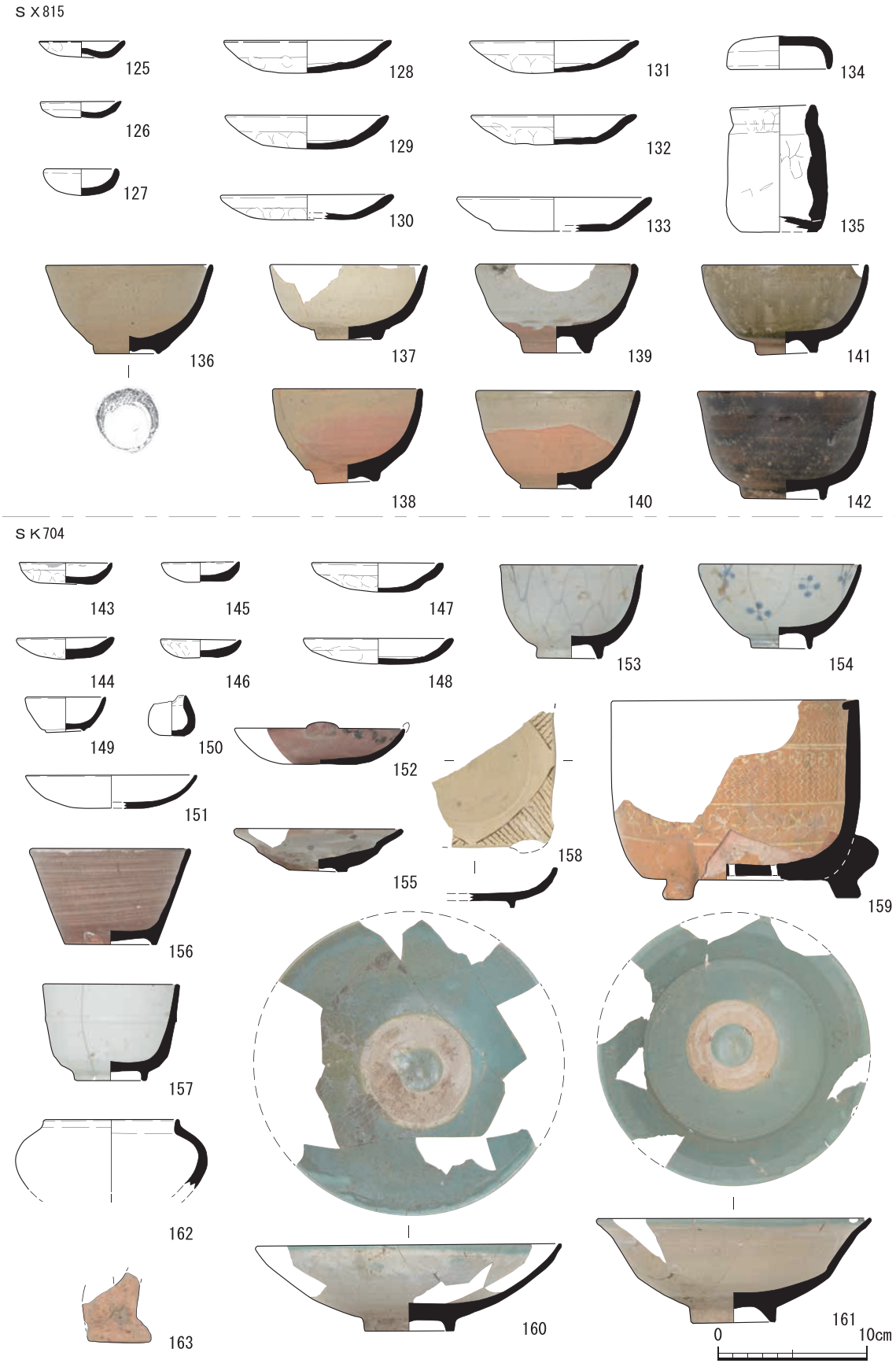
ＳＫ574（第48図）　122～124は土師器皿である。122はコースター形で、12世紀頃のものとみられる。そのほかは16世紀末から17世紀にかけてのものか。

ＳＸ815（第49図）　125～133は土師器皿である。134・135は土師器焼塩壺の蓋と身である。印銘等はない。136～142は陶器椀である。137･142は瀬戸美濃系、それ以外は肥前系の製品である。137は志野、142は褐釉である。16世紀末から17世紀前期頃のものとみられる。

ＳＫ704（第49図）　143～148は土師器皿である。149は陶器椀で、瀬戸美濃系の小椀である。150は土師器の小壺で、いわゆる「つぼつぼ」である。151・152は陶器灯明皿で、152には口縁端部に灯芯受けが付く。薄くサビ釉を施した焼締で、底部は糸切である。いずれも、焼締である。153･154は染付磁器椀で、肥前系の製品である。153には一本引きの網目文、154には花文を描く。17世紀中葉から後半にかけてのものとみられる。155は陶器皿で､肥前系の製品である。折縁皿で、灰釉を施す。17世紀前半のものか。156は陶器向付で､肥前系の製品である。白土を刷毛塗りする、いわゆる「三島手」である。17世紀後半のものとみられる。157は白磁椀で､肥前系の磁器である。外面胴部中央に細い突帯が巡る。17世紀のものか。158は陶器皿で、京都系の製品とみられる。



第48図　南地区出土遺物実測図（1）



第49図　南地区出土遺物実測図（２）



第50図　南地区出土遺物実測図（３）

丸く成形した器の四方を切り落として四隅突出の方形に仕上げる。159は陶器風炉で、京信楽系の製品とみられる。線刻や印花で三島手の施文を施す。獣脚状の三脚が付く。160・161は陶器鉢で、肥前系の陶器である。銅緑釉を施す。見込みは釉を蛇の目状に掻き取り、重ね焼きの痕跡が残る。17世紀後半頃のものである。162は土師器壺である。163は土製品の人形である。

ＳＫ562（第50図）　164～168は土師器皿である。17世紀頃のものとみられる。

ＳＫ535（第50図）　169・170は土師器皿である。17世紀頃のものとみられる。

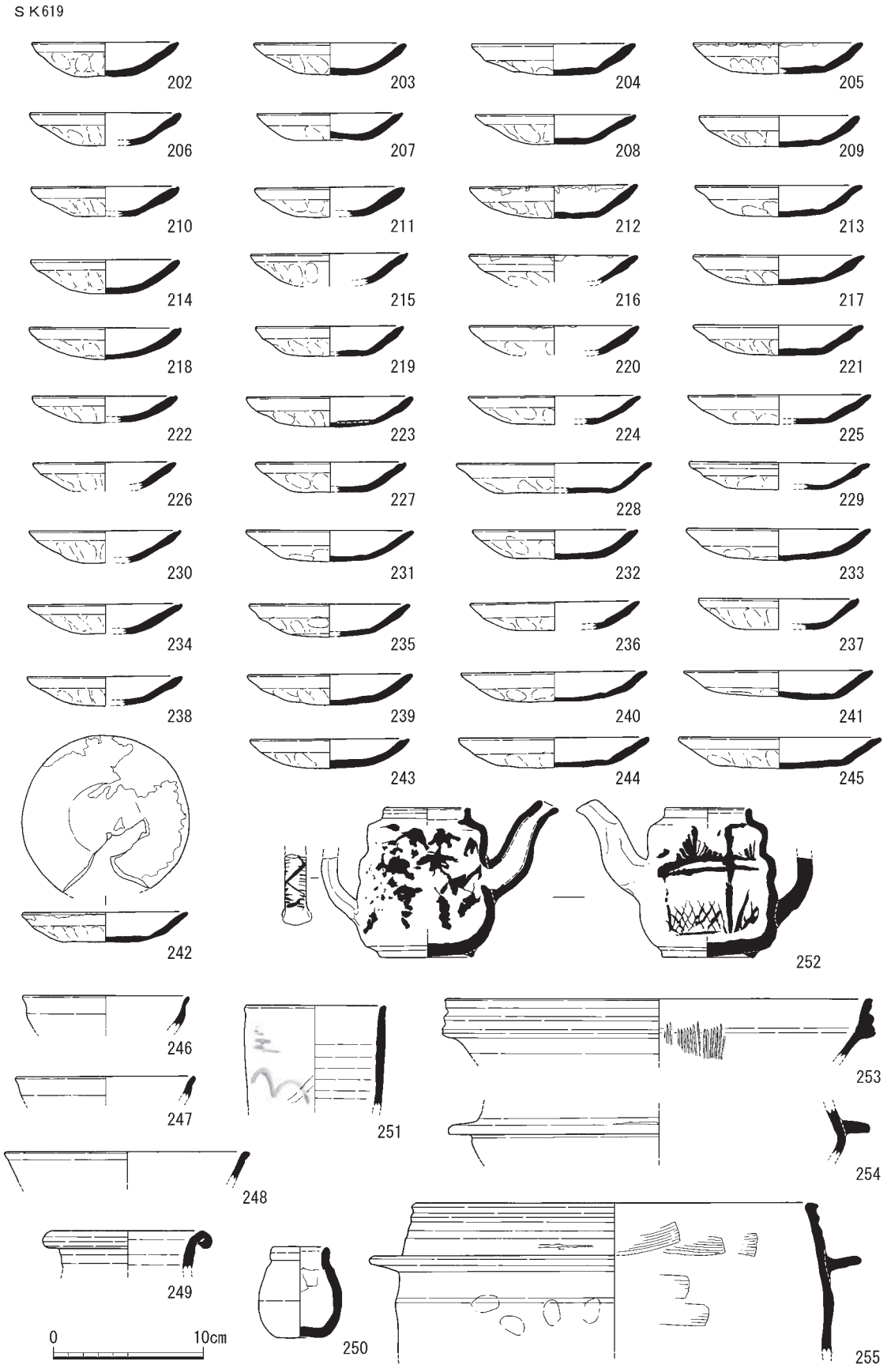
ＳＫ550（第50図）　171・172は土師器皿である。17世紀頃のものとみられる。

ＳＫ708（第50図）　173～177は土師器皿である。178は土師器のミニチュア土器で、把手付カップ形である。179は土師質の土鈴である。180は瓦質土器の蓋で、瓶などに伴うものか。181は白磁小瓶で、肥前系の製品である。17世紀前半頃のものである。182は染付磁器小椀で、肥前系の製品である。17世紀のものである。183は白磁小椀で、中国製のものとみられる。184は陶器小椀で、肥前系の製品である。褐釉を施す。17世紀前半のものである。185は白磁椀で、肥前系の製品とみられる。器胎は半磁胎である。186は陶器椀で、肥前系の製品である。外面に山水文を描き、高台内に「雲」の印銘を持つ。いわゆる京焼風肥前陶器で、17世紀後半のものである。187は白磁椀で、肥前系の製品である。口縁端部に鉄釉（口紅）を施す。188は染付磁器椀で、肥前系の製品である。外面には青磁釉を施す。見込みには圏線と飛雁文を描く。口縁端部に鉄釉（口紅）を施す。189は染付磁器皿で、肥前系の製品である。平面形は隅入方形で、型打ち成形とみられる。17世紀中葉頃のものである。190は瑠璃釉磁器香合の蓋である。肥前系の製品とみられる。上面に花文を型押しする。191は白磁仏飯器で、肥前系の磁器である。脚部は中実で、底部は浅く平滑に削り込む。192は陶器皿で、肥前系の製品である。銅緑釉を施す。17世紀後半頃のものである。193・194は青磁香炉で、肥前系の製品である。ともに、三脚が付く。195は陶器鉢で、肥前系の製品である。見込みは釉を蛇の目状に掻き取り、重ね焼きの痕跡が残る。17世紀後半頃のものである。196は陶器椀で、朝鮮王朝期の粉青沙器とみられる。刷毛目椀で、高台畳付にも施釉する。16世紀のものか。197は土師器鍋で、口縁部が鍔状になる。198は土師器焙烙である。199は土製品の人形で、猿を象る。200は土製品の人形で、天神（菅原道真）を象るものとみられる。201は土製品の人形で、緑釉と褐釉で彩る。

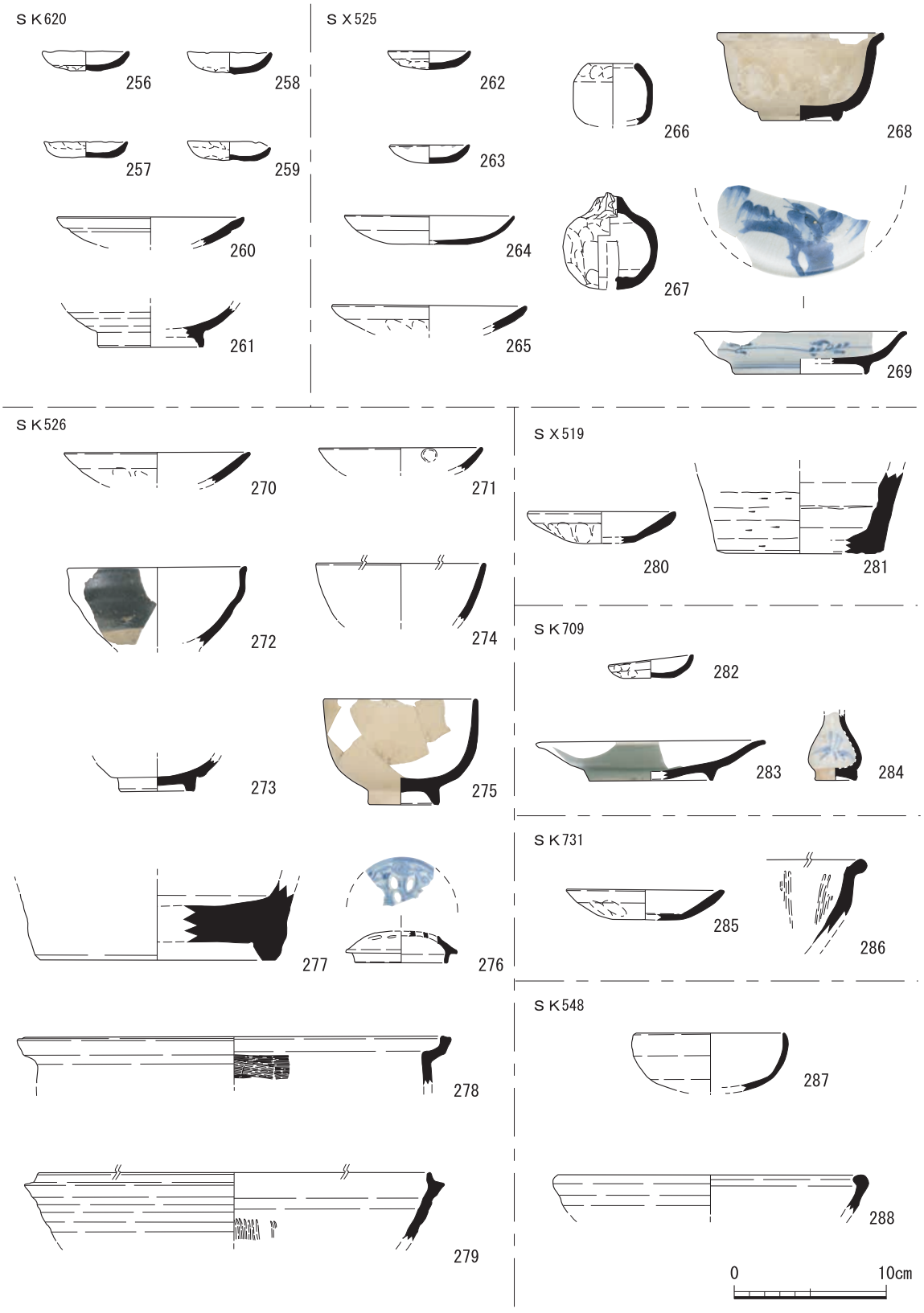
ＳＫ619（第51図）　202～245は土師器皿である。16世紀末頃から17世紀にかけてのものとみられる。205・212・216・242には口縁部に煤が付着しており、灯明皿と考えられる。

246・247は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。16世紀頃のものか。248は中国製の白磁椀で、12世紀頃のものとみられる。249は中国製の白磁壺である。12世紀頃のものとみられる。250は土師器焼塩壺である。251は陶器向付で、瀬戸美濃系の陶器である。いわゆる志野である。外面に鉄釉で施文する。16世紀末から17世紀初頭頃の製品である。252は陶器水注で、瀬戸美濃系の陶器の志野である。外面には間垣文と枝垂文を鉄釉で描く。16世紀末から17世紀初頭頃の製品である。253は陶器擂鉢で、備前系の焼締陶器である。254・255は瓦質土器の羽釜である。

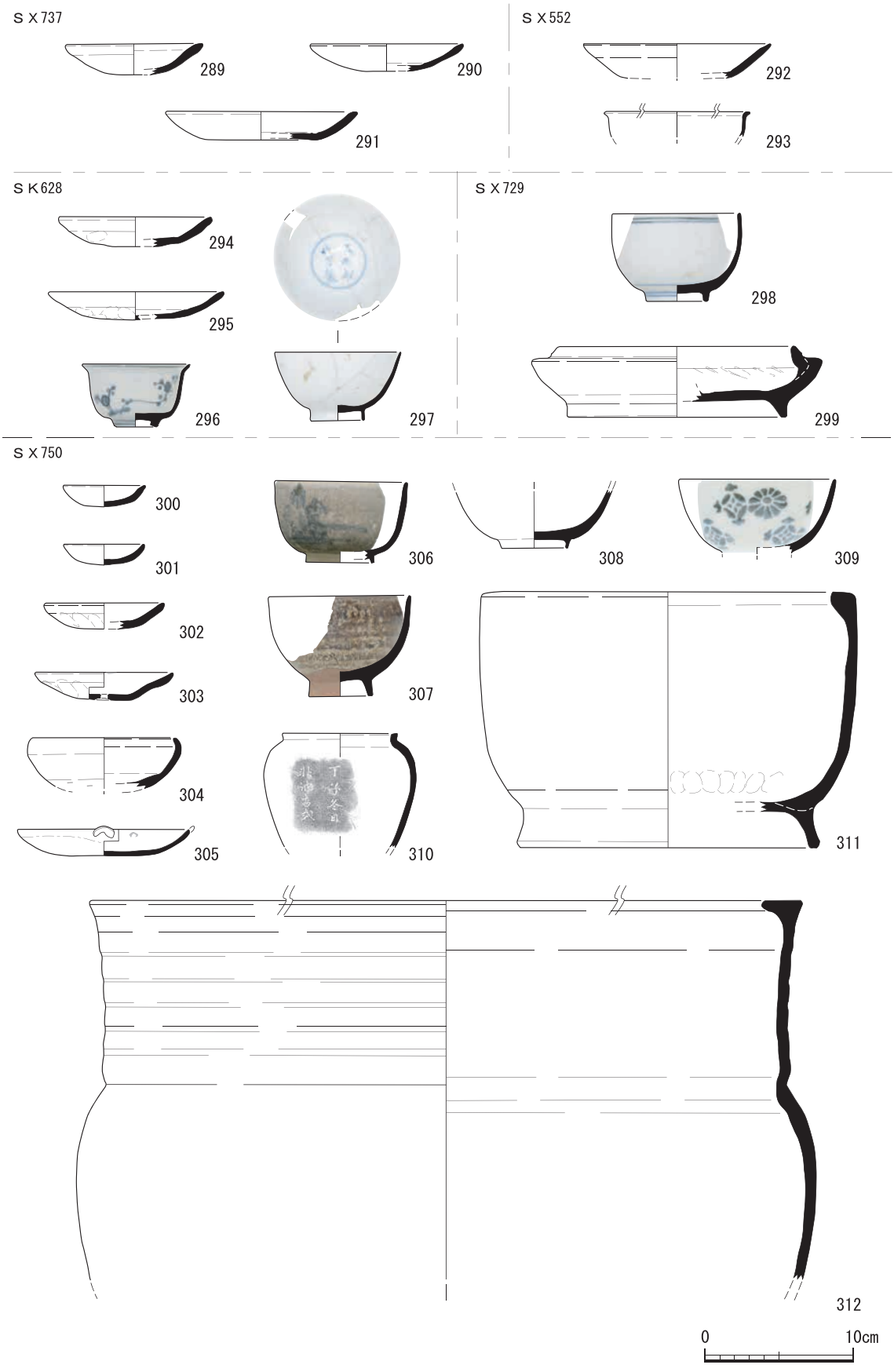
ＳＫ620（第52図）　256～260は土師器皿である。261は灰釉陶器椀である。東海系のものとみ



第51図　南地区出土遺物実測図（４）



第52図　南地区出土遺物実測図（５）



第53図　南地区出土遺物実測図（６）

られる。高台は貼り付けである。見込みに重ね焼きの痕跡が残る。

ＳＸ525（第52図）　262・265は土師器皿である。263は土師器灯明皿である。264は陶器皿である。266は土師器の小壺で、いわゆる「つぼつぼ」とみられるが、やや大振りである。267は土師質の土鈴である。268は陶器椀で、瀬戸美濃系の陶器である。黄色味を帯びた釉が施されており、いわゆる黄瀬戸とみられる。16世紀末頃のものか。269は染付磁器皿で、肥前系の磁器である。内面にはていねいな筆致の鳥文を描く。17世紀後半頃のものである。

ＳＫ526（第52図）　270は土師器皿である。271は陶器灯明皿で、京信楽系のものとみられる。272・273は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。17世紀頃のものとみられる。274・275は陶器椀で、肥前系の製品である。17世紀後半頃のものである。276は青花磁器香炉の蓋で、中国製の磁器である。杏仁形の透かしがある。277は青磁壺で、中国製の磁器である。大型の製品である。278は瓦質土器の鍋である。279は陶器擂鉢で信楽系の焼締陶器である。

ＳＸ519（第52図）　280は土師器皿である。281は須恵器壺である。

ＳＫ709（第52図）　282は土師器皿である。283は青磁皿で、肥前系の製品である。内面に雲文状の浮彫文様がある。284は染付磁器小瓶で、肥前系の製品である。外面に笹文を描く。

ＳＫ731（第52図）　285は土師器皿である。286は陶器擂鉢で、信楽系の焼締陶器である。16世紀後半頃のものか。

ＳＫ548（第52図）　287は土師器鉢である。288は須恵器鉢である。10世紀末から11世紀にかけてのものとみられる。

ＳＸ737（第53図）　289～291は土師器皿である。16世紀末から17世紀にかけてのものとみられる。

ＳＫ552（第53図）　292は土師器皿である。293は陶器椀で、肥前系の陶器である。口縁端部が外反気味になる。17世紀前半頃のものか。

ＳＫ628（第53図）　294・295は土師器皿である。296は青花磁器小椀で、中国製の磁器である。外面に梅枝文を描く。297は青花磁器椀で、中国製の磁器である。見込みに圏線と「大明成化年製」銘がある。見込みがやや盛り上がる「饅頭心」の椀である。16世紀末頃のものか。

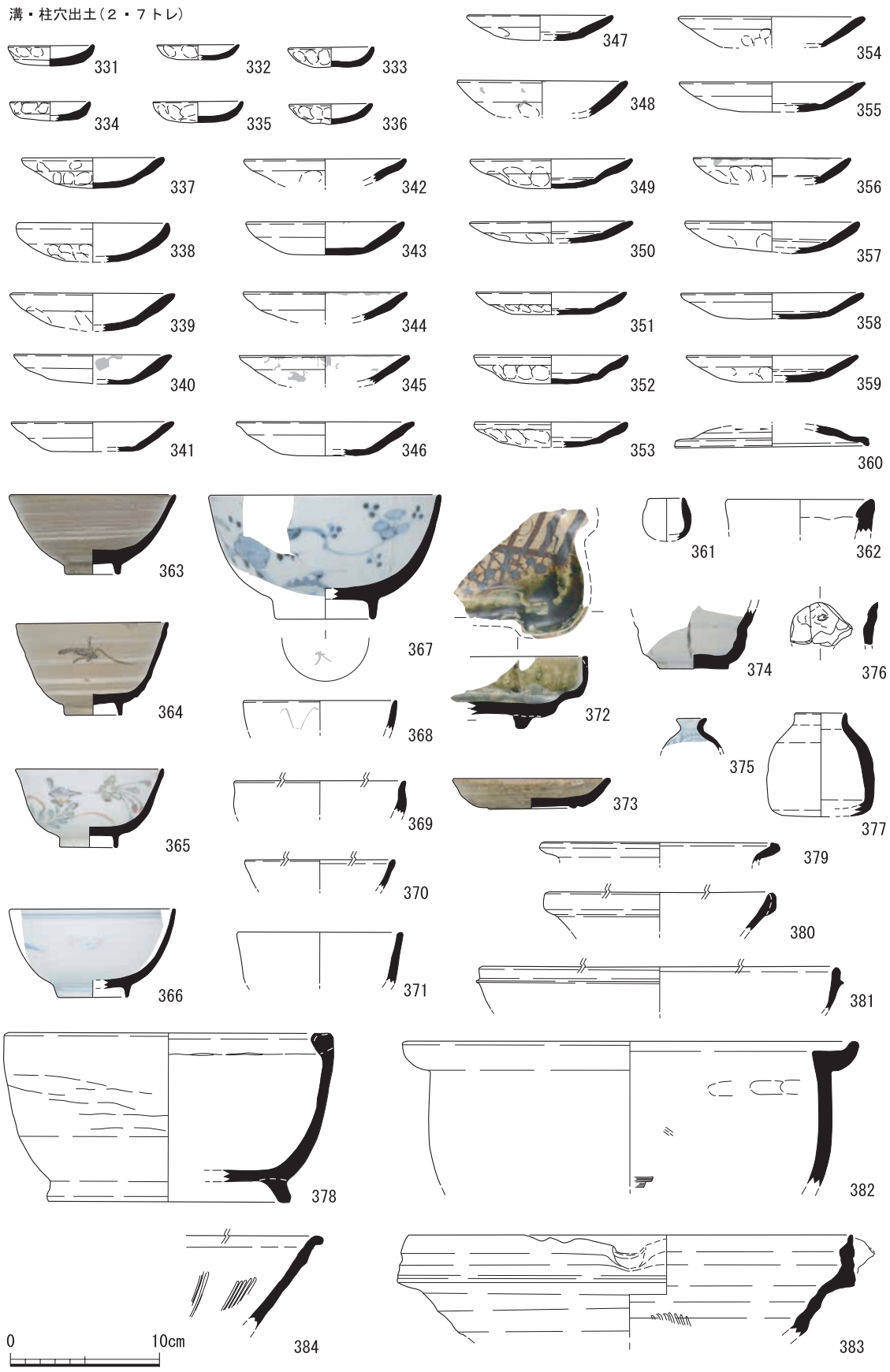
ＳＸ729（第53図）　298は染付磁器椀で、肥前系の磁器である。17世紀後半頃のものか。外面口縁端部と高台に圏線が巡る。299は土師器平仄である。

ＳＸ750（第53図）　300～303は土師器皿である。304は土師器鉢である。305は陶器灯明皿である。306･307は陶器椀で、肥前系の陶器である。306は灰釉を施した、いわゆる「斑唐津」である。307は褐釉を施す。308は白磁椀で、肥前系の製品である。器胎は半磁胎である。309は染付磁器椀で、肥前系の製品である。型紙刷りで花文を施しているものとみられる。310は陶器壺で、胴部に印銘をもつ。311は土師器風炉で、やや高めの高台を貼り付ける。312は陶器甕で、信楽系の陶器である。18世紀中頃以降のものとみられる。

ＳＸ609（第54図）　313は土師器皿である。314～317は染付磁器椀で、肥前系の磁器である。外面に草花文や山水文を描く。317のように口縁部が外反気味のものもあり、18世紀末～19世紀



第54図　南地区出土遺物実測図（７）



第55図　南地区出土遺物実測図（８）

にかけてのものとみられる。318は陶器椀で、萩系の陶器である。白濁釉の上から褐釉を掛け流す。319は染付磁器皿で、瀬戸系の磁器とみられる。内面に山水文を描き、口縁端部に鉄釉（口紅）を施す。19世紀のものとみられる。320は染付磁器皿で、内面に芭蕉樹を配した山水文、外面に源氏香文を巡らす。高台内は蛇の目凹形である。

321・322は陶器土鍋の蓋で、京都系の陶器とみられる。321は上面に筒引で花文を描く。323は陶器土瓶の蓋で、京信楽系の陶器とみられる。上面に鉄絵を描く。324は陶器瓶で、信楽系の陶器とみられる。胴部中央に横方向の櫛目文が巡る。325～327は陶器鍋で、京都系の陶器とみられる。いずれも外面に飛びカンナで爪状文を施す。325は半環状の把手が付く。326は注口が付く。327は注口と筒状把手が付く、いわゆる「行平」である。328は陶器土瓶で、京都系の陶器である。外面に鉄釉で菊文を描く。

329は陶器鉢で、肥前系の製品である。印花文に白土を象嵌した三島手である。17世紀後半のものである。330は土師器鍋である。

溝・柱穴（第55・56図）　今回の調査では、小規模な溝や柱穴からも遺物が出土しているが、各遺構からの出土量はわずかである。そのため、このような少数の遺物については、概要を列記することとし、出土遺構名などについては、観察表を参照していただきたい。

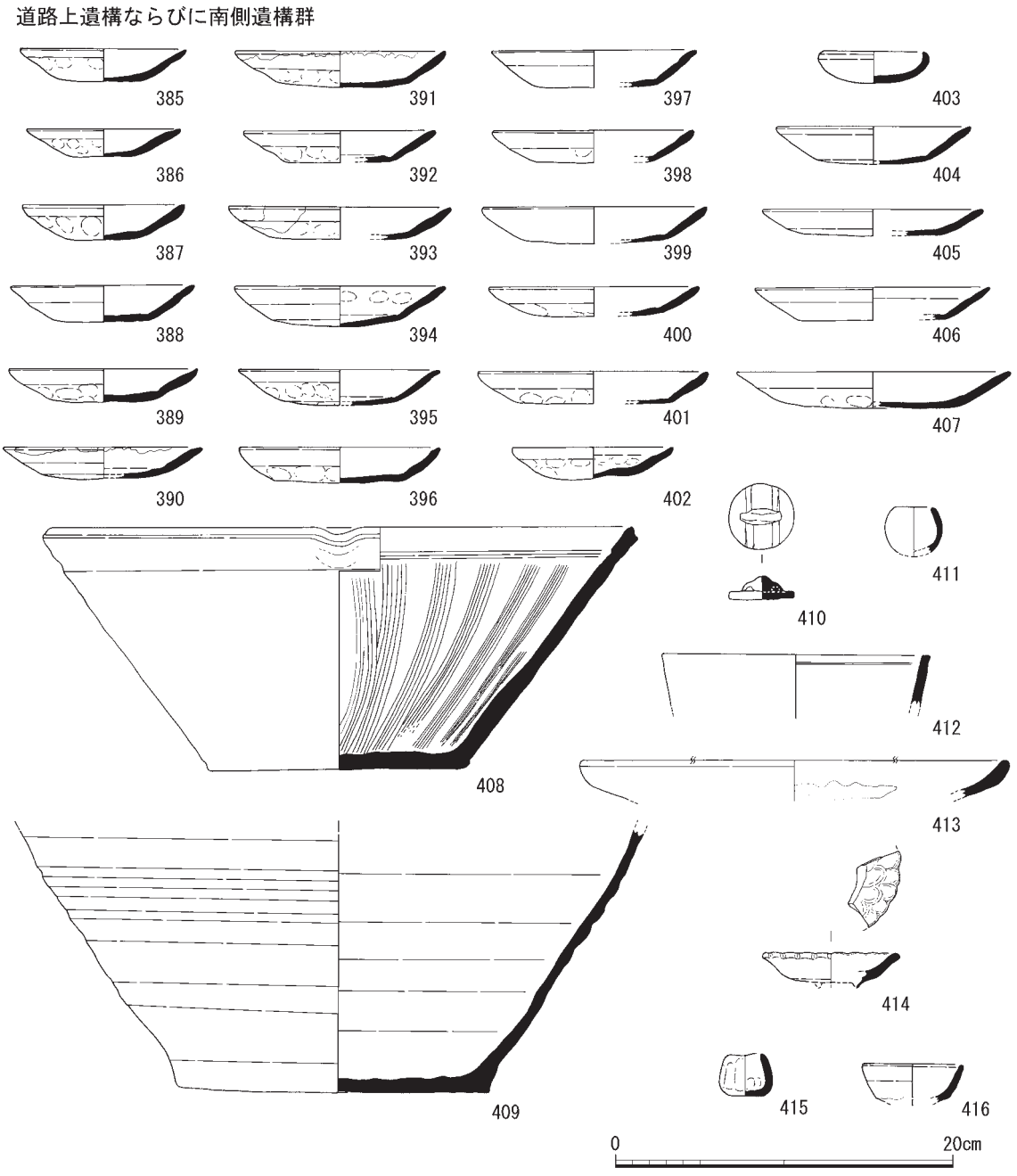
331～359は土師器皿である。おおむね、16世紀から17世紀にかけてのものとみられる。360は須恵器杯蓋である。口縁端部が屈曲しており、9世紀頃のものとみられる。361は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。362は土師器塩壺とみられる。小片であるため詳細は不明であるが、胎土が粗く厚手であり、古代の遺物の可能性もある。

363・364は陶器椀で、肥前系の陶器である。白土刷毛塗の三島手椀で、364は刷毛塗の上に鉄釉で山水文を描く。17世紀後半頃の製品とみられる。365は色絵磁器椀で、肥前系の磁器である。外面に赤や緑の顔料で草花文を上絵付する。18世紀後半以降の磁器とみられる。366～368は染付磁器椀で、肥前系の磁器である。366は飛雁文を描いており、薄手で、17世紀後半頃のものとみられる。367は花文を描いており、厚手で、いわゆる「くらわんか手」の椀である。18世紀のものである。368は一本引きの網目文を描いており、17世紀中葉のものである。369は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。370は陶器椀で、肥前系の陶器である。17世紀初頭頃のものか。371は陶器椀で、萩系の陶器である。372は陶器向付で、瀬戸美濃系の陶器である。いわゆる青織部で、17世紀前半頃のものである。373は陶器皿で、瀬戸美濃系の陶器である。大窯期の灰釉丸皿である。374は陶器向付で、肥前系の陶器である。いわゆる絵唐津で、17世紀初頭頃のものである。375は染付磁器小瓶で、肥前系の磁器である。外面に蛸唐草文を描く。いわゆる御神酒徳利で、18世紀末頃以降のものとみられる。

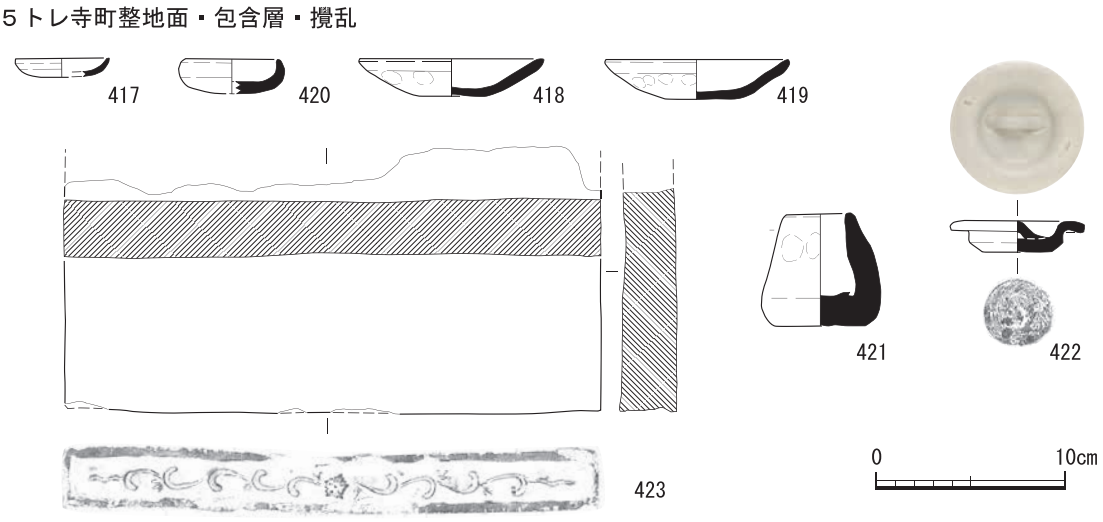
376は土製品の人形で、鳥の頭部を象る。京都系のものとみられる。377は土師器焼塩壺である。378は土師器風炉で、京都系のものとみられる。379は土師器甕の口縁部である。口縁端部を折り返す。380は白磁椀で、中国製の磁器である。口縁端部を折り返して玉縁状にする。12世紀のものとみられる。381は土師器焙烙である。382は土師器鍋である。383は陶器擂鉢で、備前系の焼

締陶器である。16世紀後半頃のものか。384は陶器擂鉢で、信楽系の焼締陶器である。16世紀後半のものか。385～407は土師器皿である。405～407のような大型で15世紀後半頃のものもあるが、大半は内面見込み外周に沈線を持つ17世紀頃のものが主体である。

408は陶器擂鉢で、丹波系の焼締陶器である。櫛状工具でまばらに擂り目を引いており、17世紀前半頃のものとみられる。409は陶器甕で、信楽系の焼締陶器である。410は土師器のミニチュア土器で鍋の蓋である。411は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。412は軟質の施釉陶器で、鉛系の緑釉を施す。器形器種ともに不明である。413は土師器鍋もしくは焙烙の



第56図　南地区出土遺物実測図（９）



第57図　南地区出土遺物実測図(10)

口縁部とみられる。414は青磁皿で、型成形で輪花形である。中国製で15世紀頃のものとみられる。415は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。416は陶器小椀で、瀬戸美濃系の陶器で、灰釉を施す。

寺町整地面・包含層・攪乱(第57図)　417～420は土師器皿である。16世紀末頃のものとみられる。421は土師器焼塩壺である。422は陶器急須の蓋で、信楽系の陶器とみられる。18世紀後半頃以降のものとみられる。423は陶器敷瓦で、瀬戸美濃系の陶器である。織部釉(銅緑釉)を施す。17世紀前半頃のものか。

ＳＫ780(第58図)　424は土師器灯明皿である。425は磁器椀で、肥前系の磁器である。外面口縁端部に簡略化した雨降文を巡らす。426は土師器鉢である。ロクロ整形である。427は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。17世紀のものである。428は陶器椀で、京都系のものとみられる。429は土師器甕である。

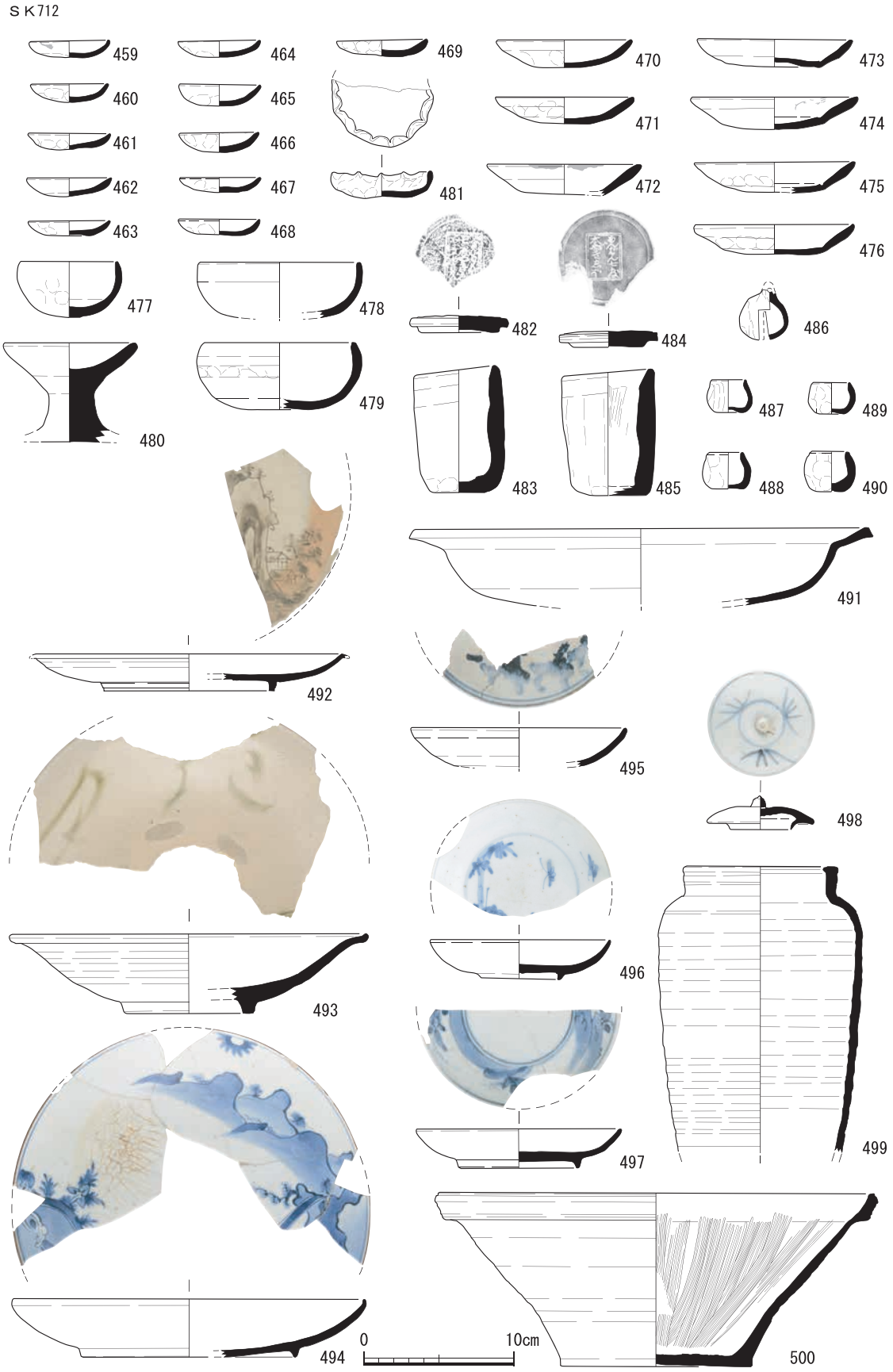
ＳＫ728(第58図)　430・431は土師器皿である。431は17世紀のものとみられる。432は土師器焼塩壺である。433は染付磁器椀で、肥前系の磁器である。外面に松樹文を描く。厚手であり、18世紀のものとみられる。434は染付磁器皿で、肥前系の磁器である。コンニャク印判で菊文を施す。輪花形に型成形したものと考えられ、高台は貼り付けとみられる。18世紀のものである。

ＳＫ712(第58～60図)　435は陶器天目小椀で、瀬戸美濃系の陶器である。内面及び外面上半に鉄釉を施す。436～440は陶器椀で、肥前系の陶器である。436は鉄釉を、439は灰釉を施したもので、17世紀前半のものとみられる。437は青緑色の銅緑釉を施しており、17世紀後半のものである。440はいわゆる京焼風肥前系陶器で、高台内に「木下弥」の印銘をもつ。438は灰釉の上に鉄釉を重ね掛けしており、高取の可能性もある。

441～456は染付磁器椀で、肥前系の磁器である。外面に一本引きの網目文、草花文、蔓草文、矢羽文、半裁菊花文、団扇文などを描く。内面に菊花文、草文などを描くものもあり、455のよ



第58図　南地区出土遺物実測図(11)



第59図　南地区出土遺物実測図(12)

うに高台内に「宣徳年製」などの銘をもつものもある。また、448のように、胴部下半に墨弾きの流水文帯を巡らすものもある。器胎は薄手のものが多く、17世紀中葉から後半にかけての肥前磁器の様相を示すものである。長吉谷窯を中心に生産された磁器とみられる。

457は白磁小椀で、高台は細く高目で、中国製の磁器とみられる。458は紛青沙器椀である。刷毛目椀で、器胎はごく薄い。高台内は呉器手茶碗のように丸く削り込まれている。17世紀前半頃の朝鮮半島産とみられ、日本からの注文品の可能性もある。

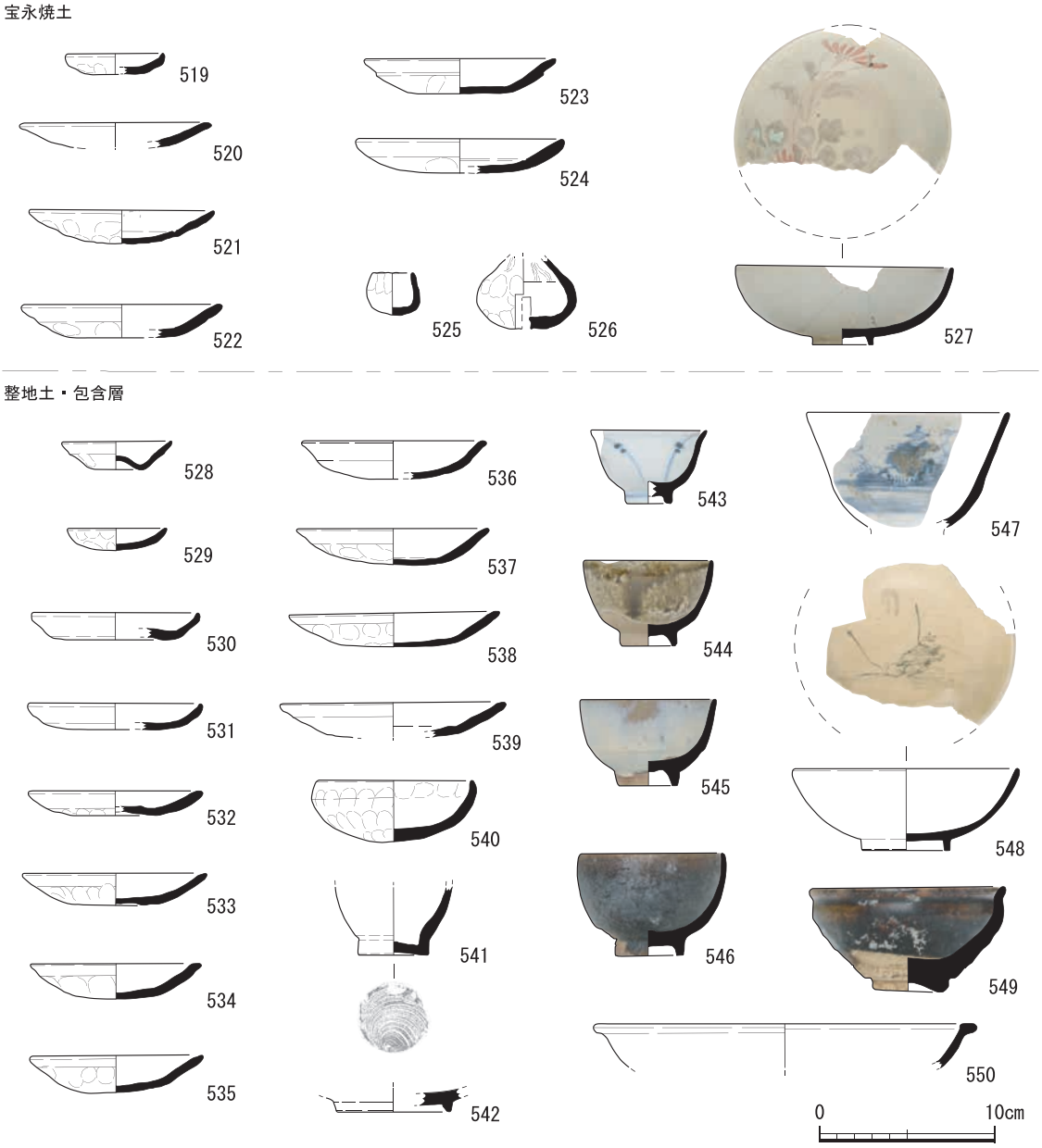
459～476は土師器皿である。中型の皿の見込み外周に沈線が巡っており、17世紀頃のものとみられる。477～479は土師器鉢である。480は瓦質土器の平仄である。481は土師器花塩壺である。

口縁部を花形に成形する。482～485は土師器焼塩壺である。482･484は蓋で､484には上面に「奈んばん七度本やき志本」の印銘をもつ。472も印銘をもつ。483・485は筒型の器形である。486は土師質の土鈴である。487～490は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。491は土師器鍋で、口縁部は鍔状である。



第60図　南地区出土遺物実測図(13)

492は陶器皿で、肥前系の陶器である。内面に本格的な水墨画風の楼閣山水図を描く。17世紀中葉から後半にかけての頃のものか。493は陶器鉢で、肥前系の陶器である。口縁部が外反する皿状の形状で、見込みには砂目の目痕が残る。内面外周に「花」「月」の文字を、呉須で書く。時計回りに「花鳥風月」と書かれていた可能性がある。17世紀中葉から後半にかけての頃のものか。494～497は染付磁器皿で、肥前系の磁器である。山水文や花文などを描く。498・497は口径に対して高台径が大きく、17世紀後半のものである。498は染付磁器壺蓋とみられ、肥前系の磁器である。499は陶器壺で、ヴェトナム産の焼締陶器の長胴壺である。南蛮貿易による輸入品を納めたコンテナとしてもたらされたものとみられる。同形の壺が、茶道具の「切溜花入」として見立てられ、伝世している。この壺も、茶道具に見立てられたものか。京都市内では平安京内膳町跡からも出土している。国内では、福岡県博多遺跡群や大阪府大阪城下町跡・堺環濠都市遺跡



第61図　南地区出土遺物実測図(14)

などからも出土している。500は陶器擂鉢で、信楽系の陶器である。17世紀頃のものとみられる。501は陶器灯明皿である。502は陶器のミニチュア土器の擂鉢である。

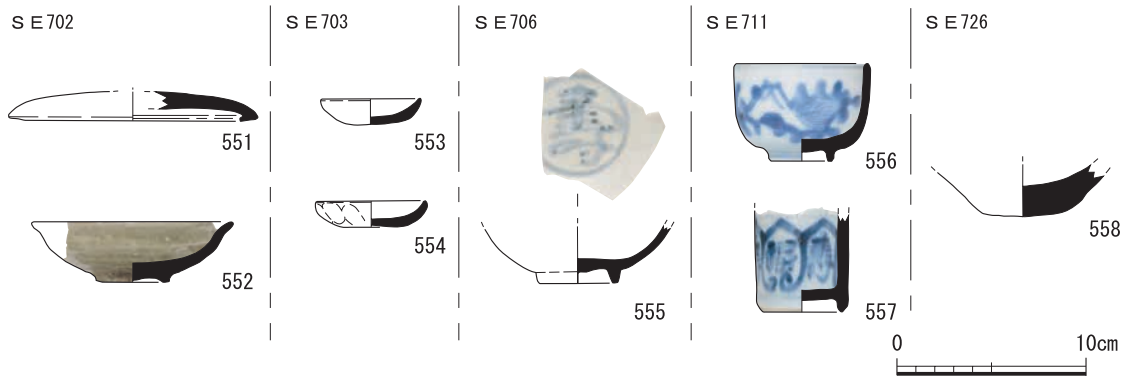
503は染付磁器皿で、肥前系の磁器である。内面に鶉文を描き、口縁端部に鉄釉(口紅)を施す。「藍九谷」様式とされるものか。17世紀後半頃のものである。504は染付磁器鉢で、肥前系の磁器である。口縁端部は輪花形で、鉄釉(口紅)を施す。内測面には牡丹唐草文が巡り、見込みに手描きの五弁花文を描く。焼成、絵付けともに精品である。17世紀後半頃のものである。505は色絵磁器鉢で、肥前系の磁器である。外面には蔓牡丹文を、見込みには二重圏線内に牡丹花文を描く。文様の輪郭を黒線で描いており、余白の多い絵付けなどから、いわゆる「柿右衛門」様式のものとみられる。17世紀後半頃のものである。

ＳＤ738(第60図)　506～514は土師器皿である。見込み外周に沈線をもつものがあり、17世紀のものとみられる。515・516は陶器小椀で、瀬戸美濃系の陶器である。いわゆる志野である。17世紀初頭頃のものか。517は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。17世紀のものか。518は陶器椀で、肥前系の陶器である。灰釉を施す。

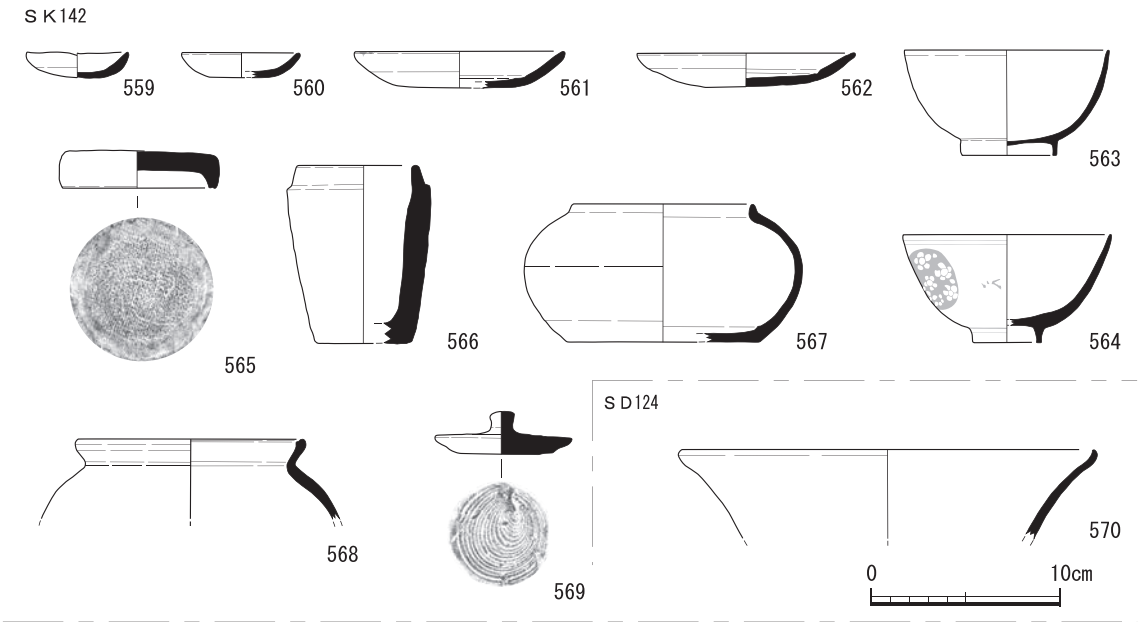
宝永焼土(第61図)　519～524は土師器皿である。17世紀のものとみられる。525は土師器の小壺で、「つぼつぼ」と呼ばれるものである。526は土師質の土鈴である。527は陶器椀で、京都系のものである。内面に上絵付で花文を描く。

整地層・包含層(第61図)　528～539は土師器皿である。528はいわゆる「へそ皿」で、15世紀頃のものとみられる。536のような12世紀のもの、537・538のような15世紀後半頃のものも含まれる。540は土師器鉢である。541は須恵器壺で、小型のものである。底部糸切りで、９世紀頃のものとみられる。542は緑釉陶器の皿である。

543は染付磁器小椀で、肥前系の磁器である。外面に簡素な草花文を描く。17世紀中葉頃のものである。544～546は陶器椀で、肥前系の陶器である。544は灰釉小椀、545は藁灰釉を施した斑唐津小椀、546は鉄釉椀である。17世紀前半頃のものである。547は陶胎染付椀で、肥前系の陶器である。白土化粧した下地に呉須で楼閣山水文を描く。17世紀後半頃のものである。548は陶器椀で、肥前系の陶器である。内面に山水文を描く、京焼風肥前系陶器で、17世紀後半頃のものである。549は陶器天目椀で、瀬戸美濃系の陶器である。550は青磁鉢で、中国製のものである。15



第62図　南地区出土遺物実測図(15)



第63図　南地区出土遺物実測図(16)

世紀頃のものか。

ＳＥ702(第62図)　551は陶器蓋で、上面に鉄釉を施す。552は陶器皿で、肥前系の陶器である。17世紀前期頃のものである。

ＳＥ703(第62図)　553・554は土師器皿である。小型のものであり、時期等は不明である。

ＳＥ706(第62図)　555は青花磁器椀で、中国製の磁器である。見込みがやや盛り上がった、いわゆる「饅頭心」であり、その部分に寿字文を描く。16世紀末頃のものである。

ＳＥ711(第62図)　556は染付磁器椀で、山水文などを描く。19世紀頃のものか。肥前系の磁器とみられるが、各地で磁器生産が行われている時期であり、産地の特定はできない。557は青花磁器であるが機種・器形は不明である。上部に透かしの痕跡があるが、形状は不明である。

ＳＥ726(第62図)　558は弥生土器の底部である。弥生時代後期のものとみられる。

ＳＫ142(第63図)　559～562は土師器皿である。見込み外周に沈線が巡るものがあり、17世紀頃のものとみられる。563・564は磁器椀で、564は染付で円花文を手描きする。肥前系の磁器である。器胎は薄手であり、17世紀後半頃のものである。565・566は土師器焼塩壺である。565は蓋で、内面に布目が残る。566は筒状の身で、口縁端部に蓋受をもつ。567は土師器壺である。568は陶器甕で、信楽系の陶器である。569は陶器蓋で、瀬戸系のものとみられる。

ＳＤ124(第63図)　570は白磁鉢で、肥前系の磁器である。胴部は外反して立ち上がり、口縁端部を上方につまみ上げる。17世紀中葉頃のものとみられる。

(２)瓦(第64～66図)

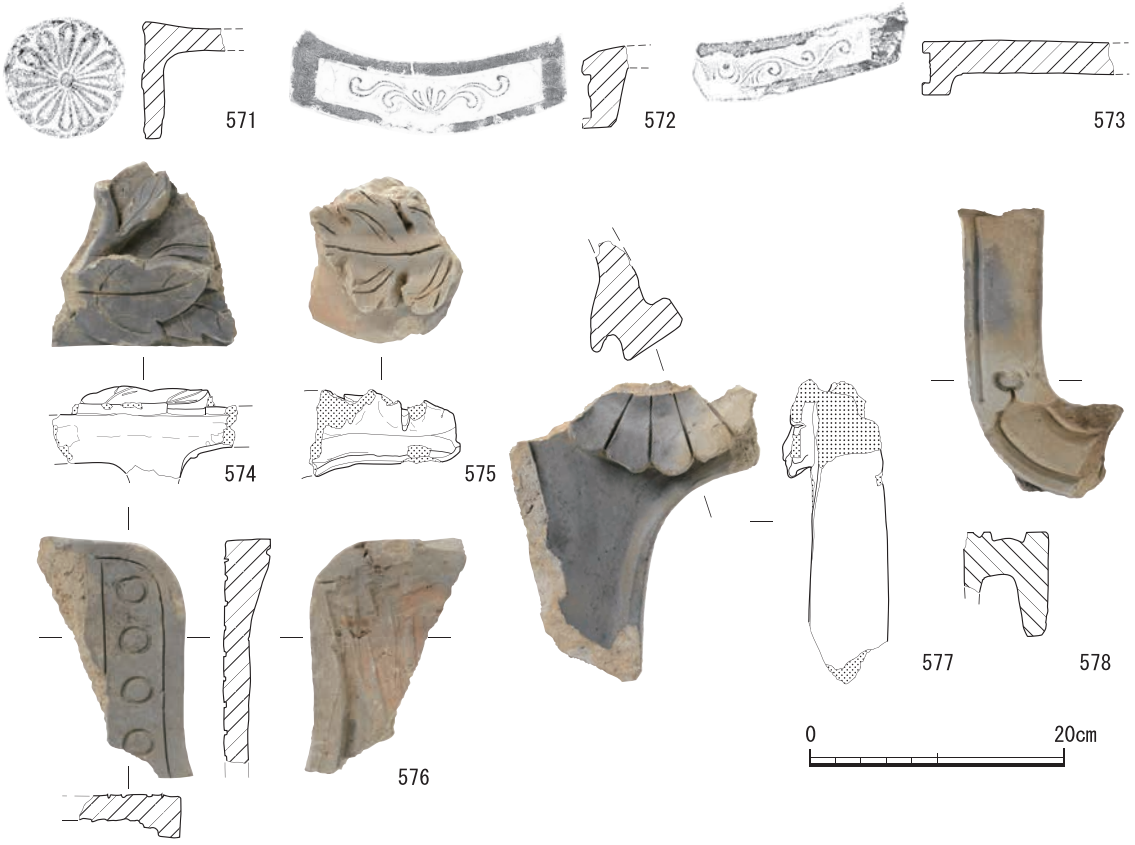
571～578は近世瓦である。571は菊花文軒丸瓦で、棟の側面に装着される飾り瓦である。ＳＫ704から出土した。572は唐草文軒平瓦で、攪乱713から出土した。573は唐草文軒平瓦で、中央に角釘で固定するための穿孔がある。宝珠を中心模様とする。東半部から出土した。574～578は鬼

瓦もしくは獅子口の一部とみられる。574がＳＥ703から、575・577・578はＳＫ526から、576はＳＤ744から出土した。

579～597は古代から中世にかけての瓦である。ほとんどのものが北地区同様、寺町調査後に実施した断ち割りで河川堆積から出土したものである。579は複弁蓮華文軒丸瓦で、中房が二巴文である。12世紀初頭の平等院改修時に使用された軒平瓦と同文で、河内向山窯で生産された瓦である。墓群12から出土した。580は複弁蓮華文軒丸瓦で、中房の周囲に蕊（しべ）を現す。平安時代後期のものとみられる。墓群14のＳＴ256から出土した。581は複弁蓮華文軒丸瓦で、蓮華文の周囲に圏線と珠文が巡る。平安時代後期のものとみられる。582・583は緑釉丸瓦である。法成寺所用の瓦とみられる。582・583は中央部から出土した。584は丸瓦である。断ち割り南部から出土した。

585は唐草文軒平瓦である。瓦当裏に横方向の縄タタキがみられ、亀岡市篠窯業生産遺跡群王子瓦窯で生産された11世紀の瓦とみられる。法成寺関係の瓦と考えられているものである。断ち割り東部から出土した。586も585と同文の唐草文軒平瓦である。ＳＫ139から出土した。587は唐草文軒平瓦である。２トレ３層以下から出土した。588・589は緑釉平瓦である。法成寺所用の瓦と考えられる。

590～597は平瓦である。凸面のタタキは、590は正格子タタキ、592は鋸歯文タタキ、595は斜格子タタキであり、その他は縄タタキである。また、594・596は緑釉瓦であり、法成寺所用の瓦とみられる。



第64図　南地区出土遺物実測図(17)

付表２　南地区近世瓦タイプ別個体数

南地区　ＳＫ526					
種別		個体数	コビキ		刻印
軒丸瓦		231	A		
			B	21	
丸　瓦		2802	A	7	2
			B	637	1
軒平瓦		294	A		
			B	1	
平　瓦		1731	A		1
			B		1
鬼　瓦		18			
その他	磚	0			
	道具瓦	0			
	不　明	173			
	菊花棟丸	171			
	平　安	4			
	鳥フスマ	1			
合　計		5425			

南地区　ＳＸ529					
種別		個体数	コビキ		刻印
軒丸瓦		0	A		
			B		
丸　瓦		0	A		
			B		
軒平瓦		0	A		
			B		
平　瓦		228	A		3
			B		
鬼　瓦		0			
その他	磚	0			
	道具瓦	0			
	不　明	5			
	菊花棟丸	0			
	平　安	0			
	鳥フスマ	0			
合　計		233			

南地区　ＳＸ609					
種別		個体数	コビキ		刻印
軒丸瓦		0	A		
			B		
丸　瓦		105	A		1
			B	14	
軒平瓦		1	A		
			B		
平　瓦		236	A		
			B		
鬼　瓦		0			
その他	磚	0			
	道具瓦	0			
	不　明	20			
	菊花棟丸	7			
	平　安	1			
	鳥フスマ	0			
合　計		370			

南地区　ＳＸ629					
種別		個体数	コビキ		刻印
軒丸瓦		9	A		
			B		
丸　瓦		296	A		
			B		
軒平瓦		9	A		
			B		
平　瓦		795	A		1
			B	1	
鬼　瓦		7			
その他	磚	0			
	道具瓦	0			
	不　明	12			
	菊花棟丸	13			
	平　安	0			
	鳥フスマ	0			
合　計		1141			

南地区　ＳＫ620					
種別		個体数	コビキ		刻印
軒丸瓦		9	A		
			B		
丸　瓦		69	A		
			B	14	
軒平瓦		11	A		
			B		
平　瓦		40	A		
			B		
鬼　瓦		2			
その他	磚	0			
	道具瓦	0			
	不　明	150			
	菊花棟丸	10			
	平　安	0			
	鳥フスマ	0			
合　計		291			

南地区　ＳＸ630					
種別		個体数	コビキ		刻印
軒丸瓦		4	A		
			B	1	
丸　瓦		92	A		
			B	26	
軒平瓦		4	A		
			B		
平　瓦		186	A		
			B		1
鬼　瓦		0			
その他	磚	0			
	道具瓦	0			
	不　明	6			
	菊花棟丸	5			
	平　安	0			
	鳥フスマ	0			
合　計		297			

ＳＸ526出土近世瓦（付表２）　ＳＸ526は、宝永の大火で焼失した建物の瓦を埋納した廃棄土坑とみられる。出土瓦の破片5,425点について観察を行った。やはり丸瓦･平瓦の出土割合が高く、約93％を占める。軒瓦も、丸瓦で約８％、平瓦で約14％含まれている。

この土坑出土瓦で特徴的なのは、丸瓦でコビキＢの痕跡をもつ瓦が多いことである。平瓦では凹凸面共に平滑に調整されているものが多く､確認できたのは１点にすぎない。コビキＢの瓦は、聚楽第築城後に形成された大名屋敷街に使用された瓦で、聚楽第に使用されたコビキＡの瓦よりも新しいものとされる。

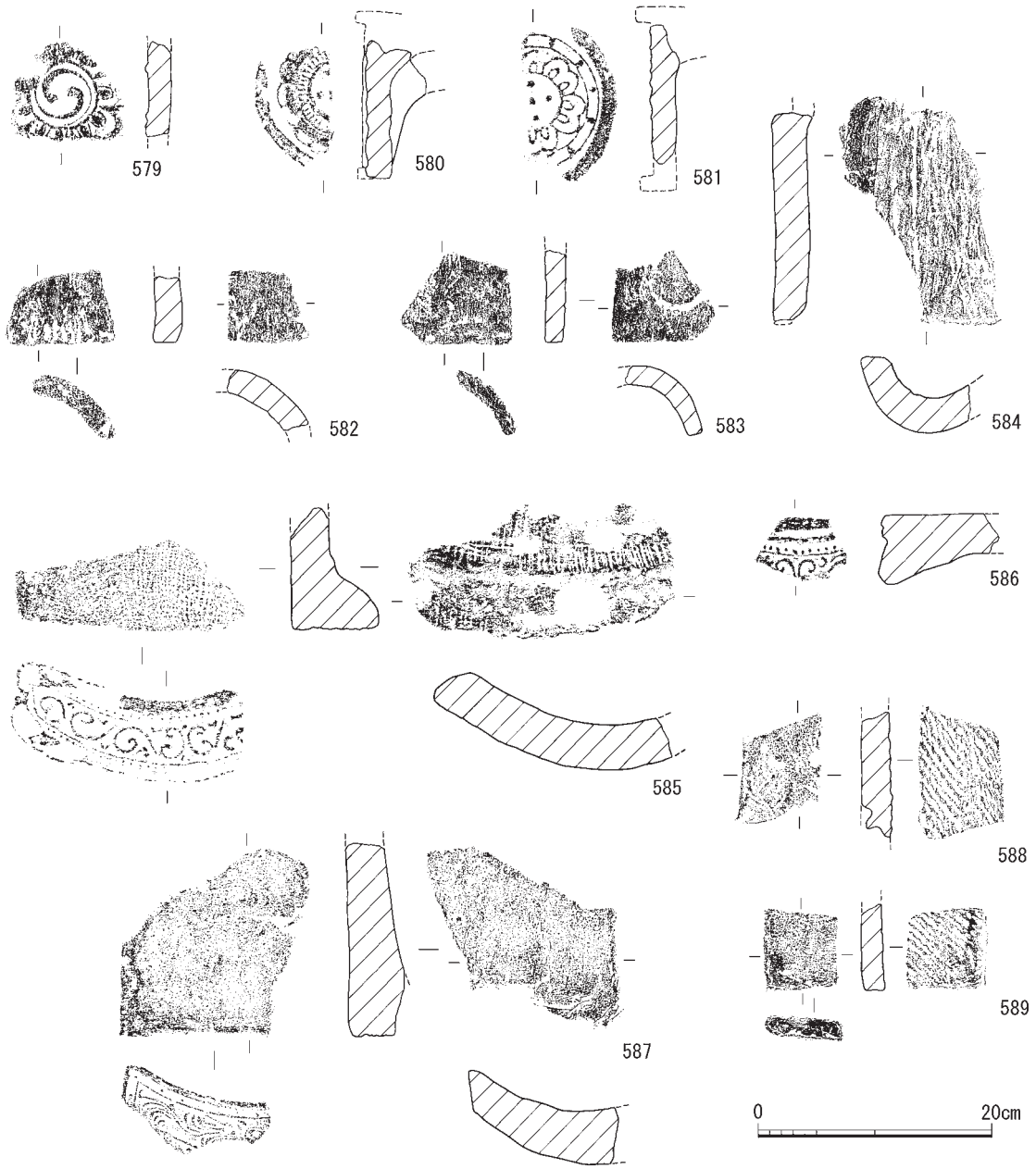
軒瓦を含む丸瓦で、コビキＢの痕跡が確認できたのは約22％である。コビキＡの痕跡をもつ瓦もあるが、ごく少数であり、コビキＢのほうがはるかに多い。この土坑出土の瓦を使用していた建物は、寺町移転後に建造された可能性が高い。

丸瓦・平瓦のほかにも、鬼瓦や鳥衾も出土しており、不明ながら道具瓦に属するとみられる瓦や菊花文棟丸瓦も多数出土している。これらの瓦を使用していた建物が１棟であるのか複数棟で

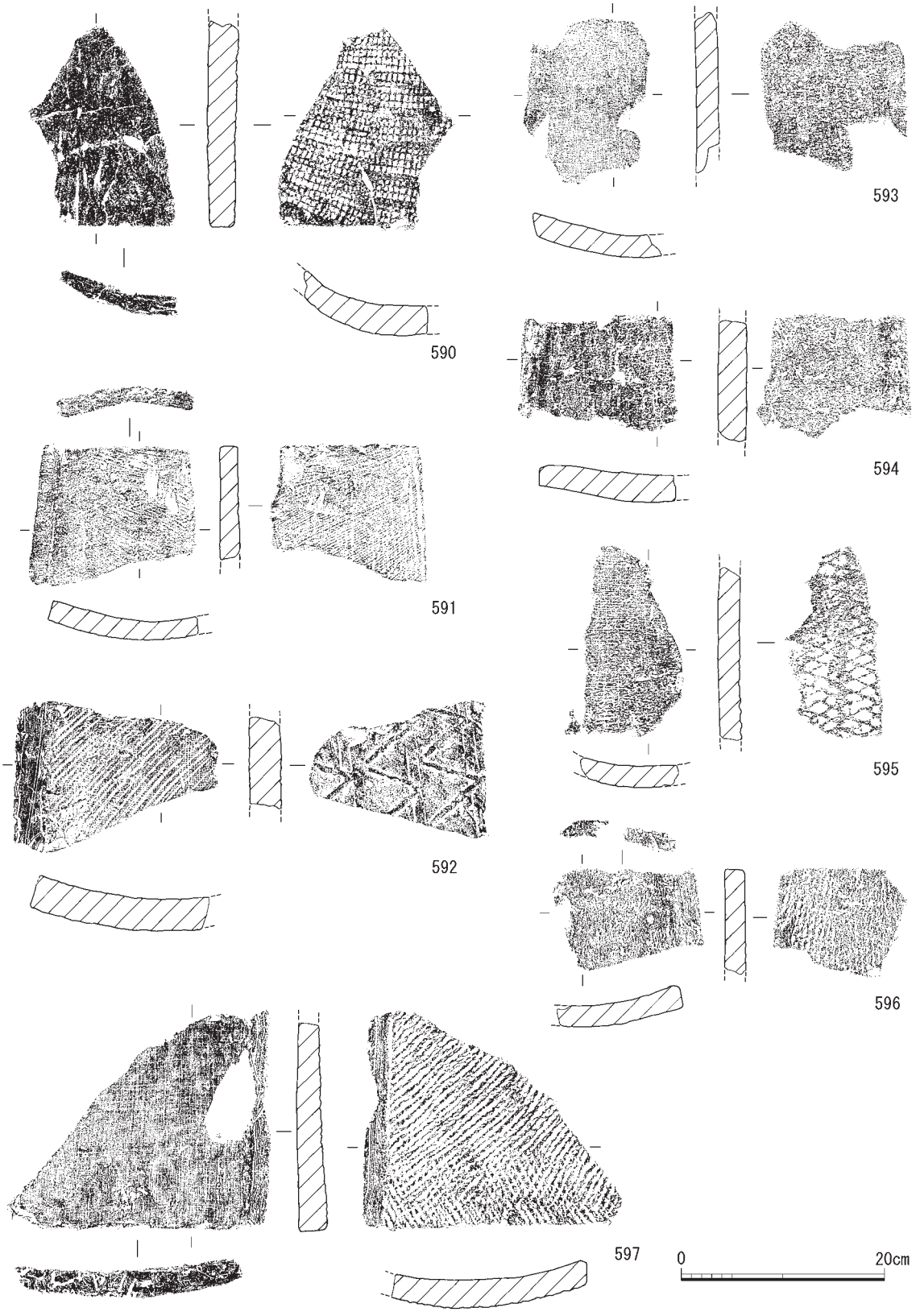
あるのかは別にして、使用された瓦の種類がほぼそろっているといえる。平安時代の瓦については、下層に包含されていたものが混入したものと考えられる。

ＳＸ529出土近世瓦（付表２）　ＳＸ529は寺院関係の建物に伴うとみられる瓦敷遺構である。観察した233点の破片は、ほとんどが平瓦である。コビキの痕跡がみられるものはなかった。

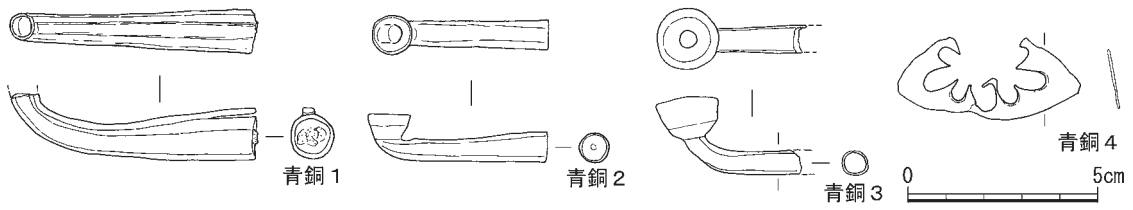
ＳＸ609出土近世瓦（付表２）　ＳＸ609は円形石組遺構で、床面に漆喰を張った遺構である。出土した陶磁器から、18世紀末～19世紀にかけての遺構とみられる。観察した破片数は370点である。丸瓦・平瓦が多い。建物に用いられる瓦の種類がほぼそろっていると言えるが、軒瓦の点数が少ない。丸瓦に14点のコビキＢの瓦が含まれる。丸瓦の13％を占める。コビキＡは認められなかった。



第65図　南地区出土遺物実測図(18)



第66図　南地区出土遺物実測図(19)



第67図　南地区出土遺物実測図(20)

ＳＸ629出土近世瓦（付表２）　ＳＸ629は建物周辺の地業として敷かれたと考えられる遺構である。宝永の大火以後のものと考えられる。-観察した破片数は1,141点である。丸瓦・平瓦をはじめ､建物に用いられる瓦の種類がほぼそろっていると言える。平瓦が丸瓦の約2.7倍を占めるが、これは遺構の性格によるものであろう。コビキの痕跡が確認できる瓦はほとんどなかったが、平瓦で１点のみコビキＢのものを確認した。

ＳＫ620出土近世瓦（付表２）　ＳＫ620は、宝永の大火で焼失した建物の瓦を埋納した廃棄土坑とみられる。なお、この土坑の過半は調査地外となるため、全容が調査できてはいない。観察した破片数は291点である。

用途不明の瓦が多いが、建物に用いられる瓦の種類がほぼそろっていると言える。丸瓦に14点のコビキＢの瓦が含まれている。丸瓦の20％を占める。コビキＡは認められなかった。

ＳＸ630出土近世瓦（付表２）　ＳＸ630は、瓦を列状に並べた土留めの遺構である。遺構の性格上、板状の瓦が多く、利用しにくい鬼瓦や飾り瓦はほとんど用いられない。主に丸瓦・平瓦である。観察した破片数は297点である。

この遺構の瓦では、軒瓦を含む平瓦では、コビキの痕跡は確認できなかった。丸瓦では、軒瓦で１点、通常の瓦で26点のコビキＢの瓦を確認した。軒瓦を含む丸瓦では、約28％を占める。コビキＡの瓦は含まれていない。

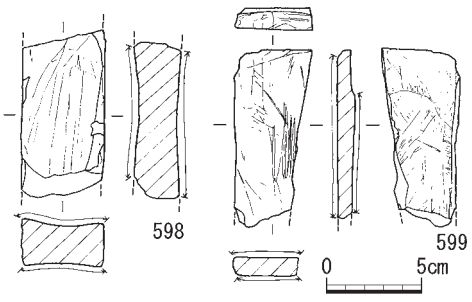
（３）青銅製品（第67図）

青銅１～３は煙管である。青銅２・３は首の立ち上がりが短い。青銅１はＳＸ750、青銅２はＳＫ712、青銅３はＳＫ704出土である。青銅４は飾り金具とみられるが、用途は不明である。ＳＫ712から出土した。

（４）石製品（第68図）

598・599は砥石である。長方形の形状で、両面に使用痕がある。ＳＫ708から出土した。

（引原茂治）

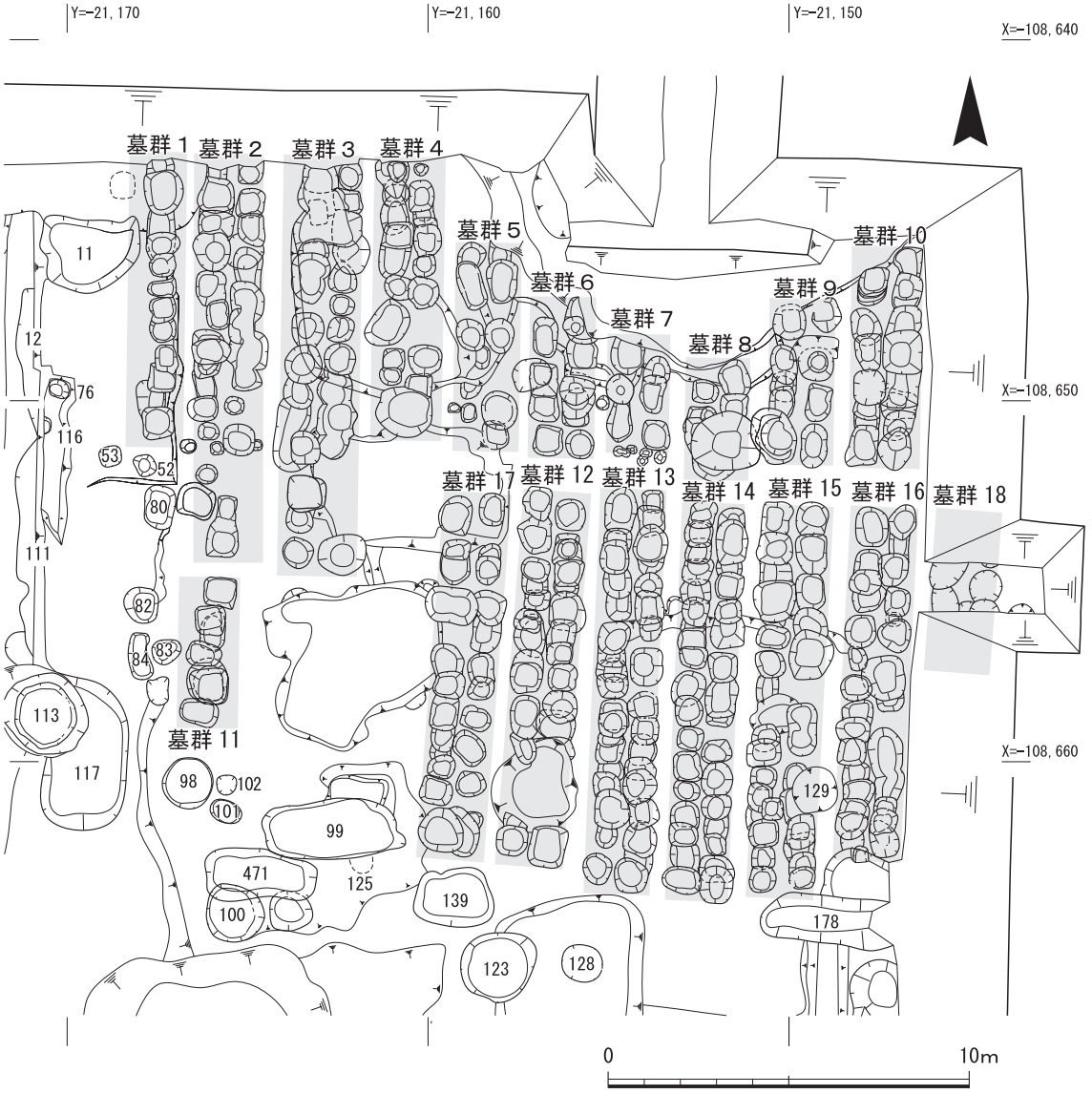


第68図　南地区出土遺物実測図(21)

４）墓地

南地区の東側で墓地を検出した（第69図）。検出した墓地の中で、墓穴の展開する範囲は、東西27.0m以上、南北約20.0m以上に及ぶ。墓穴は南北方向の列状に並び、２列１組で１つの区画を形成する。報告では、この１区画を墓群と呼称する。また、墓群の東側の墓穴列をａ、西側の墓穴列をｂとした。それぞれの墓穴列には最大15基程度の墓穴が並ぶ。墓群は南北２段に分かれ、北側と南側が対称となるように等間隔に並ぶ。北側で10列、南側で８列の墓群を検出した。隣り合う墓群と墓群の間は約0.5m、南北間は約1.0m空間が空く。

今回検出した墓穴の総数は337基である。埋葬方法には、土葬と火葬があり、その大半が土葬である。埋葬施設の種類は、直葬・木棺・木棺＋粘土・甕棺と不明のものがある。木製品の遺存状態は非常に悪く、木棺は釘のみが出土した例が多い。遺存状態が比較的良いものでも、底材とみられる木質が掘形底部にわずかに残る程度で、取り上げは不可能であった。今回、木質が遺存



第69図　南地区墓群配置図

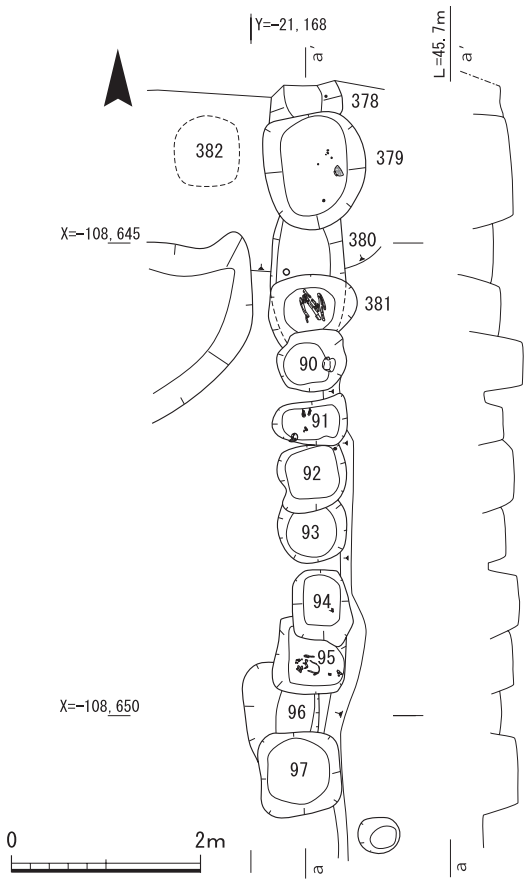
していなくても５本以上の釘が出土した墓穴については、木棺が利用されていたとして整理している。また、人骨の遺存状態も木製品と同様に悪く、埋葬姿勢がわかる墓穴はわずかであった。

墓穴は重なり合って掘られており、平面観察で墓穴の新旧を把握することが難しく、堆積状況や、遺物や人骨の出土状況、遺物の新旧などから総合的に判断した。調査時はａ・ｂの墓穴列ごとに半掘を行い、断面観察を試みたが、人骨の出土状況などから一度に半掘できないものも多くあり、その場合は平面的な人骨の出土状況を捉えることを優先して調査を行った。埋土は、褐色や黄褐色の砂礫層で墓穴ごとに大きな違いはみられない。

（１）墓群１

墓地の北東で検出した墓群である。13基の墓穴を確認した。確認した墓穴列は１列である。墓群の上層と西側を学校校舎基礎によって大きく削平される。確認した墓穴列の西側でも細かな人骨片を確認しており、他の墓群と同様に東西２列の墓群であったと考えられる。埋葬施設の明確な墓穴は確認できなかった。墓群北端の墓穴は調査地外へ広がり、墓群は北へ延びると想定される。墓群の検出長は南北7.71ｍを測る。

墓穴ＳＴ382（第70図）　墓群北側ＳＴ379の西側で検出した。明確な掘形は確認できなかったが、骨片がまとまって出土しており、墓穴があったと想定される。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。



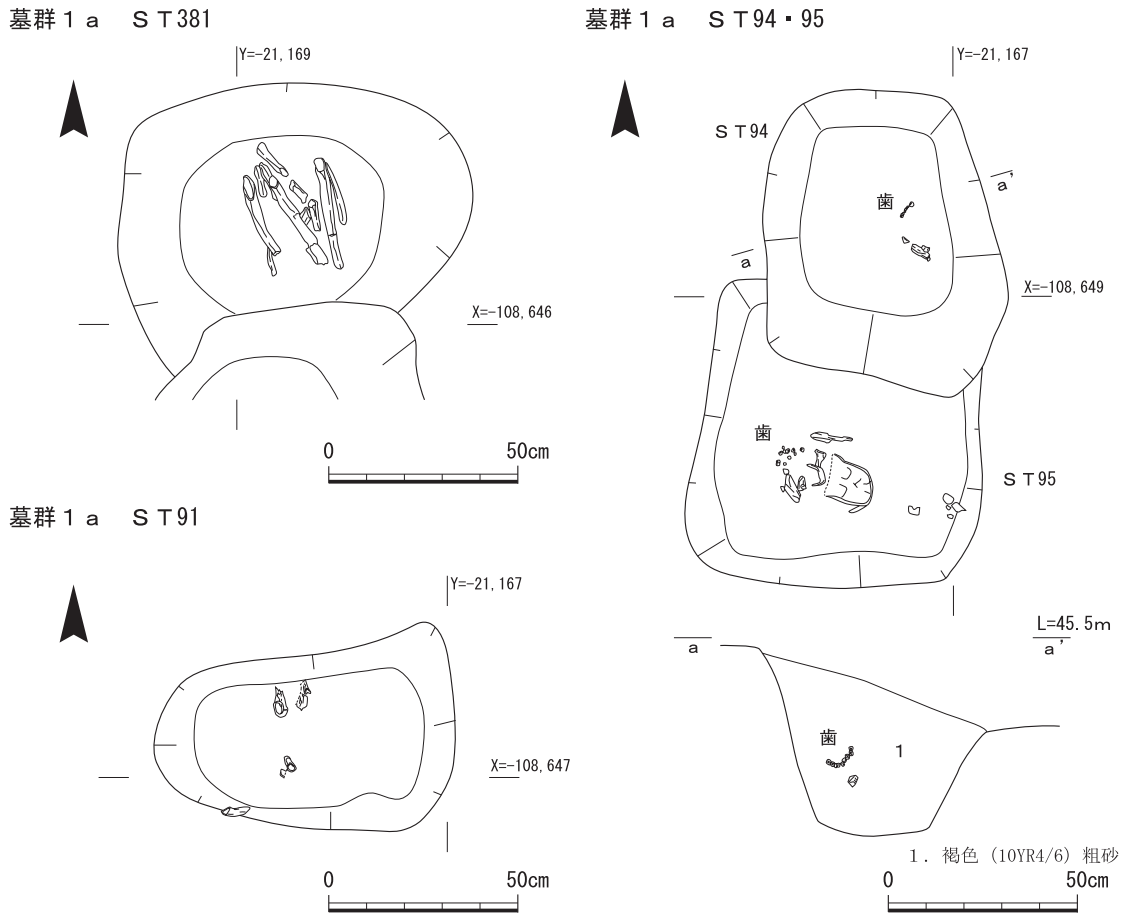
第70図　墓群１　平面・断面図

墓穴ＳＴ378（第70図）　墓群の北端で検出した。南側をＳＴ379によって削平される。北側は調査地外へと広がる。掘形の規模は東西0.75m、南北0.31ｍ以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は念仏銭が出土した。

墓穴ＳＴ379（第70図）　墓群の北側で検出した。ＳＴ378・380を削平して掘られる。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.08m、南北1.22ｍを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付椀のほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ380（第70図）　北側をＳＴ379、南側をＳＴ381によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.65ｍ以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付椀が出土した。

墓穴ＳＴ381（第71図）　南側をＳＴ90に



第71図　墓群１　ＳＴ381・91・94・95実測図

よって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.93m、南北0.60m以上で、平面は歪んだ方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は比較的良好で、長管骨が残る。長管骨は立った状態で出土しており、埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は鉄釘が３本出土しており、掘形壁面と人骨の間に空間があることから、埋葬施設に木棺が使用されたと考えられる。

墓穴ＳＴ90（第70図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北0.65mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良で、頭蓋骨のみが出土した。頭蓋骨は掘形東側中央に位置する。遺物は土師器皿、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ91（第71図）　墓群１ａの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.45mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ92（第70図）　掘形の規模は東西0.72m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は染付椀、寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ93（第70図）　北側をＳＴ93によって削平される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.54m以上を測り、平面は円形ないしは方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿などが出土した。

墓穴ＳＴ94（第71図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.60m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

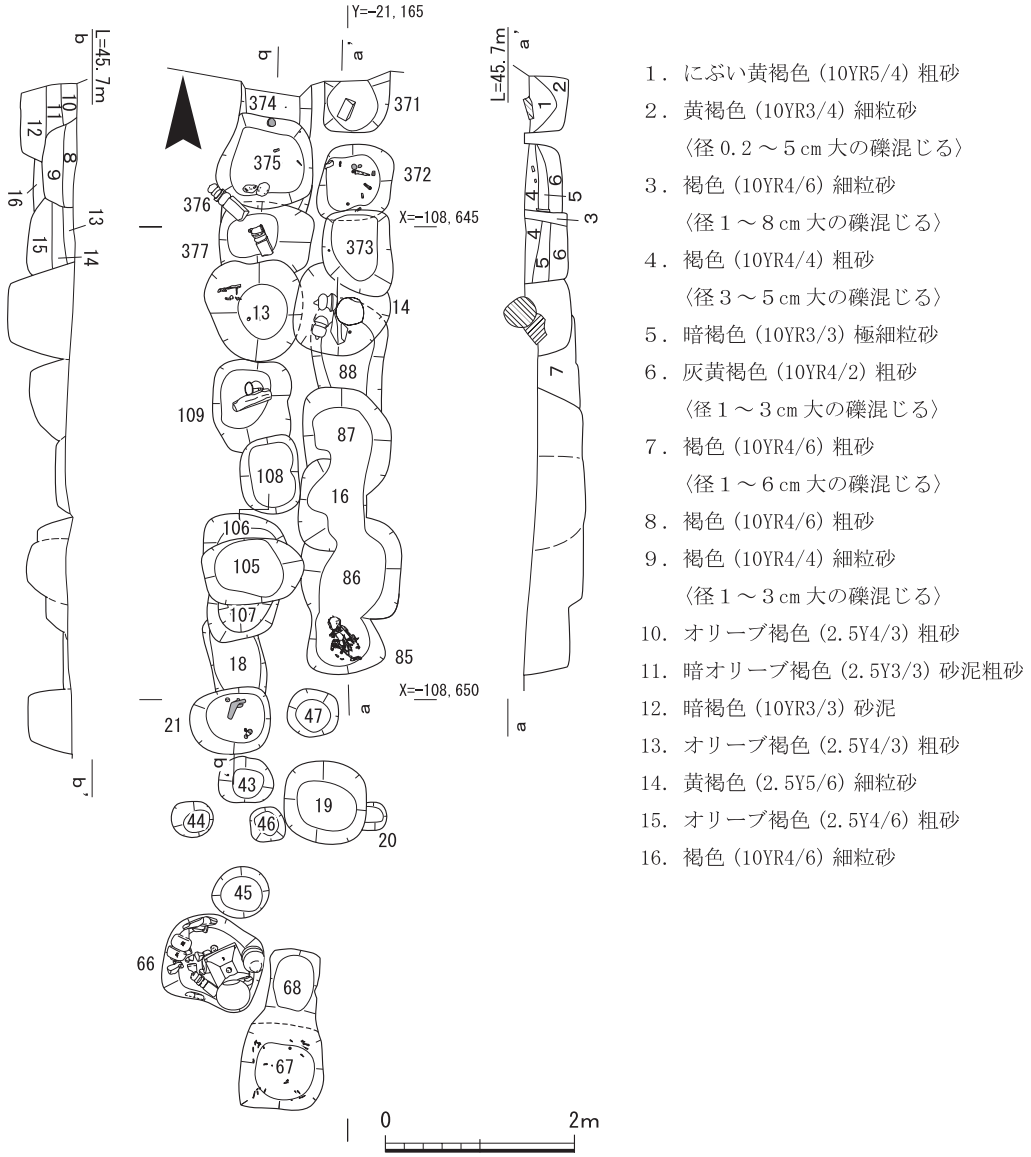
墓穴ＳＴ95（第71図）　北側をＳＴ94によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。頭蓋骨とみられる骨は掘形中央よりやや南に位置する。

墓穴ＳＴ96（第70図）　北側を墓穴ＳＴ95、南側をＳＴ97によって削平される。掘形の規模は東西0.78mを測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ97（第70図）　墓群の南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.86mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

（２）墓群２

墓地の北側に位置し、墓群１の東側で検出した墓群である。北側は調査地外へと広がる。東西２列の墓群で、東側で13基、西側で14基、計27基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用するものは２基、不明が25基である。検出した墓群の東西幅は1.97m、検出長は南北10.87



１．にぶい黄褐色（10YR5/4）粗砂
２．黄褐色（10YR3/4）細粒砂
〈径0.2～５cm大の礫混じる〉
３．褐色（10YR4/6）細粒砂
〈径１～８cm大の礫混じる〉
４．褐色（10YR4/4）粗砂
〈径３～５cm大の礫混じる〉
５．暗褐色（10YR3/3）極細粒砂
６．灰黄褐色（10YR4/2）粗砂
〈径１～３cm大の礫混じる〉
７．褐色（10YR4/6）粗砂
〈径１～６cm大の礫混じる〉
８．褐色（10YR4/6）粗砂
９．褐色（10YR4/4）細粒砂
〈径１～３cm大の礫混じる〉
10．オリーブ褐色（2.5Y4/3）粗砂
11．暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂泥粗砂
12．暗褐色（10YR3/3）砂泥
13．オリーブ褐色（2.5Y4/3）粗砂
14．黄褐色（2.5Y5/6）細粒砂
15．オリーブ褐色（2.5Y4/6）粗砂
16．褐色（10YR4/6）細粒砂

第72図　墓群２　平面・断面図

mを測る。

墓穴ＳＴ374（第72図） 墓群２ｂの北端で検出した。南側をＳＴ375によって削平され、北側は調査地外へと延びる。掘形の規模は東西0.75mを測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ375（第72図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.99m、南北0.95mを測り、平面は方形を呈する。鉄釘が出土しており、埋葬施設には木棺が使用されたと考えられる。人骨の残存状態はやや不良で、頭蓋骨がわずかに残る。頭蓋骨は掘形の南側中央付近に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は漆器椀、煙管が出土した。

墓穴ＳＴ376（第72図） ＳＴ375・377によって上層を大きく削平されており、掘形の形状は不明である。人骨は確認できなかった。

墓穴ＳＴ377（第72図） 南側をＳＴ13によって削平される。掘形の規模は東西0.97m、南北0.62m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺構上面から一石五輪塔（３・４）が出土したが、墓穴との関係性は不明である。人骨は出土していない。遺物は土師器皿、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ13（第72図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.04m、南北1.03mを測り、平面は南西が膨らむ長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ109（第72図） 南側をＳＴ108によって削平される。掘形の規模は東西0.81m、南北0.98mで、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は染付椀、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ108（第72図） 墓群２ｂ中央付近で検出した。掘形の規模は東西0.61m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ106（第72図） 南側の大部分をＳＴ105によって削平される。掘形の規模は東西0.85mを測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ105（第72図） ＳＴ106･107を削平する。掘形の規模は東西1.05m、南北0.70mを測り、平面は東側が膨らむ方形を呈する。人骨は出土しなかった。

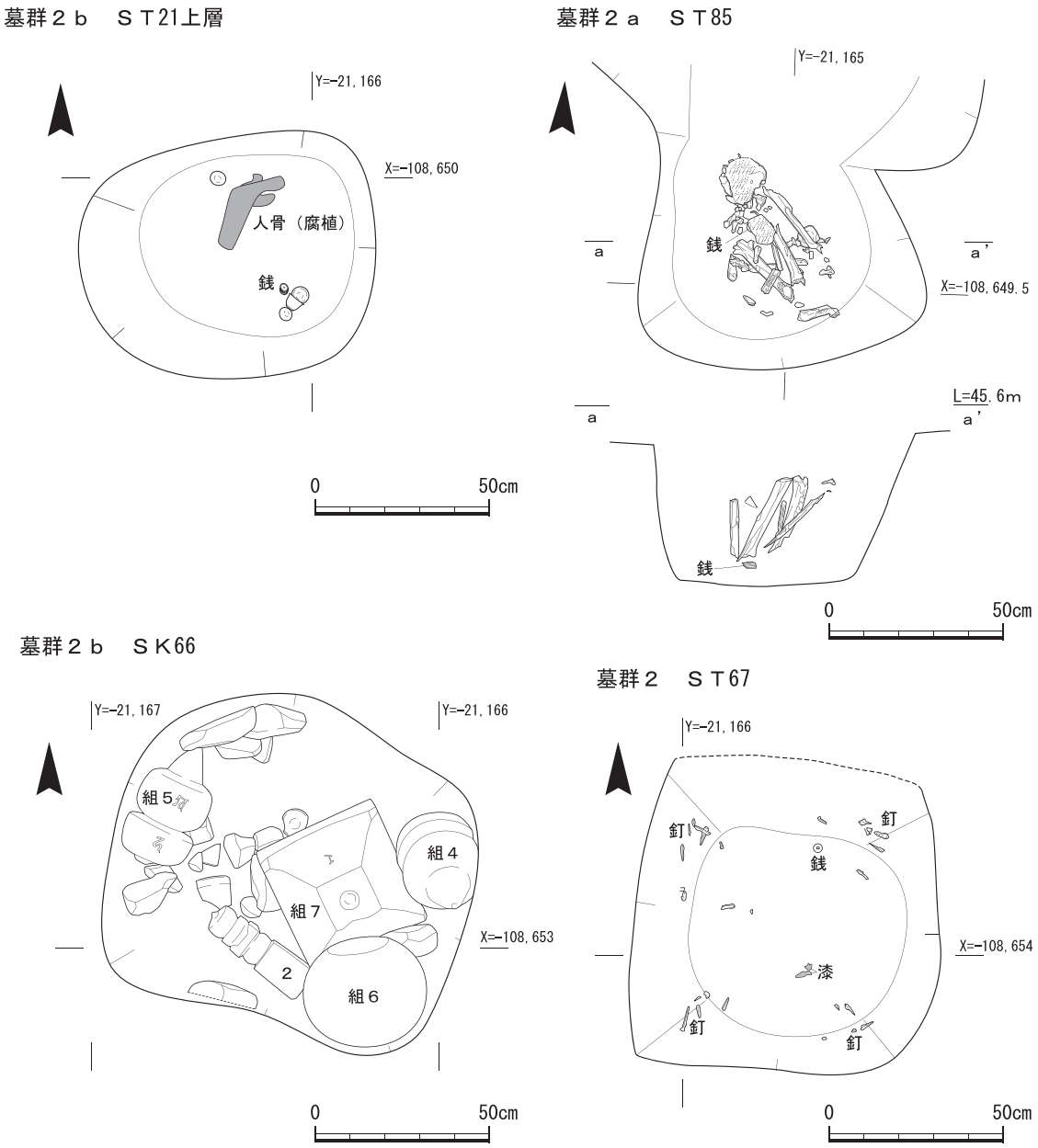
墓穴**ＳＴ107**（第72図） 北側をＳＴ105によって削平される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.52m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ18（第72図） 北側をＳＴ107、南側をＳＴ21によって削平される。掘形の規模は東西0.56m、南北0.39m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は陶器壺、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ21（第73図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.69mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は入子になる白磁小杯、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ43（第72図） 掘形の規模は東西0.58m、南北0.48mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は染付椀、古寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ45（第72図） 掘形の規模は直径0.6m程度を測り、平面は円形を呈する。人骨や遺物



第73図　墓群２　ＳＴ21・85・67・ＳＫ66実測図

は出土しなかったが、墓群西側の墓穴列上にあり、墓穴の可能性が高い。

墓穴ＳＴ371（第72図）　墓群２ａの北端で検出した。掘形北側は調査地外へと広がる。遺構上面で一石五輪塔の地輪（１）が出土したが、墓穴との関係性は不明である。掘形の規模は東西0.68m、南北0.57m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ372（第72図）　南側をＳＴ373によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.80m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は漆片のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ373（第72図）　掘形の規模は東西0.72m、南北0.90mを測り、平面は方形を呈する。人骨は確認できなかった。

土坑ＳＫ14（第72図）　墓群２ａの中央付近で検出した。ＳＴ373に削平され、ＳＴ88を削平する。掘形の規模は東西0.92m以上、南北1.00mを測り、平面は方形を呈するとみられる。埋土中からは、組合式五輪塔の空風輪・水輪が出土した。空輪の形状は頂部が突出し、新しい様相を呈する。また空風輪が２基出土していること、火輪や地輪といったその他の部位が出土していないことから、廃棄されたものと考えられる。人骨は出土しなかった。遺物は、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ88（第72図）　北側をＳＫ14、南側をＳＴ87によって削平される。掘形の規模は東西0.73m、南北0.93m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ87（第72図）　南側をＳＴ16によって削平される。掘形の規模は東西0.93m、南北0.75m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は陶器椀が出土している。

墓穴ＳＴ16（第72図）　掘形の規模は東西0.72m、南北0.90m程度を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ86（第72図）　北側をＳＴ16によって削平される。掘形の規模は東西1.06m程度、南北1.06m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は青磁皿が出土している。

墓穴ＳＴ85（第73図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.66m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の残存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬である。頭蓋骨は掘形の北側に位置する。鉄釘・木質などは出土しておらず、埋葬施設は不明であるが、人骨と掘形壁面との間に空間があり、鉄釘を用いない木棺や早桶などが使用された可能性が考えられる。遺物は磁器椀、数珠が出土している。

墓穴ＳＴ47（第72図）　掘形の規模は東西0.6m、南北0.50mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ19（第72図）　墓群２の南側で検出した。掘形の規模は東西0.87m、南北0.87mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿のほか、鉄釘がわずかに出土している。

土坑ＳＫ66（第73図）　ＳＴ68の西側で検出した土坑である。掘形の規模は東西1.05m、南北0.91mを測り、平面は方形を呈する。組合式五輪塔の空風輪・火輪・水輪のほか、一石五輪塔が出土した。空輪の形状は頂部が突出し、新しい様相を呈する。組合式五輪塔の地輪が出土していないことや、空風輪が２点出土していることから墓石の廃棄土坑と考えられる。人骨や銭貨は出土していない。

墓穴ＳＴ68（第72図）　ＳＴ19の南側で検出した。掘形の規模は東西0.50m、南北0.75m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は確認できなかった。遺物は土師器皿が出土している。

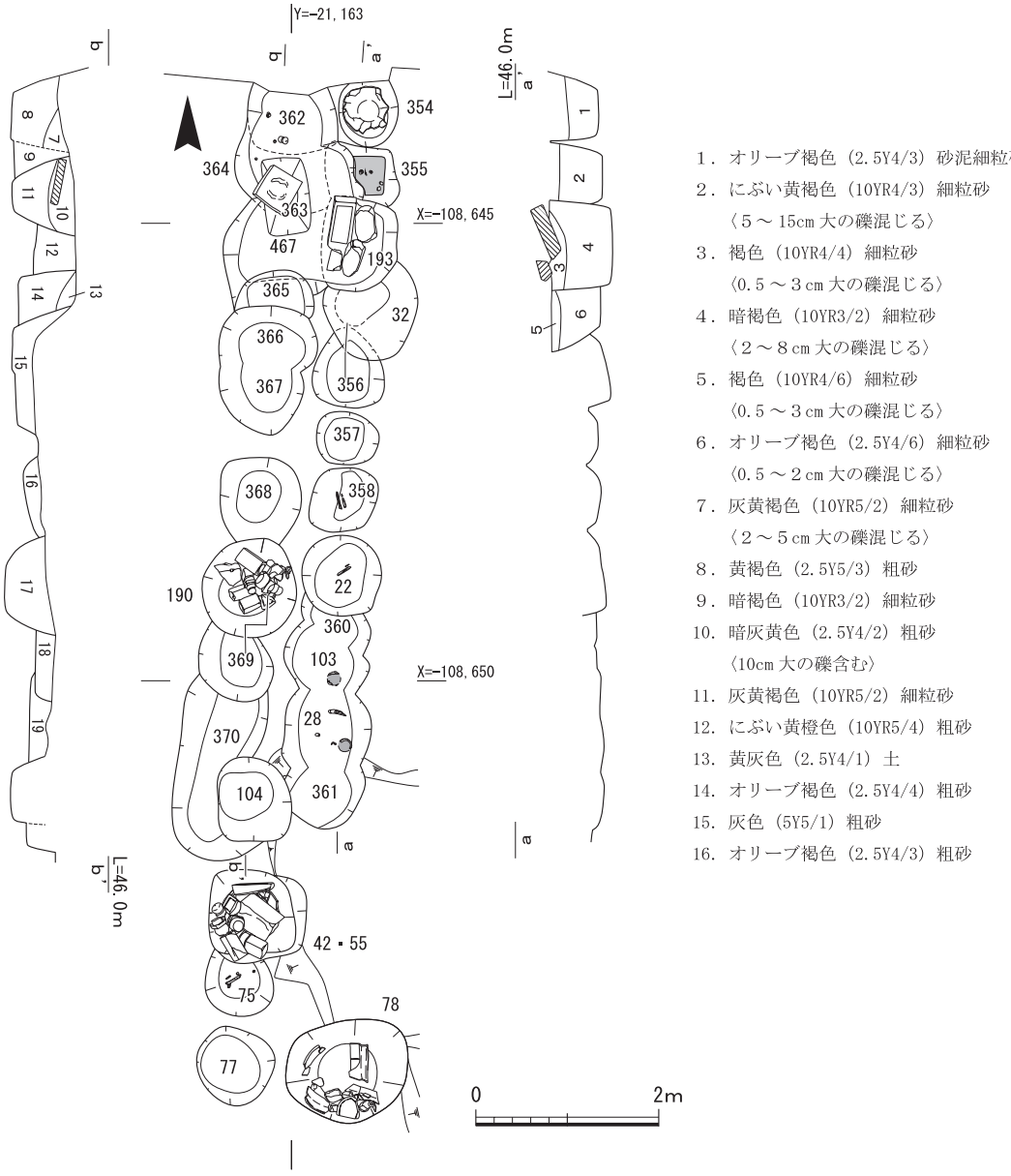
墓穴ＳＴ67（第73図）　墓群２の南端、ＳＴ68の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北0.90m以上を測り、平面は方形を呈する。鉄釘が方形に並んで出土しており、木棺が使用されたと考えられる。鉄釘の出土状況から木棺は一辺0.5m程度の方形と想定される。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

（３）墓群３

墓地の北側に位置し、墓群２の東側で検出した墓群である。墓群の北側は調査地外へと広がる。東西２列の墓群で、西側で17基、東側で13基、計30基の墓穴を確認した。埋葬施設に木棺を使用しているものが４基、甕棺が２基、不明が24基である。検出した墓群の東西幅は1.72～2.30m、南北長は11.41mを測る。

墓穴ＳＴ362（第74図）　墓群３ｂの北端で検出した。掘形北側は調査地外へと広がる。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.96m、南北0.67m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。人骨の遺存状態は不良である。

不明土坑ＳＸ363（第74図）　墓群３ｂの北側で検出した。ＳＴ364･467を削平する土坑である。掘形の規模は東西0.50m、南北0.84mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。埋



第74図　墓群３　平面・断面図

土中から台座７が出土した。台座を廃棄した土坑、もしくは台座の落ち込みに伴う土坑と考えられる。

墓穴ＳＴ364（第74図） 上層をＳＴ364によって削平される。掘形の規模は東西0.94m以上、南北0.65m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は鉄釘、銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ467（第74図） 上層をＳＴ363、南側をＳＴ365によって削平される。掘形の規模は東西1.00m以上、南北0.88m以上を測る。遺物は鉄釘のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ365（第74図） 南側をＳＴ366によって削平される。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.83m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は鉄釘や古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ366（第74図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.06m、南北0.70m以上を測り、平面は方形ないしは楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、染付椀、銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ367（第74図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.90m、南北0.73m以上を測り、平面は方形ないしは円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ368（第74図） 南側をＳＴ190によって削平される。掘形の規模は東西0.88m、南北0.89m以上を測り、平面はやや歪んだ方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は青銅製品が出土した。

墓穴ＳＴ190（第75図） 墓群３ｂの中央付近で検出した。ＳＴ368・369を削平して掘られる。掘形の規模は東西1.03m、南北1.08mを測り、平面は円形を呈する。埋土中から、一石五輪塔をはじめとする墓石が８基出土した。墓石には一石五輪塔の地輪部のみや、舟形墓標の頂部のみのように破片の出土もあり、廃棄されたものと考えられる。人骨は出土しなかったが、墓群西側の墓穴列上に掘られており、落ち窪んだ墓穴を廃棄土坑として利用したと想定される。遺物は土師器皿、銭貨などが出土した。

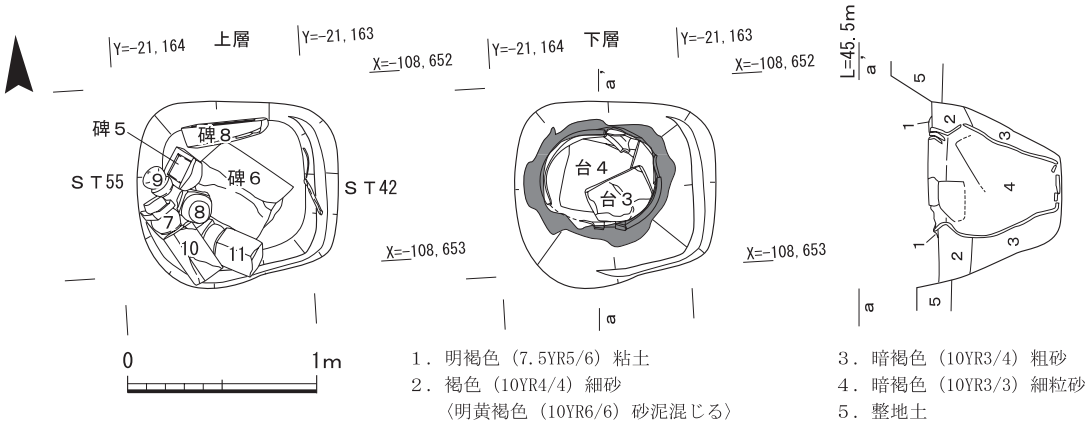
墓穴ＳＴ369（第74図） 北側をＳＴ190によって削平される。掘形の規模は東西0.85m、南北0.72m以上を測り、平面は楕円形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ370（第74図） 北側をＳＴ369、南側をＳＴ104によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.91m、南北1.76m以上を測り、平面は南北に長い楕円形を呈するが、地山が軟弱な砂層のため壁面が崩落しており、輪郭は明確でない。底部の形状から、複数の墓穴が結合していると考えられる。人骨の遺存状態は不良で、掘形内全体から骨片が出土した。

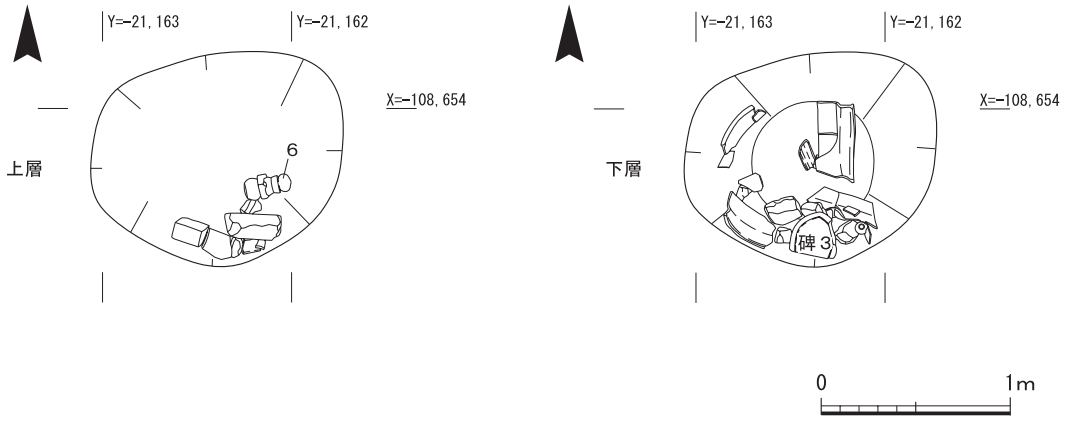
墓穴ＳＴ104（第74図） 墓群３の南側で検出した。墓群東側と西側の中央付近に位置し、ＳＴ361・370を削平して掘られる。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.91mを測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ42（第75図） 埋葬方法は土葬である。大部分をＳＴ55によって削平されており、東側の一部のみを確認した。掘形の規模は東西0.90m以上、南北0.87m以上を測り、平面は方形を

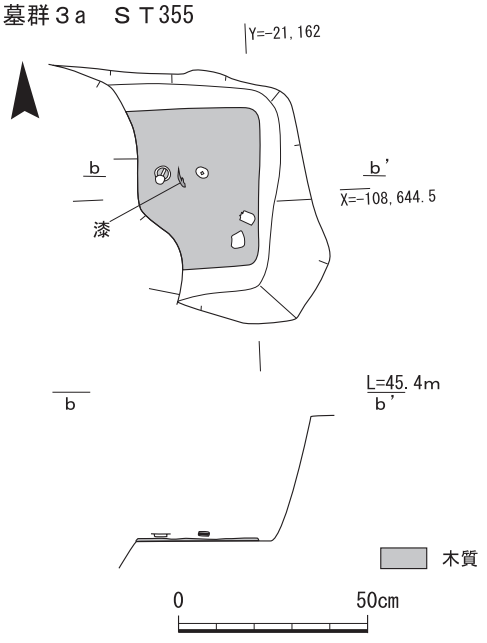
墓群３ｂ　ＳＴ42・55



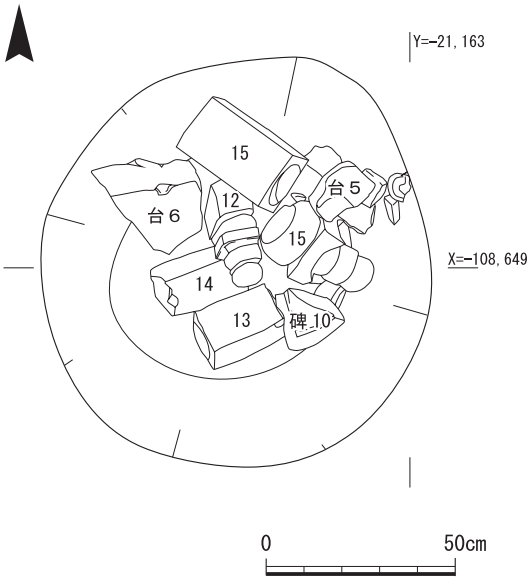
墓群３　ＳＫ78



墓群３ａ　ＳＴ355



墓群３ｂ　ＳＴ190



第75図　墓群３　ＳＴ42・55・190・355・ＳＫ78実測図

呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良で、わずかに長管骨が遺存していた。

墓穴ＳＴ55（第75図）　墓群３の南側で検出した。埋葬方法は不明である。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.92mを測り、平面は方形を呈する。上層から一石五輪塔・板碑などの墓石が８基まとまって出土した。また甕棺の内部には台座が落ち込んでいる。台座が２基出土していることや、上層の墓石の数に対して隣接する墓穴が少ないことなどから、甕棺埋葬後しばらくして廃棄土坑として利用されたと考えられる。掘形の埋土は明黄褐色の砂泥が混じる褐色細砂である。甕棺内の埋土は暗褐色の細粒砂で、甕棺底部付近と台座周辺の埋土に違いがみられず、墓石廃棄の際に流入した可能性が高い。甕棺の口縁部の周囲には明褐色の粘土が残存しており､蓋を固定していたと考えられる。甕棺の蓋には円形の板が用いられたと考えられるが、埋土中から木質等は出土していない。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ75（第74図）　北側をＳＴ55によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.74m、南北0.57m以上の円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ77（第74図）　墓群３の南端で検出した。掘形の規模は東西0.82m、南北0.73mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

土坑ＳＫ78（第75図）　墓群３の南端、ＳＴ77の東側で検出した。掘形の規模は東西1.31m、南北1.01mを測り、平面は楕円形を呈する。埋土中から、墓石のほか甕棺の破片、瓦片などが出土した。甕棺は廃棄されたものと考えられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ354（第74図）　墓群３ａの北端で検出した。掘形の北側は一部調査地外へと広がる。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.65m、南北0.70m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。上層を後世の攪乱により削平されており、甕棺は底部付近のみが遺存する。人骨は出土しなかった。遺物は、土師器皿やミニチュア土器が出土した。

墓穴ＳＴ355（第75図）　西側をＳＴ364、南側をＳＴ355によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.46m以上、南北0.57m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。掘形底部に東西0.35m程度、南北0.4mの方形の範囲に木質が遺存しており、木棺の底板とみられる。鉄釘は出土していない。人骨の遺存状態は不良である。遺物は漆細片、銅製品、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。いずれも木質上から出土しており棺内遺物とみられる。

土坑ＳＫ193（第74図）　ＳＴ32・355を削平する。掘形の規模は東西0.71m以上、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈する。埋土中から櫛形墓標が１基出土したほか、台座の破片とみられる長辺0.35m大の石が出土した。墓石廃棄に伴う土坑と考えられるが、墓群東側墓穴列上にあり、落ち窪んだ墓穴を利用した可能性が考えられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ32（第74図）　北側をＳＫ193によって削平される。掘形の規模は東西1.03m、南北1.03m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ356（第74図）　北側をＳＴ32によって削平される。掘形の規模は東西0.76m、南北0.80m以上を測り、平面は不定形である。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ357（第74図）　掘形の規模は東西0.68m、南北0.57mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

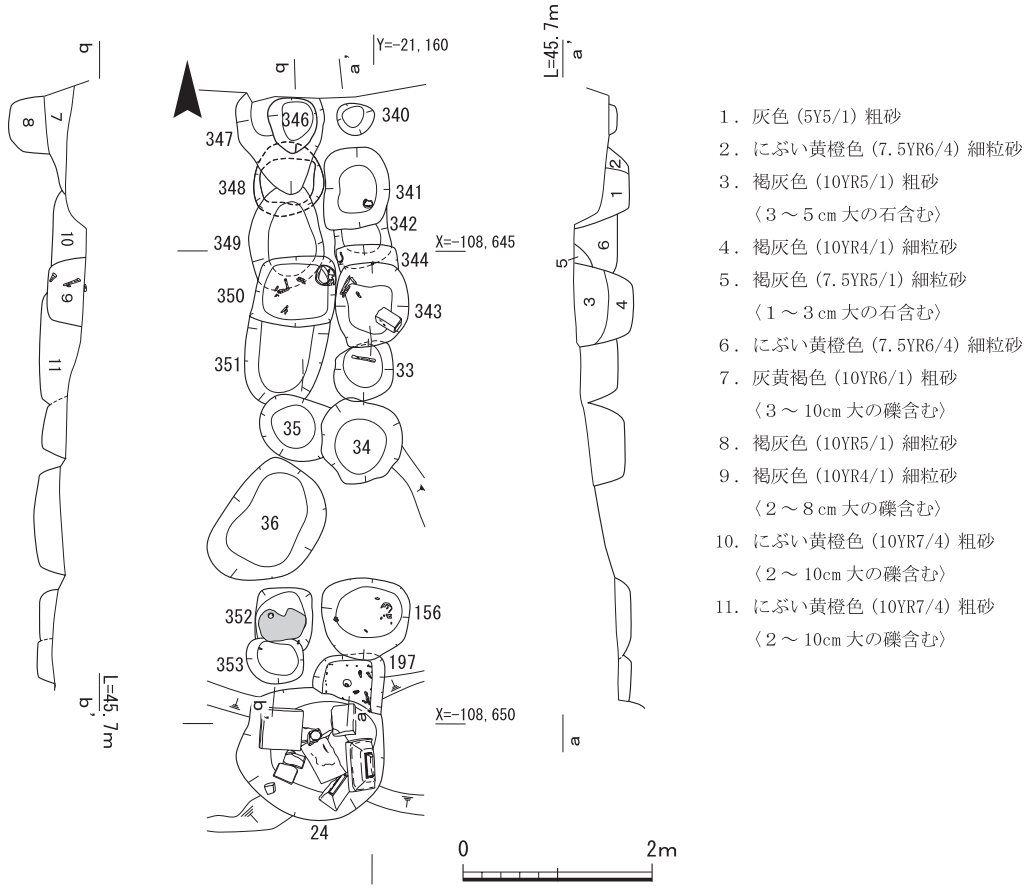
墓穴ＳＴ358（第74図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.70m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ22（第74図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北0.88mを測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ360・103・28・361（第74図）　掘形の規模は東西0.69～0.95mを測る。掘形が崩落しており、それぞれの明確な輪郭を確認できなかった。人骨の出土状況や、掘形の平面形などから４基の墓穴が重なりあって存在するとみられる。北端のＳＴ360はＳＴ22によって削平される。埋葬方法はすべて土葬である。人骨の遺存状態はやや不良である。ＳＴ103・28からは頭蓋骨が出土した。出土した頭蓋骨はそれぞれの掘形の東寄りに位置する。埋葬姿勢は不明である。ＳＴ360からは、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

（４）墓群４

墓地の北側に位置し、墓群３の東側で検出した墓群である。墓群の北側は調査地外へ広がる。東西２列の墓群で、東側で10基、西側で９基、計19基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に木棺を使用するものは３基、木棺直下に粘土を敷くものが１基、不明が15基である。検出した墓群



第76図　墓群４　平面・断面図

の東西幅は1.68m、南北長は7.64mを測る。

墓穴ＳＴ346（第76図） 墓群４ｂの北端に位置し、ＳＴ347の上層で検出した。掘形の規模は東西0.5m、南北0.57mを測り、平面は円形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ347（第76図） 墓群４ｂの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形北側は調査地外へ広がる。掘形の規模は東西0.92m、南北1.05m以上を測り、平面は不定形である。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ349（第76図） 北側の一部をＳＴ348、南側をＳＴ350によって削平される。掘形の規模は東西0.75m、南北0.97m以上を測り、平面は楕円形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ350（第77図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.83m、南北0.74mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。掘形上面北東隅から陶器壺が出土した。壺の上部は欠損する。中には火葬骨が納められる。壺に伴う掘形は確認できなったが、ＳＴ350を削平する上層の遺構と考えられる。

墓穴ＳＴ351（第76図） 埋葬方法は土葬である。北側をＳＴ350によって削平される。掘形の規模は東西0.84m、南北0.84m以上を測り、平面は楕円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ35（第76図） 東側をＳＴ34によって削平される。掘形の規模は東西0.65m以上、南北0.68mを測り、平面は円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿、銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ36（第76図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.00m、南北1.32mを測り、平面は楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ352（第76図） 南側をＳＴ353によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.60m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈する。掘形底部で東西0.5m、南北0.3m程度の不定形な範囲に木質が遺存していた。木棺の底板と考えられるが、鉄釘は出土していない。人骨の遺存状態は不良である。遺物は白磁小杯のほか新寛永通寶を含む銭貨が出土した。白磁小杯は底板直上から出土しており、棺内に納められたと考えられる。

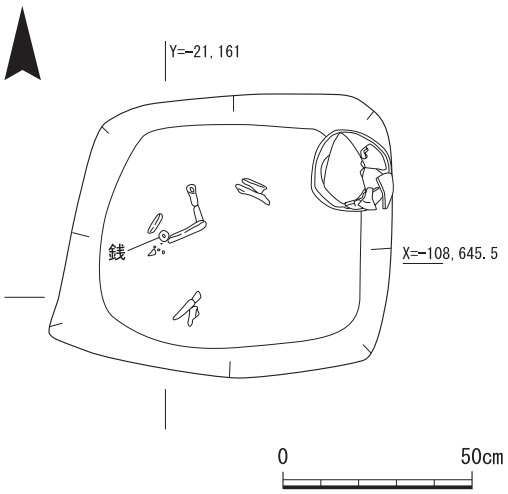
墓穴ＳＴ353（第76図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.60m、南北0.48m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ340（第76図） 墓群４ａの北端で検出した。掘形の規模は東西0.39m、南北0.35mを測り、平面は円形を呈する。検出した掘形は他の墓穴と比べて小さいが、墓穴列上に位置するため墓穴と考えられる。人骨は出土しなかった。

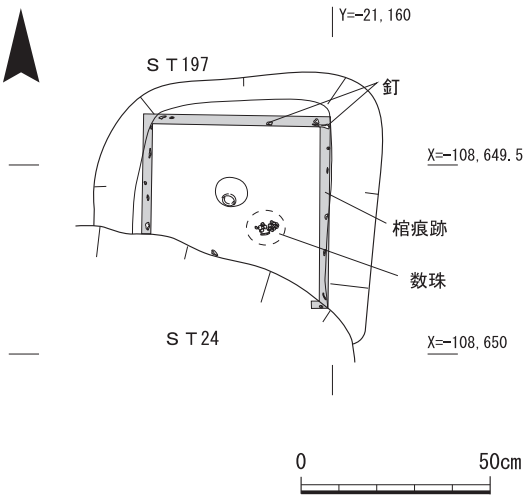
墓穴ＳＴ341（第76図） 掘形の規模は東西0.68m、南北0.84mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は陶器椀が出土した。

墓穴ＳＴ342（第76図） 北側をＳＴ341、南側をＳＴ344によって削平される。掘形の規模は東西0.57m、南北0.42m以上を測る。人骨は出土しなかった。

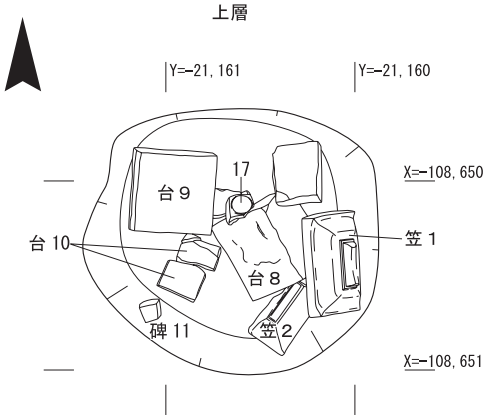
墓群４ｂ　ＳＴ350

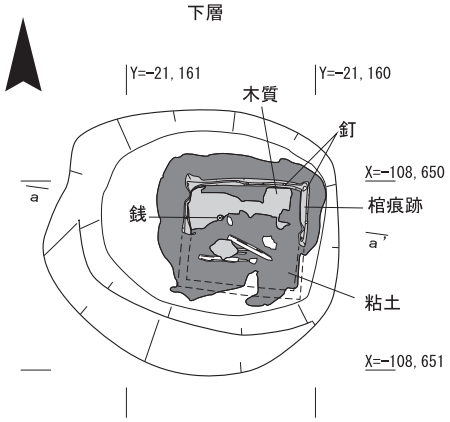


墓群４ａ　ＳＴ197

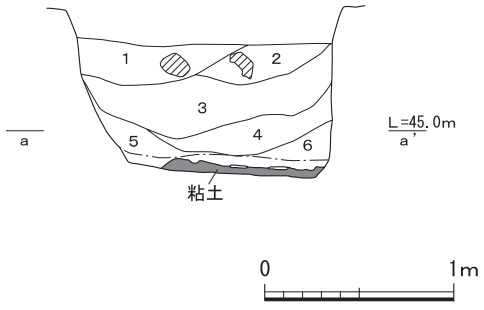


墓群４　ＳＴ24





１．にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂
〈１cm程度の石含む〉
２．暗褐色（10YR3/4）細～中粒砂
〈0.5～３cm程度の石含む〉
３．にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト混じる細粒砂
〈0.5～１cmの石多く含む〉
４．暗褐色（10YR3/4）細粒砂質中粒砂
〈１～５cmの石含む〉
５．にぶい黄褐色（10YR5/4）中粒砂
６．にぶい黄褐色（10YR4/3）中粒砂
〈0.5～１cmの石多く含む〉



第77図　墓群４　ＳＴ350・197・24実測図

墓穴ＳＴ344（第76図） 南側をＳＴ343によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.63m、南北0.19m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ343（第76図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.87mを測り、平面は南側が歪んだ方形を呈する。埋土上面から一石五輪塔の地輪(18)が出土した。人骨の遺存状態は不良である。遺物は、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ33（第76図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.63m、南北0.58mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ34（第76図） 掘形の規模は東西0.84m、南北0.85mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿､磁器小杯のほか､古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

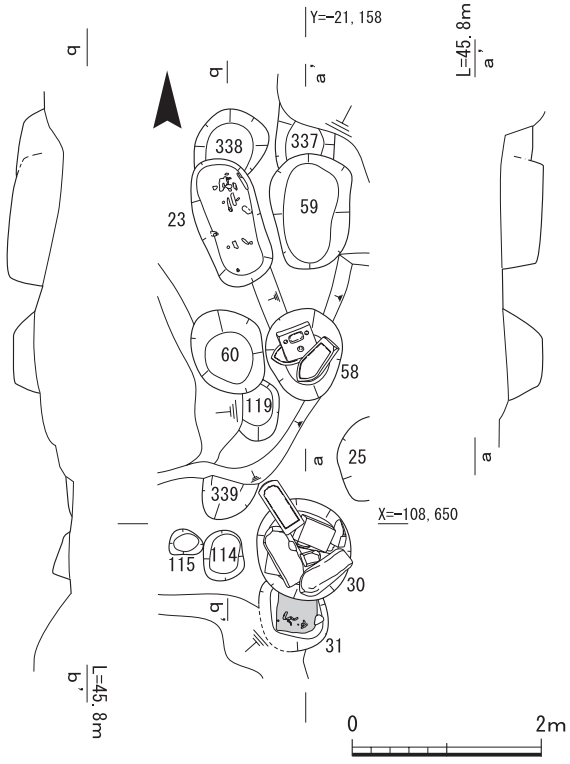
墓穴ＳＴ156（第76図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.86mを測り、平面は南側が膨らむ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ197（第77図） 掘形南側をＳＴ24によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.52m以上を測り、平面は方形を呈する。掘形底部に方形の棺痕跡が残る。棺痕跡に沿うように鉄釘が方形に並んで出土した。木棺の規模は一辺0.5m程度とみられる。人骨の遺存状態は不良である。棺痕跡内中央付近から白磁碗・木製の数珠が出土したほか、古寛永通寶を含む銭貨や青銅製品が出土している。

墓穴ＳＴ24（第77図） 墓群４の南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.56m、南北1.40mを測り、平面は方形を呈する。掘形上層から台座や笠部などの墓石がまとまって出土した。墓石は笠部や台座がそれぞれ複数基出土しており、廃棄されたものとみられる。掘形底部の中央よりやや東寄りに粘土が敷かれる。粘土は明褐色で、東西0.65～0.9m、南北0.8mの方形の範囲に、厚さ５～10cmにわたって堆積していた。粘土の上面には東西0.60m、南北0.55mに木棺の痕跡が残る。棺痕跡上から鉄釘が並んで出土した。人骨の遺存状態は不良で、棺痕跡の内側にわずかに遺存する。掘形埋土はにぶい黄褐色または暗褐色の細～中粒砂である。第１・２層は墓石の破片を含み、墓穴埋没後に掘られた墓石廃棄土坑の埋め土とみられる。第３～６層は木棺埋葬時の掘形埋土と、木棺が腐植し墓穴が落ち窪んだ後の埋め土と考えられる。粘土郭を持つ埋葬施設と考えられるが、上層の埋土には粘土塊は含まれず、底部のみに粘土を敷いていた可能性が高い。粘土郭直上木棺痕跡内から古寛永通寶を含む銭貨が出土したほか、土師器皿や陶器椀が出土している。

（５）墓群５

墓地の北側に位置し、墓群４の東側で検出した墓群である。墓群の北側は後世の攪乱によって削平される。墓群４と同様に、北側へ広がると考えられる。東西２列の墓群で、東側で５基、西側で６基、計11基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に木棺を使用するものは１基、不明が10基である。検出した墓群の東西幅は1.70m、南北長は5.75mを測る。



第78図　墓群５　平面・断面図

墓穴ＳＴ338（第78図）　墓群５ｂの北端で検出した。南側をＳＴ23によって削平される。掘形の規模は東西0.56m、南北0.58m以上を測り、平面は円形ないしは方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ23（第79図）　墓群５ｂで検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.68m、南北1.28mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。人骨は掘形内全体で出土しているが、掘形北側に長管骨のまとまりがみられる。埋葬姿勢は不明である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ60（第78図）　墓群５ｂの中央付近で検出した。掘形の規模は東西0.74m、南北0.86mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ119（第78図）　西側を後世の攪乱に、北側をＳＴ60によって削平される。掘形の規模は東西0.36m以上、南北0.60m以上を測り、平面は円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ339（第78図）　北側を後世の攪乱によって削平される。掘形の規模は東西0.54m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ114（第78図）　墓群５ｂの南端で検出した。掘形の規模は東西0.40m、南北0.54mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

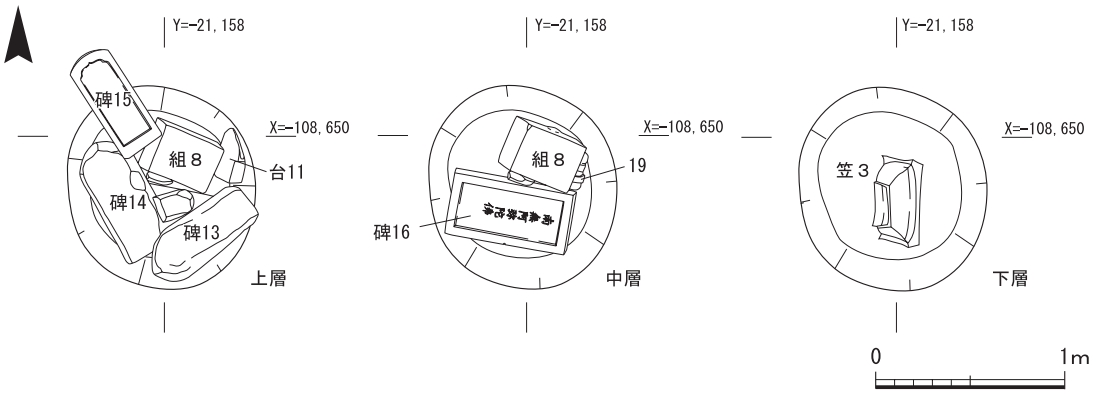
墓穴ＳＴ337（第78図）　墓群５ａの北端で検出した。北側を後世の攪乱に、南側をＳＴ59によって削平される。掘形は東西0.62m、南北0.60m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ59（第78図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北1.10mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は、土師器皿や鉢、陶器椀が出土している。

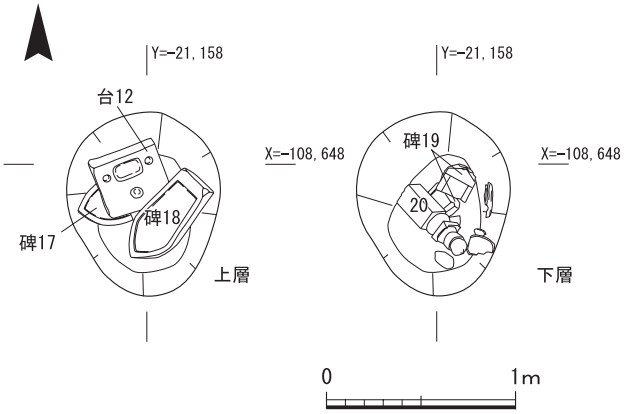
墓穴ＳＴ58（第79図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.42m、南北0.47mを測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良で、掘形底部東側にわずかに遺存する。掘形内から台座や舟形墓標、一石五輪塔などの墓石５基が出土した。墓群内のその他の墓穴と掘形規模が大きく違わないことから、墓穴の落ち窪みを利用して廃棄されたと推定される。その他の遺物として、古寛永通寶を含む銭貨が出土している。

土坑ＳＫ30（第79図）　墓群５ａで検出した。掘形の規模は東西0.50m、南北0.56mを測り、平

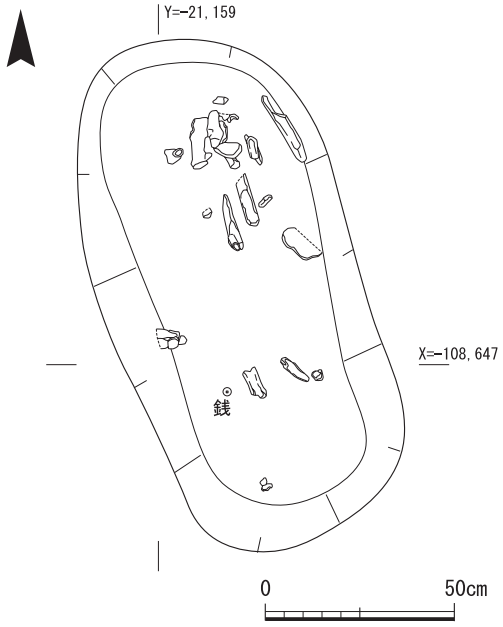
墓群５ａ　ＳＫ30



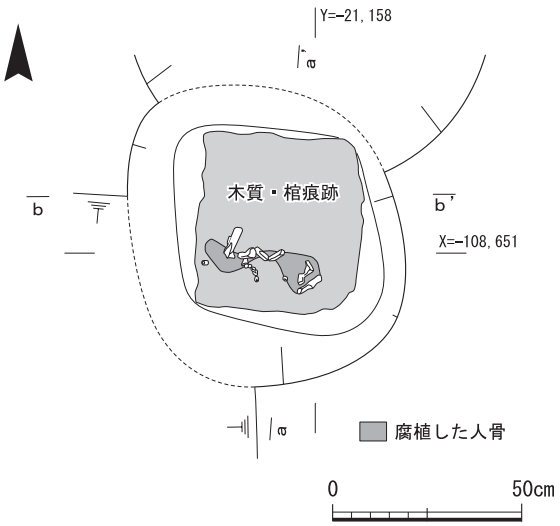
墓群５ａ　ＳＴ58

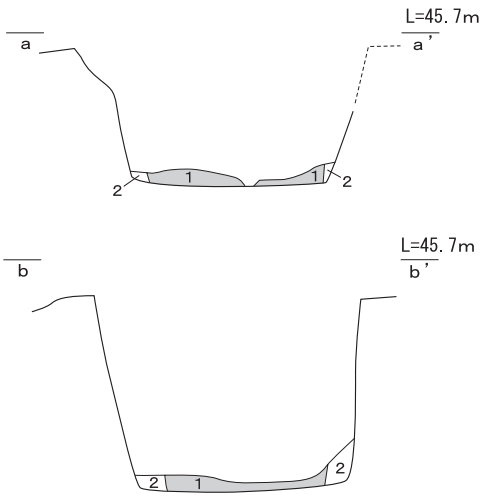


墓群５ｂ　ＳＴ23



墓群５ａ　ＳＴ31





１．黒褐色（10YR3/1）土〈木質・棺痕跡〉
２．褐色（10YR4/4）細粒砂
〈0.5cm 大の石含む・棺周囲の埋土〉

第79図　墓群５　ＳＫ30・ＳＴ58・23・31実測図

面は円形を呈する。掘形内からは笠部、笠塔婆、舟形墓標などの墓石が重なり合って９基出土した。一石五輪塔の破片や組合式五輪塔の地輪部のみが出土していることから、廃棄されたものとみられる。人骨は出土しなかった。

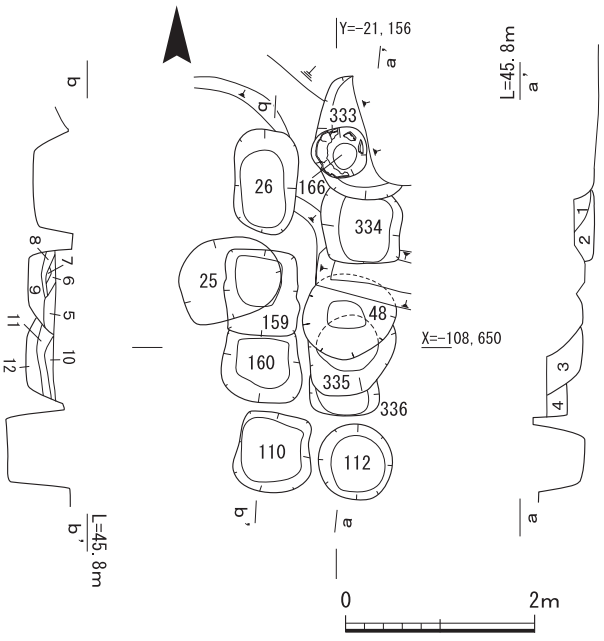
墓穴ＳＴ31（第79図）　墓群５ａの南端で検出した。南側を後世の攪乱に、北側の一部をＳＫ30によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.72m程度、南北0.80m以上を測り、平面は方形を呈する。掘形底部中央に木質が遺存していた。木質は東西0.44m、南北0.47m、厚さ0.05mの方形を呈する。木棺の底板と考えられる。その直上に人骨がわずかに遺存していた。鉄釘は出土しておらず、木棺の構造は不明である。遺物は土師器皿が出土した。

（６）墓群６

墓地の北側､墓群５の東側で検出した墓群である。墓群の北側は後世の攪乱によって削平され、北端を確認することはできなかったが､さらに北へ広がるものと考えられる。東西２列の墓群で、東側で７基、西側で５基、計12基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に甕棺を使用するものは１基、不明が10基である。検出した墓群の東西幅は1.79m、南北長は4.48mを測る。

墓穴ＳＴ26（第81図）　墓群６ｂの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.65m、南北1.09mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は白磁椀、銭貨が出土した。

土坑ＳＫ25（第80図）　ＳＴ159の上層で検出した。ＳＴ159の上面を一部削平して掘られる。掘形の規模は東西1.07m、南北0.85mを測り、平面は楕円形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿や箱庭道具、泥面子などが出土した。寺院移転後の遺構と考えられる。



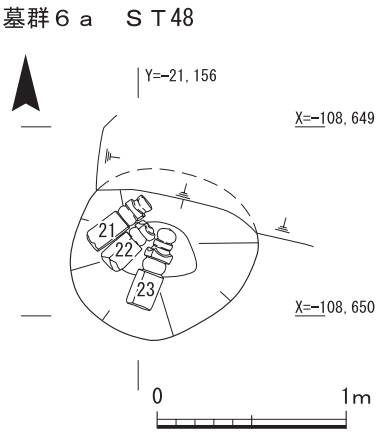
1．オリーブ褐色（2.5Y4/4）粗砂
2．灰黄褐色（10YR6/2）粗砂
〈拳大の礫混じる〉
3．にぶい黄褐色（10YR5/4）粗砂
4．褐色（10YR4/6）土
5．暗褐色（10YR3/3）細粒砂
〈0.5～1cm大の石含む・にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトがブロックで入る〉
6．にぶい黄褐色（10YR4/3）細～中粒砂
〈0.5～3cm大の石混じる〉
7．黒褐色（10YR3/2）細粒砂（木質混じる〉
8．にぶい黄褐色（10YR4/3）細～中粒砂
〈0.5～1cm大の石混じる〉
9．黒褐色（10YR3/2）細粒砂
〈0.5～1cm大の石多く混じる・木質混じる〉
10．にぶい黄褐色（10YR5/4）中粒砂
〈0.5～3cm大の石混じる〉
11．褐色（10YR4/4）細粒砂
〈0.5～1cm大の石混じる〉
12．にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂
〈0.5～1cm大の石混じる〉

第80図　墓群６　平面・断面図

墓穴ＳＴ159（第80図）　ＳＫ25の下層で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.90mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ160（第80図）　北側をＳＴ159によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ110（第80図）　墓群６ｂの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.84mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。



第81図　墓群６　ＳＴ48実測図

墓穴ＳＴ333（第80図）　墓群６ａの北端で検出した。東側の大半を後世の攪乱によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.81m以上、南北1.30m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ166（第80図）　ＳＴ333の上層で検出した。埋葬方法は土葬とみられる。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.58m、南北0.53mを測る。平面は円形を呈し、ＳＴ333を切り込んで掘られる。甕棺の上部は削平されており、底部のみを検出した。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ334（第80図）　北側をＳＴ333によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ48（第81・83図）　北側を後世の攪乱によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.98m、南北0.72m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。掘形上面からは一石五輪塔が３基(21～23)並んで出土している。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨のほか、土師器皿　が出土した。

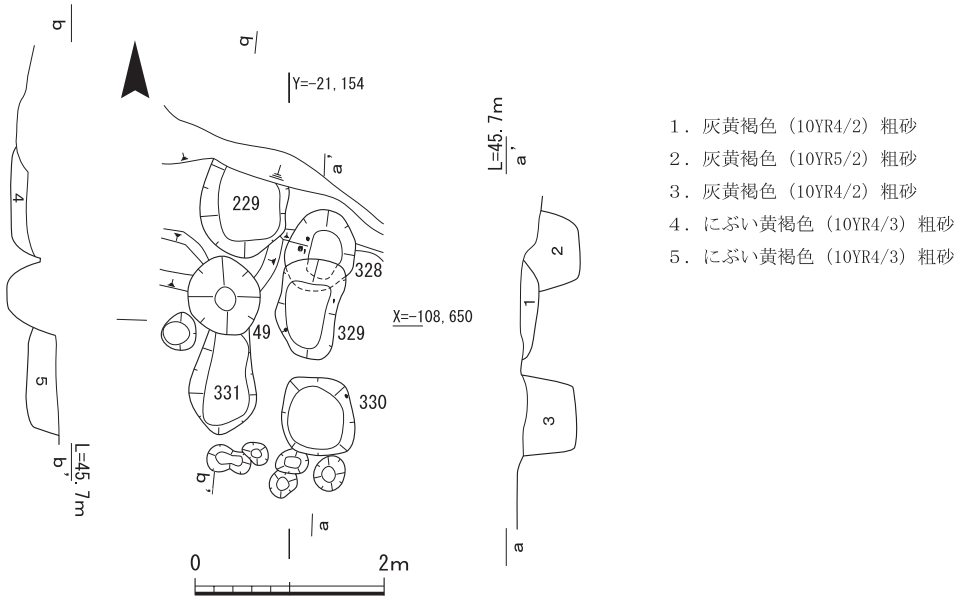
墓穴ＳＴ335（第80図）　北側をＳＴ48によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.88m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ336（第80図）　北側をＳＴ335によって削平される。掘形の規模は東西0.73m、南北0.21m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ112（第80図）　墓群６ａの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.80mを測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

（７）墓群７

墓地の北側、墓群６の東側で検出した墓群である。墓群北側は後世の攪乱によって削平されるが、さらに北へ広がるものとみられる。東西２列の墓群で、東側で３基、西側で３基、計６基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に甕棺を使用するものは１基、不明が５基である。検出した墓群の東西幅は1.68m、南北長は3.14mを測る。



第82図　墓群７　平面・断面図

墓穴ＳＴ229（第82図）　墓群７ｂの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。北側を後世の攪乱によって削平される。掘形の規模は東西0.91m、南北0.89m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。

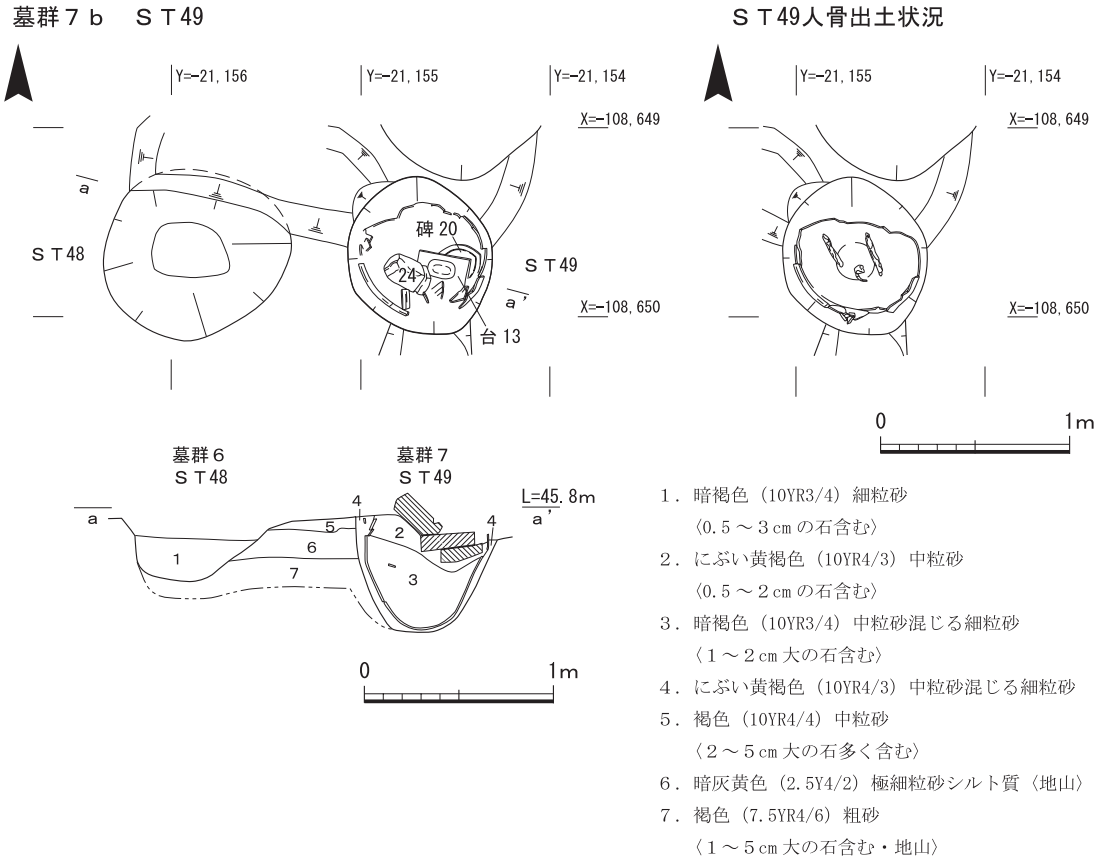
墓穴ＳＴ49（第83図）　埋葬方法は土葬である。埋葬施設には甕棺が使用される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.81mを測り、平面は円形を呈する。掘形埋土はにぶい黄褐色の中粒砂混じる細粒砂である。甕棺内の堆積は２層に分かれ、上層ににぶい黄褐色細粒砂、下層に中粒砂混じる暗褐色細粒砂が堆積する。上層からは一石五輪塔、台座、舟形墓標が各１基ずつ出土した。これらの墓石がＳＴ49に伴うかは不明であるが、舟形墓標が一番下に位置しており、自然に落ち込んだとは考え難い。甕棺底部には腐敗した人骨が遺存していた。

墓穴ＳＴ331（第82図）　墓群７ｂの南端で検出した。北側をＳＴ49によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.66m、南北1.05m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ328（第82図）　墓群７ａの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。南側をＳＴ329によって削平される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.52m以上を測り、平面は不定形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。鉄釘が３本出土しており、埋葬施設に木棺が使用された可能性がある。そのほかには、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ329（第82図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.62m、東西1.05mを測り、平面はやや歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ330（第82図）　墓群７ａの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。



第83図　墓群６・７　ＳＴ48・49実測図

（８）墓群８

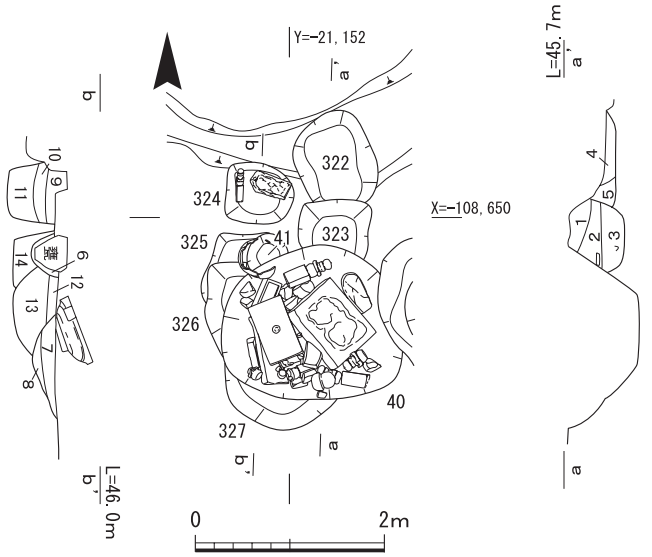
墓地の北側、墓群７の東側で検出した墓群である。墓群北側を後世の攪乱によって削平され北端を確認することはできなかったが、さらに北へ広がるとみられる。墓群南側をＳＫ40によって大きく削平される。東西２列の墓群で、東側で４基、西側で２基、計６基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に甕棺を使用するものが１基、不明が５基である。検出した墓群の東西幅は1.63ｍ、南北長は3.37ｍを測る。

墓穴ＳＴ324（第84・85図）　墓群８ｂの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71ｍ、南北0.64ｍを測り、平面は東辺がやや膨らむ方形を呈する。掘形埋土上層から一石五輪塔と舟形墓標が出土した。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ326（第84・85図）　墓群８ｂで検出した。掘形南側の大部分をＳＫ40によって削平される。掘形の規模は東西0.4ｍ以上、南北1.0ｍ以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

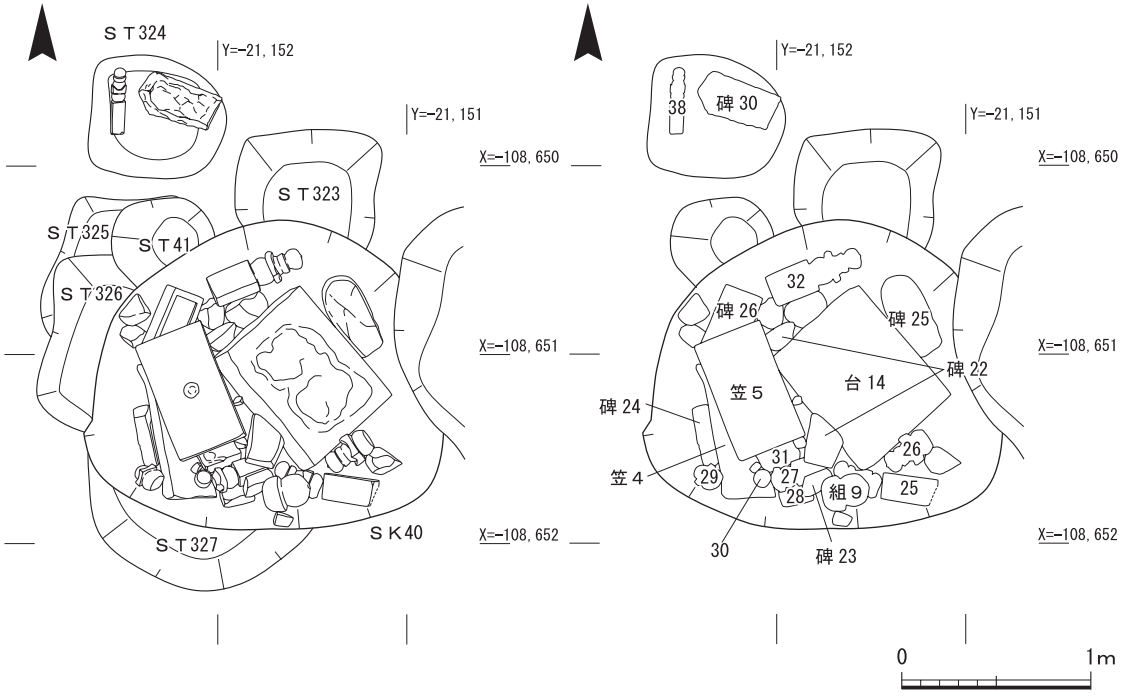
墓穴ＳＴ41（第84・85図）　南側をＳＫ40によって削平される。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.43m、南北0.30ｍを測り、平面は円形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ327（第84・85図）　墓群８ｂの南端で検出した。ＳＫ40によって北側を削平される。掘形の規模は東西1.20m、南北0.60m以上を測る。人骨は出土しなかった。



1．にぶい黄褐色（10YR4/3）粗砂
2．褐色（10YR4/6）粗砂
3．灰黄褐色（10YR5/2）粗砂
4．黒褐色（10YR3/2）粗砂
5．にぶい黄褐色（10YR5/4）粗砂
6．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂泥
7．にぶい黄褐色（10YR5/3）細砂
〈5㎝の礫少量混じる〉
8．にぶい黄褐色（10YR4/3）細砂
9．にぶい黄褐色（10YR5/3）粗砂
10．黒褐色（10YR5/3）砂泥
11．暗褐色（10YR3/3）砂泥
12．にぶい黄褐色（10YR5/4）粗砂
13．暗褐色（10YR3/3）砂泥
〈粗砂混じる〉
14．灰黄褐色（10YR4/2）砂泥

第84図　墓群８　平面・断面図



第85図　墓群８　ＳＫ40・ＳＴ324実測図

墓穴ＳＴ322（第84図） 墓群８ａの北端で検出した。南側をＳＴ323によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北1.04m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

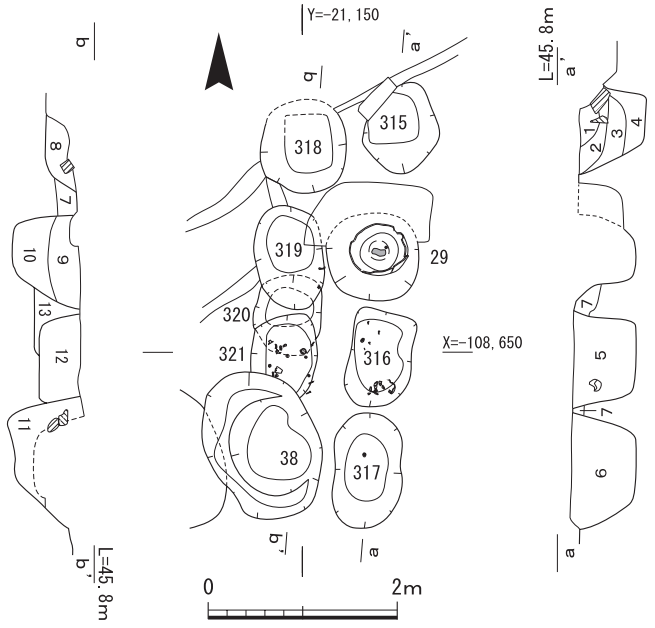
墓穴ＳＴ323（第84・85図） 南側をＳＫ40によって削平される。掘形の規模は東西0.76m、南北0.63m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は、古寛永通寶を含む銭貨のほか、白磁椀が出土した。

土坑ＳＫ40（第84・85図） 墓群南側で検出した墓石の廃棄土坑である。墓群中央付近に墓穴を削平して掘られている。東側は墓群９のＳＫ38によって削平される。掘形の規模は東西1.9m以上、南北1.65mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。掘形内から17基の墓石が出土した。一石五輪塔や笠塔婆、台座など多様な墓石が重なり合って出土した。台14や笠５のように今回墓地内で出土した墓石の中でも特に大型の墓石が出土している。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿、陶器椀、犬形土製品のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

（９）墓群９

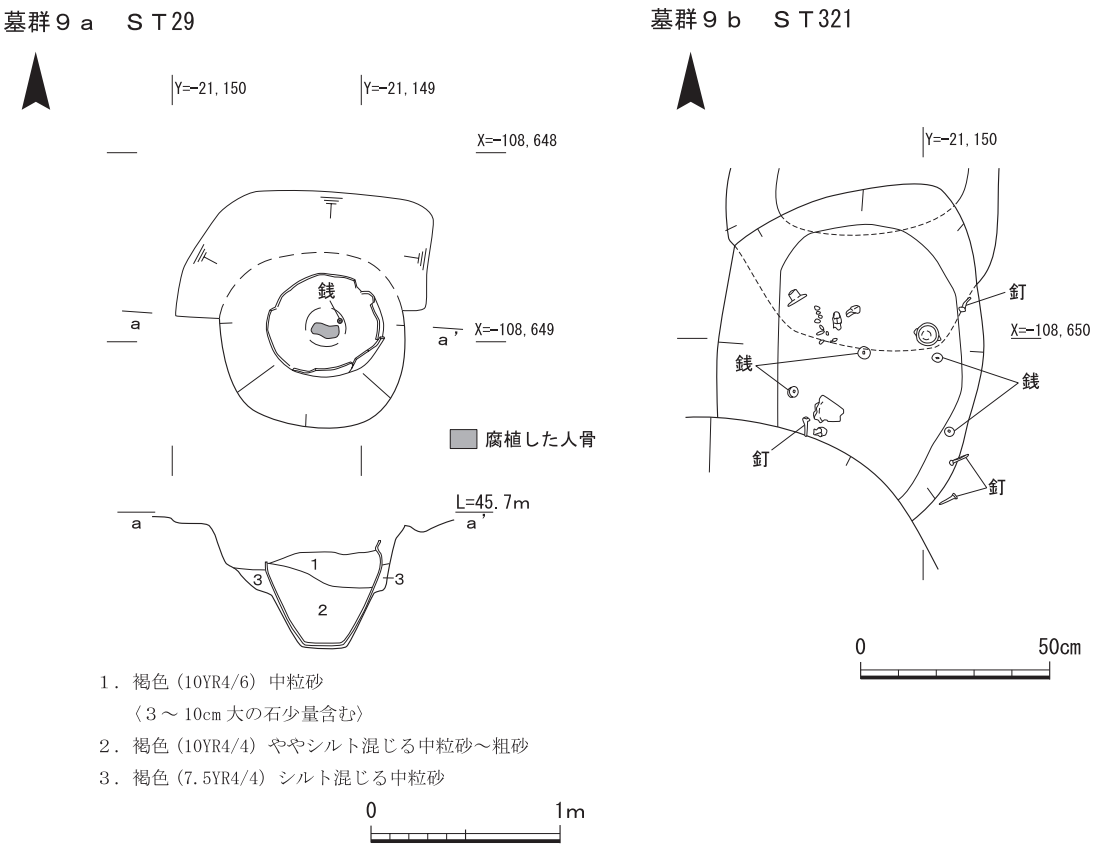
墓地の北側、墓群８の東側で検出した墓群である。墓群北側を後世の攪乱によって削平されるが、さらに北側に広がるとみられる。東西２列の墓群で、東側で４基、西側で４基、計８基の墓穴を検出した。そのうち埋葬施設に木棺を使用するものは２基、甕棺が１基、不明が５基である。検出した墓群の東西幅は1.74m、南北長は4.74mを測る。

墓穴ＳＴ318（第86図） 墓群９ｂの北端で検出した。北側を後世の攪乱によって削平される。掘形の規模は東西0.90m、南北0.80m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。



1．灰黄褐色（10YR4/2）粗砂
2．褐色（10YR4/4）粗砂
〈５～10cm大の礫混入〉
3．褐灰色（10YR4/1）粗砂
〈頭大の礫多く含む〉
4．褐灰色（10YR4/1）細砂
5．褐色（10YR4/4）粗砂
〈５～10cm大の礫混入〉
6．褐色（10YR4/4）粗砂
〈５～10cm大の礫混入〉
7．にぶい黄色（2.5Y6/4）粗砂
8．黒褐色（10YR3/2）土
9．にぶい黄色（2.5Y6/3）粗砂
10．暗灰黄色（2.5Y4/2）粗砂
11．にぶい黄褐色（10YR4/3）粗砂
〈５～15cm大の礫混入〉
12．にぶい黄色（2.5Y6/3）粗砂
13．オリーブ褐色（2.5Y4/4）粗砂

第86図　墓群９　平面・断面図



1．褐色（10YR4/6）中粒砂
〈３～10cm大の石少量含む〉
2．褐色（10YR4/4）ややシルト混じる中粒砂～粗砂
3．褐色（7.5YR4/4）シルト混じる中粒砂

第87図　墓群９　ＳＴ29・321実測図

墓穴ＳＴ319（第86図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北1.10mを測り、平面は楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ320（第86図）　北側をＳＴ319、南側をＳＴ321によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71mを測る。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ321（第87図）　南側をＳＫ38によって削平される。埋葬方法は土葬である。鉄釘が４本出土しており、埋葬施設には木棺が使用された可能性がある。掘形の規模は東西0.70m、南北0.89m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、ミニチュア土器、新寛永通寶を含む銭貨などが出土した。遺物は掘形底部付近に散乱し、まとまりがみられない。

土坑ＳＫ38（第86図）　墓群９ｂの南端で検出した土坑である。掘形の規模は東西1.17m程度、南北1.63m程度を測り、平面は歪んだ楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色の粗砂である。舟形墓標や台座が出土しており、廃棄されたとみられる。人骨は出土しなかった。そのほかの遺物は土師器皿、仏飯器などが出土している。

墓穴ＳＴ315（第86図）　墓群９ａの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.90m以上を測り、平面は不定形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器鉢、磁器椀のほか、銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ29（第87図）　墓群９ａで検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は甕棺である。

掘形の規模は東西0.98m、南北0.93m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。甕棺上層部は後世の攪乱によって削平を受ける。掘形埋土はシルト混じる褐色の中粒砂である。棺内には上層に褐色中粒砂、下層にシルト混じる褐色中粒砂～粗砂が堆積する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は甕棺底部から新寛永通寶を含む銭貨が出土したほか、土師器皿や小壺が出土している。

墓穴ＳＴ316（第86図）　墓群９ａで検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.64m、南北1.02mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良であるが、掘形南側に頭蓋骨が遺存していた。埋葬姿勢は不明である。掘形北西側から鉄釘が出土しており、埋葬施設には木棺が使用されたと考えられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ317（第86図）　墓群９ａの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.69m、南北1.22mを測り、平面は楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。掘形中央よりやや北側で古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

（10）墓群10

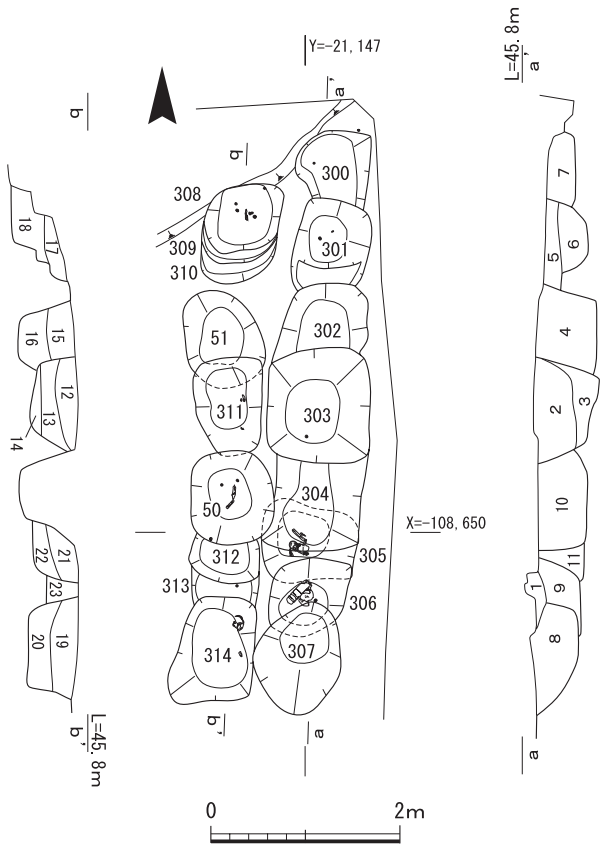
墓地の北側、墓群９の東側で検出した墓群である。今回墓地北側で検出した墓群の中で、最も東に位置する。墓群の北側は調査地外へ広がるとみられる。東西２列の墓群で、東側で８基、西側で９基、計17基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものは１基、不明が16基である。墓群の検出長は東西1.85m、南北6.18mである。

ＳＴ308・309・310（第88図）　墓群10ｂ北端で検出した。明確な輪郭は確認できなかったが、堀形南側は２段のテラス状になり、３基の墓穴が重なり合うと判断した。断面からＳＴ308が最も古く、ＳＴ310が最も新しいとみられる。ＳＴ308の掘形の規模は東西0.79m、南北0.68mを測る。ＳＴ310は東西0.8m、南北0.8m以上を測る。それぞれの埋土は灰黄褐色や黄褐色の粗砂で、ＳＴ308と309に明確な埋土の違いはみられなかった。ＳＴ308の埋葬方法は土葬である。人骨の遺存状態は不良で、遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ51（第88図）　墓群10ｂで検出した。南側をＳＴ311によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.88m以上を測り、平面は歪んだ楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ311（第88図）　ＳＴ51の南側で検出した。南端をＳＴ50によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.70m、南北1.03m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が１枚出土している。

墓穴ＳＴ50（第89図）　ＳＴ311の南側で検出した。掘形の規模は東西0.87m、南北0.98mを測り、平面は方形を呈する。掘形中央から一辺0.1m大の自然石のほか、墓石８基がまとまって出土した。墓石には一石五輪塔のほかに、破片や笠部、組合式五輪塔の空風輪も含まれており、廃棄されたものと考えられる。掘形南側からは陶器壺が出土した。壺は正位置を保っており、蓋がされた状態であった。壺の中には火葬骨が納められている。埋土は暗褐色の中粒砂含む細粒砂で、壺と墓石の周囲で埋土の違いは確認できなかった。これらを除去した掘形底部からは人骨と新寛永通寶を含む銭貨、鉄釘が出土している。既存の墓穴を削平、もしくは落ち窪んだところを利用して墓



1．にぶい黄褐色（10YR5/3）細粒砂
〈0.5～3cm大の礫少量混じる〉
2．にぶい黄褐色（10YR5/3）細粒砂
〈0.5～5cm大の礫混じる〉
3．にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂
〈0.5～2cm大の礫少量混じる〉
4．にぶい黄橙色（10YR6/3）細粒砂
〈0.5～5cm大の礫混じる〉
5．にぶい黄褐色（10YR5/3）細粒砂
6．にぶい黄褐色（10YR5/3）細粒砂
〈0.5～2cm大の礫少量混じる〉
7．灰黄褐色（10YR5/2）細粒砂
〈0.5～7cm大の礫含む〉
8．にぶい黄褐色（10YR5/4）細粒砂
〈0.5～3cm大の礫混じる〉
9．にぶい黄褐色（10YR5/3）細粒砂
10．にぶい黄橙色（10YR6/3）細粒砂
〈0.5～10cm大の礫混じる〉
11．にぶい黄褐色（10YR5/4）細粒砂
〈0.5～5cm大の礫混じる〉
12．にぶい黄褐色（10YR5/4）粗砂
13．褐色（10YR4/4）粗砂
14．にぶい黄褐色（10YR4/3）粗砂
15．灰黄褐色（10YR4/2）粗砂
16．暗褐色（10YR3/4）粗砂
17．灰黄褐色（10YR4/2）粗砂
18．暗褐色（10YR3/4）粗砂
19．黄褐色（10YR5/6）粗砂
20．灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂
21．にぶい黄褐色（10YR5/4）粗砂
22．褐色（10YR4/4）粗砂
23．にぶい黄褐色（10YR6/4）細粒砂

第88図　墓群10　平面・断面図

石を廃棄したと考えられる。壺の埋納時期は不明であるが、正位置を保っていることから墓石と同時期の可能性が高い。そのほかには土師器皿、陶器椀も出土している。

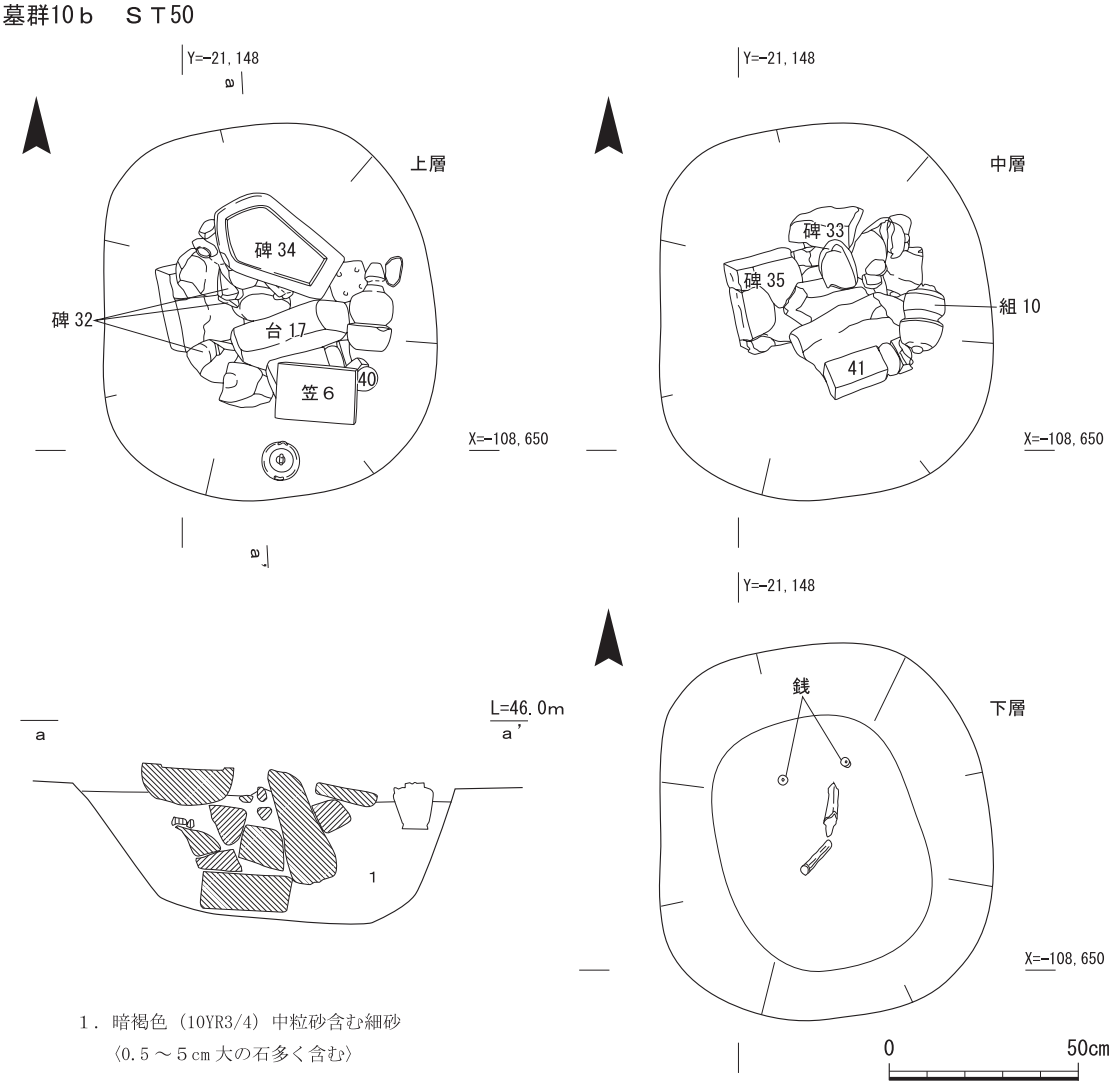
墓穴ＳＴ312（第88図）　北半をＳＴ50によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.73m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良で、遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ313（第88図）　北側をＳＴ312、南側をＳＴ314によって削平される。掘形の規模は東西0.70m、南北0.40m以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は、大観通寶が１枚出土している。

墓穴ＳＴ314（第88図）　墓群10ｂの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北1.01mを測り、平面は南西の膨らんだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良で、掘形北東から頭蓋骨が出土している。

墓穴ＳＴ300（第88図）　墓群10ａの北端で検出した。南側をＳＴ301によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.79m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ301（第88図）　ＳＴ300の南側で検出した。南側をＳＴ302によって削平される。埋葬



第89図　墓群10　ＳＴ50実測図

方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北1.01m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ302（第88図）　ＳＴ301の南側で検出した。南側をＳＴ303によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.87m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ303（第88図）　墓群10ａの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.08m、南北1.21mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、陶器椀、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ304（第88図）　ＳＴ303の南側で検出した。北端をＳＴ303によって削平される。掘形の規模は東西0.82m、南北0.83m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ305（第88図）　北側をＳＴ304、南側をＳＴ306によって大きく削平される。掘形底部中央付近のみを検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.99mを測る。人骨の遺存

状態は不良で、掘形中央付近から頭蓋骨が出土した。埋葬姿勢は不明である。遺物は白磁椀、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ306（第88図）　南側をＳＴ307によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.82m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。墓穴上面から一石五輪塔が１基出土しているが、ＳＴ306に伴うものかは不明である。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は銭貨が出土した。

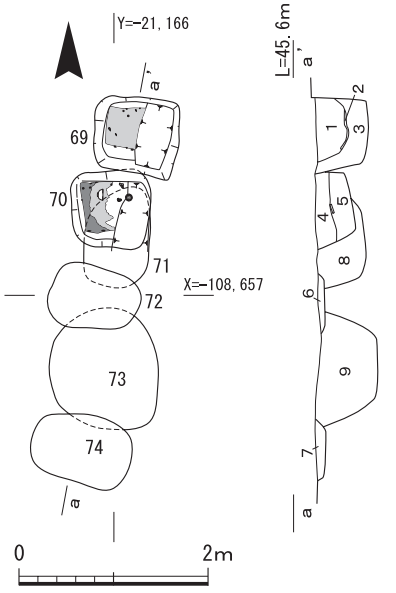
墓穴ＳＴ307（第88図）　墓群10ａの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.93m、南北1.20mを測り、平面は不定形である。人骨の遺存状態は不良である。

（11）墓群11

南側の墓群の西端で検出した墓群である。他の墓群と異なり、墓穴は１列に並ぶ。墓群11の中心軸は墓群２の中央付近に位置し、当初から１列の区画として計画された可能性が高い。４基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが２基、不明が２基である。そのほか土坑２基を検出した。墓群の東西幅は、0.84～1.55m、南北長は4.16mを測る。

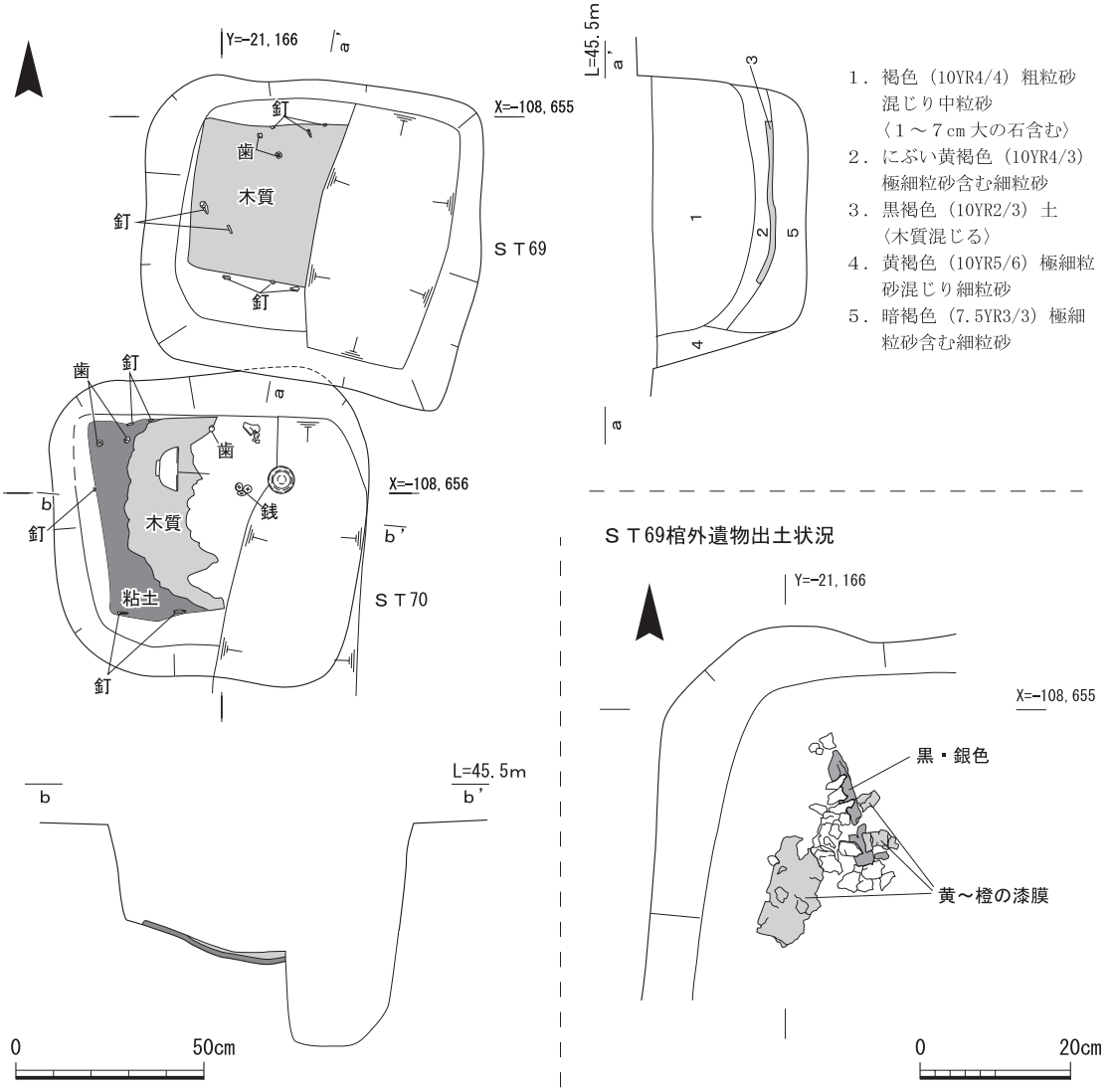
墓穴ＳＴ69（第91図）　墓群11の北端で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.89m、南北0.81mを測り、平面は方形を呈する。掘形の埋土は細～粗粒砂で、掘形底部に墓穴掘削時の置土とみられる暗褐色の極細砂含む細粒砂が堆積する。この置土の上面には一辺0.4mの方形に木質が遺存しており、木棺の底板とみられる。また、その直上や周囲から鉄釘が出土した。そのほかには陶器椀が出土している。置土直下からは、漆製品が出土した。漆の被膜のみが遺存しており、製品の形状は不明である。出土位置から納棺前に納められたと考えられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ70（第91図）　ＳＴ69の南側で検出した。南東隅を一部ＳＫ71によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.79mを測り、



1．暗褐色（10YR3/3）中粒砂～粗砂
〈土器片多く含む〉
2．木質
3．にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂
〈２～13cm大の石多く含む〉
4．にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂～粗砂
〈0.５～３cm大の石多く含む〉
5．褐色（10YR4/4）細粒砂含む中粒砂
〈0.5cm大の石含む〉
6．にぶい黄褐色（10YR4/3）中粒砂
〈１～５cm大の石含む〉
7．暗褐色（10YR3/4）中粒砂～粗砂
〈１～５cm大の石少量含む〉
8．褐色（10YR4/4）細粒砂～中粒砂
〈１～３cm大の石多く含む〉
9．暗褐色（10YR3/3）中粒砂～粗砂
〈0.５～３cm大の石含む〉

第90図　墓群11　平面・断面図



第91図　墓群11　ＳＴ69・70実測図

平面は方形を呈する。掘形埋土は上層ににぶい黄褐色の細～粗砂、その下に褐色の細粒砂含む中粒砂が堆積する。掘形底部には方形に黄褐色粘土が敷かれる。粘土上にはわずかに木質が遺存していた。また、粘土の外周に沿うように鉄釘が出土しており、掘形底部にのみ粘土を貼りつけていたとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付椀・蓋、陶器壺のほか、銭貨などが出土した。

土坑ＳＫ71（第90図）　ＳＴ70の南側で検出した。北側大半をＳＴ70によって削平される。掘形の規模は東西0.68mを測る。人骨は出土していない。

墓穴ＳＴ72（第90図）　墓群11の中央で検出した。掘形の規模は東西0.96m、南北0.63m、深さ0.1mを測り、平面は東西に長い長方形を呈する。人骨は出土していないが、ＳＴ74と同規模の掘形であり、墓穴である可能性が高い。

土坑ＳＫ73（第90図）　墓群の南側で検出した。北側をＳＴ72、南側をＳＴ74によって削平される。掘形の規模は東西1.15m、南北1.28m以上を測り、平面は円形を呈する。遺物はわずかに

鉄釘が出土している。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ74（第90図）　墓群11の南端で検出した。掘形の規模は東西1.07m、南北0.72m程度、深さ0.1mを測り、平面は東西に長い長方形を呈する。人骨は出土していないが鉄釘が出土しており、埋葬施設に木棺を使用した墓穴と考えられる。そのほか、元豊通寶が１枚出土している。

(12)墓群12

墓地の南側、墓群17の東で検出した墓群である。墓群南側の一部を後世の攪乱により削平される。東側で14基、西側で13基、計27基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが６基、甕棺が２基、不明が19基である。検出した墓群の東西幅は1.5～1.8m、南北長は約10.5mを測る。

墓穴ＳＴ56（第93図）　墓群12ｂで検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.92mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。掘形東側面と底部にわずかに木質が遺存しており、埋葬施設には木棺や早桶が使用されたとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物として銭貨、染付小椀・陶器椀、天目椀などが出土した。

墓穴ＳＴ57（第93図）　ＳＴ56の南側で検出した。ＳＴ56によって北隅を削平される。埋葬方法は土葬である。人骨の遺存状態は不良である。掘形の規模は東西0.87m、南北0.97mを測り、平面は方形を呈する。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ196（第95図）　墓群12ｂで検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.65mを測り、平面は長方形を呈する。掘形埋土上層から一石五輪塔など４基の墓石が出土した。完形品を含むが、複数点出土していることから廃棄された可能性が高い。埋土中からは古寛永通寶を含む銭貨が出土したほか、人骨がわずかながら遺存しており、既存の墓穴を削平して墓石廃棄の土坑が掘削された可能性がある。しかし、断面観察では明確な遺構の切り合い関係は確認できなかった。遺物は染付椀・蓋が出土した。

墓穴ＳＴ400（第92図）　ＳＴ196の南側で検出した。ＳＴ196によって北側を削平される。掘形の規模は東西0.71m、南北0.57m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ401（第92図）　ＳＴ400の南側で検出した。ＳＴ400によって北側を削平される。掘形の規模は東西0.68m、南北0.56m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土した。

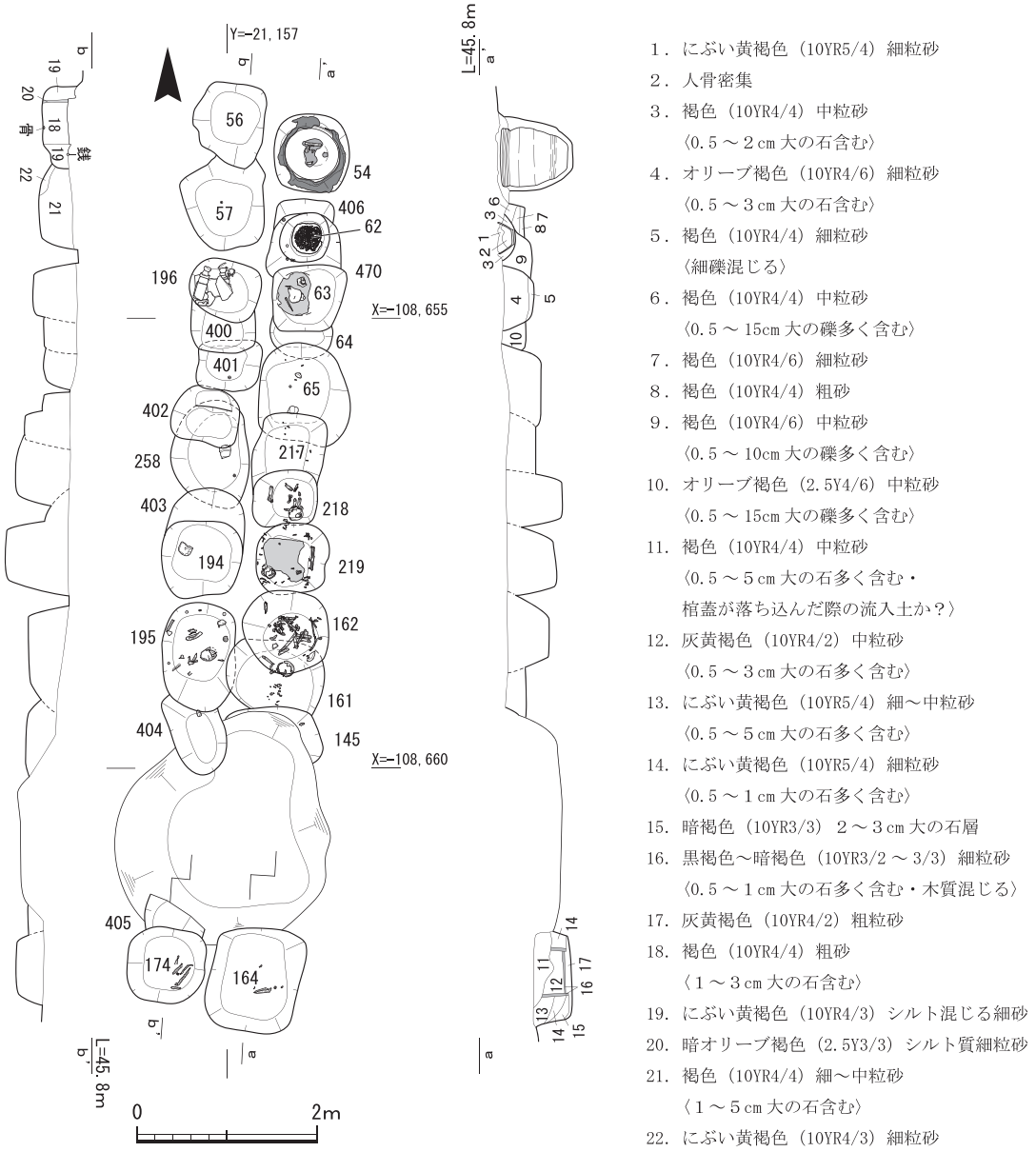
墓穴ＳＴ402（第92図）　墓群12ｂの中央付近で検出した。掘形の規模は東西0.75m、南北0.60m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ258（第92図）　墓群12ｂの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北1.00m以上を測り、平面はやや楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ403（第92図）　墓群12ｂの中央付近で検出した。南半をＳＴ194によって削平される。掘形の規模は東西0.82m、南北0.37m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ194（第92図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.99m、南北0.83mを測り、平面は方形を呈する。遺物は、新寛永通寶が出土した。人骨の遺存状態はやや不良で、掘形の西側から頭蓋骨が出土した。埋葬姿勢は不明である。

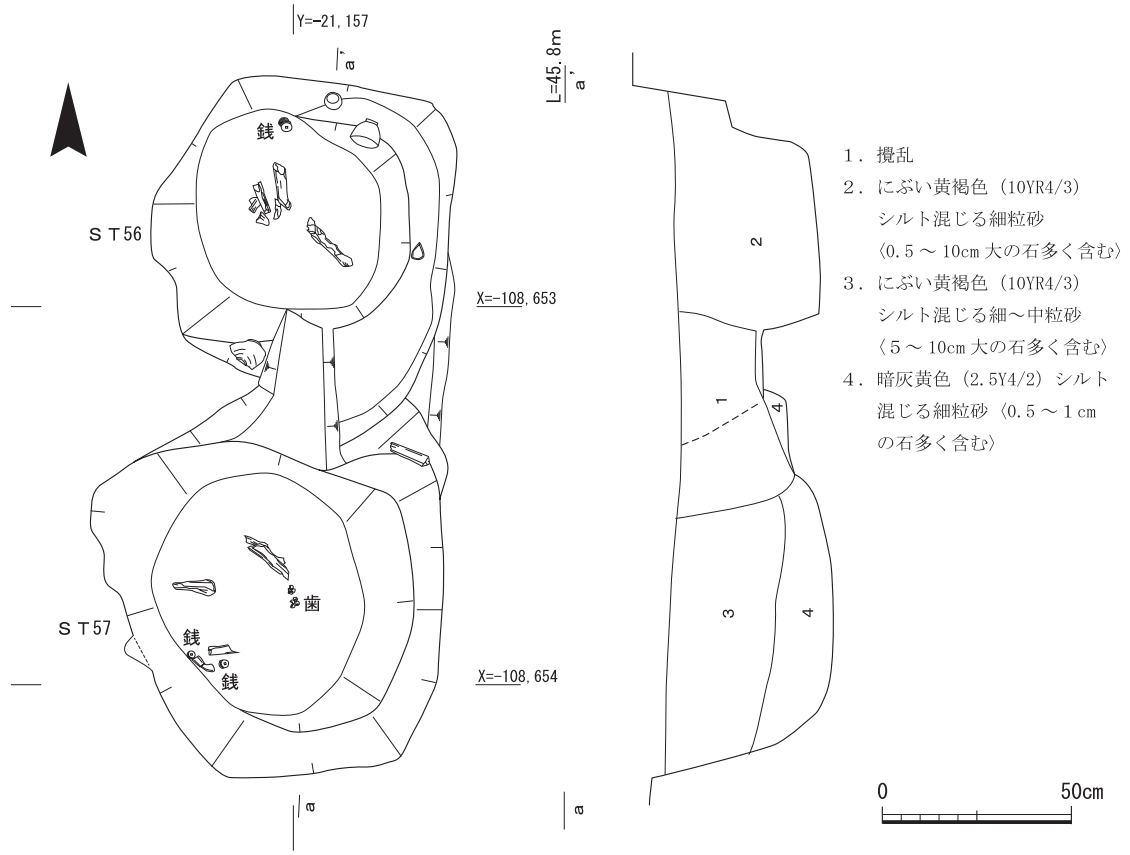
墓穴ＳＴ195（第94図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北1.20mを測り、平面は南北に長い長方形を呈する。掘形北側３分の２程度から人骨や遺物がまとまって見つかっており、当初の掘形は正方形に近かった可能性が考えられる。人骨の遺存状態は比較的良好で、中央付近から頭蓋骨が出土した。埋葬姿勢は不明である。遺物は土師器小壺・人形・ミニチュア土器のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。これらの遺物は、掘形中央や側壁に近い位置から出土し、まとまりがみられない。



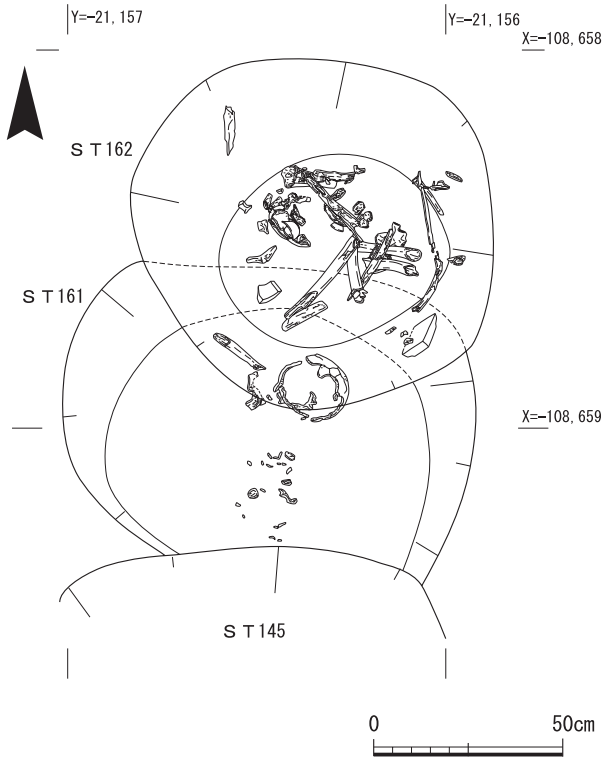
1．にぶい黄褐色（10YR5/4）細粒砂
2．人骨密集
3．褐色（10YR4/4）中粒砂
〈0.5～2cm大の石含む〉
4．オリーブ褐色（10YR4/6）細粒砂
〈0.5～3cm大の石含む〉
5．褐色（10YR4/4）細粒砂
〈細礫混じる〉
6．褐色（10YR4/4）中粒砂
〈0.5～15cm大の礫多く含む〉
7．褐色（10YR4/6）細粒砂
8．褐色（10YR4/4）粗砂
9．褐色（10YR4/6）中粒砂
〈0.5～10cm大の礫多く含む〉
10．オリーブ褐色（2.5Y4/6）中粒砂
〈0.5～15cm大の礫多く含む〉
11．褐色（10YR4/4）中粒砂
〈0.5～5cm大の石多く含む・
棺蓋が落ち込んだ際の流入土か？〉
12．灰黄褐色（10YR4/2）中粒砂
〈0.5～3cm大の石多く含む〉
13．にぶい黄褐色（10YR5/4）細～中粒砂
〈0.5～5cm大の石多く含む〉
14．にぶい黄褐色（10YR5/4）細粒砂
〈0.5～1cm大の石多く含む〉
15．暗褐色（10YR3/3）２～３cm大の石層
16．黒褐色～暗褐色（10YR3/2～3/3）細粒砂
〈0.5～1cm大の石多く含む・木質混じる〉
17．灰黄褐色（10YR4/2）粗粒砂
18．褐色（10YR4/4）粗砂
〈１～３cm大の石含む〉
19．にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト混じる細砂
20．暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト質細粒砂
21．褐色（10YR4/4）細～中粒砂
〈１～５cm大の石含む〉
22．にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂

第92図　墓群12　平面・断面図

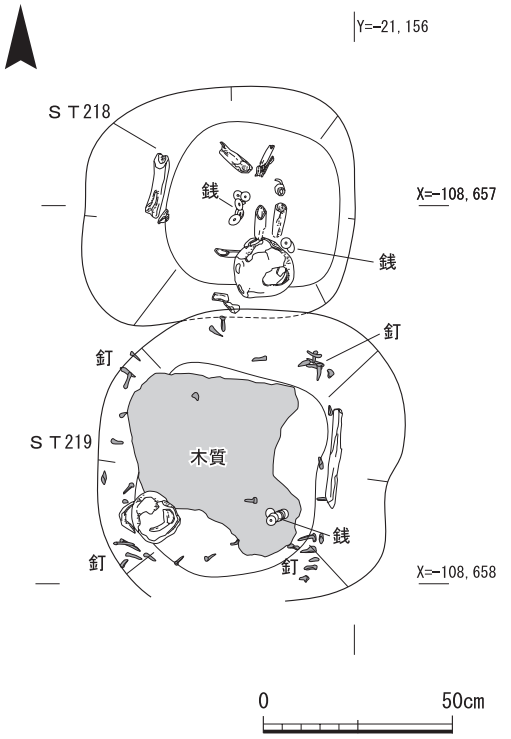
墓群12ｂ　ＳＴ56・57



墓群12ａ　ＳＴ161・162



墓群12ａ　ＳＴ218・219



第93図　墓群12　ＳＴ56・57・161・162・218・219実測図

墓穴ＳＴ404（第92図）　近代の攪乱により、南側を大きく削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.58m、南北0.96m以上を測り、平面は長方形ないしは楕円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ405（第92図）　近代の攪乱により、北側を大きく削平される。掘形の規模は、東西0.68mを測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ174（第92図）　墓群12ｂの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.88m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良で、出土した人骨は掘形の南西に集中する。遺物は新寛永通寶が出土している。

墓穴ＳＴ54（第94図）　墓群12ａの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は甕棺である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.86mを測り、平面は楕円形を呈する。掘形埋土は、灰黄褐色と黄褐色の粗砂である。甕口縁端部上面とその周囲には明褐色粘土が貼られる。ＳＴ55と同様に棺蓋を固定したものとみられる。人骨の遺存状態は不良で甕棺底部にわずかに遺存する。遺物は甕棺内埋土上層から土師器皿が出土した。

墓穴ＳＴ406（第92図）　ＳＴ62・470によって南側の大半を削平される。掘形の規模は東西0.64m、南北0.12m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺物は底部付近から銭貨が出土した。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ470（第92図）　北側をＳＴ62、南側をＳＴ63によって削平される。掘形の規模は東西0.80m、南北0.55m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ62（第95図）　ＳＴ470の上層で検出した。埋葬方法は火葬である。埋葬施設は甕棺である。後世の攪乱により上層は削平されており、甕棺の底部のみが遺存する。掘形の規模は東西0.55m、南北0.54mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。掘形埋土は褐色中粒砂である。人骨の遺存状態は良好で、ほぼ全身の人骨が甕棺の底部に堆積していた。

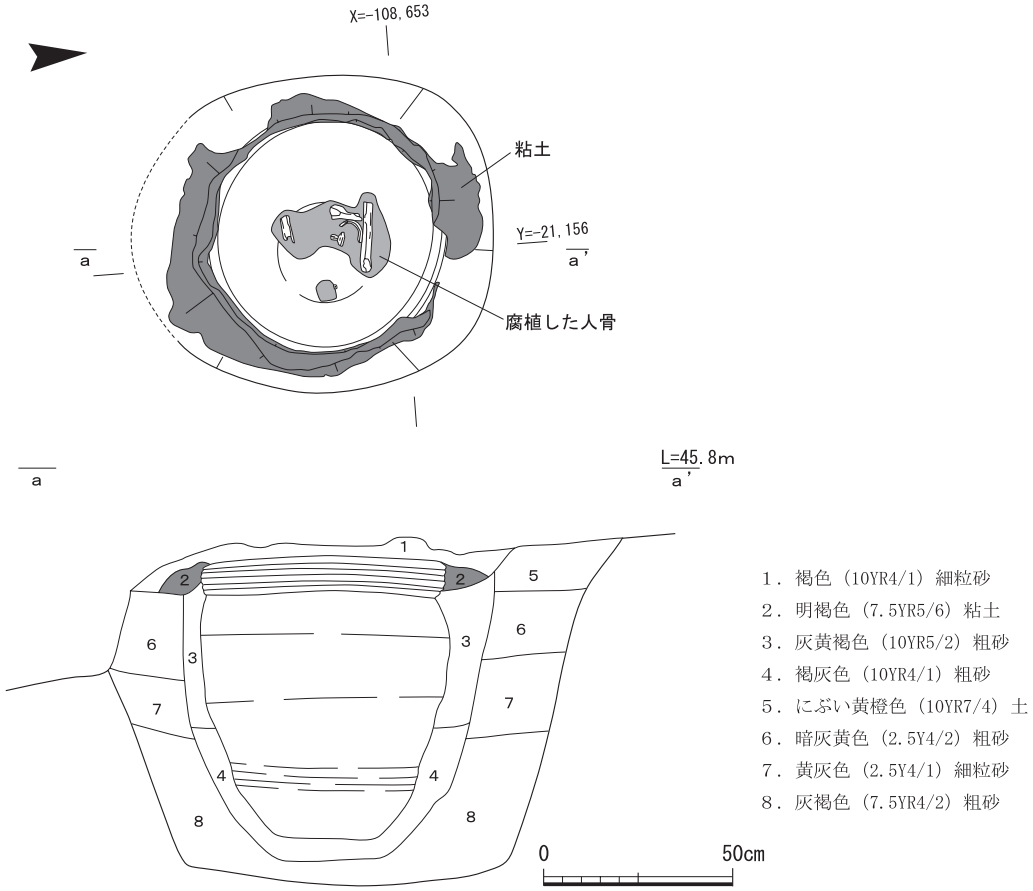
墓穴ＳＴ63（第94図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北0.73mを測り、平面は方形を呈する。掘形底部に木質が遺存しており、木棺が使用されたとみられる。木質は東西0.35m、南北0.47mの楕円形に近い範囲に広がる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ64（第92図）　北側をＳＴ63、南側をＳＴ65により削平される。掘形の規模は東西0.78m、南北0.36m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は土師器皿が出土している。

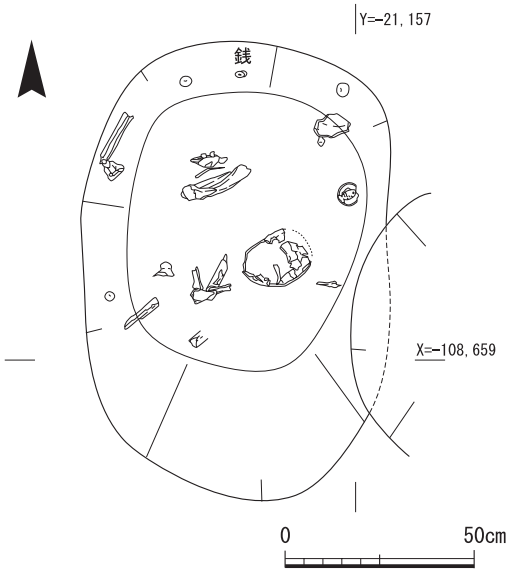
墓穴ＳＴ65（第92図）　埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西1.01m、南北1.09m以上を測り、平面は方形に近い不定形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨のほか、染付椀や一石五輪塔の水輪部が出土した。

墓穴ＳＴ217（第92図）　ＳＴ218によって南側を削平される。埋葬施設は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.64m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態

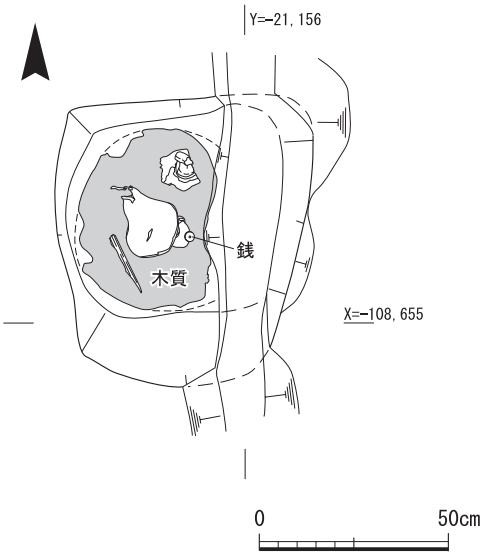
墓群12ａ　ＳＴ54



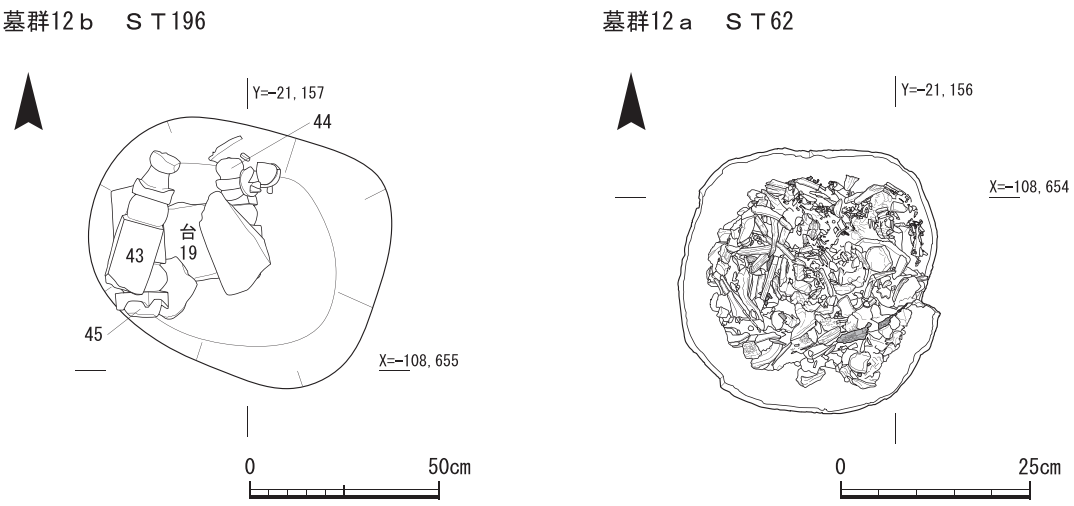
墓群12ｂ　ＳＴ195



墓群12ａ　ＳＴ63



第94図　墓群12　ＳＴ54・195・63実測図



第95図　墓群12　ＳＴ196・62実測図

は不良である。

墓穴ＳＴ218（第93図）　墓群12ａの中央付近で検出した。ＳＴ217を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北0.62m程度を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬とみられる。頭蓋骨は掘形南に位置する。人骨と掘形壁面との間に隙間が空くため、棺に納められていた可能性が考えられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭貨は掘形中央付近からまとまって出土しており、棺内に納められていたと考えられる。

墓穴ＳＴ219（第93図）　ＳＴ218の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.77mを測り、平面は方形を呈する。鉄釘が掘形に沿うように方形に並んで出土しており、その内側の掘形底部には棺底とみられる木質が遺存していた。鉄釘の出土状況から木棺の規模は一辺0.5m程度の正方形とみられる。人骨の遺存状態はやや良好で、頭蓋骨は棺内の南西隅付近に位置していた。埋葬姿勢は不明である。遺物は土師器小壺、古寛永通寶が出土した。銭貨は棺内南東隅からまとまって出土した。

墓穴ＳＴ162（第93図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.94m、南北0.92mを測り、平面は方形または円形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬とみられる。頭蓋骨は南側に位置する。遺物は染付小杯のほか、古寛永通寶が出土した。

墓穴ＳＴ161（第93図）　北側をＳＴ162によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.12m、南北0.78m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

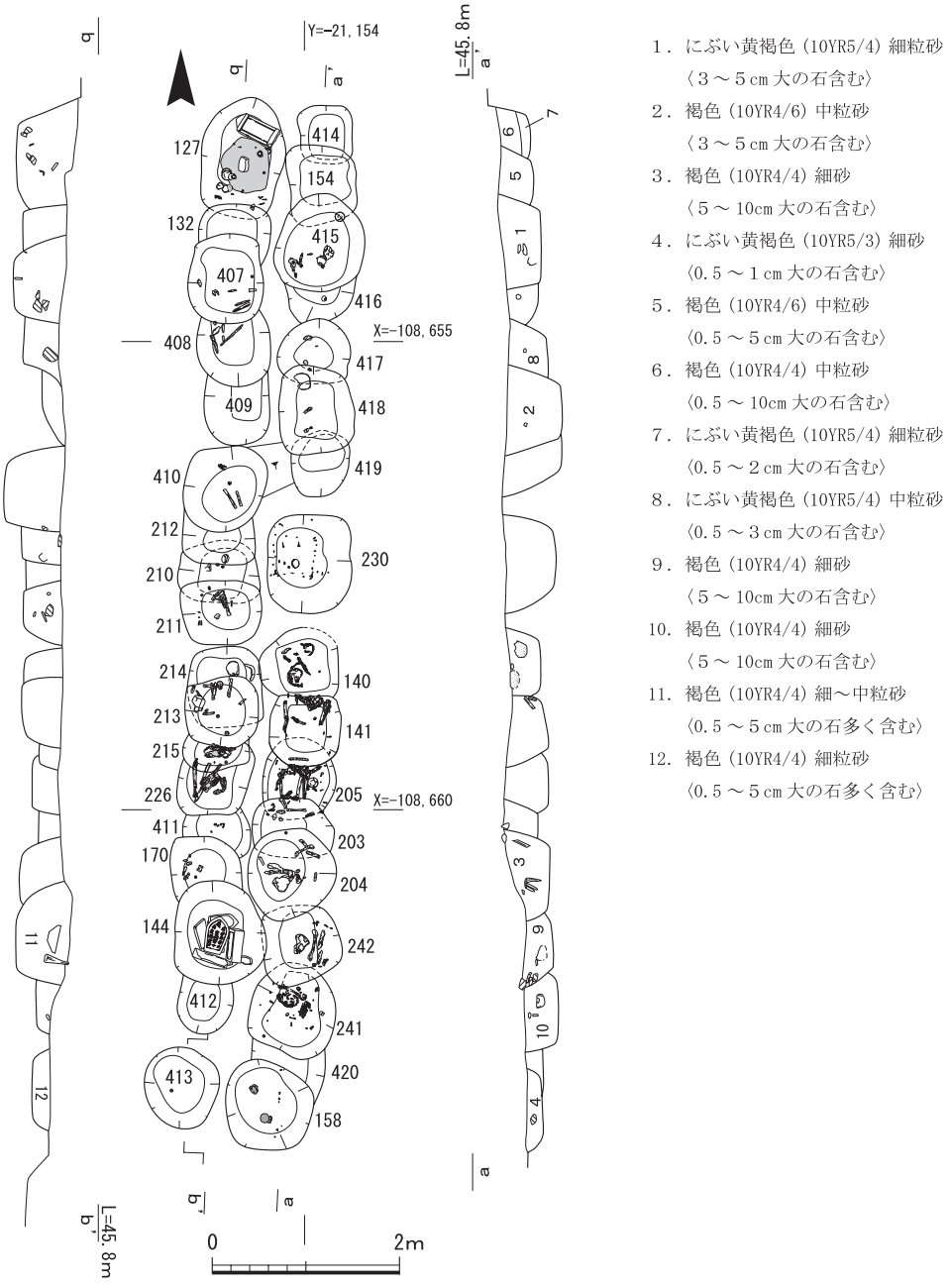
墓穴ＳＴ145（第92図）　埋葬方法は土葬である。攪乱により大きく削平され、掘形は北東のみの検出に留まった。掘形底部に木質が遺存しており、木棺が使用されたと考えられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ164（第92図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.98m、南北1.14mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

(13)墓群13

墓地の南側に位置し、墓群12の東側で検出した墓群である。東西２列の墓群で、東側で17基、西側で18基、計35基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが８基、不明が27基である。墓群の東西幅は1.6～1.8m、南北長は約11.2mを測る。

墓穴ＳＴ127（第97図）　墓群13ｂの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.86m、南北1.28m以上を測り、平面は北側がやや尖る長方形を呈する。検出面で板碑が倒れた状態で出土したが、墓穴との関係は不明である。板碑に刻まれた紀年は「文禄２年」である。掘形底部中央やや南寄りの東西0.5m、南北0.7mの範囲に木質が遺存していた。



第96図　墓群13　平面・断面図

また、その周囲から鉄釘が方形に並んで出土している。鉄釘の出土状況から木棺は一辺0.5mの正方形を呈するとみられる。棺内の南西隅にあたる位置からは土師器皿・染付椀・銭貨がまとまって出土している。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ132（第96図） 南側をＳＴ407によって削平される。掘形の規模は東西0.76m、南北0.60m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ407（第96図） 埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.95mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ408（第96図） 埋葬方法は土葬である。北側をＳＴ407によって削平される。掘形の規模は東西0.79m、南北0.80m以上を測り、平面は楕円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ409（第96図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.70m、南北0.73m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ410（第96図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.91mを測り、平面はやや歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ212（第96図） 埋葬方法は土葬である。北側をＳＴ410によって削平される。掘形の規模は東西0.77m、南北0.60m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土製品の人形が出土している。

墓穴ＳＴ210（第96図） 埋葬方法は土葬である。北側をＳＴ212、南側をＳＴ211によって削平される。掘形の規模は東西0.86m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付小杯、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

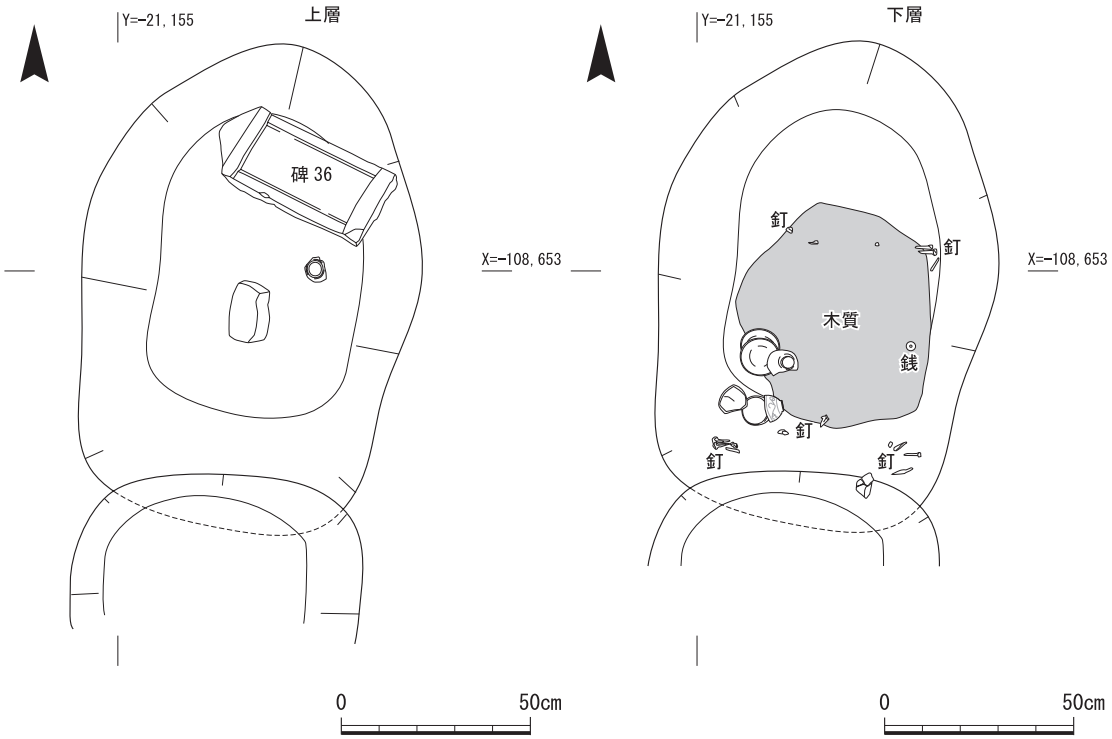
墓穴ＳＴ211（第96図） 埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.83m、南北0.68mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや良好である。ＳＴ210との境界付近から土師器皿、陶器椀が出土している。

墓穴ＳＴ214（第98図） 埋葬方法は土葬である。南西側をＳＴ213によって削平される。掘形の規模は東西0.80m、南北0.86m程度を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺存していた頭蓋骨は掘形北東に位置する。埋葬姿勢は不明である。

墓穴ＳＴ213（第98図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.77m、南北0.75mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好である。頭蓋骨は掘形北西に位置する。埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は陶器椀、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭は、掘形の北側と南側で分かれて出土しており、ＳＴ214の遺物が混入している可能性がある。

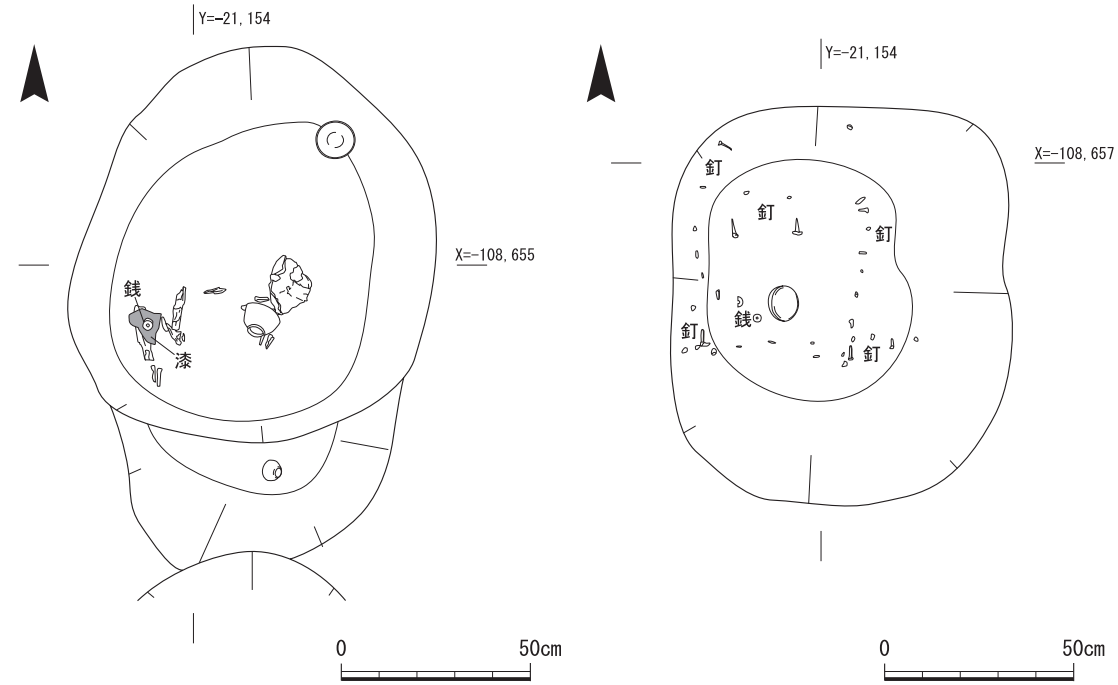
墓穴ＳＴ215（第98図） ＳＴ213の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。北側をＳＴ213に大きく削平される。掘形の規模は東西0.69m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の上層から複数の土師器小壺、土鈴、ミニチュア土器などが縦方向に重なって出土

墓群13ｂ　ＳＴ127



墓群13ａ　ＳＴ415・416

墓群13ａ　ＳＴ230



第97図　墓群13　ＳＴ127・415・416・230実測図

した。そのうち、ミニチュア火鉢の中には土鈴・土師器小壺が詰められた状態で出土している。また、ミニチュアの磁器椀の中から、オランダ製のガラス片が出土している。土器群の北側からはわずかに金糸が出土した。出土状況から、これらの遺物は箱や袋などの容器に納められていた可能性が考えられる。人骨の遺存状態は不良で、埋葬姿勢は不明である。

墓穴ＳＴ226（第98図）　ＳＴ215の南側で検出した。北側をＳＴ215によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.73m、南北0.79m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。人骨の上層で木製品が出土した。板状の製品で、大きく４片に分かれる。最大のものは長辺20.4cm、短辺11.5cmを測り、南東側の長辺中央付近に銅製の蝶番がつく。遺存状態は悪く、正確な形状は不明であるが、箱形の製品と考えられる。そのほかの遺物としては、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ411（第96図）　埋葬方法は土葬である。北側をＳＴ226に、南側をＳＴ170によって削平される。掘形の規模は東西0.72m、南北0.55m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ170（第98図）　埋葬方法は土葬である。南側をＳＴ144によって削平される。掘形の規模は東西0.74m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ144（第98図）　ＳＴ170の南側で検出した。掘形の規模は東西0.96m、南北1.01ｍを測り、平面は歪んだ楕円形を呈する。埋土から舟形墓標や台座、笠塔婆が７基出土した。完形品が多いが複数が重なり合って出土しており、廃棄されたものと考えられる。人骨は出土しなかったが、掘形底部付近からは古寛永通寶を含む銭貨が出土しており、既存の墓穴を削平、もしくは再利用する形で墓石が廃棄された可能性が高い。

墓穴ＳＴ412（第96図）　北側をＳＴ144によって削平される。掘形の規模は東西0.58m、南北は0.54m以上を測り、平面は楕円形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

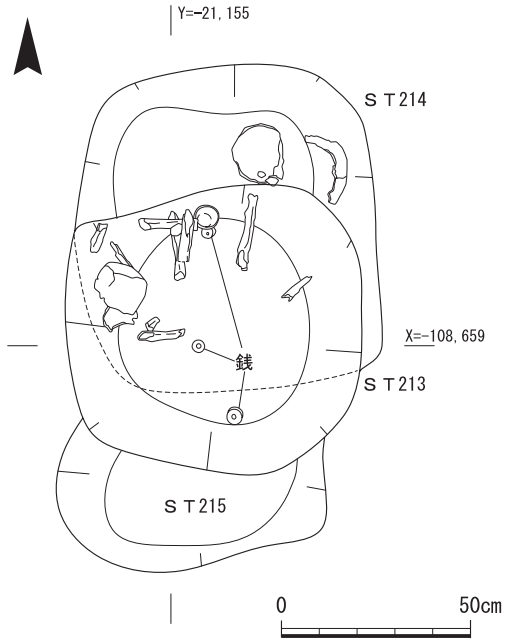
墓穴ＳＴ413（第96図）　墓群13ｂの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.87ｍを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ414（第96図）　墓群13ａの北端で検出した。南側をＳＴ154によって削平される。掘形の規模は東西0.54m、南北0.62m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

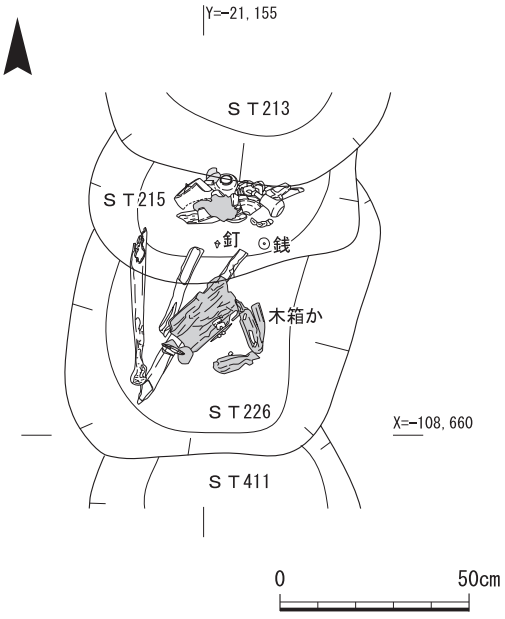
墓穴ＳＴ154（第96図）　南側をＳＴ415によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北0.81m程度を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ415（第97図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.94m、南北1.03ｍを測り、平面は円形ないしは方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、染付椀のほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土している。銭貨は掘形南西から５枚まとまって出土しており、

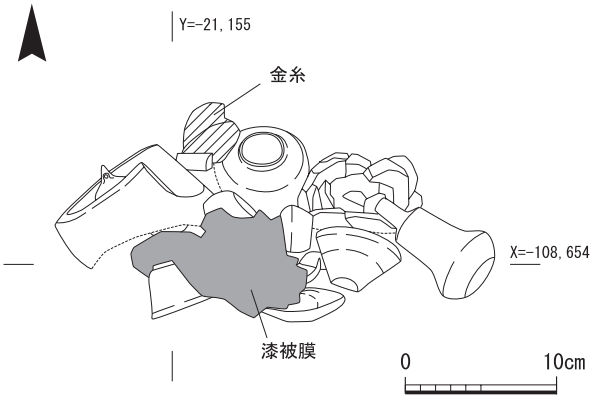
墓群13ｂ　ＳＴ213・214



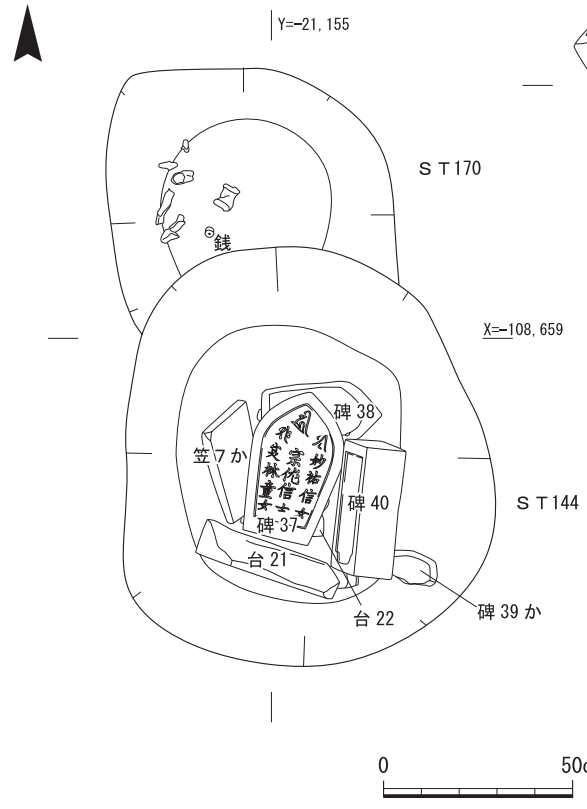
墓群13ｂ　ＳＴ215・226



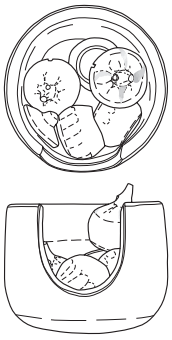
ＳＴ215遺物出土状況



墓群13ｂ　ＳＴ170・144



ＳＴ215ミニチュア土器内遺物収納状況



第98図　墓群13　ＳＴ213・214・215・226・170・144実測図

その直下にはわずかに漆器の被膜が遺存していた。

墓穴ＳＴ416（第97図） 北側をＳＴ415、南側の一部をＳＴ417によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.36m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付椀が出土した。

墓穴ＳＴ417（第96図） 南側をＳＴ418によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北0.69m程度を測り、平面は歪んだ円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、漆片のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ418（第96図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.92mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。出土した頭蓋骨は掘形の北西に位置する。埋葬姿勢は不明である。

墓穴ＳＴ419（第96図） 北側をＳＴ418によって削平される。掘形の規模は東西0.61m、南北0.7m程度を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ230（第97図） 墓群13ａの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬とみられる。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.87m、南北1.06mを測り、平面は方形を呈する。掘形のやや西寄りで鉄釘が方形に並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は一辺0.4m程度の方形とみられる。遺物は白磁椀、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。これらの遺物は、方形に並ぶ鉄釘の内側から出土しており、棺内に納められたと考えられる。

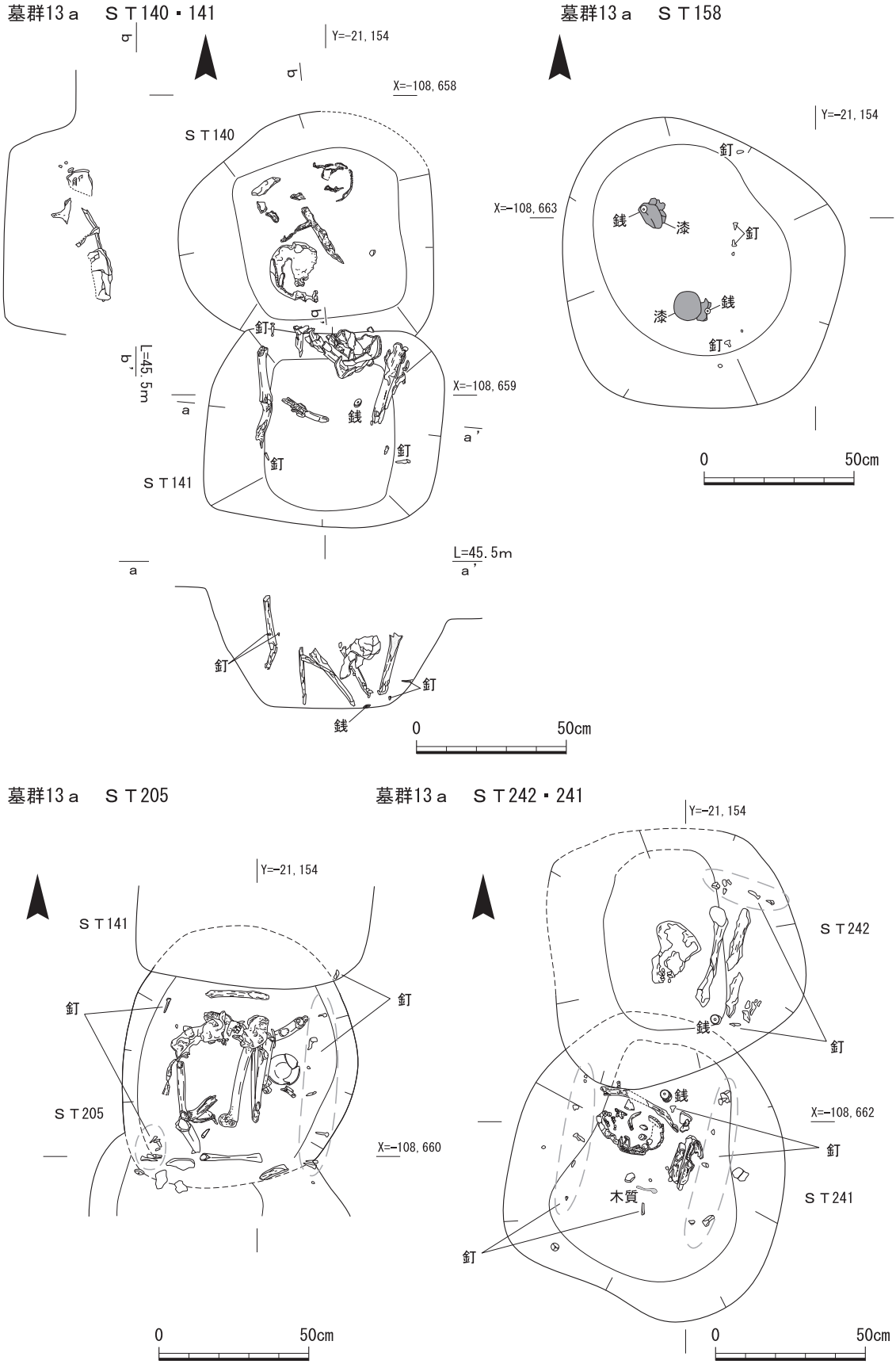
墓穴ＳＴ140（第99図） 南側の一部をＳＴ141によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.74m程度を測り、平面は歪んだ方形を呈する。鉄釘は出土していないが、人骨と掘形壁面の間に隙間があり、木棺に納められていた可能性が考えられる。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨は掘形中央よりやや南西に位置する。埋葬姿勢は不明である。

墓穴ＳＴ141（第99図） ＳＴ140の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.74mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、頭蓋骨は掘形北側に位置する。長管骨が立った状態で出土しており、埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ205（第99図） 北側をＳＴ141、南側をＳＴ203によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.86m以上を測る。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬とみられる。人骨の周囲に鉄釘が並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は一辺0.5m程度の方形とみられる。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。人骨のすぐ脇から出土しており、棺内に納められた副葬品と考えられる。

墓穴ＳＴ203（第96図） 南側をＳＴ204によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北0.60m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ204（第96図） ＳＴ203の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.94m、南北0.93mを測り、平面は北西が膨らむ方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好で、



第99図　墓群13　ＳＴ140・141・158・205・242・241実測図

出土した頭蓋骨は掘形中央に位置する。埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ242（第99図） 北側をＳＴ204に、西側をＳＴ144によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は一辺0.82m程度を測り、平面は方形を呈する。掘形の北東と南東から鉄釘が出土している。その距離から一辺0.5m程度の木棺が使用されたと考えられる。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨は掘形中央付近に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ241（第99図） 北側をＳＴ242によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.92m程度を測り、平面は北側が膨らむ方形を呈するとみられる。人骨の周囲で鉄釘が方形に並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は長辺0.47m、短辺0.42m程度の方形と推定される。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨は棺内の中央よりやや北西に位置する。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭貨の多くは人骨の脇から出土しており、棺内に納められた六道銭と考えられる。１枚のみ棺外にあたる掘形南西隅から出土しているが、これはＳＴ420の混入品である可能性が考えられる。そのほか、掘形中央から、漆片が出土している。

墓穴ＳＴ420（第96図） 北側をＳＴ241、南側をＳＴ158によって削平される。掘形の規模は東西0.78mを測る。人骨は出土しなかった。

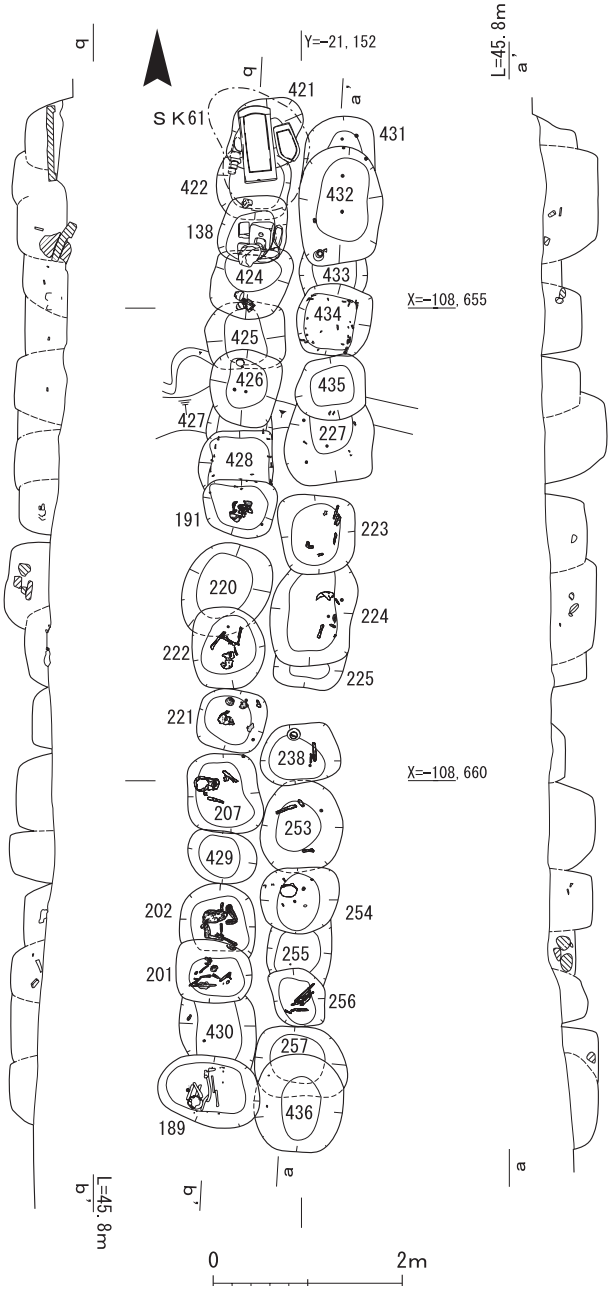
墓穴ＳＴ158（第99図） 墓群13ａの南端で検出した。埋葬方法は土葬とみられる。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.96mを測り、平面は方形を呈する。副葬品として漆器椀が２点出土している。漆器椀内からは北側のものから５枚、南側のものから６枚の銭貨が出土した。北側の漆器椀付近で１枚銭貨出土しており、当初は銭貨６枚ずつが漆器椀内に納められていたと考えられる。人骨の遺存状態は不良である。

（14）墓群14

墓地の南側、墓群13の東側で検出した墓群である。東西２列の墓群で、東側で17基、西側で18基、計35基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが６基、不明が29基である。墓群の東西幅は約1.6m、南北長は約11.0mを測る。

土坑ＳＫ61（第101図） 墓群14ｂの北端で検出した土坑である。掘形の規模は長辺1.30m、短辺0.84mを測り、平面は不定形を呈する。ＳＴ421・422を切り込んで掘られており、掘形内からは台座４基と、一石五輪塔・舟形墓標などが４基、計８基の墓石が出土した。墓標と台座が同数出土しているが、セット関係にあるかは不明である。墓石は二段に重なり、下段に櫛形墓標や一石五輪塔があり、その上に台座が乗る状態で出土している。寺院移転後の墓石の廃棄に伴う土坑と考えられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ421（第100図） 墓群14ｂの北端で検出した墓穴である。上面をＳＫ61によって削平される。掘形の規模は東西0.68m、南北0.75m程度を測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨は出土しなかった。



第100図　墓群14　平面・断面図

墓穴ＳＴ422（第100図）　上層をＳＫ61、北側をＳＴ421によって削平される。掘形の規模は東西0.77m、南北0.70m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は陶器の蓋が出土した。

墓穴ＳＴ138（第100図）　北側をＳＴ422によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は一辺0.70m程度を測り、平面は方形を呈する。掘形の南側から人頭大の自然石のほか、台座や一石五輪塔の地輪部が出土している。墓穴埋没後に廃棄されたと考えられるが、それに伴う明確な掘形は確認できなかった。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨のほか、土師器皿、染付椀などが出土している。

墓穴ＳＴ424（第101図）　北側をＳＴ138によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.82m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。掘形内南側から染付椀・小杯、人形が出土した。

墓穴ＳＴ425（第100図）　北側をＳＴ424、南側をＳＴ426によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.83m、南北0.72m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ426（第100図）　埋葬方法は土葬である。掘形は東西0.73m、南北0.79m以上の西側が膨らむ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿・鉢、白磁椀のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ427（第100図）　北側をＳＴ426、南側をＳＴ428によって削平される。掘形の規模は東西0.69m、南北0.37m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ428（第101図）　南側をＳＴ191によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.77m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈する。鉄釘が方形に並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は長辺0.61m、短辺0.54m程度の方形と想

定される。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ191（第101図）　墓群14ｂの中央付近で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬とみられる。掘形の規模は東西0.73m、南北0.61ｍを測り、平面は方形を呈する。掘形内中央から染付椀・皿、ミニチュア土器、人形、新寛永通寶を含む銭貨などがまとまって出土した。これらの遺物の下にはわずかに木片が遺存しており、箱状の木製品に納められていた可能性が考えられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ220（第100図）　南側をＳＴ222によって削平される。掘形の規模は東西0.90m、南北1.04m程度を測り、平面は楕円形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ222（第102図）　ＳＴ220の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。鉄釘が３本出土しており、埋葬施設には木棺が使用された可能性がある。掘形の規模は東西0.76m、南北0.88mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好で、掘形中央南寄りで頭蓋骨が出土した。埋葬姿勢は座葬と考えられる。

墓穴ＳＴ221（第102図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.70m、南北0.65ｍを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は３点の漆器が出土した。北側から出土した２点は椀の形状を残していたが、東側で出土したものは被膜のみで形状は不明である。掘形北側で出土した２点のうち、西側の漆器椀の内部から白磁小椀が出土している。また、東側の漆器椀の近くでも銭貨が出土しており、西側と同様に、当初は漆器椀の中に銭貨を納めていたと考えられる。

墓穴ＳＴ207（第102図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.85ｍを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨は掘形北西に位置する。埋葬方法は座葬とみられる。遺物は銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ429（第100図）　掘形の規模は東西0.73m、南北0.55ｍを測り、平面は楕円形を呈する。人骨は出土しなかった。

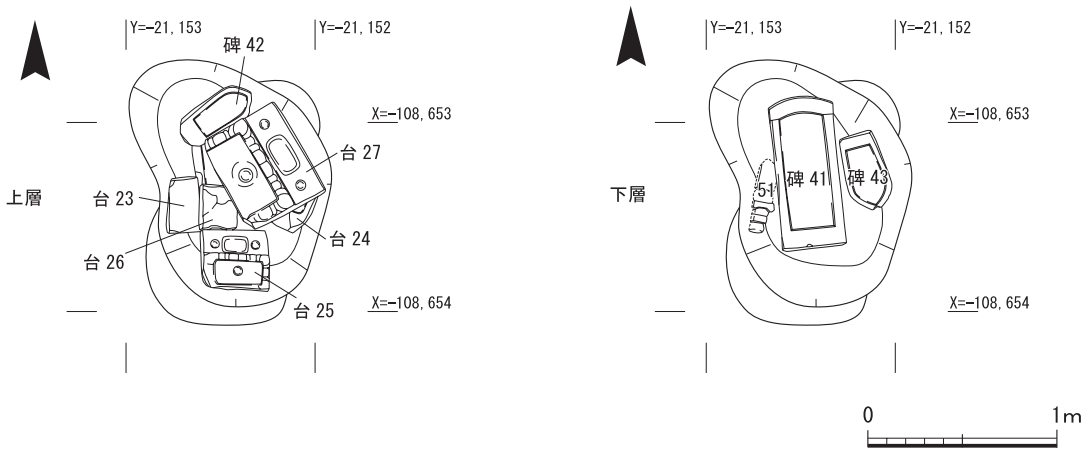
墓穴ＳＴ202（第102図）　南側をＳＴ201によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.78m以上を測り、平面は方形ないしは円形を呈するとみられる。人骨と掘形壁面の間には約0.15m隙間が空いており、木棺が使用された可能性がある。人骨の遺存状態は良好で、掘形中央付近からまとまって出土した。頭蓋骨は北西に位置する。埋葬姿勢は座葬とみられる。

墓穴ＳＴ201（第102図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.80m、南北0.66ｍを測り、平面は方形を呈する。鉄釘がわずかに出土しており、埋葬施設には木棺が使用されていた可能性がある。人骨の遺存状態はやや不良である。南西の人骨の下側から漆の被膜が出土している。

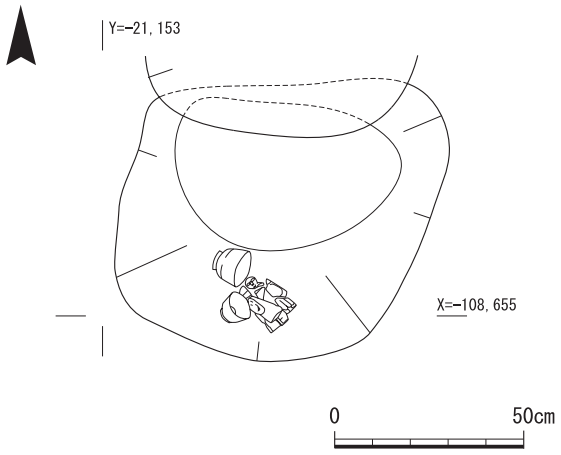
墓穴ＳＴ430（第100図）　北側をＳＴ201、南側をＳＴ189によって削平される。掘形の規模は東西0.81m、南北0.80m以上を測る。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ189（第102図）　墓群14ｂの南端で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.09m、南北0.75ｍを測り、平面は楕円形を呈する。掘形中央から人骨の東側で、

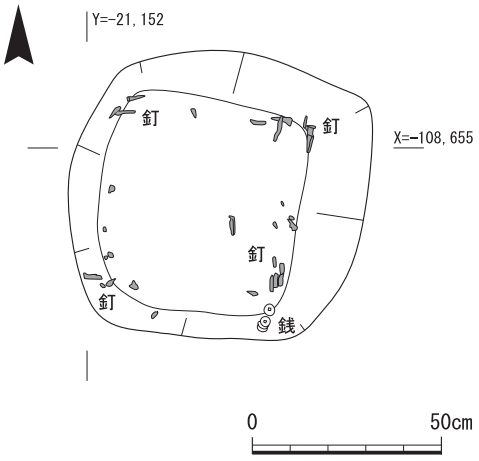
墓群14ｂ　ＳＫ61



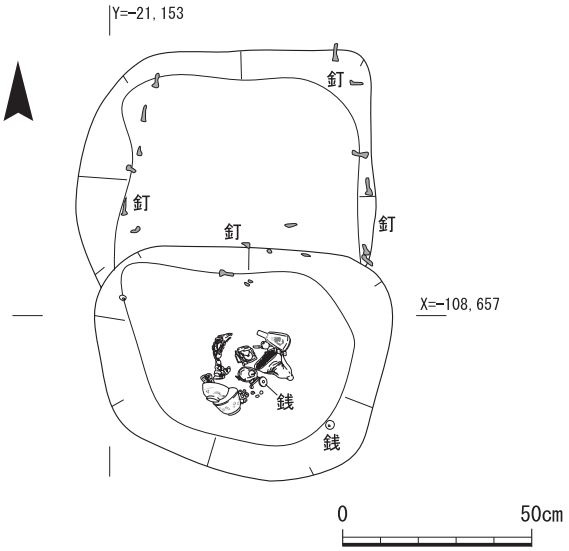
墓群14ｂ　ＳＴ424



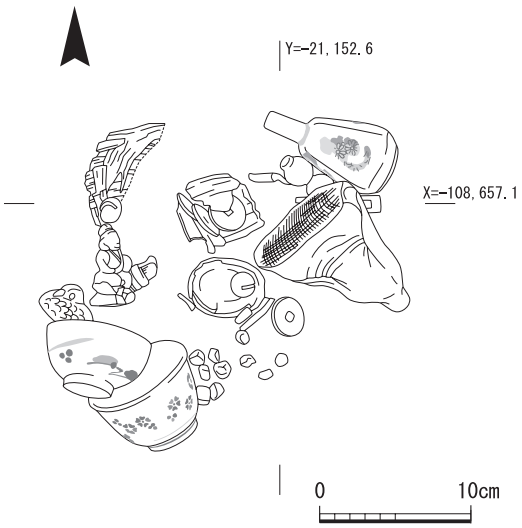
墓群14ａ　ＳＴ434



墓群14ｂ　ＳＴ428・191



ＳＴ191遺物出土状況



第101図　墓群14　ＳＫ61・ＳＴ424・434・428・191実測図

鉄釘が人骨を囲うように「コ」の字状に並んで出土した。鉄釘の出土状況から埋葬施設は木棺と考えられ、その規模は一辺0.5m程度と推定される。人骨の遺存状態は良好で、頭蓋骨は木棺の南側に位置する。埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は、棺内の西側にあたる位置から漆片や銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ431（第100図） 墓群14ａの北端で検出した墓穴である。南側をＳＴ432によって削平される。掘形の規模は東西0.74m、南北0.60m以上を測る。人骨は出土していない。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ432（第100図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.88m、南北1.17mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。掘形内南西隅から染付椀が出土したほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ433（第100図） 北側をＳＴ432、南側をＳＴ434によって削平される。掘形の規模は東西0.72m、南北0.47m以上を測る。人骨は出土していない。遺物は、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ434（第101図） 埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.76mを測り、平面は方形を呈する。鉄釘が方形に並んで出土した。鉄釘の出土状況から、木棺は一辺0.5m程度の方形とみられる。人骨の遺存状態は不良である。棺外にあたる掘形内の南東隅から、銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ435（第100図） ＳＴ227を削平して掘られる。掘形の規模は東西0.75m、南北0.71mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ227（第100図） 北側をＳＴ435によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.93m、南北0.88m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。埋葬施設は木棺である。掘形底部から鉄釘が出土した。鉄釘の出土状況から、木棺の規模は一辺0.5m前後とみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は陶器椀、染付椀のほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

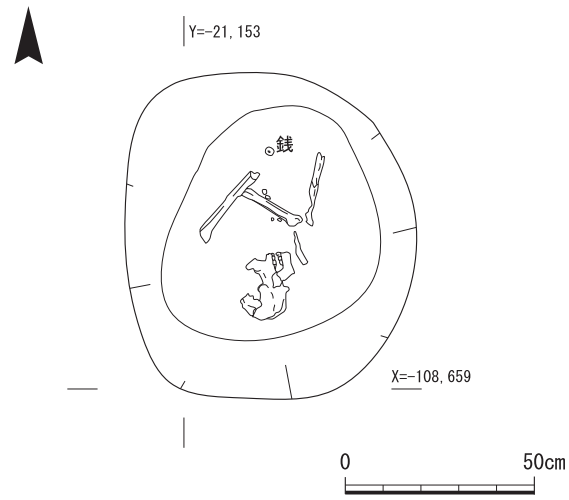
墓穴ＳＴ223（第100図） 墓群14ａの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.84mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は陶器椀、犬形土製品のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ224（第100図） 北側をＳＴ223によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.87m、南北1.04m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨のほか、漆片が出土した。銭は掘形内東側で３か所に分かれて出土しており、最も点数がまとまった銭の下にはわずかではあるが木片が遺存していた。

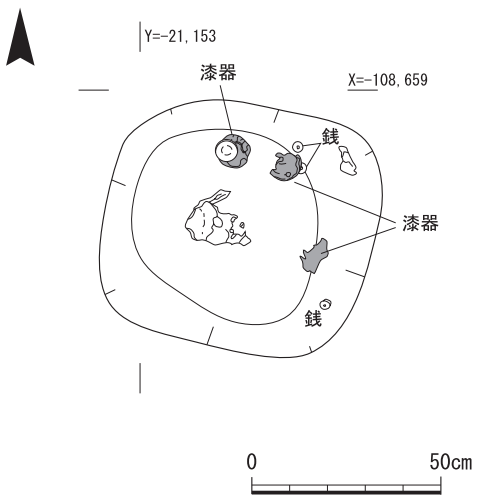
墓穴ＳＴ225（第100図） 北側をＳＴ224によって削平される。掘形の規模は東西0.72m、南北0.41m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ238（第100図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.62mを測り、平面は西側が膨らむ方形を呈する。墓穴上面から、陶器壺が出土している。壺の内容物は確認で

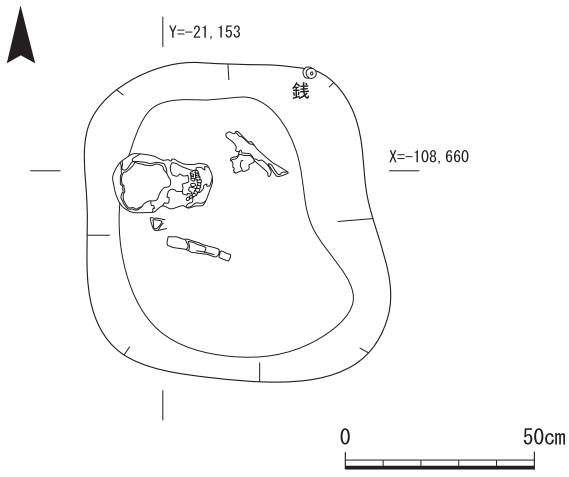
墓群14ｂ　ＳＴ222



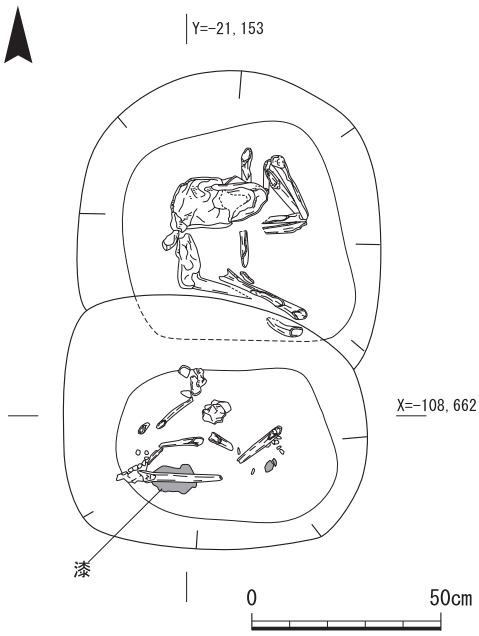
墓群14ｂ　ＳＴ221



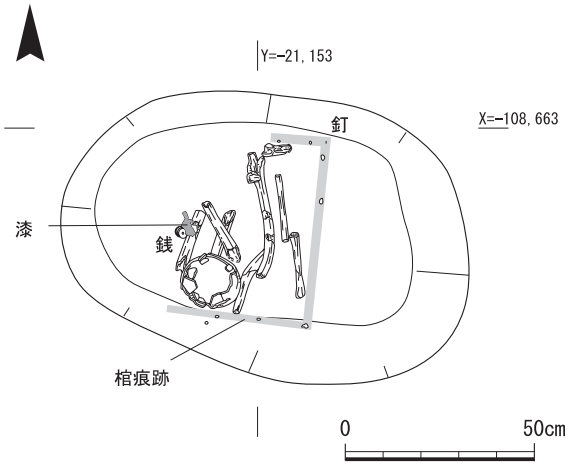
墓群14ｂ　ＳＴ207



墓群14ｂ　ＳＴ201・202



墓群14ｂ　ＳＴ189



第102図　墓群14　ＳＴ222・221・207・201・202・189実測図

きなかったが、蔵骨器と考えられる。壺に伴う掘形は確認できなかった。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶が出土している。

墓穴ＳＴ253（第100図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.98m程度を測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ254（第100図） 埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.70mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。出土した頭蓋骨は掘形中央やや北西に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ255（第100図） 北側をＳＴ254、南側をＳＴ256によって削平される。掘形の規模は東西0.68m、南北0.70m以上を測り、平面は楕円形または長方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ256（第100図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.55m、南北0.63mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。

墓穴ＳＴ257（第100図） 南側をＳＴ436によって削平される。掘形の規模は東西0.92m、南北0.72m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ436（第100図） 墓群14ａの南端で検出した。西側の一部をＳＴ189により削平される。掘形の規模は東西0.94m以上、南北1.03mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

(15)墓群15

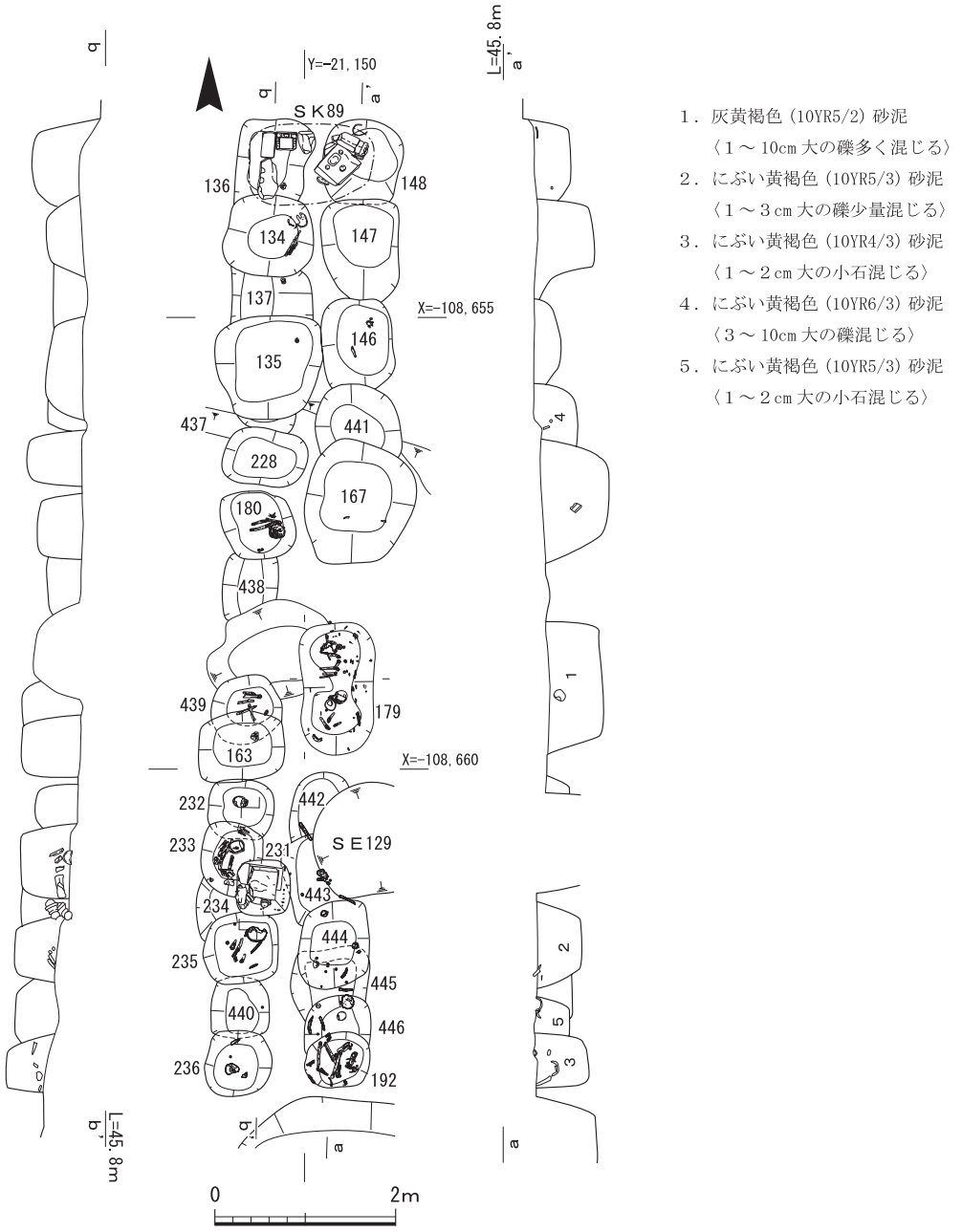
墓地の南側、墓群14の東側で検出した墓群である。墓群中央付近は、一部後世の攪乱によって削平される。東側で12基、西側で17基、計29基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが２基、不明が27基である。墓群の東西幅は1.8～2.2m、南北長は約10.7mを測る。

土坑ＳＫ89（第104図） 墓群の北端のＳＴ136・148の上層で検出した土坑である。明確な掘形は確認できなかった。台座、一石五輪塔が４基出土した。北西側では、地輪や台座が面を揃えて置かれる。出土した台座と一石五輪塔はセット関係となるものがなく、下層の墓穴に伴うものではなく、廃棄されたと考えられる。

墓穴ＳＴ136（第103図） 墓群西側の北端で検出した墓穴である。南側をＳＴ134によって削平される。掘形の規模は東西0.75m、南北0.95m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。遺物は漆器の漆被膜がわずかに出土した。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ134（第103図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.00m、南北0.90mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良で、頭蓋骨や長管骨の一部が出土した。頭蓋骨は掘形内北東に位置する。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ137（第103図） 北側をＳＴ134、南側をＳＴ135によって削平される。掘形の規模は東西0.89m、南北0.64m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。



第103図　墓群15　平面・断面図

墓穴ＳＴ135（第103図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.12m、南北1.15mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ437（第103図）　掘形の大半をＳＴ135によって削平される。掘形の規模は東西0.63m、南北0.22m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ228（第103図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.64mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付椀のほか、念仏銭を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ180（第103図）　墓群15ｂの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規

模は東西0.77m、南北0.76mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は土師器皿が出土した。

墓穴ＳＴ438（第103図） 北側をＳＴ180、南側を後世の攪乱によって削平される。掘形の規模は東西0.61m、南北0.75m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ439（第103図） 北側上層を後世の攪乱によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.74m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態はやや不良である。埋葬姿勢は座葬とみられる。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ163（第103図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.95m、南北0.72mを測り、平面は長方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付蓋のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ232（第103図） 南側をＳＴ233によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.71m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態はやや不良で、遺存していた頭蓋骨は掘形中央に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は染付椀が出土した。

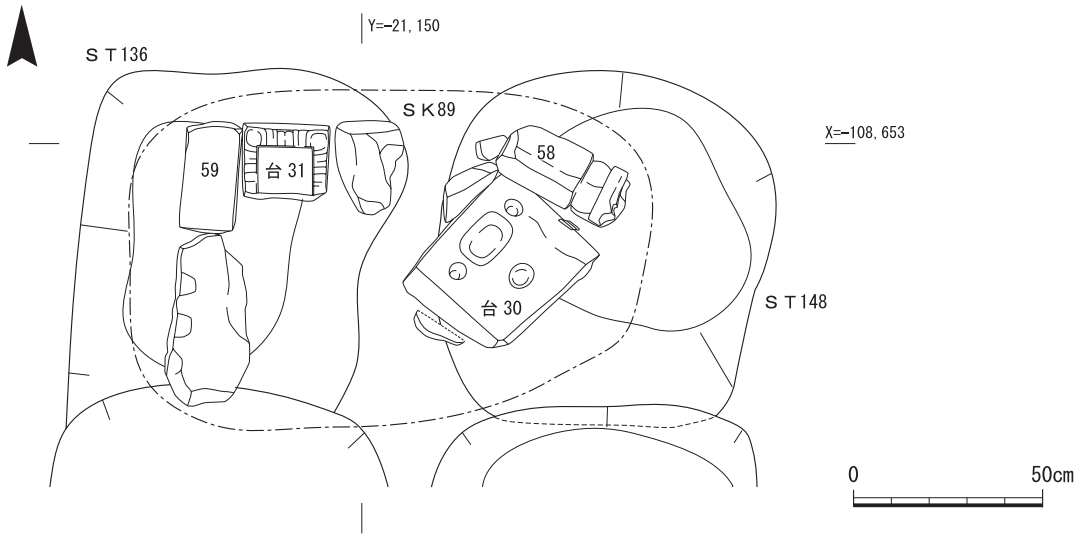
墓穴ＳＴ233（第104図） 南東隅をＳＴ231によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.68m、南北0.82mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、出土状況から座葬と考えられる。頭蓋骨は掘形北側中央に位置する。掘形北側から人骨と銭貨が出土しているが、頭蓋骨を含む掘形中央の人骨のまとまりとは離れるため、ＳＴ232に伴う可能性が考えられる。

墓穴ＳＴ231（第104図） 墓群の南側、東の墓穴列と西の墓穴列の中央付近で検出した墓穴である。ＳＴ233・234・235・443を削平して掘られている。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.59m、南北0.61mを測り、平面は方形を呈する。埋葬施設は木棺である。台座・板碑・一石五輪塔が出土した。それらを取り外した掘形の底部でわずかな人骨片と方形に並んだ鉄釘が出土した。出土状況から木棺は長辺0.48m、短辺0.46m程度の規模とみられる。出土した墓石は多様であることから廃棄された可能性が高い。また、平面的にみると墓石は並んだ釘の中におよそ収まっており、木棺が腐植して盛り土とともに落ち窪んでできた穴に廃棄されたものと想定される。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

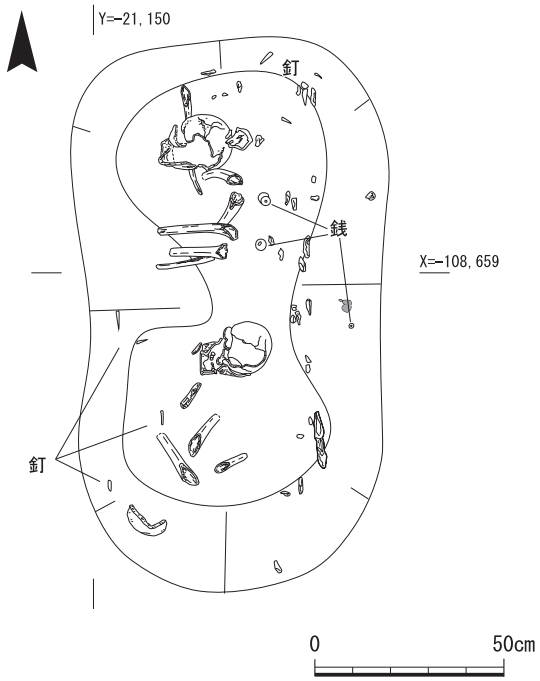
墓穴ＳＴ234（第103図） 掘形の大部分がＳＴ233・235によって削平されている。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.45m以上、南北0.72m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ235（第105図） 埋葬方法は土葬である。北側の一部をＳＴ231によって削平される。掘形の規模は東西0.88m、南北0.77mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好である。頭蓋骨は掘形北東に位置する。埋葬姿勢は崩れているが、座葬と推定される。人骨は掘形中央に位置し、掘形壁面と0.15m程度空間が空くことから、木棺に納められていたと考えられる。遺物はミニチュア土器、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭貨は、長管骨の付近からまとまって出土した。

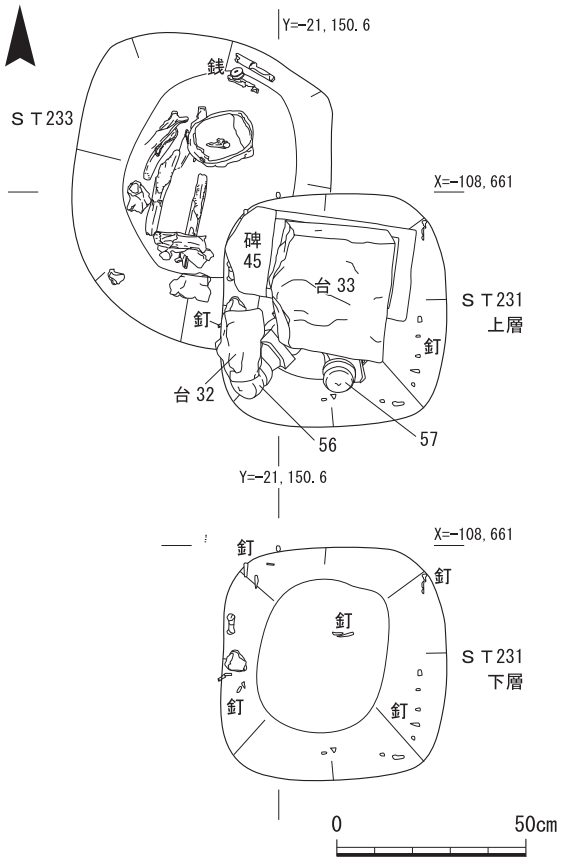
墓群15　ＳＫ89（ＳＴ136・148上層）



墓群15ａ　ＳＴ179



墓群15ｂ　ＳＴ231・233



第104図　墓群15　ＳＫ89・ＳＴ179・231・233実測図

墓穴ＳＴ440（第103図）　北側をＳＴ235、南側をＳＴ236によって削平される。掘形の規模は東西0.64m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は元豊通寶が出土した。

墓穴ＳＴ236（第103図）　墓群15ｂの南端で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.74m、南北0.72mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状況は不良で、遺存していた頭蓋骨は掘形中央に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ148（第103図）　墓群東側の北端で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.94m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良で、掘形北側で頭蓋骨を一部検出した。遺物は掘形中央付近から古寛永通寶を含む銭貨が出土しており、銭貨の直下に漆片が遺存していた。

墓穴ＳＴ147（第103図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北1.13m程度を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ146（第103図）　南側をＳＴ441によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.95m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ441（第103図）　南側をＳＴ167によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.93m、南北0.85m以上を測り、平面は円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

土坑ＳＫ167（第105図）　墓群15ａの中央付近で検出した土坑である。掘形の規模は東西1.15m、南北1.35mを測り、平面は方形を呈する。埋土はシルト含む灰黄褐色細粒砂である。埋土中から一石五輪塔の空風輪、笠塔婆の笠部が出土した。また、骨片や鉄釘が出土しており、既存の墓穴を壊して掘られた墓石廃棄のための土坑と考えられる。

墓穴ＳＴ179（第104図）　墓群15ａの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.76m、南北1.45mを測り、平面は長方形を呈する。上面から磁器壺が出土した。壺は正位置を保っており、中には火葬骨が納められていた。壺に伴う掘形は確認できなかったが上層の遺構とみられる。墓穴に伴う人骨の遺存状態は良好で、被葬者は２体である。２体は北側と南側に分かれて埋葬されており、２基の墓穴の可能性が高い。鉄釘が掘形内全体から出土しており、その平面形は方形を呈する。鉄釘の出土状況から木棺は一辺0.5mの方形とみられる。埋葬姿勢はどちらも座葬とみられ、２体の被葬者が別々の木棺に納められていたと考えられる。頭蓋骨は木棺の北側に位置する。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

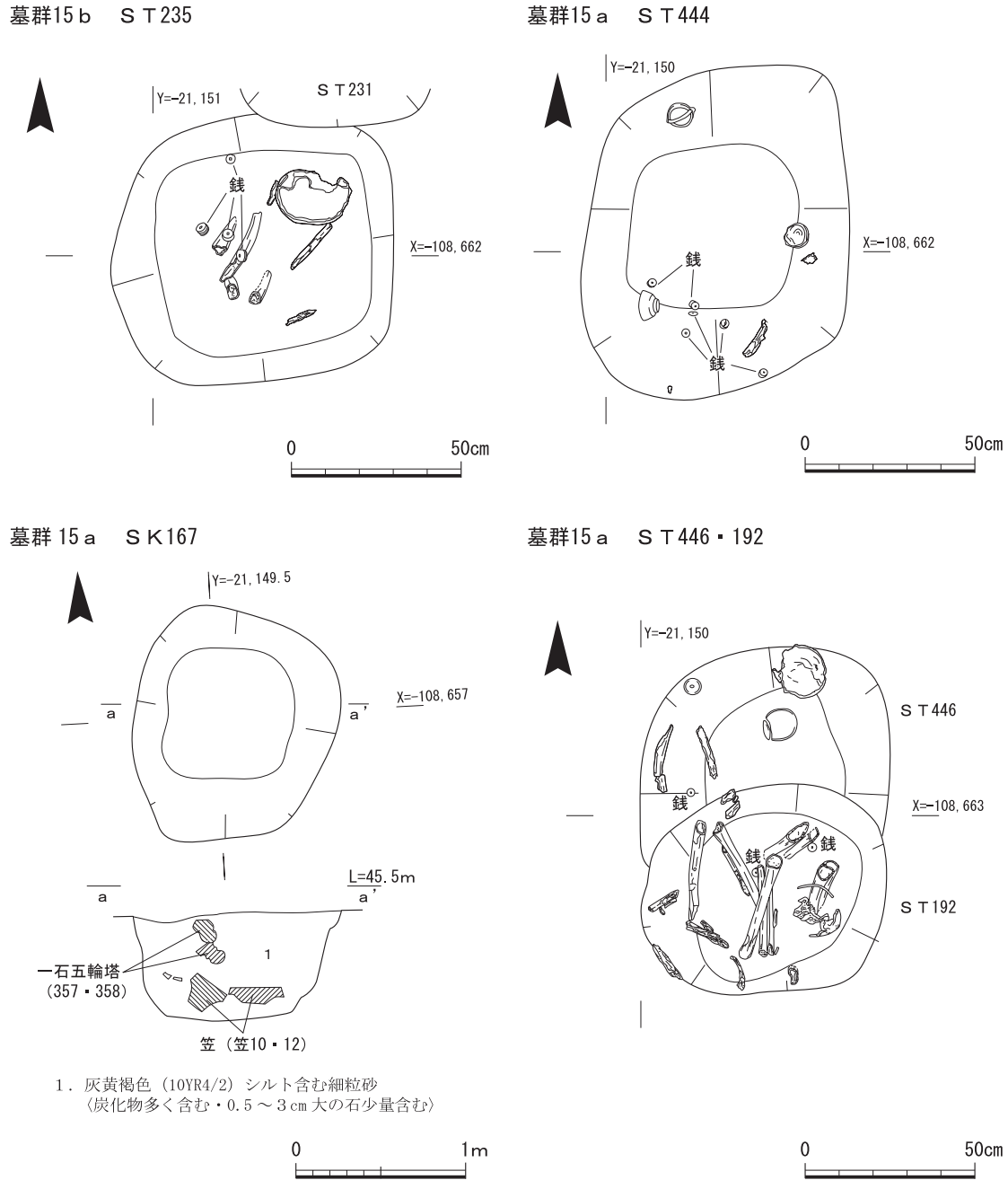
墓穴ＳＴ442（第103図）　南側をＳＴ443に削平された後、東側をＳＥ129によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.57m以上、南北0.65m以上を測り、平面は楕円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ443（第103図）　南側をＳＴ444、東側をＳＥ129によって削平される。埋葬方法は土

葬である。掘形の規模は東西0.43m以上、南北0.90m以上を測り、平面は方形を呈すると考えられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨出土した。

墓穴ＳＴ444（第105図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.78m、南北0.92mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物はミニチュア土器、磁器色絵蓋が出土している。

墓穴ＳＴ445（第103図）　ＳＴ444に北側を、ＳＴ446に南側を削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.75m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺物



第105図　墓群15　ＳＴ235・444・446・192・ＳＫ167実測図

は志野椀、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ446（第105図）　南側をＳＴ192によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.73m、南北0.59m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。頭蓋骨は掘形北側に位置する。遺物は土師器皿のほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ192（第105図）　墓群15ａの南端で検出した墓穴である。埋葬方法は土葬である。掘形は東西0.70m、南北0.60mの方形を呈する。人骨の遺存状態は良好である。埋葬姿勢は崩れていたが、長管骨が立った状態で出土したことから座葬と推測される。頭蓋骨は掘形中央よりやや東側に位置する。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

(16)墓群16

墓地の南側、墓群15の東側で検出した墓群である。東西２列の墓群で、東側で13基、西側で16基、計29基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが２基、不明が27基である。墓群の東西幅は1.64～1.80m、南北長は約10.0mを測る。

土坑ＳＫ157（第107図）　墓群16ｂの北端で検出した土坑である。掘形は東西1.12m以上、南北2.31m以上を測る。埋土は褐色の細粒砂～粗砂である。埋土中から墓石が19基出土した。一石五輪塔や舟形墓標、笠部などの墓石が重なり合って出土している。下層でＳＴ447～449を検出しており、これらの墓穴を削平して掘られた、廃棄土坑と考えられる。

墓穴ＳＴ447（第106図）　墓群16ｂの北端で検出した。上層をＳＫ157によって削平される。掘形の規模は東西0.90m、南北1.04mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土していない。遺物は土師器皿、磁器青磁椀のほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ448（第106図）　南側をＳＴ449によって削平される。掘形の規模は東西0.75m、南北0.75m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

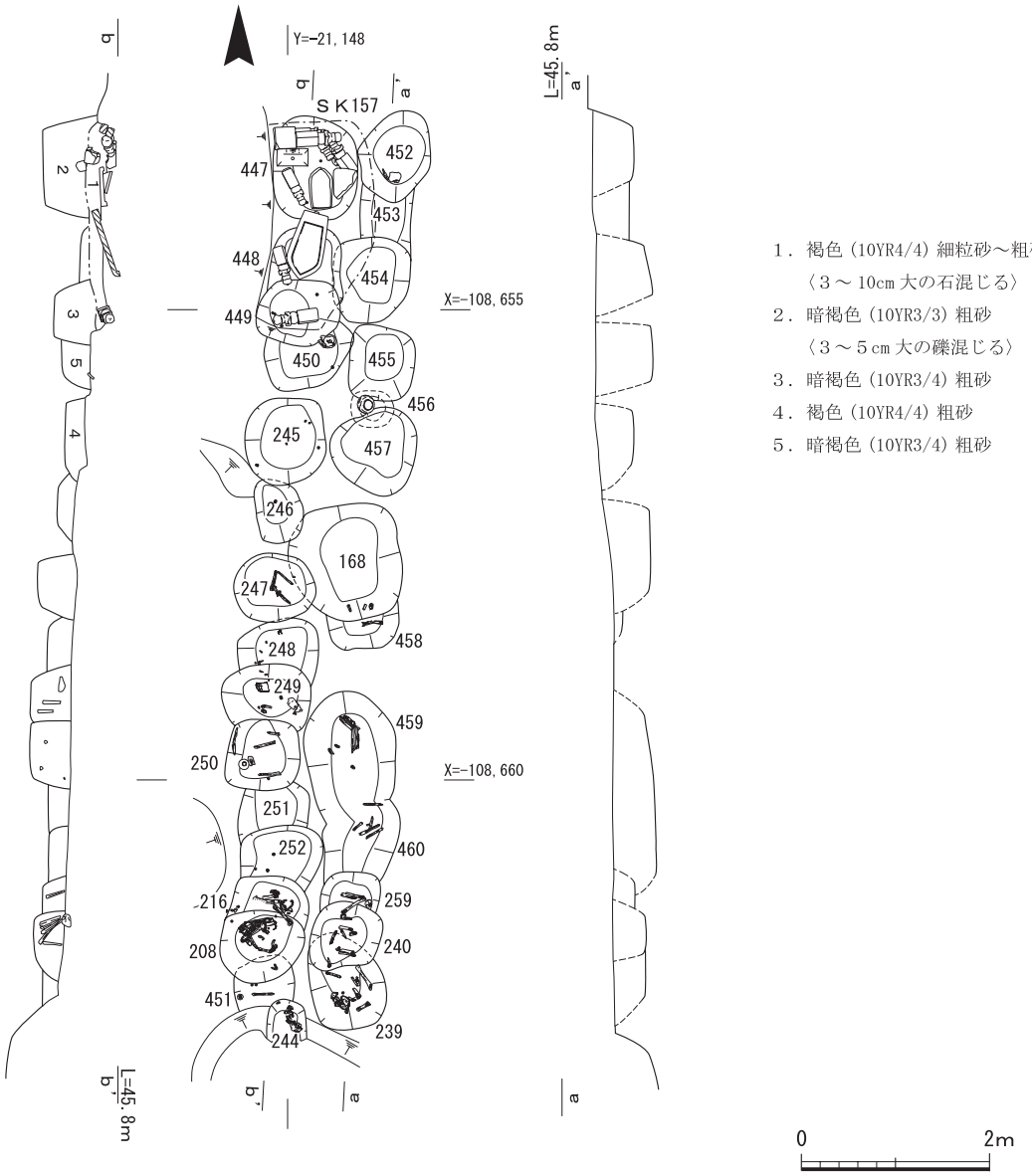
墓穴ＳＴ449（第106図）　ＳＴ448・450の上層で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.88m、南北0.70mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ450（第106図）　北側をＳＴ449によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.95m、南北0.57m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態はやや不良で、遺存していた頭蓋骨は掘形北東に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ245（第106図）　掘形の規模は東西0.86m、南北0.91mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は鉄釘がわずかに出土したほか、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ246（第106図）　墓群16ｂの中央付近で検出した。掘形の規模は東西0.50m、南北0.68mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ247（第106図）　墓群16ｂの中央付近で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規



第106図　墓群16　平面・断面図

模は東西0.87m、南北0.73mを測り、平面は円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨のほか、青銅製品が出土した。

墓穴ＳＴ248（第106図）　南側をＳＴ249によって削平される。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。掘形底部西側から鉄釘が「Ｌ」字状に並んで出土している。鉄釘は主軸の北に対して30°東に振る。鉄釘の出土状況から、木棺規模は一辺0.45m程度と推定される。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ249（第106図）　南側をＳＴ250によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.92m、南北0.68m以上を測り、平面は方形ないしは円形を呈するとみられる。人骨の遺存状態はやや不良である。

墓穴ＳＴ250（第107図）　ＳＴ249・251を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東

西0.78m、南北0.75mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良で長管骨のみが残る。遺物は陶器椀のほか、念仏銭を含む銭貨が出土した。銭貨の下に木片がわずかながら遺存しており、銭貨は何らかの容器に納められていたと推測される。

墓穴ＳＴ251（第106図） 北側をＳＴ250、南側をＳＴ252によって削平される。掘形の規模は東西0.73m、南北0.70m以上を測る。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ252（第106図） 南側をＳＴ216によって削平される。掘形の規模は東西0.82m、南北0.65m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ216（第106図） 南側をＳＴ208によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82m、南北0.38m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は比較的良好である。座葬と推定される。頭蓋骨は掘形北東に位置している。

墓穴ＳＴ208（第106図） ＳＴ216・451を削平して掘られる。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.84m、南北0.78mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は座葬である。立膝を腕で抱えた姿勢と考えられる。頭蓋骨は掘形北側中央に位置する。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ451（第106図） 北側をＳＴ208、南側を後世の攪乱によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.64m、南北0.37m以上を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は染付小椀、銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ244（第106図） 掘形の大部分を後世の攪乱によって削平される。掘形の底部付近のみを検出した。埋葬方法は土葬である。人骨の遺存状態は不良で、頭蓋骨が一部出土した。

墓穴ＳＴ452（第106図） 墓群16ａの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北0.98mを測り、平面は不定形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ453（第106図） 北側をＳＴ452、南側をＳＴ454によって削平される。掘形の規模は東西0.53m、南北0.75m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ454（第106図） ＳＴ453を削平する。掘形の規模は東西0.82m以上、南北0.91mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は銭貨が出土した。

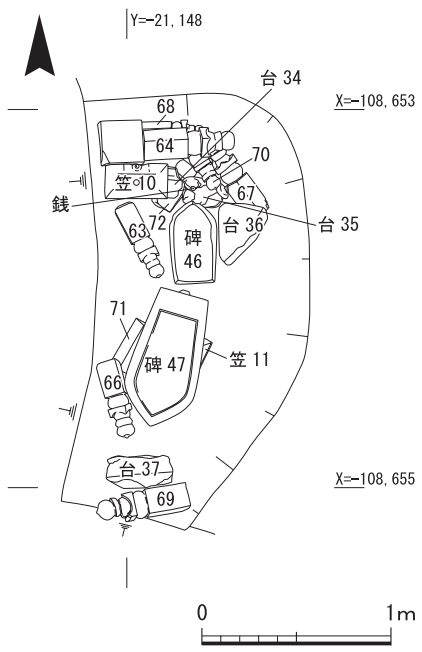
墓穴ＳＴ455（第106図） 掘形の規模は東西0.68m、南北0.78mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。遺物は新寛永通寶のほか、土師器皿、ミニチュア土器が出土している。

墓穴ＳＴ456（第107図） ＳＴ455と457の間で検出した。明確な掘形は確認できなったが、土師質の壺が出土している。壺の中には、割れた蓋が落ち込む。そのほかの内容物は入っていなかった。

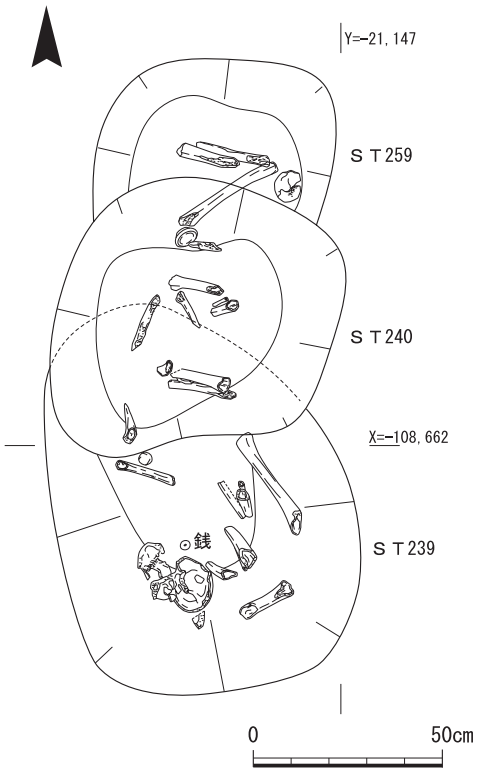
墓穴ＳＴ457（第106図） 掘形の規模は東西0.91m、南北0.94mを測り、平面は不定形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ168（第106図） 墓群16ａの中央付近で検出した。西側をＳＴ246・247によって一部削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西1.17m、南北

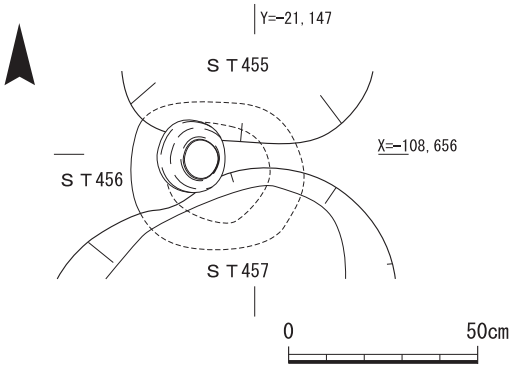
墓群16ｂ　ＳＫ157



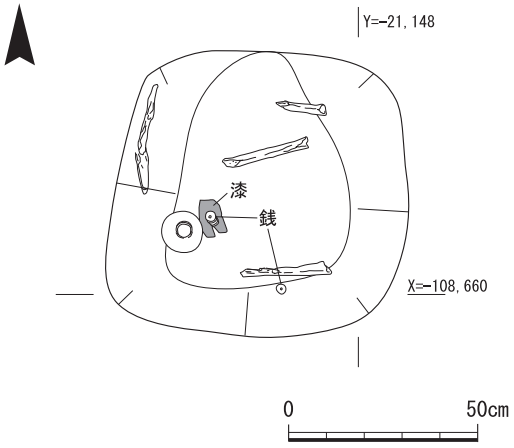
墓群16ａ　ＳＴ239・240・259



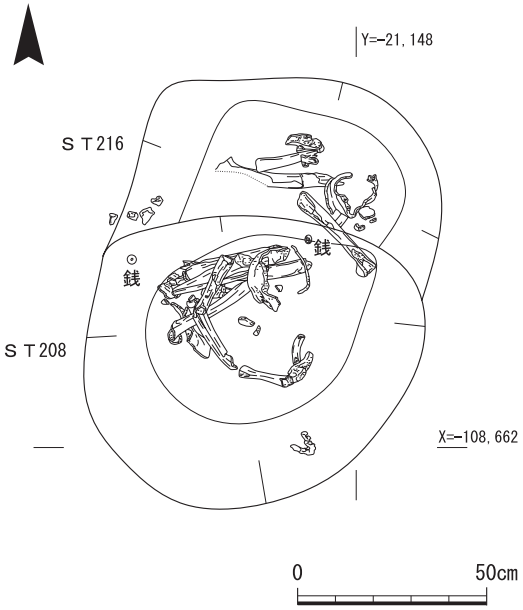
墓群16ａ　ＳＴ456土師質壺出土状況



墓群16ｂ　ＳＴ250



墓群16ｂ　ＳＴ208・216



第107図　墓群16　ＳＫ157・ＳＴ456・250・239・240・259・208・216実測図

1.23mを測り、平面は西側が膨らむ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は土師器皿、染付椀、青銅製の座金具が出土した。

墓穴ＳＴ458（第106図）　北側をＳＴ168によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.45m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。

墓穴ＳＴ459・460（第106図）　ＳＴ458の南側で検出した。明確な輪郭は不明であるが、人骨の出土状況から、２基の墓穴と考えられる。埋葬方法はそれぞれ土葬である。人骨の遺存状態は不良で、長管骨がわずかに出土した。遺物は、ＳＴ460の埋土上層から一石五輪塔の地輪が出土したほか、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ259（第107図）　南側をＳＴ240によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.62m、南北0.40m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は比較的良好である。

墓穴ＳＴ240（第107図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.72m、南北0.77mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状況は比較的良好である。遺物は掘形上層から笠部が出土したほか、古寛永通寶を含む銭貨、染付椀、青銅製の鋲が出土した。

墓穴ＳＴ239（第107図）　墓群16ａの南端で検出した。北側をＳＴ240によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.79m、南北0.90m以上を測り、平面は楕円形ないしは方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は比較的良好である。出土状況から座葬と推定される。頭蓋骨は掘形南西に位置する。遺物は新寛永通寶が出土した。

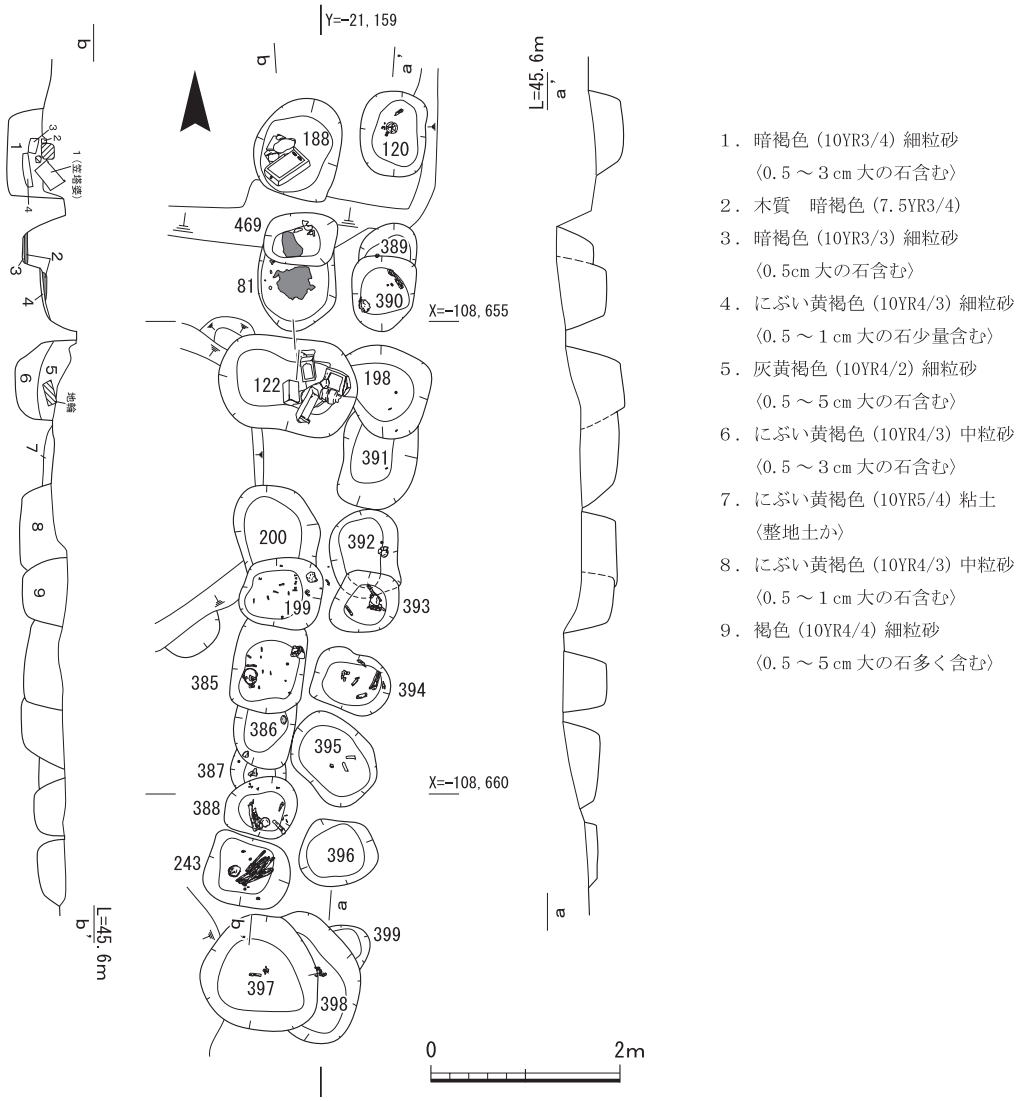
(17)墓群17

墓地の南側、墓群12の西側で検出した墓群である。東西２列の墓群で、東側で12基、西側で12基、計24基の墓穴を検出した。そのうち、埋葬施設に木棺を使用しているものが６基、不明が18基である。墓群の東西幅は1.6～1.8m、南北長は約10mを測る。

墓穴ＳＴ188（第110図）　墓群17ｂの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.89m、南北1.06mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。掘形内上層から墓石が出土した。笠塔婆・台座があり、廃棄されたと考えられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ469（第109図）　ＳＴ81の北側で検出した。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。南側でＳＴ81と重なり合うが前後関係は不明である。掘形の規模は東西0.58m、南北0.55m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は良好で、埋葬姿勢は崩れているが座葬とみられる。頭蓋骨は掘形北側に位置していた。掘形底部にわずかに木質が遺存する。

墓穴ＳＴ81（第109図）　ＳＴ469の南側で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.75m、南北0.55m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。埋葬施設は木棺である。人骨の遺存状態は良好で、姿勢は崩れているが座葬とみられる。頭蓋骨は掘形西側に位置する。掘形底部に木質が遺存していた。遺物は土師器皿、新寛永通寶を含む銭貨が出土している。



第108図　墓群17　平面・断面図

墓穴ＳＴ122（第110図）　墓群17ａのＳＴ198を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.46m、南北1.00mを測り、平面は方形を呈する。掘形内東側から墓石が出土した。墓石は複数がまとまって出土しており、廃棄されたとみられる。また、掘形内からは骨片が出土しており、既存の墓の掘形は削平されている可能性が高い。

墓穴ＳＴ200（第108図）　南側をＳＴ199によって削平される。掘形の規模は東西0.88m、南北0.77m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。遺物は銭貨が出土した。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ199（第109図）　ＳＴ200・385を削平する。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.85m、南北0.75mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨、青銅製品が出土した。

墓穴ＳＴ385（第109図）　北側をＳＴ199によって削平される。埋葬方法は土葬である。埋葬施

設は木棺である。掘形の規模は東西0.76m、南北1.00m以上を測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好である。頭蓋骨は掘形南西に位置する。埋葬姿勢は不明である。遺物は土師器皿、新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ386（第108図） 北側をＳＴ385によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.64m、南北0.68m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は漆器椀、古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ387（第108図） 北側をＳＴ386、南側をＳＴ388によって削平される。掘形の規模は東西0.59mを測る。人骨は出土しなかった。遺物は漆片、古寛永通寶１枚が出土している。

墓穴ＳＴ388（第109図） ＳＴ387を削平する。埋葬方法は土葬である。埋葬施設は木棺である。掘形の規模は東西0.72m、南北0.66mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや良好で、長管骨が出土した。遺物は土師器皿、銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ243（第109図） 埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.90m、南北0.73mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好である。埋葬姿勢は崩れていたが、座葬と想定される。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。銭貨は掘形内で複数か所から出土しており、そのうち南側２か所で検出した銭貨の下にはわずかながら木質が遺存していた。漆器などの容器に納められていたと考えられる。

墓穴ＳＴ397（第108図） 墓群17ｂの南端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.24m、南北1.20mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。掘形中央付近から古寛永通寶を含む銭貨が出土した。また銭貨のすぐ東から漆片が出土した。

墓穴ＳＴ120（第108図） 墓群17ａの北端で検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.69m、南北0.90mを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ389（第108図） 南側をＳＴ390によって削平される。掘形の規模は東西0.61m、南北0.35m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。

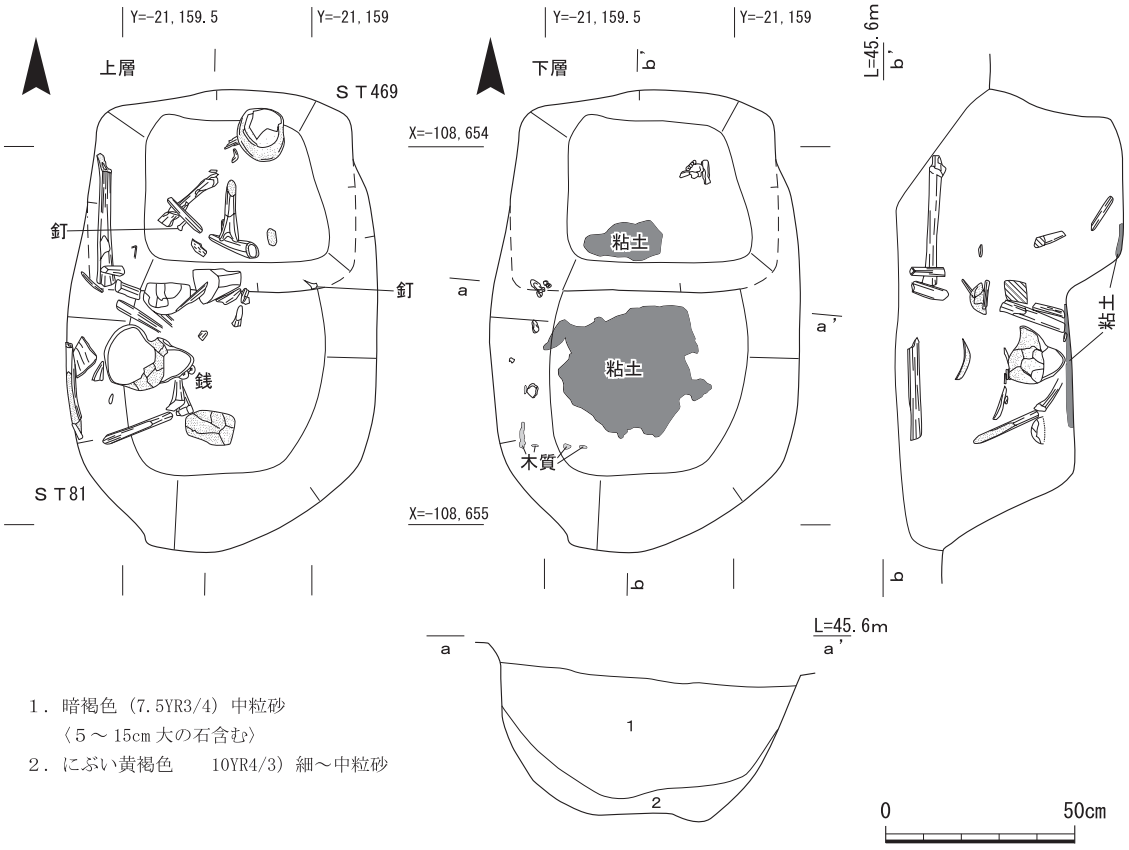
墓穴ＳＴ390（第108図） ＳＴ389を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.65m、南北0.78mを測り、平面は南が膨らんだ方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。遺物は銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ198（第108図） 西側をＳＴ122によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西約0.76m以上、南北0.98mを測り、平面は歪んだ方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

墓穴ＳＴ391（第108図） 北側をＳＴ198によって削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.76m、南北1.0m以上を測り、平面は長方形を呈するとみられる。人骨の遺存状態は不良である。遺物は銭貨が出土した。

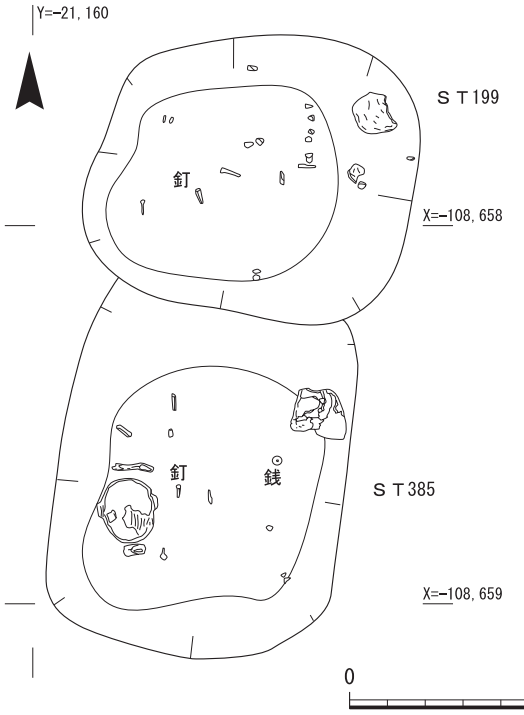
墓穴ＳＴ392（第108図） 南側をＳＴ393によって削平される。掘形の規模は東西0.72m、南北0.87m以上を測り、平面は方形を呈するとみられる。人骨は出土しなかった。遺物は染付椀、古

墓群17ｂ　ＳＴ81・469

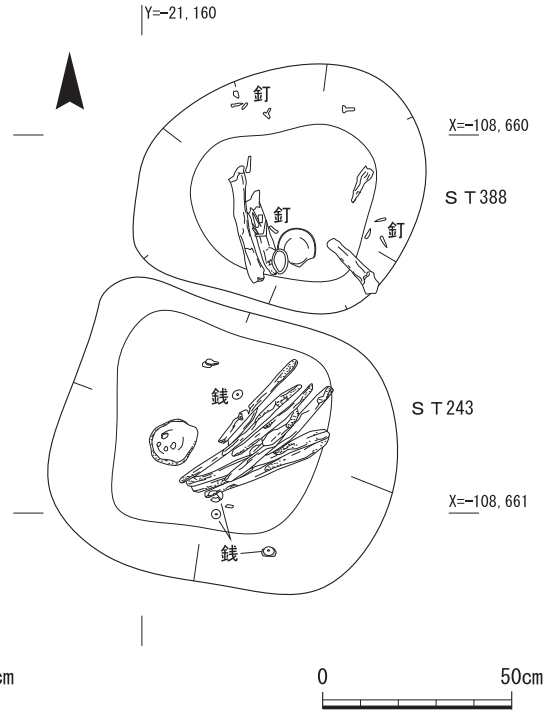


1．暗褐色（7.5YR3/4）中粒砂
〈5～15cm大の石含む〉
2．にぶい黄褐色　10YR4/3）細～中粒砂

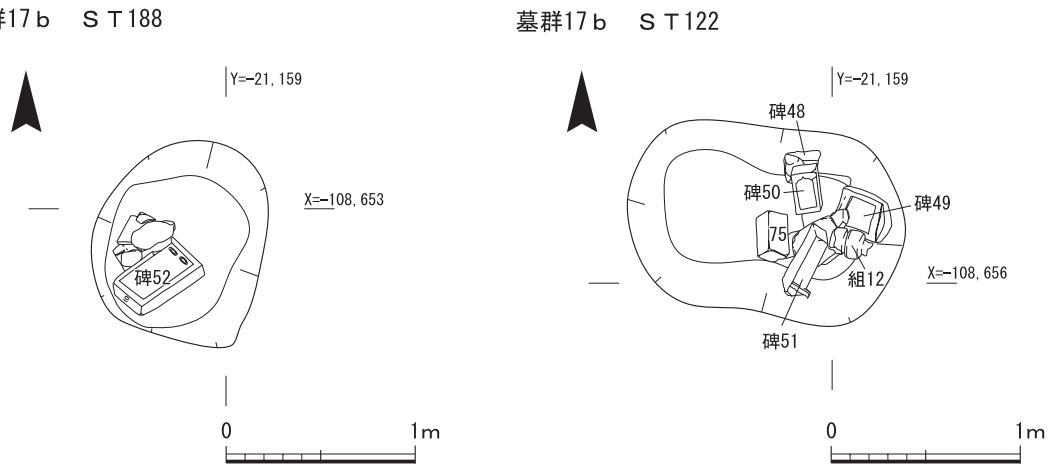
墓群17ｂ　ＳＴ199・385



墓群17ｂ　ＳＴ388・243



第109図　墓群17　ＳＴ81・469・199・385・388・243実測図



第110図　墓群17　ＳＴ188・122実測図

寛永通寶を含む銭貨が出土している。

墓穴ＳＴ393（第108図）　ＳＴ392を削平する。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.68ｍ、南北0.65ｍを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨や長管骨が出土した。頭蓋骨は、掘形中央付近に位置する。

墓穴ＳＴ394（第108図）　埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西0.82ｍ、南北0.62ｍを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態はやや不良である。

墓穴ＳＴ395（第108図）　墓群17ａで検出した。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は東西1.0ｍ、南北0.74ｍを測り、平面は方形を呈する。人骨の遺存状態は不良である。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

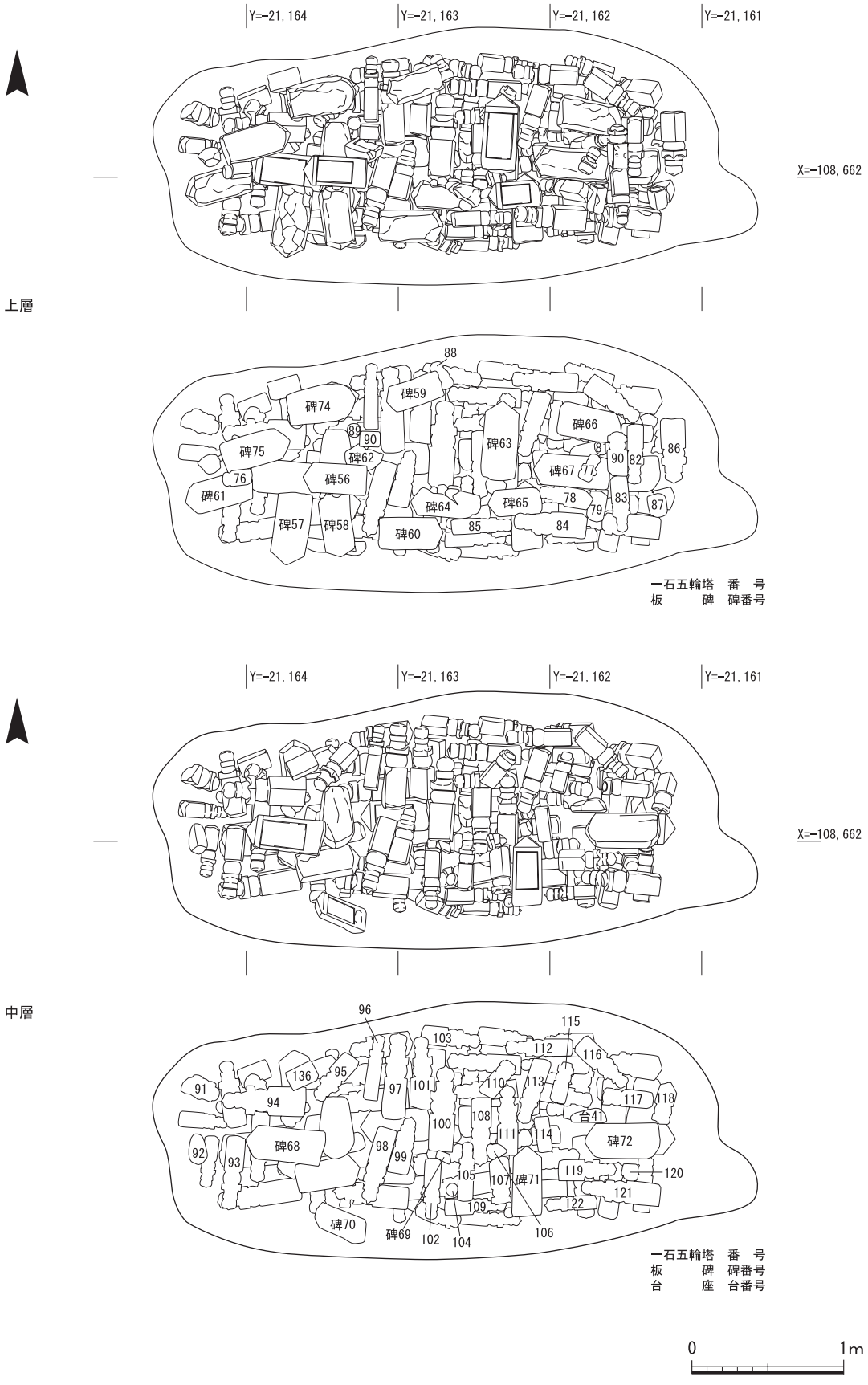
墓穴ＳＴ396（第108図）　掘形の規模は東西0.83ｍ、南北0.73ｍを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土しなかった。

墓穴ＳＴ398（第108図）　西側をＳＴ397によって大きく削平される。埋葬方法は土葬である。掘形の規模は南北1.0ｍ程度を測る。人骨の遺存状態は不良である。遺物は新寛永通寶を含む銭貨が出土した。

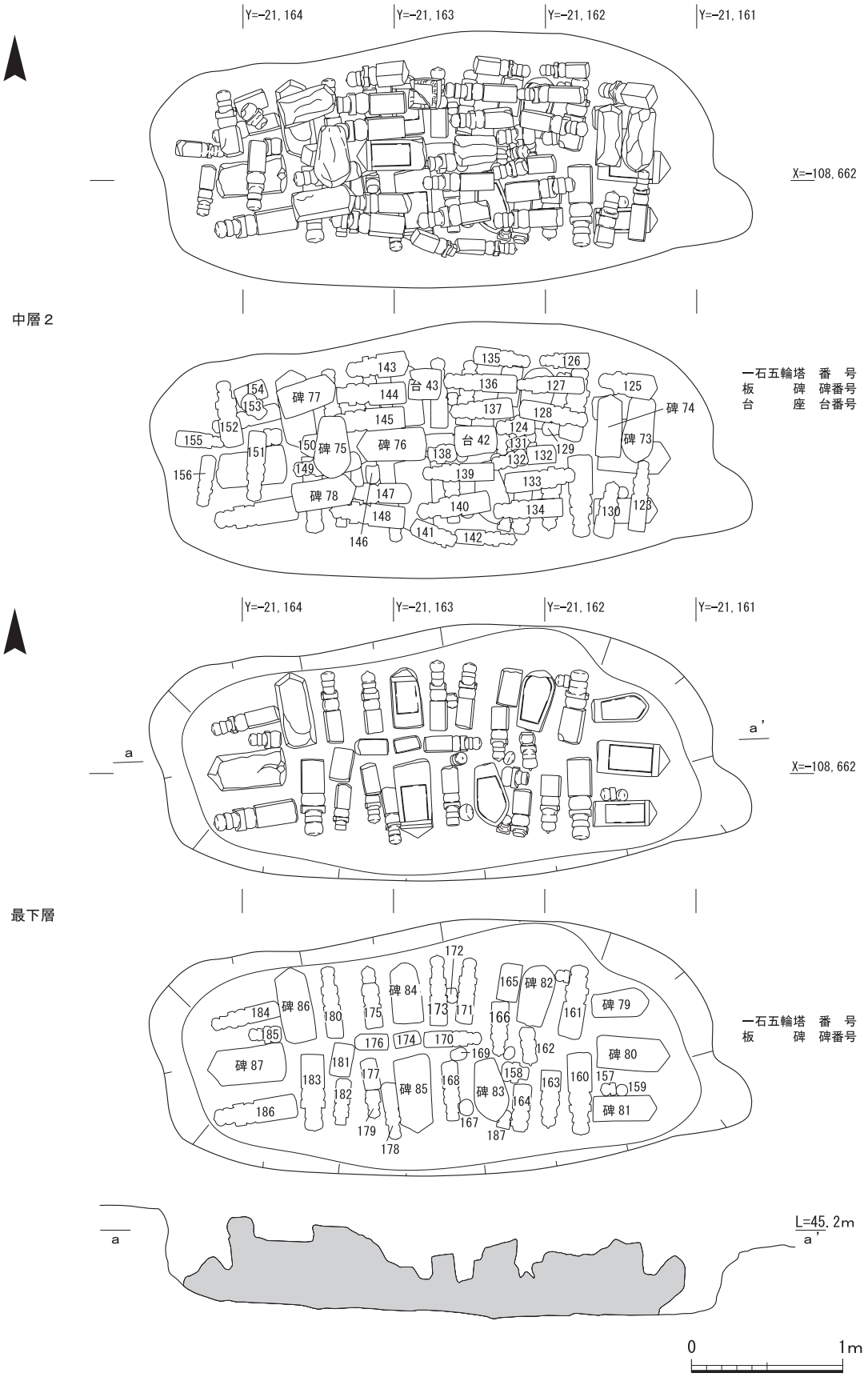
墓穴ＳＴ399（第108図）　西側をＳＴ398によって大きく削平される。掘形の規模は東西0.25ｍ以上、東西0.49ｍ以上を測る。人骨は出土しなかった。遺物は古寛永通寶を含む銭貨が出土した。

(18)墓群18（第69図）

墓域を確認するため、墓群16の東側で南北約3.6ｍ、東西約4.4ｍの範囲を一部東側へ拡張を行い検出した墓群である。これまでの墓群と同様に東西２列１組の墓群となる。拡張範囲内で、東側で３基、西側で２基の墓穴を検出した。墓群の東西幅は約1.9ｍである。今回検出した墓地は、東西墓道を中心として南北に対称に墓群を配しており、これまでの墓群と同様に墓群18の北側にも別の墓群があるものと推測される。また、寺境となる施設を確認できなかったことから、墓地はさらに東側へ広がる可能性が高い。なお、墓地の範囲確認に留まり、墓穴の掘削作業は実施していない。



第111図　南地区ＳＫ99実測図（１）



第112図　南地区ＳＫ99実測図（２）

(19)その他の埋葬施設

墓穴ＳＴ52(第69図)　墓群１北端のＳＴ97から約0.5m南に位置する。掘形の規模は東西0.5m、南北0.6mを測り、平面は方形を呈する。人骨は出土していないが、銭貨が12枚出土しており、墓穴と考えられる。

墓穴ＳＴ76(第69図)　南地区の中央付近北側で検出した。墓群１から約２m西側に位置する。掘形の規模は東西0.5m、南北4.7mを測り、平面は方形を呈する。埋葬方法は土葬である。人骨の遺存状態は比較的良好である。

(20)その他の遺構

土坑ＳＫ99(第111・112図)　墓群17の西側で検出した土坑である。掘形の規模は東西3.7m、南北1.5～1.7m、深さ0.4～0.6mを測り、平面は長方形を呈する。土坑内からは破片を含め149基の墓石が出土した。出土した墓石の大半が完形品で、４段に積み重なる。無縁となったものや古くなった墓石を整理したものと考えられる。

最下層では破片を含め42基の墓標が出土した。内訳は一石五輪塔が33基、舟形墓標が３基、板碑が６基である。東西に長い長方形の掘形に墓標を横にして並べる。４辺には完形の墓石が、いずれも頂部を外側に向けて約10cmを空けて等間隔に並び、その隙間や中央に一石五輪塔の空輪部や地輪部などの破片が置かれる。北辺に９基、南辺に10基が並び、東西辺には３基が並ぶ。一石五輪塔の正面は様々な方向を向き、それ以外の墓標は２基が裏向き、１基が表向きである。

中層２では43基の墓石が出土した。内訳は一石五輪塔が35基、舟形墓標が２基、板碑が４基、台座が２基である。個々の墓石は東側と西側で南北方向、中央では東西方向になり、下段の墓石と互い違いになるように置かれる。頂部の方向に規則性はみられない。板碑・舟形墓標は１点を除き裏向きで置かれる。

中層では39基の墓石が出土した。内訳は一石五輪塔が33基、板碑が５基、台座が１基である。中層２と互い違いに置かれ、東側と西側では東西方向、中央では南北方向に墓石が置かれる。

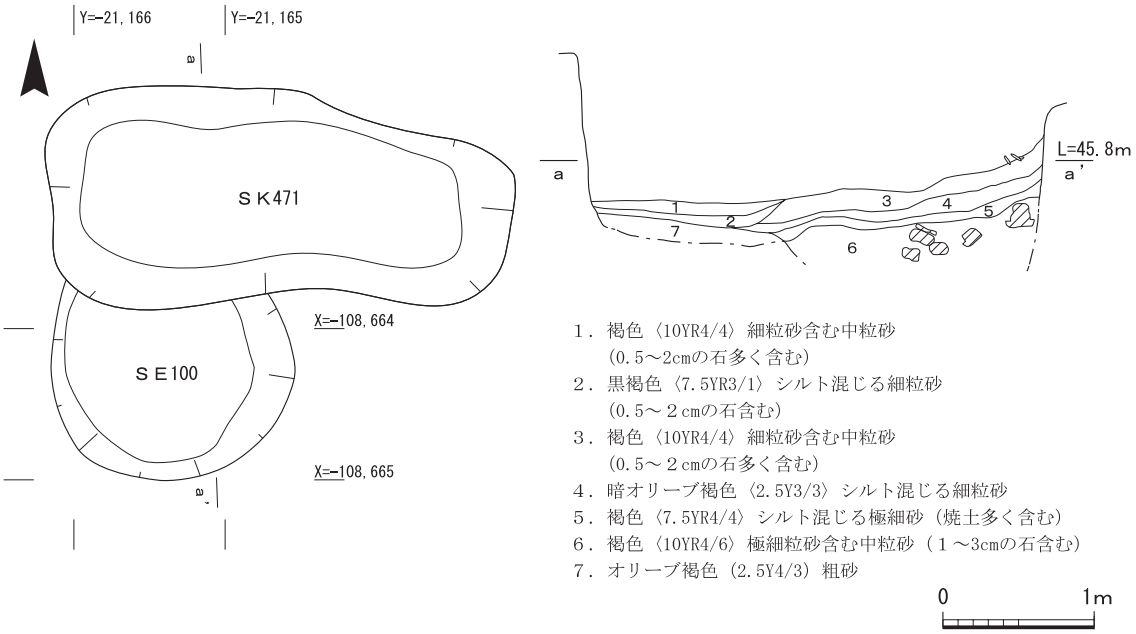
上層では29基の墓石が出土した。内訳は一石五輪塔が15基、舟形墓標が１基、板碑が13基である。互い違いを意識して墓石を置くが、これまでに生じた高さなどのズレから、下層ほどの規則性は薄まる。石が安定する場所を選んで置いたようである。

出土した記年銘のある墓石で最も新しいものは寛永５(1628)年で、遺構の時期も1628年以降にあたる。

土坑ＳＫ471(第113図)　墓地の南側、ＳＫ99の南西で検出した土坑である。掘形の規模は東西3.0m、南北1.4mを測り、平面は長方形を呈する。深さは1.1mを測る。埋土は黄褐色や暗褐色の細～中粒砂で、北側の埋土は炭化物を多く含む。

井戸ＳＥ100(第113図)　ＳＫ471の南西で検出した井戸である。北側上面をＳＫ471によって削平される。井戸の上層南側で一石五輪塔20基、組合式五輪塔２基がまとまって出土した。一石五輪塔は１基を除いて、水輪より上部の破片である。接合する地輪部は出土していない。地輪部はＳＥ113のように転用され、転用に向かない部位を廃棄した可能性が考えられる。井戸は円形

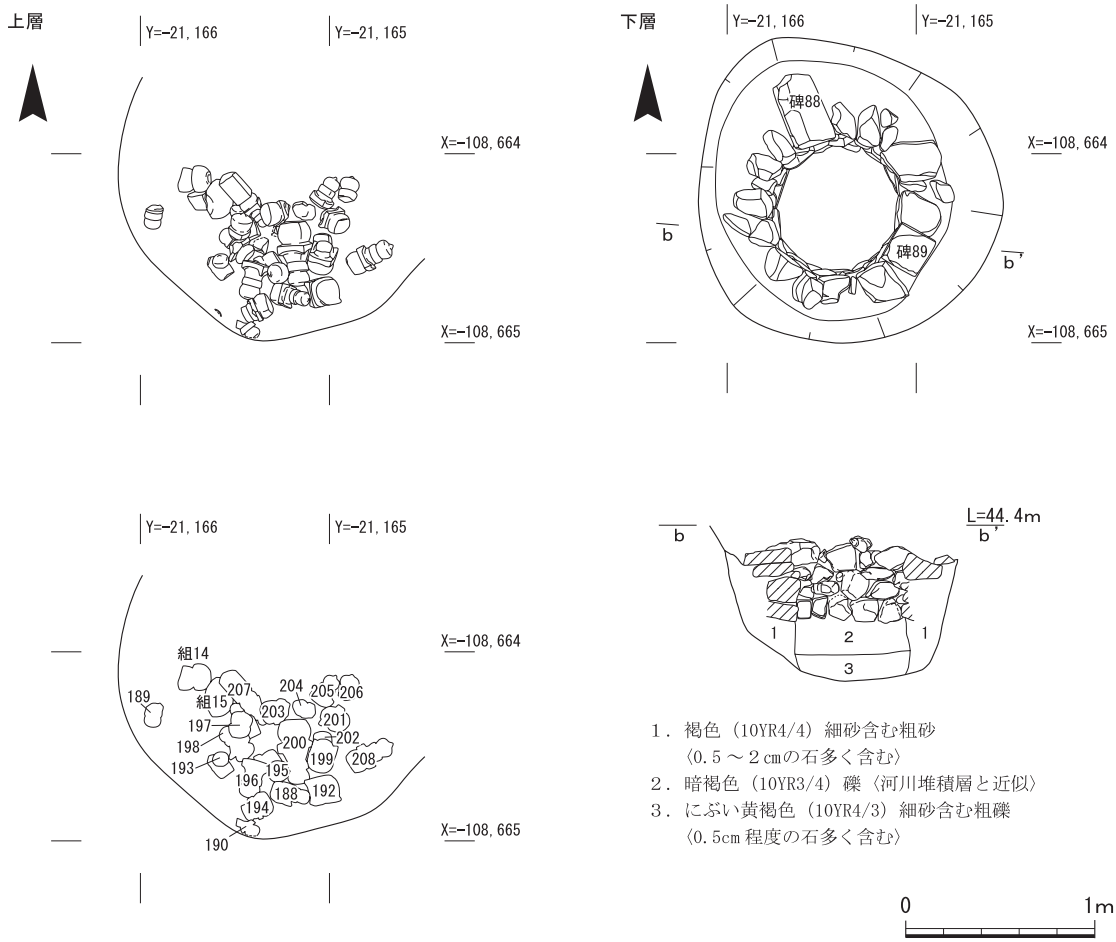
ＳＫ471



1．褐色〈10YR4/4〉細粒砂含む中粒砂
(0.5～2cmの石多く含む)
2．黒褐色〈7.5YR3/1〉シルト混じる細粒砂
(0.5～２cmの石含む)
3．褐色〈10YR4/4〉細粒砂含む中粒砂
(0.5～２cmの石多く含む)
4．暗オリーブ褐色〈2.5Y3/3〉シルト混じる細粒砂
5．褐色〈7.5YR4/4〉シルト混じる極細砂（焼土多く含む）
6．褐色〈10YR4/6〉極細粒砂含む中粒砂（１～3cmの石含む）
7．オリーブ褐色（2.5Y4/3）粗砂

0　1m

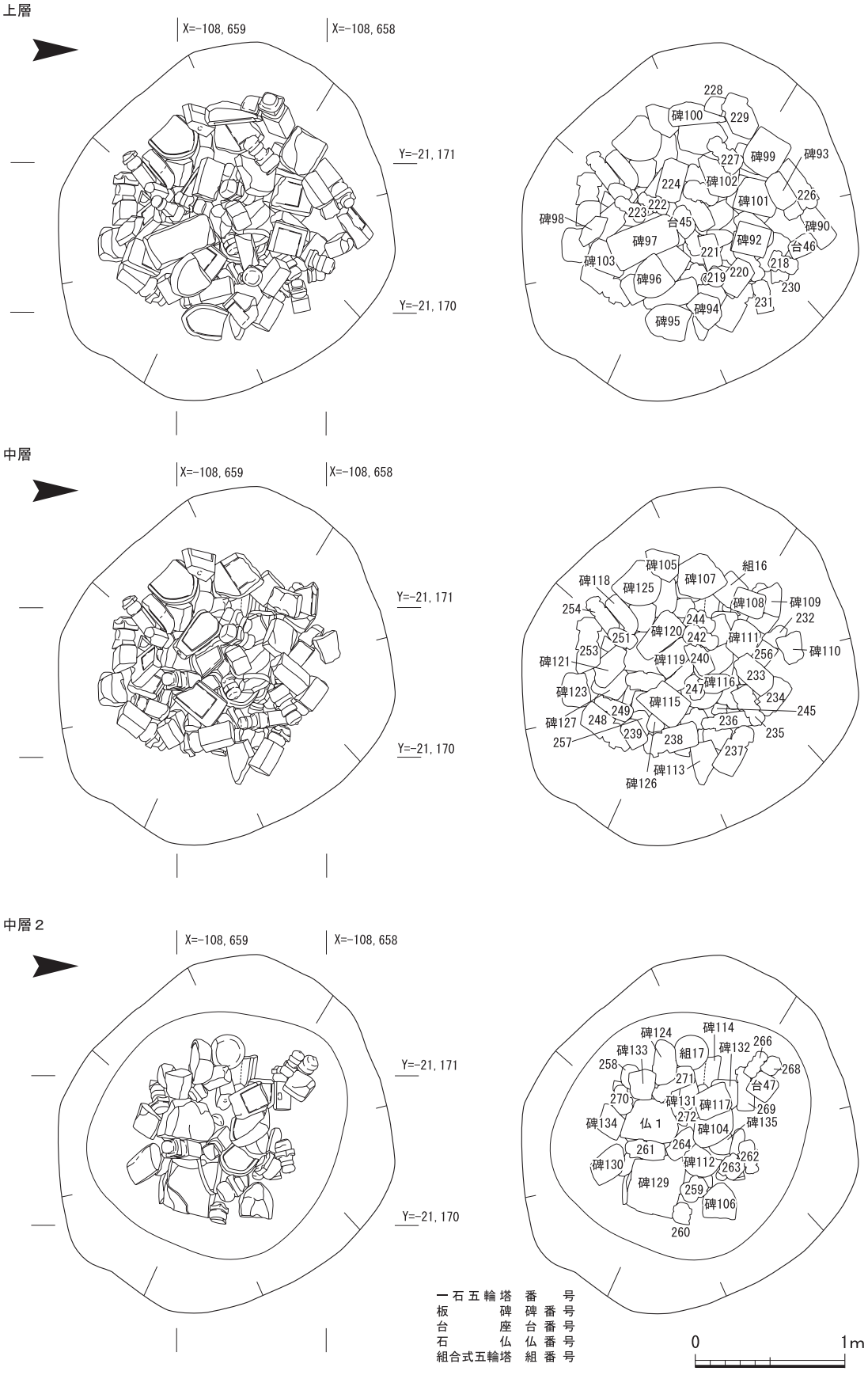
ＳＥ100



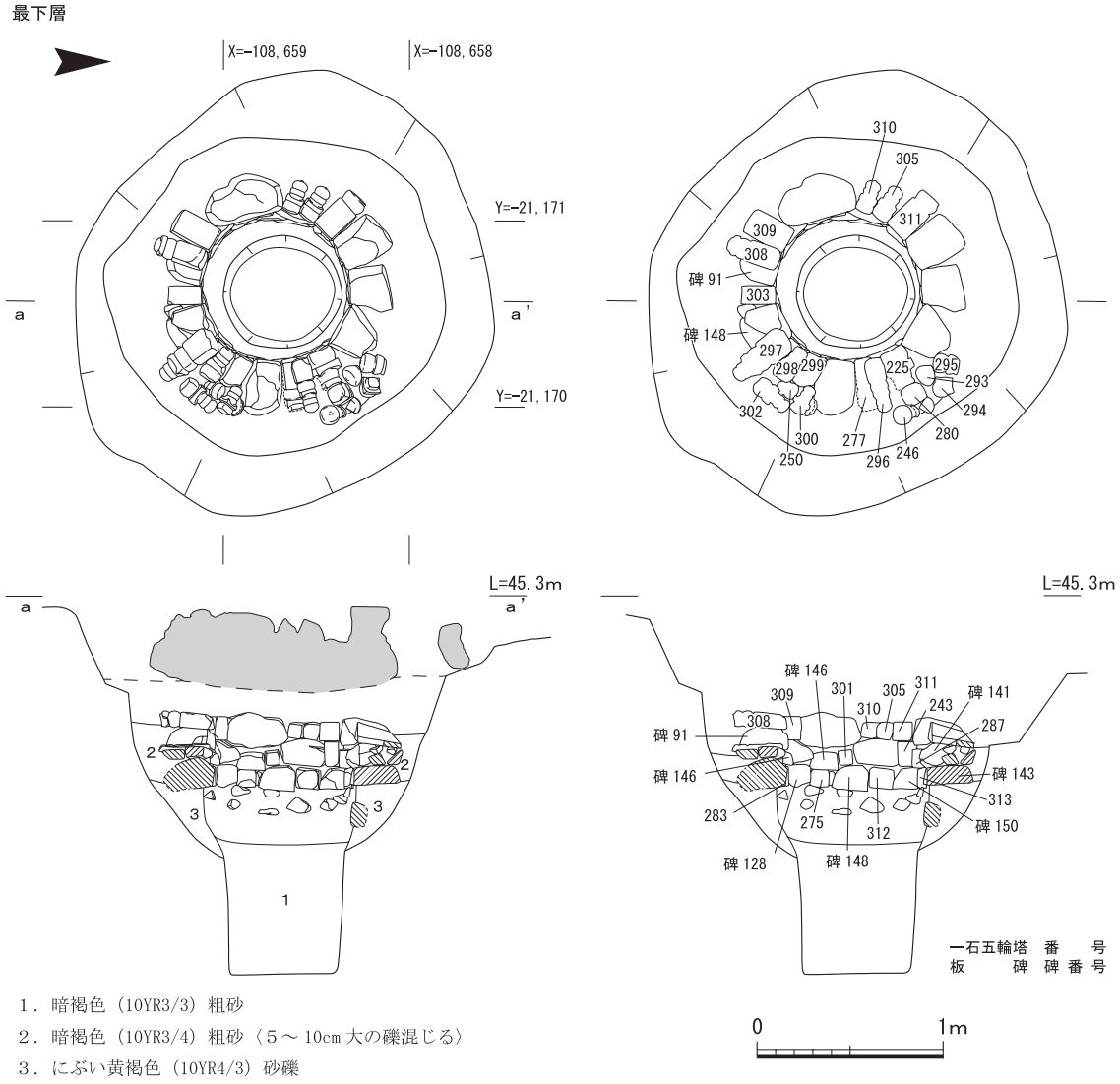
1．褐色（10YR4/4）細砂含む粗砂
〈0.5～２cmの石多く含む〉
2．暗褐色（10YR3/4）礫〈河川堆積層と近似〉
3．にぶい黄褐色（10YR4/3）細砂含む粗礫
〈0.5cm程度の石多く含む〉

0　1m

第113図　南地区ＳＫ471・ＳＥ100実測図



第114図　南地区ＳＥ113実測図（１）



第115図　南地区ＳＥ113実測図（２）

の石組の井戸枠を持つ井戸で、井戸枠は四段確認した。井戸枠から水溜め部を約0.3m掘り窪める。掘形の規模は直径約1.6m、深さ0.8mを測り、平面は歪んだ円形を呈する。掘形埋土は褐色の細砂含む粗砂で、水溜め部には暗褐色の礫、にぶい黄褐色の粗砂含む粗礫が堆積する。井戸枠の一部に墓石が転用される。転用された墓石は２基で、１基は板碑形墓標の完形品で、もう１基は板碑を中央で割りその下半が用いられる。それぞれ文禄３(1594)年、天正17(1589)年の紀年が刻まれる。

井戸ＳＥ113（第114・115図）　墓地の西側、南地区の中央付近で検出した。上面を学校校舎基礎によって大きく削平される。上層に多数の墓石が円形の範囲に集中し、その下層の井戸から形成される。上層の掘形の規模は直径約2.2mを測り、平面は円形を呈する。掘形中央付近に直径約1.5m、高さ約0.3mの範囲で破片を含め132基の墓石がまとまって出土した。出土した墓石には、一石五輪塔や組合式五輪塔のような石塔、舟形墓標・板碑などの墓標、台座、石仏など様々な種類がある。完形のものは含まれず、部位が欠損しているものや半分程度に割れているものばかり

が出土した。出土状況に規則性はみられず、廃棄されたものと考えられる。

下層の井戸は、円形に石組された井戸枠をもつ。掘形の規模は直径約0.7mを測り、平面は円形で、埋土は暗褐色粗砂、にぶい黄褐色砂礫である。上層の墓石集中か所と井戸枠上面との間には暗褐色の砂層が約0.2m堆積する。井戸枠は三段遺存しており、水溜め部を深さ1.0m程度掘り窪める。水溜め部の埋土は暗褐色の粗砂である。

井戸枠には、自然石のほかに墓石を転用している。転用された墓石は、一石五輪塔や舟形墓標などで、台座・笠部は転用されていない。多くの墓石は割れており、碑96・98のように楔痕が残るものが多くあることから、井戸枠に転用しやすい大きさ・形に人為的に割ったようである。墓標の多くはその中央付近で割られているものがほとんどで、その断面を内側へ向けて組まれる。一石五輪塔は、地輪と水輪のように細くなる各部位の境界で割られており、地輪のように面を持つものは井戸枠として、空・風輪のような小さな破片は栗石として転用されている。一石五輪塔には楔痕は確認できない。井戸枠として転用された墓石は62基である。

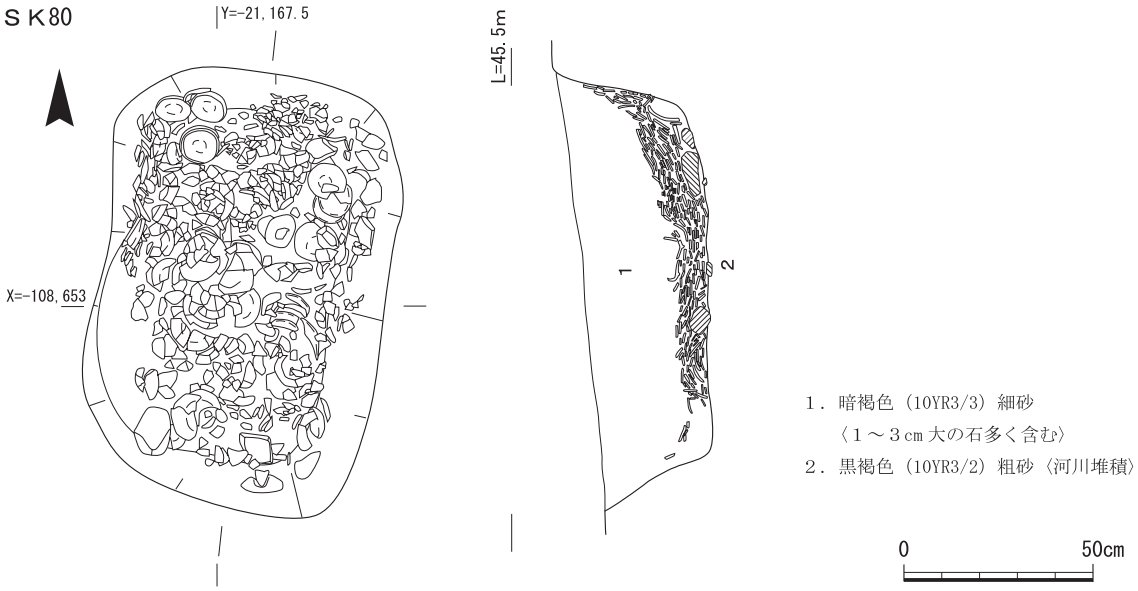
ＳＥ113から出土した紀年銘のある墓石で最も古いものは天正６（1578）年、新しいものは万治３（1660）年である。井戸の築造も1660年以降といえる。井戸枠をすべて除去後、井戸枠に転用された墓石と、上層の墓石で接合するものを確認した。碑90・91、碑92・93など37組に及ぶ。上述したように、墓標は中央付近で割り、その断面を利用する。上半と下半両方を利用していたと考えるのが自然であり、上層で出土した破片も当初井戸枠を構成していたと考えられる。南地区西側で確認した寺町期の遺構面は標高46.0mであり、井戸検出面より1.2m近く高い。そのため、元々井戸枠は上層で出土した墓石などを利用して検出高より高く積まれており、その後上部が削平を受け転用石材が廃棄されたと考えられる。

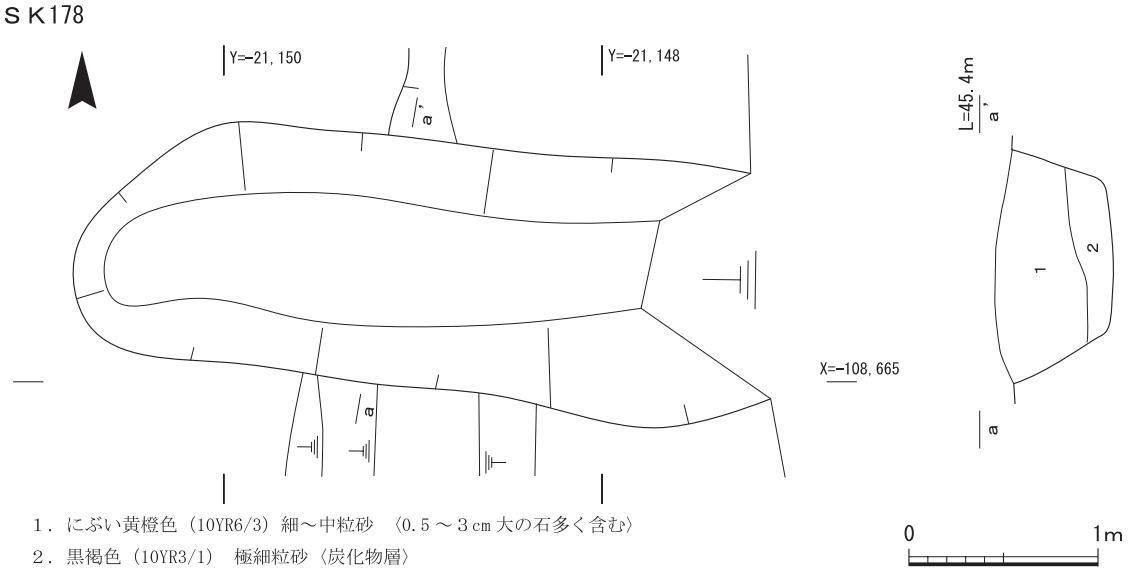
土坑ＳＫ80（第116図）　墓地の西側、墓群１の南側で検出した土坑である。掘形の規模は東西0.7m程度、南北1.1m程度、深さ0.35m程度を測る。埋土は暗褐色細砂である。掘形底部で厚さ0.1m前後の範囲に、土師器皿をはじめとする遺物がまとまって出土した。人骨や銭貨は出土しておらず、廃棄土坑とみられる。出土した遺物はコンテナ６箱に及ぶ。土器の組成は、破片点数で、土師器鉢27点、瓦片４点、瓦質土器２点、陶器26点、磁器９点で、そのほかはすべて土師器皿である。土師器皿のうち１点のみが灯明皿であった。土師器鉢は12点に墨書がある。

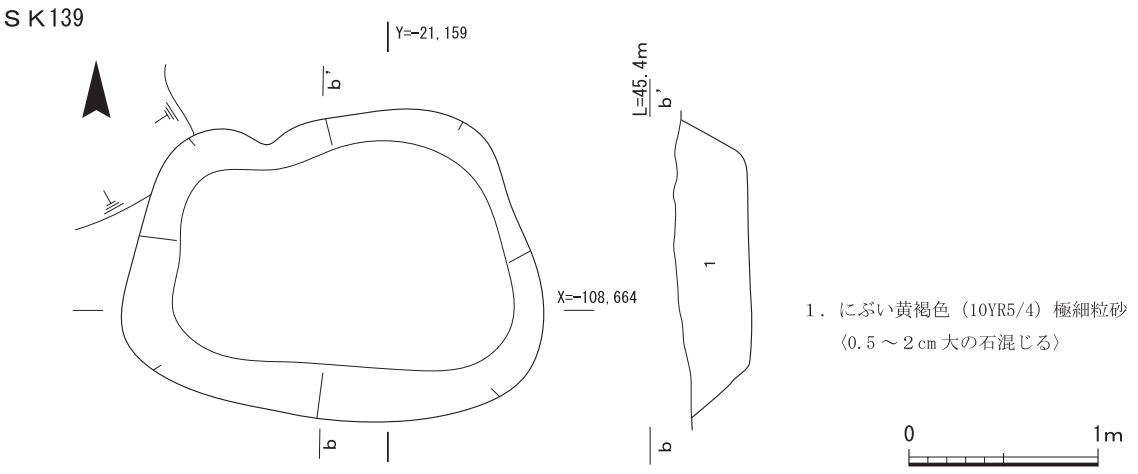
内面のみに墨書があるもの、外面にのみ墨書があるもの、内外面共に墨書があるものがあり、外面の墨書の多くは「休栄」と書かれる。内面には「往之妙生信女」や「妙宝信女」など戒名が確認できる。これらの墨書土器は葬送儀礼に使用したと考えられる。

土坑ＳＫ178（第116図）　南地区東端、墓群16の南側で検出した。掘形の規模は南北1.1m程度、東西3.5m以上、深さ0.6m程度を測り、平面は東西に長い歪んだ長方形である。東端は調査地外へと延びる。埋土はにぶい黄褐色の細～中粒砂、黒褐色の極細粒砂で17世紀中頃～後半の遺物が出土した。

土坑ＳＫ139（第116図）　墓地の南側、墓群17の南側で検出した。掘形の規模は東西2.1m程度、南北1.6m程度、深さ0.4m程度を測り、平面は歪んだ方形を呈する。埋土はにぶい黄褐色の極細





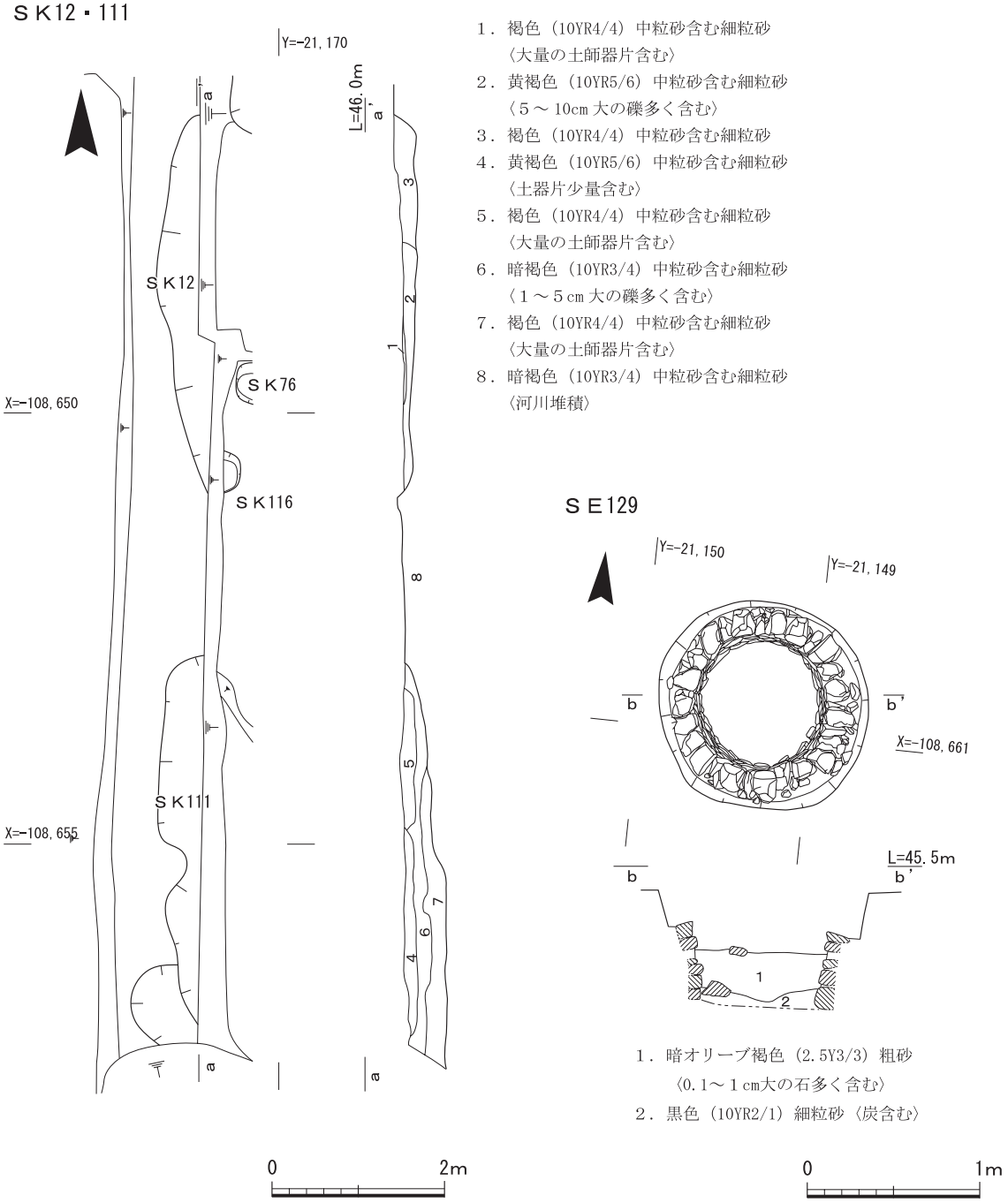


第116図　南地区ＳＫ80・178・139実測図

粒砂である。17世紀中頃の遺物が出土した。

土坑ＳＫ125（第69図）　墓地の南側、ＳＫ99の南で検出した。上層を後世の攪乱により大きく削平されており、明確な掘形は不明である。17世紀中頃の遺物が出土した。

土坑ＳＫ98（第69図）　墓地の西側、墓群11の南側で検出した。掘形の規模は直径1.8m程度、深さ0.6m程度を測り、平面は円形を呈する。埋土は褐色の細粒砂や、暗褐色の細粒砂混じる粗粒砂などである。土師器皿や肥前磁器椀など､17世紀の遺物が出土した。人骨は出土していない。



1．褐色（10YR4/4）中粒砂含む細粒砂
〈大量の土師器片含む〉
2．黄褐色（10YR5/6）中粒砂含む細粒砂
〈５～10cm大の礫多く含む〉
3．褐色（10YR4/4）中粒砂含む細粒砂
4．黄褐色（10YR5/6）中粒砂含む細粒砂
〈土器片少量含む〉
5．褐色（10YR4/4）中粒砂含む細粒砂
〈大量の土師器片含む〉
6．暗褐色（10YR3/4）中粒砂含む細粒砂
〈１～５cm大の礫多く含む〉
7．褐色（10YR4/4）中粒砂含む細粒砂
〈大量の土師器片含む〉
8．暗褐色（10YR3/4）中粒砂含む細粒砂
〈河川堆積〉

1．暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粗砂
〈0.1～１cm大の石多く含む〉
2．黒色（10YR2/1）細粒砂〈炭含む〉

第117図　南地区ＳＫ12・111・ＳＥ129実測図

土坑ＳＫ84（第69図）　墓地の西側、墓群11の西で検出した。掘形の規模は東西1.1m程度、南北1.3m、深さ0.4m程度を測り、、平面は中央が窪んだ長方形を呈する。埋土は暗褐色の細粒砂である。17世紀中頃～後半の遺物が出土した。人骨は出土していない。

土坑ＳＫ117（第69図）　墓地の西側、ＳＥ113の東で検出した。掘形北西をＳＥ113によって削平される。掘形の規模は東西2.2m程度、南北4.3m、深さ0.2m程度を測り、平面は長方形を呈する。埋土は暗褐色の細粒砂混じる粗粒砂である。17世紀後半の遺物が出土した。

土坑ＳＫ111・12（第117図）　南地区の中央付近、墓地の西側で検出した廃棄土坑である。東側を後世の攪乱によって大きく削平され、掘形の西側のみを検出した。ＳＫ12の掘形の規模は東西0.5m以上、南北4.1m以上を測り、ＳＫ111は東西1.0m以上、南北6.0m以上を測る。埋土は、褐色または暗褐色の中粒砂含む細粒砂が水平に堆積し、大量の土師器皿が含まれる。

土坑ＳＫ11（第69図）　南地区の北端、墓群１の西側で検出した。掘形の規模は東西2.5m以上、南北2.0m以上、深さ0.2m程度を測り、平面は不定形を呈する。埋土は褐色粗粒砂である。17世紀後半頃の遺物が出土した。

井戸ＳＥ129（第117図）　墓群15ａで検出した石組井戸である。ＳＴ442・443を削平して掘られる。掘形の平面形は円形で、直径1.3mを測る。石組は0.1～0.2m大の石を円形に組み上げ、内径は0.7mである。遺物は花塩壺、磁器皿、土瓶などが出土した。18世紀中頃～後半のものとみられ、寺院移転後の建物に伴うと考えられる。

５）墓地出土の遺物

（１）墓穴出土の遺物

①墓群１（第118図）

ＳＴ90　600・601は土師器皿である。器高は2.3cmとやや深く、底部の圏線はあまり明確ではない。17世紀前半頃とみられる。

ＳＴ93　602は土師器皿である。内面に明確な圏線が廻る。17世紀中頃とみられる。603は肥前系陶器椀で腰の張る椀形で、腰部まで釉がかかる。

ＳＴ92　604は肥前系磁器染付椀である。やや丸みを帯びた椀形で外面に草花文を描く。高台内に１本の圏線と「太明年製」銘がある。17世紀中頃とみられる。

ＳＴ379　605は肥前系磁器染付椀である。腰部から直線的に体部が伸びる。外面に窓を設け、その中に草花文を描く。高台に２本の圏線が廻る。

ＳＴ380　606は肥前系磁器染付小椀である。外面にコンニャク印判で桙を描く。

②墓群２（第118図）

ＳＴ45　607は土師器皿である。器壁はやや厚く、内湾する。

ＳＴ19　608は土師器皿である。明瞭な圏線が廻る。

ＳＴ377　609・610は土師器皿である。

ＳＴ109　611・612は土師器皿である。どちらも明瞭な圏線をもつ。613は中国製とみられる青花杯である。腰部から直線的に器壁が立ち上がり、高い高台を持つ。体部外面に草花文を描き、高台は櫛目文である。呉須はやや滲んでいるものの発色は鮮やかである。

ＳＴ68　614～621は土師器皿である。いずれも明瞭な圏線をもつ。17世紀後半頃とみられる。

ＳＫ14　622・623は土師器皿である。624は肥前系陶器向付である。体部中央付近で器壁が外反し屈曲する。17世紀中頃とみられる。

ＳＴ21　625～628は肥前系磁器白磁小杯である。４点が入子となる。いずれも口縁部が端反りし、低い高台をもつ。17世紀後半とみられる。

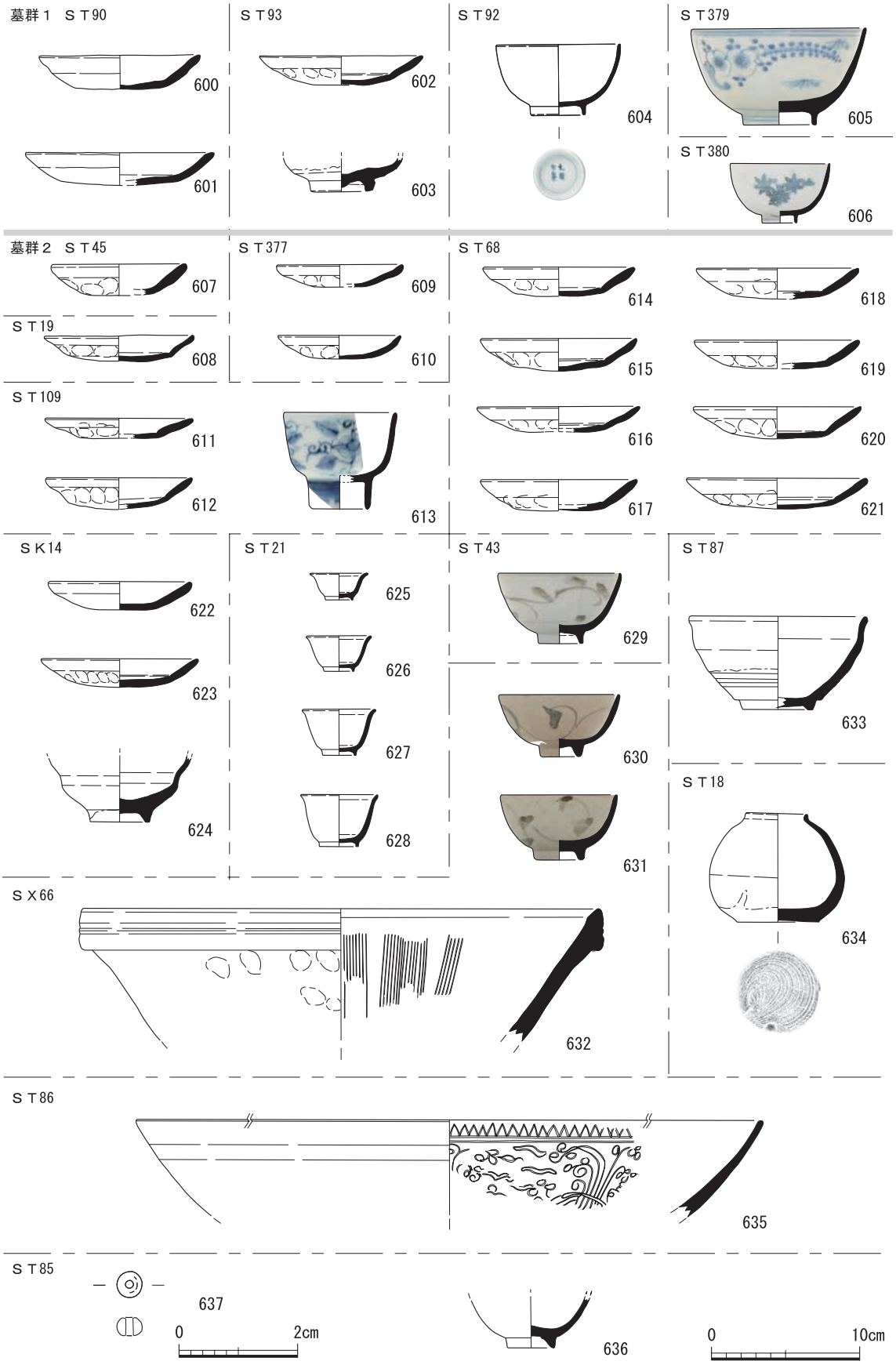
ＳＴ43　629は肥前系磁器椀で、外面に草花文を描く。高台に砂が付着する。17世紀後半の製品と考えられる。

ＳＫ66　630・631は肥前系磁器染付椀である。陶胎で、外面に草花文を描く。631は高台に砂が付着する。630が631に対してやや腰部が張るが、同種の文様を施しており、同じ窯で生産された可能性が高い。632は信楽焼擂鉢である。口縁部は外側下部に向かって肥大し、断面三角形を呈する。内面に８条１組の擂り目がヘラ描きされる。

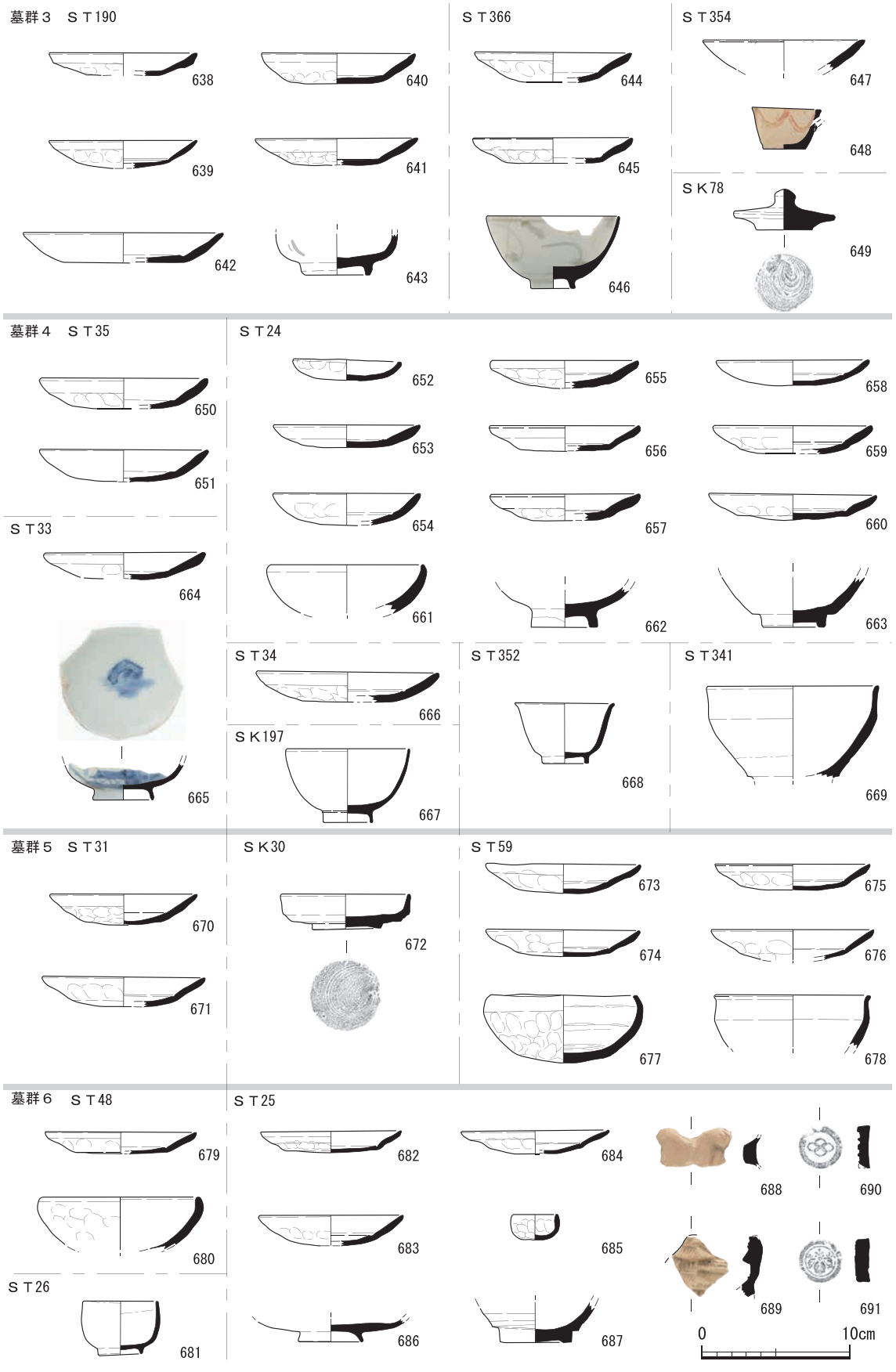
ＳＴ87　633は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

ＳＴ18　634は瀬戸美濃系陶器壺である。丸い体部で口縁部がわずかに立ち上がる。ロクロ成形し底部を糸切りする。体部下半まで灰釉が施される。

ＳＴ86　635は中国製青磁盤である。外面は無文で、内面は口縁部に鋸歯文、体部に草花文が



第118図　南地区墓地出土遺物実測図（１）



第119図　南地区墓地出土遺物実測図（２）

陰刻される。

ＳＴ85　636は肥前系磁器白磁椀である。内面底部が盛り上がり、断面三角形を呈する高台が付く。637は数珠である。直径0.45cmで中央に両側穿孔される。材質は貝とみられる。

③墓群３（第119図）

ＳＴ190　638～642は土師器皿である。643は肥前系陶器椀である。腰が張り体部は直線的に立ち上がる。全面に長石釉を施した後、鉄絵を施す。高台には砂が付着する。

ＳＴ366　644・645は土師器皿である。646は肥前系磁器染付椀である。外面に草花文を描き、高台に砂が付着する。17世紀後半頃の製品とみられる。

ＳＴ354　647は土師器皿である。648は銚子のミニチュアである。土製品で透明釉をかけた後、緑色の釉で口縁部に連続する半円を描く。

ＳＫ78　649は瀬戸美濃系陶器壺蓋である。ロクロ成形し、底部を糸切りする。上面に鉄釉が掛かる。

④墓群４（第119図）

ＳＴ35　650・651は土師器皿である。内面底部に明確な圏線が廻る。

ＳＴ24　652～660は土師器皿である。661は土師器鉢である。662は肥前系陶器椀である。663は瀬戸美濃系陶器天目椀である。17世紀後半の様相を呈する。

ＳＴ33　664は土師器皿である。665は肥前系磁器染付椀である。腰の張る椀形で、外面に山水文を描く。17世紀後半頃の製品とみられる。

ＳＴ34　666は土師器皿である。

ＳＫ197　667は肥前系白磁椀である。17世紀後半頃の製品である。

ＳＫ352　668は端反の口縁を持つ肥前系白磁小杯である。

ＳＴ341　669は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

⑤墓群５（第119図）

ＳＴ31　670・671は土師器皿である。17世紀後半頃とみられる。

ＳＴ30　672は陶器椀である。腰が張り、低い体部が直線的に立ち上がる。ロクロ成形し、高台を糸切りする。赤橙の胎土で瀬戸美濃系とみられる。

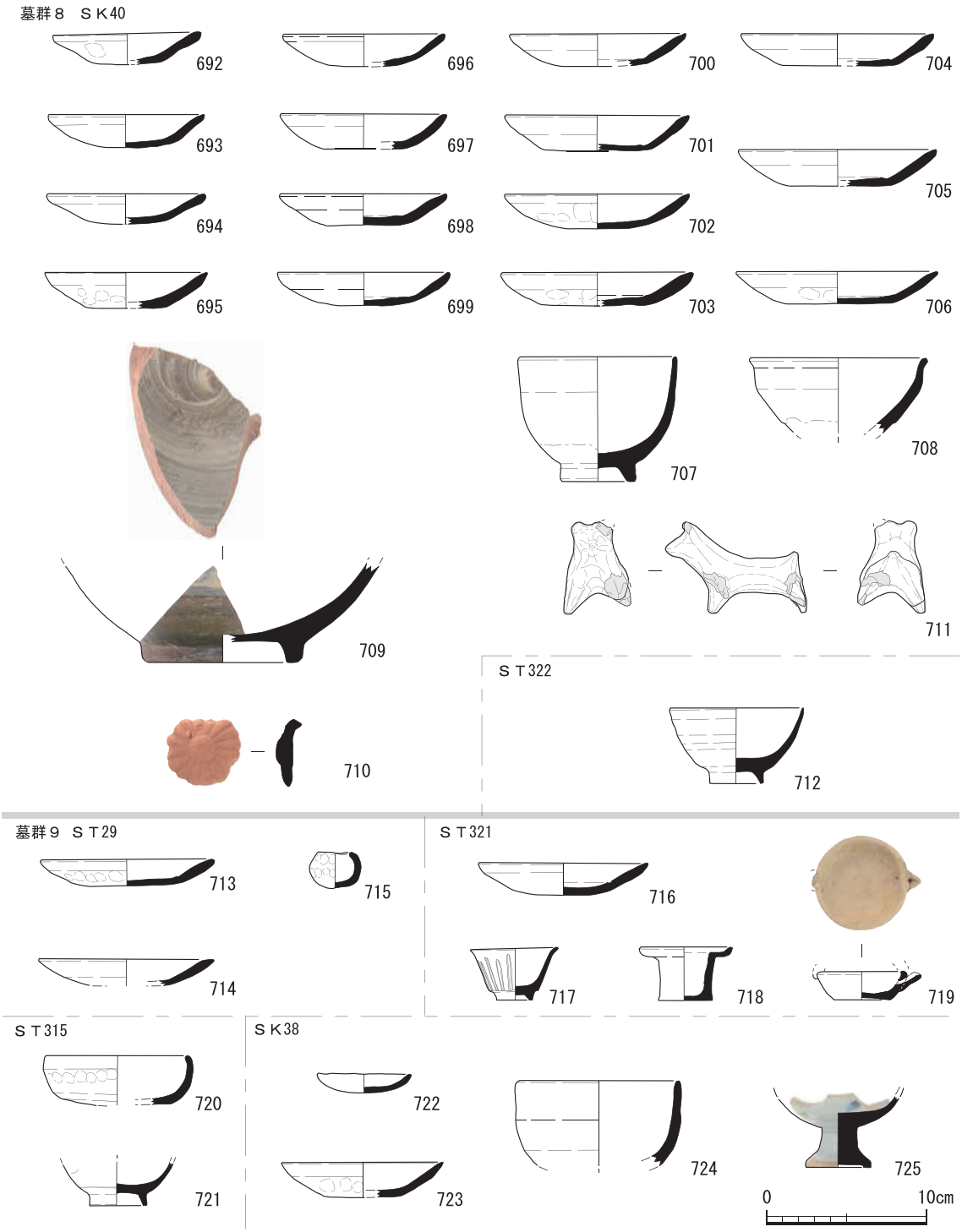
ＳＴ59　673～676は土師器皿である。底部に明瞭な圏線が廻り、器壁はやや外反する。677は土師器鉢である。外面をユビオサエ、内面をヨコナデ成形する。678は瀬戸美濃系陶器天目椀である。これらの遺物は17世紀後半とみられる。

⑥墓群６（第119図）

ＳＴ48　679は土師器皿、680は土師器鉢である。

ＳＴ26　681は白磁椀のミニチュアである。口縁内部の３分の１程度を釉剝する。

ＳＴ25　682～684は土師器皿である。685は土師器の小壺である。686は肥前系磁器白磁皿である。腰が張り、やや外側に開く低い高台が付く。687は瀬戸美濃系陶器椀である。高台脇まで灰釉が施される。688･689は土製品である。どちらも型押し成形される。688の形状は不明である。



第120図　南地区墓地出土遺物実測図（３）

689は家形で、箱庭道具と考えられる。690・691は泥面子である。690は四つ輪違い文、691は桐文が型抜きされる。

⑦**墓群８**（第120図）

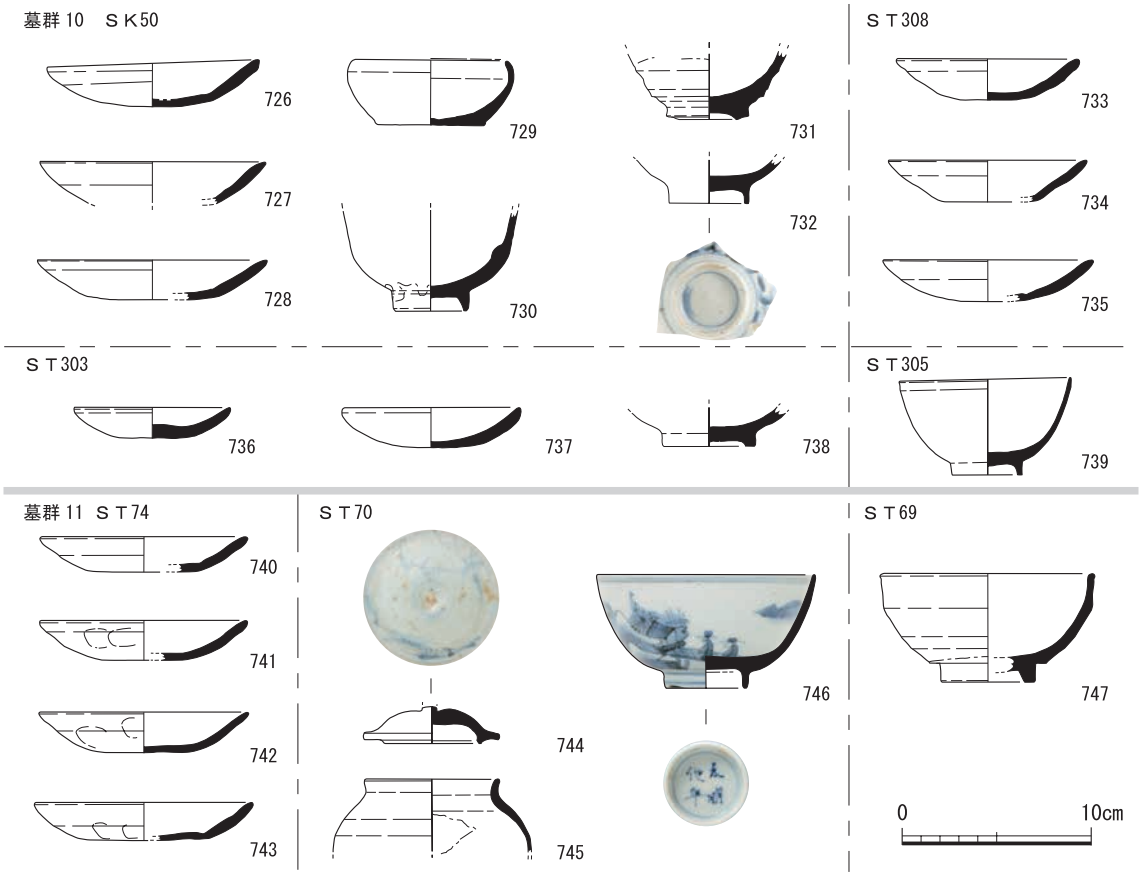
ＳＫ40　692～706は土師器皿である。707・708は瀬戸美濃系陶器椀である。707は直線的な体部と口縁部をもち、腰部付近まで鉄釉を施す。708は天目椀である。709は肥前系陶器鉢である。内外面に刷毛目模様を施す。17世紀初頭から中頃の製品とみられる。710は土製品である。菊花形に型成形し、上部がやや裏側へ折れる。711は犬形土製品である。瓦質土器状に外面は黒色を呈する。

ＳＴ322　712は肥前系白磁椀である。釉はやや濁っており、灰色を呈する。高台に砂が付着する。

⑧**墓群９**（第120図）

ＳＴ29　713・714は土師器皿である。713の内面底部に明瞭な圏線が廻る。715は土師器小壺である。

ＳＴ321　716は土師器皿である。717は肥前系陶器の端反小杯である。外面に縦方向のヘラ描き沈線を施す。718はミニチュア土製品である。外面にわずかに胡粉が残る。719は土製品銚子の



第121図　南地区墓地出土遺物実測図（４）

ミニチュアである。全面に胡粉を塗布する。

ＳＴ315　720は土師器鉢である。器高は低く、底部は平坦になる。721は肥前系磁器染付椀である。高台に砂が付着する。

ＳＫ38　722・723は土師器皿である。724は肥前系陶器椀である。腰の張る椀形で直立する口縁をもつ。725は肥前系磁器仏飯器である。これらの遺物は17世紀後半頃の製品とみられる。

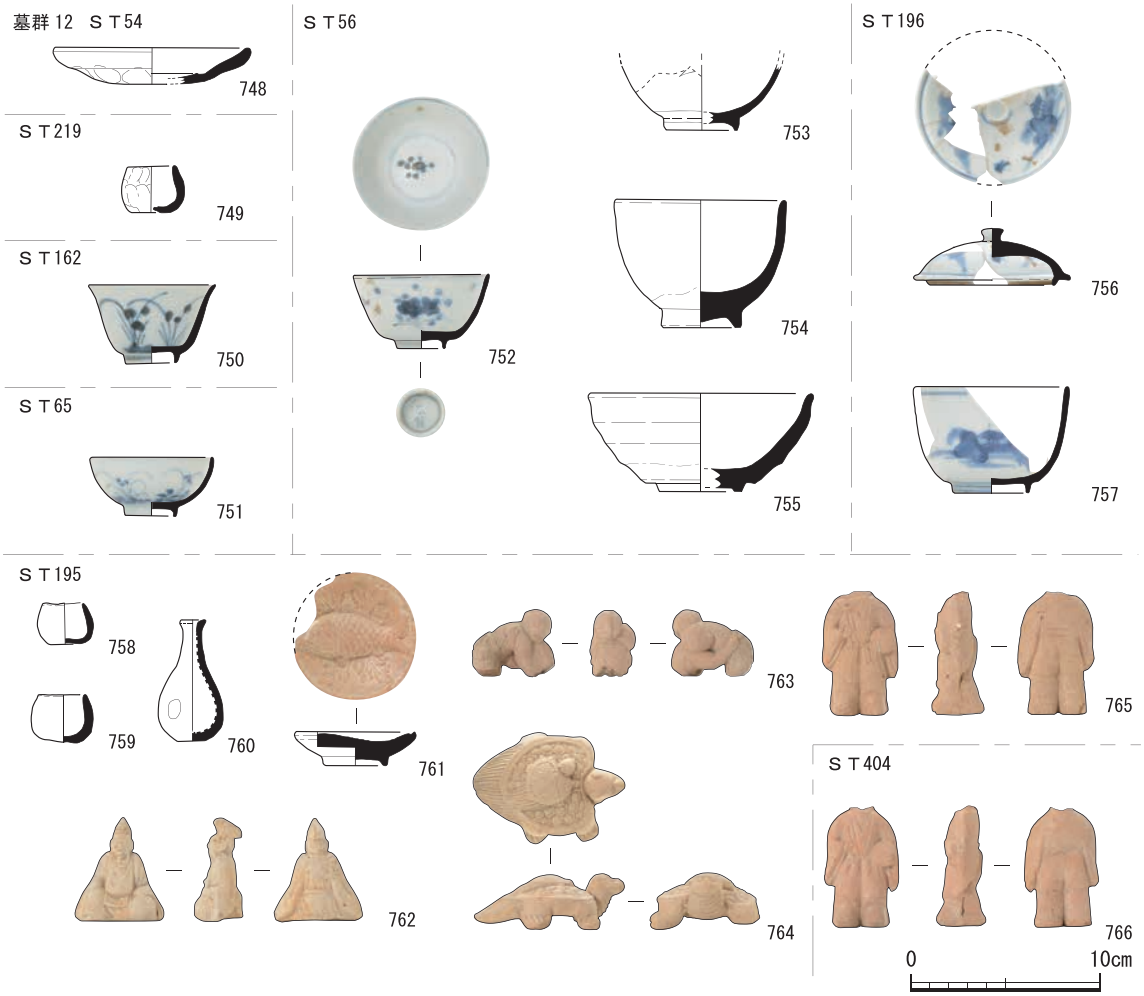
⑨墓群10（第121図）

ＳＴ50　726～728は土師器皿である。729は土師器鉢である。内外面をヨコナデし、底部を糸切りする。730・731は肥前系陶器椀である。730は丸い腰部で高い高台を持ち、高台脇まで鉄釉を施す。17世紀後半頃の製品とみられる。731は削り出しによる低い高台をもつ。16世紀末～17世紀初頭頃の製品と考えられる。732は肥前系磁器染付椀で、外面に草花文を描き、高台内に一条の染付圏線が廻る。

ＳＴ308　733～735は土師器皿である。

ＳＴ303　736・737は土師器皿である。738は肥前系陶器椀である。内面に鉄釉を施す。

ＳＴ305　739は肥前系の白磁椀である。直線的な体部をもつ椀形を呈する。高台に砂が付着する。



第122図　南地区墓地出土遺物実測図（５）

⑩**墓群11**（第121図）

ＳＴ74　740～743は土師器皿である。

ＳＴ70　744・745は肥前系磁器である。744は壺蓋で、草花文を描く。745は椀で外面に山水文を描く。口縁部と高台外面にそれぞれ２本の圏線が廻る。高台内には一本の圏線と「太明化年」銘をもつ。746は瀬戸美濃系陶器壺である。内外面に鉄釉を施す。

ＳＴ69　747は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

⑪**墓群12**（第122図）

ＳＴ54　748は土師器皿である。

ＳＴ219　749は土師器小壺である。

ＳＴ162　750は肥前系の磁器である。端反の染付小杯で外面に草花文を描く。

ＳＴ65　751は肥前系磁器染付小杯である。外面に草花文を描く。高台に砂が付着する。

ＳＴ56　752・753は肥前系磁器染付椀である。752は外面と見込みに草花文を描き、高台内に一条の圏線と「太明」銘をもつ。754は肥前系陶器椀である。腰部付近まで鉄釉を施す。755は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

ＳＴ196　756・757は肥前系の磁器である。756は染付の壺蓋で、外面に山水文を描く。つまみは頂部が潰れ、断面逆台形を呈する。757は染付椀で直線的な体部に低い高台が付く。外面に山水文を描く。

ＳＫ195　758・759は土師器小壺である。760は瓶のミニチュアである。底部を糸切りし、外面全体に褐色の釉を施す。761は土製品である。型成形により、皿に乗った鯛を象る。ままごと道具と考えられる。762～765は土製品人形である。それぞれ型成形で762は菅原道真、763は組相撲をする猿、764は亀を象る。765は頭部が欠損しているが、西行像とみられる。

ＳＴ404　766は土製品人形である。765と同じく型成形しており、西行像とみられる。

⑫**墓群13**（第123図）

ＳＴ415　767は土師器皿である。768は肥前系磁器染付椀である。全面に青磁釉を施し、見込に２本の染付圏線とその中にコンニャク印判で五弁花を施す。18世紀初頭の製品とみられる。

ＳＴ127　769～771は土師器皿である。772～774は肥前系磁器染付椀である。いずれも外面に草花文を描く。772は高台に砂が付着する。775は瀬戸美濃系陶器椀である。細やかな貫入が入る。これらの遺物は17世紀後半の製品とみられる。

ＳＴ210・211　776・777は土師器皿である。778は肥前系陶器椀である。779は肥前系磁器染付小杯である。口縁部は直立し、低い高台が付く。外面に花文を描くが、描かれた花文は線が途切れるなどやや雑で、塗りは輪郭から大きくはみ出す。17世紀末頃の製品とみられる。

ＳＴ215　780～782は土師器小壺である。783～792、796はミニチュア土器である。783～787は肥前系磁器のミニチュアである。783･784は白磁椀である。785は染付椀で外面に網目文を描き、高台に砂が付着する。786は染付皿で、輪花形の体部に低い高台が付き、見込みに草花文を描く。高台に砂が付着する。787は端反の小杯である。高台内に１本の染付圏線とその内に銘をもつ。

銘は呉須がかすれており判読不能である。788は陶器擂鉢のミニチュアである。片口の擂鉢で４条の擂り目を４組ヘラ描きする。内外面に透明釉を施す。789は陶器瓶である。腰部が丸く、外反する体部を持つ。底部はヘラ切りで、外面に褐釉を施す。790・791は瓦質土器羽釜のミニチュアである。791の外面はていねいにミガキが施される。792は瓦質土器風炉のミニチュアである。790・791と１組となるもので、791と同様に内外面をていねいに磨く。793～799は792の内側に収



第123図　南地区墓地出土遺物実測図（６）

まった状態で出土した土器である。793～795は土師器小壺である。796は瓦質土器蓋のミニチュアである。797～799は土鈴である。いずれも紐通しの孔が穿孔される。798は３本、799は４本の曲線が頂部から体部にかけて左回りに墨書きされる。800は土師器壺のミニチュアである。口縁内側に鉄分が付着しており、内部は確認できない。

ＳＴ417　801は土師器皿である。

ＳＫ416　802は肥前系磁器染付椀で、口径5.3cmと小振りでミニチュアの可能性がある。外面に草花文を描く。口縁に１本、高台脇に２本の染付圏線を廻らす。

ＳＴ230　803は肥前系磁器白磁椀である。

ＳＴ213　804は肥前系陶器椀である。腰部付近まで鉄釉を施す。

ＳＴ212　805は土製品人形である。全面に胡粉を塗布し、胸付近を緑色の釉で彩色する。

⑬**墓群14**（第124図）

ＳＴ426　806・807は土師器皿である。808・809は土師器鉢である。810は白磁椀である。体部は直線的で外側へ開き、径の小さい高台が付く。口唇部に鉄釉（口紅）を施す。これらの遺物は17世紀後半の製品とみられる。

ＳＴ138　811は土師器皿である。812は肥前系磁器染付椀である。外面に草文を施す。口縁に１本、高台脇に２本の染付圏線が廻る。813は肥前系陶器椀である。見込みは深く、低い高台が付く。

ＳＴ424　814は肥前系磁器染付小杯である。口縁部は外反し、見込みは深く低い高台が付く。外面に草花文を描く。815は肥前系磁器染付椀である。器壁は直線的で、細い高台が付く。外面に花文を描き、高台に２本、高台脇に１本の染付圏線が廻る。816は土製品の西行像である。前面と背面をそれぞれ型成形し、貼り合わせて作る。中空で、指圧痕が残る。

ＳＴ227　817は肥前系陶器椀である。京焼風の肥前陶器で外面に松を描く。818は肥前系磁器染付椀である。器壁は直線的で、外面に草花文を描く。口縁の外面に２本、内面に１本の染付圏線が廻る。

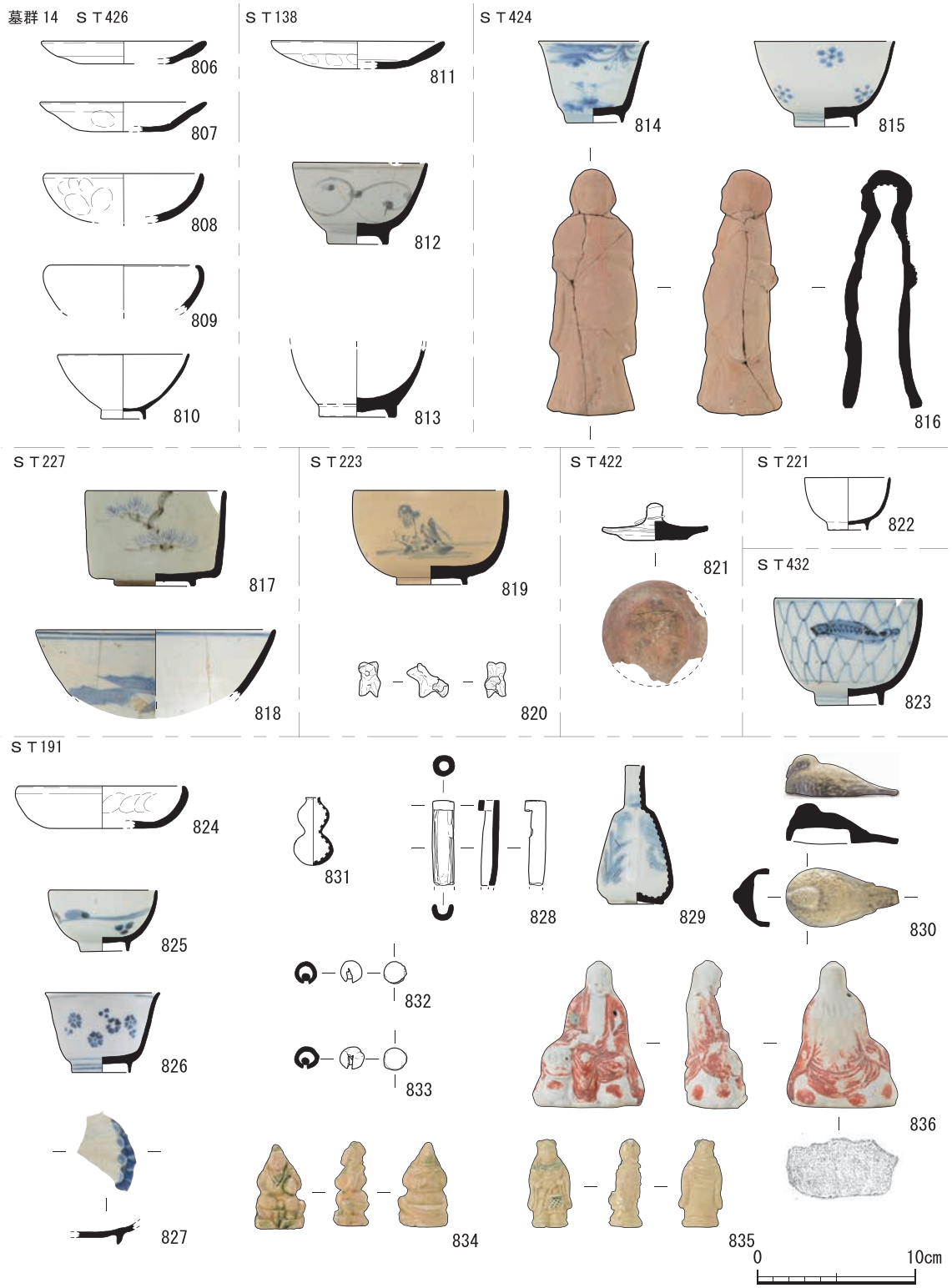
ＳＴ223　819は京焼風の肥前系陶器椀である。外面に山水文を描く。高台内に「小松吉」の印銘をもつ。820は犬形土製品である。全長2.6cmで、今回出土した犬形土製品の中で最も小型のものである。

ＳＴ422　821は瀬戸美濃系陶器蓋である。壺蓋とみられる。つまみに銅線が１重に巻き付いた状態で遺存していた。壺と蓋を繋ぎ合わせていたと考えられる。底部を糸切りし、墨書で「梵字（キリークか）　蓮生□　妙□　□」と書かれる。

ＳＴ221　822は肥前系磁器白磁小椀である。

ＳＴ432　823は肥前系磁器染付椀である。外面は網目に魚文を描く。高台に２本の染付圏線が廻る。高台に砂が付着する。

ＳＴ191　824は土師器鉢である。825～827は肥前磁器である。825は小椀で外面に草花文を描く。826は端反の小杯で、外面に五弁花を描く。箱状の漆製品が中に入った状態で出土した。827



第124図　南地区墓地出土遺物実測図（７）

は皿で見込みを輪花に型押しする。828は土製品である。割竹形を呈し、片側端部は筒状になる。前面に褐色の釉を薄く塗布する。829は肥前系磁器染付瓶である。直立する頸部と腰部から肩部にかけてすぼまる体部で、低い高台が付く。体部外面に稜線で４つの窓を作り、それぞれに草花文を描く。830は鳥を象った陶器で、底部が方形に窪む。合子の蓋と考えられる。831は瓢箪形を呈する白磁である。832・833は小型の土鈴である。834・835は土製の人形である。いずれも全面に胡粉を塗布し、部分的に緑釉で彩色する。834はゑびすである。835は女性で左手にかごを持つ。836は肥前磁器赤絵人形で、文殊菩薩である。型成形で、前面左脇付近と右側の首の付け根に焼成時の割れを防ぐ空気抜き穴が開けられる。底部には布目が残る。

⑭**墓群15**（第125図）

ＳＴ444　837～839はミニチュア製品である。837は肥前系磁器白磁椀である。高台脇まで施釉し、高台に砂が付着する。838・839は土製品銚子である。前面に胡粉を塗布し、口縁端部と取手部を緑色釉で斑点状に彩色する。840は肥前系磁器色絵蓋である。彩釉はすべて剝がれており、絵付けの痕跡が残る。841は瓦質土器の底部である。ロクロ成形し、外面にミガキを施す。底部はヘラ切りする。792のような風炉のミニチュアとみられる。

ＳＴ445　842は瀬戸美濃系陶器志野椀である。腰部付近まで長石釉が掛かる。

ＳＴ446　843は土師器皿である。

ＳＴ180　844は土師器皿である。

ＳＴ228　845は肥前系磁器染付椀である。器壁は弓なりで低い高台が付く。外面に柳を描く。高台に３本、高台内に２本の染付圏線が廻る。

ＳＴ163　846は肥前系磁器染付蓋である。つまみはわずかに外側に開く。外面に草花文を描く。つまみ内に１本の染付圏線が廻り、その中に「太明成化年製」銘をもつ。

ＳＴ235　847はミニチュア土器である。型成形された菱形の皿で、見込みに八弁の花文をもつ。口縁端部はヘラケズリにより面をつくる。全面を透明釉で施釉した後、花文のうち四隅を指す花弁を緑色釉で彩色する。

ＳＴ232　848は肥前系磁器染付椀である。外面に草文を描く。高台に砂が付着する。

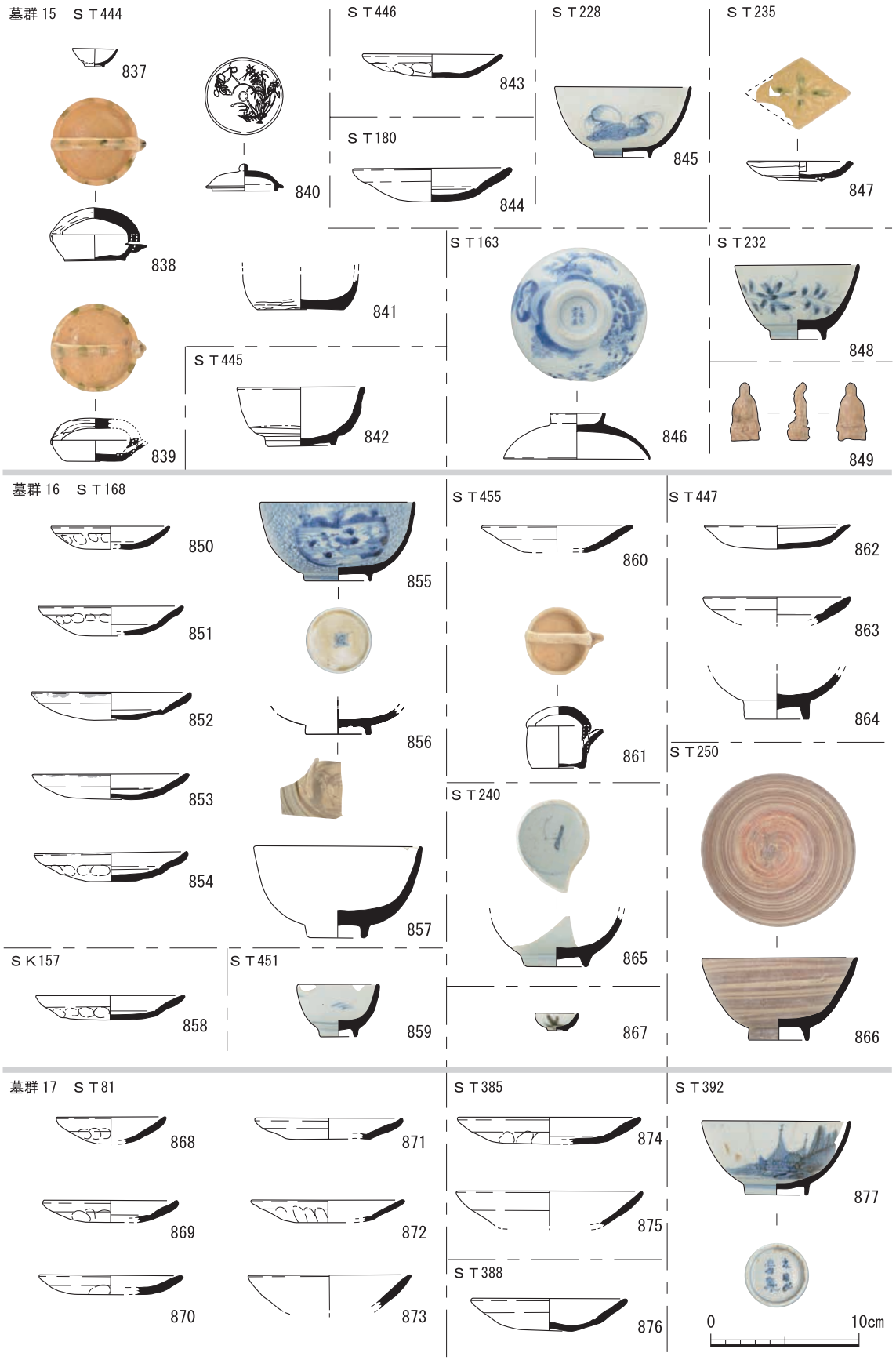
その他　849は墓群15の精査中に出土した土製品の人形で、座した老人である。右手に蓮を持つ。全面に透明釉を施す。

⑮**墓群16**（第125図）

ＳＴ168　850～854は土師器皿である。855は肥前系磁器染付椀である。腰の張る椀形で、やや広い高台がつく。外面は窓の中に山水文を描く。窓の外には網目を描く。高台内には１本の圏線と、その中に「四角に福」を描く。856は灰白色と暗灰黄色の絞胎の椀である。低い高台が付く。高台内に「元秋」と墨書される。857は肥前系磁器染付椀である。口縁部は直立し、外面に花文を描く。

ＳＫ157　858は土師器皿である。

ＳＫ451　859は肥前系磁器染付小椀である。外面に草花文を描く。



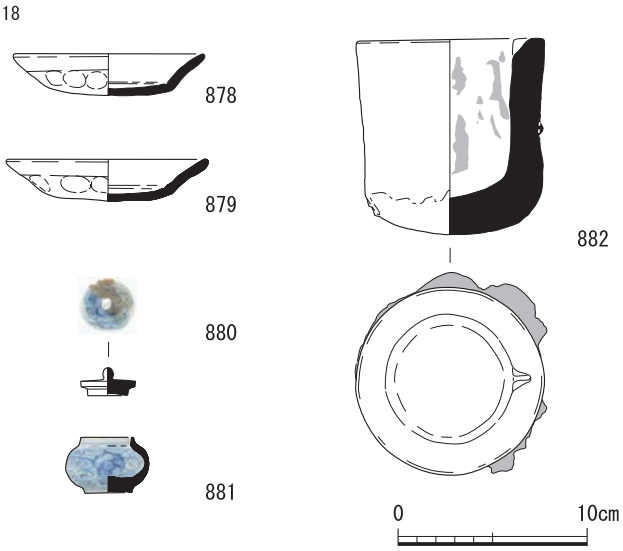
第125図　南地区墓地出土遺物実測図（８）

ＳＴ455　860は土師器皿である。861は土製品で銚子のミニチュアである。

ＳＴ447　862・863は土師器皿である。864は肥前系磁器青磁椀である。高台脇まで青磁釉がかかる。高台内に直径５mm程度の石が付着する。波佐見の製品とみられる。

ＳＴ240　865は肥前系磁器染付椀である。高台に砂が付着する。

ＳＴ250　866は肥前系陶器刷毛目椀である。



第126図　南地区墓地出土遺物実測図（９）

その他　867はグリッドａ・ｂ28から出土した椀のミニチュアで肥前系磁器染付である。高台に砂が付着する。

⑯墓群17（第125図）

ＳＴ81　868～873は土師器皿である。17世紀後半の様相を呈する。

ＳＴ385　874・875は土師器皿である。

ＳＴ388　876は土師器皿である。

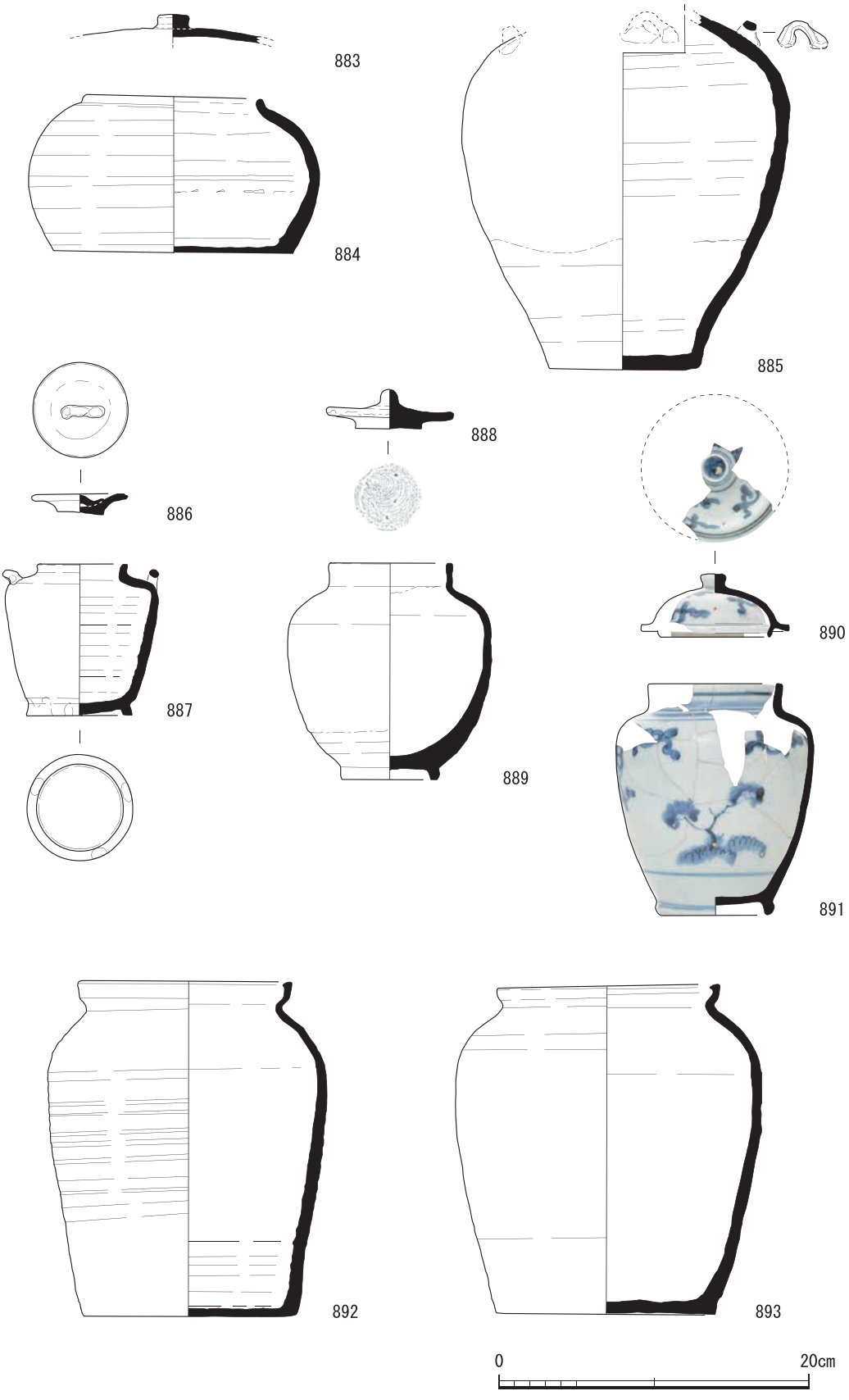
ＳＴ392　877は肥前系磁器染付椀である。器壁は弓なりで、低い高台が付く。外面に山水文を描き、高台外面に２本の染付圏線を廻らせる。高台内に１本の染付圏線と、その中に「太明成化年製」銘をもつ。

⑰墓群18（第126図）

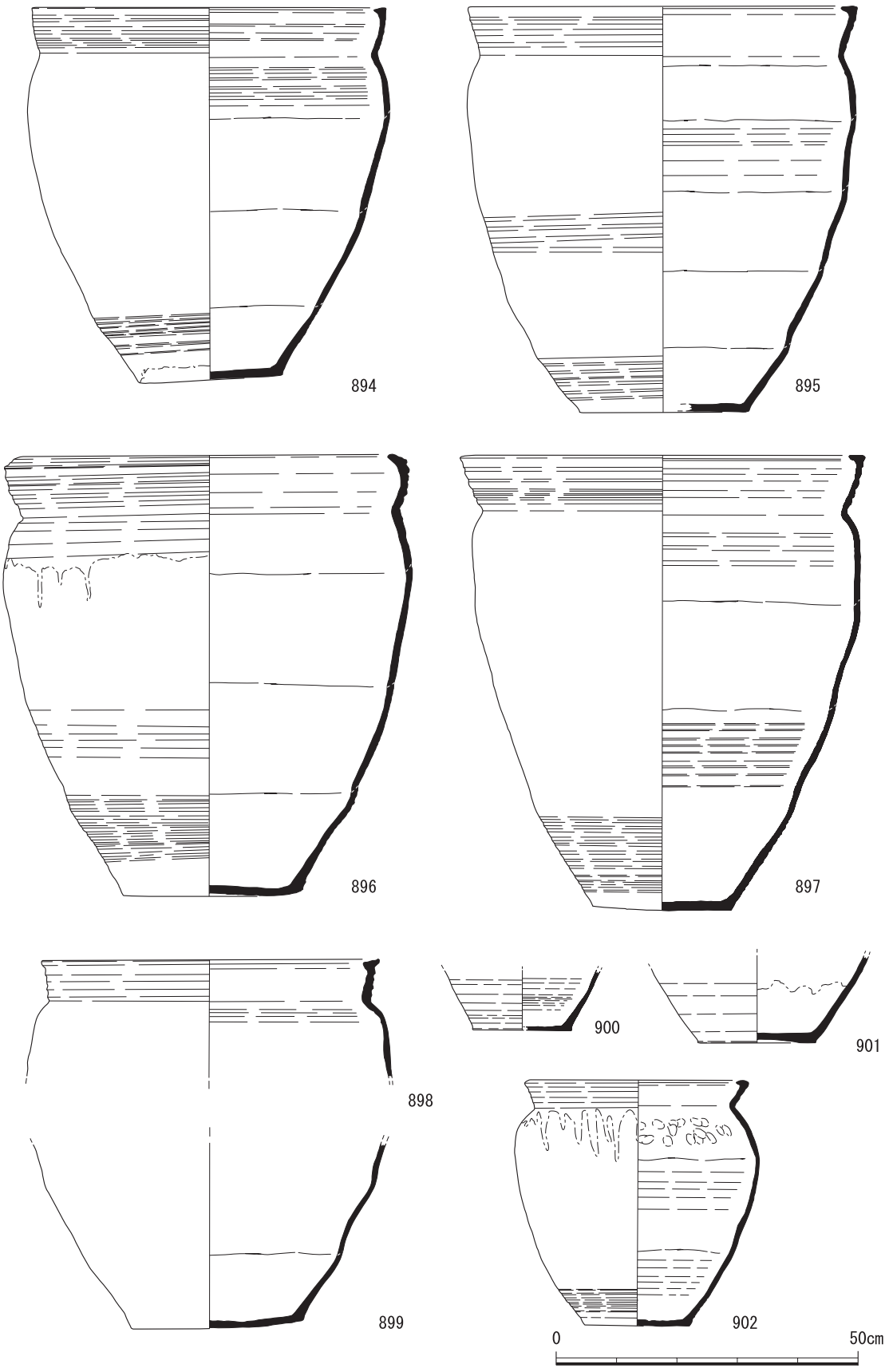
878～882は調査区を東に拡張後、精査中に出土した遺物である。878・879は土師器皿である。880・881は肥前系磁器染付壺のミニチュアである。それぞれ外面に唐草文を描く。882は坩堝である。器壁は厚く筒状を呈し、口縁部に注ぎ口がつく。内面には銅が部分的に付着する。外面下部には鉄とみられる金属が付着するが、内面との金属に違いが生じるため、土中で付着した可能性が考えられる。

⑱蔵骨器（第127図）

883～893は墓地から出土した蔵骨器と考えられる遺物である。883・884はＳＴ456から出土した土師質土器の蓋付壺で、いわゆる胞衣壺である。885はＳＴ350から出土した瀬戸美濃系陶器壺である。肩部に上向きの耳を貼り付ける。耳は１か所のみ残存していたが、四耳壺であるとみられる。胴部中央付近まで自然釉が掛かる。886・887はＳＴ50から出土した瀬戸美濃系陶器蓋付壺である。887の口縁部の立ち上がりは小さく、肩部が張り２か所に上向きの耳が付く。胴部は直線的で広い高台をもつ。高台脇まで施釉される。高台はやや外側に開き、畳付に目跡が３か所残る。886は蓋で、上部中央を窪ませ、中央につまみを貼り付ける。底部は平坦で糸切りする。



第127図　南地区墓地出土遺物実測図(10)



第128図　南地区墓地出土遺物実測図(11)

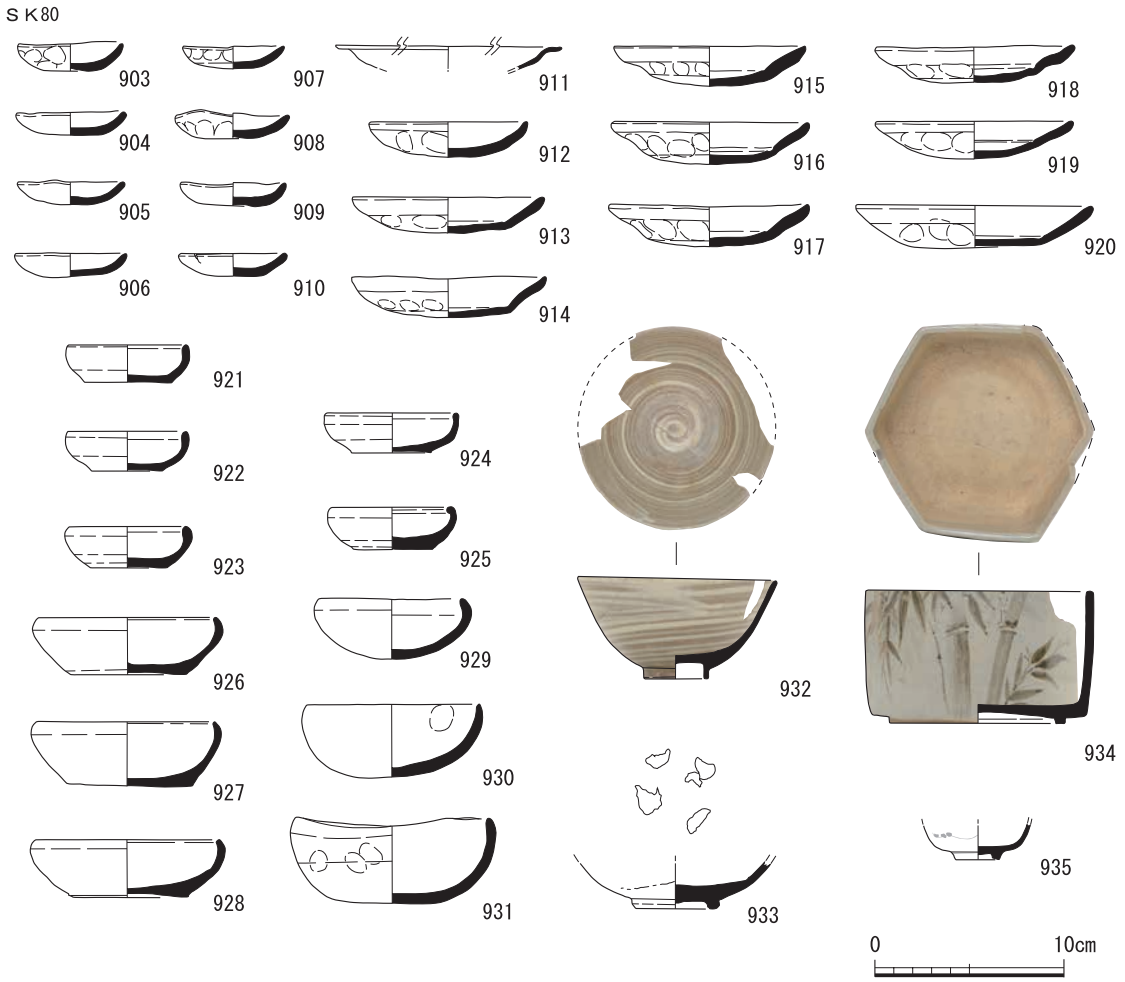
888・889はＳＴ238出土の瀬戸美濃系陶器蓋付壺である。889の口縁部は直立し、肩が張り弓なりの胴部をもつ。胴部下半まで鉄釉を施す。888は蓋で、上部に鉄釉を施す。底部は糸切りする。890・891はＳＴ179の上層から出土した肥前系磁器染付蓋付壺である。891の胴部は緩やかに湾曲し広い高台が付く。外面に雲と松を描く。高台は断面三角形を呈する。890は蓋で外面に雲文を描く。17世紀中～後葉にかけての製品と考えられる。892・893はそれぞれ墓群18拡張中とＳＴ109に出土した信楽焼壺である。

⑲甕棺（第128図）

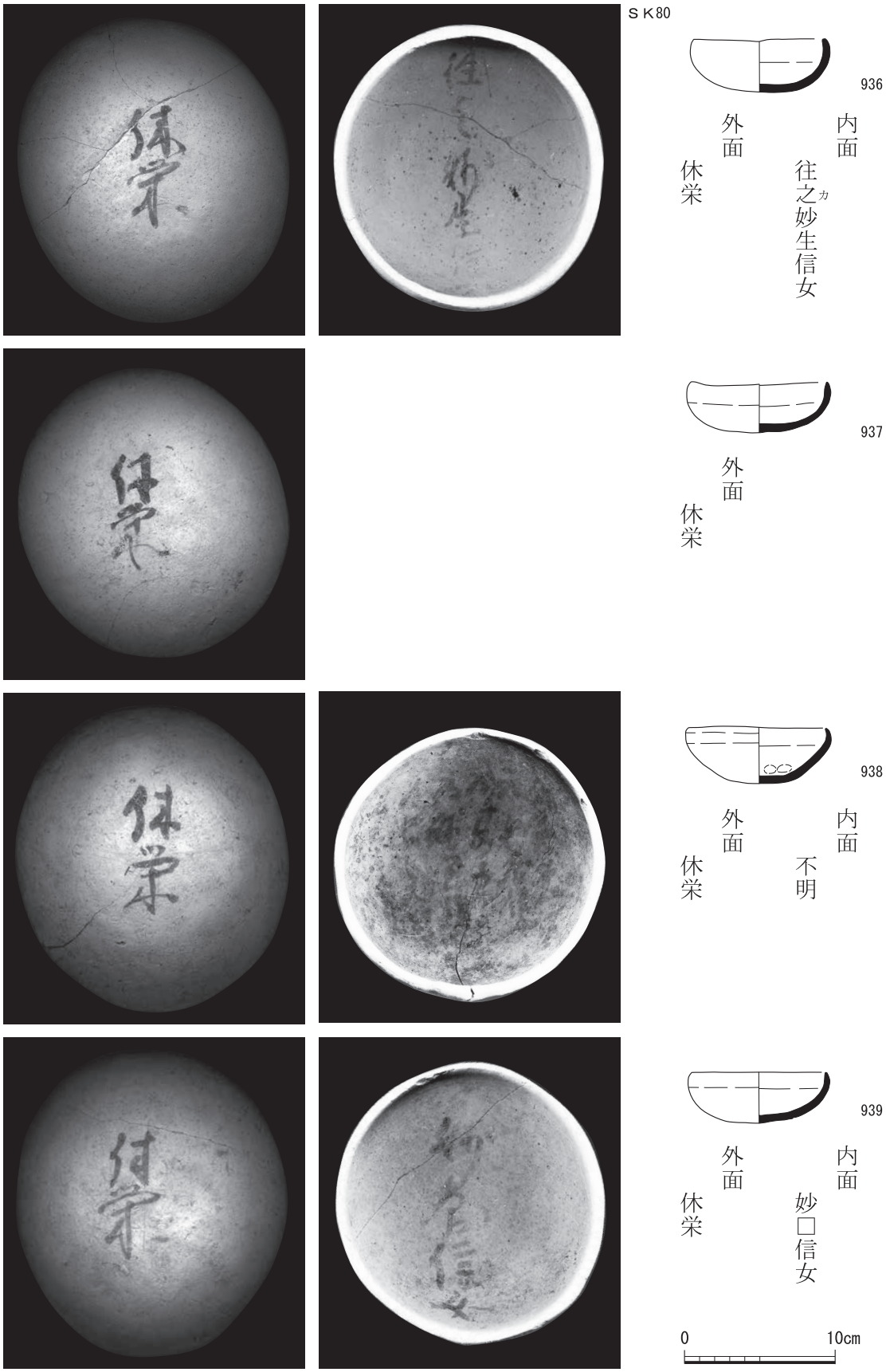
894～902は墓地から出土した甕棺である。894はST29、895はST55、896はST54、897はST49、898はST78、899はST354、900はST240、901はST62、902はST41からそれぞれ出土した。896は備前焼、そのほかは信楽焼とみられる。894・895・897の口縁部は内湾しながら外側上方に伸び、端部を内側に拡張して上方に面をつくる。これらはおよそ17世紀頃の様相を呈する。

（２）その他の遺構出土の遺物

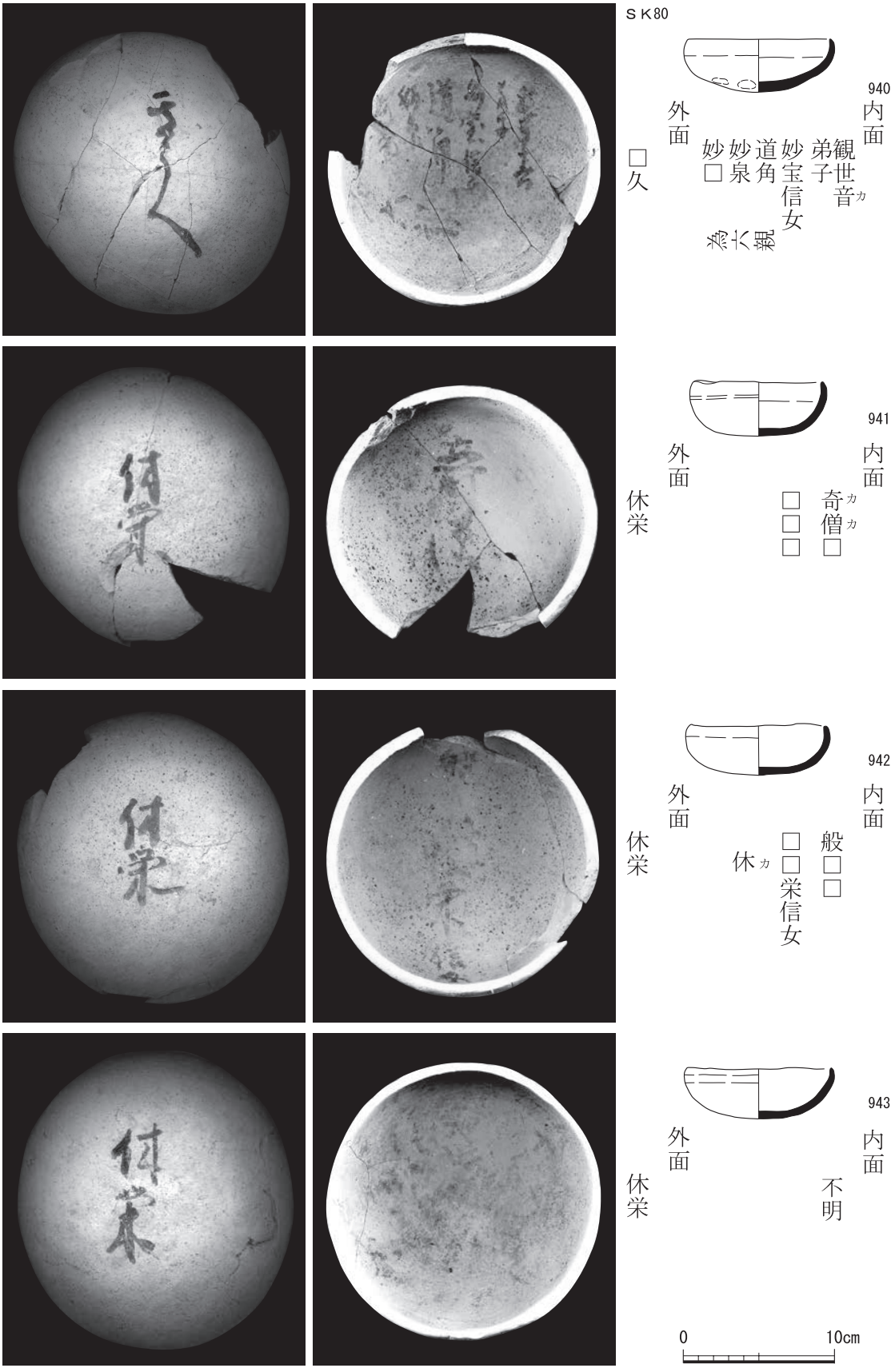
ＳＫ80（第129～132図）　903～947はＳＫ80から出土した遺物である。903～920は土師器皿である。911は「て」の字皿で12世紀初頭のものであり、混じり込みとみられる。921～931は土師



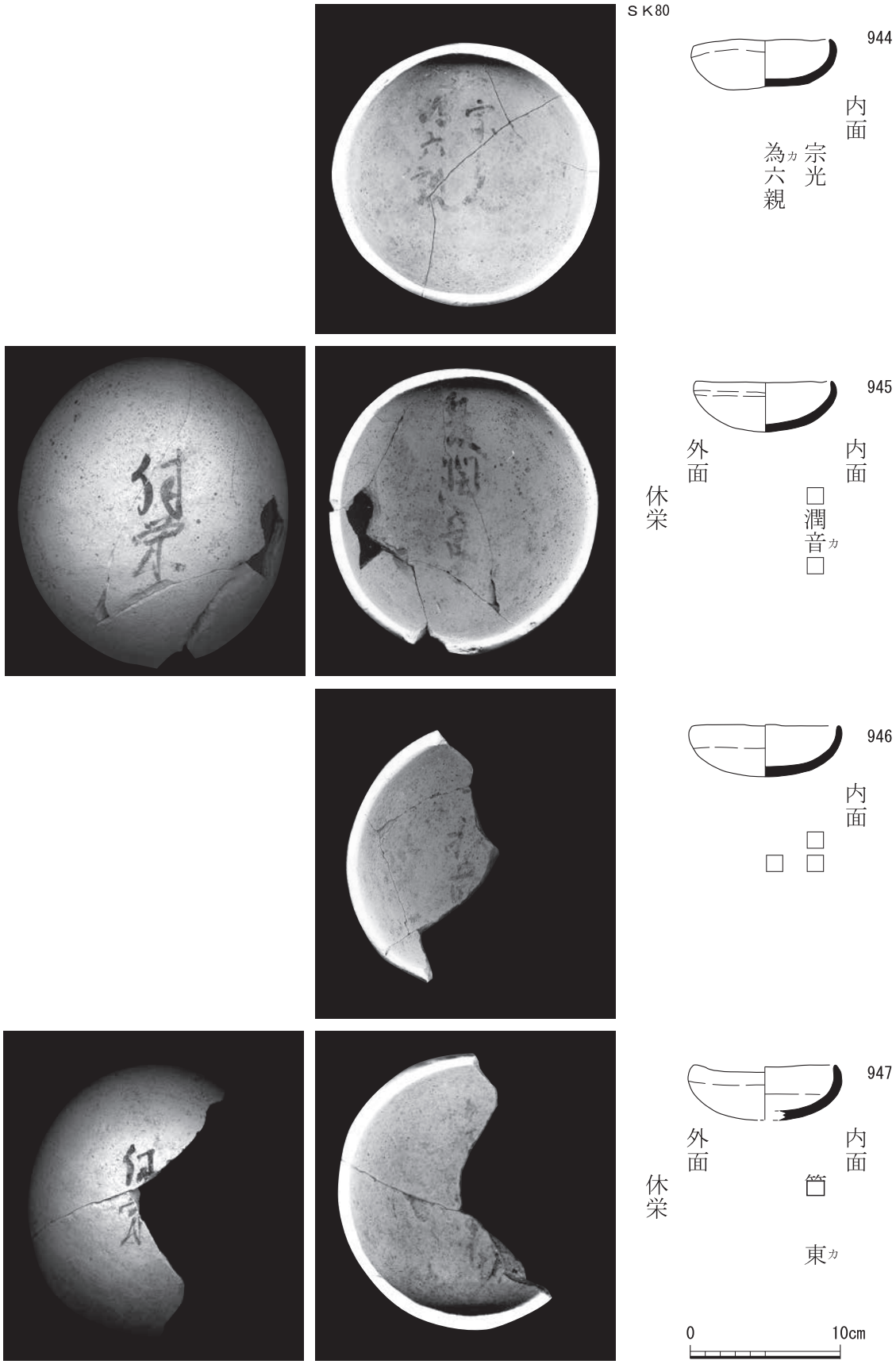
第129図　南地区墓地出土遺物実測図（12）



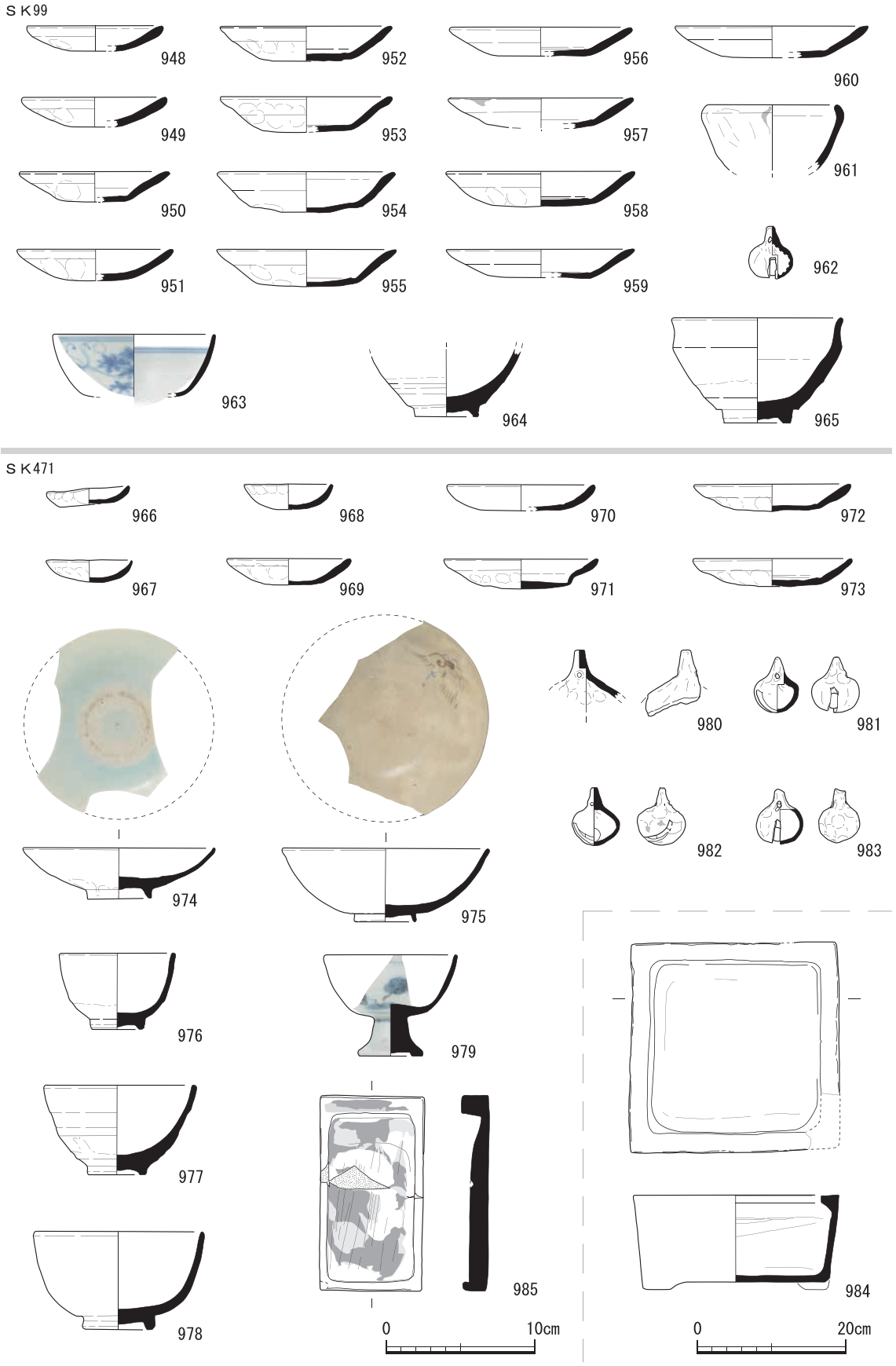
第130図　南地区墓地出土遺物実測図(13)



第131図　南地区墓地出土遺物実測図(14)



第132図　南地区墓地出土遺物実測図(15)



第133図　南地区墓地出土遺物実測図(16)

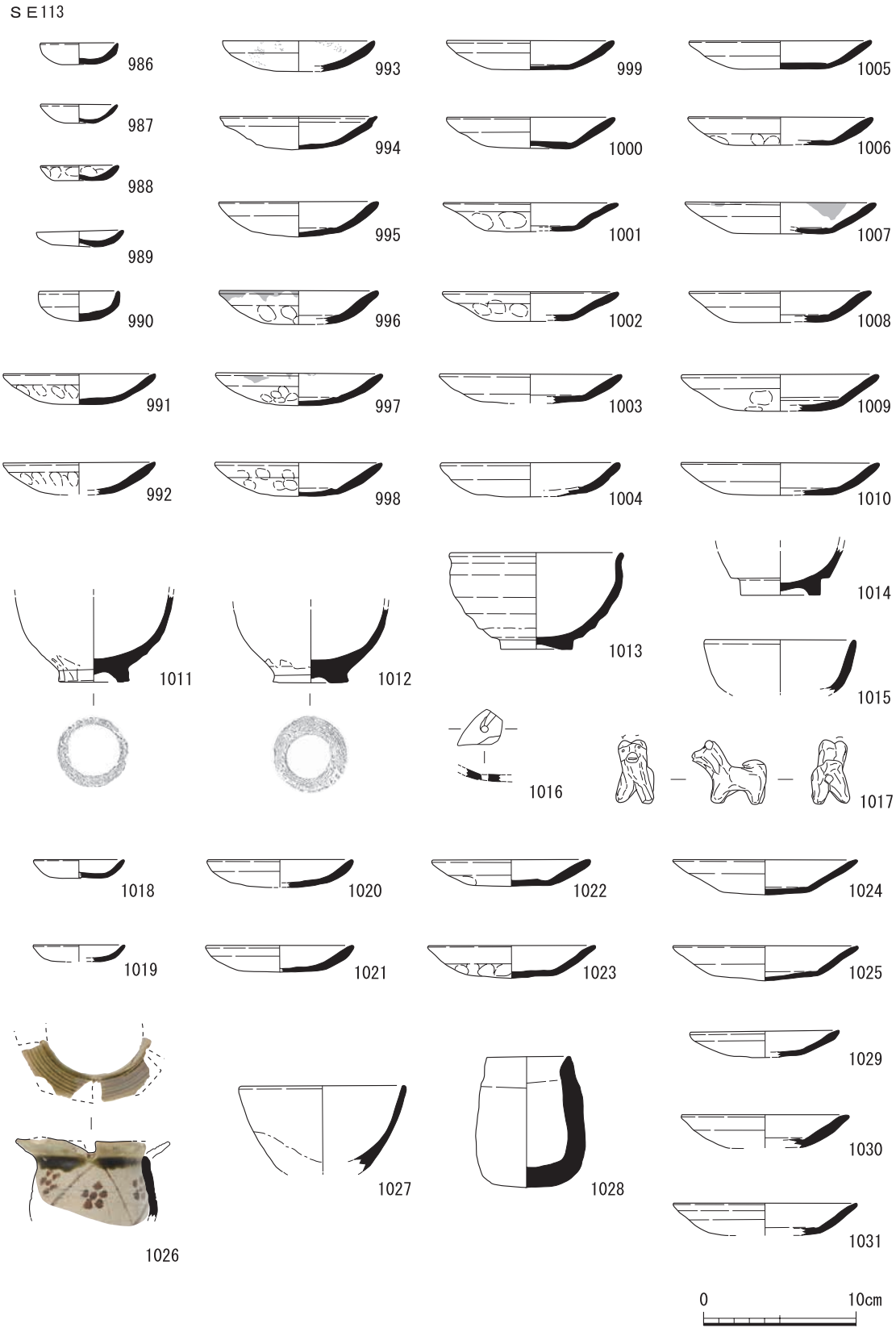
器鉢である。921～928はロクロ成形し、底部を糸切りする。器壁は底部から直線的に立ち上がり、口縁部付近で内湾する。929～931は丸底で、ユビオサエで成形し、口縁部をヨコナデする。932は肥前系陶器刷毛目椀である。933は肥前系陶器椀である。低い高台が付き、見込みに４か所の砂目の痕跡が残る。934は肥前系陶器椀である。六角形の京焼風肥前陶器で、器壁は直立し、低い高台が付く。外面に竹を描き、見込みは蛇の目に釉剝ぎされる。935は肥前系磁器染付椀である。腰が張る椀形で、やや内を向く低い高台が付く。

936～947は墨書土器である。器形はいずれも土師器鉢で、丸底のものである。936、938～943、945、947は内外面共に墨書がある。外面の墨書は940を除きすべて「休栄」である。937は外面のみ、944・946は内面のみ墨書される。936は内面中央に「往之妙生信女」と書かれる。938は内面に６行程度墨書されるがかすれており解読できない。939の内面は「妙□信女」と書かれる。940は外面に「□久」、内面上方に左から「観世音・弟子・妙宝信女・道角・妙泉・妙□」と横並びで書き、その下に横向きで左側から「為六親」と書く。941は内面中央に「奇僧（カカ）□」と記し、その横に３文字ほど墨書されるが解読できない。942は右から「般□□」「□□栄信女」「休（カ）」と書く。943の内面には不定方向に墨書されるが解読できない。944の内面は右から「宗光」「禍（カ）六親」と書く。945は「□潤□□」と書く。946は中央に２文字その左に１文字確認できるが解読できない。947は「□　東（カ）」と書く。

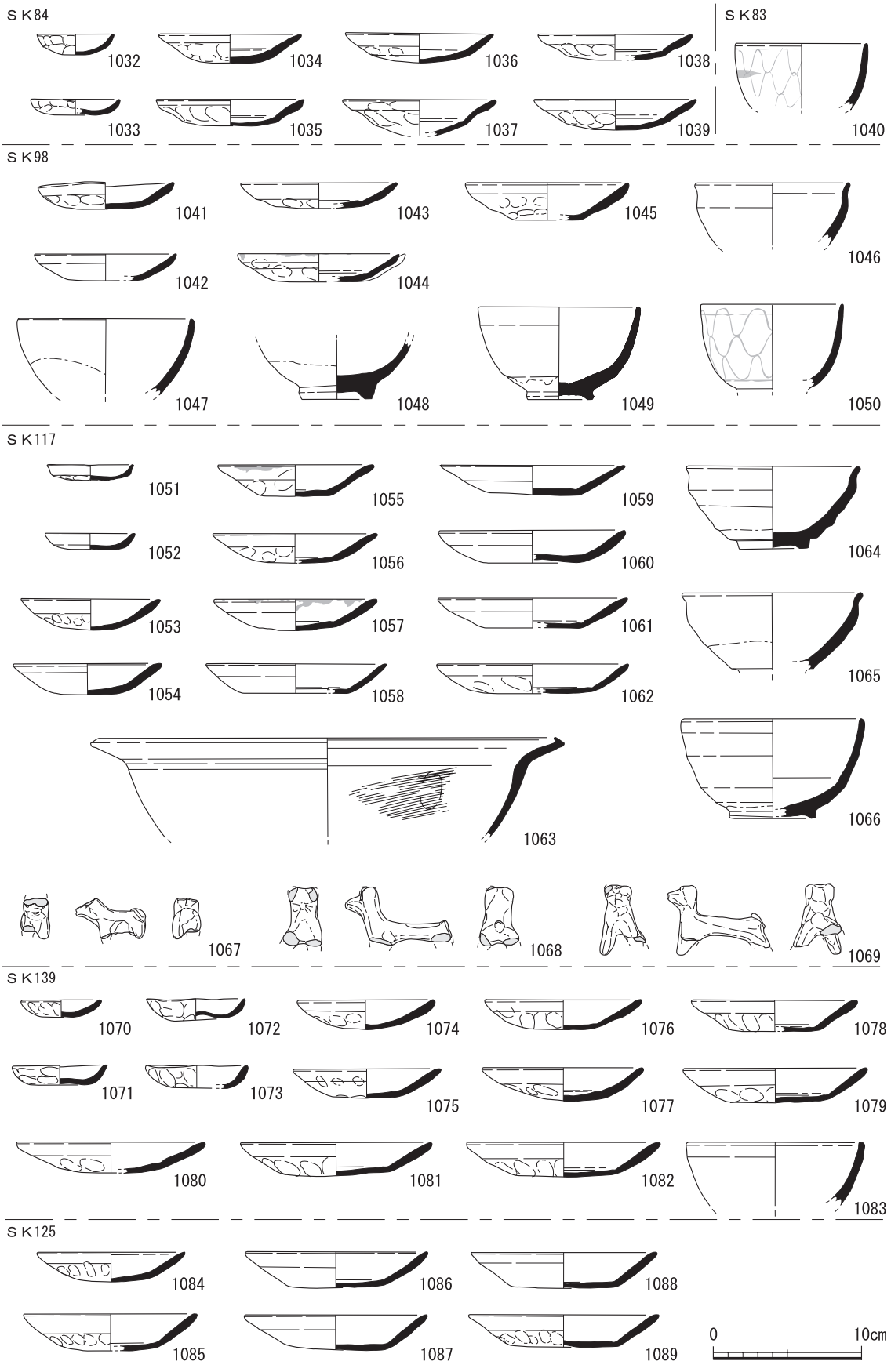
ＳＫ99（第133図）　948～965はＳＫ99から出土した遺物である。948～960は土師器皿、961は土師器鉢である。962は土師質の土鈴である。963は肥前系磁器染付椀である。外面に草文を描く。口縁部内面と外面にそれぞれ２本の染付圏線が廻る。964は肥前系陶器椀である。965は瀬戸美濃系陶器天目椀である。

ＳＫ471（第133図）　966～984はＳＫ471から出土した遺物である。966～973は土師器皿である。974は肥前系磁器青磁椀である。高台脇まで施釉され、見込みには重ね焼き痕が残る。975は肥前系陶器椀である。京焼風肥前陶器で口縁部はわずかに外反し、低い高台がつく。見込みに鳥を描き、目跡が１か所確認できる。976～978は肥前系陶器椀である。979は肥前系磁器染付仏飯器である。外面に草花文を描く。980～983は土鈴である。いずれも紐通しの孔を持つ。984は土師質の火鉢である。985は石製硯である。硯面に墨が付着する。

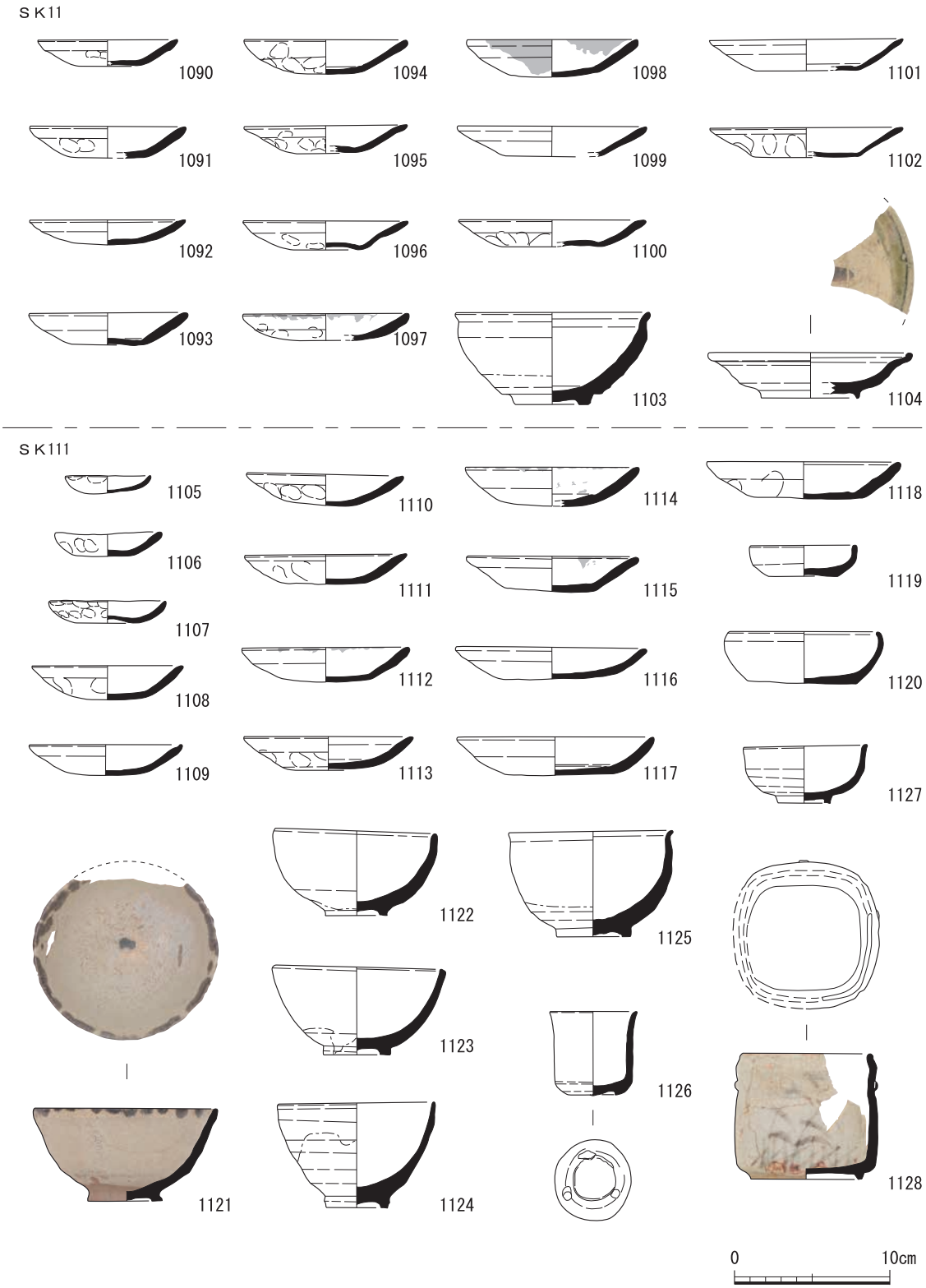
ＳＥ113（第134図）　986～1031はＳＥ113から出土した遺物である。1029～1031は上層の墓石除去中に出土した遺物、1018～1028は下層井戸内掘削中、986～1017は井戸枠除去中に出土した遺物である。986～1010は土師器皿である。そのうち993・996・997は灯明皿で、口縁部に煤が付着する。1011～1013は肥前系陶器椀である。1011・1012は高台を糸切りする。1014・1015は瀬戸美濃系陶器椀である。1016は土師器皿底部の破片である。体部が立ち上がる辺りに焼成後に内側から穿孔される。1017は犬形土製品である。1018～1025は土師器皿である。1026は瀬戸美濃系陶器青織部向付である。口縁部は花弁状で、体部から外側へ大きく開く。体部筒形で、外面を三角形に区画しその中に五弁花を描く。1027は肥前系陶器椀である。1028は焼塩壺である。1029～1031は土師器皿である。



第134図　南地区墓地出土遺物実測図(17)



第135図　南地区墓地出土遺物実測図(18)



第136図　南地区墓地出土遺物実測図(19)

ＳＫ84（第135図）　1032～1039はＳＫ84から出土した土師器皿である。1034～1039には明瞭な圏線が廻る。

ＳＫ83（第135図）　1040はＳＫ83から出土した肥前系磁器染付椀である。外面に網目文に魚を描く。

ＳＫ98（第135図）　1041～1050はＳＫ98から出土した遺物である。1041～1045は土師器皿である。1046は瀬戸美濃系陶器天目椀である。1047～1049は肥前系陶器椀である。1050は肥前系磁器染付椀で外面に網目文を描く。

ＳＫ117（第135図）　1051～1069はＳＫ117から出土した遺物である。1051～1062は土師器皿である。1063は土師器焙烙である。1064～1065は瀬戸美濃系陶器天目椀である。1066は肥前系陶器椀である。1067～1069は犬形土製品である。1068・1069は1067よりひと回り大きい製品である。1067は刺突によって目を表現するが、1068・1069にはみられない。

ＳＫ139（第135図）　1070～1083はＳＫ139から出土した。1070～1082は土師器皿、1083は肥前系陶器椀である。

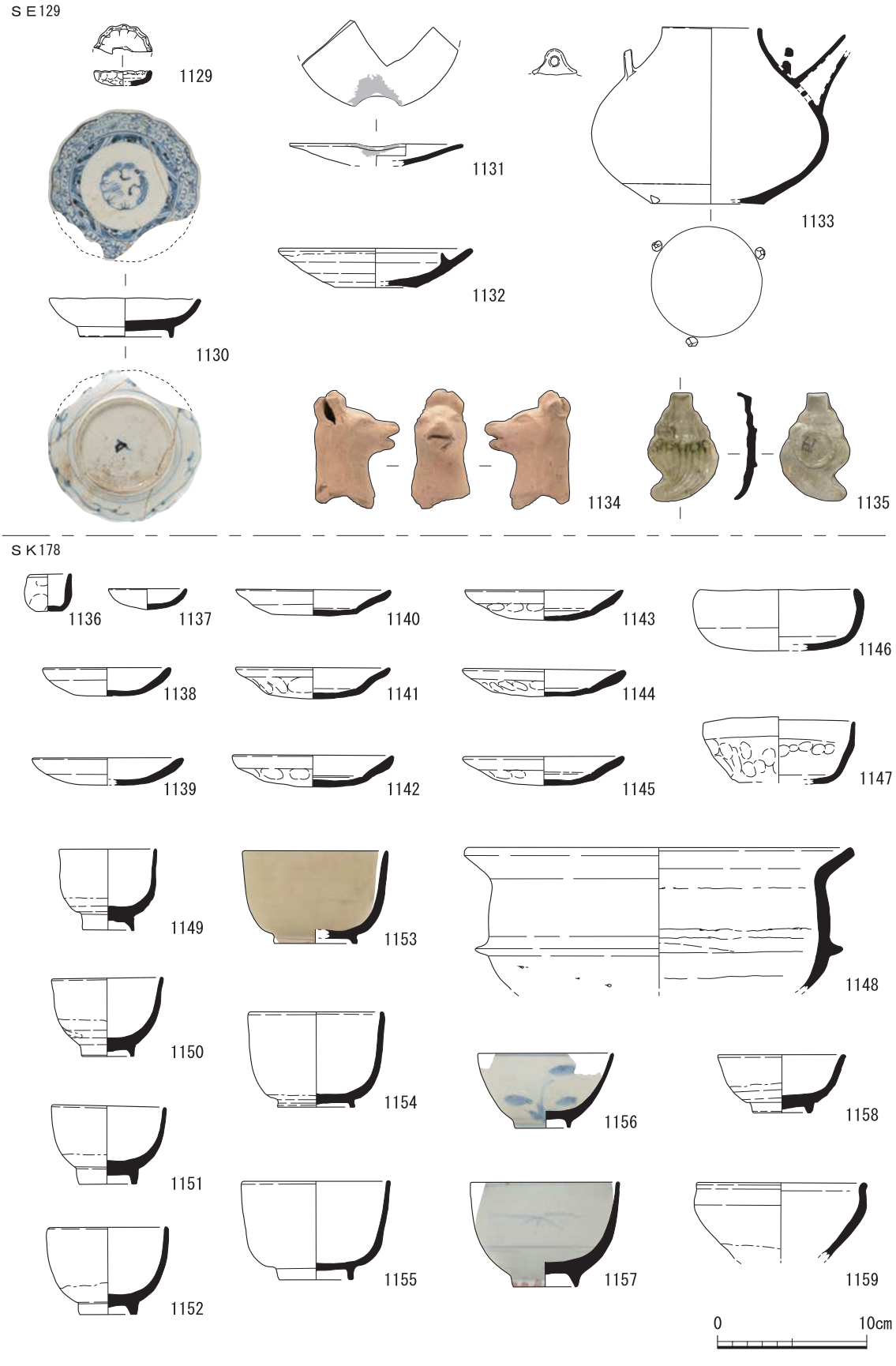
ＳＫ125（第135図）　1084～1089はＳＫ125から出土した土師器皿である。17世紀前半の様相を呈する。

ＳＫ11（第136図）　1090～1104はＳＫ11から出土した遺物である。1090～1102は土師器皿である。そのうち1097･1098は灯明皿で口縁部に煤が付着する。1103は瀬戸美濃系陶器天目椀である。1104は瀬戸美濃系陶器青織部折縁皿である。

ＳＫ111（第136図）　1105～1128はＳＫ111から出土した遺物である。1105～1118は土師器皿である。1119・1120は土師器鉢で、1120は底部を篦切りする。1121～1125は肥前系陶器椀である。1121は「皮鯨手」の椀で高台脇まで長石釉を施し、口縁部に斑点状に鉄釉を施す。16世紀末～17世紀初頭の製品である。1125は口縁部が外反する。体部は丸みを持つ椀形で低い高台が付く。体部下半までにぶい黄褐色の釉を施す。1126～1128は瀬戸美濃系陶器である。1126は志野椀で高台脇まで長石釉を施す。1127は志野杯で、わずかに外反する口縁部と見込の深い体部をもつ。底部は碁笥底で目跡が３か所に残る。1128は志野向付である。平面は四角形で、体部上部に列点を配する。外面には草花文を描く。

ＳＥ129（第137図）　1129～1135はＳＥ129から出土した遺物である。1129は花塩壺である。1130は肥前系磁器染付輪花皿である。内面には見込みに松竹梅、口縁付近に唐草文を描き、外面は唐草文を描く。焼きつぎされる。1131・1132は京信楽系の陶器灯明皿である。1131は灯芯受に煤が付着する。1133は青彩の土瓶である。底部付近に円錐状の突起が３か所付く。1134は土製品の狐である。前面と背面をそれぞれ型成形し、貼りあわせる。中空で指圧痕が残る。1135は陶器皿である。型成形し、低い高台がつく。全面に透明釉を施す。これらの遺物は18世紀後半以降の様相を呈する。

ＳＫ178（第137図）　1136～1159はＳＫ178から出土した遺物である。1136は土師器小壺である。1137～1145は土師器皿である。1146・1147は土師器鉢である。1147は外面のユビオサエが顕著に



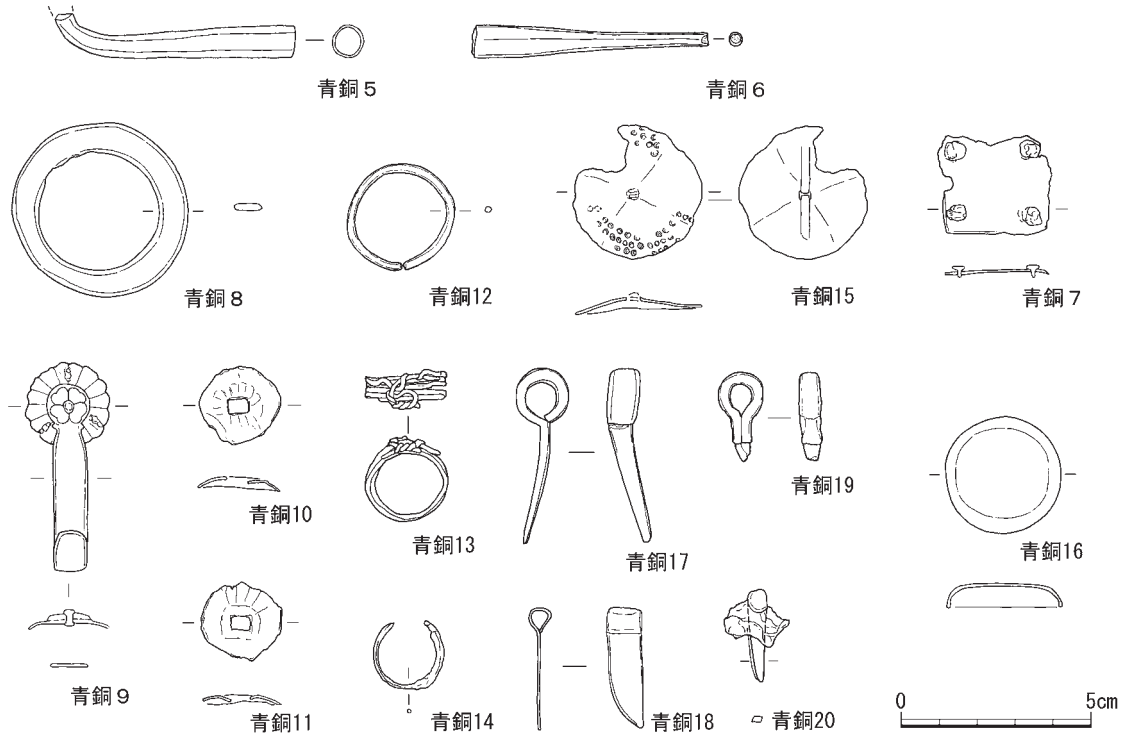
第137図　南地区墓地出土遺物実測図(20)

残り、口縁部は大きく歪む。1148は土師質の羽釜である。1149～1155は肥前系陶器椀である。1149～1152は体部下半まで鉄釉を施す。1153～1155は京焼風陶器である。1153・1154の口縁部は直立し、腰の低い体部に外に開く低い高台が付く。1156・1157は肥前系磁器染付椀である。1158・1159は瀬戸美濃系陶器である。

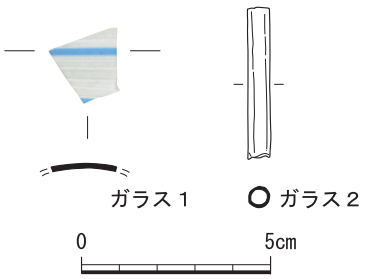
（３）青銅製品（第138図）

墓地からは複数の青銅製品が出土した。後世の攪乱に伴うものも多く、これらのうち墓穴から出土し副葬品として考えられるものを優先して保存処理を行った。また、報告にあたっても同様な遺物を掲載するようにした。

青銅５・６は煙管である。青銅５は首の長い雁首で火皿が欠損している。青銅６は吸口である。いずれもＳＴ375から出土しており、同一の煙管と考えられる。17世紀後半の製品とみられる。青銅７は方形の留め金具である。四隅に鋲を打つ。鋲の長さ３mm程度で方形の金具からわずかに突き出る。鋲の頂部は打つ際に潰れて扁平になる。青銅８は断面楕円形の環状の製品である。青銅９は座金具である。16弁の菊花文の金具と４弁の花形金具で、板状金具を挟み込み鋲留する。板状金具の端部は鉤状に折り曲げられる。青銅８・９はＳＴ193から青銅８に青銅９が入った状態で出土している。青銅10・11は座金具である。中央に方形の穴を穿つ。風化が著しいが、菊花文を表すとみられる。青銅12は断面円形の棒状の製品を環状に丸めたものである。青銅13は銅線で、何かを束ねていたものとみられる。４重に巻き付けたあと両端を捩じり合わせて留める。青銅14は「Ｕ」字状に曲げられた断面円形の棒状製品である。青銅15は座金具で、上面に魚々子を打ち、中央に円形の穴を穿つ。裏面中央には幅２mm程度の直線的な溝が刻まれる。青銅16は釘



第138図　南地区墓地出土遺物実測図（21）



第139図　南地区墓地出土遺物実測図(22)

隠である。表面は平坦で意匠はみられない。青銅17～19は環状の鋲である。板状の製品で頂部を環状にし、先端が尖る。青銅20は座金具と鋲である。座金具は風化により不定形であるが、円形であったと考えられる。鋲の頂部は平坦で、先端が尖る。

(４)ガラス製品(第139図)

ガラス製品は２点出土しており、いずれも墓地内の遺構から出土している。ガラス１はＳＴ215でミニチュア磁器椀(第123図784)の内側から出土したガラス片である。透明なガラスの外側に白色と青色の板ガラスを横方向に巻き付けたスラッド装飾の製品である。体部はわずかにカーブしており、グラス状であったと考えられる。オランダでヴェネチアングラスを模倣して製造されたいわゆる「ファソン・ド・ヴェニス」である。17世紀前半頃の製品とみられる。ガラス２はＳＫ82から出土したガラス製ホッピンの吹き竿部分である。緑透明の鉛ガラスで、片側端部がわずかに広がる。日本で製造されたガラスである。

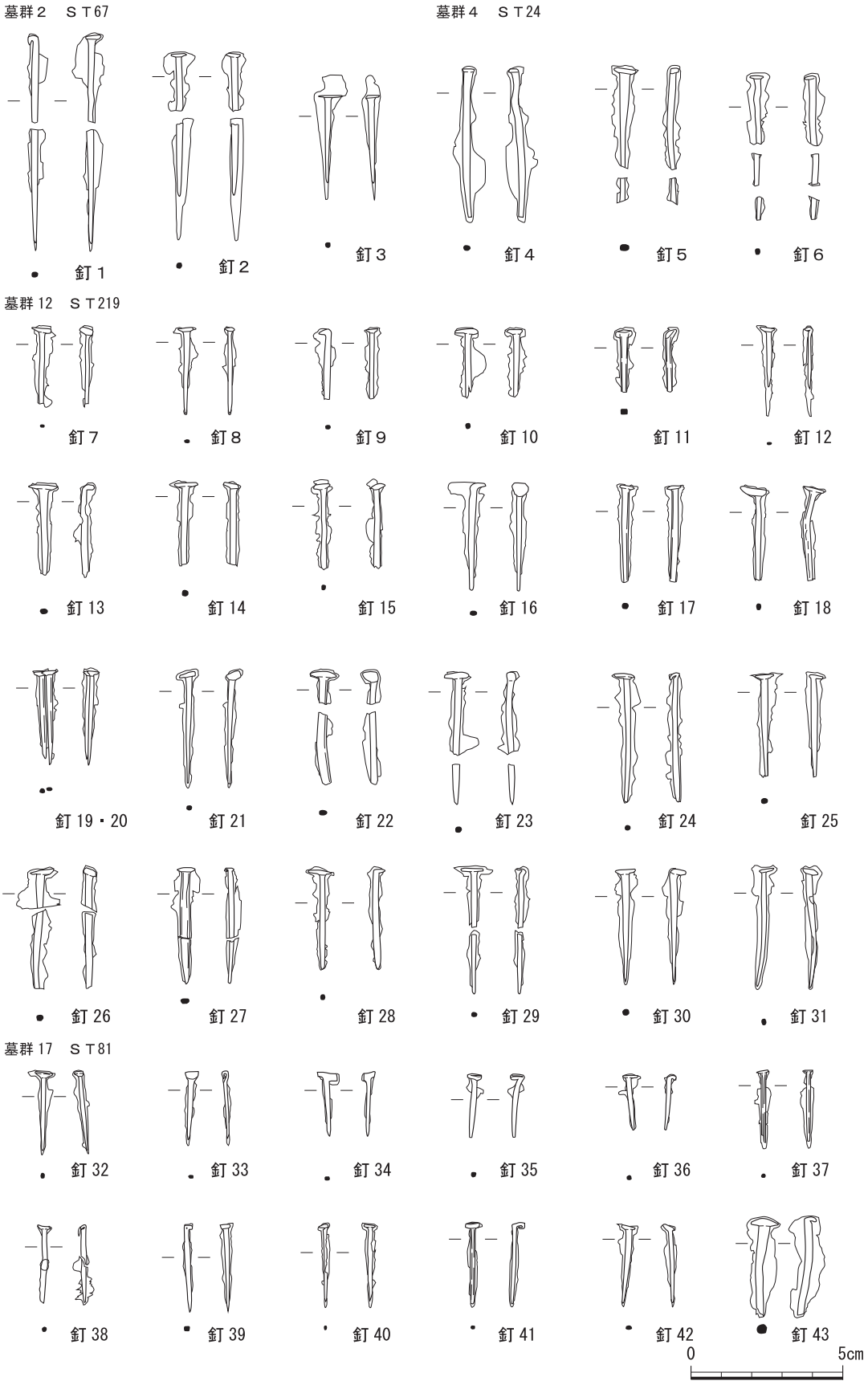
(５)鉄釘(第140図)

今回の調査で墓地から鉄釘が多数出土した。これらの多くは墓穴から出土しており、木棺に使用されていたと考えられる。そのうち、墓穴のなかで方形に並んで出土し、木棺の形状が復元できるものを優先して保存処理を行った。報告にあたっては、同様に出土状況にまとまりがあり、形状が異なるものを掲載した。また、釘に木質が付着しているものも確認でき、その一部の樹種同定をパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した(付編１)。

釘１～43は墓地から出土した鉄釘である。いずれも頂部を叩き潰した頭巻釘で、断面は方形である。釘１～３はＳＫ67から出土した鉄釘である。釘１は３寸以上、釘２は２寸以上、釘３は約２寸である。釘４～６はＳＫ24から出土した。先端が欠けるが２寸以上の釘である。釘７～31はＳＫ219から出土した。釘７～22は１寸以上２寸未満で、釘23～31は約２寸以上の製品である。釘32～43はＳＫ81から出土した。釘32～42は１寸以上２寸未満である。釘43は先端部を欠損するが２寸以上になるとみられる。同じ遺構から出土した他の釘と比べて長く、また断面径も大きいため使用したか所が異なるか、混ざり込みの可能性が考えられる。

(６)銭貨(第141・142図)

墓穴に伴って多数の銭貨が出土した。いわゆる六文銭で、一つの墓穴から複数枚出土するものが多数を占める。銭同士が固着しているものも多く、すべての銭貨の判別は不可能であったが、新・古寛永通寶の他に念仏銭(銭１・33ほか)や渡来銭が含まれる。ひとつの墓穴に５枚ないしは６枚の銭貨を出土する例が多く、少数ではあるが、ＳＴ432やＳＴ352のように10枚以上を出土するものも確認できる。念仏銭は７枚が出土しており、そのうち３枚が同じ墓穴から、４枚はそれぞれ別の墓穴から出土した。また、銭１を除き他の銭貨と組み合わさって出土している。銭貨同士が固着しているものは銭緡で束ねられていた可能性が考えられるが、繊維などは確認できなかった。墓穴から出土した銭貨のうち、寛永通寶を除いた念仏銭と渡来銭の保存処理を実施した。報告に



第140図　南地区墓地出土鉄釘

墓群1



銭1　銭22　銭25

墓群3



銭117　銭129　銭141　銭164

墓群2



銭33　銭48　銭49　銭53　銭78

墓群4



銭241　銭259　銭265

墓群9



銭404　銭405　銭406

墓群8



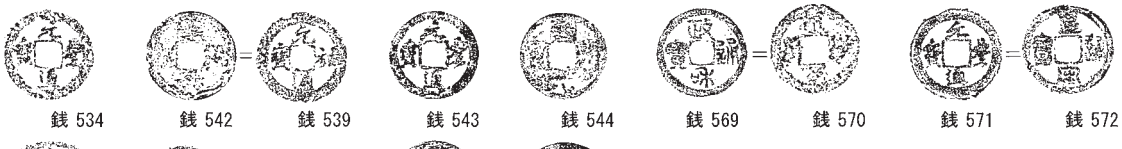
銭344　銭358　銭360　銭361　銭362　銭368　銭394　銭398

墓群10



銭494　銭495　銭499　銭518　銭523　銭524

墓群12



銭534　銭542　銭539　銭543　銭544　銭569　銭570　銭571　銭572



銭573　銭574　銭589　銭590　銭623

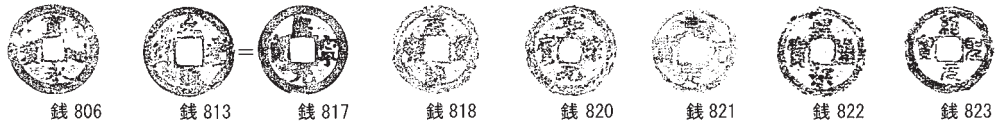
墓群13



銭705　銭706　銭707　銭708　銭709　銭735　銭742　銭747　銭764



銭770　銭771　銭778　銭779　銭780　銭781　銭786　銭787　銭805



銭806　銭813　銭817　銭818　銭820　銭821　銭822　銭823



第141図　南地区墓地出土銭貨（1）

墓群 11



銭 527　銭 529　銭 530　銭 531　銭 533

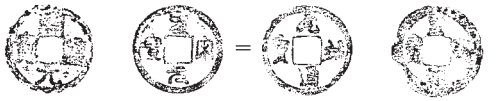
墓群 14



銭 831　銭 842　銭 843　銭 877　銭 882　銭 883　銭 884　銭 889　銭 890



銭 891　銭 892　銭 893　銭 894　銭 908　銭 913　銭 927　銭 928　銭 970



銭 971　銭 1002　銭 1006　銭 1007

墓群 15



銭 1032　銭 1033　銭 1034　銭 1035　銭 1036　銭 1037　銭 1038　銭 1039　銭 1049



銭 1051　銭 1057　銭 1062　銭 1086　銭 1087　銭 1118　銭 1142　銭 1143　銭 1144



銭 1156　銭 1175

墓群 16



銭 1188　銭 1189　銭 1213　銭 1258　銭 1259　銭 1260　銭 1268　銭 1282

墓群 17

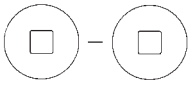


銭 1304　銭 1308　銭 1309　銭 1331　銭 1337　銭 1370　銭 1375　銭 1376

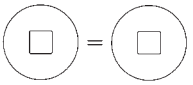
墓群 18



銭 1451　銭 1452



１枚の裏表



２枚以上固着の上下

ＳＫ52



銭 1453　銭 1456　銭 1458　銭 1459　銭 1464



第142図　南地区墓地出土銭貨（２）

付表３　出土墓石総数一覧

種類	出土点数
一石五輪塔	408
板碑	74
舟形墓標	78
櫛形墓標	11
笠塔婆	27
笠塔婆（笠のみ）	17
舟形五輪塔	3
組合式五輪塔	37
台座	69
石仏	5
不明	29
合計	758

あたっては、墓穴から出土した銭貨の一覧を遺物観察表にて掲載を行った。また、念仏銭と渡来銭のうち保存状態が良好なものの拓本を掲載する。

（７）墓石

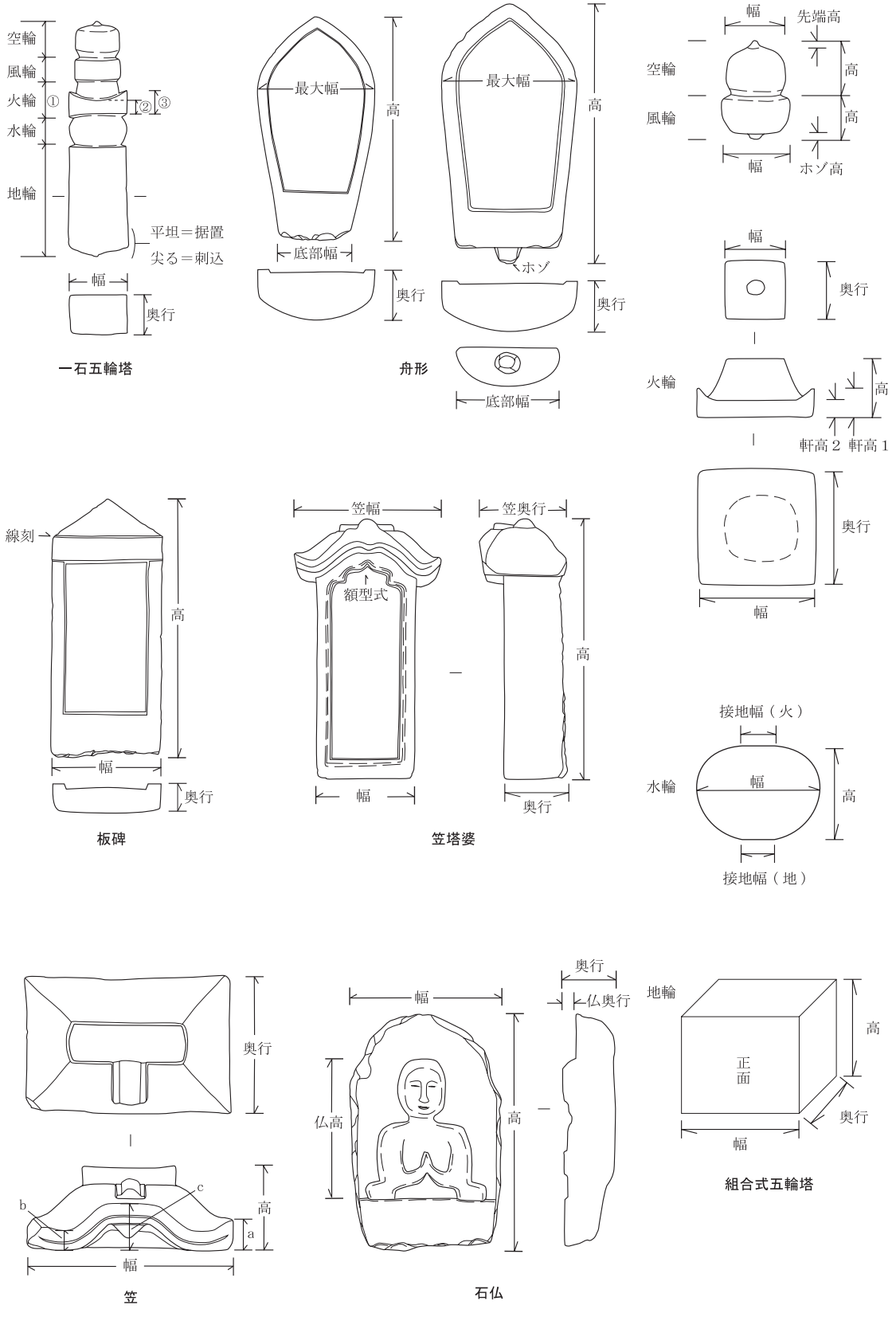
今回の調査で南地区の墓地を中心として、多くの墓石が出土した。墓石には、一石五輪塔・組合式五輪塔・板碑・舟形墓標などの墓標に加え、台座・石仏があり、これらを含めて「墓石」と呼称する。これら墓石の破片を含めた総点数は758基を数える。出土した墓石の内訳は付表３の通りである。これらの墓石は、現地で計測・拓本を行い、一覧表を作成した（付表12）。計測部位については第143図を参照されたい。墓石の多くは、盛り土や土坑中から出土しており、原位置を保っていたものは皆無である。ＳＴ127（墓群13）の板碑のように１基のみが墓穴上層から出土した例も見られるが、墓石と墓穴の関係性は不明である。土坑からは複数基がまとまって出土する例が多く、廃棄されたと考えられる。出土した墓石の特徴としてそのほとんどに銘文が刻まれる。刻まれた元号で最も多いのは「慶長」である。年代がわかるもので最も古いものは永禄9（1566）年、新しいものは元禄6（1693）年で、寺院の存続年とおおよそ一致している。銘文の標記方法は、右から左へ向かって元号、戒名、月日と並ぶものが大半を占め、額上や側面に元号・月日を刻むもののみ、元号・月日を縦方向に連続して刻む。戒名の上部に「逆修」を刻む逆修塔は71基出土している。また、銘文に金箔や漆が残存しているものもみられた。

①墓標の分類

次に墓標の分類について述べる。出土した墓標は外面の形態から、組合式五輪塔･一石五輪塔･板碑・舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆に分類した。報告番号として、組合式五輪塔は組、板碑・舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆は碑、石仏は仏、台座・水鉢は台を略号として通し番号の前に付与した。それぞれの特徴は以下のとおりである。

組合式五輪塔　空・風・火・水・地輪をそれぞれ別石で加工したものである。各部位合わせて37基が出土した。各部位がばらばらに出土しており、組合せがわかるものはない。石材はすべて花崗岩系である。各部４面共にていねいに成形されており、正面に東方発心門の梵字を刻むものが多いが、四面に梵字を刻むものや梵字を持たないものも認められる。地輪には複数の戒名が刻まれるものがあり、その場合には「三界万霊」や「六親眷属」を合わせて刻むものが多く、家族墓の墓標として利用されたとみられる。最も多いものは８名の戒名を刻む（組20）。戒名が１人のものは第153図組８・組24の２基で、組８に刻まれた戒名は「寔秀院休邁道偲（カ）居士」である。組合式五輪塔で最も古いものは慶長19（1614）年（組８）、新しいものは正保３（1646）年（組19）の銘をもつ。

一石五輪塔　一つの石材で、五輪塔を彫り出したものである。破片を含め408基が出土した。



第143図　石造物の計測名称図

各部の正面に東方発心門の梵字が刻まれる。97のみ漢字で「空・風・火・水・地」を刻む。地輪底部は、地面または台座に据え置いたとみられる平らなものと、地面に刺し込み固定したとみられる成形が粗く尖り気味になるものを確認した。背面の成形は荒く、未調整のものが多い。各部位の形状は様々である。石材は花崗岩系、砂岩系、閃緑岩系が多く、２点のみ笏谷石製が出土している。第146図175は、ＳＫ99から出土した笏谷石製の一石五輪塔である。風輪がそろばん石形を呈することや、火輪の軒が明確に表現されないなど、福井県でみられる笏谷石製の一石五輪塔の特徴と一致する。刻まれた紀年は天正20(1592)年である。一石五輪塔で最も古いものは天正６(1578)年(299)、新しいものは元和４(1691)年(67)の銘をもつ。

板碑　頂部の形状は山形で、正面を長方形に彫り下げ額を作る。多くは肩部に１条線ないしは２条線を刻む。背面の成形は荒いものが多い。74基が出土した。頂部は、側面が直線的なもの(第148図碑57)と、大きく反るものがみられる。反るものは肩部から頂部にかけて緩やかに弧を描くもの(第148図碑１)と、肩部直上で強く反り肩部が尖り気味なるもの(第148図碑74)がある。条線は肩部の角と角を結ぶように刻み、２条線の場合はその下側に刻むが、碑74のように肩部角よりやや下側に条線を刻むものもわずかにみられた。側面は、直立するものと、下部が広がるものがみられ、後者が古い様相である。第149図碑87は額内に五輪塔を２基浮彫りし、その中にそれぞれ東方発心門と戒名を刻み、右側の五輪塔に元号、東側の五輪塔に月日を刻む。石材は砂岩系、閃緑岩系がある。板碑で最も古いものは永禄９(1566)年(碑54)、新しいものは寛永13(1636)年(碑168)の銘をもつ。

舟形墓標　平面が舟形を呈するものである。78基が出土した。背面は船底状に丸く成形される。表面を側面と同形状に一段彫り下げて額をつくり内側に銘文を刻むものと、輪郭を持たず、五輪塔を浮彫りするものがある。額内は均一に彫り下げ平坦になるものと、額際に対して中央付近の



第144図　墓標分類図

彫りが浅く、湾曲するものがある。頂部の形状は、肩部が丸みを帯び頂部が突起状に尖るものと、肩部が張り頂部が尖形になるものがあり、また前傾するものと直立するものがみられる。底部は、荒い剝離痕を残し未調整のものと、ホゾが付くものがあり、後者は花崗岩系の石材の製品にのみ見られる。舟形墓標で、最も古いものは天正15(1587)年(碑173)、最も新しいものは元禄６(1693)年(碑171)の銘をもつ。

櫛形墓標　体部は角柱状で側面が直立し、頂部がかまぼこ形を呈するものである。11基が出土した。側面に戒名や年号を刻むものがみられる。正面を１段または２段に彫り下げる。額の形式は単純なものと、上部に意匠をこらすものがある。額上部の形式は様々で、一覧表中に図化して示した。第153図碑41は、頂部の額が１段高くなり、前方につき出る。４人の戒名を刻み、左右額上に２種類の年号を刻む。櫛形墓標で最も古いものは元和１(1621)年(碑15)、新しいものは元禄３(1690)年(碑14)の銘をもつ。

笠塔婆　角柱状の体部に別石で加工した笠部がつくものである。体部は27基、笠部が17基出土した。体部と笠部が別々に出土しており、組合せ関係が判ったものはわずかである。多くが体部上面にホゾ、笠部底面にホゾ穴を設ける。ホゾを持たない体部は笠を伴わない可能性が考えられるが、ホゾ穴をもたない笠部も出土しており、笠塔婆として分類した。第150図碑51のみ体部と笠部が一体となる。笠部は寄棟造りの屋根を表しており、唐破風を表現したもの(第149図笠14)や全体を簡略化したもの(第150図笠15)がある。第152図碑21のように側面に年号を刻むものもある。笠塔婆で最も古いものは寛永９(1632)年(碑92)で、新しいものは元禄５(1692)年(碑27)の銘をもつ。

②台座・水鉢の分類

台座と墓標は別々に出土しているため、セット関係については不明である。また、水鉢部のみの石造品も単体で出土している。台座と水鉢部は合わせて71基が出土した。

出土した台座および水鉢を形式から第145図のように分類を行った。

まず外面の形態からＡ～Ｇの７類に分類する。

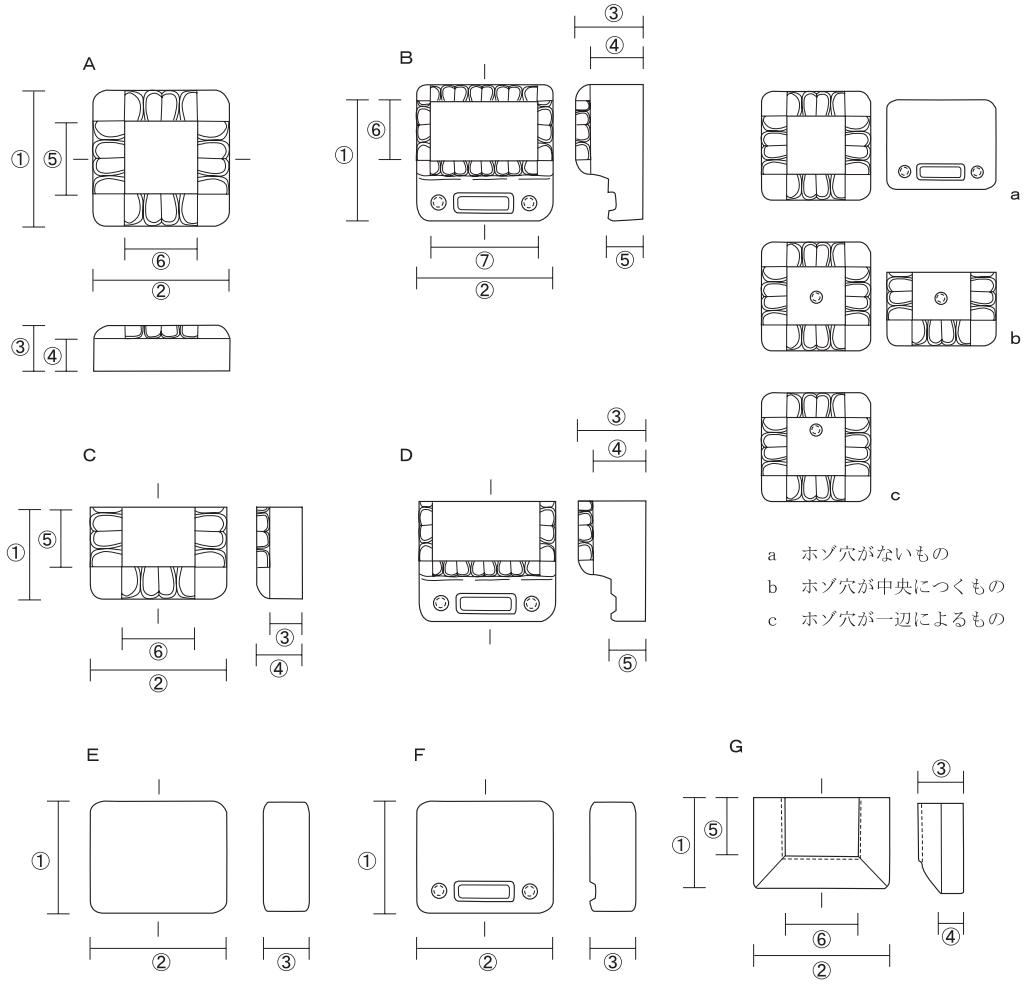
Ａ・Ｂ類は４面に反花が施される反花座である。Ａ類の平面は正方形を呈しており、台７・32・48・54が相当する。Ｂ類はＡ類の前面に台座部より一段低い水鉢が付き一体となるもので、台座部の平面は長方形を呈する。台８・27・52がこれに相当する。

Ｃ・Ｄ類は反花座で、前方及び両側面の３面に反花が施される。背面は直立し、荒い鑿成形に留まる。Ｄ類はＣ類の前面に台座部より一段低い水鉢が付くものである。Ｃは台３・26・39～44・47・49・55・59・63・64、Ｄ類は台14・25・53・56・61・62・69が相当する。

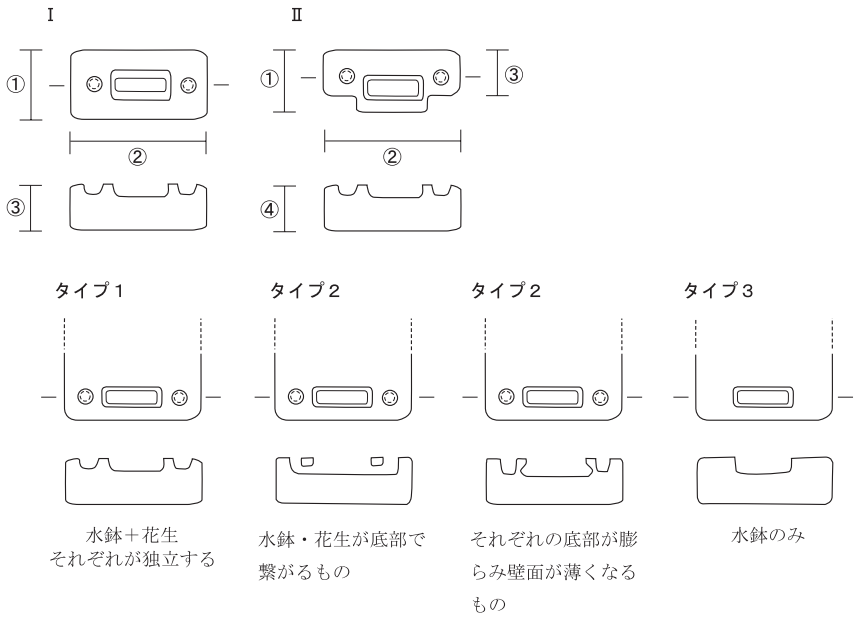
Ｅ類は平面・断面ともに長方形となる。意匠がなく最も単純な造形である。中央よりやや長辺寄りにホゾ穴をもつ台16がある。

Ｆ類は平面が長方形の台座で、Ｅ類の片側長辺寄りに水鉢を設ける。断面は長方形を呈する。前面背面の成形方法は同じであり、水鉢を彫る前段階においては、台座の前後の区別はつけていないと考えられる。台９・12・13・17・18・21・23・24・30・33・50・57・58・60・65・66・

台座



水鉢・花生



第145図　台座模式図

68・70・71が相当する。

G類は前方及び側面３面の繰形座である。上面から前方３面に向かって傾斜する。背面の成形は荒く直立する。断面は台形を呈する。台９・12・13・17・18・21・23・24・30・33・50・57・58・60・65・66・68・70・71が相当する。

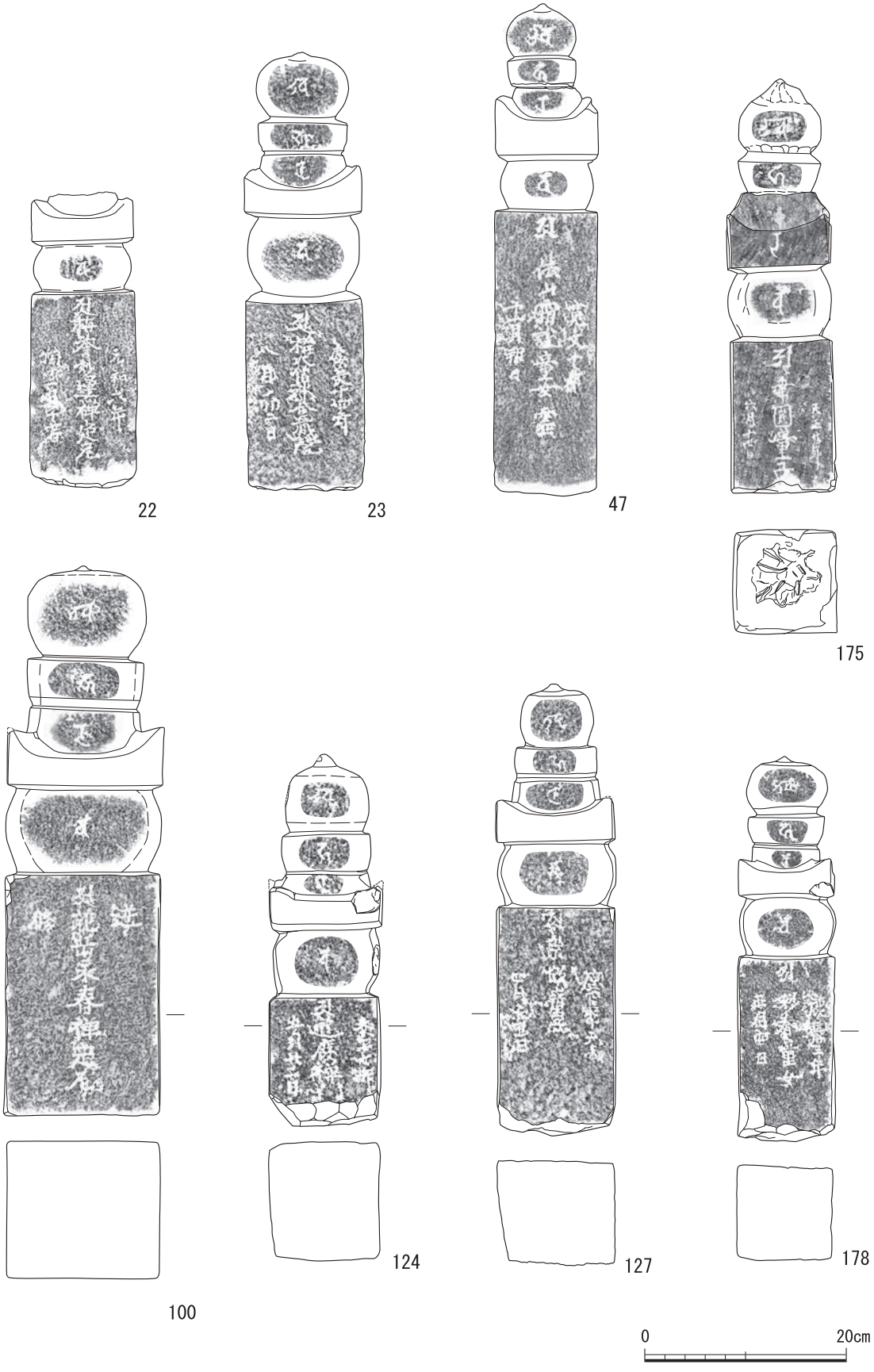
以上が外面の形態からの分類であるが、台座上面にホゾ穴がないものをａ類、ホゾ穴が台座部中央に位置するものをｂ類、ホゾ穴が一辺に寄るものをｃ類として細分化した。

水鉢・花入のみで構成される石造品は、墓標の前面に直接置くか、台座Ａ・Ｃの前面に置き利用したと考えられる。これについては、平面が長方形のものをⅠ類(台20・28・34・35)と、花入れに対して水鉢が前面に飛び出し平面が凸形になるものをⅡ類(台51)とした。

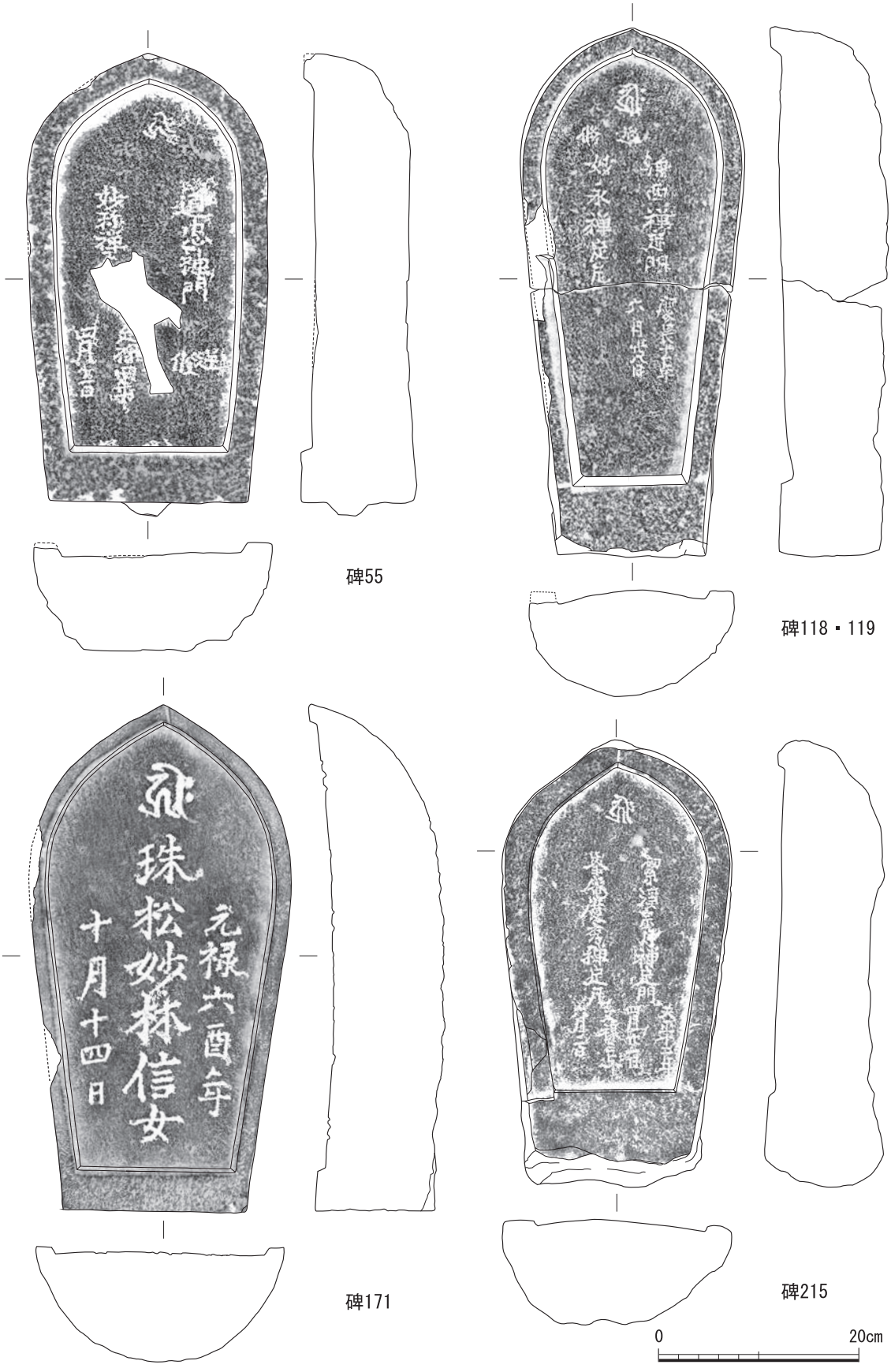
また、水鉢・花生は断面の形態から水鉢の両側に花生が付き、それぞれ独立して彫られるものをタイプ１、水鉢の両側に花生が付き、穴の底部付近で互いが繋がるものをタイプ２としたが、水鉢の断面が底部の膨らむフラスコ状になり、水鉢・花生間の器壁が薄くなるものもこのタイプに含めた。これらは水鉢と花生で水を共有する目的があったと考えられる。なお、タイプ３は水鉢のみのものである。

③石仏

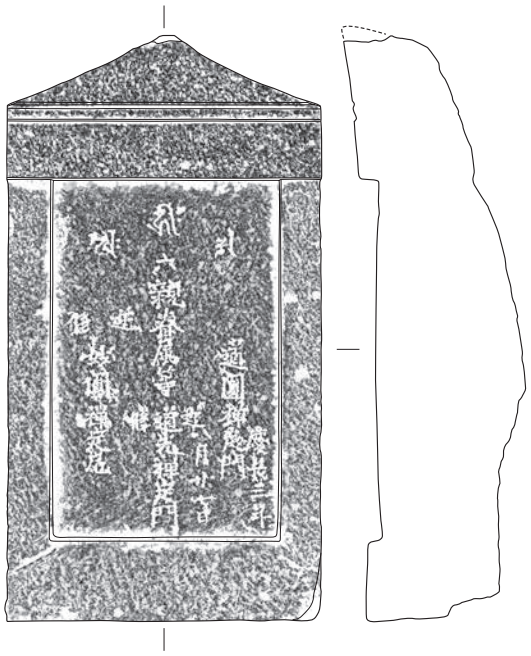
石仏は５基が出土した。仏１は上部のみが出土した。剃髪の像を浮き彫りし、像の口には朱が塗られる。背面は荒い剝離痕を残す。仏４は頭部のみが残る。剃髪の像を浮き彫りする仏２は、中央を方形に彫り窪め、その中に定印を結ぶ阿弥陀像を浮き彫りする。摩滅により顔の表現は不明である。正面下部には額を作らず、台座が表現されていたとみられる。仏３は定印の阿弥陀像を浮き彫りする。像の定印より下部は表現されない。　（綾部侑真）



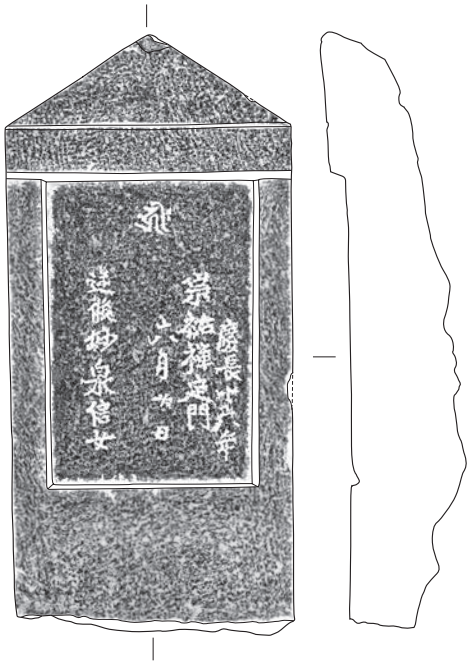
第146図　石造物実測図（１）



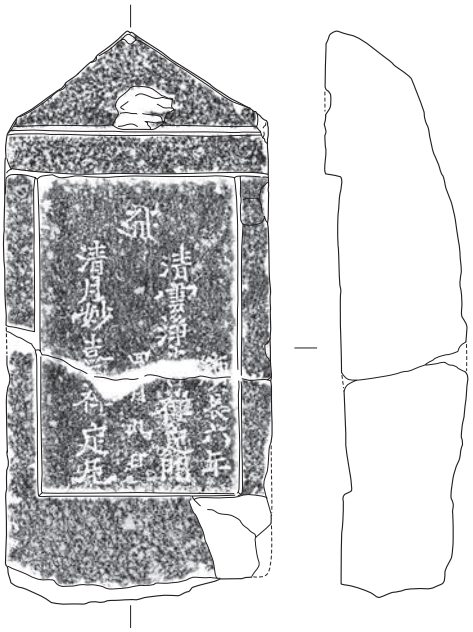
第147図　石造物実測図（２）



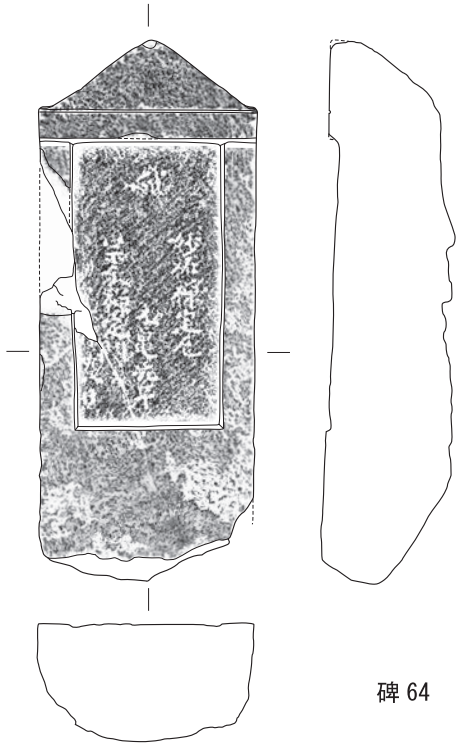
碑 1



碑 57



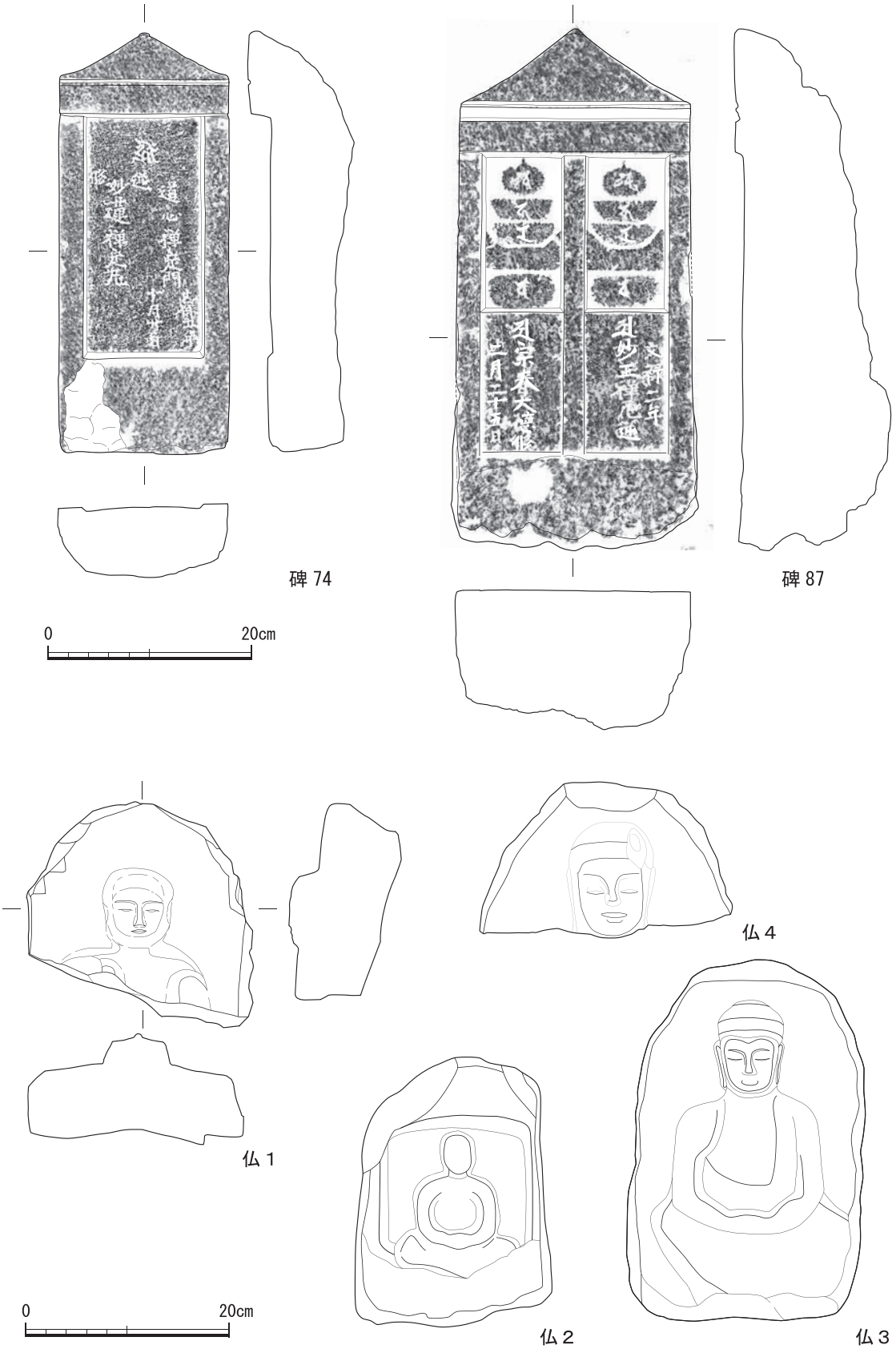
碑 62



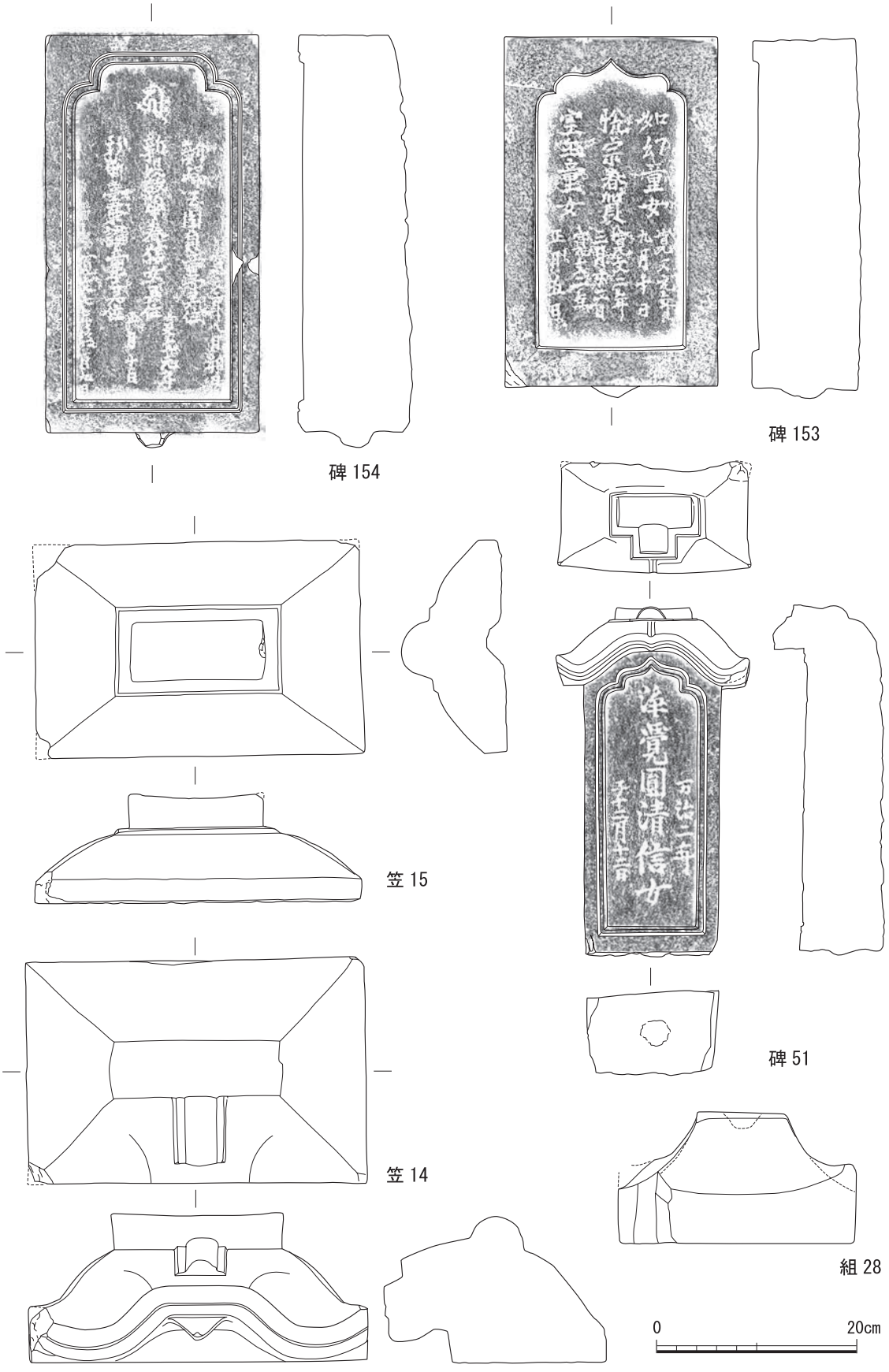
碑 64

0　20cm

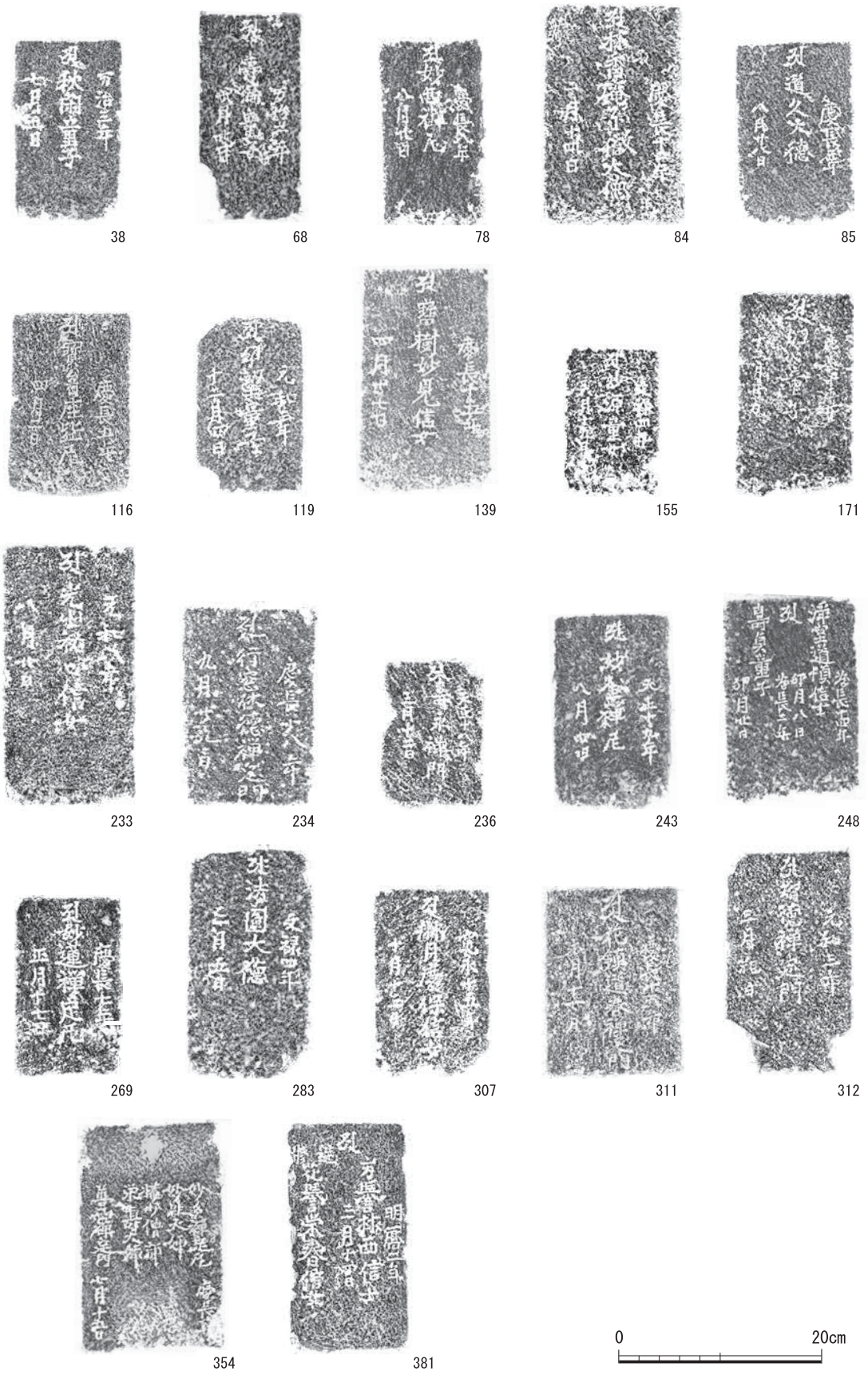
第148図　石造物実測図（３）



第149図　石造物実測図（４）



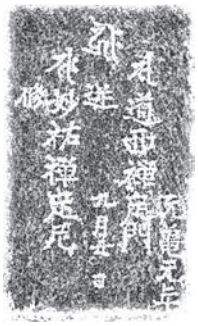
第150図　石造物実測図（５）



第151図　石造物拓本（１）


碑 26


碑 54

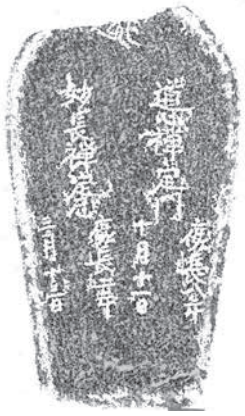

碑 60


碑 63


碑 86


碑 97


碑 148・149


碑 82


碑 83


碑 105・106


碑 103・104

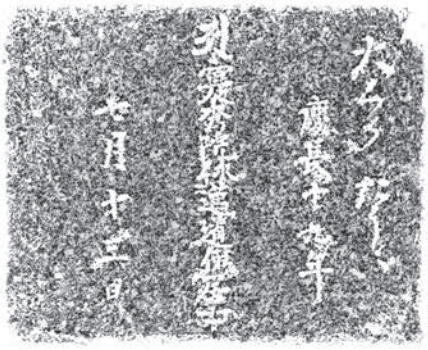

碑 142・143

0　20cm

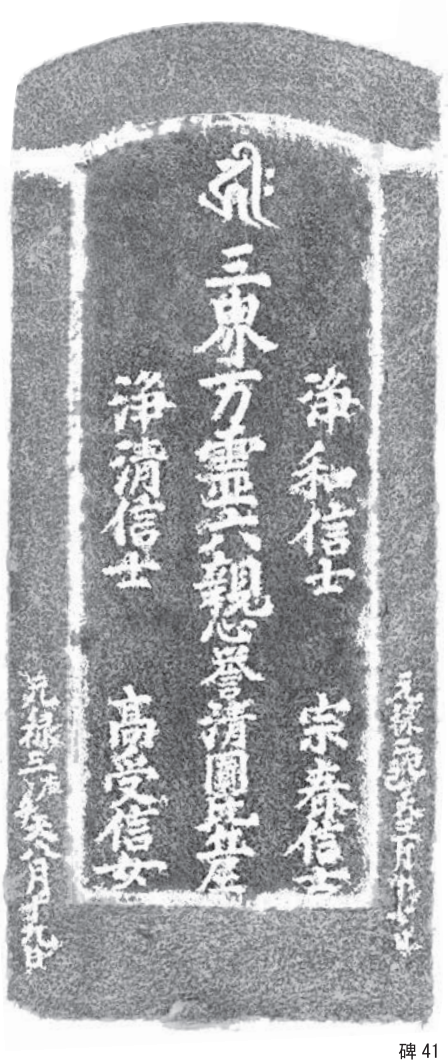
第152図　石造物拓本（２）



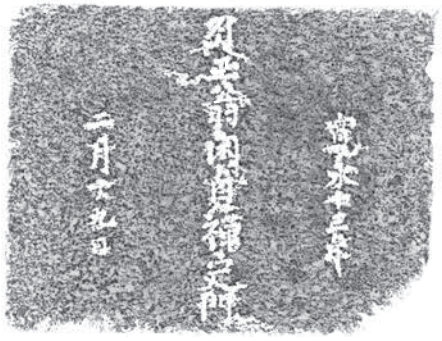
碑 21



組 8



碑 41



組 24



組 30



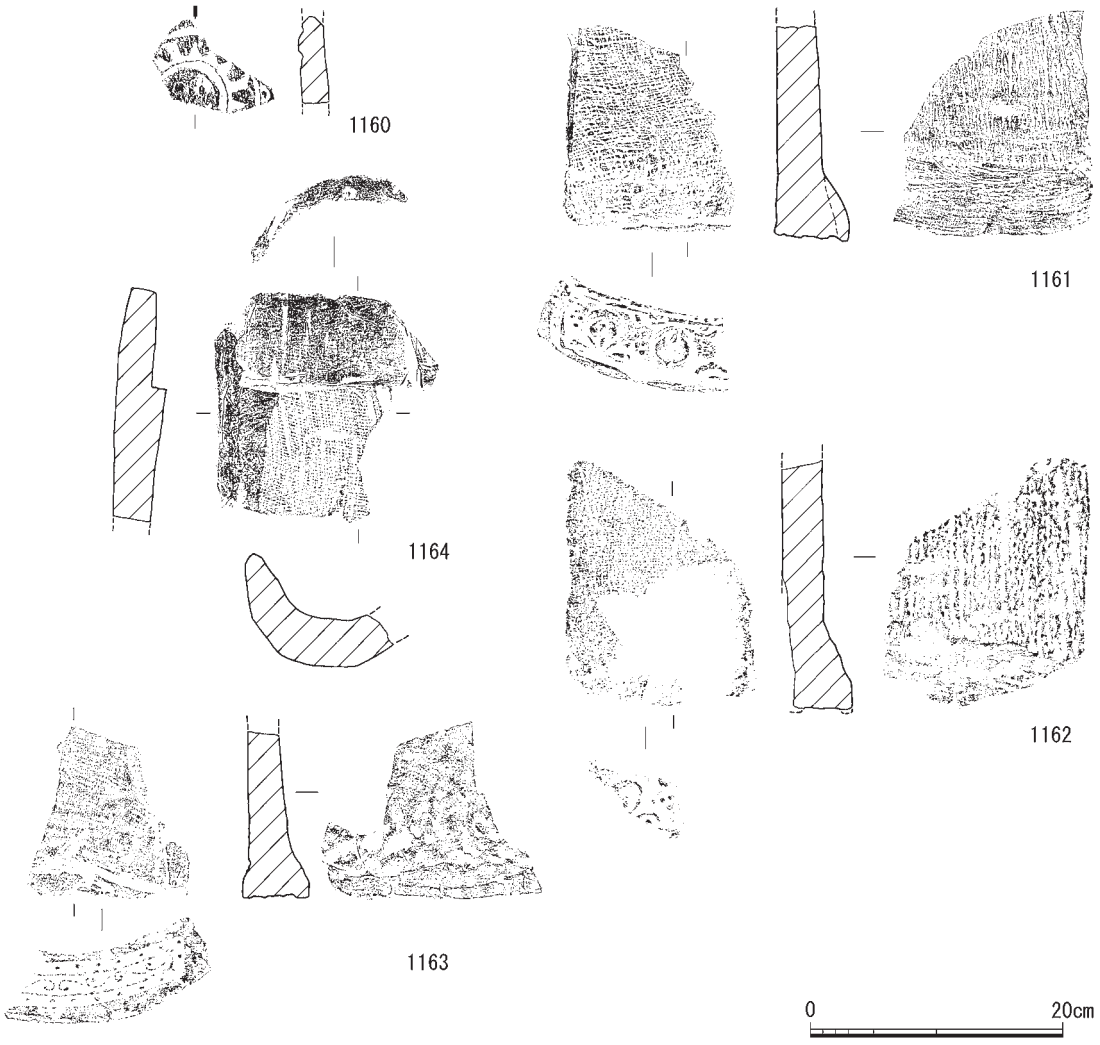
第153図　石造物拓本（３）

７．京都府教育委員会立会調査出土遺物

京都府立鴨沂高校のグランドである北校地において、防球ネット建設工事に伴う立会調査が、京都府教育委員会によって、平成26年７月23日に実施された。当調査研究センター調査地とは、荒神口通を挟んで、北側に位置する。この調査で、法成寺に関係すると考えられる緑釉瓦などが出土した。

1160は複弁蓮華文軒丸瓦である。瓦当面中央の中房は、蓮子の周囲に圏線が廻る大きめのもので、その周囲を団子状の蓮弁が巡る。さらにその周囲を珠文が巡る。法成寺の瓦を焼成したとされる亀岡市の篠王子瓦窯出土瓦に同文のものがある。この瓦も、法成寺所用の瓦とみられる。焼成は須恵質である。

1161は緑釉半裁花文軒平瓦である。瓦当面に一重の圏線を巡らし、その内側に半裁花文を上下交互に配している。花文間には珠文を付す。凸面は縄目タタキで、凹面には粗い布目の圧痕が残る。凸面の縄目タタキは縦方向であるが、瓦当裏に横方向の縄タタキがみられ、丹波産の瓦特有のものであることを示す。亀岡市篠王子瓦窯生産出土瓦に同文・同技法のものがあり、同窯で生



第154図　鴨沂高校グラウンドフェンス支柱工事出土瓦

産された瓦とみられる。法成寺関係の瓦と考えられているものである。緑釉は、瓦当面と凹凸両面の瓦当付近に施されている。須恵質の焼成である。1162は緑釉半裁花文軒平瓦で、大部分が欠失しているが、1161と文様構成は同じとみられる。凸面には1161と同様の縄目タタキ、凹面には布目圧痕が残る。同じく亀岡市篠窯業生産遺跡群の王子瓦窯で生産された法成寺関係の瓦とみられる。緑釉は瓦当面と凹面及び側面に施されている。焼成は土師質である。緑釉半裁花文軒平瓦については、「法成寺の古瓦」(注2)で、花弁が丸みをもつ９Ａと花弁が痩せた９Ｂの２種あることが指摘されている。文様形態から、今回出土した1161は９Ａ、1162は９Ｂにあたるものと考えられる。

1163は唐草文軒平瓦である。瓦当面の周縁内に珠文が巡り、その内側のやや狭目の圏線内に唐草文を配す。凹面にはやや粗い布目圧痕が見られ、凸面はタタキをナデ消している。瓦当下面と瓦当裏下半はヘラケズリで、上半はユビオサエのちナデである。1161・1162とは技法が異なっているが、丹波産の可能性も考えられる。時期的にはほぼ同時期と考えられる。焼成は須恵質である。

1164は緑釉丸瓦である。凸面は平滑に調整されるが、焼成前に付いた工具痕が多く残る。凹面には粗い布目圧痕が残り、屋根葺時に下方の瓦を受けるための段が設けられる。焼成は土師質である。

（引原茂治）

８．遺構・遺物の検討（総括）

豊臣秀吉は、京都の都市改造のひとつとして、洛中に散在していた寺院を鴨川の西岸に強制移転させ、天正19（1591）年にはほぼ移転が終了し寺町が形成される。その規模は、鞍馬口付近から大仏橋通南側の下寺町までの南北約５kmに及ぶ。その範囲に117を数える寺院が存在した。また、同年に御土居も造営され、このような大改造によって、鴨川から現在の寺町通の間が大きく変貌する。今回の調査地は、寺町旧域の中間付近にあたり、一寺院の詳細が判明するなどの大きな調査成果を得ることができた。以下、項目ごとに検討する。

１）調査成果と寺町の景観

（１）調査地内の土地利用について

鴨沂高校敷地内の調査では攪乱の大きく及んでいた北地区においては、土地利用の様子を示す遺構がほとんど存在しなかったことと、南地区の墓域に当たる北地区東側において、墓穴と考えられる遺構を検出することができなかった。また、墓石などの石造物も南地区に比べると包含層中においても極端に出土数が少ない。性格の異なる空間使用が想定される。

中央部の８トレンチ付近は攪乱が多く、寺町期の遺構がほとんど残されていないことと、保存された校舎の下になりその空間利用を明らかにすることができない。

南地区の５トレンチでは時期に渡る真東西方向の道路状遺構１を検出している。長期間道路として機能していたと考えられる。道路の南側では、東部で墓域、西部で建物跡などを検出しており、ここでも土地利用の違いが考えられる。

上記の小規模な道路と調査地北側にある秀吉の築いた御土居の出入り口に通ずる道である荒神口通と寺町通を手掛かりに、絵図との対比を行いたい。

寺町形成後から宝永の大火（1708年）までの時期に当たる寛永14（1637）年の「洛中絵図」では、寺院の敷地規模などが詳細に描かれている。洛中絵図は、江戸幕府京都大工頭中井家によって製作されたもので、寺町・禁裏などの実測は直接中井家が担当したが、他は町方絵図や聞き取り作図などの既成図を収集して書き上げたとされている(注3)。こうしたことから、絵図は江戸時代前期の信用できる資料として位置づけられる。

第156図は洛中絵図を荒神口通、寺町通を起点に調査地周辺に重ね合わせたものである。鴨沂高校東側の道はその角度とともに絵図と符合する。また、４トレンチで検出した道路も描かれている。絵図によると道幅は２間であり、発掘調査結果と同じ規模を持っている。この道路は学校敷地東側の道路(新烏丸通)と交わるが、現道においてもその痕跡を示すようにクランク状に屈曲しており、不自然な景観を呈している。

こうしたことから、第156図で示したように北部地域の場所に革堂（行願寺）があったと考えられる。革堂跡想定地の多くの面積を調査したにもかかわらず、墓穴が確認できないことや出土石造物も少ないのは、革堂が天台宗の寺院で西国三十三所十九番札所であることから、近世になって三十三所巡礼が盛行したため経済基盤が安定し、墓地を経営していなかったことが考えられる。

浄土宗の寺院である専念寺跡想定域では、調査トレンチが小規模で攪乱により遺構がほとんど残っていなかったことや、墓域のあった可能性がある東部が未発掘であるため、寺院の構造などは不明である。専念寺は、天正16（1589）年に開基するが、寺町に移る前の場所などについては不明で、宝永の大火以後に鴨川対岸の西寺町通に移転した。

東西方向の道路を挟んで常念寺跡に当たる部分があり、その南に三福寺がある。常念寺は、永禄８（1566）年に開基した浄土宗の寺院で、その後寺町に移り、宝永の大火以後に鴨川対岸の西寺町通に移転した。三福寺は、五条宮ガ辻から天正年間に寺町に移り、他の浄土宗寺院と同じく宝永の大火以後に鴨川対岸の西寺町通に移転した。

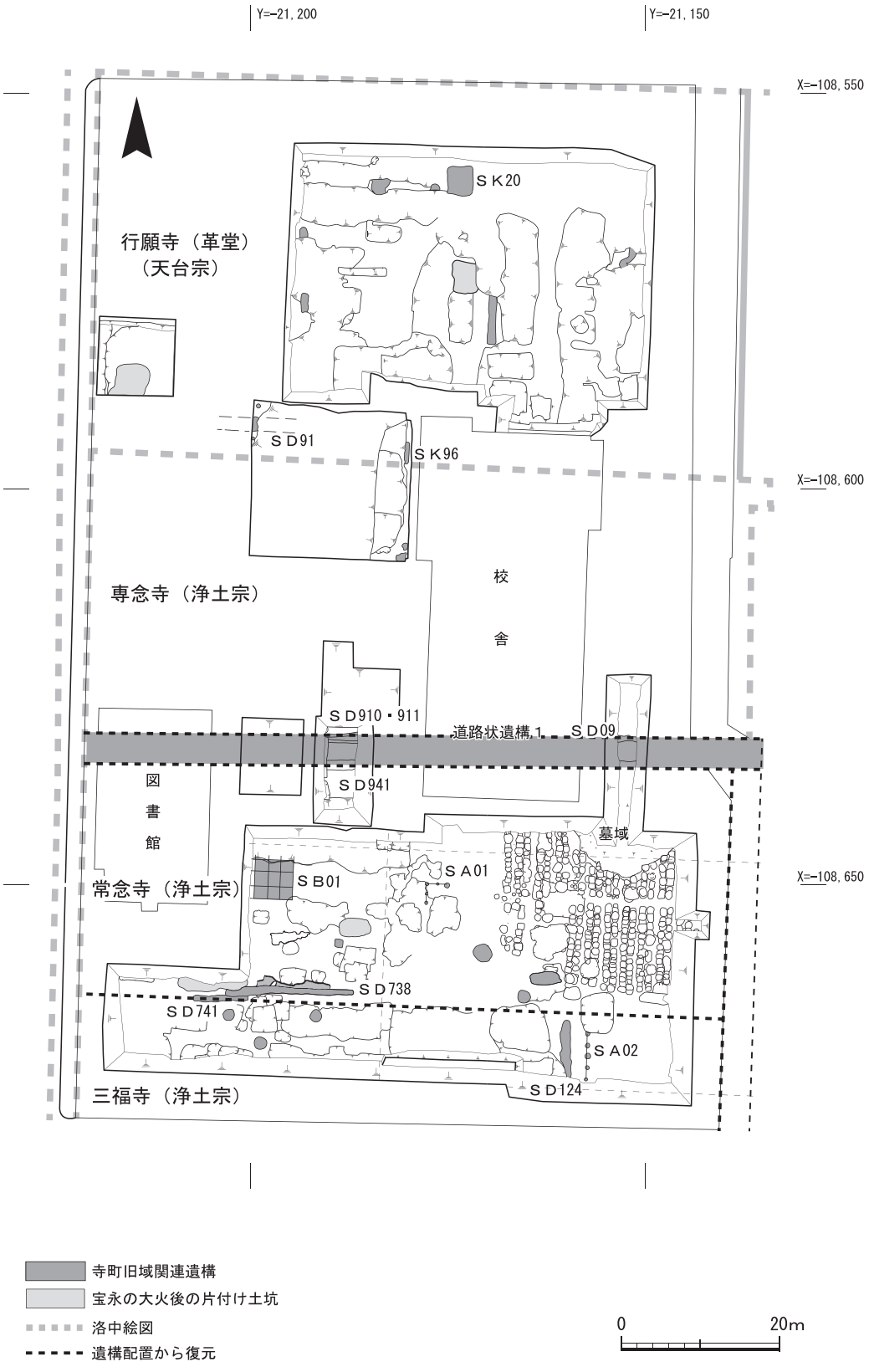
常念寺跡は検出遺構から敷地の東側に墓地、中央部から西に建物のある構造をしていたと考えられる。詳細は次項で検討したい。

三福寺跡は明確な土地区画は認められないが、おおむね墓群の南側では、井戸や土坑が中心で柱穴などが少なく、墓穴がないなど常念寺中心部と異なる遺構分布を示すことから、この地域に三福寺が想定できる。

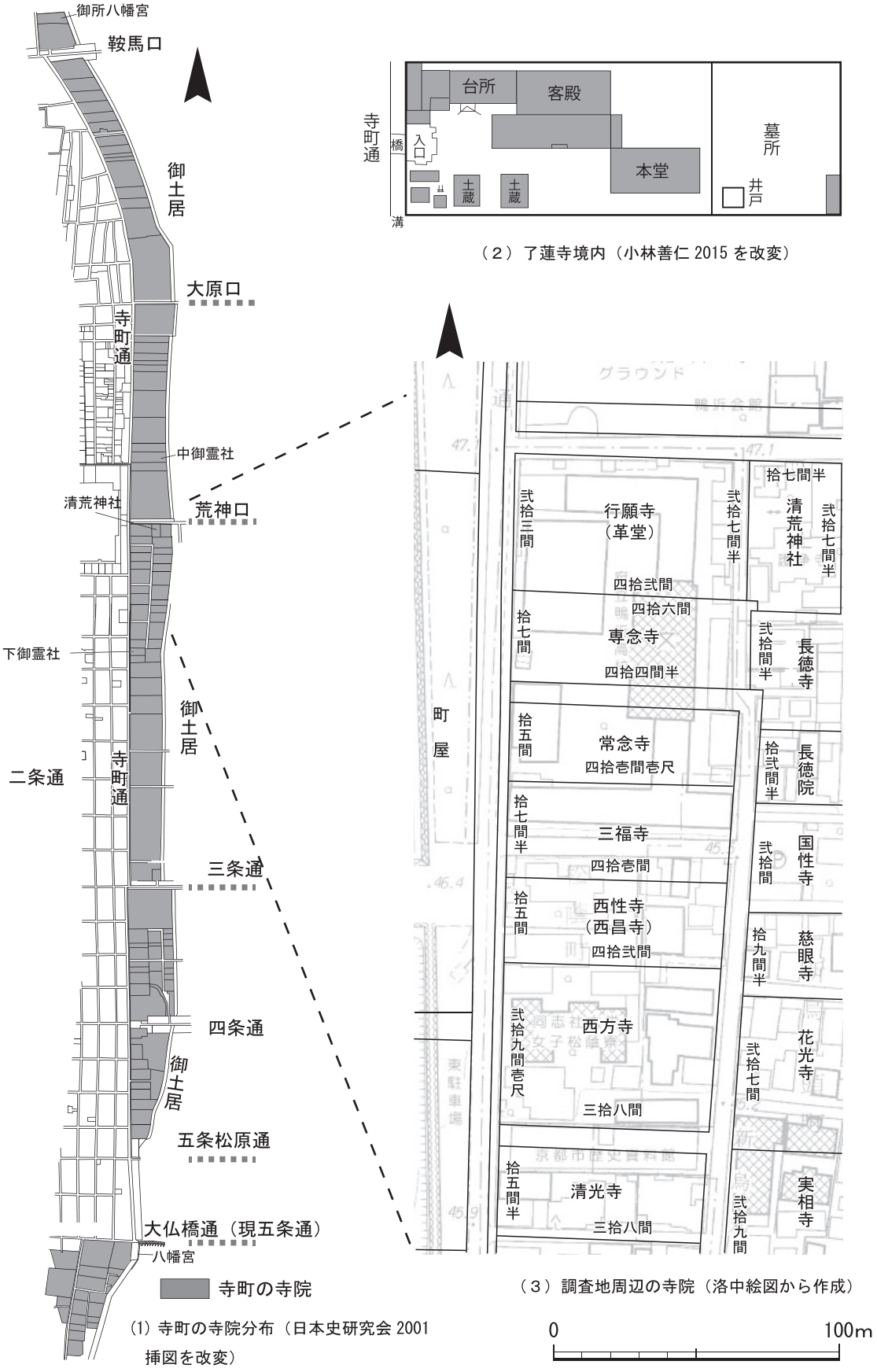
（２）常念寺の構造と築造計画

検出遺構平面図に江戸時代の尺度である１間に合わせ、1.8m単位で方眼を切り重ね合わせた。道路状遺構１は主軸が真東西方向であるが、方眼を真東西に合わせると常念寺推定域の遺構の主軸と異なっていることが分かる。

方向が異なることを明確に示す２対の墓穴からなる墓群の中軸に方向に合わせて方眼を掛けた。その結果、多くの遺構が墓群の主軸と同じ東で南に約2.5°振る軸線やそれと90°で交わる北



第155図　寺町旧域復元図



（1）寺町の寺院分布（日本史研究会 2001 挿図を改変）

（２）了蓮寺境内（小林善仁 2015 を改変）

（３）調査地周辺の寺院（洛中絵図から作成）

第156図　寺町全体図及び調査地周辺拡大図

で東に2.5°振る軸線上に沿って分布することが分かる。この真北に対して傾きを持つ軸線は新河原町通の傾きと同じである。正式な門があったと考えられるほぼ真南北を向く寺町通ではなく、寺院の裏側にあたる新河原町通が基準線になっていたことがわかる。

この軸線に沿って各遺構をみていくと、宝永の大火以前の遺構である東西方向に長いＳＤ738やその北側の礫敷ＳＸ739やＳＤ741もまた同じ主軸を持っており、寺院敷地西部の建物域においても同じ計画軸が用いられていた可能性が高い。

前項で取り上げた「洛中絵図」に記載されている常念寺の寺町通側の間口を15間で復原すると、道路状遺構１と墓群の南端が15間を超え、矛盾する結果となる。しかしながら、三福寺との境界も新河原町通と同じ振角と同じであれば、寺町に面した間口が15間、新川原町通側が17間程度となり、墓域をすべて包含することになる。

こうした復原案を元にすると、ＳＤ738またはＳＤ741の付近に寺院境界があり、その境界の北側に通路とも考えられる礫敷ＳＸ739が存在する。

寺院の建物については墓域より西側の建物域に想定されるが、ＳＢ01や建物の可能性もあるＳＡ01をはじめ柱穴が北側に多くあることから、建物域においても北側に多く建築物があったものと考えられる。

第156図に示した絵図は、明治34(1901)年まで寺町にあった同じ浄土宗の了蓮寺の文久４(1861)年時点の敷地絵図である。同絵図は明治元年に作られ、文久４年の火事以前の建物配置が反映されたものである。江戸時代末期と時期は離れるが、その構造を見ると墓地の位置など共通する点が多い。まず、墓域にはその入り口付近に井戸があり、井戸に通ずる場所には通路状の空閑地が建物との間に残されている。建物は西側にまとまり、その中でも主要建物が北側に寄っている。こうした共通点の多さは、墓地経営を伴う小規模寺院の構造が江戸時代を通じて大きく変化しなかったことを示していると考えられる。（中川和哉･岡崎研一）

２)墓地について

今回検出した墓地は常念寺に付属するものである。墓穴から出土した遺物の多くは、17世紀中頃以降の様相を示し、この地に寺院が建立されたと考えられる16世紀末頃の墓穴を特定することはできなかった。また、墓穴すべてに遺物を伴うわけではなく、墓地の形成された時期を明らかにすることは困難である。しかし、墓穴に先行するような遺構は確認できず、寺院建立時にはすでに境内の裏手を墓地として利用することを想定していたと考えられる。

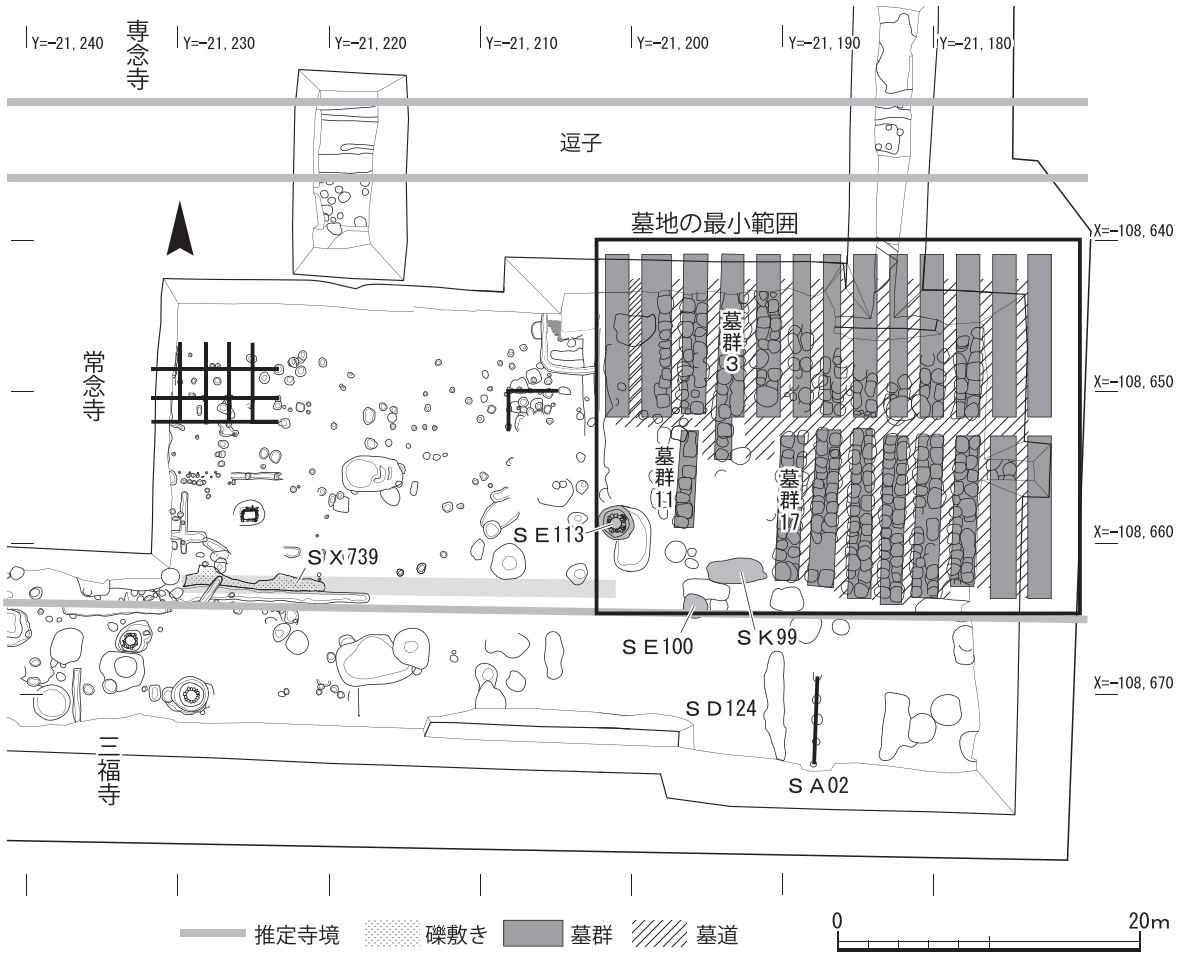
(１)墓地の規模

今回墓地を区画する施設は確認できなかった。前項で述べたように、墓地は新河原町通を基準線にして計画されたとみられることから、墓地の東限は鴨沂高校の東塀付近と考えられる。今回最も東側で検出した墓群18と塀の間は約4.0mあり、墓群18の東側にもう１組の墓群を想定することができる。北端は逗子付近まで広がる可能性があるが、墓地北側の墓群に南側と同数の墓穴が南北に並ぶと想定した場合、Ｘ＝－108,640付近に求めることができる。墓地の西側は、上層の

削平が大きく残存状況が悪く遺構が明確ではないが、墓群１の西側でも骨片が出土しているほか、ＳＴ67を南地区中央付近で検出しており、この付近まで墓地が広がることがわかる。ＳＴ67の南側には墓石を転用したＳＥ113があり、ＳＥ113までを墓地に含むのが妥当であろう。墓地の南側は、墓石を転用したＳＥ100を南限として想定できる。南側で検出したＳＤ124やＳＡ02の性格は不明であるが、墓群と同じ主軸方位を向いており、墓地に属する施設とは考え難い。

以上のように墓地を復原（第157図）すると、墓地の細小範囲は東西約31m、南北約27mに想定され、22の墓群が存在していたと考えられる。なお、墓群２西端で検出したＳＴ67と68については、東西に隣接する墓穴が確認できないことや、ＳＴ68と北側のＳＴ19の間に約1.0mの距離が開くことから墓群２の南側に位置する墓群11として再構成した。

今回の調査で、337基の墓穴を検出した。上層は削平を受けていたが、墓群12北側では上層遺構とみられるＳＴ62を検出した。ＳＴ62で出土した甕の底部の標高は、北側に位置するＳＴ54に納められた甕の口縁部付近に位置する。このことから墓地は一度盛土をして整理したと考えられる。墓群13では35基の墓群を確認したが、盛土による整理後の墓穴が攪乱により削平されていた可能性が高く、墓地に掘られた墓穴の数は大きく増えると考えられる。



第157図　墓域復元図

（２）墓地の景観について

第157図で示した墓地の最小範囲内には北側に13、南側に９の墓群が想定される。墓群は北側と東側に固まり、墓群17以西の墓地南西部の南北約10m、東西約11.5mの範囲は比較的遺構が希薄になる。この範囲には井戸ＳＥ113・100や墓石埋納土坑ＳＫ99があり、墓穴が並ぶ北側や東側とは異なる土地利用の様子がうかがえる。墓地に属する井戸については、水鉢が付属する台座が出土していることから17世紀には墓前に水や花を供える習慣が一般化しているとみられ、墓参りの人のための施設と考えられる。墓地内では、南西部でのみ井戸を検出しており、墓地内の動線を考えると墓群が密集する北側よりも、南側に入口を設けた可能性が高く、墓地南西部を入口として想定することができる。また、南地区西側で検出した礫敷ＳＸ739を東側へ延長すると、ちょうど墓地南西角付近に及び、墓地へ通じる通路と考えられる。墓地内では、各墓前へ向かうためには墓群と墓群の間の墓道を通ることになる。墓道は墓地中央を通る東西方向の墓道を起点として北と南へ枝分かれする。墓道幅は東西方向で約1.0m、南北方向で約0.5mを測るが、後述のように南北方向の墓道はもう少し幅が広くなると考えられる。

墓群の配置をみていくと、墓群は基本的に東西墓道を軸として北と南に対称に展開する。同時に墓群も東西墓道をそれぞれの北限・南限とするわけであるが、墓群３のみが東西墓道を塞ぐように南側へ延びる。墓道上に掘られる墓穴は３基で、墓群３西側の墓穴列に沿う。これによって墓道は東西へ分断される形となり、墓地を東西に区画しているとも考えられるが、埋葬方法や出土遺物からは東西で大きな違いを見出すことはできない。それぞれの墓群の造成時期が明確でないため明言はできないが、墓地東側に墓群が集まることや、墓地が寺院裏手から基準線を引いて計画した可能性を考えると、墓群３の西側をある時期の墓地の西限として想定することができる。また、井戸ＳＥ113やＳＥ100が設置された時期は17世紀後半以降と考えられるため、このことからも17世紀前半段階では墓域が一回り小さく、その後西へ拡張した可能性が考えられる。

墓地南西部入口付近には、墓群11のみが他の墓群から外れて位置している。墓群11は他の墓群が２列１組で構成されるのに対し、１列のみである。出土した遺物からは被葬者の階層を読み取ることはできないが、墓地入口付近に位置し他の墓群と隣接しないことから、墓群11は特別な区画であったことがうかがえる。入口付近の敷地は墓群11によって２分されるが、墓群11より西側については、今後の墓群造成予定地である可能性が考えられる。

（３）埋葬の方法

今回検出した埋葬施設としては、木棺、甕棺、蔵骨器を確認した。木棺は遺存状態が極めて悪く、その形状は分からないものが多い。木質や鉄釘が遺存し、木棺が使用されたと考えられるものは50基を数える。鉄釘が出土しているものはいずれも方形の木棺とみられ、鉄釘の状況から木棺の大きさは一辺45cm程度のものと、一辺50cm程度のものが確認できる。木棺の痕跡が確認できなかった墓穴についても、出土した人骨と掘形壁面との間に隙間がみられるものがあることや、墓穴掘形の平面が方形を呈するものが多く規模が一定であることなどから、木棺が使用された可能性が高いと想定される。ＳＴ42・70は掘形底部に粘土を貼り、その上に木棺を納めていた。副

葬品に身分を示すものはなく、またその種類もほかの墓穴と差異が認められないため、粘土を敷くことが被葬者の階層差によるものかは不明であるが、ＳＴ42は墓群のやや中央付近、ＳＴ70は１列で構成される墓群に位置するように、立地に若干の特徴を見出すことができる。

甕棺は７基を確認した。その多くは、人骨の遺存状態は悪く、わずかに遺存するのみであったが、甕棺という大型の容器を用いるため土葬と考えられる。甕棺に納められる副葬品は、銭貨のみが出土するものが多く、陶磁器の椀皿類は認められない。

火葬骨を納めた蔵骨器は、４点出土した。信楽焼甕、瀬戸美濃系陶器壺、肥前系磁器染付壺がある。容器はＳＴ62・350の大型のものと、ＳＴ50・179のような小型のものに分けられる。大型の蔵骨器には成人、小型のものには小児が納められており、被葬者の年齢によって器種が使い分けられたと考えられる。また、成人はほぼ全身の骨が納められるのに対し、小児は頭蓋骨のみが納められており、小児の場合は収骨の際に部位の選別されたことが伺える。大型の容器のうちＳＴ63では信楽焼の甕を用いる。底部のみが残存していたが、器高を復原すると0.6m程度になり、甕棺として使用された甕と同器種とみられる。そのほか、蔵骨器として使用されたと考えられる土師質の壺がある。

（４）副葬品

副葬品には、土師器・陶磁器・人形・ガラス製品・ミニチュア製品・喫煙具・数珠・漆器・銭貨などがある。陶磁器は椀類が多く、日常的な器が多い。木棺の遺存状態が悪く、納めたときの様子は不明なものが多いが、ＳＴ195からは縦方向に遺物が重なって出土しており副葬品を何らかの容器に納めていたことが推測される。人骨の間際や、木棺の底板上から出土する例が多くあり、副葬品の多くは棺内に納められていたと考えられる。一方、ＳＴ70では棺外とみられる掘形底部から漆器が出土しており、これは納棺前の葬送儀礼に伴うものとみられる。

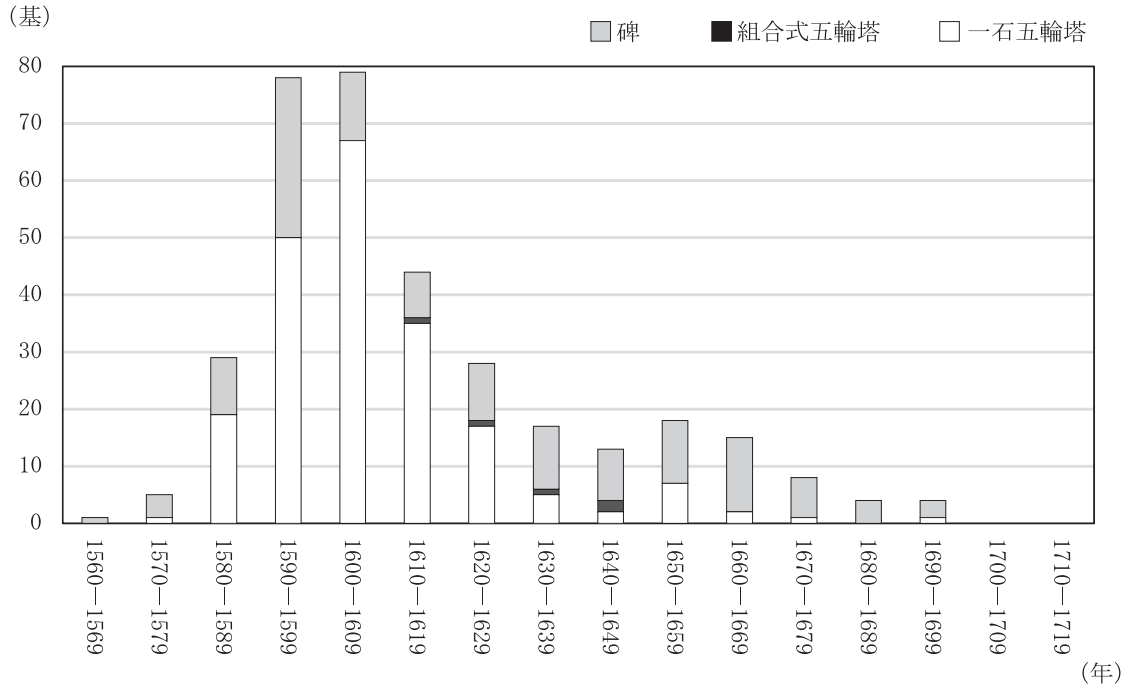
（５）墓石

今回の発掘調査で出土した墓石の総数は758基である。石仏や、墓標とセット関係が不明な台座・笠部を除くと665基である。また、破片同士が接合したものを１点とし、一石五輪塔の地輪以外の部位の破片を除いた墓石の絶対数は455基である。なお組合式五輪塔はもっとも多く出土した部位の数を絶対数とした。

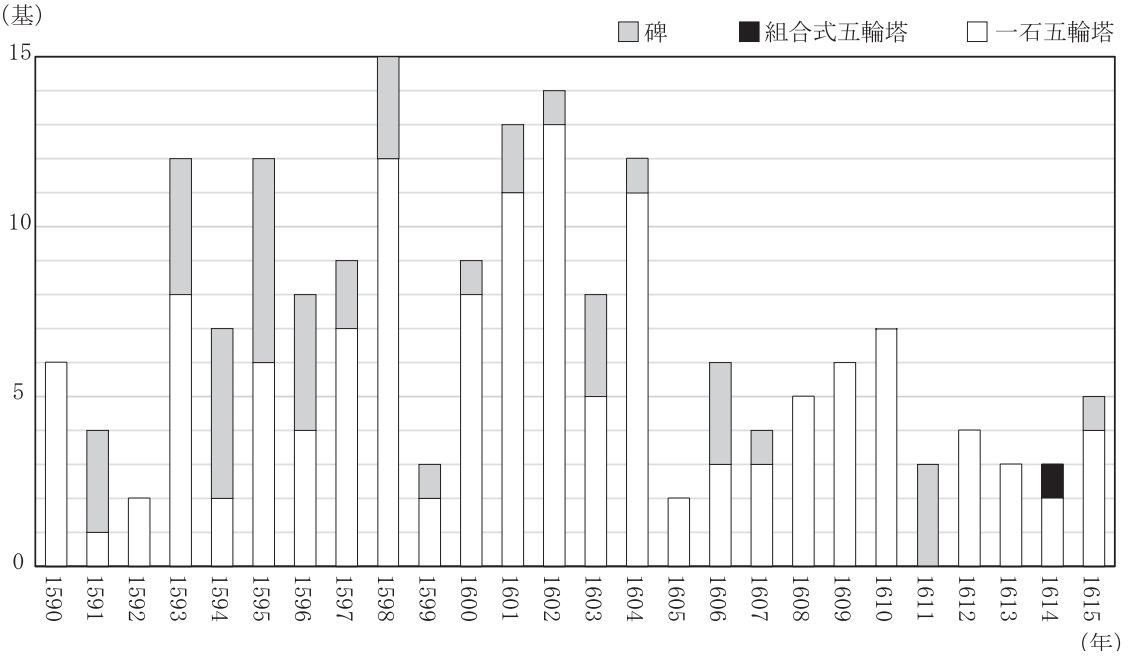
墓石の構成　この455基のうち、紀年銘のあるものは404基を数える。紀年が判別できたもので10年ごとの数量変化を示したものが第159図である。複数の紀年を持つものは、新しい紀年を造立年として用いた。年代がわかるもので最も古いものは永禄９（1566）年、新しいものは元禄６（1693）年である。常念寺が当地へ移転してきた直後と考えられる1590年～1609年までの20年間が最多となり、70基を超える。このことから寺院の移転直後には、寺院内に墓地が付属していたことがわかる。その後造立数は急激に減り、10年後の1620年には30基を下回る。その後はわずかなばらつきがあるものの、時代が下るにつれて徐々に減少していく。造立数の最も多かった1590～1609年の各年の数量変化を表したものが第160図である。1593～1604年までのものがピークで毎年10基程度造立される。この間には文禄５（1596）年に慶長伏見地震、慶長５（1600）年には伏見の

戦いなどが起こっているが、それらに起因するような大きな数の変化はみられなかった。

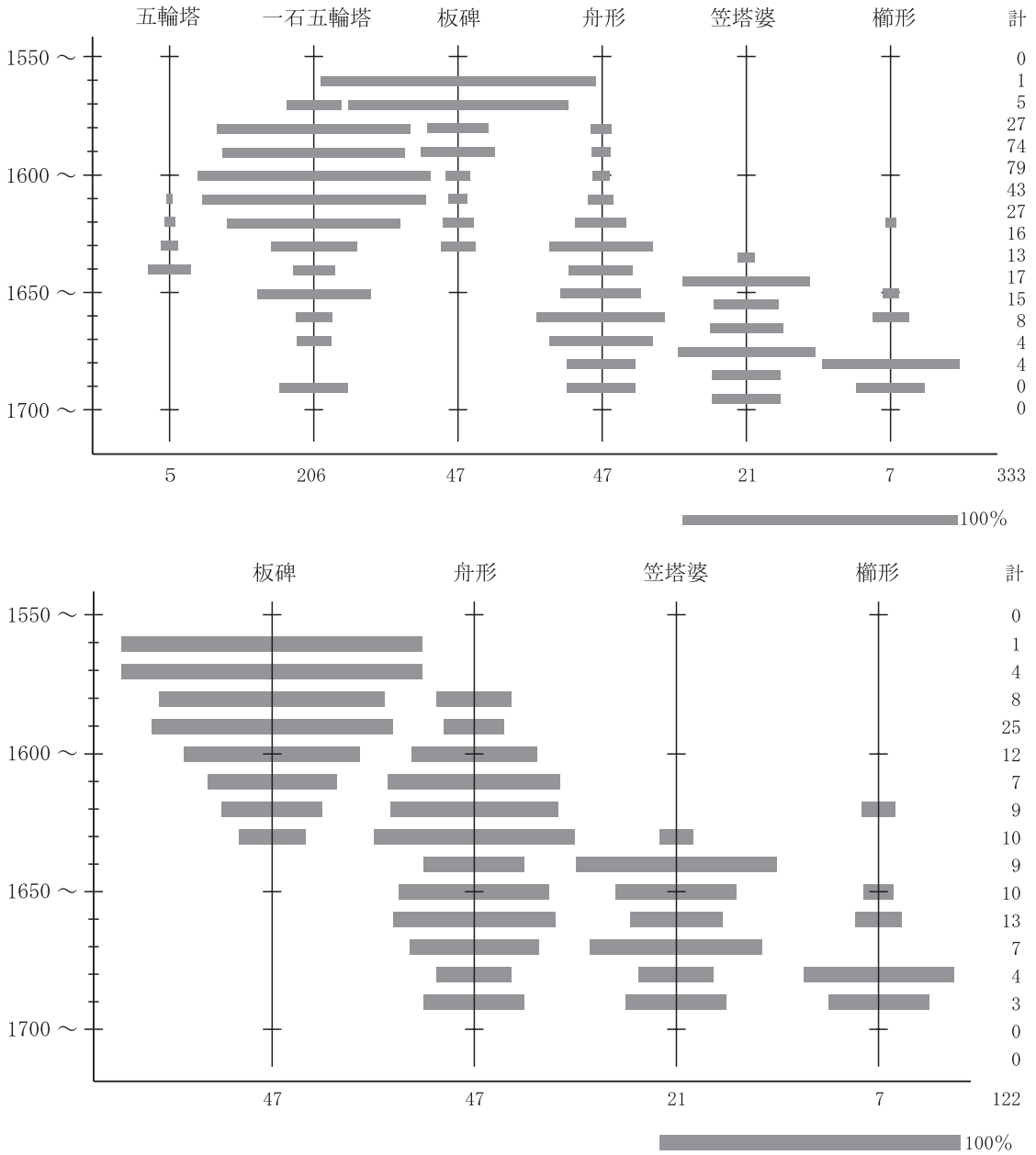
関口慶久氏によると(注4)、京都市本圀寺や奈良市元興寺の墓石数は、慶長年間から宝永年間にかけて増加しており、今回のように時期が下るにつれて減少する数量変化が京都や全国における墓石造立数の傾向と一致しているとは言い難い。異なる理由としては、1620年以降の墓石の多くは、宝永８年の移転時に新しい墓地へと運ばれたため出土しなかったと考えるのが自然である。



第158図　紀年銘墓標の推移



第159図　紀年銘墓標の推移(1590～1609年)



第160図　墓標形式の変遷

寺町が形成されたとされる天正19年以前の紀年が刻まれた墓石は45基出土している。常念寺が当地へ移転してきた時期は不明であるが、これらの墓石は寺町への移転の際に、以前の墓地から運ばれたと考えられる。したがって、常念寺はもっとも古い永禄９(1566)年ごろには、寺院に墓地が付属していたか、墓地を管理していた可能性が高い。

墓石の変遷　次に墓石の形式とその変遷について述べる。今回確認した石塔・墓標は、組合式五輪塔・五輪塔・板碑・舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆の６種類である。それぞれの変遷をセリエーショングラフ化したものが第160図になる。紀年をもつ組合式五輪塔は５基であり、造立は17世紀前半に限られる。一石五輪塔は16世紀後半から確認でき、17世紀末まで存続する。造立数の最盛期は17世紀初頭である。板碑は最も古く1560年代から確認できるが、1570年代からは徐々に

減少していき、17世紀半ばには消滅する。17世紀からは板碑に替わり、舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆が隆盛する。それぞれの出現期は舟形墓標が最も古く16世紀後半から、次いで櫛形墓標・笠塔婆は17世紀前半から確認できる。出土数が少ないものの、17世紀半ば以降はほぼ同比率で出土している。

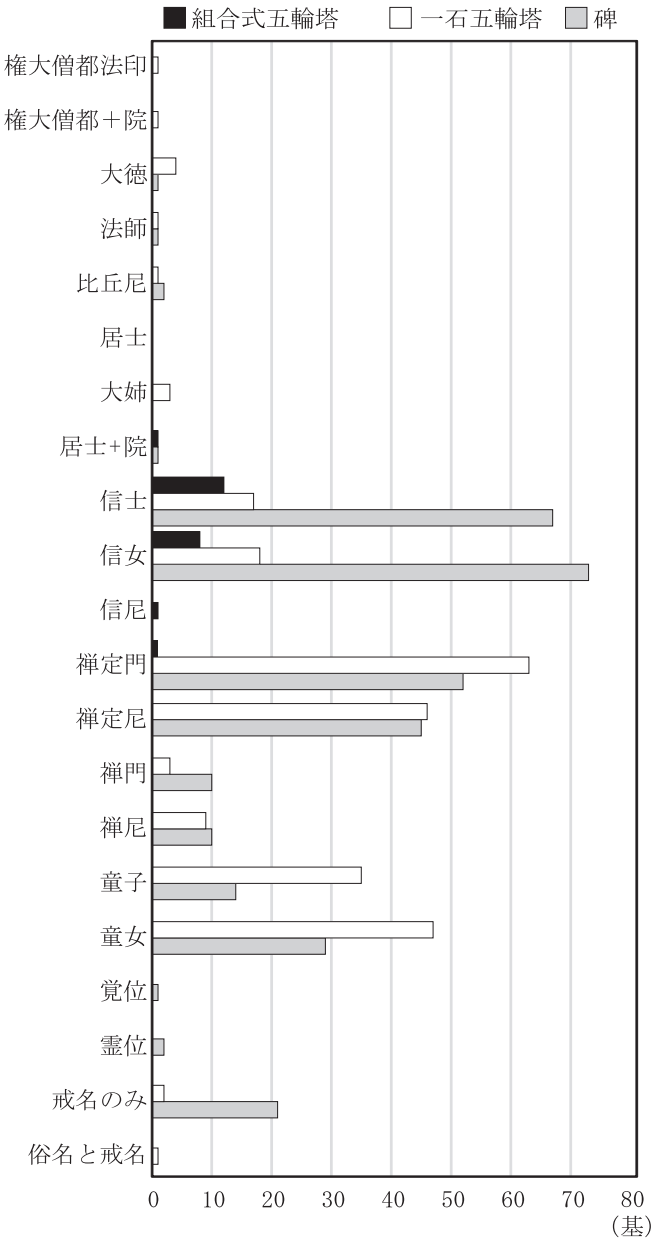
戒名　出土した墓石に刻まれた戒名は604人分を確認した。それらのうち、位号を中心として若干の考察を試みる。今回出土した墓石は、先述したように、その多くが浄土宗の常念寺に属するものと考えられる。確認できた位号は大きく以下の６通りに分類される。

・僧侶の位号（権大僧都・大徳・法師・比丘尼）

・居士・大姉

（基）

	一石五輪塔	組合式五輪塔	碑
権大僧都法印	1	0	0
権大僧都＋院	1	0	0
大徳	4	0	1
法師	1	0	1
比丘尼	1	0	2
居士	0	0	0
大姉	3	0	0
院＋居士	0	1	1
信士	17	12	61
信女	18	8	62
信尼	0	1	0
信士＋霊位	0	0	4
信士＋霊	0	0	1
信女＋霊位	0	0	8
信女＋霊	0	0	1
信女＋菩提	0	0	1
禅定門	62	1	52
禅定尼	45	0	45
禅定門＋霊位	1	0	0
禅定尼＋位	1	0	0
禅門	3	0	10
禅尼	9	0	10
童子	35	0	13
童女	46	0	28
童子＋霊位	0	0	1
童女＋霊位	0	0	1
童女＋霊	1	0	0
覚位	0	0	1
霊位	0	0	2
戒名のみ	2	0	21
俗名と戒名	0	0	1



第161図　戒名別使用数量

・信士・信女(信尼)

・禅定門・禅定尼

・禅門・禅尼

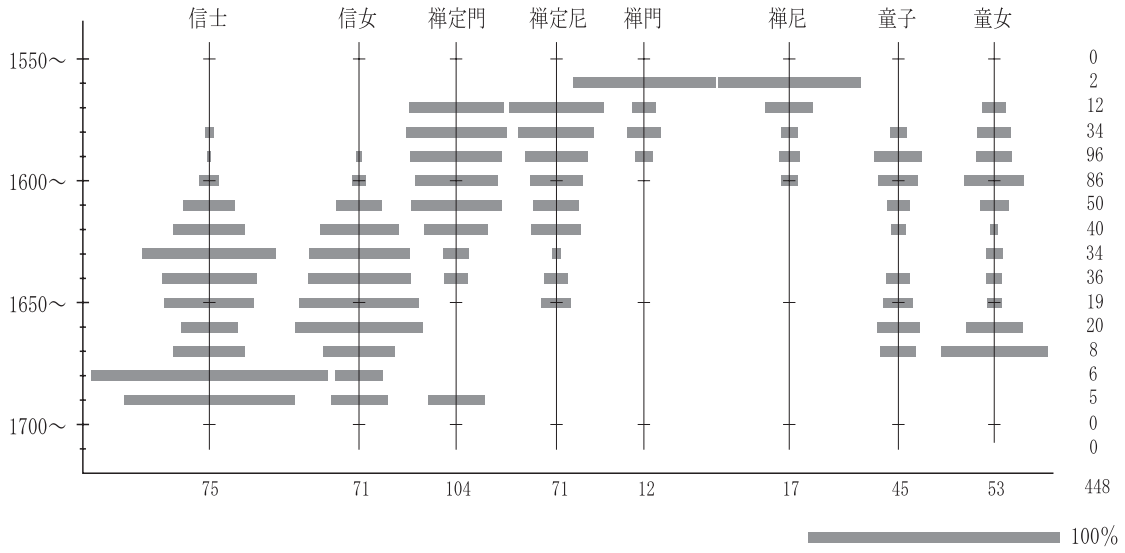
・童子・童女

その他、覚位・霊位のような下置字のみのもの、戒名のみ、俗名と戒名の両方を刻むものがみられた。

それぞれの位号の出土数量と墓石の種別ごとに用いられた位号を数値化したものが第161図である。出土量は禅定門・禅定尼の207点(34%)、信士・信女が194点(32%)とほぼ同数で出土量が多く、全体の７割近くを占める。次いで童子・童女が125点(21%)、禅門・禅尼が32点(５%)、僧侶が12点(２%)、居士・大姉が５点(１%未満)である。院号の付くものは僧都と居士があり、その点数は３点と非常に少ない。位号の後に霊位や霊など下置字が続くものは信士・信女に多くみられる。

次に童子・童女、その他を除いた全体の男女比をみてみると、男性が235名、女性が215名でほぼ同じ比率である。戒名ごとにみると、法師・大徳他９名：比丘尼３名、居士２名：大姉３名、信士95名：信女99名、禅定門116名：禅定尼91名、禅門13名：禅尼19名、童子49名：童女76名である。僧侶や子供でわずかに人数の違いがあるが、その他の戒名では男女比に大きな差はみられない。

位号の変遷　第162図は、最も多い被葬者層である禅定門・禅定尼、信士・信女、禅門・禅尼、童子・童女をセリエーショングラフにしたものである。禅門・禅尼が最も早く、永禄11(1568)年のものが出土している。16世紀前半は禅門・禅尼が主流であったことがうかがえる。その後、16世紀末には消滅する。続いて禅定門・禅定尼が16世紀後半ごろから出現し、17世紀初頭まで主流となる。17世紀に入ると減少し後半に一度消滅するが､17世紀末までは使用が確認される。信士･信女は16世紀末頃から出現し始め、17世紀半ば以降から寺院移転まで主流となる。



第162図　戒名の変遷

今回出土した墓石の紀年はおよそ150年間のもので各戒名の出現期と消滅期を正確に捉えることはできていないが、禅定門・禅定尼、信士・信女においては使用される戒名が短期間に替わるのではなく、半世紀ほど２つの戒名を併用しながら緩やかに入れ替わっていたことが確認できた。

台座　出土した台座は大きく７類に分類した（第145図）。台座のタイプごとの出土量を示したものが付表４である。それぞれの大きさは奥行の平均で、Ａ類：40.8cm、Ｂ類：50.1cm、Ｃ類：22.8cm、Ｄ類：42.5cm、Ｅ類：21.2cm、Ｆ類：21.5cm、Ｇ類：20.9cmを測る。検出した墓穴の掘形規模は70～80cmで、台座はそれよりも一回り小さくなる。出土量が多いものはＣ・Ｆ類で、奥行が短いものが多く使用されていたことがわかる。今回の調査では墓地の遺構面そのものは削平されていたため、正確な墓道幅は不明であるが、検出した隣接する墓群と墓群の間は約50cmと狭く、それを墓道幅と考えるのは難しい。墓道を圧迫しないために、小さな台座を使用していたと考えられる。墓群中央付近に背面を設置するように置くことで、掘形上も墓道として利用していた可能性が高い。

（６）墓石の片付けについて

遺構に伴う墓石の出土状況は大きく・土坑中にていねいに埋納されたもの、・転用されたもの、・廃棄されたものの３つに分けられる。

ていねいに埋納されたものはＳＫ99がある。ＳＫ99からは墓石が４段に組まれた状態で出土した。転用されたものはＳＥ113・100にみられ、いずれも石組の井戸枠に転用されていた。ＳＫ99とＳＥ113それぞれから出土した墓石に刻まれた紀年の10年ごとの数量変化を第163図に示した。

ＳＫ99から出土した年代がわかる墓石で、最も古いものは永禄９（1506）年、新しいものは寛永５（1628）年である。1600～1609年までのものが最も多く、次いで1590～1599年、1610～1619年と続く。

ＳＥ113から出土した年代がわかる墓石で、最も古いものは天正６（1578）年、新しいものは万治３（1660）年である。1590～1599年までと1600～1609年までがそれぞれ10基を超えるが、それ以外は10基を下回り、１基や２基のみの時期もある。ＳＫ99が出土量の多い1600～1609年以降は急激に出土数が減るのに対し、大きな数量変化がなく幅広い年代のものが出土している。

ＳＫ99とＳＥ113のいずれも、無縁となった墓石の片付けに伴うと考えられるが、ＳＫ99から出土した墓石の傾向は墓地全体の出土傾向と類似しており、寺町形成後すぐに造立された墓石のおよそ半数程度を納めたことがわかる。17

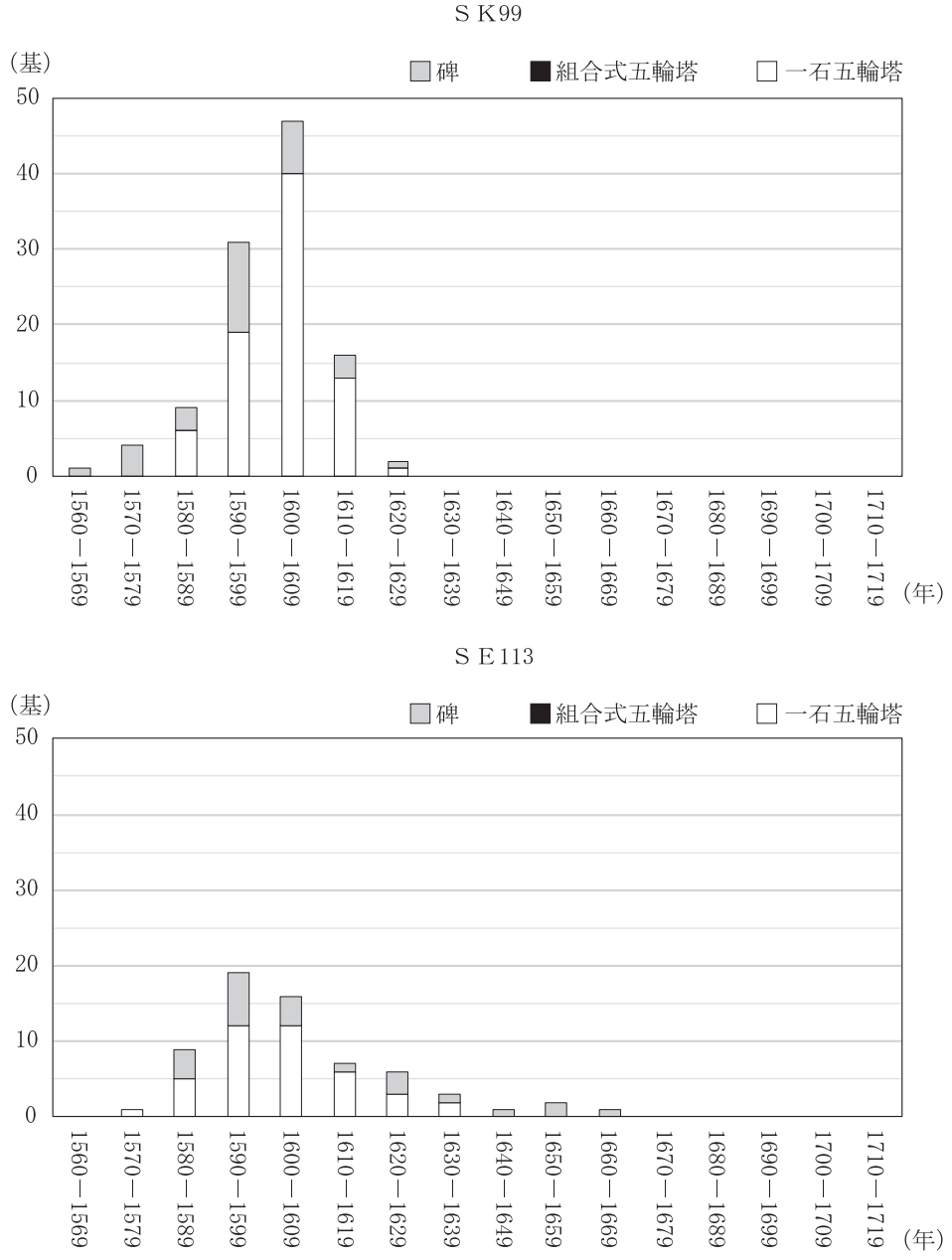
付表４　台座の形式構成

種別	型式		個体数	小計
台座	A	a	4	4
		b	0	
		c	0	
	B	a	1	3
		b	2	
		c	0	
	C	a	8	14
		b	3	
		c	3	
	D	a	3	7
		b	4	
		c	0	
	E	a	0	1
		b	1	
		c	0	
	F	a	7	18
		b	11	
		c	0	
	G		1	1
水鉢	Ⅰ		0	0
	Ⅱ		0	0

世紀半ば以降のある時期に古くなった墓石の半数程度を計画的に抽出して片づけたことがうかがえる。1560～1579年までの墓石のほとんどはＳＫ99から出土しており、移転に伴って移動した墓石もこのときにまとめて片付けたと思われる。

墓石が廃棄された土坑は、ａ．墓群の墓穴列上に掘られ、掘形は墓穴と同規模のもの、b．墓群を無視し、墓穴を大きく削平して掘られるものがある。ａにはＳＫ30・ＳＴ50・144・190・42・58などが相当し、２～９基の墓石が廃棄される。掘形底部から人骨や銭貨が出土し墓穴を利用して廃棄された可能性が考えられる。ｂにはＳＫ42・157・61が相当する。

廃棄に伴う土坑は複数確認できるが､紀年が刻まれる墓石が少なく傾向をとらえるのは難しい。



第163図　ＳＫ99・ＳＥ113における紀年銘墓標の推移

ＳＫ99・ＳＥ113を含む主要な土坑から出土した墓石のうち最も新しい紀年をまとめたものが付表５である。ｂを除くと1630年頃と1660年頃に２つのまとまりを捉えることが出来る。出土した墓標の紀年が遺構の実年代に揃うとはいえないが、寺院における墓石整理の間隔とみることができるのではないだろうか。また、この30年間の間に墓石の片付けの方法が埋納から廃棄へと大きく変化すると考えられる。ＳＥ113は1660年頃のまとまりに含まれることから、墓石の転用は廃棄と同じ意識で行われていた可能性が高い。時代が下るにつれて増加する一方の墓石に対応して、その処理の片付け方を変化させたと考えられる。

付表５　主要遺構出土墓石の年代

遺構名	紀年	西暦	タイプ
ST190	元和９年	1623	a
SK99	寛永５年	1628	
SK30	明暦４年	1658	a
ST42	万治元年	1658	a
ST58	万治	1658 ～ 1660	a
SE113	万治３年	1660	
ST144	寛文 12 年	1672	a
SK50	延宝７年	1679	a
SK61	元禄３年	1690	b
SK157	元禄	1688 ～ 1703	b
SK40	元禄５年	1692	b

（綾部侑真）

３）出土緑釉瓦と法成寺

法成寺は、藤原道長が、自邸の土御門殿の東側に創建した寺院で、二町四方の広大な寺域であったとされる。北は土御門大路の東側延長部にあたる現在の広小路通、南は近衛大路の東側延長部にあたる現在の荒神口通、西は東京極大路、東は鴨川に面していたと想定されている。当調査研究センターの調査地である京都府立鴨沂高校南校地は、荒神口通より南側であり、推定寺域の外側にあたる。京都府教育委員会の立会調査地である京都府立鴨沂高校北校地は、推定寺域内となる。

法成寺の造営は、受領階級の私的な寄進によって進められたといわれる。藤原道長を頂点とする藤原摂関家との結び付きを深め、成功や加階、重任などの見返りを期待したものである。その一端を示す資料が、丹波で生産された法成寺関係の瓦である。

緑釉半裁花文軒平瓦（第154図1161・1162）は、瓦当裏に横方向の縄タタキがみられ、丹波産の瓦特有のものであることを示す。亀岡市篠窯業生産遺跡王子瓦窯出土瓦に同文・同技法のものがあり、同窯で生産された瓦とみられる。同種の瓦は、京都府立鴨沂高校校地内や京都御苑内の京都和風迎賓館建設地などの法成寺推定寺域近辺からも出土しており、法成寺関係の瓦と考えられているものである。半裁花文軒平瓦（第26図89）も同種の瓦と考えられる。このほか、緑釉丸瓦（第154図1164）や緑釉を施した瓦片なども出土しており、法成寺所用瓦と考えられる。

唐草文軒平瓦（第26図90・91、第65図585・586）は、背向する「Ｃ」字形文を中心とする均整唐草文軒平瓦で、瓦当裏に横方向の縄タタキがみられ、亀岡市篠窯業生産遺跡群王子瓦窯で生産された瓦とみられる。この瓦も法成寺関係の瓦と考えられているものである。この軒平瓦に対になるとみられるものが、複弁蓮華文軒丸瓦（第154図1160）である。瓦当面中央の中房は、蓮子の周囲に圏線が巡る大きめのもので、その周囲を団子状の蓮弁が巡る。さらにその周囲を珠文が巡る。法成寺の瓦を焼成したとされる亀岡市篠窯業生産遺跡王子瓦窯出土瓦に同文のものがある。

このような丹波産の瓦は、丹波国司等が藤原摂関家との結び付きを求めて法成寺造成に関わったことを物語るものと言えよう。

出土瓦には、12世紀初頭の藤原忠実による宇治平等院の改修時に使用されたと考えられる河内向山窯系の瓦が含まれている。複弁蓮華文軒丸瓦（第65図579）がそれにあたり、中房が二巴文である。その頃に法成寺でも修復作業等が行われたことを物語るものか。両寺とも、藤原摂関家と関わりの深い寺であり、使用瓦にも共通するものがあるとみられる。ちなみに、宇治市平等院旧境内遺跡でも、上記の丹波産と考えられる唐草文軒平瓦と複弁蓮華文軒丸瓦が出土している[注5]。

以上の法成寺関係遺物でやはり注目されるのは緑釉瓦であり、緑釉瓦の使用が法成寺の大きな特色と言えよう。平安京内で緑釉瓦が重用されたのは、宮内の大極殿や豊楽殿などの主要施設、京内の官寺である東寺・西寺、宇多天皇の仁和寺円堂などで、いずれも朝廷や天皇関連の施設である。藤原道長が天皇の外戚であり、法成寺が大寺であるとはいえ、その性格は、あくまで臣下の私寺である。そのような寺院に緑釉瓦を使用したということは、当時の藤原道長の権勢がいかに大きかったかを物語るものである。

法成寺関係の遺構については、まったく残存していなかった。豊臣秀吉の寺町設置に伴う整地層以下は、河川や河川敷に伴う砂礫の堆積であり、遺構面は認められなかった。当調査研究センター理事の同志社大学教授増田富士雄氏のご教示によると、砂礫の堆積は人工的な盛り土等ではなく、自然堆積ということである。当時の鴨川の河原は単純な平坦地ではなく、大小の張り出しがあったと考えられる。法成寺は今回の調査地より北側の、そのような低位段丘上に位置していたのではないかということであった。　（引原茂治）

注１　この砂礫の堆積状況については当センター増田理事にご教授を得た。

注２　福山敏男・大塚ひろみ「法成寺の古瓦」（『佛教芸術』68　毎日新聞社）　1968

注３　石田孝喜「近世初期の洛中絵図に就いての考察（五）」（『月刊古地図研究』通巻９）　1978

注４　関口慶久「戒名・法名考…奈良・京都の墓標資料から」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第111集　国立歴史民俗博物館）　2004

注５　「平等院旧境内遺跡発掘調査報告」（『京都府遺跡調査報告書』第165冊　公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）　2016

＜参考文献＞

小林善仁「明治初年における京都「寺町」の景観とその変化－『社寺録』『寺地画図』を資料として－」(『佛教大学総合研究所紀要』第22号) 2015

京都府立総合資料館所蔵『社寺録』下京之部 1890

大槻洋二「京都・新京極の成立母胎としての寺町―伝統都市の近代における歓楽街形成に関する史的研究その１」(『日本建築学会計画系論文集514』) 1998

佐藤亜聖「伊丹市内一石五輪塔の編年 - 有岡城跡・伊丹郷町遺跡第316・317次調査出土花崗岩製一石五輪塔の評価 - 」(『有岡城跡発掘調査報告書ⅩⅧ - 第316次調査Ⅰ区 - 』伊丹市教育委員会) 2014

日本石造物辞典編集委員会『日本石造物辞典』吉川弘文館 2012

福崎孝雄「差別戒名」問題について」(『現代密教』第４巻 智山伝法院) 1992

白石太一郎・村木二郎編『国立歴史民俗博物館研究報告』第111集 国立歴史民俗博物館 2004

土生田純之編『事典 墓の考古学』吉川弘文館 2013

西口圭介「近畿の中世墓」(『日本の中世墓』高志書院) 2009

狭川真一・松井一明編『中世石塔の考古学 五輪塔・宝筐印塔の形式・編年と分布』高志書院 2012

池上悟『石塔供養塔論攷』ニューサイエンス社 2007

畑中英二「近世信楽における陶器生産」(『湖国21世紀記念事業・陶芸の森解説10周年記念 研究集会「近世信楽焼をめぐって」報告書』滋賀県立陶芸の森) 2002

江浦洋「大阪城跡出土の犬型土製品考」(『大阪文化財研究』第18号 (財)大阪府文化財調査研究センター) 2000

小川望「出土遺物から見る江戸の「タバコ」(『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会編 吉川弘文館) 2000

安芸毬子「掘り出された人形」(『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会編 吉川弘文館) 2000

谷川章雄「江戸の墓の埋葬施設と副葬品」(『墓と埋葬と江戸時代』江戸遺跡研究会編 吉川弘文館) 2004

嶋谷和彦「出土六道銭からみた近世・堺の墓地と火葬場」(『墓と埋葬と江戸時代』江戸遺跡研究会編 吉川弘文館)2004

江戸遺跡研究会編『図説江戸考古学研究辞典』柏書房 2001

井阪康二「六文銭考」(『出土銭貨』４ 出土銭貨研究会) 1995

鈴木公雄「念仏銭・題目銭と六道銭」(『史学』63－３ 三田史学会) 1994

九州近世陶磁学会『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』 2000

『ギヤマン展―あこがれの輸入ガラスと日本』神戸新聞社 2014

瀬戸市『瀬戸市史 陶磁史編６』瀬戸市史料編纂委員会 1998

小森俊寛『京から出土する土器の編年的研究－日本律令的土器様式の成立と展開、７世紀～19世紀－』(有)京都編集工房 2005

小野晃嗣「京都の近世都市化」(『日本経済史学』) 1940

新谷尚紀・関沢まゆみ編『民俗小事典 死と葬送』吉川弘文館 2005

京都市『京都の歴史４ 桃山の開花』京都市史編さん所 1980

下中邦彦『京都市の地名』日本歴史地名大系第27集 平凡社 1979

中村武夫「豊臣政権の京都都市改造」(『豊臣秀吉と京都－聚楽第・お土居と伏見城』日本史研究会) 2001

小林善仁「明治初年における京都「寺町」の景観とその変改－『社寺録』『寺地画図』を資料として－」(『佛教大学総合研究所紀要』22 佛教大学) 2015

「仙台城本丸跡１次調査－石垣修復工事に伴う発掘調査報告書－ 第３分冊 出土遺物編」(『仙台市文化財

調査報告集第282集』仙台市教育委員会）　2005
「南護岸石垣発掘調査報告書」（『国指定史跡　出島和蘭商館跡　－南側護岸石垣発掘調査・修復復元工事報告書－』第１分冊　長崎市教育委員会）　2010
「史跡小田原城跡　御用米曲輪　発掘調査概要報告書」（『小田原市文化財調査報告書第179集』小田原市教育委員会）　2016
「伏見城跡」（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006－27』（財）京都市埋蔵文化財研究所）　2007
「平安京左京北辺四坊」（『京都市埋蔵文化財研究所調査報告書　第22冊』（財）京都市埋蔵文化財研究所）　2004
『堂島蔵屋敷跡―1998年度大阪第５地方合同庁舎建設に伴う福島１丁目所在遺跡発掘調査報告書－』（財）大阪市文化財協会　1999
『京の公家町と武家屋敷－同志社女子中・高校静和館地点・校友会新島会館別館地点の発掘調査―』同志社埋蔵文化財委員会調査報告Ⅰ　学校法人同志社　1994
『根来寺坊院跡―剣道泉佐野岩出線道路改良工事に伴う根来区発掘調査報告書―』（財）和歌山県文化財センター　1997
『寺町旧域―貞安前之町における埋蔵文化財発掘調査報告書―』（株）イビソク関西支店　2014

付編１　寺町旧域・法成寺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１．はじめに

本報告では、墓穴内から検出された甕内の堆積物の花粉分析を行うことで、散花などの葬送儀礼の有無が確認できるものと考えた。棺材を留めた鉄釘が出土し、付着した木質部分の樹種同定を実施することで、棺材を特定できるものと考えた。

２．花粉分析

１）試料

分析試料は、墓穴であるＳＴ31、ＳＴ49、ＳＴ51から検出された甕内の堆積物である。試料は、一部に小土塊が含まれる崩れた砕屑物の状態であった。

２）分析方法

試料10ｇについて、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、0.25mmの篩による篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９：濃硫酸１の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンゼリーで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdman（1952,1957）、Faegri & Iversen（1989）などの花粉形態に関する文献や、島倉（1973）、中村（1980）、藤木・小澤（2007）、三好ほか（2011）等の邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

３）結果

産出した花粉化石は、そのほとんどがマツ属である。その他、エノキ属―ムクノキ属、ツガ属、ヤマモモ属、クルミ属、コナラ属コナラ亜属、カエデ属、イネ科を含む。

４）考察

今回得られた花粉化石群集は、当時の周辺植生を反映しており、供物等に含まれるなど局地的な群集は反映していないと考えられる。従って、今回の結果からは、分析目的である散花などの葬送儀礼の確認について言及することができないと認識される。

３．樹種同定

１）試料

試料は、４トレンチの墓群より出土した棺材に伴う木質が付着する鉄釘13点である。試料の詳細（出土遺構、遺物番号など）は、同定結果とともに表１に併記したので参照されたい。

２）分析方法

実体顕微鏡で鉄釘付着の木質について木取り等を観察・記録する。各試料から木片を採取し、

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製する。走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やRichter他（2006）を参考にする。

表１　釘付着木質の観察・同定結果

出土遺構	遺物番号	位置	木取り	種類
ＳＴ67	No.1309	釘頭側	柾目？	針葉樹
		先端側	木口	マツ属
	No.1322	－	柾目	マツ属
ＳＴ197	No.1395	－	板目	スギ近似種
	No.1403	－	木口	スギ近似種
ＳＴ219	No.1463	－	柾目	ヒノキ科
	No.1487	－	木口	ヒノキ科
ＳＴ81	No.1843	－	板目	スギ近似種
	No.1867	－	柾目	スギ近似種
	No.1959	－	板目	スギ近似種
ＳＴ24	No.1961	－	板目	針葉樹
ＳＴ70	No.1348	－	板目	針葉樹
	No.1834	－	板目	針葉樹
ＳＴ69	No.1833	－	柾目	針葉樹

1) 木取りは、釘が打ち込まれた面を示す。

３）結果

樹種同定結果を表１に示す。No.1309には異なる２方向の部材が確認できた。これら木質は、全て針葉樹で、３分類群（マツ属・スギ近似種・ヒノキ科）に同定された。なお、No.1961、1348、1833の３点と、No.1309の釘頭側の木質は、実体顕微鏡観察で針葉樹であることは確認できたが、木質が少なく、鉄釘と完全に癒着しており、木片が採取できなかったため、種類は不明である。また、No.1834も針葉樹で、小片が採取できたが、保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

（１）マツ属（Pinus）　マツ科

軸方向の仮道管は、晩材部の幅が広い。放射組織のうち、柔組織の分野壁孔は窓状となる。柔組織の上下には放射仮道管が認められるが、保存状態が悪く、内壁の鋸歯の有無は不明である。放射組織は単列。

（２）スギ近似種（cf. Cryptomeria japonica（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は、観察した範囲では仮道管のみである。放射組織は柔組織のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、１分野に２～４個。放射組織は単列。

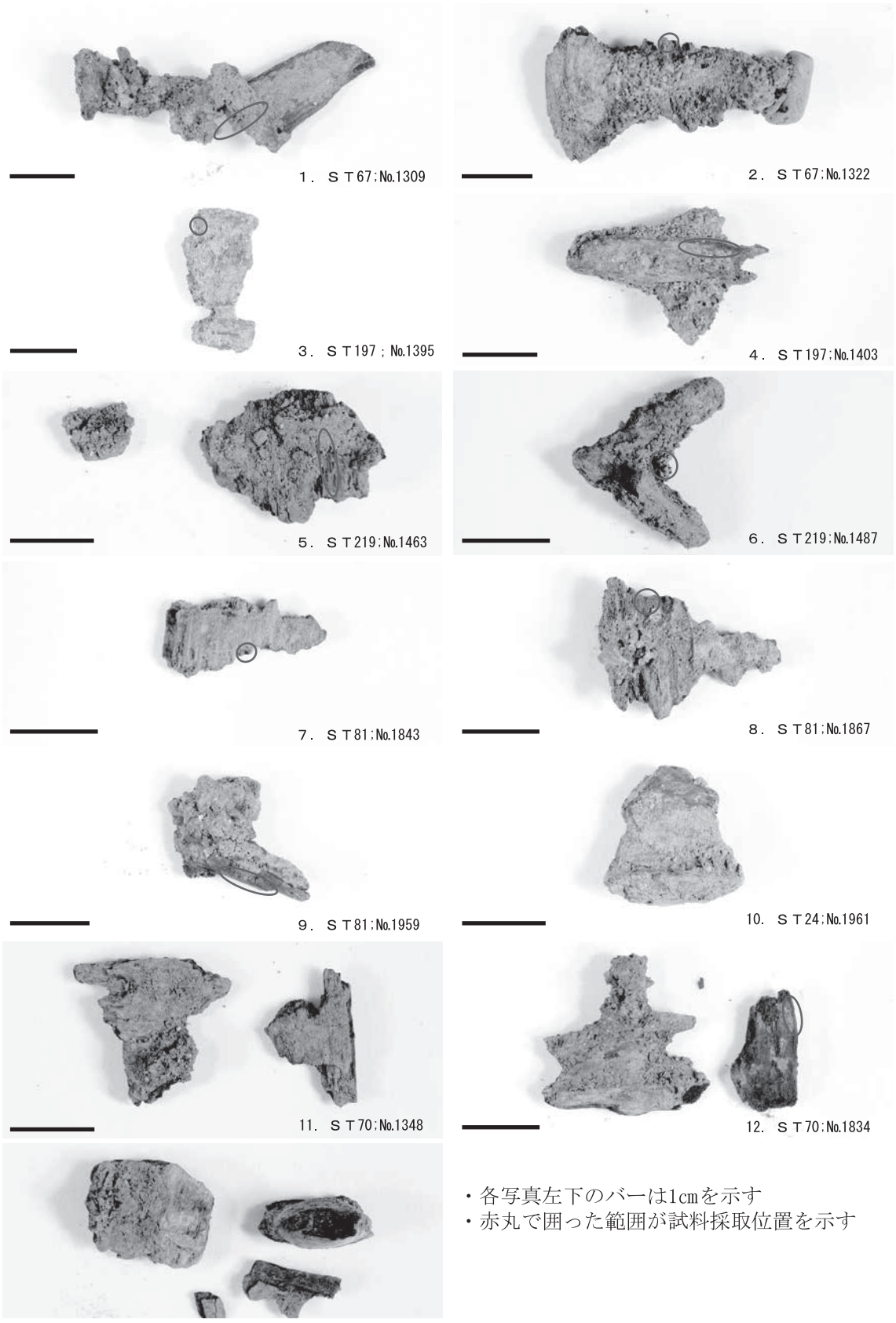
以上の特徴からスギが最も近い組織を有するが、樹脂細胞が確認できないなど、組織観察が不十分のため、近似種とした。

（３）ヒノキ科（Cupressaceae）

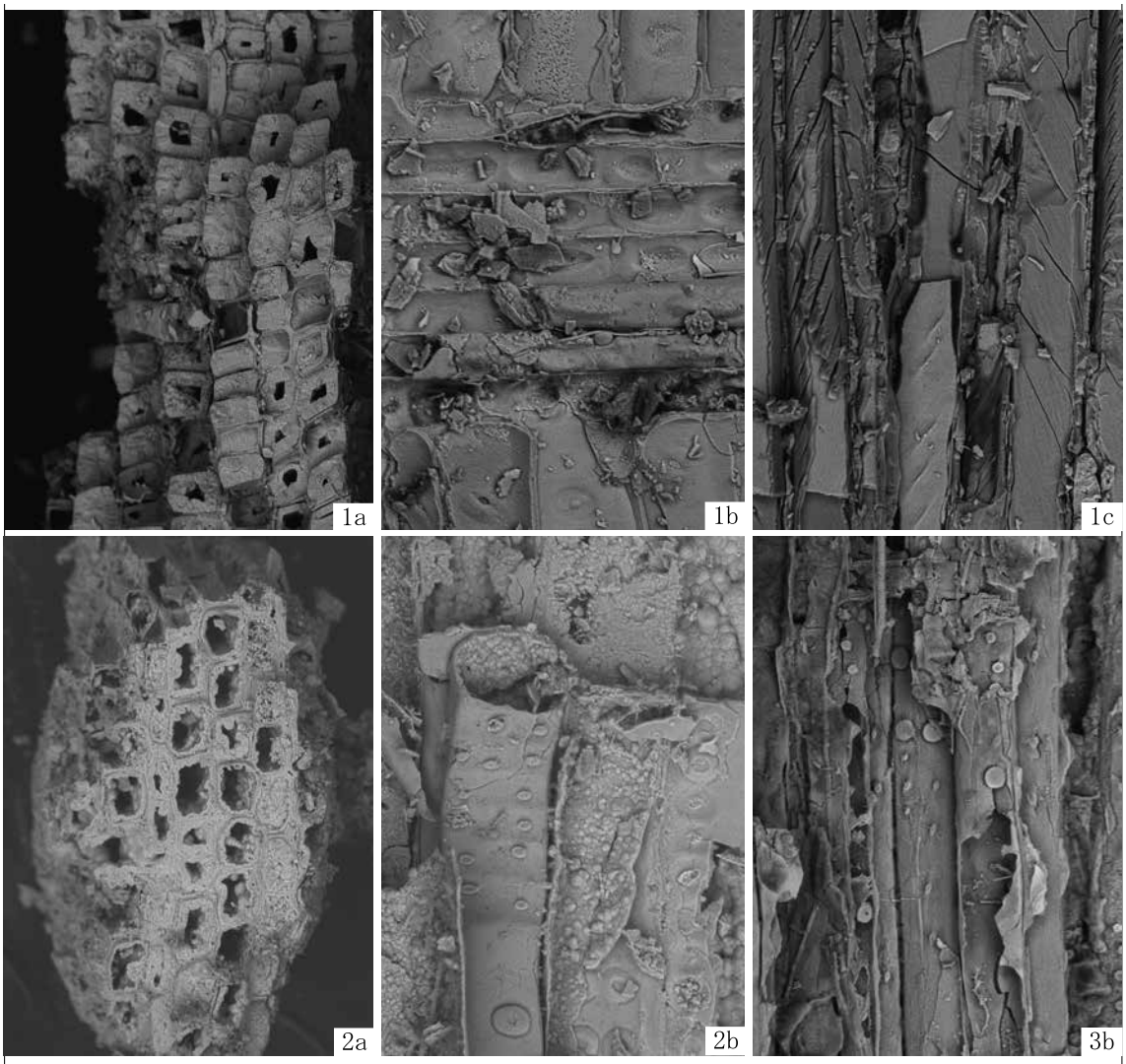
軸方向組織に樹脂細胞と思われる組織が確認できる。放射組織は柔組織のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型と考えられ、１分野に２～３個。

４．考察

今回の分析試料は、棺材の痕跡（木質）が残る鉄釘である。これらの木質の観察時に鉄釘の刺さる面を確認したところ、木口、柾目、板目の各面に打ち込まれていることが確認された。なお、棺を組み立てる際の鉄釘であれば、２枚の部材が残存している可能性がある。今回の観察では、ＳＴ67のNo.1309に２方向の木質が確認でき、釘頭側が柾目面、先端側が木口面に刺さっている



第１図　鉄釘付着木質の全景と試料採取位置



1．マツ属（ＳＴ67;№1309）
2．スギ近似種（ＳＴ81;№1867）
3．ヒノキ科（ＳＴ219;№1463）
　a:木口,b:柾目,c:板目

100μm:a
100μm:b,c

第２図　木質の顕微鏡写真

状況が確かめられた。

このことから、No.1309については、釘頭側が側板、先端側が小口板に由来する可能性がある。また、この状況から、側板、小口板ともに柾目板であった可能性がある。鉄釘の長さと木質の遺存状況を考慮すると、側板は厚さが約２cmであったと考えられる。この他の木質では、２方向の木質は確認できなかった。

一方、木質の樹種では、マツ属、スギ近似種、ヒノキ科が認められ、少なくとも３種類の木材が利用されたと考えられる。このうち、マツ属は強度と保存性が高い。スギとヒノキ科は耐水性が高い。いずれも、近世の木棺に利用が確認できる樹種である（伊東・山田,2012）。遺構と樹種との対応関係をみてみると、遺構間において木材利用の傾向は異なるものの、遺構単位では樹種が共通する傾向が指摘される。

引用文献

Erdtman G.　Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms（An introduction to palynology. I）.Almqvist&Wiksells　1952　539p.

Erdtman G.　Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteriodophyta, Bryophyta（Illustrations）（An Introduction to Palynology. II）.Almqvist&Wiksells　1957　147p.

Faegri K. & Iversen J. Textbook of Pollen Analysis.The Blackburn Press　1989　328p.

藤木利之・小澤智生『琉球列島産植物花粉図鑑』アクアコーラル企画　2007　155p.

伊東隆夫・山田昌久（編）『木の考古学　出土木製品用材データベース』海青社　2012　449p.

三好教夫・藤木利之・木村裕子『日本産花粉図鑑』北海道大学出版会　2011　824p.

中村純『花粉分析』古今書院　1967　232p.

中村『純日本産花粉の標徴　Ⅰ　Ⅱ（図版）　大阪市立自然史博物館収蔵資料目録　第12,13集』　1980　91p.

小椋純一『京都近郊山地の植生史　植生史研究　5』1990　39-47p.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）『針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）　海青社　2006　70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］

島地謙・伊東隆夫『図説木材組織』地球社　1982　176p.

島倉巳三郎『日本植物の花粉形態　大阪市立自然科学博物館収蔵目録　第5集』1973　60p.

付編２　寺町旧域・法成寺跡出土の人骨資料

京都大学大学院理学研究科・理学部
中務真人、川田美風、張玉齢、木村奎

鴨沂高校敷地内から発掘された人骨資料は、ほとんどの出土例において骨質が脆弱で、緻密骨表面が剥離している骨が多い。完形で残っている骨はなく、計測に用いることが可能な資料数は限定的である。残された骨の多くは、大腿骨、脛骨など比較的頑丈な四肢骨の骨体部分である。関節が部分的にせよ保存されている資料は非常に少ない。椎骨、肋骨、寛骨、その他手根骨、足根骨、指骨は、骨片としてもほとんど認められなかった。歯牙についても遊離歯のほとんどは歯根、象牙質が失われている。

この報告書には、同定可能な骨の部位、修復前の状態で観察可能な特徴のみを記した。性別については、寛骨、頭蓋骨から判別可能であった個体はほとんどなく、基本的に四肢骨の頑丈性、大腿骨の粗線など筋付着部の発達などから判定した。骨の遺存状態が悪く、発掘調査時に土ごとブロックで取り上げたため、未成年人骨と女性人骨の判別など、ブロックから骨の取り上げ後に、見直しがされる点もありうる。

出土人骨には成人が多く、中には著しく大柄な男性個体も見られる。

１）土葬された人骨

（１）墓群１

ＳＴ90　成人・性別不明

脆弱な頭蓋骨破片のみ。破断面が破損しているため、接合は不可能と考えられる。

ＳＴ94　成人・性別不明

上下顎の永久歯遊離歯が多数認められる。

ＳＴ95　成人か・性別不明

上顎大臼歯のみ。

（２）墓群２

ＳＴ85　老年・男性

頭蓋骨と四肢骨が残されている。頭蓋骨は、左右の眼窩上部から前頭部を残している。側頭蓋骨、後頭蓋骨が頭蓋内腔に崩れ落ちて、破片として密着している。他に左の下顎体が残されており、下顎体の高さ、切歯の歯槽骨の吸収の程度などから老年と考えられる。側頭蓋骨などの小片が複数あるが、骨質がもろく、断面が崩れており多くは接合不可能である。四肢骨が伴っており、左右上腕骨骨体、左大腿骨筋部骨体、左脛骨骨体、右脛骨の骨体が認められる。他は破片骨である。いずれも大型で、男性と思われる。

（3）墓群３

ＳＴ28　成人・性別不明

頭蓋冠全体を一括して取り上げている。骨質は非常にもろく、土のブロックから取り上げができていない。下顎片が残っており、左側は切歯２本、右側は第２大臼歯の歯槽までを残している。その他、上下の遊離歯が認められ、片側が失われているものもあるが、歯種は揃っている。四肢骨は伴っていない。

（4)墓群４

ＳＴ197　成人・男性

四肢骨だけが残されている。上腕骨体、大腿骨体破片が認められるが、計測値をとることはできない。他に同定可能な骨はない。

（5）墓群５

ＳＴ23　成人・男性

四肢骨と右下顎大臼歯が含まれる。大臼歯については１本しかなく、顎骨の破片も認められないことから、混入している可能性が考えられる。左右大腿骨の他、脛骨の骨体の破片が残されている。他には同定可能な四肢骨片は存在しない。大腿骨のおおよそ中央部（完形の大腿骨は存在しないため。以下、中央と省略して記す。）での前後径30.7mm、横径28.1mmである。頑丈性が強い。頭蓋骨は、頭蓋冠が残されている。骨質が脆弱になっているため、取り上げても接合はできないと考えられる。保存部位はおそらく頭蓋冠のみと思われる。

（6）墓群６

ＳＴ112　成人・性別不明

頭蓋骨の破片らしい骨片が土に埋もれている。他、遊離歯には、上顎小臼歯と大臼歯が認められる。

（7）墓群12

ＳＴ54　成人・性別不明

上顎、下顎の遊離歯が多数認められる。同定不能な四肢骨破片しか残されていない。

ＳＴ63　成人・男性か

頭蓋骨は一括で取り上げられているが、断片化している。左大腿骨近位部が認められる。他に多くの破片骨があるものの、いずれも同定不能である。大腿骨頭の大きさから、男性の可能性が大きいと考えられる。

ＳＴ162　成人・男性か

前歯列、右大腿骨骨体、上腕骨骨体が認められる。その他に多数の骨片が存在するが、断片化しており同定不能である。大腿骨は比較的小さく、中央部の径は、前後径21.4mm、横径24.9mmである。しかし、粗線の発達などから、男性の可能性が高いと考えられる。

ＳＴ217　成人・男性

この個体には大型の大腿骨骨体のみが含まれている。骨質が脆弱で破損がひどく、計測値は得

られない。全体的な大きさから男性と考えられる。

ＳＴ218　成人・性別不明

四肢骨の骨体のみが残されている。左右の脛骨、左右の判別ができないほど壊れた大腿骨骨体が認められる。断片化が著しい。

（8）墓群13

ＳＴ140　成人・性別不明

二つのブロックに取り上げられている。ひとつは頭蓋骨のみで、顔面部を含む。圧迫を受けつぶれている。上顎左小臼歯２本と大臼歯１本が認められる。もうひとつは頭蓋冠と四肢骨を含むブロックである。この状態では四肢骨の種類を同定できないが、大型の骨が複数含まれている。

ＳＴ141　成人・性別不明

頭蓋骨と四肢骨が残されている。頭蓋骨は断片化しており、前頭部、側頭部などが認められるものの、接合は不可能と予想される。その他、下顎骨片、遊離歯が伴う。

四肢骨はいずれも骨体のみで左右の区別がつかないものが多い。上腕骨骨体、大腿骨骨体片、脛骨片が認められる。他は同定できない。

ＳＴ205　成人・男性

頭蓋骨と四肢骨が残されている。下顎骨と上顎の一部、四肢骨が埋まった未整理のブロックがある。他に、下顎骨の破片がある。右上腕骨遠位部が残されている。橈骨と尺骨遠位骨体がともに取り上げられているが、断片化が顕著である。右大腿骨骨体と骨頭の一部、右大腿骨骨体が残っている。骨頭が残された大腿骨は珍しいが、骨質がもろく壊れている部分が大きいため、修復は困難と予想される。粗線が著しく発達し、頑丈性が高いことから男性と考えられる。大腿骨の中央径は、前後が27.5mm、横径が 28.3mmである。左大腿骨骨体、左脛骨骨体、右脛骨と腓骨の骨体が認められる。他に同定可能な骨片はない。

（9）墓群14

ＳＴ207　成人・性別不明

頭蓋骨は一括して取り上げられているが、その後に、２つに割れている。頭蓋底は破損している。写真左のブロックには後頭部と側頭部が残されている。顔面頭蓋は蝶形骨の部分で割れ、右のブロックに含まれている。骨口蓋がほぼ完全な状態で観察されるため、内部には上顎歯列が残っていると予想される。

四肢骨は比較的点数が少ない。大腿骨、脛骨の骨体部破片しか同定できない。

ＳＴ201　年齢層不明・性別不明

頭蓋骨と四肢骨の破片が残されている。頭蓋骨片は頭蓋冠の一部だと考えられる。上腕骨体破片は、やや小ぶりである。その他、橈骨骨体破片、大腿骨体破片的な骨が認められるが、破損が激しく断定はできない。

ＳＴ202　成人・性別不明

頭蓋と大腿骨を含んだブロック。頭蓋骨は、頭頂部を下に向けた状態で、頭蓋底が破損し頭蓋

冠に向かって落ち込んでいる。下顎骨が関節しているが、下縁に沿って削られた状態で破損している。顔面部は残っていないが、歯列は保存されていると考えられる。大腿骨は２本が残され、骨体中央付近で折れ、近位部が下向きの状態で埋まっている。

ＳＴ238　若年か・性別不明

頭蓋骨の破片多数が残されている。骨口蓋が保存されている。歯は大半が失われ、一部歯根のみ残っている。下顎骨左側が残っているが、外側の緻密骨の大部分が破損している。比較的小さく、女性あるいは若年者と考えられる。

(10)墓群15

ＳＴ179　成人・女性

頭蓋骨と四肢骨が残っている。頭蓋骨は小さく断片化している。破片には、側頭蓋骨、蝶形骨などが認められる。比較的大きな断片は右側頭蓋骨と思われる。下顎骨の破片には、後ろから４本の頬歯が残っている。左の頬歯列は、上下とも残っているが、上顎骨は壊れて完全に失われている。成人で、頭蓋骨の大きさなどから、女性と思われる。四肢骨には尺骨の破片、左右の大腿骨骨体破片、左右の脛骨骨体破片が認められる。他の小骨片は同定不可能である。

ＳＴ180　小児か・性別不明

四肢骨の骨体破片が認められるが、いずれも断片化が著しく同定不能である。骨のサイズは小さく、これらが比較的残りやすい大腿骨・脛骨などの下肢長骨であるとしたら、小児である。

ＳＴ192　成人・女性

頭蓋骨と四肢骨が残されている。頭蓋骨は土に埋もれたままの状態で取り上げられている。この状態で保存部位を確認することは難しいが、頭蓋底の一部と頭蓋冠ではないかと考えられる。しかし、観察される部位において断片化、断面の破損が認められることから、多くの断片は接合困難と予想される。四肢骨には、上腕骨骨体の破片、左右大腿骨骨体、右脛骨骨体、左脛骨が認められる。他には同定可能な四肢骨はない。大腿骨の中央径は、前後径26.4mm、横径 24.9mmである。華奢な印象から女性と考えられる。

ＳＴ233　成人・性別不明

四肢骨の骨体のみが残されている。脛骨は同定できるが､他は断片化と表面の骨質剥離のため、確実には同定することはできない。いずれも骨質が脆弱である。大きさから成人と判断される。

ＳＴ235　成人・男性

四肢骨のみが残っている。骨質はきわめて脆弱で表面が剥がれかかっている。左大腿骨骨体、右大腿骨骨体、左脛骨が認められる。大腿骨の中央径は、前後系が26.3mm、横径が31.1mmである。

(11)墓群16

ＳＴ208　男性・成人

この骨格は､例外的に骨質状態が良好な資料である。頭蓋骨は壊れているものの､下顎骨含み、多くの成分が残っている｡どの程度の接合が可能かは処理がなされていないためまだ不明である。

顔面部は、左右の眼窩上縁のやや下から壊れている。上肢骨には、左肩甲骨、左鎖骨、左上腕骨、右上腕骨、それぞれ一緒に取り上げてある左右の橈骨と尺骨、中手骨らしい長骨２本が含まれる。下肢骨では、近位骨端から残った左大腿骨、右大腿骨と腓骨、大腿骨遠位骨端、左右の脛骨骨体、脛骨の骨端、左腓骨、右距骨と立方骨が含まれる。土を落としクリーニングしなければ確認できないが、交連した腰椎、あるいは仙骨のような骨が認められる。大腿骨の中央径は前後が27.8mm、横径が24.1mmである。

ＳＴ239　成人・女性か

頭蓋骨を含む未クリーニングブロックと四肢骨が残っている。四肢骨には、左上腕骨骨体、右上腕骨近位部、左大腿骨骨体片、右大腿骨、左脛骨の骨体、右脛骨の骨体、腓骨骨体が含まれる。右上腕骨の骨頭が癒合せずに失われている。右大腿骨中央径は前後径が25.7mm、横径が26.1mmである。全体的に華奢である。頭蓋骨は、大腿骨骨体片と同じブロックに埋もれている。下顎骨と交連した状態で埋まり、頭蓋の後部がこわされて、口腔を後方から除くような状態で埋まっている。右の歯列はほぼ完全に残っている。第３大臼歯が萌出している。

ＳＴ240　成人・女性

下顎骨片と四肢骨が残されている。下顎骨には大臼歯２本が残っている。四肢骨では、鎖骨、左右の大腿骨骨体、左右の脛骨骨体、右腓骨骨体が認められる。大腿骨の中央径は、前後系が22.3mm、横径が24.0mmである。成熟しているものの、全体的に小ぶりであることから、成人女性と考えられる。

ＳＴ259　未成年あるいは女性

大腿骨骨体破片と小型の脛骨骨体片が含まれる。その他の骨は同定不能な破片のみである。

ＳＴ250　成人・性別不明

脛骨片一つのみが含まれる。

(12)墓群17

ＳＴ469　成人・女性か

頭蓋骨と四肢骨を含む。頭蓋骨は頭蓋冠を含むブロックと顔面部を含むブロックがある。後者は土に埋もれた状態で確認できないものの、頭蓋底を残しているかもしれない。多数の四肢骨片が伴うものの、小片化したものが多く、同定できるものは少ない。大腿骨破片、脛骨破片、大腿骨骨体、脛骨などが認められる。遊離歯には、上顎切歯、小臼歯、大臼歯が含まれる。四肢骨は小ぶりで、女性の可能性が高いと考えられる。

ＳＴ243　成人・性別不明

歯は上顎永久歯の遊離歯のみだが、歯列のほぼ全てが残っている。数本の四肢骨が重なった状態で一括で取り上げされている。骨質は脆弱で表面の破損がひどく、現状では同定は不能である。

(13)墓群なし

ＳＴ76　成人・性別不明

取り上げ時のブロックに埋まったままの四肢骨（同定不能）が残っている。大臼歯も観察され、

他にも遊離歯が残っている可能性がある。その他、遊離歯として、上顎小臼歯が１本認められる。また、乳臼歯１本が混入している。四肢骨が伴うものの、いずれも骨片であり、同定できるものは無い。

２)火葬された人骨

墓群４　ＳＴ350出土蔵骨器内　成人・性別不明

全身の骨が認められる。顕著な加齢変化は認められない。

墓群10　ＳＴ50出土蔵骨器内　小児・性別不明

乳歯列を持つ小児である。頭蓋骨破片が認められる。四肢骨は確認できなかった。

墓群12　ＳＴ62　成人・性別不明

全身の焼骨で、老化に伴う骨変形が腰椎などに認められない。頭蓋骨の縫合も比較的明瞭である。成人だが、若いと考えられる。

墓群15　ＳＴ179上層出土肥前磁器壺内　子供・性別不明

頭蓋骨破片が認められる。四肢骨は確認できなかった。

付表６　　墓穴一覧

〈凡例〉
・掘形規模の記号　（　）：残存長
・埋葬施設の記号　（　）：復原長
・釘の記号　　△：出土点数が５本未満　○：出土点数が５本以上
・－：不明

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
382	1b	－	－	－	－	古寛永通寶（1枚）、不明銭貨（6枚）			不良		
378	1a	－	方形か	0.75 ×（0.31）	－	念仏銭（1枚）			－		
379	1a	土葬	方形	1.08 × 1.22	－	古寛永通寶（2枚）、不明銭貨（4枚）、染付椀	△		不良		
380	1a	土葬	不明	0.75 ×（0.65）	－	染付椀			不良		
381	1a	土葬	方形か	0.93 ×（0.60）	木棺		△		やや良好		
90	1a	土葬	円形か	0.71 × 0.65	－	新寛永通寶（1枚）、不明銭貨（5枚）、土師器皿			やや不良	不明	成人
91	1a	土葬	長方形	0.80 × 0.45	－				不良		
92	1a	－	方形	0.72 × 0.70	－	寛永通寶（2枚）､不明銭貨（6枚）、染付椀			－		
93	1a	－	円形か方形	0.71 ×（0.54）	－	土師器皿、陶器椀			－		
94	1a	土葬	方形	0.60 × 0.70	－	治平元寶（1枚）､不明銭貨（3枚）			不良	不明	成人
95	1a	土葬	方形	0.75 × 0.82	－		△		不良	不明	成人か
96	1a	－	不明	0.78 ×（1.00）	－				－		
97	1a	土葬	方形	0.85 × 0.86	－				不良		
374	2b	－	不明	0.75 ×（0.51）	－		△		－		
375	2b	土葬	方形	0.99 × 0.95	木棺	漆器椀、煙管（雁首・吸口）	○		やや不良		
376	2b	－	不明	不明	－				－		
377	2b	－	方形か	0.97 ×（0.62）	－	古寛永通寶（1枚）、新寛永津寶（3枚）、不明銭貨（8枚）、土師器皿	△	墓石出土	－		
13	2b	土葬	長方形か	1.04 × 1.03	－		△		不良		
109	2b	－	方形	0.81 × 0.98	－	古寛永通寶（1枚）、新寛永通寶（2枚）、不明銭貨（3枚）、染付椀	△		－		
108	2b	－	方形	0.61 × 0.82	－	朝鮮通寶（1枚）､祥符通寶（1枚）、不明銭貨（3枚）			－		
106	2b	－	不明	0.85 ×（0.39）	－				－		
105	2b	－	方形か	1.05 × 0.70	－				－		
107	2b	－	不明	0.71 ×（0.52）	－	不明銭貨（5枚）			－		
18	2b	－	方形か	0.56 ×（0.39）	－	古寛永通寶（1枚）、新寛永通宝（1枚）、不明銭貨（4枚）、陶器壺			－		
21	2b	土葬	方形	0.85 × 0.69	－	新寛永通寶（1枚）、不明銭貨（5枚）、白磁小杯	△		不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
43	2b	−	円形か	0.58 × 0.48	−	古寛永通寶（1枚）、不明銭貨（5枚）、染付椀			−		
45	2b	−	円形	(0.60) × (0.60)	−				−		
371	2a	−	方形か	0.68 × (0.57)	−			墓石出土	−		
372	2a	土葬	方形	0.79 × (0.80)	−	念仏銭（1枚）、古寛永通寶（2枚）、新寛永通寶（1枚）、不明銭貨（4枚）、漆器			やや不良		
373	2a	−	方形	0.72 × 0.90	−		△		−		
14	2a	−	方形か	(0.92) × 1.00	−	古寛永通寶（1枚）、新寛永通寶（1枚）、不明銭貨（4枚）		廃棄土坑	−		
88	2a	−	不明	0.73 × (0.93)	−				−		
87	2a	−	不明	0.93 × (0.75)	−	天目椀			−		
16	2a	−	方形か	0.72 × (0.90)	−	不明銭貨（1枚）			−		
86	2a	−	不明	1.06 × (1.06)	−	青磁皿			−		
85	2a	土葬	方形か	0.82 × (0.66)	木棺か	数珠、磁器椀			良好	男性	老年
47	2a	−	方形	0.60 × 0.50	−	紹定通寶（1枚）、明道元寶（1枚）、不明銭貨（4枚）			−		
19	2a	−	方形	0.87 × 0.87	−	土師器皿	△		−		
66	2a	−	方形	1.05 × 0.91	−			廃棄土坑	−		
68	2a	−	方形	0.50 × (0.75)	−	土師器皿			−		
67	2a	土葬	方形	0.87 × (0.90)	木棺 (0.5) × (0.5)	古寛永通寶（2枚）、不明銭貨（4枚）	○		不良		
362	3b	土葬	方形か	0.96 × (0.67)	木棺	古寛永通寶（1枚）、新寛永通寶（1枚）、元祐通寶（1枚）、不明銭貨（9枚）	○		不良		
363	3b	−	方形	0.50 × 0.84	−			墓石出土	−		
364	3b	−	不明	(0.94) × (0.65)	−	元符通寶（1枚）、不明銭貨（5枚）	△		−		
467	3b	−	不明	(1.00) × (0.88)	−	古寛永通寶（2枚）、新寛永通寶（1枚）、不明銭貨（4枚）	△		−		
365	3b	−	方形か	0.83 × (0.40)	木棺	古寛永通寶（1枚）、不明銭貨（5枚）	○		−		
366	3b	土葬	方形か 楕円形	1.06 × (0.70)	−	宋通元寶（1枚）、不明銭貨（5枚）、土師器皿、染付椀	△		不良		
367	3b	土葬	方形か 円形	0.90 × (0.73)	−				不良		
368	3b	−	方形か	0.88 × (0.89)	−	青銅製品（座金具）			−		
190	3b	−	円形	1.03 × 1.08	−	不明銭貨（6枚）、土師器皿		墓石出土	−		
369	3b	−	楕円形	0.85 × (0.72)	−				−		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
370	3b	土葬	楕円形か	0.91 ×（1.76）	−				不良		
104	3b	土葬	方形か	0.79 × 0.91	−				不良		
42	3b	土葬	方形か	（0.90）×（0.87）	−				不良		
55	3b	−	方形	0.92 × 0.92	甕棺			墓石出土	−		
75	3b	土葬	円形か	0.74 ×（0.57）	−	古寛永通寶（1枚）、新寛永通寶（3枚）、不明銭貨（2枚）			不良		
77	3b	−	方形	0.82 × 0.73	木棺	新寛永通寶（1枚）、□寛永通寶（1枚）、不明銭貨（1枚）	○		−		
78	3a	−	楕円形	1.31 × 1.01	−	信楽甕、瓦片		廃棄土坑	−		
354	3a	−	円形か	0.65 ×（0.70）	甕棺	土師器皿、ミニチュア土器			−		
355	3a	土葬	方形か	（0.46）×（0.57）	木棺（0.35）×（0.4）	古寛永通寶（1枚）、新寛永通寶（3枚）、不明銭貨（1枚）、青銅製品、漆細片	−	底部に木質遺存	不良		
193	3a	−	方形	（0.71）×（0.68）	−			廃棄土坑	−		
32	3a	−	不明	1.03 ×（1.03）	−				−		
356	3a	−	不定形	0.76 ×（0.80）	−				−		
357	3a	−	方形	0.68 × 0.57	−				−		
358	3a	土葬	方形	0.70 × 0.70	−				不良		
22	3a	土葬	円形	0.87 × 0.88	−	古寛永通寶（1枚）、新寛永通寶（3枚）、祥符元寶（1枚）、不明銭貨（2枚）			不良		
360	3a	土葬	不明	0.69 ×（0.32）	−	古寛永通寶（1枚）、不明銭貨（5枚）			やや不良		
103	3a	土葬	不明	0.95 ×（0.75）	−				やや不良		
28	3a	土葬	不明	0.94 ×（0.85）	−				やや不良	不明	成人
361	3a	土葬	不明	0.82 ×（0.80）	−				やや不良		
346	4b	−	円形	0.50 × 0.57	−				−		
347	4b	土葬	不定形	0.92 ×（1.05）	−				不良		
348	4b	−	不明	不明	−				−		
349	4b	−	楕円形か	0.75 ×（0.97）	−				−		
350	4b	土葬	方形	0.83 × 0.74	−	古寛永通寶（1枚）、不明銭貨（5枚）			不良		
		火葬	−	−	蔵骨器			上層遺構か	良好	不明	成人
351	4b	土葬	楕円形か	0.84 ×（0.84）	−				不良		
35	4b	−	円形	（0.65）× 0.68	−	不明銭貨（6枚）、土師器皿			−		
36	4b	土葬	楕円形	1.00 × 1.32	−	古寛永通寶（2枚）、新寛永通寶（1枚）、不明銭貨（3枚）			不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
352	4b	土葬	方形	0.60 ×（0.65）	木棺（0.5 × 0.3）	古寛永通寶（1枚）、新寛永通寶（1枚）、元祐通寶（1枚）、不明銭貨（15枚）、白磁小杯	-	底部に木質遺存	不良		
353	4b	土葬	方形	0.60 ×（0.48）	木棺	祥符元寶（1枚）、不明銭貨（5枚）	○		不良		
340	4a	−	円形	0.39 × 0.35	−				−		
341	4a	−	方形	0.68 × 0.84	−	天目椀			−		
342	4a	−	不明	0.57 ×（0.42）	−				−		
344	4a	土葬	方形か	0.63 ×（0.19）	−	不明銭貨（6枚）			不良		
343	4a	土葬	方形か	0.78 × 0.87	−	古寛永通寶（1枚）、不明銭貨（9枚）		墓石出土	不良		
33	4a	土葬	方形	0.63 × 0.58	−	土師器皿、染付椀			不良		
34	4a	−	円形か	0.84 × 0.85	−	古寛永通寶（2枚）、□寛永通寶（1枚）、不明銭貨（3枚）、土師器皿、磁器小杯			−		
156	4a	土葬	方形か	0.92 × 0.86	−	古寛永通寶（2枚）、不明銭貨（4枚）、漆器	△		不良		
197	4a	土葬	方形	0.75 ×（0.52）	木棺（0.5）×（0.5）	古寛永通寶（2枚）、不明銭貨（8枚）、数珠、白磁椀、青銅製品	○		不良	男性	成人
24	4b	土葬	方形	1.56 × 1.40	木棺（0.60）×（0.55）・粘土	古寛永通寶（3枚）、元豊通寶（1枚）、不明銭貨（2枚）、土師器皿、陶器椀	○	底部に粘土を敷く 墓石出土	不良		
338	5b	−	円形か方形	0.56 ×（0.58）	−				−		
23	5b	土葬	長方形	0.68 × 1.28	−	古寛永通寶（5枚）、不明銭貨（2枚）			やや不良	男性	成人
60	5b	−	方形	0.74 × 0.86	−				−		
119	5b	−	円形	（0.36）×（0.60）	−	古寛永通寶（1枚）			−		
339	5b	−	不明	（0.54）×（−）	−				−		
114	5b	−	方形	0.40 × 0.54	−				−		
337	5a	−	不明	0.62 ×（0.60）	−						
59	5a	土葬	長方形	0.84 ×（1.10）	−	土師器皿・鉢、天目椀			不良		
58	5a	土葬	円形	0.42 × 0.47	−	古寛永通寶（8枚）		墓石出土	不良		
30	5a	−	円形	0.50 × 0.56	−	陶器皿		廃棄土坑	−		
31	5a	土葬	方形	（0.72）×（0.80）	木棺（0.44 × 0.47）	土師器皿	−	底部に木質遺存	不良		
26	6b	土葬	長方形	0.65 × 1.09	−	不明銭貨（1枚）、白磁椀			不良		
159	6b	土葬	方形	0.75 × 0.90	−				不良		
160	6b	土葬	方形	0.82 × 0.70	−				不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
110	6b	土葬	方形	0.75 × 0.84	−				不良		
333	6a	土葬	不明	(0.81) × (1.30)	−				不良		
166	6a	土葬	円形	0.58 × 0.53	甕棺				−		
334	6a	土葬	方形	0.85 × (0.68)	−	古寛永通寶（1枚）、不明銭貨（5枚）			不良		
48	6a	土葬	円形か	0.98 × (0.72)	−	古寛永通寶（2枚）、不明銭貨（4枚）、土師器皿		上層で墓石出土	不良		
335	6a	土葬	方形か	0.88 × (0.65)	−				不良		
336	6a	−	方形か	0.73 × (0.21)	−				−		
112	6a	土葬	円形	0.78 × 0.80	−				不良	不明	成人
229	7b	土葬	不明	0.91 × (0.89)	−				不良		
49	7b	土葬	円形	0.71 × 0.81	甕棺			上層で墓石出土	不良		
331	7b	土葬	方形	0.66 × (1.05)	−				不良		
328	7a	土葬	不定形	0.71 × (0.52)	木棺か	古寛永通寶（2枚）、新寛永通寶（1枚）、不明銭貨（9枚）	△		不良		
329	7a	土葬	方形か	0.62 × 1.05	−	不明銭貨（6枚）	△		不良		
330	7a	土葬	方形	0.76 × 0.82	−	古寛永通寶（1枚）、不明銭貨（1枚）			不良		
324	8b	土葬	方形か	0.71 × 0.64	−	不明銭貨（6枚）		上層で墓石出土	不良		
325	8b	−	不明	(0.36) × (0.77)	−				−		
326	8b	−	不明	(0.40) × (1.00)	−	古寛永通寶（2枚）、新寛永通寶（2枚）、不明銭貨（1枚）			−		
41	8b	−	円形	0.43 × 0.30	甕棺				−		
327	8b	−	円形か	1.20 × (0.60)	−				−		
322	8a	土葬	方形	0.82 × (1.04)	−	古寛永通寶（4枚）、新寛永通寶（2枚）、不明銭貨（6枚）			不良		
323	8a	−	方形か	0.76 × (0.63)	−	古寛永通寶（1枚）、景祐元寶（1枚）、不明銭貨（3枚）、白磁椀			−		
40	8	−	円形か	(1.90) × 1.65	−	古寛永通寶（4枚）、新寛永通寶（1枚）、元豊通寶（1枚）、熙寧元寶（1枚）､不明銭貨（1枚）土師器皿。陶器椀、犬形土製品		廃棄土坑	−		
318	9b	−	方形か	0.90 × (0.80)	−				−		
319	9b	土葬	楕円形	0.71 × 1.10	−		△		不良		
320	9b	土葬	不明	0.71 × (−)	−				不良		
321	9b	土葬	方形か	0.70 × (0.89)	木棺	新寛永通寶（3枚）、不明銭貨（7枚）、土師器皿、ミニチュア土器	○		不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
38	9b	－	楕円形か	1.17 × 1.63	－	土師器皿、染付仏飯器	△	廃棄土坑	－		
315	9a	土葬	不定形	0.80 × (0.90)	－	不明銭貨（５枚）、土師器鉢、磁器椀			不良		
29	9a	土葬	円形か	0.98 × (0.93)	甕棺	新寛永通寶（１枚）、熙寧元寶（２枚）、不明銭貨（10枚）、土師器皿・小壺			不良		
316	9a	土葬	長方形	0.64 × 1.02	木棺	古寛永通寶（４枚）	○		不良		
317	9a	土葬	楕円形	0.69 × 1.22	－	古寛永通寶（１枚）、□寛永通寶（１枚）、不明銭貨（４枚）			不良		
308	10b	土葬	方形	0.79 × 0.68	－	古寛永通寶（４枚）、新寛永通寶（１枚）、政和通寶（１枚）、不明銭貨（19枚）			不良		
309	10b	－	不明	0.80 × (0.12)	－				－		
310	10b	－	不明	0.75 × (0.21)	－				－		
51	10b	土葬	楕円形か	0.78 × (0.88)	－				不良		
311	10b	土葬	方形	0.70 × (1.03)	－	不明銭貨（１枚）	△		不良		
50	10b	土葬	方形	0.87 × 0.98	木棺	古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（２枚）、不明銭貨（９枚）、土師器皿、陶器椀	○	墓石出土	不良		
		火葬	－	－	蔵骨器				良好	不明	小児
312	10b	土葬	方形か	0.73 × (0.40)	－	元豊通寶（１枚）、熙寧元寶（１枚）、不明銭貨（10枚）	△		不良		
313	10b	－	不明	0.70 × (0.40)	－	大観通寶（１枚）			－		
314	10b	土葬	方形か	0.78 × 1.01	－		△		不良		
300	10a	土葬	方形か	0.78 × (0.79)	－	不明銭貨（８）	△		不良		
301	10a	土葬	長方形か	0.79 × (1.01)	－	新寛永通寶（４枚）、不明銭貨（７枚）			不良		
302	10a	土葬	方形か	0.79 × (0.87)	－				不良		
303	10a	土葬	方形	1.08 × 1.21	－	古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（４枚）、土師器皿、陶器椀			不良		
304	10a	－	方形か	0.82 × (0.83)	－				－		
305	10a	土葬	不明	0.99 × (－)	－	古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（２枚）、不明銭貨（３枚）、白磁椀	△		不良		
306	10a	土葬	方形か	0.79 × (0.82)	－	宣徳通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）		墓石出土	やや不良		
307	10a	土葬	不定形	0.93 × 1.20	－				不良		
69	11	土葬	方形	0.89 × 0.81	木棺 (0.4) × (0.4)	陶器椀、漆器	○	底部木質残存	不良		
70	11	土葬	方形	0.84 × 0.79	木棺・粘土	古寛永通寶（３枚）、新寛永通寶（１枚）、□寛永通寶（１枚）、開元通宝（１枚）、染付椀・蓋、陶器壺	○	底部木質残存	不良		
71	11	－	不明	0.68 × (－)	－				－		
72	11	－	長方形	0.96 × 0.63	－				－		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
73	11	－	円形	1.15 ×（1.28）	－		△		－		
74	11	－	長方形	1.07 ×（0.72）	木棺	元豊通寶（１枚）	○		－		
56	12b	土葬	方形か	0.79 × 0.92	木棺か	古寛永通寶（２枚）、□寛永通寶（１枚）、不明銭貨（９枚）、染付小椀、陶器椀		底部木質遺存	不良		
57	12b	土葬	方形	0.87 × 0.97	－	不明銭貨（11枚）			不良		
196	12b	土葬	長方形	0.79 × 0.65	－	古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）、染付椀・蓋		墓石出土	不良		
400	12b	－	方形	0.71 ×（0.57）	－				－		
401	12b	－	方形	0.68 ×（0.56）	－	不明銭貨（３枚）			－		
402	12b	－	方形	0.75 ×（0.60）	－				－		
258	12b	土葬	楕円形か	0.87 ×（1.00）	－	皇宋通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）			不良		
403	12b	－	方形か	0.82 ×（0.37）	－				－		
194	12b	土葬	方形	0.99 × 0.83	－	新寛永通寶（２枚）			やや不良		
195	12b	土葬	長方形（方形か）	0.80 × 1.20	－	古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（１枚）、不明銭貨（４枚）、土師器小壺、人形、ミニチュア土器			やや良好		
404	12b	土葬	長方形か楕円形	0.58 ×（0.96）	－				不良		
405	12b	－	不明	0.68 ×（－）	－				－		
174	12b	土葬	方形	0.88 × 0.82	－	新寛永通寶（３枚）			やや不良		
54	12a	土葬	楕円形	0.84 × 0.86	甕棺	土師器皿			不良	不明	成人
406	12a	－	方形か	0.64 ×（0.12）	－	元豊通寶（１枚）、不明銭貨（４枚）			－		
470	12a	－	方形か	0.80 ×（0.55）	－	古寛永通寶（４枚）、元豊通寶（３枚）、元祐通寶（１枚）、開元通寶（１枚）、不明銭貨（８枚）			－		
62	12a	火葬	円形か	0.55 × 0.54	甕棺			甕棺底部のみ	良好	不明	成人
63	12a	土葬	方形	0.76 × 0.73	木棺（0.35）×（0.47）	新寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）		底部木質遺存	不良	男性か	成人
64	12a	－	円形か	0.78 ×（0.36）	－	土師器皿			－		
65	12a	土葬	不定形	1.01 ×（1.09）	木棺	古寛永通寶（４枚）、大観通寶（１枚）、祥符通寶（１枚）、至道元寶（１枚）、皇宋通寶（１枚）、元豊通寶（２枚）、政和通寶（１枚）、不明銭貨（７枚）、染付椀	○	墓石出土	不良		
217	12a	土葬	長方形か	0.79 ×（0.64）	木棺	不明銭貨（６枚）	○		不良	男性	成人
218	12a	土葬	方形	0.71 ×（0.62）	木棺か	古寛永通寶（２枚）、□寛永通寶（１枚）			良好	不明	成人
219	12a	土葬	方形	0.80 × 0.77	木棺（0.5）×（0.5）	古寛永通寶（４枚）、土師器小壺	○	底部木質遺存	やや良好		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
162	12a	土葬	方形か円形	0.94 × 0.92	−	古寛永通寶（１枚）、染付小杯			良好	男性か	成人
161	12a	土葬	長方形か	1.12 × (0.78)	−				不良		
145	12a	土葬	不明	(0.20) × (0.56)	木棺		△	底部木質残存	不良		
164	12a	土葬	方形	0.98 × 1.14	−	新寛永通寶（１枚）、大観通寶（１枚）	△		不良		
127	13b	土葬	長方形か	0.86 × (1.28)	木棺 (0.5) × (0.5)	元豊通寶（１枚）、土師器皿、染付椀	○	底部木質残存、墓石出土	不良		
132	13b	−	方形か	0.76 × (0.60)	−		△		−		
407	13b	土葬	方形	0.80 × 0.95	木棺	古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）			不良		
408	13b	土葬	楕円形	0.79 × (0.80)	−	新寛永通寶（１枚）、念仏銭（１枚）、不明銭貨（４枚）			不良		
409	13b	土葬	長方形か	0.70 × (0.73)	−				不良		
410	13b	土葬	方形か	0.84 × 0.91	−	古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（２枚）			不良		
212	13b	土葬	方形か	0.77 × (0.60)	−	人形	△		不良		
210	13b	土葬	方形か	0.86 × (0.40)	−	新寛永通寶（５枚）、不明銭貨（２枚）、染付小杯			不良		
211	13b	土葬	方形	0.83 × 0.68	木棺	古寛永通寶（３枚）、熙寧元寶（１枚）、不明銭貨（７枚）、土師器皿、陶器	○		やや良好		
214	13b	土葬	方形	0.80 × (0.86)	−				やや不良		
213	13b	土葬	方形	0.77 × 0.75	−	新寛永通寶（１枚）、□寛永通寶（１枚）、元豊通寶（１枚）、聖宋元寶（１枚）、開元通寶（１枚）、祥符元寶（１枚）、至道元寶（１枚）、景徳元寶（１枚）、不明銭貨（８枚）、陶器椀			良好		
215	13b	土葬	方形か	0.69 × (0.40)	−	古寛永通寶（１枚）、元祐通寶（１枚）、□六大□（１枚）、不明銭貨（１枚）、土師器小壺、土鈴、ミニチュア土器、ガラス片、座金具	△		不良		
226	13b	土葬	方形	0.73 × (0.79)	−	新寛永通寶（１枚）、不明銭貨（２枚）、木製品	△		やや不良		
411	13b	土葬	不明	0.72 × (0.55)	−	古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）			不良		
170	13b	土葬	方形か	0.74 × (0.68)	−	古寛永通寶（３枚）、不明銭貨（３枚）			不良		
144	13b	−	楕円形か	0.96 × 1.01	−	古寛永通寶（３枚）、元豊通寶（１枚）、天聖元寶（１枚）、熙寧元寶（１枚）、不明銭貨（７枚）		墓石出土	−		
412	13b	−	楕円形か	0.58 × (0.54)	−				−		
413	13b	土葬	円形か	0.78 × 0.87	−	元豊通寶（１枚）、聖宋元寶（１枚）、皇宋通寶（１枚）、景定元寶（１枚）、紹聖元寶（１枚）、不明銭貨（１枚）			不良		
414	13a	−	方形か	0.54 × (0.62)	−				−		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
154	13a	土葬	方形か	0.71 ×（0.81）	−	古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（３枚）			不良		
415	13a	土葬	円形か方形	0.94 × 1.03	−	古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（10枚）、土師器皿、染付椀、漆器			不良		
416	13a	土葬	不明	0.75 ×（0.36）	−	染付椀			不良		
417	13a	土葬	円形か	0.76 ×（0.69）	−	新寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）、土師器皿、漆器			不良		
418	13a	土葬	方形	0.80 × 0.92	−				やや不良		
419	13a	−	方形か	0.61 ×（0.70）	−				−		
230	13a	土葬	方形	0.87 × 1.06	木棺（0.4）×（0.4）	古寛永通寶（２枚）、□寛永通寶（１枚）、不明銭貨（10枚）、白磁椀	○		不良		
140	13a	土葬	方形か	0.85 ×（0.74）	木棺か		−		やや良好	不明	成人
141	13a	土葬	方形	0.75 × 0.74	木棺	古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）	○	出土した釘は205の遺物の可能性あり	良好	不明	成人
205	13a	土葬	方形か	0.78 ×（0.86）	木棺（0.5）×（0.5）	古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（２枚）、不明銭貨（３枚）	○		良好	男性	成人
203	13a	土葬	方形か	0.87 ×（0.60）	−	不明銭貨（12枚）			不良		
204	13a	土葬	方形か	0.94 × 0.93	−	古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（４枚）			やや良好		
242	13a	土葬	方形	（0.82）×（0.82）	木棺（0.5）×（0.5）	不明銭貨	○		やや良好		
241	13a	土葬	方形か	0.92 ×（0.92）	木棺（0.42）×（0.47）	古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（３枚）、不明銭貨（９枚）、漆片	○		やや良好		
420	13a	−	不明	0.78 ×（0.60）	−				−		
158	13a	土葬	方形	0.92 × 0.96	木棺	古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（11枚）、漆器椀	○		不良		
61	14b	−	不定形	1.30 × 0.84	−			廃棄土坑			
421	14b	−	方形か	0.68 ×（0.75）	−				−		
422	14b	−	方形か	0.77 ×（0.70）	−	陶器蓋	△		−		
138	14b	土葬	方形	0.70 × 0.70	−	不明銭貨（４枚）、土師器皿、染付椀、陶器椀	△	墓石出土	不良		
424	14b	土葬	方形	0.78 ×（0.82）	−	染付椀・小杯、人形			不良		
425	14b	土葬	方形か	0.83 ×（0.72）	−				不良		
426	14b	土葬	方形か	0.73 ×（0.79）	−	古寛永通寶（２枚）、新寛永通寶（１枚）、○寛永通寶（２枚）、不明銭貨（７枚）、土師器皿・鉢、白磁椀			不良		
427	14b	−	不明	0.69 ×（0.37）	−				−		
428	14b	土葬	方形	0.77 ×（0.65）	木棺（0.61）×（0.54）	新寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）	○		不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
191	14b	土葬	方形	0.73 × 0.61	−	古寛永通寶（４枚）、新寛永通寶（３枚）、天禧通寶（１枚）、開元通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）、染付椀・皿、ミニチュア土器、人形			不良		
220	14b	−	楕円形	0.90 × (1.04)	−				−		
222	14b	土葬	方形	0.76 × 0.88	木棺か		△		やや良好		
221	14b	土葬	方形	0.70 × 0.65	−	古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（２枚）、□寛永通寶（１枚）、不明銭貨（14 枚）、白磁小椀、漆器			やや不良		
207	14b	土葬	方形	0.75 × 0.85	−	不明銭貨（６枚）			やや良好	不明	成人
429	14b	−	楕円形	0.73 × 0.55	−				−		
202	14b	土葬	方形か円形	0.80 × (0.78)	木棺か				良好	不明	成人
201	14b	土葬	方形	0.80 × 0.66	木棺か	漆器	△		やや不良	不明	不明
430	14b	−	不明	0.81 × (0.80)	−	古寛永通寶（１枚）、元祐通寶（１枚）、聖宋元寶（１枚）、皇宋通寶（１枚）、不明銭貨（８枚）			−		
189	14b	土葬	楕円形	1.09 × 0.75	木棺 (0.5) × (0.5)	漆片、不明銭貨	○		良好		
431	14a	−	不明	0.74 × (0.60)	−	古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（４枚）			−		
432	14a	土葬	長方形	0.88 × 1.17	−	古寛永通寶（４枚）、新寛永通寶（１枚）、□寛永通寶（１枚）、元豊通寶（１枚）、至道元寶（１枚）、熙寧元寶（１枚）、不明銭貨（31 枚）、染付椀			不良		
433	14a	−	不明	0.72 × (0.47)	−	古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（４枚）			−		
434	14a	土葬	方形	0.78 × 0.76	木棺 (0.5) × (0.5)	咸平元寶（１枚）、明道元寶（１枚）、不明銭貨（４枚）	○		不良		
435	14a	−	方形	0.75 × 0.71	−				−		
227	14a	土葬	方形か	0.93 × (0.88)	木棺 (0.5) × (0.5)	古寛永通寶（２枚）、元豊通寶（２枚）、天聖元寶（３枚）、景祐元寶（１枚）、元祐通寶（１枚）、治平元寶（１枚）、不明銭貨（９枚）、陶器椀、染付椀	○		不良		
223	14a	土葬	方形	0.78 × 0.84	−	古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（２枚）、不明銭貨（３枚）、陶器椀、犬形土製品	△		不良		
224	14a	土葬	長方形か	0.87 × (1.04)	−	古寛永通寶（２枚）、天聖元寶（１枚）、不明銭貨（９枚）、漆器			不良		
225	14a	土葬	不明	0.72 × (0.41)	−				−		
238	14a	土葬	方形か	0.82 × 0.62	−	新寛永通寶（１枚）			不良	不明	若年か
		−			蔵骨器				−		
253	14a	土葬	円形	0.85 × (0.98)	−	不明銭貨（６枚）			不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
254	14a	土葬	方形	0.82 × 0.70	木棺	古寛永通寶（５枚）、治平元寶（１枚）、至道元寶（１枚）、不明銭貨（14枚）	○		やや不良		
255	14a	−	楕円形か長方形	0.68 × (0.70)	−		△		−		
256	14a	土葬	方形か	0.55 × 0.63	−				不良		
257	14a	−	方形	0.92 × (0.72)	−		△		−		
436	14a	−	方形	(0.94) × 1.03	−		△		−		
89	15b	−	不明	(− × −)	−			上層廃棄土坑	−		
136	15b	−	長方形か	0.75 × (0.95)	−	漆器			−		
134	15b	土葬	方形	1.00 × 0.90	−	古寛永通寶（３枚）、不明銭貨（３枚）			やや不良		
137	15b	−	方形か	0.89 × (0.64)	−	古寛永通寶（２枚）、□寛永通寶（１枚）、不明銭貨（２枚）			−		
135	15b	土葬	方形か	1.12 × 1.15	−	祥符通寶（１枚）､元豊通寶（１枚）、元祐通寶（１枚）	△		不良		
437	15b	−	不明	0.63 × (0.22)	−				−		
228	15b	土葬	方形	0.92 × 0.64	−	念仏銭（１枚）、不明銭貨（５枚）、染付椀			不良		
180	15b	土葬	方形	0.77 × 0.76	−	土師器皿	△		やや不良	不明	小児か
438	15b	−	不明	0.61 × (0.75)	−				−		
439	15b	土葬	方形か	0.78 × (0.74)	−	古寛永通寶（１枚）			やや不良		
163	15b	土葬	長方形	0.95 × 0.72	−	古寛永通寶（７枚）、新寛永通寶（１枚）、不明銭貨（９枚）、染付蓋			不良		
232	15b	土葬	方形か	0.71 × (0.65)	−	染付椀			やや不良		
233	15b	土葬	方形	0.68 × 0.82	−				良好	不明	成人
231	15b	土葬	方形	0.59 × 0.61	木棺 (0.48) × (0.46)	新寛永通寶（２枚）	○	墓石出土	不良		
234	15b	土葬	不明	(0.45) × (0.72)	−				不良		
235	15b	土葬	方形	0.88 × 0.77	木棺か	新寛永通寶（３枚）、至道元寶（１枚）、不明銭貨（15枚）、ミニチュア土器			やや良好	男性	成人
440	15b	−	方形	0.64 × (0.68)	−	元豊通寶（１枚）			−		
236	15b	土葬	方形	0.74 × 0.72	−	古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（４枚）			不良		
148	15a	土葬	方形	0.85 × (0.94)	−	古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）、漆器			不良		
147	15a	土葬	長方形か	0.84 × (1.13)	−				不良		
146	15a	土葬	方形か	0.78 × (0.95)	−	不明銭貨（６枚）			不良		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
441	15a	土葬	円形か	0.93 ×（0.85）	−				不良		
167	15a	−	方形	1.15 × 1.35	−		△	廃棄土坑	−		
179	15a	土葬	長方形	0.76 × 1.45	木棺（0.5 × 0.5）	古寛永通寶（２枚）、元豊通寶（１枚）、政和通寶（１枚）、開元通寶（３枚）、元祐通寶（１枚）、皇宋通寶（１枚）、不明銭貨（８枚）	○	被葬者２体	良好	女性	成人
		火葬	−	−	蔵骨器			上層で出土	−	不明	子供
442	15a	土葬	楕円形か	（0.57）×（0.65）	−				不良		
443	15a	土葬	方形	（0.43）×（0.90）	−	古寛永通寶（１枚）、至元通寶（１枚）			不良		
444	15a	土葬	方形	0.78 × 0.92		色絵蓋、ミニチュア土器			不良		
445	15a	土葬	方形か	0.84 ×（0.75）		古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（１枚）、祥符通寶（１枚）、元祐通寶（１枚）、皇宋通寶（１枚）、景祐元寶（１枚）、不明銭貨（20枚）、陶器椀		銭は一部ST444のものが混じる	不良		
446	15a	土葬	方形か	0.73 ×（0.59）		古寛永通寶（２枚）、天聖元寶（２枚）、不明銭貨（７枚）、土師器皿			不良		
192	15a	土葬	方形	0.70 × 0.60		古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（９枚）			良好	女性	成人
157	16b	−	不明	（1.12）×（2.31）		元符通寶（１枚）、土師器皿		上層廃棄土坑	−		
447	16b	−	方形	0.90 × 1.04		古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（１枚）、元豊通寶（１枚）、不明銭貨（６枚）、土師器皿、青磁椀			−		
448	16b	−	方形か	0.75 ×（0.75）					−		
449	16b	土葬	方形か	0.88 × 0.70		古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（３枚）			不良		
450	16b	土葬	方形か	0.95 ×（0.57）		古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）			やや不良		
245	16b	−	方形	0.86 × 0.91		古寛永通寶（３枚）、聖宋元寶（１枚）、祥符□□（１枚）、不明銭貨（６枚）	△		−		
246	16b	−	方形	0.50 × 0.68		新寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）			−		
247	16b	土葬	円形	0.87 × 0.73		古寛永通寶（１枚）、新寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）、青銅製品			不良		
248	16b	−	方形か	0.84 ×（0.68）	木棺（0.45）×（0.45）		○		−		
249	16b	土葬	方形か円形	0.92 ×（0.68）			△		やや不良		
250	16b	土葬	方形	0.78 × 0.75		□寛永通寶（１枚）、念仏銭（３枚）、不明銭貨（８枚）、陶器椀			やや不良	不明	成人
251	16b	−	不明	0.73 ×（0.70）					−		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
252	16b	－	方形か	0.82 ×（0.65）		元祐通寶（１枚）、不明銭貨（17枚）			－		
216	16b	土葬	方形か	0.82 ×（0.38）					やや良好		
208	16b	土葬	方形	0.84 × 0.78		新寛永通寶（１枚）、□寛永通寶（１枚）			良好	男性	成人
451	16b	土葬	不明	0.64 ×（0.37）		不明銭貨（８枚）、染付小椀			不良		
244	16b	土葬	不明	（－）×（－）					不良		
452	16a	土葬	不定形	0.76 × 0.98					不良		
453	16a	－	長方形か	0.53 ×（0.75）					－		
454	16a	－	方形か	（0.82）× 0.91		熙寧元寶（１枚）、皇宋通寶（２枚）、不明銭貨（９枚）			－		
455	16a	－	方形	0.68 × 0.78		新寛永通寶（２枚）、土師器皿、ミニチュア土器			－		
456	16a	－	不明	（－）×（－）	胞衣壷か				－		
457	16a	－	不定形	0.91 × 0.94					－		
168	16a	土葬	方形か	1.17 × 1.23	木棺	土師器皿、染付椀、青銅製品（座金具）	○		不良		
458	16a	土葬	方形か	0.75 ×（0.45）					不良		
459	16a	土葬	不明	0.93 ×（－）					不良		
460	16a	土葬	不明	0.70 ×（－）		新寛永通寶（３枚）		墓石出土	不良		
259	16a	土葬	方形か	0.62 ×（0.40）					やや良好		未成年か
240	16a	土葬	方形	0.72 × 0.77		古寛永通寶（２枚）、□寛永通寶（１枚）、不明銭貨（７枚）、染付椀、青銅製品（鋲）		上層から墓石出土	やや良好	女性	成人
239	16a	土葬	楕円形か方形	0.79 ×（0.90）		新寛永通寶（１枚）			やや良好	女性か	成人
188	17b	土葬	円形か	0.89 × 1.06	木棺	古寛永通寶（２枚）、新寛永通寶（１枚）、□寛永通寶（１枚）	○	上層から墓石出土	不良		
469	17b	土葬	方形	0.58 ×（0.55）	木棺			底部木質遺存	良好	女性か	成人
81	17b	土葬	方形か	0.75 ×（0.55）	木棺	新寛永通寶（４枚）、□寛永通寶（１枚）、不明銭貨（１枚）、土師器皿	○	底部木質遺存	良好		
122	17b	土葬	方形	1.46 × 1.00				墓石出土	不良		
200	17b	－	方形か	0.88 ×（0.77）		不明銭貨（６枚）			－		
199	17b	土葬	方形	0.85 × 0.75	木棺	新寛永通寶（1枚）、不明銭貨（５枚）、青銅製品	○		不良		
385	17b	土葬	方形	0.76 ×（1.00）	木棺	古寛永通寶（1枚）、新寛永通寶（1枚）、不明銭貨（15枚）、土師器皿	○		やや良好		
386	17b	土葬	方形か	0.64 ×（0.68）		古寛永通寶（３枚）、不明銭貨（３枚）、漆器			不良		
387	17b	－	不明	0.59 ×（－）		古寛永通寶（１枚）、漆器			－		
388	17b	土葬	方形	0.72 × 0.66	木棺	不明銭貨（７枚）、土師器皿	○		やや良好		

遺構番号	墓群番号	埋葬方法	掘形形状	掘形規模（m）	埋葬施設（数値はm）	副葬品・他	釘	備考	人骨遺存状態	性別	年齢
243	17b	土葬	方形	0.90 × 0.73		新寛永通寶（３枚）、不明銭貨（７枚）	△		やや良好	不明	成人
397	17b	土葬	円形か	1.24 × 1.20		古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（４枚）、漆器			不良		
120	17a	土葬	方形	0.69 × 0.90		古寛永通寶（３枚）、聖宋元寶（１枚）、至道元寶（１枚）、元豊通寶（１枚）、不明銭貨（６枚）			不良		
389	17a	－	方形か	0.61 × (0.35)					－		
390	17a	土葬	方形か	0.65 × 0.78		不明銭貨（６枚）	△		やや不良		
198	17a	土葬	方形か	(0.76) × 0.98		古寛永通寶（１枚）、皇宋通寶（１枚）、不明銭貨（10枚）	△		不良		
391	17a	土葬	長方形か	0.76 × (1.00)		開元通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）	△		不良		
392	17a	－	方形か	0.72 × (0.87)		古寛永通寶（２枚）、不明銭貨（４枚）、染付椀			－		
393	17a	土葬	方形	0.68 × 0.65					やや良好		
394	17a	土葬	方形	0.82 × 0.62					やや不良		
395	17a	土葬	方形	1.00 × 0.74		古寛永通寶（１枚）、不明銭貨（５枚）			不良		
396	17a	－	方形	0.83 × 0.73					－		
398	17a	土葬	不明	(1.00) × (1.07)		古寛永通寶（２枚）、新寛永通寶（２枚）、元豊通寶（１枚）、熙寧元寶（１枚）、不明銭貨（12枚）	△		不良		
399	17a	－	不明	(0.25) × (0.49)		古寛永通寶（５枚）、元豊通寶（１枚）、不明銭貨（３枚）	△		－		
461	18b	－	－	－					－		
462	18b	－	－	－		熙寧元寶（２枚）			－		
463	18a	－	－	－					－		
464	18a	－	－	－					－		
465	18a	－	－	－					－		
466	18a	－	－	－					－		
52	－	－	方形	0.50 × 0.60		祥符通寶（１枚）、元祐通寶（２枚）、元豊通寶（１枚）、不明銭貨（８枚）			－		
76	－	土葬	方形	0.50 × 4.70					やや良好	不明	成人

付表7　土器・土製品観察表

〈凡例〉
・口径欄の記号　（　）；復元径
・器高欄の記号　（　）；残存高
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示
・－；該当部位なし

北・南地区

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
1	土師器	皿	ＳＫ34	5.4	1.2	－	8/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
2	土師器	皿	ＳＫ34	（13.8）	（1.4）	－	2/12	やや密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	灯明皿
3	土師器	皿	ＳＰ45	（10.7）	1.7	－	3/12	やや密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
4	陶器	水滴	ＳＰ30	2.5	（3.7）	3.2	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）	灰白（7.5YR8/2）		
5	陶器	土瓶	ＳＰ30	（7.4）	（3.6）	－	2/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）	灰白（7.5Y7/2）	京・信楽系	
6	土師器	皿	ＳＫ42	5.3	1.1	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
7	土師器	皿	ＳＫ42	5.7	1.0	－	ほぼ完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
8	土師器	皿	ＳＫ42	（14.6）	（2.1）	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	灯明皿
9	土師器	皿	ＳＫ36	5.8	1.1	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
10	土師器	皿	ＳＫ36	10.3	1.9	－	ほぼ完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
11	土師器	皿	ＳＫ36	10.6	2.2	－	10/12	密	浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	灯明皿
12	土師器	皿	ＳＫ36	10.0	1.9	－	完形	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	灯明皿
13	土師器	皿	ＳＫ36	10.3	2.0	－	ほぼ完形	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	灯明皿
14	土師器	皿	ＳＫ36	10.5	2.1	－	11/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
15	土師器	皿	ＳＫ35	10.6	2.0	－	6/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	灯明皿
16	土師器	皿	ＳＫ35	10.6	1.8	－	7/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
17	土師器	皿	ＳＫ35	10.4	2.4	－	完形	密	橙（5YR6/6）		在地	灯明皿
18	土師器	皿	ＳＫ35	（13.9）	（1.7）	－	1/12	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	
19	陶器	椀	ＳＫ35	（9.8）	（3.6）	－	2/12	密	灰白（7.5Y7/1）		肥前系	
20	土師器	皿	ＳＫ03	10.6	2.1	－	ほぼ完形	やや密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
21	土師器	皿	ＳＫ03	12.0	2.3	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
22	陶器	鉢	ＳＫ03	（16.8）	7.2	14.2	1/12	やや密	灰（5Y6/1）		信楽系	
24	土師器	小壺	ＳＫ08	（2.0）	2.0	－	1/12	密	灰白（10YR8/2）		在地	
25	染付	椀	ＳＫ08	－	（3.5）	4.9	底）6/12	精良	白（N9/0）		肥前系	高台内「□明成□□製」
26	染付	皿	ＳＫ08	14.4	3.8	7.9	7/12	精良	白（N9/0）		肥前系	高台内「太明年製」
27	土師器	皿	ＳＫ04	11.5	（1.6）	－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
28	土師器	塩壺蓋	ＳＫ96	7.2	1.6	－	10/12	やや密	明赤褐（2.5YR5/6）			
29	土師器	皿	ＳＫ98	10.2	（2.3）	－	10/12	やや密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
30	土師器	皿	ＳＤ18	（13.2）	（2.0）	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	内面全体に煤付着
31	青磁	椀	ＳＤ18	（12.4）	（2.4）	－	1/12以下	密		オリーブ灰（10Y6/2）	中国	
32	陶器	擂鉢	ＳＤ37	－	（9.0）	（20.3）	底）7/12	粗	にぶい黄（2.5Y6/3）		信楽系	

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
33	土師器	皿	ＳＫ01	6.8	（1.2）	－	4/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
34	土師器	皿	ＳＫ01	5.8	1.3	－	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
35	陶器	徳利	ＳＥ29	－	（12.6）	8.0	底）完形	やや密	浅黄（2.5Y8/3）		肥前系	朝鮮唐津
36	土師器（施釉）	椀	攪乱95	6.9	3.6	3.7	4/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰褐（5YR5/2）		
37	土師器	ミニチュア土器	攪乱95	3.8	1.1	－	11/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）			釜の蓋
38	土製品	人形	攪乱95	長（2.1）	2.9	幅0.85	ほぼ完形	密	橙（7.5YR6/6）		京都系	天神
39	磁器	箸置	攪乱1	長3.7	1.2	幅2.5	完形	精良	白（N9/0）	紺	肥前系	
40	土師器	ミニチュア土器	攪乱1	（6.0）	2.0	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）			内面に菊形押文、片口
41	陶器	蓋	攪乱1	（6.9）	2.4	－	2/12	密	灰白（2.5Y8/1）		京焼系か	
42	緑釉陶器	皿	攪乱8	－	（1.5）	5.5	底）3/12	やや密	浅黄（2.5Y7/3）			
43	色絵	椀	攪乱7	（6.9）	4.6	3.0	3/12	密	灰白（2.5Y8/1）		肥前系	
44	染付	椀	攪乱7	8.6	（3.6）	－	4/12	密	白（N9/0）			
45	染付	椀	攪乱7	－	（3.8）	3.8	底）6/12	精良	灰白（5Y8/1）			
46	染付	椀	攪乱7	－	（3.8）	5.7	底）12/12	密	白（N9/0）			高台内「卍」
47	染付	蓋	攪乱7	8.9	3.0	3.4	完形	密	白（N9/0）		肥前系	
48	染付	椀	攪乱7	10.3	5.6	3.7	完形	精良	白（N9/0）			
49	染付	鉢	攪乱8	－	（4.0）	（12.1）	3/12	密	白（N9/0）			八角形か
50	染付	植木鉢	攪乱7	幅（9.6）	（9.3）	－	不明	密	白（N9/0）		肥前系	六角形か
51	染付	鉢	攪乱7	（14.6）	4.6	（9.1）	3/12	密	灰白（5Y8/2）		肥前系	口縁輪花状
52	青磁	皿	攪乱7	－	（1.8）	4.6*4.9	底）完形	密	白（N9/0）		京都系	高台に朱
53	須恵器	杯	宝永焼土内	－	（2.1）	6.8	3/12	やや密	灰黄（2.5Y7/2）			
54	土師器	皿	宝永焼土内	10.4	（2.1）	－	4/12	やや密	にぶい黄橙（10YR6/3）		在地	
55	染付	小椀	宝永焼土内	7.3	3.9	2.4	12/12	密	灰白（N8/1）		肥前系	内面に「東山花陽」
56	土師器	皿	断ち割りシルト層礫層	5.4	1.2	－	6/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
57	土師器	皿	南断ち割りシルト層下層礫層	10.0	（2.0）	－	6/12	やや密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
58	土師器	皿	南断ち割りシルト層下層礫層	9.2	2.2	－	11/12	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	
59	陶器	擂鉢	南断ち割りシルト層下層礫層	（41.1）	（11.3）	－	2/12	密	暗赤褐（10R3/3）		丹波系	
60	陶器	浅鉢	包含層（地点は第9図）	10.8	5.3	6.5	完形	精良	灰白（10YR8/2）	灰白（5Y7/2）	京都系	京焼
61	陶器	建水	包含層（地点は第9図）	13.7	7.3	7.4	完形	精良	灰白（10YR8/2）	灰白（5Y7/2）	京都系	京焼
62	陶器	水指蓋	包含層（地点は第9図）	13.0	2.4	－	完形	精良	灰白（2.5Y8/2）	灰白（5Y7/2）	京都系	京焼
63	陶器	水指	包含層（地点は第9図）	14.1	17.6	14.2	11/12	精良	灰白（2.5Y8/2）	灰白（5Y7/2）	京都系	京焼
64	陶器	釜蓋	包含層（地点は第9図）	11.5	3.7	－	ほぼ完形	精良	灰白（2.5Y8/2）	灰白（5Y7/2）	京都系	京焼

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
65	陶器	釜	包含層（地点は第９図）	12.9	14.4	9.9	ほぼ完形	精良	灰白（2.5Y8/1）	灰白（5Y7/2）	京都系	京焼
66	陶器	風炉	包含層（地点は第９図）	21.0	16.9	－	12/12	精良	灰白（2.5Y8/2）	灰白（5Y7/2）	京都系	京焼
67	陶器	灯立	包含層（地点は第９図）	2.4	15.6	6.0	完形	精良	灰白（2.5Y8/2）	灰白（5Y7/2）	京都系	京焼
68	緑釉陶器	皿	６トレ断ち割り	－	（1.7）	7.5	底）6/12	密	灰白（7.5Y7/1）			
69	緑釉陶器	皿	６トレ廃土	－	（1.4）	（8.8）	底）2/12	密	灰白（5Y7/2）			
70	土師器	皿	６トレ断ち割り西壁	（13.8）	（1.3）	－	1/12	やや粗	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
71	灰釉陶器	椀	６トレ東西断ち割り	（13.9）	（2.8）	－	2/12	密	灰白（5Y7/1）		東海系	
72	灰釉陶器	椀	６トレ断ち割り西壁	（15.2）	（4.6）	－	2/12	やや密	灰白（2.5Y7/1）		東海系	
73	須恵器	壺	６トレ東西断ち割り	－	（4.6）	（12.9）	2/12	やや密	灰白（2.5Y7/1）			
74	陶器	椀	６トレ南北断ち割り	－	（4.2）	5.4	底）6/12	やや密	にぶい橙（7.5YR6/4）		肥前系	
105	土師器	皿	ＳＫ517	5.1	1.3	－	5/12	密	褐灰（7.5YR4/1）		在地	
106	土師器	皿	ＳＫ517	5.6	（1.0）	－	5/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
107	土師器	皿	ＳＫ517	6.6	1.1	－	4/12	密	にぶい黄橙（10YR6/4）		在地	
108	土師器	皿	ＳＫ517	7.2	1.5	－	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
109	土師器	皿	ＳＫ517	（8.7）	（2.3）	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
110	土師器	皿	ＳＫ517	8.4	（1.9）	－	4/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
111	土師器	皿	ＳＫ517	（9.6）	（1.9）	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
112	土師器	皿	ＳＫ517	（11.0）	1.9	－	1/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
113	土師器	皿	ＳＫ517	9.8	2.1	－	4/12	密	褐灰（10YR5/1）		在地	
114	土師器	皿	ＳＫ517	11.4	2.0	－	4/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
115	土師器	皿	ＳＫ517	（12.0）	（2.4）	－	2/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
116	土師器	皿	ＳＫ517	（12.1）	（1.9）	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
117	土師器	皿	ＳＫ517	（12.6）	（2.2）	－	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
118	土師器	鉢	ＳＫ517	（12.6）	（4.3）	－	3/12	密	灰白（2.5Y8/2）		在地	
119	陶器	向付	ＳＫ517	（12.6）	（1.5）	－	1/12	密	浅黄橙（2.5Y7/4）		瀬戸・美濃系	黄瀬戸
120	土師器	皿	ＳＫ551	10.1	1.9	－	5/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
121	陶器	椀	ＳＫ551	（1.5）	3.7	－	1/12	密	浅黄橙（10YR8/4）	黄褐（2.5Y5/3）	瀬戸・美濃系	天目椀
122	土師器	皿	ＳＫ574	（11.8）	1.0	－	1/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	コースター形
123	土師器	皿	ＳＫ574	11.0	2.3	－	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
124	土師器	皿	ＳＫ574	10.6	2.3	－	10/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	灯明皿
125	土師器	皿	ＳＸ815	5.7	1.2	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
126	土師器	皿	ＳＸ815	5.3	1.1	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
127	土師器	皿	ＳＸ815	4.8	1.9	－	10/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
128	土師器	皿	S X 815	11.0	2.2	−	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
129	土師器	皿	S X 815	10.8	2.3	−	完形	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
130	土師器	皿	S X 815	（11.4）	（1.7）	−	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
131	土師器	皿	S X 815	11.1	2.2	−	完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
132	土師器	皿	S X 815	10.8	2.0	−	完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
133	土師器	皿	S X 815	（12.9）	（2.3）	−	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
134	土師器	塩壺蓋	S X 815	6.6	2.3	−	10/12	密	内）浅黄橙（10YR8/4） 外）にぶい橙（5YR6/4）			
135	土師器	塩壺	S X 815	5.6	（8.5）	−	9/12	やや密	赤（10R5/6）			
136	陶器	椀	S X 815	11.1	6.0	4.2	9/12	精良	灰黄（2.5Y7/2）	灰オリーブ（7.5Y6/2）	肥前系	
137	陶器	椀	S X 815	10.4	5.1	4.3	4/12	精良	灰白（2.5Y8/2）		瀬戸・美濃系	志野
138	陶器	椀	S X 815	9.9	6.5	4.1	10/12	密	橙（7.5YR6/6）	浅黄（2.5Y7/3）	肥前系	
139	陶器	椀	S X 815	10.4	6.0	−	4/12	精良	にぶい褐（7.5YR5/4）	灰（7.5Y6/1）	肥前系	
140	陶器	椀	S X 815	10.8	6.6	4.6	10/12	精良	橙（7.5YR7/6）	オリーブ黄（5Y6/3）	肥前系	
141	陶器	椀	S X 815	11.0	6.1	−	8/12	精良	にぶい赤褐（5YR5/4）・灰白（5Y7/1）	暗オリーブ（5Y4/4）	肥前系	
142	陶器	椀	S X 815	11.6	7.3	5.3	6/12	精良	浅黄橙（10YR8/3）	黒褐（7.5YR2/2）	瀬戸・美濃系	褐釉
143	土師器	皿	S K 704	6.2	1.5	−	完形	密	橙（5YR7/6 ～ 6/6）		在地	灯明皿
144	土師器	皿	S K 704	6.4	1.5	−	8/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
145	土師器	皿	S K 704	5.2	1.4	−	12/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	灯明皿
146	土師器	皿	S K 704	5.2	1.3	−	12/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
147	土師器	皿	S K 704	8.7	2.0	−	7/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
148	土師器	皿	S K 704	9.9	1.8	−	8/12	密	浅黄（2.5Y7/3）		在地	
149	陶器	小椀	S K 704	5.3	2.4	2.3	7/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		瀬戸・美濃系	
150	土師器	小壺	S K 704	2.2	2.7	−	完形	密	にぶい橙（5YR7/4）		在地	
151	陶器	皿	S K 704	（11.4）	2.3	−	2/12	精良	内）灰（N 4/0 ～ 3/0） 外）灰（10Y4/1）			灯明皿
152	陶器	皿	S K 704	11.4	2.4	−	5/12	精良	にぶい赤褐（2.5YR4/3）			灯明皿、底部糸切り痕、一か所に取手
153	染付	椀	S K 704	9.5	6.3	4.3	11/12	精良	灰白（N8/0）	明オリーブ灰（2.5GY7/1）	肥前系	露胎部砂目痕
154	染付	椀	S K 704	10.7	5.7	3.8	8/12	精良	灰白（N8/0）		肥前系	
155	陶器	皿	S K 704	11.0	2.8	3.9	10/12	精良	にぶい褐（7.5YR5/4）	黄灰（2.5Y6/1）	肥前系	灰釉
156	陶器	向付	S K 704	10.6	6.5	6.2	8/12	精良	明赤褐（5YR5/8）	褐（7.5YR4/3）・にぶい黄橙（10YR7/3）	肥前系	
157	白磁	椀	S K 704	9.0	6.5	（4.6）	5/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
158	陶器	皿	S K 704	−	−	−	不明	精良	浅黄（2.5Y8/3）		京都系	
159	陶器	風炉	S K 704	（16.4）	13.3	−	3/12	精良	淡橙（5YR8/3）	橙（7.5YR6/6）	京・信楽系	
160	陶器	鉢	S K 704	20.4	5.9	6.0	6/12	精良	灰白（N8/0）	淡青緑	肥前系	銅緑釉
161	陶器	鉢	S K 704	18.4	7.0	5.6	8/12	精良	灰白（10YR8/2）	淡青緑	肥前系	銅緑釉

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
162	土師器	壺	S K 704	(8.9)	(4.7)	−	1/12	密	浅黄橙（10YR8/3）・黄灰（2.5Y4/1）			
163	土製品	人形	S K 704	長（3.6）	(4.7)	−	破片	やや密	にぶい橙（7.5YR7/4）		京都系	お稲荷さんか
164	土師器	皿	S K 562	5.7	1.3	−	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
165	土師器	皿	S K 562	5.6	1.4	−	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
166	土師器	皿	S K 562	5.7	1.3	−	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
167	土師器	皿	S K 562	(9.8)	1.7	−	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
168	土師器	皿	S K 562	(10.6)	1.9	−	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
169	土師器	皿	S K 535	5.3	1.3	−	ほぼ完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
170	土師器	皿	S K 535	10.4	2.3	−	6/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
171	土師器	皿	S K 550	(13.0)	(2.0)	−	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
172	土師器	皿	S K 550	(11.1)	(1.9)	−	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	灯明皿か
173	土師器	皿	S K 708	6.5	(1.6)	−	完形	密	橙（5YR7/6）		在地	灯明皿
174	土師器	皿	S K 708	5.4	1.1	−	ほぼ完形	密	橙（5YR7/6）		在地	
175	土師器	皿	S K 708	6.0	1.6	−	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
176	土師器	皿	S K 708	8.7	1.8	−	10/12	密	にぶい橙（5YR7/3）		在地	
177	土師器	皿	S K 708	12.0	2.0	−	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	灯明皿
178	土師器	ミニチュア土器	S K 708	2.5	2.6	3.2	10/12	密	明黄褐（10YR7/6）			手付カップ形
179	土製品	鈴	S K 708	長 3.6	幅 3.2	−	ほぼ完形	密	浅黄（2.5Y8/3）		在地	
180	瓦質土器	蓋	S K 708	上部径 4.7	2.8	下部径 3.7	8/12	密	黒（N2/0）			
181	白磁	小瓶	S K 708	−	(5.4)	−	不明	精良	白（N9/0）		肥前系	
182	染付	小椀	S K 708	7.6	5.2	3.5	4/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
183	白磁	小椀	S K 708	(7.0)	(3.8)	−	3/12	精良	白（N9/0）		中国	
184	陶器	小椀	S K 708	6.8	5.3	(3.1)	8/12	精良	橙（7.5YR6/6）	黒褐（2.5Y3/1～3/2）	肥前系	褐釉
185	白磁	椀	S K 708	10.4	6.0	4.2	9/12	精良	灰白（5Y8/1～7/1）		肥前系	
186	陶器	椀	S K 708	9.3	6.2	5.4	9/12	精良	灰白（2.5Y8/1）		肥前系	高台内「雲」、京焼風
187	白磁	椀	S K 708	9.8	5.3	4.4	8/12	精良	白（N9/0）	灰白（N8/0）～暗褐（7.5YR3/4）	肥前系	
188	染付	椀	S K 708	10.5	5.4	4.2	9/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
189	染付	皿	S K 708	3.6	3.2	(6.3)	11/12	精良	白（N9/0）	灰白（2.5GY8/1）	肥前系	
190	磁器	香合蓋	S K 708	5.5	1.3	−	7/12	精良	灰白（7.5Y8/1）		肥前系	
191	白磁	仏飯器	S K 708	6.0	4.8	3.0	5/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
192	陶器	皿	S K 708	13.2	3.6	−	8/12	精良	灰白（2.5Y8/2）	青緑～萌黄	肥前系	銅緑釉
193	青磁	香炉	S K 708	10.7	7.6	−	11/12	精良	橙（5YR6/6）	明オリーブ灰（5GY7/1）	肥前系	三脚
194	青磁	香炉	S K 708	10.8	8.7	−	11/12	精良	灰白（5Y8/1）	明緑灰（7.5GY8/1）	肥前系	三脚
195	陶器	鉢	S K 708	18.5	7.3	5.8	8/12	精良	灰黄（2.5Y7/2）	灰白（7.5Y7/1）	肥前系	唐津
196	陶器	椀	S K 708	−	(3.2)	4.8	底）完形	精良	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰白（2.5Y8/2）	朝鮮	
197	土師器	鍋	S K 708	28.6	(5.2)	−	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）			
198	土師器	焙烙	S K 708	27.0	(5.4)	−	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）			
199	土製品	人形	S K 708	幅 1.8	4.1	厚さ 1.3	完形	密	灰白（2.5Y8/2）	黄褐（10YR5/6）	京都系	猿
200	土製品	人形	S K 708	幅 2.8	3.0	厚さ 1.1	完形	密	灰白（5Y8/1）	浅黄（5Y7/4）	京都系	天神

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
201	土製品	人形	S K 708	幅 6.2	(4.9)	厚さ 2.2	一部欠損	密	灰白（5Y8/1）	三彩：淡黄（5Y8/1）・暗赤褐（5YR3/6）・オリーブ灰（10Y5/2）より明るい緑	京都系	
202	土師器	Ⅲ	S K 619	9.7	2.4	−	10/12	密	橙（5YR6/6）		在地	
203	土師器	Ⅲ	S K 619	10.1	2.2	−	7/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
204	土師器	Ⅲ	S K 619	10.9	2.2	−	11/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
205	土師器	Ⅲ	S K 619	11.2	2.1	−	5/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	灯明皿
206	土師器	Ⅲ	S K 619	10.0	2.2	−	7/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
207	土師器	Ⅲ	S K 619	9.7	1..8	−	5/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
208	土師器	Ⅲ	S K 619	10.6	2.1	−	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
209	土師器	Ⅲ	S K 619	10.6	2.1	−	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
210	土師器	Ⅲ	S K 619	9.8	(2.1)	−	4/12	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
211	土師器	Ⅲ	S K 619	9.8	2.0	−	5/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
212	土師器	Ⅲ	S K 619	11.1	2.3	−	ほぼ完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	灯明皿
213	土師器	Ⅲ	S K 619	11.1	2.1	−	4/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	煤付着
214	土師器	Ⅲ	S K 619	9.8	2.4	−	11/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
215	土師器	Ⅲ	S K 619	10.4	(2.1)	−	4/12	密	橙（7.5YR6/6）		在地	
216	土師器	Ⅲ	S K 619	11.1	(2.0)	−	5/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	灯明皿
217	土師器	Ⅲ	S K 619	(11.2)	2.0	−	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
218	土師器	Ⅲ	S K 619	(10.0)	2.2	−	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
219	土師器	Ⅲ	S K 619	9.8	2.0	−	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
220	土師器	Ⅲ	S K 619	11.3	(2.0)	−	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
221	土師器	Ⅲ	S K 619	11.3	2.1	−	7/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
222	土師器	Ⅲ	S K 619	9.6	1.8	−	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
223	土師器	Ⅲ	S K 619	11.0	2.1	−	5/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	少量煤付着
224	土師器	Ⅲ	S K 619	11.4	1.9	−	4/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
225	土師器	Ⅲ	S K 619	(12.1)	2.0	−	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
226	土師器	Ⅲ	S K 619	(9.5)	(1.9)	−	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
227	土師器	Ⅲ	S K 619	10.0	2.0	−	4/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
228	土師器	Ⅲ	S K 619	13.0	2.1	−	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
229	土師器	Ⅲ	S K 619	12.0	1.8	−	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
230	土師器	Ⅲ	S K 619	(10.1)	(2.2)	−	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
231	土師器	Ⅲ	S K 619	11.1	2.1	−	11/12	密	浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	
232	土師器	Ⅲ	S K 619	(11.0)	2.0	−	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
233	土師器	Ⅲ	S K 619	12.2	2.2	−	8/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
234	土師器	Ⅲ	S K 619	(10.1)	(2.0)	−	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
235	土師器	Ⅲ	S K 619	10.6	2.2	−	5/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
236	土師器	Ⅲ	S K 619	11.2	(1.9)	−	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
237	土師器	皿	ＳＫ619	10.7	2.1	－	4/12	密	橙（5YR6/6）		在地	
238	土師器	皿	ＳＫ619	10.3	2.0	－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
239	土師器	皿	ＳＫ619	10.9	2.1	－	11/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
240	土師器	皿	ＳＫ619	12.3	2.0	－	4/12	密	にぶい橙（5YR7/4）		在地	
241	土師器	皿	ＳＫ619	12.6	2.0	－	7/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
242	土師器	皿	ＳＫ619	11.0	2.1	－	10/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	灯明皿
243	土師器	皿	ＳＫ619	（10.0）	2.0	－	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
244	土師器	皿	ＳＫ619	12.7	2.0	－	5/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
245	土師器	皿	ＳＫ619	（13.4）	2.1	－	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
246	陶器	椀	ＳＫ619	（11.0）	（2.3）	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）	黒（7.5YR1.7/1）	瀬戸・美濃系	天目椀
247	陶器	椀	ＳＫ619	（11.8）	（1.6）	－	1/12 以下	密	にぶい橙（7.5YR7/4）	暗褐（7.5YR3/3）	瀬戸・美濃系	天目椀
248	白磁	椀	ＳＫ619	（16.2）	（2.1）	－	1/12 以下	密	淡黄（2.5Y8/3）		中国	
249	白磁	壺	ＳＫ619	（10.0）	（2.7）	－	2/12	密	灰白（2.5Y8/1）	灰白（2.5Y8/2）	中国	
250	土師器	塩壺	ＳＫ619	3.6	6.1	3.0	5/12	密	橙（5YR6/6）			
251	陶器	向付	ＳＫ619	（9.2）	（6.9）	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/3）	灰白（2.5YR8/1）	瀬戸・美濃系	志野
252	陶器	水注	ＳＫ619	5.6	10.0	6.0	6/12	密		灰白（10YR8/1）	瀬戸・美濃系	志野
253	陶器	擂鉢	ＳＫ619	（28.4）	（4.1）	－	1/12 以下	密	にぶい赤褐（2.5YR4/4）		備前系	
254	瓦質土器	羽釜	ＳＫ619	－	（3.4）	－	不明	密	内）灰黄（2.5Y7/2）外）黄灰色（2.5Y5/1）			
255	瓦質土器	羽釜	ＳＫ619	（25.8）	（10.1）	－	3/12	密	内）灰（N 5/0）～灰白（5Y7/1）外）暗灰（N 3/0）～灰（N 4/0）			
256	土師器	皿	ＳＫ620	5.6	1.3	－	4/1	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
257	土師器	皿	ＳＫ620	5.4	1.0	－	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
258	土師器	皿	ＳＫ620	5.4	1.3	－	10/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
259	土師器	皿	ＳＫ620	5.4	1.3	－	10/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
260	土師器	皿	ＳＫ620	（12.2）	（1.9）	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
261	灰釉陶器	椀	ＳＫ620	－	（2.7）	（6.6）	底）3/12	精良	灰白（2.5Y7/1）		東海系	
262	土師器	皿	ＳＸ525	5.4	1.3	－	6/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
263	土師器	皿	ＳＸ525	5.2	1.2	－	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	灯明皿
264	陶器	皿	ＳＸ525	（11.1）	1.9	－	3/12	精良	にぶい赤（7.5R4/4）			
265	土師器	皿	ＳＸ525	（12.7）	（1.7）	－	2/12	密	浅黄（5Y7/3）		在地	
266	土師器	小壺	ＳＸ525	（3.2）	（4.0）	－	3/12	密	灰白（2.5Y8/2）		在地	
267	土製品	鈴	ＳＸ525	長 6.4	幅 6.2	－	半分程度	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
268	陶器	椀	ＳＸ525	10.8	5.8	－	6/12	密	淡黄（2.5Y8/3）	浅黄（2.5YR7/4）・灰白（2.5YR8/3）	瀬戸・美濃系	黄瀬戸
269	染付	皿	ＳＸ525	（13.6）	2.8	8.6	2/12	精良	灰白（10Y8/1）		肥前系	
270	土師器	皿	ＳＫ526	（12.2）	（2.0）	－	1/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
271	陶器	皿	ＳＫ526	（10.7）	1.5	－	1/12	密	灰白（5Y7/2）		京・信楽系	灯明皿か

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
272	陶器	椀	ＳＫ 526	(11.6)	(5.3)	－	1/12	密	灰白（10YR8/2）	黒（10YR1.7/1）	瀬戸・美濃系	天目椀
273	陶器	椀	ＳＫ 526	－	(2.2)	4.7	7/12	密	灰白（10YR8/2）	黒（10YR1.7/1）	瀬戸・美濃系	天目椀
274	陶器	椀	ＳＫ 526	(11.0)	(3.3)	－	1/12 以下	密	淡黄（2.5Y8/3）		肥前系	
275	陶器	椀	ＳＫ 526	10.0	7.0	4.5	6/12	密	淡黄（2.5Y8/4）		肥前系	
276	青花	香炉蓋	ＳＫ 526	(6.0)	(2.1)	－	2/12	密	白（N9/0）		中国	
277	青磁	壺	ＳＫ 526	－	(5.3)	(15.6)	底）2/12	密	灰白（5Y8/1）		中国	
278	瓦質土器	鍋	ＳＫ 526	(27.5)	(3.2)	－	1/12 以下	密	灰（10YR7/1）			破片
279	陶器	擂鉢	ＳＫ 526	－	－	－	不明	密	灰白（2.5Y8/1）～極暗赤褐（5YR2/3）		信楽系	
280	土師器	皿	ＳＸ 519	(9.6)	2.1	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/4）			
281	須恵器	壺	ＳＸ 519	－	(5.3)	(9.8)	3/12	やや粗	内）灰黄（2.5Y6/2）外）黄灰（2.5Y6/1）			
282	土師器	皿	ＳＫ 709	5.0	1.5	－	12/12	密	にぶい橙（5YR6/4）		在地	
283	青磁	皿	ＳＫ 709	(14.3)	2.6	8.0	1/12	精良	灰白（7.5Y8/1）	青緑	肥前系	
284	染付	小瓶	ＳＫ 709	－	(4.4)	2.7	底）12/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
285	土師器	皿	ＳＫ 731	10.4	2.0	－	4/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
286	陶器	擂鉢	ＳＫ 731	－	(5.5)	－	不明	密	浅黄橙（10YR8/3）		京・信楽系	
287	土師器	鉢	ＳＫ 548	9.7	(3.8)	－	5/12	密	淡黄（2.5Y8/3）		在地	
288	須恵器	鉢	ＳＫ 548	(20.1)	(2.5)	－	1/12 以下	密	褐灰（10YR6/1）			
289	土師器	皿	ＳＸ 737	(9.2)	2.1	－	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
290	土師器	皿	ＳＸ 737	10.2	(1.9)	－	4/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
291	土師器	皿	ＳＸ 737	(12.6)	1.9	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
292	土師器	皿	ＳＫ 552	(12.6)	(2.3)	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
293	陶器	椀	ＳＫ 552	(9.6)	(1.8)	－	1/12	密		灰オリーブ（5Y6/2）	肥前系	
294	土師器	皿	ＳＫ 628	(10.2)	(2.0)	－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
295	土師器	皿	ＳＫ 628	11.8	1.9	－	9/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
296	青花	小椀	ＳＫ 628	7.2	4.3	2.7	11/12	密	白（N9/0）		中国	
297	青花	椀	ＳＫ 628	8.5	4.7	(3.5)	10/12	密	白（N9/0）		中国	見込みに「大明成化年製」
298	染付	椀	ＳＸ 729	(8.6)	6.0	4.0	3/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
299	土師器	平仄	ＳＸ 729	(15.6)	3.8	(14.6)	2/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
300	土師器	皿	ＳＸ 750	5.4	1.5	－	11/12	密	にぶい橙（5YR6/4）		在地	
301	土師器	皿	ＳＸ 750	5.3	1.4	－	9/12	密	橙（7.5YR6/6）		在地	
302	土師器	皿	ＳＸ 750	7.9	1.8	－	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
303	土師器	皿	ＳＸ 750	9.2	1.9	－	7/12	密	にぶい橙（7.5YR7/3）		在地	口縁煤付着。底部穿孔あり
304	土師器	鉢	ＳＸ 750	9.6	3.5	－	8/12	密	浅黄橙（2.5Y7/3）・にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
305	陶器	皿	ＳＸ 750	11.6	1.8	－	6/12	精良	にぶい橙（7.5YR7/4）	赤褐（2.5YR4/6）		飾り取っ手付き、灯明皿
306	陶器	椀	ＳＸ 750	(8.8)	(5.5)	(4.6)	3/12	精良	灰白（2.5Y8/2）	淡茶・濃茶	肥前系	斑唐津
307	陶器	椀	ＳＸ 750	(9.5)	6.8	(4.3)	1/12	精良	橙（5YR6/8）	黒褐（5YR2/2）・灰白（5YR8/1）	肥前系	褐釉
308	白磁	椀	ＳＸ 750	－	(3.9)	4.5	底）8/12	精良	灰白（5Y8/1）	明緑灰（7.5GY8/1）	肥前系	

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
309	染付	椀	ＳＸ750	(10.4)	(5.0)	－	3/12	精良	灰白（5Y8/1）		肥前系	
310	陶器	壺	ＳＸ750	(7.6)	7.7	－	1/12以下	精良	明赤褐（5YR5/6）・にぶい赤褐（5YR5/3）			体部に線刻「丁子冬日・非池古弐」
311	土師器	風炉	ＳＸ750	(22.2)	17.3	20.0	3/12	密	橙（7.5YR7/6）			
312	陶器	甕	ＳＸ750	47.8	(25.5)	－	6/12	密	灰白（2.5Y7/1）		信楽系	
313	土師器	皿	ＳＸ609	(12.0)	(2.0)	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
314	染付	椀	ＳＸ609	7.9	3.2	2.3	6/12	精良	灰白（5Y8/1）		肥前系	
315	染付	椀	ＳＸ609	9.8	5.1	3.4	7/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
316	染付	椀	ＳＸ609	10.8	5.2	4.4	6/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
317	染付	椀	ＳＸ609	10.8	5.5	3.6	2/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
318	陶器	椀	ＳＸ609	8.3	4.7	3.0	ほぼ完形	精良	灰黄（2.5Y7/2）	灰白（7.5Y7/1）・オリーブ灰（7.5Y3/1）	萩系	
319	染付	皿	ＳＸ609	10.1	2.5	6.2	ほぼ完形	精良	灰白（2.5Y8/1）	灰白（N8/0）、口縁）にぶい赤褐（2.5YR4/4）	瀬戸系	
320	染付	皿	ＳＸ609	14.5	4.7	8.8	11/12	精良	白（N9/0）	明緑灰（7.5GY8/1）		
321	陶器	土鍋蓋	ＳＸ609	11.3	3.7	－	10/12	精良	にぶい褐（7.5YR5/3）	にぶい赤褐（5YR4/3）		
322	陶器	土鍋蓋	ＳＸ609	18.2	4.3	－	9/12	精良	浅黄（2.5Y8/3）	にぶい褐（7.5YR5/4）	京都系	
323	陶器	土瓶蓋	ＳＸ609	6.5	2.8	－	ほぼ完形	精良	褐（7.5YR4/3）	灰オリーブ（5Y5/2）・灰褐（7.5YR4/2）	京・信楽系	
324	陶器	瓶	ＳＸ609	－	(11.8)	5.8	底）完形	密	灰白（5Y7/1）		信楽系	
325	陶器	鍋	ＳＸ609	18.6	(5.2)	－	4/12	精良	灰黄（2.5Y6/2）	褐（7.5YR4/3）	京都系	
326	陶器	鍋	ＳＸ609	14.3	8.0	6.2	11/12	精良	橙（5YR6/6）		京都系	
327	陶器	鍋	ＳＸ609	14.2	6.0	5.4	7/12	精良	褐（7.5YR4/4）		京都系	
328	陶器	土瓶	ＳＸ609	7.3	8.4	5.4	11/12	密	淡黄（2.5Y8/3）		京都系	
329	陶器	鉢	ＳＸ609	33.5	(9.3)	－	5/12	やや密	にぶい赤褐（5YR5/4）		肥前系	
330	土師器	鍋	ＳＸ609	(25.4)	(7.7)	－	1/12	やや密	内）にぶい黄橙（10YR7/3）外）灰黄褐（10YR4/2）			
331	土師器	皿	ＳＤ742	5.6	1.4	－	9/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
332	土師器	皿	ＳＰ796	(5.5)	1.1	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
333	土師器	皿	ＳＰ560	5.6	1.4	－	7/12	密	にぶい褐（7.5YR6/4）		在地	
334	土師器	皿	ＳＰ723	5.3	1.3	－	4/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
335	土師器	皿	ＳＰ509	6.0	1.4	－	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
336	土師器	皿	ＳＰ560	5.5	1.4	－	ほぼ完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
337	土師器	皿	ＳＤ817	9.4	2.1	－	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
338	土師器	皿	ＳＤ518	10.0	(2.7)	－	5/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
339	土師器	皿	ＳＰ789	10.7	2.5	－	8/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
340	土師器	皿	ＳＰ789	10.4	2.0	－	12/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	灯明皿
341	土師器	皿	ＳＰ576	(10.6)	(2.0)	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
342	土師器	皿	ＳＰ512	10.8	(1.6)	－	5/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
343	土師器	皿	ＳＤ817	10.4	2.2	－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	灯明皿
344	土師器	皿	ＳＰ545	(10.9)	(1.9)	－	2/12	やや密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	灯明皿

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
345	土師器	皿	ＳＰ 509	(11.2)	(1.9)	－	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	灯明皿
346	土師器	皿	ＳＤ 518	(11.8)	(2.3)	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
347	土師器	皿	ＳＤ 744	(9.6)	1.7	－	3/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
348	土師器	皿	ＳＰ 509	(11.4)	(2.4)	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
349	土師器	皿	ＳＤ 742	10.8	2.0	－	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
350	土師器	皿	ＳＰ 539	(10.7)	(1.5)	－	3/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
351	土師器	皿	ＳＰ 559	(10.1)	1.5	－	3/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地	
352	土師器	皿	ＳＰ 560	10.2	2.0	－	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
353	土師器	皿	ＳＰ 559	10.2	(1.7)	－	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
354	土師器	皿	ＳＰ 575	12.1	(2.1)	－	5/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
355	土師器	皿	ＳＰ 533	12.3	2.0	－	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
356	土師器	皿	ＳＰ 513	(10.5)	(1.8)	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	灯明皿
357	土師器	皿	ＳＰ 789	11.5	2.1	－	7/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
358	土師器	皿	ＳＰ 723	12.1	1.8	－	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
359	土師器	皿	ＳＰ 512	(13.4)	1.8	－	1/12 以下	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
360	須恵器	杯蓋	ＳＰ 560	(12.9)	(1.4)	－	1/12	やや密	黄灰（2.5Y6/1）			
361	土師器	小壺	ＳＰ 723	2.2	(2.8)	－	3/12	密	灰白（2.5Y8/2）		在地	
362	土師器	塩壺	ＳＰ 534	(9.6)	(2.3)	－	1/12 以下	やや粗	にぶい橙 (5YR7/4)			
363	陶器	椀	ＳＰ 560	11.0	5.4	3.5	10/12	精良	灰褐 (7.5YR5/2)		肥前系	
364	陶器	椀	ＳＰ 559	10.1	6.3	3.8	6/12	精良	にぶい黄 (2.5Y6/3)		肥前系	
365	色絵	椀	ＳＰ 603	9.8	5.3	3.7	11/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
366	染付	椀	ＳＤ 744	11.0	6.0	4.6	4/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
367	染付	椀	ＳＰ 625	15.4	8.4	(6.4)	8/12	密	白（N9/0）		肥前系	高台内に文字（不明）
368	染付	椀	ＳＰ 511	(10.2)	2.0	－	1/12	密	白（N9/0）	明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	肥前系	
369	陶器	椀	ＳＰ 507	(11.4)	(2.2)	－	1/12 以下	密	褐（7.5YR4/3）	黒褐 (7.5YR3/1)	瀬戸・美濃系	天目椀
370	陶器	椀	ＳＰ 513	(10.0)	(2.0)	－	1/12	密	灰黄（2.5Y6/2）	灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	
371	陶器	椀	ＳＰ 512	(11.0)	(3.5)	－	2/12	密	灰白（2.5Y8/1）		萩系	
372	陶器	向付	ＳＤ 782	－	(4.9)	－	不明	精良	灰白 (10YR8/2)	暗赤褐 (5YR3/4)・濃緑	瀬戸・美濃系	青織部
373	陶器	皿	ＳＰ 826	10.4	2.1	5.6	ほぼ完形	精良	灰白 (10YR9/1)	灰オリーブ (7.5Y5/3)・にぶい黄褐 (10YR5/4)	瀬戸・美濃系	
374	陶器	向付	ＳＤ 744	－	(4.0)	43.6	底）12/12	精良	灰白 (10YR7/1)		肥前系	鉄釉？（縦線）あり、絵唐津
375	染付	小瓶	ＳＤ 755	2.8	(2.1)	－	12/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
376	土製品	人形	ＳＰ 509	幅 (4.2)	(3.0)	－	不明	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		京都系	鳥形頭部か
377	土師器	塩壺	ＳＰ 789	(3.3)	(7.0)	－	1/12	密	橙（7.5YR7/6）			
378	土師器	風炉	ＳＰ 560	22.6	11.4	16.2	4/12	密	浅黄橙 (10YR8/4) ～黄橙 (10YR8/6)		京都系	
379	土師器	甕	ＳＰ 545	(15.1)	(1.4)	－	1/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)			
380	白磁	椀	ＳＰ 714	(15.0)	(2.7)	－	1/12 以下	精良	灰白（7.5Y7/1）		中国	
381	土師器	焙烙	ＳＤ 518	(23.8)	(2.9)	－	1/12 以下	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)			
382	土師器	鍋	ＳＤ 817	(30.0)	(9.7)	－	2/12	密	オリーブ黒 (5Y3/1)			

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
383	陶器	擂鉢	ＳＤ817	30.0	(6.9)	－	8/12	密	灰赤 (2.5YR4/2)		備前系	片口
384	陶器	擂鉢	ＳＤ744	(29.0)	(6.3)	－	1/12以下	やや粗	にぶい褐 (7.5YR5/4)		丹波系	
385	土師器	皿	ＳＤ941	(9.8)	1.9	－	3/12	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	
386	土師器	皿	ＳＰ920	9.1	1.7	－	4/12	やや粗	橙（7.5YR7/6）		在地	
387	土師器	皿	ＳＤ941	9.5	2.1	－	11/12	やや密	橙（5YR6/6）		在地	
388	土師器	皿	ＳＰ920	(10.4)	2.2	－	3/12	密	橙（2.5YR6/6）		在地	
389	土師器	皿	ＳＤ941	(11.1)	2.0	－	3/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
390	土師器	皿	ＳＤ941	(13.6)	(1.9)	－	3/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
391	土師器	皿	ＳＤ941	12.4	2.2	－	6/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
392	土師器	皿	ＳＤ941	(11.3)	(1.9)	－	3/12	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	
393	土師器	皿	ＳＤ941	(13.0)	(2.0)	－	3/12	密	にぶい橙 (5YR6/4)		在地	
394	土師器	皿	ＳＤ941	12.5	2.5	－	6/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
395	土師器	皿	ＳＰ925	(11.9)	(2.1)	－	2/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
396	土師器	皿	ＳＤ941	(11.8)	2.1	－	3/12	密	内）浅黄橙 (7.5YR8/4) 外）にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
397	土師器	皿	ＳＤ941	(12.0)	(2.2)	－	3/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
398	土師器	皿	ＳＤ941	(11.8)	(2.0)	－	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
399	土師器	皿	ＳＤ941	(13.2)	(2.2)	－	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
400	土師器	皿	ＳＤ941	(12.4)	(1.8)	－	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
401	土師器	皿	ＳＤ941	(13.6)	(2.0)	－	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
402	土師器	皿	ＳＤ941	9.5	2.0	－	6/12	やや密	橙（5YR6/8）		在地	
403	土師器	皿	ＳＰ921	(6.0)	1.9	－	1/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
404	土師器	皿	ＳＰ919	(11.4)	(2.3)	－	2/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
405	土師器	皿	ＳＰ924	(13.0)	(1.6)	－	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
406	土師器	皿	ＳＰ922	(13.9)	(2.0)	－	2/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
407	土師器	皿	ＳＰ920	16.2	2.3	－	7/12	密	橙（2.5YR6/6）		在地	
408	陶器	擂鉢	ＳＰ917	34.3	14.4	15.0	7/12	やや密	内）にぶい褐 (7.5YR5/3) 外）褐 (7.5YR4/6)		丹波系	
409	陶器	甕	ＳＰ906	－	(15.3)	(18.4)	底）完形	やや粗	橙（5YR6/4）		信楽系	
410	土師器	ミニチュア土器	ＳＫ935	3.8	1.5	－	完形	密	にぶい黄 (2.5Y6/3)			鍋蓋
411	土師器	小壺	ＳＫ935	2.2	(2.8)	－	6/12	やや密	浅黄（2.5Y7/3）		在地	
412	陶器	不明	ＳＫ935	(15.9)	(3.1)	－	1/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰オリーブ (7.5Y5/3)		
413	土師器	鍋か焙烙	ＳＰ924	(25.0)	(2.4)	－	1/12	密	黄灰（2.5Y4/1）			
414	青磁	皿	ＳＰ01	(8.1)	2.1	－	3/12	密	灰白（10Y8/1）	青灰	中国（明）	脚３か所か
415	土師器	小壺	ＳＫ05	2.1	2.5	1.7	完形	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
416	陶器	小椀	ＳＫ05	(5.8)	(2.3)	－	3/12	密	灰白（2.5Y8/2）	浅黄（2.5Y7/4）	瀬戸・美濃系	灰釉
417	土師器	皿	第２面精査	(5.0)		－	3/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
418	土師器	皿	第２面精査	(9.8)	2.0	－	3/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
419	土師器	皿	第２面精査	9.6	2.1	－	完形	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
420	土師器	皿	第２面精査	(4.8)	1.9	−	2/12	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	
421	土師器	塩壺	−	3.4	6.0	4.8	8/12	密	内）灰白（10YR8/2）外）にぶい橙（5YR7/4）		在地	
422	陶器	急須蓋	−	7.1	1.7	−	完形	精良	灰白（2.5Y8/2）	灰白（2.5Y7/1）	信楽系	
424	土師器	皿	ＳＫ780	5.6	1.3	−	ほぼ完形	密	橙（7.5YR6/6）		在地	灯明皿か
425	磁器	椀	ＳＫ780	6.2	2.8	2.1	ほぼ完形	精良	灰白（N8/0）		肥前系	
426	土師器	鉢	ＳＫ780	(8.8)	3.4	6.3	3/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
427	陶器	椀	ＳＫ780	(10.8)	7.0	5.0	3/12	精良	灰白（2.5Y8/2）	にぶい赤褐（5YR4/3）・黒（5YR1.7/1）	瀬戸・美濃系	天目椀
428	陶器	椀	ＳＫ780	(11.6)	4.1	4.0	3/12	精良	灰白（2.5Y8/1～8/2）	明オリーブ灰（2.5GY7/1）	京都系	
429	土師器	甕	ＳＫ780	(21.8)	(6.7)	−	2/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
430	土師器	皿	ＳＫ728	5.0	1.0	−	11/12	密	橙（5YR6/8）		在地	
431	土師器	皿	ＳＫ728	10.2	1.7	−	5/12	密	灰白（10YR8/2）		在地	
432	土師器	塩壺	ＳＫ728	−	(5.6)	(4.5)	底）ほぼ完形	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
433	染付	椀	ＳＫ728	10.0	4.6	3.9	11/12	精良	灰白（5Y8/1）		肥前系	
434	染付	皿	ＳＫ728	9.4	1.95～2.5	4.9	9/12	精良	灰白（N8/0）	明緑灰（7.5GY8/1）	肥前系	輪花
435	陶器	小椀	ＳＫ712	7.3	3.9	3.7	ほぼ完形	密	淡黄（2.5Y8/3）	暗褐（10YR3/4）	瀬戸・美濃系	天目椀
436	陶器	椀	ＳＫ712	8.8	(6.2)	−	12/12	精良	にぶい橙（5YR6/4）	暗褐（10YR3/3）	肥前系	唐津、鉄釉
437	陶器	椀	ＳＫ712	(11.2)	6.2	4.0	3/12	精良	灰黄（2.5Y7/2）	緑灰（5G5/1）より明るい	肥前系	唐津、銅緑釉
438	陶器	椀	ＳＫ712	(11.8)	6.4	(5.9)	1/12	精良	灰白（2.5Y8/2）	モスグリーン	肥前系	
439	陶器	椀	ＳＫ712	(11.8)	6.3	5.2	3/12	やや粗	にぶい褐（7.5YR5/3）	モスグリーン	肥前系	唐津、灰釉
440	陶器	椀	ＳＫ712	−	(3.1)	4.7	底）完形	精良	灰白（2.5Y8/2）		肥前系	高台内「木下弥」、京焼風
441	染付	椀	ＳＫ712	(9.9)	6.8	4.1	2/12	精良		灰白（10Y8/1）	肥前系	
442	染付	椀	ＳＫ712	9.8	6.4	4.3	7/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
443	染付	椀	ＳＫ712	10.7	5.6	4.2	7/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
444	染付	椀	ＳＫ712	10.3	5.0	4.2	9/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
445	染付	椀	ＳＫ712	9.5	5.5	4.0	10/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
446	染付	椀	ＳＫ712	10.6	5.9	3.6	4/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
447	染付	椀	ＳＫ712	11.1	6.0	4.2	11/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
448	染付	椀	ＳＫ712	10.9	5.6	4.4	8/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
449	染付	椀	ＳＫ712	10.2	5.6	4.2	7/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
450	染付	椀	ＳＫ712	9.8	5.6	4.3	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
451	染付	椀	ＳＫ712	(10.8)	5.7	4.4	5/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
452	染付	椀	ＳＫ712	10.4	5.9	4.2	7/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
453	染付	椀	ＳＫ712	(10.8)	6.2	4.3	3/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
454	染付	椀	ＳＫ712	(10.4)	6.4	4.4	2/12	精良	白（N9/0）		肥前系	高台内「宣真年製」
455	染付	椀	ＳＫ712	−	(5.4)	4.7	底）完形	精良	白（N9/0）		肥前系	高台内「宣徳年製」
456	染付	椀	ＳＫ712	11.5	5.9	4.9	7/12	精良	白（N9/0）		肥前系	高台内「□□」
457	白磁	小椀	ＳＫ712	7.3	5.0	3.5	8/12	精良	白（N9/0）		中国	
458	粉青沙器	椀	ＳＫ712	12.0	5.8	4.7	9/12	精良	灰（N6/1）	灰白（N8/0・7/0）	朝鮮	
459	土師器	皿	ＳＫ712	5.2	1.2	−	ほぼ完形	密	浅黄橙（10YR8/4）・明赤褐（5YR5/6）		在地	灯明皿
460	土師器	皿	ＳＫ712	5.0	1.3	−	ほぼ完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
461	土師器	皿	ＳＫ712	5.4	1.1	−	完形	密	にぶい橙（5YR6/4）		在地	

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
462	土師器	皿	ＳＫ712	5.6	1.3	－	10/12	密	にぶい橙（5YR7/4）		在地	
463	土師器	皿	ＳＫ712	5.4	1.0	－	10/12	密	にぶい橙（5YR6/4）		在地	
464	土師器	皿	ＳＫ712	5.4	1.1	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
465	土師器	皿	ＳＫ712	5.4	2.5	－	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
466	土師器	皿	ＳＫ712	5.2	1.4	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	口縁に煤付着
467	土師器	皿	ＳＫ712	5.3	1.0	－	ほぼ完形	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
468	土師器	皿	ＳＫ712	5.3	1.1	－	11/12	密	にぶい赤褐（5YR5/4）		在地	
469	土師器	皿	ＳＫ712	6.0	1.2	－	11/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
470	土師器	皿	ＳＫ712	8.8	1.9	－	7/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
471	土師器	皿	ＳＫ712	9.2	1.8	－	6/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
472	土師器	皿	ＳＫ712	10.2	2.1	－	10/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
473	土師器	皿	ＳＫ712	10.2	2.1	－	完形	密	橙（7.5YR6/6）		在地	
474	土師器	皿	ＳＫ712	11.0	2.2	－	完形	密	灰白（10YR8/2）		在地	口縁付近に煤付着
475	土師器	皿	ＳＫ712	10.6	2.1	－	10/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
476	土師器	皿	ＳＫ712	10.6	2.1	－	完形	密	橙（5YR7/6）		在地	
477	土師器	鉢	ＳＫ712	6.5	3.7	－	9/12	密	灰白（2.5Y8/2）		在地	
478	土師器	鉢	ＳＫ712	（10.6）	（3.7）	－	2/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
479	土師器	鉢	ＳＫ712	（10.0）	4.5	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
480	瓦質土器	平仄	ＳＫ712	8.6	6.6	－	10/12	密	にぶい橙（7.5YR7/3）		在地	
481	土師器	花塩壺	ＳＫ712	6.6	1.8	－	6/12	密	灰白（10YR8/2）		在地	口縁を装飾
482	土師器	塩壺蓋	ＳＫ712	5.1	1.1	－	9/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）			上面に刻印
483	土師器	塩壺	ＳＫ712	5.1	8.9	－	完形	密	橙（5YR6/6）			
484	土師器	塩壺蓋	ＳＫ712	4.6	1.1	－	9/12	密	浅黄橙（10YR8/3）			上面に刻印「奈んばん七度本やき志本」
485	土師器	塩壺	ＳＫ712	5.8	8.5	－	7/12	密	橙（5YR6/6）			
486	土製品	鈴	ＳＫ712	長（3.3）	幅（3.3）	－	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/2）		在地	
487	土師器	小壺	ＳＫ712	2.3	2.2	－	ほぼ完形	密	淡黄（2.5Y8/3）		在地	
488	土師器	小壺	ＳＫ712	2.2	2.5	－	完形	密	淡黄（2.5Y8/3）		在地	
489	土師器	小壺	ＳＫ712	2.4	2.1	－	完形	密	灰白（2.5Y8/2）		在地	
490	土師器	小壺	ＳＫ712	2.3	2.7	－	完形	密	灰白（2.5Y8/2）		在地	
491	土師器	鍋	ＳＫ712	（31.0）	（5.2）	－	2/12	密	にぶい褐（7.5YR6/3）		在地	内外に煤付着
492	陶器	皿	ＳＫ712	－	（2.5）	（11.4）	底）3/12	密	灰黄（2.5Y7/2）	浅黄（2.5Y7/3）	肥前系	唐津
493	陶器	鉢	ＳＫ712	（23.6）	5.4	（8.3）	1/12	密	灰黄（2.5Y7/2）	灰黄（2.5Y7/2）	肥前系	伊万里
494	染付	皿	ＳＫ712	23.4	3.9	14.2	7/12	精良	白（N9/0）		肥前系	伊万里
495	染付	皿	ＳＫ712	14.2	（2.6）	－	4/12	精良	淡黄（2.5Y8/3）	灰白（5Y7/1）	肥前系	
496	染付	皿	ＳＫ712	12.0	2.6	5.2	5/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
497	染付	皿	ＳＫ712	13.6	2.7	7.8	4/12	精良	白（N9/0）		肥前系	高台内「宣徳年製」
498	染付	壺蓋	ＳＫ712	4.1	2.3	－	ほぼ完形	精良	灰白（10YR8/2）		肥前系	
499	陶器	長胴壺	ＳＫ712	9.9	（19.1）	－	4/12	密	内）褐灰（7.5YR5/1）外）褐（7.5YR4/4）		ヴェトナム	

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
500	陶器	擂鉢	ＳＫ 712	29.2	11.6	12.6	4/12	密	にぶい赤褐（2.5YR4/3）		信楽系	重ね焼きの痕有か
501	陶器	皿	ＳＫ 712	－	（1.9）	－	底）3/12	精良	明赤褐（5YR6/6）	明赤褐灰（5YR5/8）		灯明皿
502	陶器	ミニチュア土器	ＳＫ 712	9.8	2.7	－	5/12	密	黒褐（5YR3/1）・にぶい赤褐（5YR4/4）			擂鉢
503	染付	皿	ＳＫ 712	9.3	2.0	4.1	4/12	精良	灰白（5Y8/1）		肥前系	
504	染付	鉢	ＳＫ 712	19.9	8.0	10.4	6/12	精良	灰白（5Y8/1）		肥前系	古伊万里、花唐草文、口サビ輪花
505	色絵	鉢	ＳＫ 712	21.5	8.3	8.3	6/12	精良	灰白（2.5Y8/1）		肥前系	柿右衛門
506	土師器	皿	ＳＤ 738	5.7	1.3	－	10/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
507	土師器	皿	ＳＤ 738	5.7	1.2	－	11/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
508	土師器	皿	ＳＤ 738	5.7	1.1	－	11/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
509	土師器	皿	ＳＤ 738	10.0	2.1	－	12/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
510	土師器	皿	ＳＤ 738	10.8	2.4	－	完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
511	土師器	皿	ＳＤ 738	10.8	2.3	－	完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
512	土師器	皿	ＳＤ 738	10.9	2.1	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
513	土師器	皿	ＳＤ 738	11.1	2.3	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）～浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
514	土師器	皿	ＳＤ 738	10.9	2.2	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
515	陶器	椀	ＳＤ 738	10.4	4.2	4.4	6/12	精良	灰白（2.5Y8/2）		瀬戸・美濃系	志野
516	陶器	小椀	ＳＤ 738	7.6	2.8	3.2	ほぼ完形	精良	灰白（2.5Y8/2）		瀬戸・美濃系	志野
517	陶器	椀	ＳＤ 738	11.7	6.9	4.8	7/12	精良	淡黄（2.5Y8/3）	黒（10YR2/1）	瀬戸・美濃系	天目椀
518	陶器	椀	ＳＤ 738	－	（5.2）	（3.8）	1/12 以下	精良	灰白（5Y7/2）	灰オリーブ（7.5Y6/2）	肥前系	灰釉
519	土師器	皿	西半宝永焼土	5.5	（1.2）	－	4/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）・灰黄褐（10YR5/2）		在地	
520	土師器	皿	西半宝永焼土	（10.4）	（1.4）	－	2/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
521	土師器	皿	西半宝永焼土	10.5	2.0	－	7/12	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
522	土師器	皿	西半宝永焼土	（11.2）	1.9	－	3/12	密	内）にぶい黄（5Y6/3）外）にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
523	土師器	皿	西半宝永焼土	（10.7）	2.0	－	2/12	密	にぶい橙（5YR7/4）		在地	
524	土師器	皿	西半宝永焼土	11.6	2.0	－	4/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
525	土師器	小壺	西半宝永焼土	2.2	2.5	－	完形	密	淡黄（2.5Y8/3）		在地	
526	土製品	鈴	西半宝永焼土	長（4.1）	幅 5.7	－	半分程度	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
527	陶器	椀	西半宝永焼土	12.2	4.6	3.4	7/12	精良	淡黄（2.5Y8/3）		京都系	
528	土師器	皿	東半部２層以下	6.1	1.6	－	6/12	密	灰白（2.5Y8/1）		在地	へそ皿
529	土師器	皿	断ち割り１	5.5	1.3	－	7/12	密	橙（5YR6/6）		在地	
530	土師器	皿	西半部西側断ち割り	（9.4）	（1.6）	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
531	土師器	皿	上部砂礫	（9.0）	（1.5）	－	2/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
532	土師器	皿	整地土	(9.4)	(1.4)	−	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
533	土師器	皿	整地土	(10.2)	1.8	−	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
534	土師器	皿	西半　南西側寺町整地土	9.6	2.0	−	6/12	密	にぶい橙 (7.5YR6/4)		在地	
535	土師器	皿	西半　南西側寺町整地土	9.7	2.2	−	9/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
536	土師器	皿	西半上部砂礫	(10.1)	(2.2)	−	3/12	やや粗	にぶい褐 (7.5YR6/4)		在地	
537	土師器	皿	西半　寺町整地層	10.7	2.1	−	11/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
538	土師器	皿	西半南東部寺町整地土	12.0	2.0	−	完形	やや密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
539	土師器	皿	整地土	(12.6)	(2.1)	−	3/12	精良	橙（7.5YR7/6）		在地	
540	土師器	鉢	断ち割り1	8.7	3.5	−	7/12	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
541	須恵器	壺	整地土礫	−	(3.9)	3.9	底）完形	密	灰白（5Y7/2）			
542	緑釉陶器	皿	東半　断ち割り1	−	(1.4)	(6.4)	底）3/12	密	白（N9/0）			
543	染付	小椀	不明	6.5	4.2	2.5	4/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
544	陶器	小椀	東半　断ち割り1	7.2	4.9	3.0	6/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		肥前系	灰釉
545	陶器	小椀	東半　断ち割り1	7.7	5.0	3.3	7/12	やや密	にぶい黄橙 (10YR5/3)		肥前系	斑唐津
546	陶器	椀	西半　瓦敷下層礫	8.1	5.9	3.9	5/12	精良	にぶい橙 (7.5YR6/4)		肥前系	鉄釉
547	陶胎染付	椀	東半　断ち割り	(11.4)	(6.5)	−	2/12	密	灰白（2.5Y7/1）		肥前系	
548	陶器	椀	東半　断ち割り	(12.6)	4.7	5.0	2/12	密	浅黄（2.5Y7/4）		肥前系	京焼風
549	陶器	椀	西半　南西側寺町整地土	10.8	6.0	4.1	9/12	精良	浅黄橙 (10YR8/3)		瀬戸・美濃系	天目椀
550	青磁	鉢	断ち割り礎石4下	(21.6)	(2.5)	−	2/12	精良	灰白（5Y8/1）	オリーブ灰 (10Y6/2)	中国	
551	陶器	蓋	ＳＥ702	11.4	1.6	−	5/12	精良	灰白（2.5Y7/1）	暗褐 (7.5YR3/4)		
552	陶器	皿	ＳＥ702	(10.4)	3.1	3.2	3/12	精良	橙（5YR6/6）	灰オリーブ (5Y5/2)	肥前系	トチン痕有
553	土師器	皿	ＳＥ703	5.2	1.4	−	8/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
554	土師器	皿	ＳＥ703	5.8	1.4	−	5/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
555	青花	椀	ＳＥ706	−	(3.0)	3.9	底）12/12	精良	灰白（2.5Y8/2）		中国	
556	染付	椀	ＳＥ711	7.0	5.2	3.2	11/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
557	青花	不明	ＳＥ711	−	(5.4)	4.2	底）12/12	精良	白（N9/0）			
558	弥生土器	不明	ＳＥ726	−	(2.8)	4.3	底）12/12	密	内）橙 (5YR7/6) 外）浅黄橙 (2.5Y7/3)			
559	土師器	皿	ＳＫ142	5.3	1.3	−	11/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
560	土師器	皿	ＳＫ142	(6.2)	2.3	−	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
561	土師器	皿	ＳＫ142	11.0	2.9	−	5/12	密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
562	土師器	皿	ＳＫ142	11.5	1.8	−	6/12	密	浅黄橙 (10YR8/3)		在地	
563	磁器	椀	ＳＫ142	(10.8)	5.6	5.0	6/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
564	染付	椀	ＳＫ142	(11.0)	5.7	3.6	2/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
565	土師器	塩壺蓋	ＳＫ142	8.0	2.0	−	11/12	密	橙（5YR6/6）			布圧痕（塩壺蓋か）
566	土師器	塩壺	ＳＫ142	(6.1)	9.4	3.0	1/12 以下	やや粗	にぶい橙 (7.5YR8/4)			17ｃ中以降

報告番号	種類	器形	遺構名	法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
				口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
567	土師器	壺	ＳＫ 142	(10.0)	7.3	(10.1)	2/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)			
568	陶器	甕	ＳＫ 142	(12.0)	4.2	−	2/12	密	灰白 (7.5Y7/1)	内）褐 (7.5YR4/3) 外）にぶい褐 (7.5YR5/4)	信楽系	
569	陶器	蓋	ＳＫ 142	7.2	2.3	−	ほぼ完形	密	にぶい赤褐 (5YR5/3)	褐 (7.5YR4/4)	瀬戸系	底部糸切り
570	白磁	鉢	ＳＤ 124	(21.8)	(4.7)	−	1/12	緻密	灰黄 (2.5Y7/2)		肥前系	

南地区墓地

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
600	土師器	皿	1	ＳＴ 90	10.8	2.3	−	完形	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
601	土師器	皿	1	ＳＴ 90	12.7	2.2	−	5/12	やや密	内）にぶい黄 (2.5Y6/3) 外）黄灰 (2.5Y4/1)		在地	
602	土師器	皿	1	ＳＴ 93	(11.0)	2.0	−	2/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
603	陶器	椀	1	ＳＴ 93	−	(2.3)	4.2	底） 12/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/2)		肥前系	
604	染付	椀	1	ＳＴ 92	8.2	4.8	3.5	完形	精良	白		肥前系	高台内「太明年製」
605	染付	椀	1	ＳＴ 379	11.7	6.5	4.9	完形	精良	灰白 (7.5Y8/1)		肥前系	
606	染付	小椀	1	ＳＴ 380	6.7	4.0	2.3	完形	精良	白		肥前系	
607	土師器	皿	2	ＳＴ 45	(9.0)	2.1	−	3/12	密	明黄褐 (10YR6/6)		在地	
608	土師器	皿	2	ＳＴ 19	10.0	1.8	−	8/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
609	土師器	皿	2	ＳＴ 377	(8.2)	1.5	−	3/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
610	土師器	皿	2	ＳＴ 377	8.3	1.6	−	10/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
611	土師器	皿	2	ＳＴ 109	(9.8)	(1.4)	−	2/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
612	土師器	皿	2	ＳＴ 109	9.8	2.4	−	6/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
613	青花	杯	2	ＳＴ 109	(7.4)	6.5	3.7	3/12	緻密	白 (N9/0)		肥前系	
614	土師器	皿	2	ＳＴ 68	(10.1)	2.0	−	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
615	土師器	皿	2	ＳＴ 68	10.4	2.2	−	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
616	土師器	皿	2	ＳＴ 68	(10.8)	(1.7)	−	2/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
617	土師器	皿	2	ＳＴ 68	10.4	2.1	−	6/12	密	橙 (5YR7/6)		在地	
618	土師器	皿	2	ＳＴ 68	10.8	2.1	−	4/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
619	土師器	皿	2	ＳＴ 68	11.0	(1.9)	−	5/12	やや密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
620	土師器	皿	2	ＳＴ 68	11.2	(2.5)	−	8/12	やや密	浅黄橙 (10YR8/4)		在地	
621	土師器	皿	2	ＳＴ 68	12.1	2.1	−	完形	やや密	橙 (5YR7/6)		在地	
622	土師器	皿	2	ＳＫ 14	9.4	1.9	−	4/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)		在地	
623	土師器	皿	2	ＳＫ 14	10.4	1.9	−	7/12	密	橙 (7.5YR7/6)		在地	
624	陶器	向付	2	ＳＫ 14	−	(4.3)	(4.0)	底） 8/12	密	橙 (5YR6/6)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	肥前系	
625	白磁	小杯	2	ＳＴ 21	3.8	1.8	1.8	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	
626	白磁	小杯	2	ＳＴ 21	4.2	2.4	2.0	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
627	白磁	小杯	2	ＳＴ 21	4.8	3.1	2.2	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
628	白磁	小杯	2	ＳＴ 21	5.0	3.5	2.6	完形	精良	白 (N9/0)		肥前系	高台砂付着
629	染付	椀	2	ＳＴ 43	8.2	4.8	2.9	完形	精良	灰白 (N8/0)		肥前系	高台砂付着
630	染付	椀	2	ＳＫ 66	8.0	4.2	2.5	5/12	精良	灰黄 (2.5Y6/2)	灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	
631	染付	椀	2	ＳＫ 66	7.8	4.4	3.2	8/12	精良	灰白 (5Y7/1)	灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	高台砂付着

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
632	陶器	擂鉢	2	ＳＫ66	(34.7)	(8.9)	－	1/12	やや粗	橙（7.5YR7/6）		信楽	
633	陶器	椀	2	ＳＴ87	11.8	6.3	4.7	3/12	精良	淡黄（2.5Y8/4）	暗褐（10YR3/3）	瀬戸・美濃系	天目椀
634	陶器	壺	2	ＳＴ18	4.1	7.4	5.5	11/12	精良	灰白（5Y7/2）	灰オリーブ（7.5Y6/2）	瀬戸・美濃系	底部糸切り
635	青磁	盤	2	ＳＴ86	(42.0)	(6.4)	－	1/12以下	密	灰白（7.5Y7/1）	オリーブ灰（2.5GY6/1）より明るい緑	中国	
636	白磁	椀	2	ＳＴ85	－	(3.5)	3.0	底）12/12	精良	灰白（N8/0）～にぶい橙（5YR6/4）	乳白	肥前系	
637	数珠	－	2	ＳＴ85	径0.45	高0.3	穴口径0.15			浅黄橙（10YR8/3）			素材：貝か、穿孔
638	土師器	皿	3	ＳＴ190	(9.9)	(1.5)	－	1/12	やや密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
639	土師器	皿	3	ＳＴ190	(10.0)	(1.9)	－	3/12	やや密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
640	土師器	皿	3	ＳＴ190	10.2	2.1	－	10/12	やや密	橙（5YR7/6）		在地	
641	土師器	皿	3	ＳＴ190	(10.9)	(1.8)	－	2/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
642	土師器	皿	3	ＳＴ190	(13.4)	2.0	－	1/12	やや密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
643	陶器	椀	3	ＳＴ190	－	(2.8)	4.3	底）12/12	密	灰黄（2.5Y7/2）		肥前系	高台砂付着
644	土師器	皿	3	ＳＴ366	10.5	(2.0)	－	4/12	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	
645	土師器	皿	3	ＳＴ366	(10.6)	(1.7)	－	2/12	やや密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
646	染付	椀	3	ＳＴ366	8.8	4.9	2.9	4/12	密	灰白（2.5Y8/1）		肥前系	高台砂付着
647	土師器	皿	3	ＳＴ354	10.2	(2.0)	－	10/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	灯明皿
648	陶器	ミニチュア土器	3	ＳＴ354	4.6	2.8	2.8	6/12	密	浅黄橙（10YR8/3）			銚子
649	陶器	蓋	3	ＳＫ78	6.7	2.8	－	9/12	密	にぶい黄橙（10YR7/2）		瀬戸・美濃系	底部糸切り
650	土師器	皿	4	ＳＴ35	11.2	2.1	－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
651	土師器	皿	4	ＳＴ35	(11.3)	2.2	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
652	土師器	皿	4	ＳＴ24	7.1	1.4	－	7/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
653	土師器	皿	4	ＳＴ24	(9.8)	1.6	－	1/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
654	土師器	皿	4	ＳＴ24	9.7	(2.1)	－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
655	土師器	皿	4	ＳＴ24	9.8	1.9	－	8/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
656	土師器	皿	4	ＳＴ24	10.0	(1.7)	－	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
657	土師器	皿	4	ＳＴ24	9.9	1.8	－	5/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
658	土師器	皿	4	ＳＴ24	10.2	1.7	－	4/12	密	橙（7.5YR6/6）		在地	
659	土師器	皿	4	ＳＴ24	10.5	1.9	－	4/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
660	土師器	皿	4	ＳＴ24	11.2	1.8	－	4/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
661	土師器	鉢	4	ＳＴ24	(10.3)	(3.3)	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
662	陶器	椀	4	ＳＴ24	－	(2.7)	4.4	底）完形	精良	灰白（5Y8/1）	灰白（10Y7/1）	肥前系	
663	陶器	椀	4	ＳＴ24	－	(3.4)	4.1	底）ほぼ完形	密	灰白（2.5Y8/2）	灰黄褐（10YR4/2）	瀬戸・美濃系	天目椀
664	土師器	皿	4	ＳＴ33	10.6	(2.0)	－	8/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
665	染付	椀	4	ＳＴ33	－	(2.5)	4.0	底）ほぼ完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
666	土師器	皿	4	ＳＴ34	(12.2)	2.1	－	1/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
667	白磁	椀	4	ＳＴ197	8.2	5.0	3.3	完形	密	白（N9/0）	灰白（5Y8/1）	肥前系	
668	白磁	小杯	4	ＳＴ352	6.7	4.1	2.9	完形	密	灰白（5Y8/1）		肥前系	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
669	陶器	椀	4	ＳＴ341	11.5	(6.3)	－	5/12	密	浅黄橙（10YR8/3）	赤黒（2.5YR2/1）	瀬戸・美濃系	天目椀
670	土師器	皿	5	ＳＴ31	(9.8)	2.1	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
671	土師器	皿	5	ＳＴ31	10.8	2.0	－	5/12	密	浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	
672	陶器	椀	5	ＳＫ30	8.5	2.4	4.5	10/12	密	赤橙（10R6/6）		瀬戸・美濃系	底部糸切り
673	土師器	皿	5	ＳＴ59	10.3	2.0	－	9/12	やや粗	橙（2.5YR7/8）		在地	
674	土師器	皿	5	ＳＴ59	(10.2)	1.8	－	3/12	やや粗	浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	
675	土師器	皿	5	ＳＴ59	10.3	1.8	－	5/12	やや粗	淡橙（5YR8/4）		在地	
676	土師器	皿	5	ＳＴ59	10.9	2.0	－	5/12	やや粗	浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	
677	土師器	鉢	5	ＳＴ59	9.8	4.6	－	完形	密	灰白（2.5Y8/2）		在地	
678	陶器	椀	5	ＳＴ59	(10.2)	(3.6)	－	1/12	やや粗	浅黄橙（7.5YR8/3）		瀬戸・美濃系	天目椀
679	土師器	皿	6	ＳＴ48	(10.1)	1.5	－	3/12	やや密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
680	土師器	鉢	6	ＳＴ48	(10.4)	(3.5)	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
681	白磁	ミニチュア土器	6	ＳＴ26	5.0	3.7	2.8	11/12	密	白（N9/0）		肥前系	椀
682	土師器	皿	6	ＳＴ25	9.4	1.5	－	4/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
683	土師器	皿	6	ＳＴ25	(9.6)	2.1	－	3/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
684	土師器	皿	6	ＳＴ25	(9.8)	1.6	－	3/12	密	橙（2.5YR6/6）		在地	
685	土師器	小壺	6	ＳＴ25	2.9	1.8	－	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
686	白磁	皿	6	ＳＴ25	－	(1.5)	4.2	底）完形	密	白（N9/0）		肥前系	
687	陶器	椀	6	ＳＴ25	－	(2.7)	4.8	底）完形	やや粗	浅黄橙（10YR8/3）		瀬戸・美濃系	
688	土製品	－	6	ＳＴ25	長(5.0)	幅(2.7)	厚0.6～0.9	不明	密	にぶい橙（7.5YR7/3）			人形か
689	土製品	家形	6	ＳＴ25	長(4.5)	幅(4.1)	厚0.5～1.3	不明	やや粗	浅黄橙（7.5YR8/3）			箱庭道具か
690	土製品	泥面子	6	ＳＴ25	径2.9	厚0.9	－	ほぼ完形	密	浅黄橙（7.5YR8/3）			四つ輪違い文
691	土製品	泥面子	6	ＳＴ25	径2.9	厚1.0	－	ほぼ完形	やや粗	にぶい橙（5YR7/4）			桐文
692	土師器	皿	8	ＳＫ40	9.3	1.9	－	5/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
693	土師器	皿	8	ＳＫ40	9.8	2.1	－	6/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
694	土師器	皿	8	ＳＫ40	(10.0)	1.9	－	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
695	土師器	皿	8	ＳＫ40	(10.2)	2.2	－	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
696	土師器	皿	8	ＳＫ40	(10.2)	(2.0)	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
697	土師器	皿	8	ＳＫ40	10.4	(2.2)	－	4/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
698	土師器	皿	8	ＳＫ40	10.5	2.0	－	5/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
699	土師器	皿	8	ＳＫ40	10.8	2.1	－	5/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
700	土師器	皿	8	ＳＫ40	(11.0)	(2.0)	－	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
701	土師器	皿	8	ＳＫ40	11.6	2.2	－	6/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
702	土師器	皿	8	ＳＫ40	(11.6)	2.2	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
703	土師器	皿	8	ＳＫ40	12.0	2.1	－	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
704	土師器	皿	8	ＳＫ40	(12.1)	2.0	－	2/12	密	灰白（10YR8/2）		在地	
705	土師器	皿	8	ＳＫ40	12.4	(2.3)	－	5/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
706	土師器	皿	8	ＳＫ40	(12.6)	2.0	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
707	陶器	椀	8	ＳＫ40	10.0	7.8	4.5	4/12	密	橙（5YR6/6）		瀬戸・美濃系	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
708	陶器	椀	8	ＳＫ40	(11.2)	(4.7)	－	2/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		瀬戸・美濃系	天目椀
709	陶器	鉢	8	ＳＫ40	－	(6.0)	(9.4)	5/12	密	赤褐（10R5/4）		肥前系	刷毛目
710	土製品	不明	8	ＳＫ40	長4.2	幅4.7	厚0.6～1.1	完形	密	明赤褐（5YR5/6）			
711	土製品	犬形土製品	8	ＳＫ40	長8.9	5.8	幅3.5	足一部欠	密	内）浅黄（2.5Y7/4）外）黄灰（2.5Y4/1）			
712	白磁	椀	8	ＳＴ323	8.4	4.8	3.2	ほぼ完形	密	灰（N8/0）		肥前系	高台砂付着
713	土師器	皿	9	ＳＴ29	10.7	1.7	－	ほぼ完形	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	
714	土師器	皿	9	ＳＴ29	(10.9)	(1.7)	－	1/12	やや密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
715	土師器	小壺	9	ＳＴ29	2.0	2.3	－	完形	やや密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
716	土師器	皿	9	ＳＴ321	10.5	2.0	－	6/12	やや密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
717	陶器	小杯	9	ＳＴ321	5.4	3.3	2.2	9/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		肥前系	
718	土製品	ミニチュア土器	9	ＳＴ321	(5.6)	3.3	3.3	2/12	密	淡黄（2.5Y8/3）			
719	土製品	ミニチュア土器	9	ＳＴ321	5.5	1.8	3.5	取手欠	密	淡黄（2.5Y8/3）			銚子
720	土師器	鉢	9	ＳＴ315	8.7	(3.1)	－	11/12	やや密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
721	染付	椀	9	ＳＴ315	－	(2.7)	3.5	底）12/12	密	灰白（5Y7/1）		肥前系	高台砂付着
722	土師器	皿	9	ＳＫ38	5.8	1.2	－	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
723	土師器	皿	9	ＳＫ38	(10.0)	2.2	－	2/12	密	にぶい褐（7.5YR6/3）		在地	
724	陶器	椀	9	ＳＫ38	(10.0)	(5.5)	－	1/12以下	やや密	にぶい黄褐（10YR5/3）		肥前系	
725	磁器	仏飯器	9	ＳＫ38	－	(4.4)	4.0	底）12/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		肥前系	
726	土師器	皿	10	ＳＴ50・312	11.2	2.3	－	ほぼ完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
727	土師器	皿	10	ＳＴ50	(12.0)	(2.2)	－	1/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
728	土師器	皿	10	ＳＴ50	(12.2)	(2.1)	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
729	土師器	鉢	12	ＳＴ50	8.0	3.5	5.7	4/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	底部糸切りか
730	陶器	椀	10	ＳＴ50	(4.0)	(5.4)	3.8	底）6/12	密	にぶい黄橙（10YR6/3）	オリーブ黒（5Y2/2）	肥前系	
731	陶器	椀	10	ＳＴ50	－	(3.5)	3.1	6/12	密	橙（5YR6/6）	暗オリーブ（5Y4/3）	肥前系	
732	染付	椀	10	ＳＴ50	－	(23.0)	(4.2)	完形	密	白（N9/0）		肥前系	高台砂付着
733	土師器	皿	10	ＳＴ308	9.7	2.2	－	ほぼ完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
734	土師器	皿	10	ＳＴ308	(1.5)	(2.2)	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
735	土師器	皿	10	ＳＴ308	(11.1)	(2.2)	－	1/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
736	土師器	皿	10	ＳＴ303	8.2	1.6	－	4/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
737	土師器	皿	10	ＳＴ303	9.5	2.1	－	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
738	陶器	椀	10	ＳＴ303	(4.8)	(2.1)	4.9	底）12/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）	にぶい赤褐（5YR4/4）	肥前系	
739	白磁	椀	10	ＳＴ305	9.1	5.1	3.7	完形	緻密	白（N9/0）		肥前系	高台砂付着
740	土師器	皿	11	ＳＴ74	10.7	(1.9)	－	9/12	密	淡橙（5YR8/4）		在地	
741	土師器	皿	11	ＳＴ74	(10.8)	(2.2)	－	2/12	やや密	橙（5YR7/6）		在地	
742	土師器	皿	11	ＳＴ74	(11.0)	2.2	－	3/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
743	土師器	皿	11	ＳＴ74	(11.4)	(2.0)	－	3/12	密	にぶい橙（5YR7/4）		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
744	染付	蓋	11	ＳＴ70	5.0	(1.9)	−	ほぼ完形	精良	灰白（2.5Y8/2）	明青灰	肥前系	
745	陶器	壺	11	ＳＴ70	(7.0)	(3.9)	−	2/12	密	灰黄褐（10YR6/2）	黒褐（10YR2/3）	瀬戸・美濃系	
746	染付	椀	11	ＳＴ70	11.5	6.0	4.2	12/12（底部欠）	精良	白（N9/0）	明緑灰（7.5GY8/1）	肥前系	高台内「太明化年」
747	陶器	椀	11	ＳＴ69	(11.0)	5.8	4.9	1/12	密	浅黄橙（10YR8/3）	暗褐（7.5YR3/3）	瀬戸・美濃系	天目椀
748	土師器	皿	12	ＳＴ54	10.3	(1.9)	−	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
749	土師器	小壺	12	ＳＴ219	2.5	2.5	−	完形	密	灰白（10YR8/2）		在地	
750	染付	小杯	12	ＳＴ162	6.7	4.2	2.6	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
751	染付	小杯	12	ＳＴ65	6.4	3.2	2.6	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	高台砂付着
752	染付	小椀	12	ＳＴ56	7.1	3.9	2.4	ほぼ完形	精良	白（N9/0）		肥前系	高台内「太明」、高台砂付着
753	染付	椀	12	ＳＴ56	−	(3.4)	3.8	底）4/12	精良	灰白（5Y8/1）	明オリーブ灰（5GY7/1）	肥前系	
754	陶器	椀	12	ＳＴ56	8.9	6.8	4.1	ほぼ完形	密	にぶい赤褐（5YR5/4）	黒褐（2.5Y3/1）	肥前系	
755	陶器	椀	12	ＳＴ56	(11.7)	5.2	(4.4)	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/3）	褐（7.5YR4/4）	瀬戸・美濃系	天目椀
756	染付	蓋	12	ＳＴ196	6.5	3.5	−	8/12	密	白（N9/0）		肥前系	
757	染付	椀	12	ＳＴ196	(8.0)	5.6	3.9	1/12	密	白（N9/0）		肥前系	
758	土師器	小壺	12	ＳＴ195	2.1	2.2	−	完形	密	淡黄橙（10YR8/3）		在地	
759	土師器	小壺	12	ＳＴ195	2.5	2.6	−	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
760	土製品	ミニチュア土器	12	ＳＴ195	1.2	6.5	2.0	ほぼ完形	密	浅黄橙（7.5YR8/3）			瓶
761	土製品	ミニチュア土器	12	ＳＴ195	6.3	1.8	3.1	8/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）			皿
762	土製品	人形	12	ＳＴ195	幅4.8	5.5	−	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		京・伏見系	天神（菅原道真）
763	土製品	人形	12	ＳＴ195	長4.1	(3.4)	幅2.3	一部欠	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		京・伏見系	猿
764	土製品	人形	12	ＳＴ195	長7.9	2.8	幅5.6	一部欠	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		京・伏見系	亀
765	土製品	人形	12	ＳＴ195	幅3.9	(6.4)	−	頭部欠	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		京・伏見系	西行像か
766	土製品	人形	12	ＳＴ404	幅3.9	(6.2)	−	頭部欠	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		京・伏見系	
767	土師器	皿	13	ＳＴ415	9.4	2.1	−	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
768	染付	椀	13	ＳＴ415	9.7	5.7	4.2	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
769	土師器	皿	13	ＳＴ127	10.2	(1.7)	−	4/12	密	橙（2.5YR6/8）		在地	
770	土師器	皿	13	ＳＴ127	10.4	1.8	−	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
771	土師器	皿	13	ＳＴ127	9.8	1.9	−	10/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
772	染付	椀	13	ＳＴ127	8.4	4.8	−	4/12	密	灰白（5Y8/1）より白い		肥前系	高台砂付着
773	染付	椀	13	ＳＴ127	9.5	5.2	3.3	完形	密	白（N9/0）	明緑灰（7.5GY8/1）	肥前系	
774	染付	椀	13	ＳＴ127	8.7	5.2	3.4	完形	密	灰（7.5Y6/1）		肥前系	
775	陶器	椀	13	ＳＴ127	−	(2.1)	4.2	底）ほぼ完形	密	淡黄（2.5Y8/3）	灰白（2.5Y8/3）	瀬戸・美濃系	志野
776	土師器	皿	13	ＳＴ210・211	(9.9)	(1.8)		2/12	やや密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
777	土師器	皿	13	ＳＴ210・211	(11.0)	2.3	−	3/12	やや密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
778	陶器	椀	13	ＳＴ210・211	(12.1)	(4.4)	−	1/12以下	密	淡黄（2.5Y8/3）		肥前系	
779	染付	小杯	13	ＳＴ210	7.5	5.5	4.1	12/12	精良	白（N9/0）		肥前系	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
780	土師器	小壺	13	ＳＴ215	2.1	2.7	1.7	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
781	土師器	小壺	13	ＳＴ215	2.3	2.0	－	完形	やや密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
782	土師器	小壺	13	ＳＴ215	2.2	2.8	1.9	完形	密	浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	
783	白磁	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	3.0	2.2	1.6	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	椀
784	白磁	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	2.9	2.1	1.5	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	椀
785	染付	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	2.6	1.8	1.4	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	椀、高台砂付着
786	染付	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	6.0	1.4	2.5	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	皿、輪花、高台砂付着
787	磁器	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	4.2	3.2	1.8	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	小杯
788	陶器	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	5.3	3.0	2.3	完形	密	明赤褐（2.5YR5/8）			擂鉢
789	陶器	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	1.2	8.5	2.9	ほぼ完形	密	ややくすんだ白	暗赤褐（7.5R3/2）		瓶
790	瓦質土器	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	2.9	0.9	－	完形	密	黒（N1.5/0）			羽釜蓋
791	瓦質土器	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	2.9	4.7	4.6	完形	密	黒（N1.5/0）			羽釜
792	瓦質土器	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	8.7	6.4	7.3	完形	密	暗灰（3/0）			風炉
793	土師器	小壺	13	ＳＴ215	2.2	2.4	－	完形	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
794	土師器	小壺	13	ＳＴ215	2.3	2.5	－	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
795	土師器	小壺	13	ＳＴ215	2.3	2.6	－	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
796	瓦質土器	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	2.9	1.4	－	完形	密	暗灰（N3/0）			蓋
797	土製品	鈴	13	ＳＴ215	長4.0	幅3.3	厚0.25	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
798	土製品	鈴	13	ＳＴ215	長4.5	幅3.4	－	ほぼ完形	密	浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	墨書３か所
799	土製品	鈴	13	ＳＴ215	長4.3	幅3.4	厚0.2	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	墨書４か所
800	土師器	ミニチュア土器	13	ＳＴ215	1.2	1.8	－	完形	密	浅黄（2.5Y7/3）			壺、口縁内側に鉄分付着
801	土師器	皿	13	ＳＴ417	9.8	2.1	－	4/12	密	浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	
802	染付	椀	13	ＳＴ416	5.3	3.0	2.4	ほぼ完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
803	白磁	椀	13	ＳＴ230	10.0	5.4	3.7	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
804	陶器	椀	13	ＳＴ213	6.8	5.3	3.8	完形	密	橙（2.5YR6/6）	暗褐（10YR3/3）	肥前系	
805	土製品	人形	13	ＳＴ212	幅2.7	5.2	－	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）	オリーブ灰（10Y4/2）	京・伏見系	
806	土師器	皿	14	ＳＴ426	（10.3）	（1.5）	－	3/12	密	浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	
807	土師器	皿	14	ＳＴ426	（10.4）	1.9	－	1/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
808	土師器	鉢	14	ＳＴ426	（9.8）	（3.1）	－	2/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
809	土師器	鉢	14	ＳＴ426	（9.3）	（2.9）	－	2/12	密	灰黄褐（10YR6/2）		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
810	白磁	椀	14	ＳＴ 426	8.3	4.1	2.8	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	口サビ
811	土師器	皿	14	ＳＴ 138	（10.8）	1.8	－	3/12	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	
812	染付	椀	14	ＳＴ 138	8.3	5.2	3.7	6/12	密	灰白（5Y8/1）		肥前系	高台砂付着
813	陶器	椀	14	ＳＴ 138	－	（4.3）	4.8	底）12/12	密	にぶい赤褐（5YR5/4）	灰（5Y4/1）	肥前系	
814	染付	小杯	14	ＳＴ 424	7.0	5.2	3.5	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
815	染付	椀	14	ＳＴ 424	8.8	5.4	3.9	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
816	土製品	人形	14	ＳＴ 424	幅 5.0	15.1	厚さ 5.3	ほぼ完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		京・伏見系	西行像
817	陶器	椀	14	ＳＴ 227	8.7	6.1	4.8	10/12	密	浅黄橙（10YR8/4）	灰白（10Y7/1）	肥前系	京焼風
818	染付	椀	14	ＳＴ 227	（15.0）	（4.2）	－	3/12	精良	白（N9/0）		肥前系	
819	陶器	椀	14	ＳＴ 223	9.6	6.0	4.5	完形	密	灰白（2.5Y8/2）	浅黄（2.5Y7/4）	肥前系	京焼風、高台内「小松吉」
820	土製品	犬形土製品	14	ＳＴ 223	幅 2.6	2.1	厚さ 1.3	足一部欠	密	浅黄（2.5Y7/3）			
821	陶器	蓋	14	ＳＴ 422	6.7	2.4	－	10/12	密	にぶい赤褐（2.5YR5/3）		瀬戸・美濃系	つまみ部に銅線巻きつく、墨書有
822	白磁	小椀	14	ＳＴ 221	5.4	3.4	2.5	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
823	染付	椀	14	ＳＴ 432	9.2	6.8	4.1	11/12以上	精良	白（N9/0）		肥前系	高台砂付着
824	土師器	鉢	14	ＳＴ 191	（10.3）	2.7	－	2/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
825	磁器	小椀	14	ＳＴ 191	6.7	3.9	3.0	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	
826	磁器	小杯	14	ＳＴ 191	7.2	5.1	3.7	ほぼ完形	密	白（N9/0）		肥前系	
827	磁器	皿	14	ＳＴ 191	－	1.4	－	底）3/12	密	白（N9/0）		肥前系	高台砂付着
828	土製品	不明	14	ＳＴ 191	長 5.4	幅 1.4	－	欠損有	密	にぶい橙（5YR6/4）			
829	染付	瓶	14	ＳＴ 191	1.1	8.8	3.2	完形	密	白（N9/0）		肥前系	
830	陶器	鳥形蓋か	14	ＳＴ 191	幅 7.1	2.5	厚さ 3.7	完形	密	灰赤（10R5/2）			
831	白磁	ミニチュア土器	14	ＳＴ 191	0.9	4.3	－	完形	密	白（N9/0）			瓢箪
832	土製品	鈴	14	ＳＴ 191	長 1.4	幅 1.4	－	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
833	土製品	鈴	14	ＳＴ 191	長 1.4	幅 1.6	－	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
834	土製品	人形	14	ＳＴ 191	幅 3.0	5.1	厚さ 2.4	完形	密	灰白（10YR8/2）	浅黄（5Y7/4）～緑	京・伏見系	ゑびす
835	土製品	人形	14	ＳＴ 191	幅 2.7	5.3	厚さ 2.0	ほぼ完形	密	灰白（2.5Y8/2）	浅黄（5Y8/3）～緑	京・伏見系	
836	赤絵	人形	14	ＳＴ 191	幅 7.6	9.8	厚さ 4.5	完形	精良	白（N9/0）	赤（10R4/8）	肥前系	伊万里、２か所穿孔、文殊菩薩
837	白磁	ミニチュア土器	15	ＳＴ 444	3.0	1.2	1.3	完形	密	白（N9/0）			椀、高台砂付着
838	土製品	ミニチュア土器	15	ＳＴ 444	5.7	1.8	4.1	完形	密	淡黄（2.5Y8/3）	黄橙（10YR7/8）		銚子
839	土製品	ミニチュア土器	15	ＳＴ 444	5.8	3.0	3.4	ほぼ完形	密	灰白（2.5Y8/2）	明黄褐（10YR7/6）		銚子
840	色絵	蓋	15	ＳＴ 444	4.2	1.9	－	完形	密	白（N9/0）			
841	瓦質土器	ミニチュア土器か	15	ＳＴ 444	－	（2.4）	5.8	底）完形	密	暗灰（N3/0）			風炉か
842	陶器	椀	15	ＳＴ 445	8.6	4.0	4.5	完形	密	灰白（2.5Y8/2）		瀬戸・美濃系	志野
843	土師器	皿	15	ＳＴ 446	9.3	1.6	－	完形	密	灰白（10YR8/2）		在地	
844	土師器	皿	15	ＳＴ 180	10.5	2.4	－	10/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
845	染付	椀	15	ＳＴ228	9.0	4.7	3.8	完形	密	灰白（7.5Y8/1）		肥前系	
846	染付	蓋	15	ＳＴ163	9.8	3.1	－	ほぼ完形	精良	白（N9/0）		肥前系	つまみ内「太明成化年製」
847	土製品	ミニチュア土器	15	ＳＴ235	6.9	2.9	－	9/12	密	淡黄（2.5Y8/3）	明黄褐（2.5Y7/6）		皿
848	染付	椀	15	ＳＴ232	8.3	5.0	3.6	完形	密	灰白（10YR8/1）		肥前系	高台砂付着
849	土製品	人形	15	精査	幅2.1	3.9	－	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）			
850	土師器	皿	16	ＳＴ168	（8.0）	1.5	－	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
851	土師器	皿	16	ＳＴ168	9.7	（1.5）	－	12/12	やや密	オリーブ黒（7.5Y3/1）		在地	
852	土師器	皿	16	ＳＴ168	10.7	1.9	－	ほぼ完形	やや粗	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	灯明皿
853	土師器	皿	16	ＳＴ168	10.5	2.3	－	完形	やや粗	橙（5YR6/6）		在地	灯明皿
854	土師器	皿	16	ＳＴ168	10.3	2.0	－	完形	粗	浅黄橙（10YR8/3）		在地	灯明皿
855	染付	椀	16	ＳＴ168	10.4	5.4	4.4	9/12	密	白（N9/0）		肥前系	高台内「福」
856	磁器	椀	16	ＳＴ168	－	（1.7）	（4.3）	底）5/12	密	暗灰黄（2.5Y4/2）・灰白（2.5Y8/2）	灰白（5Y8/2）	京・信楽系	高台内「元秋」
857	染付	椀	16	ＳＴ168	11.1	6.2	3.7	7/12	密	白（N9/0）		肥前系	
858	土師器	皿	16	ＳＫ157	10.0	1.7	－	7/12	やや密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
859	染付	小椀	16	ＳＴ451	（5.6）	3.7	2.4	3/12	密	灰白（5Y8/1）		肥前系	高台砂付着
860	土師器	皿	16	ＳＴ455	（9.9）	（1.8）	－	2/12	密	浅黄橙（7.5YR7/3）		在地	
861	土師器	ミニチュア土器	16	ＳＴ455	4.3	4.2	3.5	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）			銚子
862	土師器	皿	16	ＳＴ447	9.8	1.6	－	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
863	土師器	皿	16	ＳＴ447	（9.8）	（1.8）	－	1/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
864	青磁	椀	16	ＳＴ447	－	（1.7）	4.3	底）完形	密	白（N9/0）		肥前系	高台石付着、高台無釉（波佐見）
865	染付	椀	16	ＳＴ240	－	（3.5）	4.0	底）完形	密	白（N9/0）		肥前系	高台砂付着
866	陶器	椀	16	ＳＴ250	10.4	5.6	4.0	完形	密	にぶい黄橙（10YR5/4）		肥前系	刷毛目椀、高台砂付着
867	染付	ミニチュア土器	16	a・b 28	2.8	1.2	1.3	完形	密	灰白（5Y8/1）			椀、高台砂付着
868	土師器	皿	17	ＳＴ81	（7.4）	（1.8）	－	1/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
869	土師器	皿	17	ＳＴ81	（9.0）	（1.5）	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
870	土師器	皿	17	ＳＴ81	（9.6）	（1.3）	－	1/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
871	土師器	皿	17	ＳＴ81	（9.9）	（1.5）	－	1/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
872	土師器	皿	17	ＳＴ81	（10.3）	（1.5）	－	2/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
873	土師器	皿	17	ＳＴ81	（10.9）	（2.3）	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
874	土師器	皿	17	ＳＴ385	（12.2）	1.8	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
875	土師器	皿	17	ＳＴ385	（12.4）	1.7	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
876	土師器	皿	－	ＳＴ388	10.4	2.2	－	9/12	密	灰白（10YR8/2）		在地	
877	染付	椀	17	ＳＴ392	9.9	5.0	4.2	7/12	密	灰白（5Y8/1）		肥前系	高台内「太明成化年製」
878	土師器	皿	18	－	（9.5）	2.2	－	11/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
879	土師器	皿	18	－	（10.5）	2.3	－	11/12	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
880	染付	ミニチュア土器	18	－	2.9	1.5	－	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	蓋
881	染付	ミニチュア土器	18	－	2.7	3.0	2.5	完形	精良	白（N9/0）		肥前系	壺
882	土製品	坩堝	18	－	9.8	10.4	－	完形	粗	灰赤（7.5R4/2）			
883	土師器	蓋	16	ＳＴ456	－	（1.9）	－	5/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	胞衣壺蓋
884	土師器	壺	16	ＳＴ456	11.1	10.3	15.5	完形	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	胞衣壺
885	陶器	四耳壺	4	ＳＴ350	－	（22.8）	9.7	底）完形	密	にぶい黄（2.5Y6/3）	暗オリーブ（5Y4/3）	瀬戸・美濃系	蔵骨器
886	陶器	蓋	10	ＳＴ50	6.2	1.4	－	ほぼ完形	密	浅黄（2.5Y7/3）	黄褐（2.5Y5/6）	瀬戸・美濃系	蔵骨器
887	陶器	二耳壺	10	ＳＴ50	5.5	8.9	6.8	完形	密	浅黄（2.5Y7/3）	黄褐（2.5Y5/6）	瀬戸・美濃系	蔵骨器、砂目跡３か所
888	陶器	蓋	14	ＳＴ238	8.2	2.6	－	9/12	密	にぶい赤褐（5YR4/4）	オリーブ黒（5Y2/2）	瀬戸・美濃系	蔵骨器、底部糸切り
889	陶器	壺	14	ＳＴ238	7.7	14.0	6.1	完形	密	にぶい赤褐（5YR4/4）	オリーブ黒（5Y2/2）	瀬戸・美濃系	蔵骨器
890	染付	蓋	15	ＳＴ179	（7.0）	4.1	－	2/12	密	白（N9/0）		肥前系	蔵骨器
891	染付	壺	15	ＳＴ179	（8.1）	15.0	6.9	3/12	密	白（N9/0）		肥前系	蔵骨器
892	陶器	壺	18	－	13.4	21.6	13.6	6/12	密	黄灰（2.5Y6/1）		信楽	蔵骨器
893	陶器	壺	2	ＳＴ109	14.1	21.4	14.1	8/12	密	灰白（10YR7/1）		信楽	蔵骨器
894	陶器	甕	9	ＳＴ29	（57.9）	61.8	23.8	2/12	密	内）暗赤褐（5YR3/4）外）にぶい橙（5YR6/4）～暗赤褐（5YR3/4）		信楽	甕棺
895	陶器	甕	3	ＳＴ55	63.3	67.2	26.7	11/12	やや粗	内）暗赤褐（5YR3/4）外）にぶい赤褐（2.5YR4/4）		信楽	甕棺
896	陶器	甕	12	ＳＴ54	61.3	73.0	29.8	完形	密	暗赤褐（2.5YR2/3）		信楽	甕棺
897	陶器	甕	7	ＳＴ49	62.8	75.5	23.0	6/12	やや粗	暗赤褐（5YR3/4）		信楽	甕棺
898	陶器	甕	3	ＳＫ78	55.8	（19.5）	－	12/12	密	明黄褐（10YR6/8）～黒（10YR2/1）		信楽	甕棺
899	陶器	甕	3	ＳＴ354	－	（30.8）	28.5	底）12/12	密	暗赤褐（5YR3/3）		信楽	甕棺
900	陶器	甕	16	ＳＴ240	－	（9.8）	16.1	底）2/12	やや密	にぶい黄橙（10YR7/2）	暗オリーブ（10YR3/4）	信楽	甕棺
901	陶器	甕	12	ＳＴ62	－	（14.6）	19.6	底）12/12	密	暗赤褐（2.5YR3/4）		信楽	甕棺
902	陶器	甕	8	ＳＴ41	35.5	40.8	17.3	11/12	密	内）黒（7.5YR2/1）外）黄褐（10YR5/8）		信楽	甕棺
903	土師器	Ⅲ	－	ＳＫ80	5.5	1.5	－	11/12	やや密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
904	土師器	Ⅲ	－	ＳＫ80	5.6	1.2	－	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
905	土師器	Ⅲ	－	ＳＫ80	5.5	1.3	－	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
906	土師器	Ⅲ	－	ＳＫ80	5.9	1.2	－	ほぼ完形	やや密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
907	土師器	Ⅲ	－	ＳＫ80	5.3	1.5	－	11/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
908	土師器	Ⅲ	－	ＳＫ80	5.9	1.6	－	完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
909	土師器	Ⅲ	－	ＳＫ80	5.5	1.3	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
910	土師器	Ⅲ	－	ＳＫ80	5.5	1.2	－	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
911	土師器	皿	－	ＳＫ80	(12.0)	(1.2)	－	1/12以下	やや密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	
912	土師器	皿	－	ＳＫ80	8.3	1.9	－	9/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
913	土師器	皿	－	ＳＫ80	10.0	1.9	－	ほぼ完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
914	土師器	皿	－	ＳＫ80	10.3	2.1	－	完形	やや密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
915	土師器	皿	－	ＳＫ80	10.1	2.1	－	ほぼ完形	やや粗	橙（7.5YR7/6）		在地	
916	土師器	皿	－	ＳＫ80	10.3	2.3	－	ほぼ完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
917	土師器	皿	－	ＳＫ80	10.4	2.5	－	完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
918	土師器	皿	－	ＳＫ80	10.4	2.0	－	完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
919	土師器	皿	－	ＳＫ80	10.3	2.0	－	8/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
920	土師器	皿	－	ＳＫ80	12.4	2.4	－	11/12	密	にぶい橙(7.5YR7/4)		在地	
921	土師器	鉢	－	ＳＫ80	6.2	2.0	4.6	完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	底部糸切り
922	土師器	鉢	－	ＳＫ80	6.3	2.1	3.8	完形	密	浅黄（2.5Y8/3）		在地	底部糸切り
923	土師器	鉢	－	ＳＫ80	6.2	2.2	4.1	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	底部糸切り
924	土師器	鉢	－	ＳＫ80	6.8	2.1	4.2	完形	密	にぶい黄橙(10YR7/3)		在地	底部糸切り
925	土師器	鉢	－	ＳＫ80	6.4	2.3	4.2	完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	底部糸切り
926	土師器	鉢	－	ＳＫ80	9.4	3.0	6.1	完形	密	浅黄橙(10YR8/3)		在地	底部糸切り
927	土師器	鉢	－	ＳＫ80	9.2	3.4	6.6	完形	やや密	淡黄（2.5Y8/3）		在地	底部糸切り
928	土師器	鉢	－	ＳＫ80	9.7	3.1	6.0	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	底部糸切り
929	土師器	鉢	－	ＳＫ80	7.6	3.2	－	12/12	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	
930	土師器	鉢	－	ＳＫ80	9.2	4.8	－	完形	密	淡黄（2.5Y8/4）		在地	
931	土師器	鉢	－	ＳＫ80	10.2	4.5	－	完形	やや密	内）浅黄橙(7.5YR8/4) 外）にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
932	陶器	椀	－	ＳＫ80	10.4	5.3	－	7/12	密	灰黄（2.5Y6/2）	にぶい黄褐(10YR5/4)・灰白（2.5Y8/2）	肥前系	刷毛目
933	陶器	椀	－	ＳＫ80	－	(2.5)	4.3	底）12/12	精良	灰白(10YR8/2)		肥前系	唐津、目跡有
934	陶器	椀	－	ＳＫ80	11.8	7.0	9.2	底）12/12	精良	灰白(10YR7/1)		肥前系	京焼風、六角形
935	染付	椀	－	ＳＫ80	－	(1.9)	2.3	底）12/12	精良	白		肥前系	
936	土師器	鉢	－	ＳＫ80	8.8	3.6	－	完形	密	浅黄（2.5Y7/4）		在地	内外面墨書有
937	土師器	鉢	－	ＳＫ80	9.0	3.4	－	完形	密	内）明黄褐色(10YR7/6) 外）浅黄橙(10YR8/4)		在地	底面墨書
938	土師器	鉢	－	ＳＫ80	9.2	3.7	－	完形	やや粗	にぶい黄橙(10YR6/4)		在地	底面墨書
939	土師器	鉢	－	ＳＫ80	8.9	3.4	－	ほぼ完形	やや密	にぶい黄橙(10YR6/4)		在地	内外面墨書
940	土師器	鉢	－	ＳＫ80	9.5	3.5	－	8/12	やや密	にぶい黄橙(10YR7/4)		在地	底面墨書、底部糸切り
941	土師器	鉢	－	ＳＫ80	8.6	3.6	－	10/12	やや密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	内外面墨書
942	土師器	鉢	－	ＳＫ80	8.9	3.4	－	10/12	やや密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	内外面墨書
943	土師器	鉢	－	ＳＫ80	9.5	3.4	－	ほぼ完形	密	内）浅黄橙(10YR8/3) 外）橙(7.5YR7/6)		在地	外面墨書
944	土師器	鉢	－	ＳＫ80	9.1	3.4	－	ほぼ完形	密	浅黄橙(10YR8/4)		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
945	土師器	鉢	－	ＳＫ 80	9.0	3.4	－	11/12	密	内）浅黄橙（10YR8/4）外）にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	内外面墨書
946	土師器	鉢	－	ＳＫ 80	9.8	3.5	－	4/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	外面墨書
947	土師器	鉢	－	ＳＫ 80	9.4	(3.7)	－	7/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	外面墨書
948	土師器	皿	－	ＳＫ 99	9.0	1.7	－	4/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
949	土師器	皿	－	ＳＫ 99	(9.5)	(2.0)	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
950	土師器	皿	－	ＳＫ 99	(10.0)	2.1	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
951	土師器	皿	－	ＳＫ 99	(10.4)	2.1	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
952	土師器	皿	－	ＳＫ 99	(11.4)	2.4	－	3/12	密	褐灰（10YR4/1）		在地	
953	土師器	皿	－	ＳＫ 99	(11.5)	2.4	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
954	土師器	皿	－	ＳＫ 99	(11.8)	2.7	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
955	土師器	皿	－	ＳＫ 99	(12.0)	2.5	－	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
956	土師器	皿	－	ＳＫ 99	12.1	2.0	－	5/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
957	土師器	皿	－	ＳＫ 99	12.2	(2.1)	－	11/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
958	土師器	皿	－	ＳＫ 99	12.4	2.4	－	6/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
959	土師器	皿	－	ＳＫ 99	12.5	2.0	－	8/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
960	土師器	皿	－	ＳＫ 99	(13.0)	2.1	－	2/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
961	土師器	鉢	－	ＳＫ 99	(8.6)	(4.4)	－	3/12	密	淡黄（2.5Y8/3）		在地	
962	土製品	鈴	－	ＳＫ 99	長 3.6	幅 3.0	－	完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
963	染付	椀	－	ＳＫ 99	10.8	(4.3)	－	4/12	精良	灰白（2.5Y8/1）		肥前系	
964	陶器	椀	－	ＳＫ 99	－	(4.6)	4.2	底）12/12	精良	にぶい褐（7.5YR7/3）	褐（7.5YR4/4）	肥前系	唐津
965	陶器	椀	－	ＳＫ 99	(11.2)	7.1	4.5	2/12	精良	浅黄橙（10YR8/4）	極暗赤褐（5YR2/3）	美濃・瀬戸系	天目椀
966	土師器	皿	－	ＳＫ 471	5.4	1.1	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
967	土師器	皿	－	ＳＫ 471	5.7	1.5	－	完形	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
968	土師器	皿	－	ＳＫ 471	5.9	1.7	－	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
969	土師器	皿	－	ＳＫ 471	8.2	1.8	－	完形	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
970	土師器	皿	－	ＳＫ 471	9.7	1.8	－	5/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
971	土師器	皿	－	ＳＫ 471	10.3	2.0	－	完形	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
972	土師器	皿	－	ＳＫ 471	10.4	1.9	－	完形	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
973	土師器	皿	－	ＳＫ 471	10.6	1.9	－	完形	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
974	青磁	椀	－	ＳＫ 471	12.8	3.4	4.4	4/12	緻密	白（N9/0）		肥前系	
975	陶器	椀	－	ＳＫ 471	13.8	5.0	4.0	4/12	緻密	灰白（2.5Y7/1）	灰白（5Y7/2）	肥前系	京焼風、目跡１か所
976	陶器	椀	－	ＳＫ 471	(7.6)	5.2	3.3	3/12	緻密	にぶい黄橙（10YR6/4）	褐（10YR4/4）	肥前系	
977	陶器	椀	－	ＳＫ 471	(10.0)	6.1	3.8	2/12	緻密	赤褐（10R4/4）	灰オリーブ（7.5Y6/2）	肥前系	
978	陶器	椀	－	ＳＫ 471	11.2	6.6	4.5	4/12	密	灰黄（2.5Y7/2）	黒（2.5Y2/1）	肥前系	
979	染付	仏飯器	－	ＳＫ 471	(8.8)	6.8	4.2	1/12以下	密	灰白（N8/1）		肥前系	
980	土製品	鈴	－	ＳＫ 471	長（4.0）	幅（4.7）	－	破片	密	浅黄（2.5Y8/3）		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
981	土製品	鈴	－	ＳＫ 471	長 3.7	幅 3.0	厚 0.3	ほぼ完形	密	浅黄（2.5Y7/3）		在地	
982	土製品	鈴	－	ＳＫ 471	長 3.9	幅 3.2	厚 0.3	ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
983	土製品	鈴	－	ＳＫ 471	長 3.7	幅 3.1	厚 0.3	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/2）		在地	
984	土師器	火鉢	－	ＳＫ 471	辺 28.4	12.6	－	11/12	密	にぶい橙（7.5YR6/4）			
986	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（5.0）	（1.4）	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
987	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（5.0）	（1.2）	－	1/12	密	明黄褐（10YR7/4）		在地	
988	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	5.0		－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
989	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	5.8	1.1	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
990	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	5.2	2.0	－	6/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
991	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	9.9	2.0	－	5/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
992	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（9.9）	（2.1）	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
993	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（9.9）	（2.0）	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	灯明皿
994	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	10.2	2.1	－	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
995	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（10.4）	2.3	－	3/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
996	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（10.4）	（2.2）	－	2/12	密	黒（7.5YR2/1）		在地	灯明皿
997	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（10.8）	2.1	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	灯明皿
998	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（10.9）	（2.2）	－	3/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
999	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（10.9）	1.9	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
1000	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	11.0	2.1	－	6/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
1001	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（11.4）	（1.9）	－	1/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1002	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	11.4	（1.9）	－	5/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
1003	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（11.9）	（1.9）	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	
1004	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（11.6）	（2.3）	－	2/12	密	黒褐（10YR3/1）		在地	
1005	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（11.9）	1.8	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
1006	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（12.0）	（1.9）	－	3/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1007	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	12.5	2.1	－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR6/4）		在地	灯明皿
1008	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（11.8）	（2.1）	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1009	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（12.8）	（2.4）	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1010	土師器	皿	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（13.0）	2.1	－	3/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
1011	陶器	椀	－	ＳＥ 113 井戸掘形	－	（5.7）	4.6	底）ほぼ完形	密	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰白（7.5Y7/2）	肥前系	
1012	陶器	椀	－	ＳＥ 113 井戸掘形	－	（5.1）	4.9	底）完形	緻密	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰白（7.5Y7/2）	肥前系	
1013	陶器	椀	－	ＳＥ 113 井戸掘形	－	（3.1）	（5.2）	6/12	緻密	灰白（10YR7/1）	にぶい赤褐（5YR4/3）	肥前系	鉄釉椀
1014	陶器	椀	－	ＳＥ 113 井戸掘形	（11.1）	6.4	4.7	2/12	密	灰白（2.5Y8/2）	黒褐（5YR2/2）	瀬戸・美濃系	天目椀
1015	陶器	椀	－	ＳＥ 113 井戸掘形	9.8	（3.5）	－	5/12	緻密	淡黄（2.5Y8/3）	灰白（2.5Y8/2）	瀬戸・美濃系	志野

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
1016	土師器	皿	－	ＳＥ113 井戸掘形	－	－	－	不明	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	穿孔あり
1017	土製品	犬形土製品	－	ＳＥ113 井戸掘形	長 4.9	4.1	幅 2.2	完形	密	にぶい黄橙 (10YR7/4)		在地	
1018	土師器	皿	－	ＳＥ113 井戸内	(5.8)	1.2	－	1/12	密	灰白 (10YR8/2)		在地	
1019	土師器	皿	－	ＳＥ113 井戸内	(5.9)	1.1	－	3/12	密	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)		在地	
1020	土師器	皿	－	ＳＥ113 井戸内	(9.4)	1.8	－	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
1021	土師器	皿	－	ＳＥ113 井戸内	9.5	1.8	－	4/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1022	土師器	皿	－	ＳＥ113 井戸内	10.4	1.8	－	5/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1023	土師器	皿	－	ＳＥ113 井戸内	10.9	2.2	－	4/12	密	明黄褐 (10YR7/4)		在地	
1024	土師器	皿	－	ＳＥ113 井戸内	(12.0)	2.3	－	3/12	密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1025	土師器	皿	－	ＳＥ113 井戸内	12.0	(2.3)	－	4/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
1026	陶器	向付	－	ＳＥ113 井戸内	(9.8)	(5.0)	－	3/12	密	灰白（2.5Y8/2）	灰白（2.5Y8/1）/ オリーブ黄 (7.5Y6/3)	瀬戸・美濃系	青織部、目跡付着
1027	陶器	椀	－	ＳＥ113 井戸内	(10.6)	(5.6)	－	3/12	緻密	灰白（2.5Y7/1）	灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	
1028	土師器	塩壺	－	ＳＥ113 井戸内	5.5	9.6	－	ほぼ完形	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		泉州	
1029	土師器	皿	－	ＳＥ113 上層	(9.8)	1.7	－	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
1030	土師器	皿	－	ＳＥ113 上層	(11.0)	(2.2)	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1031	土師器	皿	－	ＳＥ113 上層	(12.0)	(2.1)	－	2/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1032	土師器	皿	－	ＳＫ84	(5.1)	1.4	－	3/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1033	土師器	皿	－	ＳＫ84	5.8	1.1	－	5/12	やや密	橙（2.5YR6/6）		在地	
1034	土師器	皿	－	ＳＫ84	(9.4)	2.0	－	2/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1035	土師器	皿	－	ＳＫ84	9.9	1.8	－	5/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1036	土師器	皿	－	ＳＫ84	10.0	2.0	－	4/12	やや密	にぶい橙 (7.5YR7/4)		在地	
1037	土師器	皿	－	ＳＫ84	10.2	2.5	－	4/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1038	土師器	皿	－	ＳＫ84	10.2	1.8	－	4/12	密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1039	土師器	皿	－	ＳＫ84	10.8	2.1	－	5/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
1040	染付	椀	－	ＳＫ83	(8.8)	(4.4)	－	2/12	精良	灰白（2.5Y8/1）		肥前系	
1041	土師器	皿	－	ＳＫ98	9.1	1.8	－	11/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
1042	土師器	皿	－	ＳＫ98	(9.5)	(1.8)	－	2/12	密	浅黄橙 (7.5YR8/3)		在地	
1043	土師器	皿	－	ＳＫ98	(10.4)	1.7	－	1/12	やや密	浅黄橙 (7.5YR8/4)		在地	
1044	土師器	皿	－	ＳＫ98	(10.8)	1.9	－	3/12	やや密	橙（5YR7/6）		在地	灯明皿
1045	土師器	皿	－	ＳＫ98	(10.8)	(2.5)	－	1/12	やや密	にぶい橙 (5YR7/4)		在地	
1046	陶器	椀	－	ＳＫ98	(10.2)	(4.3)	－	2/12	やや密	灰黄褐 (10YR6/2)	黒褐（5YR2/1）	瀬戸・美濃系	天目椀
1047	陶器	椀	－	ＳＫ98	(11.6)	(5.1)	－	2/12	密	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰黄（2.5Y7/2）	肥前系	
1048	陶器	椀	－	ＳＫ98	－	(4.0)	4.7	底）完形	やや密	灰白（2.5Y7/1）	にぶい褐 (7.5YR5/4)	肥前系	
1049	陶器	椀	－	ＳＫ98	(10.7)	6.2	4.3	1/12 以下	やや密	にぶい橙 (5YR6/3)	灰オリーブ (5Y6/2)	肥前系	
1050	染付	椀	－	ＳＫ98	(9.4)	(5.8)	－	3/12	密	灰白（N8/0）		肥前系	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
1051	土師器	皿	－	ＳＫ117	5.8	1.1	－	5/12	密	内）褐灰色（5YR5/1）外）橙（5YR6/6）		在地	
1052	土師器	皿	－	ＳＫ117	(6.0)	1.1	－	2/12	密	黒（7.5YR3/1）		在地	
1053	土師器	皿	－	ＳＫ117	9.4	2.1	－	ほぼ完形	やや密	にぶい黄褐（10YR5/2）		在地	
1054	土師器	皿	－	ＳＫ117	9.8	2.1	－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1055	土師器	皿	－	ＳＫ117	(10.4)	2.2	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR6/3）		在地	灯明皿
1056	土師器	皿	－	ＳＫ117	11.0	2.0	－	4/12	密	内）褐灰（10YR4/1）外）浅黄橙（7.5YR8/3）		在地	
1057	土師器	皿	－	ＳＫ117	11.0	2.1	－	5/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	灯明皿
1058	土師器	皿	－	ＳＫ117	12.1	2.0	－	4/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
1059	土師器	皿	－	ＳＫ117	12.4	2.1	－	5/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
1060	土師器	皿	－	ＳＫ117	(12.4)	2.2	－	2/12	密	内）にぶい橙（5YR6/4）外）褐灰（5YR6/4）		在地	
1061	土師器	皿	－	ＳＫ117	(12.7)	2.1	－	3/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
1062	土師器	皿	－	ＳＫ117	(12.8)	2.0	－	2/12	密	内）にぶい橙（7.5YR6/4）外）褐灰（7.5YR4/1）		在地	
1063	土師器	焙烙	－	ＳＫ117	(30.6)	(6.7)	－	2/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）			
1064	陶器	椀	－	ＳＫ117	11.5	5.6	4.6	ほぼ完形	密	浅黄橙（10YR8/4）	にぶい赤褐（5YR4/4）	瀬戸・美濃系	天目椀
1065	陶器	椀	－	ＳＫ117	(11.8)	(5.2)	－	5/12	密	浅黄（2.5Y8/3）	黒褐（5YR2/1）	瀬戸・美濃系	天目椀
1066	陶器	椀	－	ＳＫ117	12.0	6.8	5.2	5/12	密	灰オリーブ（7.5Y5/2）	にぶい黄橙（10YR7/2）	肥前系	
1067	土製品	犬形土製品	－	ＳＫ117	幅4.6	(2.7)	厚さ2.0	一部欠	密	橙（7.5YR7/6）			
1068	土製品	犬形土製品	－	ＳＫ117	幅7.1	(3.9)	厚さ2.6	足欠	密	にぶい黄橙（10YR7/3）			
1069	土製品	犬形土製品	－	ＳＫ117	幅6.9	4.7	厚さ3.0	一部欠	密	黒褐（2.5Y3/1）・淡黄（2.5Y8/3）			
1070	土師器	皿	－	ＳＫ139	5.3	1.2	－	11/12	やや密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1071	土師器	皿	－	ＳＫ139	6.3	1.4	－	10/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1072	土師器	皿	－	ＳＫ139	6.6	1.5	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1073	土師器	皿	－	ＳＫ139	6.7	1.6	－	9/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1074	土師器	皿	－	ＳＫ139	9.1	2.0	－	完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1075	土師器	皿	－	ＳＫ139	9.9	2.0	－	完形	やや密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
1076	土師器	皿	－	ＳＫ139	10.6	2.1	－	6/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
1077	土師器	皿	－	ＳＫ139	10.7	2.3	－	11/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
1078	土師器	皿	－	ＳＫ139	11.0	2.1	－	6/12	密	にぶい黄褐（10YR5/3）		在地	
1079	土師器	皿	－	ＳＫ139	12.3	2.3	－	8/12	密	橙（7.5YR6/6）		在地	
1080	土師器	皿	－	ＳＫ139	12.6	2.1	－	4/12	密	橙（7.5YR6/6）		在地	
1081	土師器	皿	－	ＳＫ139	12.8	2.3	－	11/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1082	土師器	皿	－	ＳＫ139	13.0	2.4	－	5/12	密	橙（5YR7/6）		在地	
1083	陶器	椀	－	ＳＫ139	11.8	(4.3)	－	4/12	密	灰黄（2.5Y6/2）		肥前系	
1084	土師器	皿	－	ＳＫ125	9.8	2.0	－	5/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
1085	土師器	皿	－	ＳＫ 125	11.6	2.5	－	4/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
1086	土師器	皿	－	ＳＫ 125	12.1	2.4	－	ほぼ完形	やや密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1087	土師器	皿	－	ＳＫ 125	12.2	2.3	－	完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1088	土師器	皿	－	ＳＫ 125	12.4	2.3	－	完形	やや密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
1089	土師器	皿	－	ＳＫ 125	12.7	2.2	－	完形	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
1090	土師器	皿	－	ＳＫ 11	(9.0)	1.7	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
1091	土師器	皿	－	ＳＫ 11	10.0	(2.1)	－	5/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1092	土師器	皿	－	ＳＫ 11	(10.0)	1.6	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
1093	土師器	皿	－	ＳＫ 11	10.1	2.1	－	8/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
1094	土師器	皿	－	ＳＫ 11	10.4	(2.2)	－	7/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1095	土師器	皿	－	ＳＫ 11	(10.4)	(1.8)	－	3/12	密	明黄褐（10YR7/6）		在地	
1096	土師器	皿	－	ＳＫ 11	10.6	1.9	－	8/12	密	内）浅黄橙（10YR8/4） 外）浅黄橙（10YR8/3）		在地	
1097	土師器	皿	－	ＳＫ 11	10.6	(1.7)	－	5/12	密	明黄褐（10YR7/6）		在地	灯明皿
1098	土師器	皿	－	ＳＫ 11	10.9	2.4	－	10/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	灯明皿
1099	土師器	皿	－	ＳＫ 11	(12.1)	(1.9)	－	3/12	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
1100	土師器	皿	－	ＳＫ 11	(12.0)	(1.7)	－	2/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1101	土師器	皿	－	ＳＫ 11	(12.4)	2.0	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）		在地	
1102	土師器	皿	－	ＳＫ 11	12.4	(1.9)	－	4/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1103	陶器	椀	－	ＳＫ 11	(12.4)	5.9	4.7	4/12	密	黒（5Y2/1）	褐（7.5YR4/6）	瀬戸・美濃系	天目椀
1104	陶器	皿	－	ＳＫ 11	(13.2)	(2.9)	(6.2)	2/12	密	浅黄（2.5Y8/3）	暗オリーブ褐（2.5Y3/3）・灰オリーブ（7.5Y5/3）	瀬戸・美濃系	青織部
1105	土師器	皿	－	ＳＫ 111	5.4	1.2	－	完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1106	土師器	皿	－	ＳＫ 111	6.7	1.5	－	8/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	
1107	土師器	皿	－	ＳＫ 111	(7.4)	1.5	－	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	底部ヘラ切り
1108	土師器	皿	－	ＳＫ 111	9.6	2.2	－	8/12	密	にぶい橙（5YR7/4）		在地	
1109	土師器	皿	－	ＳＫ 111	9.7	2.1	－	9/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1110	土師器	皿	－	ＳＫ 111	10.0	2.1	－	10/12	密	灰白（10YR8/2）		在地	
1111	土師器	皿	－	ＳＫ 111	10.4	1.9	－	ほぼ完形	密	浅黄橙（10YR8/3）		在地	
1112	土師器	皿	－	ＳＫ 111	10.7	2.2	－	8/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	灯明皿
1113	土師器	皿	－	ＳＫ 111	10.8	2.2	－	ほぼ完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1114	土師器	皿	－	ＳＫ 111	11.1	2.5	－	9/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	灯明皿
1115	土師器	皿	－	ＳＫ 111	11.2	2.5	－	ほぼ完形	密	橙（7.5YR7/6）		在地	灯明皿
1116	土師器	皿	－	ＳＫ 111	12.4	2.1	－	ほぼ完形	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
1117	土師器	皿	－	ＳＫ 111	12.5	2.5	－	ほぼ完形	密	橙（5YR6/6）		在地	
1118	土師器	皿	－	ＳＫ 111	12.6	2.5	－	ほぼ完形	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
1119	土師器	鉢	－	ＳＫ111	6.6	2.0	4.4	完形	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		在地	
1120	土師器	鉢	－	ＳＫ111	9.5	3.4	7.0	11/12	密	浅黄橙（10YR8/4）		在地	底部ヘラ切り
1121	陶器	椀	－	ＳＫ111	11.7	6.0	4.8	9/12	密	褐（10YR6/4）	灰黄（2.5Y7/2）	肥前系	皮鯨手
1122	陶器	椀	－	ＳＫ111	（11.0）	5.6	4.5	10/12	密	にぶい赤褐（5YR5/3）	灰オリーブ（7.5Y5/3）	肥前系	
1123	陶器	椀	－	ＳＫ111	10.6	5.7	4.2	8/12	密	赤褐（2.5YR4/6）	オリーブ黄（7.5Y6/3）	肥前系	
1124	陶器	椀	－	ＳＫ111	10.0	6.8	4.0	7/12	密	にぶい褐（7.5YR5/3）	浅黄（5Y7/3）	肥前系	
1125	陶器	椀	－	ＳＫ111	10.6	6.8	4.8	6/12	密	明黄褐（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）	肥前系	
1126	陶器	杯		ＳＫ111	5.6	5.4	3.1	5/12	密		灰白（7.5Y8/1・8/2・7/2	瀬戸・美濃系	目跡３か所
1127	陶器	椀	－	ＳＫ111	7.9	3.7	3.4	10/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）	灰白（10Y8/1）	瀬戸・美濃系	志野
1128	陶器	向付	－	ＳＫ111	幅9.2	8.1	7.2	7/12	密	淡黄（2.5Y8/3）	灰白（10YR8/1）	瀬戸・美濃系	志野
1129	土師器	花塩壺	－	ＳＥ129	（3.6）		－	6/12	密	にぶい黄橙（10YR7/3）			
1130	染付	皿	－	ＳＥ129	10.0	2.6	6.3	8/12	密	灰白（7.5Y8/1）		肥前系	輪花皿
1131	陶器	皿	－	ＳＥ129	（11.5）	（1.5）	－	3/12	密	にぶい黄橙（10YR7/4）		京・信楽系	灯明皿
1132	陶器	皿	－	ＳＥ129	（12.8）	2.7	－	2/12	密	灰白（10Y9/1）		京・信楽系	灯明皿
1133	陶器	土瓶	－	ＳＥ129	6.5	11.9	74.0	7/12	密	灰黄（2.5Y6/2）	オリーブ黄（7.5Y6/3）～オリーブ灰（5GY6/1）より緑色	京・信楽系	
1134	土製品	人形	－	ＳＥ129	幅5.6	（7.9）	－	頭部のみ	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		京・伏見系	狐
1135	陶器	ミニチュア土器	－	ＳＥ129	縦8.3横4.8	1.4	－	ほぼ完形	密	灰白（5Y8/1）	オリーブ黄（5Y6/3）		皿
1136	土師器	小壺	－	ＳＫ178	2.7	3.5	－	完形	密	浅黄（2.5Y8/3）		在地	
1137	土師器	皿	－	ＳＫ178	5.2	1.4	－	7/12	密	橙（5YR6/6）		在地	
1138	土師器	皿	－	ＳＫ178	8.4	1.9	－	6/12	密	にぶい橙（5YR7/4）		在地	
1139	土師器	皿	－	ＳＫ178	9.9	1.9	－	5/12	密	にぶい橙（7.5YR7/3）		在地	
1140	土師器	皿	－	ＳＫ178	10.2	1.8	－	6/12	密	橙（2.5YR7/6）		在地	
1141	土師器	皿	－	ＳＫ178	10.3	2.1	－	6/12	密	橙（7.5YR7/6）		在地	
1142	土師器	皿	－	ＳＫ178	（10.6）	2.0	－	3/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
1143	土師器	皿	－	ＳＫ178	10.5	2.0	－	11/12	密	にぶい橙（7.5YR7/4）		在地	
1144	土師器	皿	－	ＳＫ178	10.6	1.9	－	8/12	密	灰白（10YR8/2）		在地	
1145	土師器	皿	－	ＳＫ178	10.8	2.0	－	9/12	密	浅黄橙（7.5YR8/4）		在地	
1146	土師器	鉢	－	ＳＫ178	（10.4）	（4.1）	－	3/12	密	灰白（2.5Y8/2）		在地	
1147	土師器	鉢	－	ＳＫ178	10.0	（4.4）	－	12/12	やや密	淡黄（2.5Y8/3）		在地	
1148	土師器	羽釜	－	ＳＫ178	（25.6）	（9.5）	－	2/12	やや密	にぶい黄橙（10YR7/4）			
1149	陶器	椀	－	ＳＫ178	6.4	5.5	3.4	9/12	密	にぶい赤褐（5YR5/3）		肥前系	
1150	陶器	椀	－	ＳＫ178	7.3	5.2	3.4	9/12	密	橙（5YR6/6）	黒褐（10YR2/3）	肥前系	
1151	陶器	椀	－	ＳＫ178	7.5	5.2	3.4	8/12	密	橙（5YR6/6）	黒褐（10YR2/3）	肥前系	
1152	陶器	椀	－	ＳＫ178	7.8	9.9	3.8	5/12	やや密	にぶい黄橙（10YR6/4）	黒褐（10YR3/2）	肥前系	
1153	陶器	椀	－	ＳＫ178	9.6	6.3	（5.5）	5/12	密	灰白（5Y8/2）		肥前系	京焼風
1154	陶器	椀	－	ＳＫ178	8.8	6.4	5.1	7/12	密	灰白（2.5Y8/1）	浅黄（2.5Y7/3）	肥前系	京焼風
1155	陶器	椀	－	ＳＫ178	9.8	6.6	4.9	7/12	密	明褐（7.5YR5/6）		肥前系	京焼風

報告番号	種類	器形	出土地点		法量（cm）			残存率	胎土	色調		生産地	備考
			墓群	遺構名	口径	器高	底径			露胎部（素地）	釉薬		
1156	染付	椀	－	ＳＫ 178	(9.0)	5.0	3.7	2/12	密	白		肥前系	
1157	染付	椀	－	ＳＫ 178	9.8	7.0	4.2	5/12	精良	橙（7.5YR7/6）	明オリーブ灰（2.5GY7/1）	肥前系	
1158	陶器	椀	－	ＳＫ 178	8.3	3.9	3.8	5/12	やや密	浅黄（2.5Y7/3）	灰黄褐（10YR4/2）	瀬戸・美濃系	鉄釉椀
1159	陶器	椀	－	ＳＫ 178	11.2	(5.1)	－	8/12	密	浅黄（2.5Y8/3）	暗褐（10YR3/3）	瀬戸・美濃系	天目椀

付表８　瓦観察表

〈凡例〉
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示
・－；該当なし

報告番号	種類	文様	出土地点		法量（cm）			残存率	色調	胎土	調整・備考
			地区	遺構名	長さ	幅・径	厚さ				
75	棟飾り	菊花	１トレ	攪乱８	(5.4)	8.2	1.7	10/12	浅黄（2.5Y7/4）	密	
76	棟飾り	菊花	１トレ	攪乱８	(1.5)	(6.8)	1.0	10/12	灰（N4/0）	密	
77	軒丸	菊花	11トレ	ＳＫ 101	(5.1)	13.1	1.7～1.9	8/12	黄灰（2.5Y5/1）	やや粗	
78	軒丸	三巴	８トレ	ＳＫ 99	(2.5)	13.3	1.1～1.7	6/12	にぶい褐（7.5YR5/3）	やや密	
79	軒丸	三巴	１トレ	ＳＫ 04	(6.7)	13.5	2.3	12/12	灰（N5/0）	密	
80	丸付軒桟	花・唐草	３トレ	壁面精査	(2.5)	(14.5)	1.7	－	暗灰（N3/0）	密	
81	軒平	唐草	１トレ	攪乱８	(6.0)	(16.5)	1.6	－	灰（N4/0～5/0）	密	
82	鬼か獅子口	菊	11トレ	ＳＫ 101	－	(16.5)	3.1	－	黄褐（2.5Y5/3）	やや粗	
83	獅子口	－	11トレ	ＳＫ 101	(19.0)	(15.8)	7.5	－	内）にぶい黄橙（10YR7/4） 外）灰（5Y6/1）	やや粗	
84	棟飾り	－	11トレ	ＳＫ 101	(15.0)	(9.0)	5.4	－	黄灰（2.5Y4/1）	やや粗	
85	軒丸	複弁蓮華	６トレ	南北断ち割り	(2.1)	(3.9)	1.2～2.0	－	浅黄（2.5Y7/4）	やや密	
86	軒丸	複弁蓮華	１トレ	攪乱７	(5.8)	13.1	2.2	6/12	灰（N6/0）・灰白（7.5Y7/1）	やや粗	
87	軒平	唐草	６トレ	南北断ち割り	(9.0)	(13.4)	1.9	－	灰（N6/1）	やや粗	凹面：不明 凸面：ナデか
88	軒平	宝相華	６トレ	ＳＤ 18	(10.2)	(11.0)	2.0～4.8	－	灰（5Y6/1）	やや粗	凹面：布目 凸面：不調整か
89	軒平	半裁宝相華	３トレ	北西断ち割り シルト層礫層	(13.3)	(14.0)	3.3～6.6	－	にぶい黄橙（10YR7/4）	密	凹面：布目（摩滅） 凸面：縄目
90	軒平	唐草	３トレ	南東断ち割り シルト層下礫層	(10.6)	(11.7)	2.3	－	灰黄（2.5Y6/2）	やや密	凹面：布目 凸面：縄目
91	軒平	唐草	３トレ	北東断ち割り シルト層下礫層	(8.4)	(11.5)	2.9	－	にぶい黄橙（10YR7/4）	やや粗	凹面：布目 凸面：タタキ
92	丸	－	３トレ	南東断ち割り 粗砂	(21.3)	(15.4)	2.8～3.2	－	灰白（2.5Y8/2）	やや密	凹面：布目 凸面：タタキ
93	平	－	１トレ	攪乱７ 断ち割り２	(23.5)	26.0	2.4	－	にぶい黄橙（10YR6/4・7/3）	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目
94	平	－	３トレ	南東断ち割り シルト層下礫層	39.5	26.5	2.9～3.4	－	灰（5Y6/1）	粗	凹面：擦り消しか 凸面：タタキ
95	平	－	３トレ	北東断ち割り シルト層下礫層	(18.0)	30.2	1.7～2.8	－	にぶい橙（5YR6/4）～浅黄橙（10YR8/4）	粗	凹面：布目 凸面：縄目
96	緑釉平	－	３トレ	南断ち割り シルト層下礫層	(13.2)	(14.5)	1.8	－	にぶい黄橙（10YR7/4）	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目（緑釉）
97	平	－	８トレ	ＳＫ 97	(17.0)	15.5	2.4～3.4	－	にぶい黄橙（10YR6/4）	やや密	凹面：布目 凸面：縄目
98	緑釉平	－	３トレ	南断ち割り シルト層下礫層	(16.9)	(10.9)	1.9～2.3	－	明黄褐（10YR7/6）	密	凹面：布目（緑釉少し） 凸面：縄目（緑釉）

報告番号	種類	文様	出土地点		法量（cm）			残存率	色調	胎土	調整・備考
			地区	遺構名	長さ	幅・径	厚さ				
99	平	－	6トレ	ＳＫ10 完掘後精査	（12.6）	（10.5）	2.0～2.3	－	灰黄（2.5Y7/2）	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目？
100	緑釉平	－	1トレ	東半第２層礫層上面	（6.4）	（4.4）	2.5	－	素地）にぶい黄橙（10YR7/4） 釉）深緑	密	凹面：縄目（施釉） 凸面：縄目か
101	平	－	8トレ	河川堆積 黄褐色粘土	（20.4）	（15.7）	2.5～2.8	－	にぶい黄橙（10YR7/4）	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目
102	平	－	3トレ	南東断ち割り シルト層下礫層	（23.7）	（17.2）	2.6～2.8	－	にぶい黄橙（10YR7/4）	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目
103	平	－	3トレ	北西断ち割り シルト層礫層	（21.6）	（17.6）	2.0～3.6	－	褐灰（7.5YR6/2）・ にぶい橙（7.5YR7/4）	密	凹面：布目 凸面：縄目
104	平	－	1トレ	北区中央整地土 直下層２層	（10.6）	25.0	2.4～3.4	－	灰黄褐（10YR5/2）・ にぶい黄橙（10YR8/4）	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目
423	敷	唐草	5トレ	ＳＰ940	（14.0）	28.5	3.1	－	素地）灰黄（2.5Y7/2） 釉）暗オリーブ（7.5Y7/2）	やや粗	陶質（瀬戸・美濃系）
571	棟飾り	菊花	7トレ	ＳＫ704	（6.5）	9.3	－	瓦当完形	灰（N4/0）	密	
572	軒平	唐草	7トレ	ＳＫ731	（2.7）	21.8	5.2	瓦当ほぼ完形	灰白（5Y7/1）	密	
573	軒平	唐草	2トレ	東半２層以下	（16.5）	（15.8）	2.2～2.5	－	灰白（5Y7/1）～灰（5Y4/1）	密	凹面：擦り消し 凸面：工具によるナデ
574	鬼か獅子口	－	7トレ	ＳＥ703	（20.0）	（13.7）	1.6	－	灰（N4/0）	やや粗	
575	鬼か獅子口	－	2トレ	ＳＫ526	（10.5）	（12.5）	1.5～4.3	－	灰（N5/0）	密	
576	鬼か獅子口	－	7トレ	ＳＤ744	（19.5）	（10.1）	1.6～3.5	－	灰オリーブ（5Y5/2） 灰黄（2.5Y7/2）	密	
577	鬼か獅子口	－	2トレ	ＳＫ526	（20.3）	（23.6）	3.5	－	暗灰（N3/0）	密	
578	鬼か獅子口	－	2トレ	ＳＫ526	（25.6）	（14.7）	8.2	－	暗灰（N4/4）	密	
579	軒丸	複弁蓮華	墓群12	－	－	（9.7）	1.8～2.4	－	灰白（5Y7/1）	やや粗	瓦当のみ
580	軒丸	複弁蓮華	墓群14	ＳＫ256	（3.9）	（12.3）	2.0	4/12	灰白（2.5Y7/1）	やや粗	瓦当のみ
581	軒丸	複弁蓮華	－	ＳＫ100	－	（13.5）	1.7～2.7	5/12	灰白（N5/0）	密	瓦当のみ
582	緑釉丸	－	2トレ	東半２層以下	（6.8）	（6.8）	2.2～2.4	－	浅黄橙（10YR8/4）	密	凹面：擦り消し 凸面：縄目（緑釉）
583	緑釉丸	－	2トレ	東半３層以下	（8.3）	（7.4）	1.4～1.8	－	褐灰（10YR6/1）	密	凹面：布目 凸面：縄目後擦り消しか（緑釉）
584	丸	－	4トレ	断ち割り（下層）	（19.5）	（10.5）	1.6～3.2	－	黄灰（2.5Y5/1）	粗	凹面：布目 凸面：ナデ
585	軒平	唐草	2トレ	東半３層以下	（10.5）	（20.2）	3.8	－	灰白（2.5Y8/1）	密	凹面：布目 凸面:タタキ（摩滅）
586	軒平	唐草	－	ＳＫ139	（10.5）	（8.9）	3.2～6.3	－	灰白（10YR8/2）	密	瓦当のみ
587	軒平	唐草	2トレ	東半３層以下	（16.7）	（13.8）	3.0～5.9	－	灰（N5/0）	密	凹面：摩滅 凸面：ケズリか
588	緑釉平	－	2トレ	東半３層以下	（11.8）	（7.6）	2.4～2.6	－	黄橙（10YR8/6）	密	凹面：布目 凸面：縄目（緑釉）
589	緑釉平	－	墓群12	ＳＫ145	（7.5）	（7.1）	1.9	－	素地）にぶい橙（7.5YR7/4） 釉）オリーブ黒（7.5Y3/2）	密	
590	平	－	7トレ	最終断ち割り上層	（20.2）	（12.0）	2.0～2.9	－	灰白（N7/0）	やや粗	凹面：布目 凸面：正格子タタキ
591	平	－	4トレ	断ち割り（旧河道）	（14.2）	（15.0）	1.5～2.2	－	灰白（5Y7/1）	粗	凹面：ハケのちナデ 凸面：縄目

報告番号	種類	文様	出土地点		法量（cm）			残存率	色調	胎土	調整・備考
			地区	遺構名	長さ	幅・径	厚さ				
592	平	－	２トレ	東半５層以下	（14.5）	（17.5）	3.2	－	灰白（2.5Y8/1）	密	凹面：布目 凸面：鋸歯文タタキ
593	平	－	４トレ	断ち割り（下層）	（16.7）	（13.3）	2.1～2.3	－	灰黄（2.5Y7/2）	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目
594	緑釉平	－	４トレ	断ち割り（旧河道）	（15.7）	（12.8）	1.9～2.8		素地）橙（5YR6/8）	粗	凹面：布目一部ナデ 凸面:縄目か（摩滅）
595	平	－	４トレ	断ち割り（下層）	（19.6）	（10.5）	1.9～2.2	－	灰（N4/0）	粗	凹面：布目 凸面：斜格子タタキ
596	緑釉平	－	２トレ	東半３層以下	（10.6）	（12.6）	2.0～2.4	－	黄橙（10YR8/6）	密	凹面：布目 凸面：縄目
597	平	－	７トレ	最終断ち割り上層	（22.1）	（23.7）	1.9～2.7	－	灰（N6/1）	やや粗	凹面：布目 凸面：縄目
1160	軒丸瓦	複弁蓮華	鴨沂グラウンド	京都府教委立会調査	－	（10.3）	1.3～2.4	－	灰白（5Y8/1）	やや軟	
1161	緑釉軒平	半裁花	鴨沂グラウンド	京都府教委立会調査	（16.7）	（16.0）	2.9～6	－	灰（N6/1）	密	凹面：布目（緑釉） 凸面：縄目
1162	緑釉軒平	半裁花	鴨沂グラウンド	京都府教委立会調査	（19.2）	（14.8）	3.0～5.3	－	浅黄橙（7.5YR8/4）	密	凹面：布目 凸面：縄目
1163	軒平	唐草	鴨沂グラウンド	京都府教委立会調査	（13.8）	（16.7）	2.4～5.4	－	青灰（5PB6/1）	密	凹面：布目 凸面：ナデ
1164	緑釉丸	－	鴨沂グラウンド	京都府教委立会調査	（18.7）	（13.8）	1.3～3.8	－	灰白（7.5YR8/2）		凹面：布目 凸面：ナデ（緑釉）

付表９　石製品観察表

〈凡例〉
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示
・－；該当なし

報告番号	種類	材質	出土地点		法量（cm）			重量（g）	色調	調整・備考
			地区	出土遺構	長さ	幅・径	厚さ			
23	硯		北６トレ	ＳＫ 03	（8.2）	3.8	6.5	－		
598	砥石	火成岩か	南７トレ	ＳＫ 708	8.9	4.4	2.6	161.6		
599	砥石	粘板岩	南７トレ	ＳＫ 708	9.4	4.1	1.0	53.9		
985	硯		南４トレ	ＳＫ 471	13.2	7.1	1.9	－	黒（N1.5/0）	

付表10　鉄釘・青銅製品・ガラス製品観察表

〈凡例〉
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示（厚さは小数点第３位を四捨五入、第２位で表示）
・－；該当なし

報告番号	種類	材質	出土地点		法量（cm）			備考
			地区	遺構名	長さ	幅	厚さ	
釘１	釘	鉄	４トレンチ	墓群２ａ　ＳＴ 67	10.4	0.3	0.30	
釘２	釘	鉄	４トレンチ	墓群２ａ　ＳＴ 67	8.9	0.3	0.30	
釘３	釘	鉄	４トレンチ	墓群２ａ　ＳＴ 67	6.5	0.3	0.30	
釘４	釘	鉄	４トレンチ	墓群４　ＳＴ 24	8.0	0.3	0.30	
釘５	釘	鉄	４トレンチ	墓群４　ＳＴ 24	（6.2）	0.5	0.30	
釘６	釘	鉄	４トレンチ	墓群４　ＳＴ 24	（6.6）	0.3	0.30	
釘７	釘	鉄	４トレンチ	墓群 12 ａ　ＳＴ 219	（4.0）	0.2	0.15	
釘８	釘	鉄	４トレンチ	墓群 12 ａ　ＳＴ 219	4.2	0.3	0.15	
釘９	釘	鉄	４トレンチ	墓群 12 ａ　ＳＴ 219	（3.7）	0.3	0.30	
釘 10	釘	鉄	４トレンチ	墓群 12 ａ　ＳＴ 219	（3.5）	0.3	0.30	

報告番号	種類	材質	出土地点		法量（cm）			備考
			地区	遺構名	長さ	幅	厚さ	
釘11	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(3.0)	0.3	0.30	
釘12	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	4.5	0.2	0.15	
釘13	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(4.6)	0.5	0.30	
釘14	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(4.2)	0.3	0.30	
釘15	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(4.3)	0.2	0.30	
釘16	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	5.6	0.3	0.15	
釘17	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(5.0)	0.3	0.30	
釘18	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	4.7	0.3	0.30	
釘19	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	4.7	0.3	0.15	固着
釘20	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	4.4	0.3	0.15	固着
釘21	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	6.0	0.3	0.30	
釘22	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(5.3)	0.5	0.30	
釘23	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(6.2)	0.3	0.30	
釘24	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	6.5	0.3	0.30	
釘25	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(5.1)	0.3	0.30	
釘26	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(6.0)	0.3	0.30	
釘27	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(5.6)	0.5	0.15	
釘28	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	5.0	0.3	0.30	
釘29	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	(6.2)	0.3	0.30	
釘30	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	6.0	0.3	0.30	
釘31	釘	鉄	4トレンチ	墓群12a　ST219	6.0	0.2	0.30	
釘32	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	4.1	0.2	0.15	
釘33	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	4.0	0.3	0.15	
釘34	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	(3.2)	0.3	0.15	
釘35	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	(3.2)	0.3	0.30	
釘36	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	3.0	0.3	0.15	
釘37	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	(3.9)	0.2	0.15	
釘38	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	(4.0)	0.3	0.30	
釘39	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	4.6	0.3	0.15	
釘40	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	4.2	0.2	0.30	
釘41	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	4.1	0.2	0.15	
釘42	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	3.2	0.3	0.15	
釘43	釘	鉄	4トレンチ	墓群17b　ST81	(5.2)	0.5	0.30	
青銅1	煙管	銅	7トレンチ	SX750	(6.4)	1.1	0.10	
青銅2	煙管	銅	7トレンチ	SK712	(4.7)	1.1	0.50	
青銅3	煙管	銅	7トレンチ	SK704	(3.9)	0.7～1.6	0.50	
青銅4	飾り金具か	銅	7トレンチ	SK712	(2.2)	4.9	0.05	
青銅5	煙管	銅	4トレンチ	墓群2b　ST375	(6.2)	0.9	0.50	3と同一か
青銅6	煙管	銅	4トレンチ	墓群2b　ST375	(6.2)	0.9	0.50	4と同一か
青銅7	留め金具	銅	4トレンチ	墓群3b	(2.5)	(3.0)	0.05	
青銅8	環状製品	銅	4トレンチ	墓群3a　ST355	4.6	4.6	0.20	
青銅9	座金具	銅	4トレンチ	墓群3a　ST355	5.5	2.2	0.05～0.40	
青銅10	座金具	銅	4トレンチ	墓群16a　ST168	2.0	2.1	0.05	
青銅11	座金具	銅	4トレンチ	墓群16a　ST168	(2.1)	(2.1)	0.04	
青銅12	不明	銅	4トレンチ	墓群17b　ST199	2.8	2.8	0.20	
青銅13	不明	銅	4トレンチ	墓群16b　ST247	2.2	2.2	-	
青銅14	棒状製品	銅	4トレンチ	墓群4a　ST197	(1.8)	1.9	0.10	
青銅15	座金具	銅	4トレンチ	墓群13b　ST215	3.6	(3.4)	0.05	
青銅16	釘隠	銅	4トレンチ	墓群13b　ST215	3.1	3.1	0.05	
青銅17	鋲	銅	4トレンチ	精査	4.6	0.9	-	
青銅18	鋲	銅	4トレンチ	墓群16a　ST240	3.1	0.9	0.05～0.10	
青銅19	鋲	銅	4トレンチ	SK113	(2.4)	0.6	-	
青銅20	座金具・鋲	銅	4トレンチ	墓群3b　ST368	(2.5)	1.8	0.20	
ガラス1	破片	ガラス	4トレンチ	墓群13　ST215	(2.0)	(1.7)	厚0.14～0.15	
ガラス2	ホッピンの吹き竿部	ガラス	4トレンチ	SK82	(4.0)	0.6	0.05	

付表 11　銭観察表

〈凡例〉
・厚さ欄の * は固着のため全体の数値

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭 1	墓群 1 a	S T 378	南無阿弥陀佛（念仏銭）	−	−	2.35	0.12	
銭 2	墓群 1 a	S T 379	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.5	4 枚固着
銭 3	墓群 1 a	S T 379	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 4	墓群 1 a	S T 379	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 5	墓群 1 a	S T 379	不明	−	−	2.45	−	4 枚固着
銭 6	墓群 1 a	S T 379	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.27	2 枚固着
銭 7	墓群 1 a	S T 379	不明	−	−	2.45	−	2 枚固着
銭 8	墓群 1 a	S T 90	新寛永通寶	日本	1668	2.35	*0.73	6 枚固着
銭 9	墓群 1 a	S T 90	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 10	墓群 1 a	S T 90	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 11	墓群 1 a	S T 90	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 12	墓群 1 a	S T 90	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 13	墓群 1 a	S T 90	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 14	墓群 1 a	S T 92	寛永通宝	−	−	2.45	0.1	
銭 15	墓群 1 a	S T 92	□永通寶	−	−	2.5	0.13	
銭 16	墓群 1 a	S T 92	不明	−	−	2.45	*0.73	6 枚固着
銭 17	墓群 1 a	S T 92	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 18	墓群 1 a	S T 92	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 19	墓群 1 a	S T 92	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 20	墓群 1 a	S T 92	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 21	墓群 1 a	S T 92	不明	−	−	2.3	−	6 枚固着
銭 22	墓群 1 a	S T 94	治？平元寶	北宋	1064	2.35	*0.83	4 枚固着
銭 23	墓群 1 a	S T 94	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 24	墓群 1 a	S T 94	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 25	墓群 1 a	S T 94	□□□寶	−	−	2.35	−	4 枚固着
銭 26	墓群 1 b	S T 382	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.1	
銭 27	墓群 1 b	S T 382	不明	−	−	2.4	*0.67	6 枚固着
銭 28	墓群 1 b	S T 382	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 29	墓群 1 b	S T 382	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 30	墓群 1 b	S T 382	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 31	墓群 1 b	S T 382	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 32	墓群 1 b	S T 382	不明	−	−	2.35	−	6 枚固着
銭 33	墓群 2 a	S T 372	南無阿弥陀佛（念仏銭）	−	−	2.4	0.15	
銭 34	墓群 2 a	S T 372	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.75	6 枚固着
銭 35	墓群 2 a	S T 372	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 36	墓群 2 a	S T 372	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 37	墓群 2 a	S T 372	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 38	墓群 2 a	S T 372	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 39	墓群 2 a	S T 372	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	6 枚固着
銭 40	墓群 2 a	S T 372	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭 41	墓群 2 a	S K 14	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.71	6 枚固着
銭 42	墓群 2 a	S K 14	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 43	墓群 2 a	S K 14	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 44	墓群 2 a	S K 14	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 45	墓群 2 a	S K 14	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 46	墓群 2 a	S K 14	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	6 枚固着
銭 47	墓群 2 a	S T 16	□□□寶	−	−	2.45	0.1	
銭 48	墓群 2 a	S T 47	紹定通寶	南宋	1228	2.4	0.15	
銭 49	墓群 2 a	S T 47	明道元寶	北宋	1032	2.5	*0.48	4 枚固着
銭 50	墓群 2 a	S T 47	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 51	墓群 2 a	S T 47	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 52	墓群 2 a	S T 47	不明	−	−	2.45	−	4 枚固着
銭 53	墓群 2 a	S T 47	□□元寶	−	−	2.35	0.11	
銭 54	墓群 2 a	S T 67	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.75	6 枚固着
銭 55	墓群 2 a	S T 67	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 56	墓群 2 a	S T 67	不明	−	−	−	−	6 枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭57	墓群2a	ST67	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭58	墓群2a	ST67	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭59	墓群2a	ST67	古寛永通寶	日本	1636	2.4	−	6枚固着
銭60	墓群2b	ST377	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.17	
銭61	墓群2b	ST377	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.6	5枚固着
銭62	墓群2b	ST377	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭63	墓群2b	ST377	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭64	墓群2b	ST377	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭65	墓群2b	ST377	不明	−	−	2.45	−	5枚固着
銭66	墓群2b	ST377	新寛永通寶	日本	1668	2.45	*0.68	6枚固着
銭67	墓群2b	ST377	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭68	墓群2b	ST377	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭69	墓群2b	ST377	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭70	墓群2b	ST377	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭71	墓群2b	ST377	新寛永通寶	日本	1668	2.45	−	6枚固着
銭72	墓群2b	ST109	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.51	4枚固着
銭73	墓群2b	ST109	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭74	墓群2b	ST109	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭75	墓群2b	ST109	不明	−	−	2.4	−	4枚固着
銭76	墓群2b	ST109	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.11	2枚固着、裏に「文」有り
銭77	墓群2b	ST109	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.15	2枚固着、裏に「文」有り
銭78	墓群2b	ST108	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.35	0.14	
銭79	墓群2b	ST108	不明	−	−	2.4	*0.25	2枚固着
銭80	墓群2b	ST108	不明	−	−	2.4	−	2枚固着
銭81	墓群2b	ST108	祥符通寶	北宋	1008	2.35	0.15	割れ
銭82	墓群2b	ST108	元□通寶	−	−	2.5	0.11	割れ
銭83	墓群2b	ST107	不明	−	−	2.4	*0.64	5枚固着
銭84	墓群2b	ST107	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭85	墓群2b	ST107	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭86	墓群2b	ST107	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭87	墓群2b	ST107	不明	−	−	2.4	−	5枚固着
銭88	墓群2b	ST18	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.74	6枚固着
銭89	墓群2b	ST18	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭90	墓群2b	ST18	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭91	墓群2b	ST18	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭92	墓群2b	ST18	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭93	墓群2b	ST18	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	6枚固着
銭94	墓群2b	ST21	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.85	6枚固着
銭95	墓群2b	ST21	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭96	墓群2b	ST21	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭97	墓群2b	ST21	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭98	墓群2b	ST21	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭99	墓群2b	ST21	不明	−	−	2.55	−	6枚固着
銭100	墓群2b	ST43	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.7	6枚固着
銭101	墓群2b	ST43	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭102	墓群2b	ST43	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭103	墓群2b	ST43	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭104	墓群2b	ST43	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭105	墓群2b	ST43	不明	−	−	2.35	−	6枚固着
銭106	墓群3a	ST355	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.14	
銭107	墓群3a	ST355	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.13	
銭108	墓群3a	ST355	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.12	
銭109	墓群3a	ST355	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.14	2枚固着
銭110	墓群3a	ST355	不明	−	−	2.45	0.14	2枚固着
銭111	墓群3a	ST22	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.11	
銭112	墓群3a	ST22	新寛永通寶	日本	1668	2.55	0.13	
銭113	墓群3a	ST22	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*5.0	4枚固着
銭114	墓群3a	ST22	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭115	墓群3a	ST22	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭116	墓群3a	ST22	新寛永通寶	日本	1668	2.55	−	裏向きだが「文」確認

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭 117	墓群３ａ	ＳＴ 22	祥符元寶	北宋	1111	2.4	*0.69	６枚固着
銭 118	墓群３ａ	ＳＴ 22	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 119	墓群３ａ	ＳＴ 22	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 120	墓群３ａ	ＳＴ 22	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 121	墓群３ａ	ＳＴ 22	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 122	墓群３ａ	ＳＴ 22	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭 123	墓群３ａ	ＳＴ 360	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.71	６枚固着
銭 124	墓群３ａ	ＳＴ 360	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 125	墓群３ａ	ＳＴ 360	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 126	墓群３ａ	ＳＴ 360	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 127	墓群３ａ	ＳＴ 360	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 128	墓群３ａ	ＳＴ 360	不明	－	－	2.45	－	６枚固着
銭 129	墓群３ｂ	ＳＴ 362	元祐通寶	北宋	1086	2.3	*0.7	６枚固着
銭 130	墓群３ｂ	ＳＴ 362	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 131	墓群３ｂ	ＳＴ 362	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 132	墓群３ｂ	ＳＴ 362	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 133	墓群３ｂ	ＳＴ 362	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 134	墓群３ｂ	ＳＴ 362	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭 135	墓群３ｂ	ＳＴ 362	新寛永通寶	日本	1668	2.55	*0.7	５枚固着
銭 136	墓群３ｂ	ＳＴ 362	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 137	墓群３ｂ	ＳＴ 362	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 138	墓群３ｂ	ＳＴ 362	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 139	墓群３ｂ	ＳＴ 362	不明	－	－	2.5	－	５枚固着
銭 140	墓群３ｂ	ＳＴ 362	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.11	
銭 141	墓群３ｂ	ＳＴ 364	元符通寶	北宋	1098	2.35	*0.66	６枚固着
銭 142	墓群３ｂ	ＳＴ 364	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 143	墓群３ｂ	ＳＴ 364	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 144	墓群３ｂ	ＳＴ 364	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 145	墓群３ｂ	ＳＴ 364	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 146	墓群３ｂ	ＳＴ 364	不明	－	－	2.35	－	６枚固着
銭 147	墓群３ｂ	ＳＴ 467	古寛永通寶	日本	1636	2.25	*0.51	４枚固着
銭 148	墓群３ｂ	ＳＴ 467	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 149	墓群３ｂ	ＳＴ 467	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 150	墓群３ｂ	ＳＴ 467	古寛永通寶	日本	1636	2.4	－	４枚固着
銭 151	墓群３ｂ	ＳＴ 467	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.14	
銭 152	墓群３ｂ	ＳＴ 467	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.22	２枚固着
銭 153	墓群３ｂ	ＳＴ 467	不明	－	－	2.4	－	２枚固着
銭 154	墓群３ｂ	ＳＴ 467	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.51	４枚固着
銭 155	墓群３ｂ	ＳＴ 467	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 156	墓群３ｂ	ＳＴ 467	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 157	墓群３ｂ	ＳＴ 467	不明	－	－	2.45	－	４枚固着、「文」あり
銭 158	墓群３ｂ	ＳＴ 366	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.77	６枚固着
銭 159	墓群３ｂ	ＳＴ 366	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 160	墓群３ｂ	ＳＴ 366	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 161	墓群３ｂ	ＳＴ 366	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 162	墓群３ｂ	ＳＴ 366	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 163	墓群３ｂ	ＳＴ 366	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭 164	墓群３ｂ	ＳＴ 367	宋通元寶	北宋	960	2.4	*0.69	６枚固着
銭 165	墓群３ｂ	ＳＴ 367	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 166	墓群３ｂ	ＳＴ 367	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 167	墓群３ｂ	ＳＴ 367	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 168	墓群３ｂ	ＳＴ 367	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 169	墓群３ｂ	ＳＴ 367	不明	－	－	2.45	－	６枚固着
銭 170	墓群３ｂ	ＳＴ 190	□宋通寶	－	－	2.45	*0.75	６枚固着
銭 171	墓群３ｂ	ＳＴ 190	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 172	墓群３ｂ	ＳＴ 190	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 173	墓群３ｂ	ＳＴ 190	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 174	墓群３ｂ	ＳＴ 190	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 175	墓群３ｂ	ＳＴ 190	□□□寶	－	－	2.4	－	６枚固着
銭 176	墓群３ｂ	ＳＴ 75	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.12	

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭177	墓群3b	ST75	□永□□	−	−	−	0.12	破片
銭178	墓群3b	ST75	破片	−	−	−	0.12	破片
銭179	墓群3b	ST75	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭180	墓群3b	ST75	新寛永通寶	日本	1668	2.3	0.13	
銭181	墓群3b	ST75	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.14	
銭182	墓群3b	ST77	□永□□	−	−	2.5	0.12	破片
銭183	墓群3b	ST77	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.1	
銭184	墓群3b	ST77	寛永□□	日本	−	−	0.11	破片
銭185	墓群4a	ST344	不明	−	−	2.5	*0.7	6枚固着
銭186	墓群4a	ST344	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭187	墓群4a	ST344	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭188	墓群4a	ST344	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭189	墓群4a	ST344	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭190	墓群4a	ST344	不明	−	−	2.35	−	6枚固着
銭191	墓群4a	ST343	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.62	4枚固着
銭192	墓群4a	ST343	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭193	墓群4a	ST343	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭194	墓群4a	ST343	不明	−	−	2.5	−	4枚固着
銭195	墓群4a	ST343	不明	−	−	2.55	0.13	破片
銭196	墓群4a	ST343	不明	−	−	−	0.13	破片
銭197	墓群4a	ST343	不明	−	−	2.45	*0.57	4枚固着
銭198	墓群4a	ST343	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭199	墓群4a	ST343	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭200	墓群4a	ST343	不明	−	−	2.5	−	4枚固着
銭201	墓群4a	ST34	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.1	2枚固着
銭202	墓群4a	ST34	不明	−	−	2.55	0.15	2枚固着
銭203	墓群4a	ST34	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.55	4枚固着
銭204	墓群4a	ST34	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭205	墓群4a	ST34	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭206	墓群4a	ST34	寛永通宝	日本	−	2.4	−	4枚固着
銭207	墓群4a	ST345	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.68	6枚固着
銭208	墓群4a	ST345	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭209	墓群4a	ST345	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭210	墓群4a	ST345	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭211	墓群4a	ST345	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭212	墓群4a	ST345	古寛永通寶	日本	1636	2.45	−	6枚固着
銭213	墓群4a	ST197	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.7	6枚固着
銭214	墓群4a	ST197	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭215	墓群4a	ST197	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭216	墓群4a	ST197	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭217	墓群4a	ST197	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭218	墓群4a	ST197	古寛永通寶	日本	1636	2.45	−	6枚固着
銭219	墓群4a	ST197	不明	−	−	2.35	0.13	
銭220	墓群4a	ST197	不明	−	−	2.5	*0.38	3枚固着
銭221	墓群4a	ST197	不明	−	−	−	−	3枚固着
銭222	墓群4a	ST197	不明	−	−	2.45	−	3枚固着
銭223	墓群4b	ST350	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.79	6枚固着
銭224	墓群4b	ST350	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭225	墓群4b	ST350	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭226	墓群4b	ST350	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭227	墓群4b	ST350	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭228	墓群4b	ST350	不明	−	−	2.45	−	6枚固着
銭229	墓群4b	ST35	不明	−	−	2.4	*0.82	6枚固着
銭230	墓群4b	ST35	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭231	墓群4b	ST35	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭232	墓群4b	ST35	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭233	墓群4b	ST35	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭234	墓群4b	ST35	不明	−	−	2.4	−	6枚固着
銭235	墓群4b	ST36	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.27	2枚固着
銭236	墓群4b	ST36	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	2枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭 237	墓群４ｂ	ＳＴ 36	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.52	４枚固着
銭 238	墓群４ｂ	ＳＴ 36	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 239	墓群４ｂ	ＳＴ 36	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 240	墓群４ｂ	ＳＴ 36	不明	－	－	2.4	－	４枚固着
銭 241	墓群４ｂ	ＳＴ 352	元祐通寶	北宋	1086	2.4	0.11	
銭 242	墓群４ｂ	ＳＴ 352	古寛永通寶	日本	1636	1.35	*0.61	５枚固着
銭 243	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	５枚固着、裏に「文」有り
銭 244	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 245	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 246	墓群４ｂ	ＳＴ 352	新寛永通寶	日本	1668	1.5	－	５枚固着
銭 247	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	2.4	*1.45	12 枚固着
銭 248	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 249	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 250	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 251	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 252	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 253	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 254	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 255	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 256	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 257	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	－	－	12 枚固着
銭 258	墓群４ｂ	ＳＴ 352	不明	－	－	2.4	－	12 枚固着
銭 259	墓群４ｂ	ＳＴ 353	祥符元寶	北宋	1008	2.45	*0.75	６枚固着
銭 260	墓群４ｂ	ＳＴ 353	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 261	墓群４ｂ	ＳＴ 353	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 262	墓群４ｂ	ＳＴ 353	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 263	墓群４ｂ	ＳＴ 353	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 264	墓群４ｂ	ＳＴ 353	不明	－	－	2.35	－	６枚固着
銭 265	墓群４ｂ	ＳＴ 24	元豊通寶	北宋	1078	2.35	0.14	
銭 266	墓群４ｂ	ＳＴ 24	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.39	３枚固着
銭 267	墓群４ｂ	ＳＴ 24	不明	－	－	2.45	－	３枚固着
銭 268	墓群４ｂ	ＳＴ 24	不明	－	－	－	－	３枚固着
銭 269	墓群４ｂ	ＳＴ 24	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭 270	墓群４ｂ	ＳＴ 24	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.16	
銭 271	墓群４ｂ	ＳＴ 24 周辺精査	新寛永通寶	日本	1768	2.8	0.13	四文銭
銭 272	墓群５ａ	ＳＴ 58	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.14	
銭 273	墓群５ａ	ＳＴ 58	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.11	
銭 274	墓群５ａ	ＳＴ 58	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.11	
銭 275	墓群５ａ	ＳＴ 58	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.1	
銭 276	墓群５ａ	ＳＴ 58	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.11	
銭 277	墓群５ａ	ＳＴ 58	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.1	
銭 278	墓群５ａ	ＳＴ 58	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	
銭 279	墓群５ａ	ＳＴ 58	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.15	
銭 280	墓群５ｂ	ＳＴ 23	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭 281	墓群５ｂ	ＳＴ 23	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.52	４枚固着
銭 282	墓群５ｂ	ＳＴ 23	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 283	墓群５ｂ	ＳＴ 23	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 284	墓群５ｂ	ＳＴ 23	古寛永通寶	日本	1636	2.45	－	４枚固着
銭 285	墓群５ｂ	ＳＴ 23	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.11	
銭 286	墓群５ｂ	ＳＴ 23	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.1	
銭 287	墓群５ｂ	ＳＴ 119	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭 288	墓群６ａ	ＳＴ 166	不明	－	－	2.4	*0.4	３枚固着
銭 289	墓群６ａ	ＳＴ 166	不明	－	－	－	－	３枚固着
銭 290	墓群６ａ	ＳＴ 166	不明	－	－	2.35	－	３枚固着
銭 291	墓群６ａ	ＳＴ 334	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.81	６枚固着
銭 292	墓群６ａ	ＳＴ 334	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 293	墓群６ａ	ＳＴ 334	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 294	墓群６ａ	ＳＴ 334	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 295	墓群６ａ	ＳＴ 334	不明	－	－	－	－	６枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭296	墓群6 a	S T 334	不明	−	−	2.3	−	6枚固着
銭297	墓群6 a	S T 48	古寛永通寶	日本	1636	2.55	*0.72	6枚固着
銭298	墓群6 a	S T 48	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭299	墓群6 a	S T 48	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭300	墓群6 a	S T 48	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭301	墓群6 a	S T 48	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭302	墓群6 a	S T 48	古寛永通寶	日本	1636	2.35	−	6枚固着
銭303	墓群6 b	S T 26	不明	−	−	2.5	0.12	
銭304	墓群6 b	d 26 精査	不明	−	−	2.4	*0.66	6枚固着
銭305	墓群6 b	d 26 精査	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭306	墓群6 b	d 26 精査	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭307	墓群6 b	d 26 精査	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭308	墓群6 b	d 26 精査	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭309	墓群6 b	d 26 精査	不明	−	−	2.4	−	6枚固着
銭310	墓群7 a	S T 328	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.76	6枚固着、裏に「文」有り
銭311	墓群7 a	S T 328	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭312	墓群7 a	S T 328	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭313	墓群7 a	S T 328	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭314	墓群7 a	S T 328	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭315	墓群7 a	S T 328	不明	−	−	2.4	−	6枚固着
銭316	墓群7 a	S T 328	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.69	6枚固着
銭317	墓群7 a	S T 328	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭318	墓群7 a	S T 328	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭319	墓群7 a	S T 328	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭320	墓群7 a	S T 328	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭321	墓群7 a	S T 328	古寛永通寶	日本	1636	2.4	−	6枚固着
銭322	墓群7 a	S T 329	不明	−	−	2.4	*0.8	6枚固着
銭323	墓群7 a	S T 329	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭324	墓群7 a	S T 329	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭325	墓群7 a	S T 329	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭326	墓群7 a	S T 329	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭327	墓群7 a	S T 329	不明	−	−	2.35	−	6枚固着
銭328	墓群7 a	S T 330	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.22	2枚固着
銭329	墓群7 a	S T 330	不明	−	−	2.4	−	2枚固着
銭330	墓群8 a	S T 322	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.15	
銭331	墓群8 a	S T 322	新寛永通寶	日本	1668	2.55	0.14	
銭332	墓群8 a	S T 322	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.13	
銭333	墓群8 a	S T 322	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.37	3枚固着
銭334	墓群8 a	S T 322	不明	−	−	−	−	3枚固着
銭335	墓群8 a	S T 322	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	3枚固着、裏に「文」有り
銭336	墓群8 a	S T 322	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.7	6枚固着
銭337	墓群8 a	S T 322	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭338	墓群8 a	S T 322	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭339	墓群8 a	S T 322	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭340	墓群8 a	S T 322	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭341	墓群8 a	S T 322	不明	−	−	2.5	−	6枚固着
銭342	墓群8 a	S T 323	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.24	2枚固着
銭343	墓群8 a	S T 323	不明	−	−	2.4	−	2枚固着
銭344	墓群8 a	S T 323	景祐元寶	北宋	1034	2.4	*0.31	3枚固着
銭345	墓群8 a	S T 323	不明	−	−	−	−	3枚固着
銭346	墓群8 a	S T 323	不明	−	−	2.45	−	3枚固着
銭347	墓群8 b	S T 324	不明	−	−	2.45	*0.81	6枚固着
銭348	墓群8 b	S T 324	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭349	墓群8 b	S T 324	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭350	墓群8 b	S T 324	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭351	墓群8 b	S T 324	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭352	墓群8 b	S T 324	不明	−	−	2.55	−	6枚固着
銭353	墓群8 b	S T 326	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.36	3枚固着
銭354	墓群8 b	S T 326	不明	−	−	−	−	3枚固着
銭355	墓群8 b	S T 326	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	3枚固着、裏に「文」有り

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭356	墓群８ｂ	ＳＴ326	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭357	墓群８ｂ	ＳＴ326	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭358	墓群８ｂ	ＳＴ39	元祐通寶	北宋	1086	2.3	*0.39	３枚固着
銭359	墓群８ｂ	ＳＴ39	不明	－	－	－	－	３枚固着
銭360	墓群８ｂ	ＳＴ39	古寛永通宝	日本	1636	2.4	－	３枚固着
銭361	墓群８	ＳＫ40	聖？宋元寶	北宋	1101	2.4	0.13	
銭362	墓群８	ＳＫ40	元豊通寶	北宋	1078	2.4	*0.7	６枚固着
銭363	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭364	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭365	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭366	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭367	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭368	墓群８	ＳＫ40	熙寧元寶	北宋	1068	2.35	0.1	
銭369	墓群８	ＳＫ40	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.1	
銭370	墓群８	ＳＫ40	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.82	６枚固着
銭371	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭372	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭373	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭374	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭375	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	2.5	－	６枚固着
銭376	墓群８	ＳＫ40	新寛永通寶	日本	1668	2.35	*0.71	６枚固着
銭377	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭378	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭379	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭380	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭381	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭382	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	2.55	*0.75	６枚固着
銭383	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭384	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭385	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭386	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭387	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	2.45	－	６枚固着
銭388	墓群８	ＳＫ40	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.13	
銭389	墓群８	ＳＫ40	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.52	４枚固着
銭390	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭391	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	2.45	－	４枚固着
銭392	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	－	４枚固着、欠けあり
銭393	墓群８	ＳＫ40	不明	－	－	－	0.14	破片
銭394	墓群８	精査	天聖元寶	北宋	1023	2.4	*0.59	５枚固着
銭395	墓群８	精査	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭396	墓群８	精査	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭397	墓群８	精査	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭398	墓群８	精査	寛永通寶	日本	－	2.45	－	５枚固着
銭399	墓群９ａ	ＳＴ315	不明	－	－	2.45	*0.7	５枚固着
銭400	墓群９ａ	ＳＴ315	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭401	墓群９ａ	ＳＴ315	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭402	墓群９ａ	ＳＴ315	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭403	墓群９ａ	ＳＴ315	不明	－	－	2.4	－	５枚固着
銭404	墓群９ａ	ＳＴ29	紹聖元寶？	北宋	1094	2.35	0.11	
銭405	墓群９ａ	ＳＴ29	熙寧元寶	北宋	1008	2.3	0.12	
銭406	墓群９ａ	ＳＴ29	熙寧元寶	北宋	1008	2.4	*0.22	２枚固着
銭407	墓群９ａ	ＳＴ29	不明	－	－	2.3	－	２枚固着
銭408	墓群９ａ	ＳＴ29	□永通□	－	－	2.3	*0.85	６枚固着
銭409	墓群９ａ	ＳＴ29	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭410	墓群９ａ	ＳＴ29	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭411	墓群９ａ	ＳＴ29	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭412	墓群９ａ	ＳＴ29	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭413	墓群９ａ	ＳＴ29	新寛永通寶か	－	－	2.5	－	６枚固着
銭414	墓群９ａ	ＳＴ29	不明	－	－	2.4	*0.43	３枚固着
銭415	墓群９ａ	ＳＴ29	不明	－	－	－	－	３枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭416	墓群9 a	S T 29	不明	−	−	2.4	−	3枚固着
銭417	墓群9 a	S T 316	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.1	
銭418	墓群9 a	S T 316	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.15	
銭419	墓群9 a	S T 316	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.14	
銭420	墓群9 a	S T 316	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭421	墓群9 a	S T 317	寛永通寶	日本	−	2.55	*0.68	5枚固着
銭422	墓群9 a	S T 317	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭423	墓群9 a	S T 317	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭424	墓群9 a	S T 317	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭425	墓群9 a	S T 317	不明	−	−	2.45	−	5枚固着
銭426	墓群9 a	S T 317	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.14	
銭427	墓群9 b	S T 321	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.14	
銭428	墓群9 b	S T 321	不明	−	−	2.4	*0.23	2枚固着
銭429	墓群9 b	S T 321	不明	−	−	2.45	−	2枚固着
銭430	墓群9 b	S T 321	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.8	6枚固着
銭431	墓群9 b	S T 321	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭432	墓群9 b	S T 321	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭433	墓群9 b	S T 321	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭434	墓群9 b	S T 321	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭435	墓群9 b	S T 321	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	6枚固着、裏に「文」有り
銭436	墓群9 b	S T 321	不明	−	−	2.4	0.12	
銭437	墓群10 a	S T 300	不明	−	−	2.4	*0.75	6枚固着
銭438	墓群10 a	S T 300	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭439	墓群10 a	S T 300	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭440	墓群10 a	S T 300	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭441	墓群10 a	S T 300	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭442	墓群10 a	S T 300	不明	−	−	2.35	−	6枚固着
銭443	墓群10 a	S T 300	不明	−	−	2.4	*0.26	2枚固着
銭444	墓群10 a	S T 300	不明	−	−	2.4	−	2枚固着
銭445	墓群10 a	S T 301	新寛永通寶	日本	1668	2.35	*0.72	6枚固着
銭446	墓群10 a	S T 301	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭447	墓群10 a	S T 301	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭448	墓群10 a	S T 301	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭449	墓群10 a	S T 301	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭450	墓群10 a	S T 301	不明	−	−	2.4	−	6枚固着
銭451	墓群10 a	S T 301	不明	−	−	2.45	0.12	
銭452	墓群10 a	S T 301	新寛永通寶	日本	1668	−	0.13	破片（周囲がない）
銭453	墓群10 a	S T 301	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.13	
銭454	墓群10 a	S T 301	新寛永通寶	日本	1668	2.35	*0.27	2枚固着
銭455	墓群10 a	S T 301	不明	−	−	2.4	−	2枚固着
銭456	墓群10 a	S T 303	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.71	6枚固着
銭457	墓群10 a	S T 303	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭458	墓群10 a	S T 303	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭459	墓群10 a	S T 303	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭460	墓群10 a	S T 303	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭461	墓群10 a	S T 303	古寛永通寶	日本	1636	2.5	−	6枚固着
銭462	墓群10 a	S T 305	新寛永通寶	日本	1668	2.3	0.12	
銭463	墓群10 a	S T 305	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.64	5枚固着
銭464	墓群10 a	S T 305	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭465	墓群10 a	S T 305	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭466	墓群10 a	S T 305	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭467	墓群10 a	S T 305	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	5枚固着、裏に「文」有り
銭468	墓群10 a	S T 306	宣徳通寶	明	1433	2.2	0.11	
銭469	墓群10 a	S T 306	元符？通寶	北宋	1098	2.4	0.14	
銭470	墓群10 a	S T 306	皇？宋通寶	−	−	2.45	0.1	
銭471	墓群10 a	S T 306	元符？通寶	北宋	1098	2.3	0.1	
銭472	墓群10 a	S T 306	□□元寶	−	−	2.4	0.13	
銭473	墓群10 a	S T 306	不明	−	−	−	0.12	破片
銭474	墓群10 b	S T 308	古寛永通寶	日本	1636	2.55	*0.75	6枚固着
銭475	墓群10 b	S T 308	不明	−	−	−	−	6枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭 476	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 477	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 478	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 479	墓群 10 b	ＳＴ 308	新寛永通寶	日本	1668	2.45	−	6 枚固着
銭 480	墓群 10 b	ＳＴ 308	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.14	
銭 481	墓群 10 b	ＳＴ 308	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.1	
銭 482	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	2.5	*0.7	6 枚固着
銭 483	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 484	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 485	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 486	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 487	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	2.5	−	6 枚固着
銭 488	墓群 10 b	ＳＴ 308	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.7	6 枚固着
銭 489	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 490	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 491	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 492	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 493	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	2.5	−	6 枚固着
銭 494	墓群 10 b	ＳＴ 308	政和通寶	北宋	1111	2.4	0.11	
銭 495	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	2.35	*0.51	4 枚固着
銭 496	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 497	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 498	墓群 10 b	ＳＴ 308	不明	−	−	2.4	−	4 枚固着
銭 499	墓群 10 b	ＳＴ 311	□□□寶	−	−	2.3	0.15	
銭 500	墓群 10 b	ＳＫ 50	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.74	6 枚固着
銭 501	墓群 10 b	ＳＫ 50	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 502	墓群 10 b	ＳＫ 50	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 503	墓群 10 b	ＳＫ 50	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 504	墓群 10 b	ＳＫ 50	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 505	墓群 10 b	ＳＫ 50	不明	−	−	2.35	−	6 枚固着
銭 506	墓群 10 b	ＳＫ 50	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.78	6 枚固着、裏に「文」有り
銭 507	墓群 10 b	ＳＫ 50	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 508	墓群 10 b	ＳＫ 50	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 509	墓群 10 b	ＳＫ 50	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 510	墓群 10 b	ＳＫ 50	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 511	墓群 10 b	ＳＫ 50	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	6 枚固着、裏に「文」有り
銭 512	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	2.4	*0.73	6 枚固着
銭 513	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 514	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 515	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 516	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 517	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	2.45	−	6 枚固着
銭 518	墓群 10 b	ＳＴ 312	熙寧元寶	北宋	1068	2.35	*0.7	6 枚固着
銭 519	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 520	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 521	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 522	墓群 10 b	ＳＴ 312	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 523	墓群 10 b	ＳＴ 312	元豊通寶	北宋	1078	2.35	−	6 枚固着
銭 524	墓群 10 b	ＳＴ 313	大観通寶	北宋	1107	2.45	0.12	
銭 525	墓群 10 a	精査	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.15	
銭 526	墓群 10 a	精査	寛永通寶	日本	−	2.4	0.11	
銭 527	墓群 11 a	ＳＴ 70	開元通寶	唐	845	2.4	*0.25	2 枚固着
銭 528	墓群 11 a	ＳＴ 70	寛永通寶	日本	−	2.45	−	2 枚固着
銭 529	墓群 11 a	ＳＴ 70	古寛永通寶	日本	1636	2.3	0.12	
銭 530	墓群 11 a	ＳＴ 70	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.13	
銭 531	墓群 11 a	ＳＴ 70	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.1	
銭 532	墓群 11 a	ＳＴ 70	新寛永通寶	日本	1668	2.35	0.12	
銭 533	墓群 11 a	ＳＴ 74	元豊通寶	北宋	1078	2.3	0.11	
銭 534	墓群 12 a	ＳＴ 406	元豊通寶	北宋	1078	2.4	*0.69	5 枚固着
銭 535	墓群 12 a	ＳＴ 406	不明	−	−	−	−	5 枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭536	墓群12 a	ＳＴ406	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭537	墓群12 a	ＳＴ406	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭538	墓群12 a	ＳＴ406	不明	－	－	2.45	－	５枚固着
銭539	墓群12 a	ＳＴ470	元祐通寶	北宋	1086	2.4	*0.49	４枚固着
銭540	墓群12 a	ＳＴ470	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭541	墓群12 a	ＳＴ470	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭542	墓群12 a	ＳＴ470	元豊通寶か	北宋	1078	2.4	－	４枚固着
銭543	墓群12 a	ＳＴ470	元豊通寶	北宋	1078	2.35	0.11	
銭544	墓群12 a	ＳＴ470	開元通寶か	唐	845	2.3	0.1	
銭545	墓群12 a	ＳＴ470	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭546	墓群12 a	ＳＴ470	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.52	４枚固着
銭547	墓群12 a	ＳＴ470	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭548	墓群12 a	ＳＴ470	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭549	墓群12 a	ＳＴ470	古寛永通寶	日本	1636	2.4	－	４枚固着
銭550	墓群12 a	ＳＴ470	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭551	墓群12 a	ＳＴ63	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.27	２枚固着
銭552	墓群12 a	ＳＴ63	不明	－	－	2.5	－	２枚固着
銭553	墓群12 a	ＳＴ63	不明	－	－	2.55	*6.0	４枚固着
銭554	墓群12 a	ＳＴ63	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭555	墓群12 a	ＳＴ63	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭556	墓群12 a	ＳＴ63	不明	－	－	2.45	－	４枚固着
銭557	墓群12 a	ＳＴ65	祥符通寶か	北宋	1008	2.4	*0.25	２枚固着
銭558	墓群12 a	ＳＴ65	不明	－	－	2.3	－	２枚固着
銭559	墓群12 a	ＳＴ65	不明	－	－	2.4	*0.27	２枚固着
銭560	墓群12 a	ＳＴ65	不明	－	－	2.4	－	２枚固着
銭561	墓群12 a	ＳＴ65	不明	－	－	2.35	*0.23	２枚固着
銭562	墓群12 a	ＳＴ65	不明	－	－	2.3	－	２枚固着
銭563	墓群12 a	ＳＴ65	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.24	２枚固着
銭564	墓群12 a	ＳＴ65	不明	－	－	2.45	－	２枚固着
銭565	墓群12 a	ＳＴ65	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.22	２枚固着
銭566	墓群12 a	ＳＴ65	不明	－	－	2.4	－	２枚固着
銭567	墓群12 a	ＳＴ65	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭568	墓群12 a	ＳＴ65	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.15	
銭569	墓群12 a	ＳＴ65	政和通寶	北宋	1111	2.4	*0.22	２枚固着
銭570	墓群12 a	ＳＴ65	元豊通寶か	北宋	1078	2.4	－	２枚固着
銭571	墓群12 a	ＳＴ65	元豊通寶	北宋	1078	2.4	*0.27	２枚固着
銭572	墓群12 a	ＳＴ65	皇宋通寶	北宋	1038	2.35	－	２枚固着
銭573	墓群12 a	ＳＴ65	大観通寶	北宋	1107	2.4	0.12	
銭574	墓群12 a	ＳＴ65	至道元寶	北宋	995	2.3	0.1	
銭575	墓群12 a	ＳＴ217	□豊□寶	－	－	2.35	*0.66	６枚固着
銭576	墓群12 a	ＳＴ217	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭577	墓群12 a	ＳＴ217	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭578	墓群12 a	ＳＴ217	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭579	墓群12 a	ＳＴ217	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭580	墓群12 a	ＳＴ217	不明	－	－	2.35	－	６枚固着
銭581	墓群12 a	ＳＴ218	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.16	
銭582	墓群12 a	ＳＴ218	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.15	
銭583	墓群12 a	ＳＴ218	寛永通寶（破片）	日本	－	2.5	0.15	破片
銭584	墓群12 a	ＳＴ219	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.13	
銭585	墓群12 a	ＳＴ219	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	
銭586	墓群12 a	ＳＴ219	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.14	
銭587	墓群12 a	ＳＴ219	古寛永通寶	日本	1636	2.3	0.11	
銭588	墓群12 a	ＳＴ162	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭589	墓群12 a	ＳＴ164	大観通寶	北宋	1107	2.45	0.14	破片（「大」は欠け）
銭590	墓群12 a	ＳＴ164	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.15	裏に「文」有り
銭591	墓群12 b	ＳＴ56	不明	－	－	2.4	*0.75	６枚固着
銭592	墓群12 b	ＳＴ56	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭593	墓群12 b	ＳＴ56	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭594	墓群12 b	ＳＴ56	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭595	墓群12 b	ＳＴ56	不明	－	－	－	－	６枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭 596	墓群 12 b	S T 56	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 597	墓群 12 b	S T 56	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.13	
銭 598	墓群 12 b	S T 56	寛永通寶	日本	−	2.5	0.15	
銭 599	墓群 12 b	S T 56	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.58	4 枚固着
銭 600	墓群 12 b	S T 56	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 601	墓群 12 b	S T 56	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 602	墓群 12 b	S T 56	不明	−	−	2.5	−	4 枚固着
銭 603	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	2.4	*0.65	6 枚固着
銭 604	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 605	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 606	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 607	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 608	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 609	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	2.5	*0.63	5 枚固着
銭 610	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 611	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 612	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 613	墓群 12 b	S T 57	不明	−	−	2.5	−	5 枚固着
銭 614	墓群 12 b	S T 196	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.82	6 枚固着
銭 615	墓群 12 b	S T 196	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 616	墓群 12 b	S T 196	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 617	墓群 12 b	S T 196	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 618	墓群 12 b	S T 196	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 619	墓群 12 b	S T 196	□永□□	−	−	2.5	−	6 枚固着
銭 620	墓群 12 b	S T 401	不明	−	−	2.3	*0.45	3 枚固着
銭 621	墓群 12 b	S T 401	不明	−	−	−	−	3 枚固着
銭 622	墓群 12 b	S T 401	不明	−	−	2.45	−	3 枚固着
銭 623	墓群 12 b	S T 258	皇宋通寶	北宋	1038	2.4	*0.74	6 枚固着
銭 624	墓群 12 b	S T 258	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 625	墓群 12 b	S T 258	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 626	墓群 12 b	S T 258	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 627	墓群 12 b	S T 258	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 628	墓群 12 b	S T 258	不明	−	−	2.3	−	6 枚固着
銭 629	墓群 12 b	S T 194	新寛永通寶	日本	1668	2.45	*0.23	2 枚固着
銭 630	墓群 12 b	S T 194	新寛永通寶	日本	1668	2.4	−	2 枚固着
銭 631	墓群 12 b	S T 195	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.75	6 枚固着
銭 632	墓群 12 b	S T 195	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 633	墓群 12 b	S T 195	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 634	墓群 12 b	S T 195	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 635	墓群 12 b	S T 195	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 636	墓群 12 b	S T 195	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	6 枚固着
銭 637	墓群 12 b	S T 174	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.11	
銭 638	墓群 12 b	S T 174	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.11	
銭 639	墓群 12 b	S T 174	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.12	
銭 640	墓群 13 a	S T 154	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.5	4 枚固着
銭 641	墓群 13 a	S T 154	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 642	墓群 13 a	S T 154	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 643	墓群 13 a	S T 154	不明	−	−	2.45	−	4 枚固着
銭 644	墓群 13 a	S T 415	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.8	6 枚固着
銭 645	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 646	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 647	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 648	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 649	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 650	墓群 13 a	S T 415	古寛永通寶	日本	1636	2.55	*0.79	6 枚固着
銭 651	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 652	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 653	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 654	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 655	墓群 13 a	S T 415	不明	−	−	2.35	−	6 枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭656	墓群13 a	ＳＴ417	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.8	６枚固着
銭657	墓群13 a	ＳＴ417	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭658	墓群13 a	ＳＴ417	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭659	墓群13 a	ＳＴ417	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭660	墓群13 a	ＳＴ417	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭661	墓群13 a	ＳＴ417	不明	－	－	2.45	－	６枚固着
銭662	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	2.3	*0.76	６枚固着
銭663	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭664	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭665	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭666	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭667	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	2.5	－	６枚固着
銭668	墓群13 a	ＳＴ230	寛永通寶	日本	－	2.3	0.1	
銭669	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	2.3	*0.23	２枚固着
銭670	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	2.35	－	２枚固着
銭671	墓群13 a	ＳＴ230	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.35	３枚固着
銭672	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	－	－	３枚固着
銭673	墓群13 a	ＳＴ230	古寛永通寶	日本	1636	2.45	－	３枚固着
銭674	墓群13 a	ＳＴ230	不明	－	－	－	0.1	破片
銭675	墓群13 a	ＳＴ141	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.72	６枚固着
銭676	墓群13 a	ＳＴ141	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭677	墓群13 a	ＳＴ141	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭678	墓群13 a	ＳＴ141	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭679	墓群13 a	ＳＴ141	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭680	墓群13 a	ＳＴ141	不明	－	－	2.35	－	６枚固着
銭681	墓群13 a	ＳＴ205	古寛永通寶	日本	1636	2.3	*0.5	４枚固着
銭682	墓群13 a	ＳＴ205	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭683	墓群13 a	ＳＴ205	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭684	墓群13 a	ＳＴ205	新寛永通寶	日本	1668	2.5	－	４枚固着、裏に「文」有り
銭685	墓群13 a	ＳＴ205	新寛永通寶	日本	1668	2.45	*0.27	２枚固着
銭686	墓群13 a	ＳＴ205	不明	－	－	2.5	－	２枚固着
銭687	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	2.4	*0.75	６枚固着
銭688	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭689	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭690	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭691	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭692	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭693	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	2.45	*0.69	６枚固着
銭694	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭695	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭696	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭697	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭698	墓群13 a	ＳＴ203	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭699	墓群13 a	ＳＴ204	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.75	６枚固着
銭700	墓群13 a	ＳＴ204	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭701	墓群13 a	ＳＴ204	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭702	墓群13 a	ＳＴ204	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭703	墓群13 a	ＳＴ204	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭704	墓群13 a	ＳＴ204	古寛永通寶	日本	1636	2.35	－	６枚固着
銭705	墓群13 a	ＳＴ242・241	聖宋元寶	北宋	1101	2.4	0.13	
銭706	墓群13 a	ＳＴ242・241	元豊通寶	北宋	1078	2.45	0.11	
銭707	墓群13 a	ＳＴ242・241	熙寧元寶	北宋	1068	2.3	0.16	
銭708	墓群13 a	ＳＴ242・241	元祐通寶	北宋	1086	2.45	0.11	
銭709	墓群13 a	ＳＴ242・241	皇宋通寶	北宋	1038	2.4	0.13	
銭710	墓群13 a	ＳＴ241	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.75	６枚固着
銭711	墓群13 a	ＳＴ241	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭712	墓群13 a	ＳＴ241	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭713	墓群13 a	ＳＴ241	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭714	墓群13 a	ＳＴ241	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭715	墓群13 a	ＳＴ241	新寛永通寶	日本	1668	2.5	－	６枚固着、裏に「文」有り

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭 716	墓群 13 a	ＳＴ 241	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.52	４枚固着
銭 717	墓群 13 a	ＳＴ 241	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 718	墓群 13 a	ＳＴ 241	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 719	墓群 13 a	ＳＴ 241	不明	－	－	2.3	－	４枚固着
銭 720	墓群 13 a	ＳＴ 241	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.26	２枚固着
銭 721	墓群 13 a	ＳＴ 241	不明	－	－	2.4	－	２枚固着
銭 722	墓群 13 a	ＳＴ 241	□□□寶	－	－	2.3	0.11	南端の墓の北側、破片
銭 723	墓群 13 a	ＳＴ 158	古寛永通寶	日本	1636	2.5	－	漆器内より出土、少なくとも６枚固着
銭 724	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、少なくとも６枚固着
銭 725	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、少なくとも６枚固着
銭 726	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、少なくとも６枚固着
銭 727	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、少なくとも６枚固着
銭 728	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、少なくとも６枚固着
銭 729	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	2.4	－	漆器内より出土、６枚固着
銭 730	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、６枚固着
銭 731	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、６枚固着
銭 732	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、６枚固着
銭 733	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、６枚固着
銭 734	墓群 13 a	ＳＴ 158	不明	－	－	－	－	漆器内より出土、６枚固着
銭 735	墓群 13 b	ＳＴ 127	元豊通寶	北宋	1078	2.45	0.11	
銭 736	墓群 13 b	ＳＴ 407	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.72	６枚固着
銭 737	墓群 13 b	ＳＴ 407	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 738	墓群 13 b	ＳＴ 407	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 739	墓群 13 b	ＳＴ 407	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 740	墓群 13 b	ＳＴ 407	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 741	墓群 13 b	ＳＴ 407	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭 742	墓群 13 b	ＳＴ 408	南無阿弥陀佛（念仏銭）	日本	－	2.3	*0.75	６枚固着
銭 743	墓群 13 b	ＳＴ 408	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 744	墓群 13 b	ＳＴ 408	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 745	墓群 13 b	ＳＴ 408	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 746	墓群 13 b	ＳＴ 408	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 747	墓群 13 b	ＳＴ 408	新寛永通寶	日本	1668	2.5	－	６枚固着
銭 748	墓群 13 b	ＳＴ 410	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.46	４枚固着
銭 749	墓群 13 b	ＳＴ 410	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 750	墓群 13 b	ＳＴ 410	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 751	墓群 13 b	ＳＴ 410	古寛永通寶	日本	1636	2.5	－	４枚固着
銭 752	墓群 13 b	ＳＴ 210	新寛永通寶	日本	1668	2.4	*0.19	２枚固着
銭 753	墓群 13 b	ＳＴ 210	新寛永通寶	日本	1668	2.45	－	２枚固着、裏に「文」有り
銭 754	墓群 13 b	ＳＴ 210	□（寛？）永通□	－	－	2.45	0.11	
銭 755	墓群 13 b	ＳＴ 210	新寛永通寶	日本	1668	2.4	*0.26	２枚固着
銭 756	墓群 13 b	ＳＴ 210	不明	－	－	2.4	－	２枚固着
銭 757	墓群 13 b	ＳＴ 210	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.11	
銭 758	墓群 13 b	ＳＴ 210	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.12	破片
銭 759	墓群 13 b	ＳＴ 211	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	
銭 760	墓群 13 b	ＳＴ 211	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.54	４枚固着
銭 761	墓群 13 b	ＳＴ 211	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 762	墓群 13 b	ＳＴ 211	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 763	墓群 13 b	ＳＴ 211	古寛永通寶	日本	1636	2.35	－	４枚固着
銭 764	墓群 13 b	ＳＴ 211	熙寧元寶	北宋	1068	2.5	*0.7	６枚固着
銭 765	墓群 13 b	ＳＴ 211	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 766	墓群 13 b	ＳＴ 211	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 767	墓群 13 b	ＳＴ 211	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 768	墓群 13 b	ＳＴ 211	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 769	墓群 13 b	ＳＴ 211	不明	－	－	2.3	－	６枚固着
銭 770	墓群 13 b	ＳＴ 213	開元通寶	唐	845	2.35	0.11	

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭771	墓群13 b	S T 213	祥符元寶	北宋	1008	2.4	0.11	
銭772	墓群13 b	S T 213	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.38	3枚固着
銭773	墓群13 b	S T 213	不明	−	−	−	−	3枚固着
銭774	墓群13 b	S T 213	不明	−	−	2.5	−	3枚固着
銭775	墓群13 b	S T 213	寛永通寶	日本	−	2.5	*0.35	3枚固着
銭776	墓群13 b	S T 213	不明	−	−	−	−	3枚固着
銭777	墓群13 b	S T 213	不明	−	−	2.5	−	3枚固着
銭778	墓群13 b	S T 213	元豊通寶	北宋	1078	2.3	0.1	
銭779	墓群13 b	S T 213	至道元寶	北宋	995	2.45	0.12	
銭780	墓群13 b	S T 213	景徳元寶	北宋	1004	2.4	0.15	
銭781	墓群13 b	S T 213	聖宋元寶	北宋	1101	2.4	*0.59	5枚固着
銭782	墓群13 b	S T 213	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭783	墓群13 b	S T 213	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭784	墓群13 b	S T 213	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭785	墓群13 b	S T 213	不明	−	−	2.45	−	5枚固着
銭786	墓群13 b	S T 215	元祐通寶	北宋	1093	2.35	0.11	
銭787	墓群13 b	S T 215	□六大□	−	−	2.5	*0.21	2枚固着、欠け有り
銭788	墓群13 b	S T 215	不明	−	−	2.5	−	2枚固着、欠け有り
銭789	墓群13 b	S T 215	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭790	墓群13 b	S T 226	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	木箱より出土、3枚固着
銭791	墓群13 b	S T 226	不明	−	−	−	−	木箱より出土、3枚固着
銭792	墓群13 b	S T 226	不明	−	−	−	−	木箱より出土、3枚固着
銭793	墓群13 b	S T 411	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.7	6枚固着
銭794	墓群13 b	S T 411	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭795	墓群13 b	S T 411	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭796	墓群13 b	S T 411	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭797	墓群13 b	S T 411	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭798	墓群13 b	S T 411	不明	−	−	2.35	−	6枚固着
銭799	墓群13 b	S T 170	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.15	
銭800	墓群13 b	S T 170	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	
銭801	墓群13 b	S T 170	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.55	4枚固着
銭802	墓群13 b	S T 170	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭803	墓群13 b	S T 170	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭804	墓群13 b	S T 170	不明	−	−	2.45	−	4枚固着
銭805	墓群13 b	S T 144	天聖元寶	北宋	1023	2.4	0.12	欠け有り
銭806	墓群13 b	S T 144	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.11	
銭807	墓群13 b	S T 144	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.7	6枚固着
銭808	墓群13 b	S T 144	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭809	墓群13 b	S T 144	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭810	墓群13 b	S T 144	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭811	墓群13 b	S T 144	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭812	墓群13 b	S T 144	古寛永通寶	日本	1636	2.4	−	6枚固着
銭813	墓群13 b	S T 144	元豊通寶	北宋	1068	2.4	*0.65	5枚固着
銭814	墓群13 b	S T 144	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭815	墓群13 b	S T 144	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭816	墓群13 b	S T 144	不明	−	−	−	−	5枚固着
銭817	墓群13 b	S T 144	熙寧元寶	北宋	1078	2.45	−	5枚固着
銭818	墓群13 b	S T 413	元豊通寶	北宋	1078	2.4	*0.28	2枚固着
銭819	墓群13 b	S T 413	不明	−	−	2.4	−	2枚固着
銭820	墓群13 b	S T 413	聖宋元寶	北宋	1101	2.4	0.12	
銭821	墓群13 b	S T 413	景定元寶	南宋	1260	2.3	0.1	
銭822	墓群13 b	S T 413	皇宋通寶	北宋	1038	2.4	0.13	
銭823	墓群13 b	S T 413	紹聖元寶	北宋	1094	2.3	0.15	
銭824	墓群13 a	精査	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.13	
銭825	墓群14 a	S T 431	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.27	2枚固着
銭826	墓群14 a	S T 431	不明	−	−	2.5	−	2枚固着
銭827	墓群14 a	S T 431	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.54	4枚固着
銭828	墓群14 a	S T 431	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭829	墓群14 a	S T 431	不明	−	−	−	−	4枚固着
銭830	墓群14 a	S T 431	不明＼	−	−	2.4	−	4枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭 831	墓群 14 a	S T 432	至道元寶	北宋	995	2.4	*1.33	11 枚固着
銭 832	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	11 枚固着
銭 833	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	11 枚固着
銭 834	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	11 枚固着
銭 835	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	11 枚固着
銭 836	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	11 枚固着
銭 837	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	11 枚固着
銭 838	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	11 枚固着
銭 839	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	11 枚固着
銭 840	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	11 枚固着
銭 841	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	2.4	−	11 枚固着
銭 842	墓群 14 a	S T 432	熙寧元寶か	北宋	1068	2.35	*0.23	2 枚固着
銭 843	墓群 14 a	S T 432	元豊通寶	−	−	2.3	−	2 枚固着
銭 844	墓群 14 a	S T 432	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.34	3 枚固着
銭 845	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	3 枚固着
銭 846	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	2.4	−	3 枚固着
銭 847	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	2.45	*0.34	3 枚固着
銭 848	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	3 枚固着
銭 849	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	2.5	−	3 枚固着
銭 850	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	2.3	*0.69	6 枚固着
銭 851	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 852	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 853	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 854	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 855	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 856	墓群 14 a	S T 432	新寛永通寶	日本	1668	2.4	*0.8	6 枚固着
銭 857	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 858	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 859	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 860	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 861	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	2.45	−	6 枚固着
銭 862	墓群 14 a	S T 432	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.7	6 枚固着
銭 863	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 864	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 865	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 866	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 867	墓群 14 a	S T 432	寛永通寶	日本	−	2.4	−	6 枚固着
銭 868	墓群 14 a	S T 432	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.22	2 枚固着
銭 869	墓群 14 a	S T 432	不明	−	−	2.4	−	2 枚固着
銭 870	墓群 14 a	S T 432	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.11	
銭 871	墓群 14 a	S T 433	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.35	3 枚固着
銭 872	墓群 14 a	S T 433	不明	−	−	−	−	3 枚固着
銭 873	墓群 14 a	S T 433	不明	−	−	2.4	−	3 枚固着
銭 874	墓群 14 a	S T 433	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.35	3 枚固着
銭 875	墓群 14 a	S T 433	不明	−	−	−	−	3 枚固着
銭 876	墓群 14 a	S T 433	不明	−	−	2.4	−	3 枚固着
銭 877	墓群 14 a	S T 434	咸平元寶	北宋	998	2.4	*0.65	6 枚固着
銭 878	墓群 14 a	S T 434	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 879	墓群 14 a	S T 434	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 880	墓群 14 a	S T 434	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 881	墓群 14 a	S T 434	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 882	墓群 14 a	S T 434	明道元寶	北宋	1032	2.4	−	6 枚固着
銭 883	墓群 14 a	S T 227	元豊通寶	北宋	1078	2.4	0.1	破片（「通」は欠け）
銭 884	墓群 14 a	S T 227	元豊通寶	北宋	1078	2.3	*0.5	5 枚固着
銭 885	墓群 14 a	S T 227	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 886	墓群 14 a	S T 227	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 887	墓群 14 a	S T 227	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 888	墓群 14 a	S T 227	不明	−	−	2.3	−	5 枚固着
銭 889	墓群 14 a	S T 227	天聖元寶	北宋	1023	2.45	0.15	
銭 890	墓群 14 a	S T 227	天聖元寶	北宋	1023	2.4	0.11	

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭891	墓群14 a	S T 227	天聖元寶	北宋	1023	2.4	0.14	
銭892	墓群14 a	S T 227	景祐元寶	北宋	1034	2.45	0.1	
銭893	墓群14 a	S T 227	元祐通寶	北宋	1093	2.4	*0.26	2枚固着
銭894	墓群14 a	S T 227	治平元寶	北宋	1064	2.4	－	2枚固着
銭895	墓群14 a	S T 227	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.71	6枚固着
銭896	墓群14 a	S T 227	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭897	墓群14 a	S T 227	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭898	墓群14 a	S T 227	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭899	墓群14 a	S T 227	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭900	墓群14 a	S T 227	不明	－	－	2.3	－	6枚固着
銭901	墓群14 a	S T 227	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.14	
銭902	墓群14 a	S T 223	新寛永通寶	日本	1668	2.4	*0.66	5枚固着
銭903	墓群14 a	S T 223	不明	－	－	－	－	5枚固着
銭904	墓群14 a	S T 223	不明	－	－	－	－	5枚固着
銭905	墓群14 a	S T 223	不明	－	－	－	－	5枚固着
銭906	墓群14 a	S T 223	新寛永通寶	日本	1668	2.35	－	5枚固着
銭907	墓群14 a	S T 223	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.13	
銭908	墓群14 a	S T 224	天聖元寶	北宋	1023	2.4	*0.66	6枚固着
銭909	墓群14 a	S T 224	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭910	墓群14 a	S T 224	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭911	墓群14 a	S T 224	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭912	墓群14 a	S T 224	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭913	墓群14 a	S T 224	不明	－	－	2.4	－	6枚固着
銭914	墓群14 a	S T 224	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.1	
銭915	墓群14 a	S T 224	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.63	5枚固着
銭916	墓群14 a	S T 224	不明	－	－	－	－	5枚固着
銭917	墓群14 a	S T 224	不明	－	－	－	－	5枚固着
銭918	墓群14 a	S T 224	不明	－	－	－	－	5枚固着
銭919	墓群14 a	S T 224	不明	－	－	2.3	－	5枚固着
銭920	墓群14 a	S T 238	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.13	
銭921	墓群14 a	S T 253	不明	－	－	2.45	*0.86	6枚固着
銭922	墓群14 a	S T 253	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭923	墓群14 a	S T 253	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭924	墓群14 a	S T 253	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭925	墓群14 a	S T 253	不明	－	－	－	－	6枚固着
銭926	墓群14 a	S T 253	不明	－	－	2.45	－	6枚固着
銭927	墓群14 a	S T 254	至道元寶	北宋	995	2.4	0.12	□□元寶1点
銭928	墓群14 a	S T 254	治平元寶	北宋	1064	2.3	0.12	
銭929	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.6	5枚固着
銭930	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	－	－	5枚固着
銭931	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	－	－	5枚固着
銭932	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	－	－	5枚固着
銭933	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	2.4	－	5枚固着
銭934	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	
銭935	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.25	2枚固着
銭936	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	2.45	－	2枚固着
銭937	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.46	4枚固着
銭938	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	－	－	4枚固着
銭939	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	－	－	4枚固着
銭940	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	2.45	－	4枚固着
銭941	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	2.4	*0.48	4枚固着
銭942	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	－	－	4枚固着
銭943	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	－	－	4枚固着
銭944	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	2.4	－	4枚固着
銭945	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	2.4	*0.2	2枚固着
銭946	墓群14 a	S T 254	不明	－	－	2.4	－	2枚固着
銭947	墓群14 a	S T 254	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.12	
銭948	墓群14 b	S T 138	不明	－	－	2.5	*0.76	4枚固着
銭949	墓群14 b	S T 138	不明	－	－	－	－	4枚固着
銭950	墓群14 b	S T 138	不明	－	－	－	－	4枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭 951	墓群 14 b	S T 138	不明	−	−	2.5	−	4 枚固着
銭 952	墓群 14 b	S T 426	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.48	4 枚固着
銭 953	墓群 14 b	S T 426	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 954	墓群 14 b	S T 426	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 955	墓群 14 b	S T 426	不明	−	−	2.5	−	4 枚固着
銭 956	墓群 14 b	S T 426	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.12	
銭 957	墓群 14 b	S T 426	新寛永通寶	日本	1668	2.55	*0.77	6 枚固着
銭 958	墓群 14 b	S T 426	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 959	墓群 14 b	S T 426	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 960	墓群 14 b	S T 426	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 961	墓群 14 b	S T 426	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 962	墓群 14 b	S T 426	寛永通寶	日本	−	2.55	−	6 枚固着
銭 963	墓群 14 b	S T 426	寛永通寶	日本	−	2.4	0.12	
銭 964	墓群 14 b	S T 428	不明	−	−	2.4	*0.54	5 枚固着
銭 965	墓群 14 b	S T 428	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 966	墓群 14 b	S T 428	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 967	墓群 14 b	S T 428	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 968	墓群 14 b	S T 428	不明	−	−	2.4	−	5 枚固着
銭 969	墓群 14 b	S T 428	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.14	
銭 970	墓群 14 b	S T 191	天禧通寶	北宋	1017	2.45	0.12	
銭 971	墓群 14 b	S T 191	開元通寶	唐	845	2.35	0.12	
銭 972	墓群 14 b	S T 191	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.13	
銭 973	墓群 14 b	S T 191	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.12	
銭 974	墓群 14 b	S T 191	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.12	
銭 975	墓群 14 b	S T 191	新寛永通寶	日本	1668	2.55	0.14	
銭 976	墓群 14 b	S T 191	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.12	
銭 977	墓群 14 b	S T 191	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.75	6 枚固着
銭 978	墓群 14 b	S T 191	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 979	墓群 14 b	S T 191	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 980	墓群 14 b	S T 191	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 981	墓群 14 b	S T 191	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 982	墓群 14 b	S T 191	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 983	墓群 14 b	S T 191	新寛永通寶	日本	1668	2.45	0.11	
銭 984	墓群 14 b	S T 221	寛永通寶か	日本	−	2.35	*0.81	6 枚固着
銭 985	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 986	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 987	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 988	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 989	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	2.45	−	6 枚固着
銭 990	墓群 14 b	S T 221	新寛永通寶	日本	1668	2.45	*0.76	6 枚固着
銭 991	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 992	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 993	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 994	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 995	墓群 14 b	S T 221	新寛永通寶	日本	1668	2.5	−	6 枚固着
銭 996	墓群 14 b	S T 221	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.73	6 枚固着
銭 997	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 998	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 999	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1000	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1001	墓群 14 b	S T 221	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 1002	墓群 14 b	S T 430	聖宋元寶	北宋	1101	2.4	*0.57	5 枚固着
銭 1003	墓群 14 b	S T 430	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1004	墓群 14 b	S T 430	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1005	墓群 14 b	S T 430	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1006	墓群 14 b	S T 430	元祐通寶	北宋	1093	2.45	−	5 枚固着
銭 1007	墓群 14 b	S T 430	皇宋通寶	北宋	1038	2.45	0.1	
銭 1008	墓群 14 b	S T 430	不明	−	−	2.5	*0.64	5 枚固着
銭 1009	墓群 14 b	S T 430	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1010	墓群 14 b	S T 430	不明	−	−	−	−	5 枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭1011	墓群14 b	ＳＴ430	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1012	墓群14 b	ＳＴ430	不明	－	－	2.5	－	５枚固着
銭1013	墓群14 b	ＳＴ430	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭1014	墓群14西	精査	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.36	３枚固着
銭1015	墓群14西	精査	不明	－	－	－	－	３枚固着
銭1016	墓群14西	精査	新寛永通寶	日本	1668	2.55	－	３枚固着
銭1017	墓群14西	精査	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.38	３枚固着
銭1018	墓群14西	精査	不明	－	－	－	－	３枚固着
銭1019	墓群14西	精査	新寛永通寶	日本	1668	2.55	－	３枚固着、裏に「文」有り
銭1020	墓群15 a	ＳＴ148	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.8	６枚固着
銭1021	墓群15 a	ＳＴ148	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1022	墓群15 a	ＳＴ148	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1023	墓群15 a	ＳＴ148	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1024	墓群15 a	ＳＴ148	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1025	墓群15 a	ＳＴ148	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭1026	墓群15 a	ＳＴ146	不明	－	－	2.4	*0.73	６枚固着
銭1027	墓群15 a	ＳＴ146	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1028	墓群15 a	ＳＴ146	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1029	墓群15 a	ＳＴ146	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1030	墓群15 a	ＳＴ146	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1031	墓群15 a	ＳＴ146	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭1032	墓群15 a	ＳＴ179	政和通寶	北宋	1111	2.45	0.11	
銭1033	墓群15 a	ＳＴ179	開元通寶	唐	845	2.5	0.12	
銭1034	墓群15 a	ＳＴ179	開元通寶	唐	845	2.4	0.13	
銭1035	墓群15 a	ＳＴ179	開元通寶	唐	845	2.4	0.12	
銭1036	墓群15 a	ＳＴ179	□□□□	－	－	2.45	0.1	
銭1037	墓群15 a	ＳＴ179	元豊通寶	北宋	1078	2.45	0.12	
銭1038	墓群15 a	ＳＴ179	元祐通寶	北宋	1086	2.4	0.1	
銭1039	墓群15 a	ＳＴ179	皇宋通寶	北宋	1038	2.4	0.11	
銭1040	墓群15 a	ＳＴ179	不明	－	－	2.4	*0.33	３枚固着
銭1041	墓群15 a	ＳＴ179	不明	－	－	－	－	３枚固着
銭1042	墓群15 a	ＳＴ179	不明	－	－	2.4	－	３枚固着
銭1043	墓群15 a	ＳＴ179	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.64	５枚固着
銭1044	墓群15 a	ＳＴ179	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1045	墓群15 a	ＳＴ179	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1046	墓群15 a	ＳＴ179	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1047	墓群15 a	ＳＴ179	不明	－	－	2.5	－	５枚固着
銭1048	墓群15 a	ＳＴ179	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.12	
銭1049	墓群15 a	ＳＴ443	至元通寶	元	1285	2.45	0.11	
銭1050	墓群15 a	ＳＴ443	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.15	
銭1051	墓群15 a	ＳＴ445	元祐通寶	北宋	1093	2.4	*0.73	６枚固着
銭1052	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1053	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1054	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1055	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1056	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭1057	墓群15 a	ＳＴ445	祥符通寶	北宋	1008	2.45	*0.67	６枚固着
銭1058	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1059	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1060	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1061	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1062	墓群15 a	ＳＴ445	景祐元寶	北宋	1034	2.4	－	６枚固着
銭1063	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	2.4	*0.23	２枚固着
銭1064	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	2.4	－	２枚固着
銭1065	墓群15 a	ＳＴ445	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.64	５枚固着
銭1066	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1067	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1068	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1069	墓群15 a	ＳＴ445	不明	－	－	2.4	－	５枚固着
銭1070	墓群15 a	ＳＴ445	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.15	裏に「文」有り

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭 1071	墓群 15 a	S T 445	皇宋通寶か	北宋	1038	2.35	*0.75	6 枚固着
銭 1072	墓群 15 a	S T 445	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1073	墓群 15 a	S T 445	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1074	墓群 15 a	S T 445	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1075	墓群 15 a	S T 445	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1076	墓群 15 a	S T 445	不明	−	−	2.5	−	6 枚固着
銭 1077	墓群 15 a	S T 446	不明	−	−	2.4	*0.43	3 枚固着
銭 1078	墓群 15 a	S T 446	不明	−	−	−	−	3 枚固着
銭 1079	墓群 15 a	S T 446	不明	−	−	2.4	−	3 枚固着
銭 1080	墓群 15 a	S T 446	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.75	6 枚固着
銭 1081	墓群 15 a	S T 446	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1082	墓群 15 a	S T 446	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1083	墓群 15 a	S T 446	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1084	墓群 15 a	S T 446	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1085	墓群 15 a	S T 446	古寛永通寶	日本	1636	2.4	−	6 枚固着
銭 1086	墓群 15 a	S T 446	天聖元寶	北宋	1023	2.4	0.13	
銭 1087	墓群 15 a	S T 446	天聖元寶	北宋	1023	2.4	0.12	
銭 1088	墓群 15 a	S T 192	不明	−	−	2.5	*0.5	4 枚固着
銭 1089	墓群 15 a	S T 192	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 1090	墓群 15 a	S T 192	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 1091	墓群 15 a	S T 192	不明	−	−	2.45	−	4 枚固着
銭 1092	墓群 15 a	S T 192	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.75	6 枚固着
銭 1093	墓群 15 a	S T 192	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1094	墓群 15 a	S T 192	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1095	墓群 15 a	S T 192	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1096	墓群 15 a	S T 192	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1097	墓群 15 a	S T 192	不明	−	−	2.45	−	6 枚固着
銭 1098	墓群 15 b	S T 134	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.15	
銭 1099	墓群 15 b	S T 134	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.14	
銭 1100	墓群 15 b	S T 134	古寛永通寶	日本	1636	2.55	*0.52	4 枚固着
銭 1101	墓群 15 b	S T 134	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 1102	墓群 15 b	S T 134	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 1103	墓群 15 b	S T 134	不明	−	−	−	−	4 枚固着
銭 1104	墓群 15 b	S T 134	不明	−	−	2.5	*0.72	6 枚固着
銭 1105	墓群 15 b	S T 134	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1106	墓群 15 b	S T 134	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1107	墓群 15 b	S T 134	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1108	墓群 15 b	S T 134	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1109	墓群 15 b	S T 134	不明	−	−	2.45	−	6 枚固着
銭 1110	墓群 15 b	S T 137	寛永通寶か	日本	−	2.4	*0.37	3 枚固着
銭 1111	墓群 15 b	S T 137	不明	−	−	−	−	3 枚固着
銭 1112	墓群 15 b	S T 137	不明	−	−	2.4	−	3 枚固着
銭 1113	墓群 15 b	S T 137	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.25	2 枚固着
銭 1114	墓群 15 b	S T 137	古寛永通寶	日本	1636	2.45	−	2 枚固着
銭 1115	墓群 15 b	S T 135	祥符通寶	北宋	1008	−	0.1	破片
銭 1116	墓群 15 b	S T 135	元豊通寶	北宋	1078	2.35	0.1	模鋳銭か
銭 1117	墓群 15 b	S T 135	元祐通寶	北宋	1086	2.35	0.11	模鋳銭か
銭 1118	墓群 15 b	S T 228	南無阿弥陀佛（念仏銭）	−	−	2.35	*0.73	6 枚固着
銭 1119	墓群 15 b	S T 228	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1120	墓群 15 b	S T 228	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1121	墓群 15 b	S T 228	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1122	墓群 15 b	S T 228	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1123	墓群 15 b	S T 228	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 1124	墓群 15 b	S T 439	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭 1125	墓群 15 b	S T 163	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.63	5 枚固着
銭 1126	墓群 15 b	S T 163	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1127	墓群 15 b	S T 163	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1128	墓群 15 b	S T 163	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1129	墓群 15 b	S T 163	不明	−	−	2.35	−	5 枚固着
銭 1130	墓群 15 b	S T 163	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.13	

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭1131	墓群15 b	ＳＴ163	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	５枚固着
銭1132	墓群15 b	ＳＴ163	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	５枚固着
銭1133	墓群15 b	ＳＴ163	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.15	５枚固着
銭1134	墓群15 b	ＳＴ163	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	５枚固着
銭1135	墓群15 b	ＳＴ163	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.14	５枚固着
銭1136	墓群15 b	ＳＴ163	新寛永通寶	日本	1668	2.4	*0.67	６枚固着
銭1137	墓群15 b	ＳＴ163	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1138	墓群15 b	ＳＴ163	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1139	墓群15 b	ＳＴ163	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1140	墓群15 b	ＳＴ163	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1141	墓群15 b	ＳＴ163	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭1142	墓群15 b	ＳＴ232・233	開元通寶	唐	845	2.5	0.14	
銭1143	墓群15 b	ＳＴ232・233	天聖元寶	北宋	1023	2.45	0.13	
銭1144	墓群15 b	ＳＴ232・233	皇宋通寶	北宋	1038	2.45	*0.55	４枚固着
銭1145	墓群15 b	ＳＴ232・233	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭1146	墓群15 b	ＳＴ232・233	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭1147	墓群15 b	ＳＴ232・233	□□□寶	－	－	2.45	－	４枚固着
銭1148	墓群15 b	ＳＴ231	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.26	２枚固着
銭1149	墓群15 b	ＳＴ231	新寛永通寶	日本	1668	2.5	－	２枚固着
銭1150	墓群15 b	ＳＴ231周辺精査	新寛永通寶	日本	1668	2.45	*0.65	５枚固着
銭1151	墓群15 b	ＳＴ231周辺精査	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1152	墓群15 b	ＳＴ231周辺精査	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1153	墓群15 b	ＳＴ231周辺精査	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1154	墓群15 b	ＳＴ231周辺精査	不明	－	－	2.45	－	５枚固着
銭1155	墓群15 b	ＳＴ231周辺精査	新寛永通寶	日本	1668	2.45	0.14	
銭1156	墓群15 b	ＳＴ235	至道元寶	北宋	995	2.45	*0.68	６枚固着
銭1157	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1158	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1159	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1160	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1161	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭1162	墓群15 b	ＳＴ235	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.71	６枚固着、裏に「文」有り
銭1163	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1164	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1165	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1166	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1167	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	2.35	－	６枚固着
銭1168	墓群15 b	ＳＴ235	新寛永通寶	日本	1668	2.4	*0.74	６枚固着
銭1169	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1170	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1171	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1172	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1173	墓群15 b	ＳＴ235	不明	－	－	2.35	－	６枚固着
銭1174	墓群15 b	ＳＴ235	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.14	
銭1175	墓群15 b	ＳＴ440	元豊通寶	北宋	1078	2.45	0.1	
銭1176	墓群15 b	ＳＴ236	古寛永通寶	日本	1636	2.55	*0.68	６枚固着
銭1177	墓群15 b	ＳＴ236	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1178	墓群15 b	ＳＴ236	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1179	墓群15 b	ＳＴ236	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1180	墓群15 b	ＳＴ236	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1181	墓群15 b	ＳＴ236	古寛永通寶	日本	1636	2.5	－	６枚固着
銭1182	墓群16 a	ＳＴ454	不明	－	－	2.4	*0.8	６枚固着
銭1183	墓群16 a	ＳＴ454	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1184	墓群16 a	ＳＴ454	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1185	墓群16 a	ＳＴ454	不明	－	－	－	－	６枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭 1186	墓群 16 a	S T 454	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1187	墓群 16 a	S T 454	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 1188	墓群 16 a	S T 454	熙寧元寶	北宋	1068	2.3	0.12	
銭 1189	墓群 16 a	S T 454	皇宋通寶	北宋	1038	2.4	*0.58	5 枚固着
銭 1190	墓群 16 a	S T 454	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1191	墓群 16 a	S T 454	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1192	墓群 16 a	S T 454	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1193	墓群 16 a	S T 454	皇宋通寶	北宋	1038	2.45	−	5 枚固着
銭 1194	墓群 16 a	S T 455	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.14	
銭 1195	墓群 16 a	S T 455	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.14	
銭 1196	墓群 16 a	S T 460	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.55	5 枚固着
銭 1197	墓群 16 a	S T 460	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1198	墓群 16 a	S T 460	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1199	墓群 16 a	S T 460	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1200	墓群 16 a	S T 460	新寛永通寶	日本	1668	2.45	−	5 枚固着
銭 1201	墓群 16 a	S T 460	新寛永通寶か	日本	1668	−	0.13	破片
銭 1202	墓群 16 a	S T 240	古寛永通寶	日本	1636	2.55	0.12	
銭 1203	墓群 16 a	S T 240	寛永通寶	−	−	2.55	0.14	
銭 1204	墓群 16 a	S T 240	□□通寶	−	−	−	0.12	破片
銭 1205	墓群 16 a	S T 240	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.14	
銭 1206	墓群 16 a	S T 240	不明	−	−	2.4	*0.75	6 枚固着
銭 1207	墓群 16 a	S T 240	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1208	墓群 16 a	S T 240	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1209	墓群 16 a	S T 240	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1210	墓群 16 a	S T 240	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1211	墓群 16 a	S T 240	不明	−	−	2.5	−	6 枚固着
銭 1212	墓群 16 a	S T 239	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.15	
銭 1213	墓群 16 b	S K 157	元符通寶	北宋	1098	2.35	0.13	
銭 1214	墓群 16 b	S T 447	元豊通寶	北宋	1078	2.4	0.18	
銭 1215	墓群 16 b	S T 447	□和通□	−	−	−	0.13	破片
銭 1216	墓群 16 b	S T 447	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.1	
銭 1217	墓群 16 b	S T 447	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.76	6 枚固着
銭 1218	墓群 16 b	S T 447	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1219	墓群 16 b	S T 447	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1220	墓群 16 b	S T 447	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1221	墓群 16 b	S T 447	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1222	墓群 16 b	S T 447	不明	−	−	2.3	−	6 枚固着
銭 1223	墓群 16 b	S T 449	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.59	5 枚固着
銭 1224	墓群 16 b	S T 449	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1225	墓群 16 b	S T 449	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1226	墓群 16 b	S T 449	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1227	墓群 16 b	S T 449	古寛永通寶	日本	1636	2.5	−	5 枚固着
銭 1228	墓群 16 b	S T 450	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.77	6 枚固着
銭 1229	墓群 16 b	S T 450	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1230	墓群 16 b	S T 450	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1231	墓群 16 b	S T 450	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1232	墓群 16 b	S T 450	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1233	墓群 16 b	S T 450	不明	−	−	2.5	−	6 枚固着
銭 1234	墓群 16 b	S T 245	祥符□□	−	−	2.4	*0.68	6 枚固着
銭 1235	墓群 16 b	S T 245	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1236	墓群 16 b	S T 245	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1237	墓群 16 b	S T 245	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1238	墓群 16 b	S T 245	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1239	墓群 16 b	S T 245	不明	−	−	2.4	−	6 枚固着
銭 1240	墓群 16 b	S T 245	聖宋元寶か？	北宋	1101	2.4	*0.26	2 枚固着
銭 1241	墓群 16 b	S T 245	不明	−	−	2.5	−	2 枚固着
銭 1242	墓群 16 b	S T 245	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.15	
銭 1243	墓群 16 b	S T 245	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.12	
銭 1244	墓群 16 b	S T 245	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.11	
銭 1245	墓群 16 b	S T 246	新寛永通寶	日本	1668	2.45	*0.8	6 枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭1246	墓群16 b	S T 246	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1247	墓群16 b	S T 246	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1248	墓群16 b	S T 246	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1249	墓群16 b	S T 246	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1250	墓群16 b	S T 246	不明	−	−	2.4	−	6枚固着
銭1251	墓群16 b	S T 247	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.18	
銭1252	墓群16 b	S T 247	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.86	6枚固着
銭1253	墓群16 b	S T 247	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1254	墓群16 b	S T 247	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1255	墓群16 b	S T 247	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1256	墓群16 b	S T 247	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1257	墓群16 b	S T 247	不明	−	−	2.45	−	6枚固着
銭1258	墓群16 b	S T 250	南無阿弥陀佛（念仏銭）	−	−	2.5	0.23	
銭1259	墓群16 b	S T 250	南無阿弥陀佛（念仏銭）	−	−	2.4	0.15	
銭1260	墓群16 b	S T 250	南無阿弥陀佛（念仏銭）	−	−	2.3	0.15	
銭1261	墓群16 b	S T 250	不明	−	−	2.3	0.16	
銭1262	墓群16 b	S T 250	不明	−	−	2.3	*0.7	6枚固着
銭1263	墓群16 b	S T 250	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1264	墓群16 b	S T 250	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1265	墓群16 b	S T 250	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1266	墓群16 b	S T 250	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1267	墓群16 b	S T 250	不明	−	−	2.5	−	6枚固着
銭1268	墓群16 b	S T 250	寛永通寶	日本	−	2.45	*0.28	2枚固着
銭1269	墓群16 b	S T 250	不明	−	−	2.5	−	2枚固着
銭1270	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	2.3	*0.7	6枚固着
銭1271	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1272	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1273	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1274	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1275	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	2.4	−	6枚固着
銭1276	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	2.5	*0.74	6枚固着
銭1277	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1278	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1279	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1280	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1281	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	2.45	−	6枚固着
銭1282	墓群16 b	S T 252	元祐通寶	北宋	1086	2.4	*0.71	6枚固着
銭1283	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1284	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1285	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1286	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1287	墓群16 b	S T 252	不明	−	−	2.45	−	6枚固着
銭1288	墓群16 b	S T 208	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.25	2枚固着
銭1289	墓群16 b	S T 208	寛永通寶か	日本	−	2.5	−	2枚固着
銭1290	墓群16 b	S T 208（451）	不明	−	−	2.45	*0.74	6枚固着
銭1291	墓群16 b	S T 208（451）	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1292	墓群16 b	S T 208（451）	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1293	墓群16 b	S T 208（451）	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1294	墓群16 b	S T 208（451）	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1295	墓群16 b	S T 208（451）	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1296	墓群16 b	S T 451	不明	−	−	2.45	*0.84	6枚固着
銭1297	墓群16 b	S T 451	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1298	墓群16 b	S T 451	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1299	墓群16 b	S T 451	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1300	墓群16 b	S T 451	不明	−	−	−	−	6枚固着
銭1301	墓群16 b	S T 451	不明	−	−	2.45	−	6枚固着
銭1302	墓群16 b	S T 451	不明	−	−	2.5	*0.25	2枚固着
銭1303	墓群16 b	S T 451	不明	−	−	2.5	−	2枚固着
銭1304	墓群17 a	S T 120	聖宋元寶	北宋	1101	2.4	*0.52	5枚固着
銭1305	墓群17 a	S T 120	不明	−	−	−	−	5枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径（cm）	厚さ（cm）	備考
銭 1306	墓群 17 a	ＳＴ 120	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 1307	墓群 17 a	ＳＴ 120	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 1308	墓群 17 a	ＳＴ 120	至道元寶	北宋	995	2.3	－	５枚固着
銭 1309	墓群 17 a	ＳＴ 120	元豊通寶	北宋	1078	－	0.1	欠け有り
銭 1310	墓群 17 a	ＳＴ 120	古寛永通寶	日本	1636	2.45	0.13	
銭 1311	墓群 17 a	ＳＴ 120	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.63	５枚固着
銭 1312	墓群 17 a	ＳＴ 120	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 1313	墓群 17 a	ＳＴ 120	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 1314	墓群 17 a	ＳＴ 120	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 1315	墓群 17 a	ＳＴ 120	古寛永通寶	日本	1636	2.4	－	５枚固着
銭 1316	墓群 17 a	ＳＴ 389・390	新寛永通寶	日本	1668	2.45	0.11	
銭 1317	墓群 17 a	ＳＴ 389・390	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.12	
銭 1318	墓群 17 a	ＳＴ 389・390	新寛永通寶	日本	1668	2.4	0.11	
銭 1319	墓群 17 a	ＳＴ 390	不明	－	－	2.4	*0.74	６枚固着
銭 1320	墓群 17 a	ＳＴ 390	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1321	墓群 17 a	ＳＴ 390	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1322	墓群 17 a	ＳＴ 390	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1323	墓群 17 a	ＳＴ 390	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1324	墓群 17 a	ＳＴ 390	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭 1325	墓群 17 a	ＳＴ 198	古寛永通寶	日本	1636	2.35	*0.7	６枚固着
銭 1326	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1327	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1328	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1329	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1330	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	2.5	－	６枚固着
銭 1331	墓群 17 a	ＳＴ 198	皇宋通寶	北宋	1038	2.45	*0.77	６枚固着
銭 1332	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1333	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1334	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1335	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1336	墓群 17 a	ＳＴ 198	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭 1337	墓群 17 a	ＳＴ 391	開元通寶	唐	845	2.35	*0.76	６枚固着
銭 1338	墓群 17 a	ＳＴ 391	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1339	墓群 17 a	ＳＴ 391	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1340	墓群 17 a	ＳＴ 391	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1341	墓群 17 a	ＳＴ 391	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1342	墓群 17 a	ＳＴ 391	不明	－	－	2.35	－	６枚固着
銭 1343	墓群 17 a	ＳＴ 392	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.74	５枚固着
銭 1344	墓群 17 a	ＳＴ 392	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 1345	墓群 17 a	ＳＴ 392	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 1346	墓群 17 a	ＳＴ 392	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭 1347	墓群 17 a	ＳＴ 392	不明	－	－	2.4	－	５枚固着
銭 1348	墓群 17 a	ＳＴ 392	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.13	
銭 1349	墓群 17 a	ＳＴ 395	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.76	６枚固着
銭 1350	墓群 17 a	ＳＴ 395	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1351	墓群 17 a	ＳＴ 395	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1352	墓群 17 a	ＳＴ 395	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1353	墓群 17 a	ＳＴ 395	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭 1354	墓群 17 a	ＳＴ 395	不明	－	－	2.45	－	６枚固着
銭 1355	墓群 17 a	ＳＴ 399	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.23	２枚固着
銭 1356	墓群 17 a	ＳＴ 399	不明	－	－	2.3	－	２枚固着
銭 1357	墓群 17 a	ＳＴ 399	古寛永通寶	日本	1636	2.35	0.12	
銭 1358	墓群 17 a	ＳＴ 399	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.5	４枚固着
銭 1359	墓群 17 a	ＳＴ 399	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 1360	墓群 17 a	ＳＴ 399	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭 1361	墓群 17 a	ＳＴ 399	古寛永通寶	日本	1636	2.3	－	４枚固着
銭 1362	墓群 17 a	ＳＴ 399	古寛永通寶	日本	1636	2.45	*0.22	２枚固着
銭 1363	墓群 17 a	ＳＴ 399	元豊通寶？	北宋	1078	2.4	－	２枚固着
銭 1364	墓群 17 a	ＳＴ 398	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.83	６枚固着
銭 1365	墓群 17 a	ＳＴ 398	不明	－	－	－	－	６枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭1366	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1367	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1368	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1369	墓群17 a	ＳＴ398	新寛永通寶	日本	1668	2.5	－	６枚固着
銭1370	墓群17 a	ＳＴ398	元豊通寶	北宋	1078	2.4	0.1	
銭1371	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	2.4	*0.25	２枚固着
銭1372	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	2.5	－	２枚固着
銭1373	墓群17 a	ＳＴ398	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.25	２枚固着、裏に「文」有り
銭1374	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	2.45	－	２枚固着
銭1375	墓群17 a	ＳＴ398	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.12	
銭1376	墓群17 a	ＳＴ398	熙寧元寶	北宋	1068	2.45	*0.77	６枚固着
銭1377	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1378	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1379	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1380	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1381	墓群17 a	ＳＴ398	不明	－	－	2.45	－	６枚固着
銭1382	墓群17 b	ＳＴ188	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.11	
銭1383	墓群17 b	ＳＴ188	古寛永通寶	日本	1636	2.5	0.12	２枚固着
銭1384	墓群17 b	ＳＴ188	寛永通寶	日本	－	2.45	0.14	２枚固着
銭1385	墓群17 b	ＳＴ188	新寛永通寶か	日本	1668	－	0.13	破片、「文」有り
銭1386	墓群17 b	ＳＴ81	新寛永通寶	日本	1668	2.55	*0.58	４枚固着
銭1387	墓群17 b	ＳＴ81	不明	－	－	－	－	４枚固着
銭1388	墓群17 b	ＳＴ81	寛永通寶	－	－	－	－	４枚固着
銭1389	墓群17 b	ＳＴ81	新寛永通寶	日本	1668	2.55	－	４枚固着
銭1390	墓群17 b	ＳＴ81	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.31	２枚固着
銭1391	墓群17 b	ＳＴ81	新寛永通寶	日本	1668	2.5	－	２枚固着
銭1392	墓群17 b	ＳＴ200	不明	－	－	2.45	*0.81	６枚固着
銭1393	墓群17 b	ＳＴ200	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1394	墓群17 b	ＳＴ200	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1395	墓群17 b	ＳＴ200	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1396	墓群17 b	ＳＴ200	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1397	墓群17 b	ＳＴ200	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭1398	墓群17 b	ＳＴ199	新寛永通寶	日本	1668	2.5	*0.81	６枚固着
銭1399	墓群17 b	ＳＴ199	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1400	墓群17 b	ＳＴ199	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1401	墓群17 b	ＳＴ199	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1402	墓群17 b	ＳＴ199	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1403	墓群17 b	ＳＴ199	不明	－	－	2.4	－	６枚固着
銭1404	墓群17 b	ＳＴ385	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.8	６枚固着
銭1405	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1406	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1407	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1408	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1409	墓群17 b	ＳＴ385	新寛永通寶	日本	1668	2.5	－	６枚固着
銭1410	墓群17 b	ＳＴ385	□永□□	－	－	2.45	*0.85	６枚固着
銭1411	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1412	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1413	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1414	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	６枚固着
銭1415	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	2.55	－	６枚固着
銭1416	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	2.4	*0.64	５枚固着
銭1417	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1418	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1419	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1420	墓群17 b	ＳＴ385	不明	－	－	2.4	－	５枚固着
銭1421	墓群17 b	ＳＴ386	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.14	
銭1422	墓群17 b	ＳＴ386	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.69	５枚固着
銭1423	墓群17 b	ＳＴ386	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1424	墓群17 b	ＳＴ386	不明	－	－	－	－	５枚固着
銭1425	墓群17 b	ＳＴ386	不明	－	－	－	－	５枚固着

報告番号	墓　群	遺構番号	古銭名称	銭種	初鋳	直径(cm)	厚さ(cm)	備考
銭 1426	墓群 17 b	S T 386	古寛永通寶	日本	1636	2.45	−	5 枚固着
銭 1427	墓群 17 b	S T 387	古寛永通寶	日本	1636	2.4	0.13	
銭 1428	墓群 17 b	S T 388	不明	−	−	−	0.11	破片
銭 1429	墓群 17 b	S T 388	不明	−	−	2.45	*0.8	6 枚固着
銭 1430	墓群 17 b	S T 388	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1431	墓群 17 b	S T 388	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1432	墓群 17 b	S T 388	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1433	墓群 17 b	S T 388	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1434	墓群 17 b	S T 388	不明	−	−	2.35	−	6 枚固着
銭 1435	墓群 17 b	S T 243	□永通□	−	−	2.55	0.16	破片
銭 1436	墓群 17 b	S T 243	新寛永通寶	日本	1668	2.3	0.15	
銭 1437	墓群 17 b	S T 243	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.12	
銭 1438	墓群 17 b	S T 243	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.14	
銭 1439	墓群 17 b	S T 243	□永通□	−	−	2.5	*0.93	6 枚固着
銭 1440	墓群 17 b	S T 243	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1441	墓群 17 b	S T 243	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1442	墓群 17 b	S T 243	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1443	墓群 17 b	S T 243	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1444	墓群 17 b	S T 243	不明	−	−	2.55	−	6 枚固着
銭 1445	墓群 17 b	S T 397	古寛永通寶	日本	1636	2.4	*0.78	6 枚固着
銭 1446	墓群 17 b	S T 397	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1447	墓群 17 b	S T 397	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1448	墓群 17 b	S T 397	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1449	墓群 17 b	S T 397	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1450	墓群 17 b	S T 397	古寛永通寶	日本	1636	2.5	−	6 枚固着
銭 1451	墓群 18 b	S T 462	熙寧元寶	北宋	1068	2.3	0.13	
銭 1452	墓群 18 b	S T 462	熙寧元寶	北宋	1068	2.3	0.13	
銭 1453		S K 52	元祐通寶	北宋	1086	2.4	*0.42	3 枚固着
銭 1454		S K 52	不明	−	−	−	−	3 枚固着
銭 1455		S K 52	不明	−	−	2.4	−	3 枚固着
銭 1456		S K 52	元豊通寶	北宋	1078	2.45	0.12	
銭 1457		S K 52	不明	−	−	2.4	0.1	
銭 1458		S K 52	元祐通寶	北宋	1086	2.4	0.14	
銭 1459		S K 52	□□元寶	−	−	2.3	*0.61	5 枚固着
銭 1460		S K 52	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1461		S K 52	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1462		S K 52	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1463		S K 52	不明	−	−	2.45	−	5 枚固着
銭 1464		S K 52	祥符元寶	北宋	1008	2.45	0.13	
銭 1465		S E 100	古寛永通寶	日本	1636	2.5	*0.74	6 枚固着
銭 1466		S E 100	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1467		S E 100	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1468		S E 100	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1469		S E 100	不明	−	−	−	−	6 枚固着
銭 1470		S E 100	不明	−	−	2.45	−	6 枚固着
銭 1471		S K 113	新寛永通寶	日本	1668	2.5	0.12	
銭 1472		S K 117	不明	−	−	2.5	*0.73	5 枚固着
銭 1473		S K 117	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1474		S K 117	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1475		S K 117	不明	−	−	−	−	5 枚固着
銭 1476		S K 117	不明	−	−	2.35	−	5 枚固着

付表12　墓石計測一覧

〈 凡 例 〉

・墓石は各形式に略称をつけ、それぞれ通し番号を付与した。略称は以下の通りである。

一石五輪塔・・・・・・・・・ 通し番号のみ

組合式五輪塔・・・・・・ 組

板碑・舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆(体部)・・・・・・ 碑

笠塔婆(笠部)・・・・・・ 笠

石仏・・・・・・・・・・・・・・ 仏

台座・水鉢・・・・・・・・・・・・・ 台

・掲載順は以下の通りである。

一石五輪塔

板碑・舟形墓標・櫛形墓標・笠塔婆(体部)

組合式五輪塔

台座・水鉢

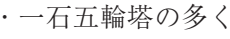
笠塔婆(笠部)

石仏

・墓石の計測位置は、本文第143図に基づく。

・墓石の形式は、本文第144・145図に基づく。

・板碑、舟形墓標、櫛形墓標、笠塔婆(体部)は、すべて略称を碑とし、まとめて報告している。各形式は表中で示した。

・一石五輪塔の多くは、東方発心門「  」が刻まれる。異なるもののみを記載した。

・一石五輪塔の底部の形状は、刺込・据置に分類し、判別可能なものを表記した。

・出土地点が異なる破片同士が接合したものについては、並べて記載している。紀年銘等については、碑は前掲するものにまとめて記載し、一石五輪塔は地輪部が残る破片に記載した。高さについては、接合した最大高を前掲するものに記載した。

・寸法記載で、(　)付は残存値を　示す。

・寸法記載で、－は計測値なしを示す。

・寸法記載で、／は該当部位なしを示す。

・舟形墓標の幅は、最小幅を[　]で表示した。

・寸法数値は、少数点第２位切り捨て、小数点第１位で表示した。

・紀年銘等で、解読不能なものを□、割れており文字数が不明なものを┌┐で表記した。

・紀年銘等で、草書や異体字については、支障のない範囲で楷書に改めた。

南地区出土一石五輪

報告番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群２ａ ＳＴ 371	墓群２ｂ ＳＫ 66	墓群２ｂ ＳＴ 377 上面	墓群２ｂ ＳＴ 377 上面	墓群２上層 ＳＴ 17	墓群３ａ ＳＫ 78	墓群３ｂ ＳＴ 42	墓群３ｂ ＳＴ 42	墓群３ｂ ＳＴ 42	墓群３ｂ ＳＴ 42
寸法（㎝）	総高	(20.4)	35.3	(36.0)	51.5	(13.0)	(23.4)	(18.8)	(32.2)	(14.2)	(30.2)
	空輪高		7.2		8.0	7.0	5.9		9.5	9.4	
	風輪高		2.8		4.1	2.9	3.5		4.7	4.8	
	火輪 高		4.4	(6.3)	6.8	(3.1)	6.9	(8.8)	9.2		
	火輪 軒高１		3.6	4.2	5.0	－	4.8	5.0	6.4		
	火輪 軒高２		2.3	2.7	2.7	－	3.0	2.0	3.8		
	火輪 幅		－	－	－	－	－	15.3	14.7		
	火輪 奥行		－	－	－	－	－	13.3	14.0		
	水輪高		4.9	7.5	7.8		7.1	10.0	8.8		
	地輪 高	20.4	16.0	22.2	24.8						30.2
	地輪 幅	12.2	9.7	12.4	13.5						15.2
	地輪 奥行	12.2	9.4	12.0	14.7						13.4
石材		閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	－
紀年銘等		慶長九年 秋譽妙安信女 八月廿五日	慶長二年 正圓童女 七月廿八日	天正八年 妙慶禅定尼 十月廿六日	慶長九年 宗春禅定門 七月十六日						元和四年 □峯照雲禅定門 三月十一日
		刺込	刺込	刺込	刺込						
観察備考											

報告番号		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群３ｂ ＳＴ 42	墓群３ｂ ＳＴ 190	墓群３ｂ ＳＴ 190	墓群３ｂ ＳＴ 190	墓群３ｂ ＳＴ 190	墓群３ｂ ＳＴ 362	墓群４ ＳＴ 24	墓群４ ＳＴ 343 上面	墓群５ａ ＳＫ 30	墓群５ａ ＳＴ 58
寸法（㎝）	総高	52.0	34.4	(24.0)	(46.5)	61.5	(8.2)	(20.0)	(25.5)	(21.7)	50.4
	空輪高	8.6	5.4		9.0	10.2	5.1			(6.0)	7.6
	風輪高	3.1	3.6		4.0	4.7	3.1			4.1	4.2
	火輪 高	9.0	4.9		9.2	8.2				6.1	6.0
	火輪 軒高１	5.7	3.5		5.8	6.7				4.9	3.7
	火輪 軒高２	3.3	2.0		3.4	3.8				3.1	2.7
	火輪 幅	－	－		－	－				8.7	－
	火輪 奥行	－	－		－	－				8.3	－
	水輪高	8.7	3.9			9.4				5.5	8.1
	地輪 高	22.6	16.6	24.0	24.3	29.0		20.0	25.5		24.5
	地輪 幅	14.4	10.5	13.8	13.5	16.8		13.3	13.4		12.7
	地輪 奥行	13.6	9.7	11.2	10.1	13.1		11.0	12.0		11.5
石材		閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩
紀年銘等		文禄四年 長安宗□禅定門 八月六日	天正十二年 真慶童子 九月廿八日	慶長十九年 宗喜禅定尼 八月十日	元和九年 峰カ譽宗訓禅定門 四月廿七日	寛□□□ 如悦夢□信士 □月廿□日 妙休禅定尼		清□□□ 寛永六年閏二月	慶長三年 中カ譽妙貞禅定尼 三月廿七日		慶長八年 妙忠禅定尼 八月廿日
		据置	刺込	刺込	刺込	凸		刺込	刺込		据置
観察備考						火輪ホゾ高 1.4cm			金泥		

報告番号		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群６ａ ＳＴ48	墓群６ａ ＳＴ48	墓群６ａ ＳＴ48	墓群７ｂ ＳＴ49	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40
寸法（cm）	総高	36.7	(29.6)	44.0	(25.0)	33.4	(25.4)	(34.1)	(34.5)	(13.0)	(11.8)
	空輪高			7.0		7.2	6.8				7.4
	風輪高	3.8		4.0		4.1	4.0				4.4
	火輪 高	6.0	(5.3)	6.8		8.1	7.2	(5.0)	(6.8)	(6.2)	
	火輪 軒高１	4.6	4.4	4.9		6.3	5.6	3.5	4.1	3.6	
	火輪 軒高２	2.8	2.5	2.6		3.1	3.3	2.1	2.8	2.5	
	火輪 幅	－	－	－		－	13.3	－	－	11.4	
	火輪 奥行	－	－	－		－	11.9	－	－	9.4	
	水輪高	5.6	5.0	7.3	5.0	6.8	7.4	6.5	6.5	6.8	
	地輪 高	21.3	19.3	18.9	20.0	7.2		22.6	21.2		
	地輪 幅	10.8	11.0	12.0	14.0	13.6		10.1	12.6		
	地輪 奥行	9.0	9.4	10.5	11.0	11.6		9.8	10.3		
石材		砂岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	－	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		十月 慶徳禅定尼 十五日	元和六年 梅誉妙蓮禅定尼 閏十二月十七日	慶長十四年 権大僧都金蔵院 八月□一日		正保三年 道圓禅定門 正月十七日 慶安三年 妙印禅定尼 八月五日		明暦三年丁酉年 樂譽道安信士 八月廿七日	元和元年 空晴浄雲禅定門 八月廿四日		
		刺込	刺込	据置	刺込	据置		据置	据置		
観察備考					摩滅著しい			地輪底面わずかに凹む			

報告番号		31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ ＳＫ40	墓群８ｂ ＳＴ324 上面	墓群９ｂ ＳＴ318	墓群10 ｂ ＳＫ50
寸法（cm）	総高	(39.0)	51.8	(25.0)	37.5	(19.8)	(9.6)	(7.7)	36.5	(26.6)	(7.7)
	空輪高		9.2		6.8		6.3	7.7	5.2		4.7
	風輪高	4.4	3.2		3.5		3.3		3.2		3.0
	火輪 高	7.6	6.3		6.0				5.1	5.5	
	火輪 軒高１	5.1	4.9		4.0				4.6		
	火輪 軒高２	2.9	3.0		2.9				2.4		
	火輪 幅	－	－		－				－	－	
	火輪 奥行	－	－		－				－	－	
	水輪高	6.9	8.9		6.0				5.1	5.9	
	地輪 高	20.1	24.2	25.0	15.2	19.8			17.9	15.2	
	地輪 幅	12.6	13.7	12.1	10.9	11.4			10.2	10.3	
	地輪 奥行	11.4	11.9	10.8	11.5	9.9			8.2	9.2	
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		元和八年六月□日 長州信女 □作	慶長三年 月宗蓮禅定門 七月廿八日	元和五年 安承（カ）善徳禅定門 六月四日	文禄四年 妙雲童女 二□□日	慶長六年 淨春禅定門 正月廿六日			万治三年 秋明童子 七月七日	天正十六年 妙玉童女 十二月十九日	
		据置	据置	刺込	据置	刺込			凸	刺込	
観察備考											41と接合

報告番号			41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
トレンチ			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点			墓群 10 b ＳＫ 50	墓群 12 a ＳＴ 65	墓群 12 b ＳＴ 196	墓群 12 b ＳＴ 196	墓群 12 b ＳＴ 196	墓群 13	墓群 14 ＳＴ 79	墓群 14 ＳＴ 79	墓群 14 ＳＴ 79	墓群 14 ＳＴ 79
寸法（cm）	総高		(24.0)	(12.8)	(38.5)	32.7	(33.0)	31.9	49.1	(29.0)	(33.7)	42.6
	空輪高			6.9		5.7		5.0	6.0			6.4
	風輪高			3.5	(5.0)	2.6		2.4	3.3			3.6
	火輪	高	4.5	(2.4)	7.5	5.0	(6.0)	4.4	6.0	(4.8)	(6.7)	6.5
		軒高 1	3.5	−	4.5	3.1	4.5	3.1	5.0	(4.0)	5.4	5.1
		軒高 2	2.2	−	2.6	1.9	2.5	2.0	2.7	2.2	2.9	3.0
		幅	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
		奥行	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	水輪高		4.0		6.5	5.0	7.0	4.6	5.5	4.9	6.5	5.3
	地輪	高	15.5		19.5	14.4	20.0	15.5	28.3	19.3	20.5	20.8
		幅	8.3		12.0	9.5	12.0	10.1	10.5	10.5	12.6	11.7
		奥行	6.8		11.8	9.2	11.0	9.0	9.6	7.9	10.5	9.3
石材			閃緑岩	砂岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等			覚月宗永信女 十月八日 慶安三年 据置		道□禅定門 三月三日 慶長十九年 刺込	妙慶禅定尼 □六月十日 文禄四年 刺込	養残浄甫信士 九月十六日 寛永十四年 据置	妙栄禅定尼 二月廿二日 文禄二年 刺込	法山霜説童女霊 十一月朔日 寛文十年 刺込	寿栄童女 壬四月十[カ]三日 正保五年 幻故童女	浄光急清信士 六月四日 承應二年 刺込	秋月永雪童女 八月十六日 寛永四年 刺込
観察備考			40 と接合				漆（わずか）					

報告番号			51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
トレンチ			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点			墓群 14 b ＳＫ 61	墓群 14 b ＳＴ 138	墓群 15 a ＳＫ 167	墓群 15 a ＳＫ 167	墓群 15 b ＳＴ 231	墓群 15 b ＳＴ 231	墓群 15 b ＳＴ 231	墓群 15 上層 ＳＫ 89	墓群 15 上層 ＳＫ 89	墓群 16 a ＳＴ 460
寸法（cm）	総高		33.7	(19.8)	(19.2)	(12.3)	(20.0)	43.3	46.7	(34.5)	(28.0)	40.1
	空輪高		6.6		5.8	7.2		6.9	5.9			6.0
	風輪高		3.8		2.4	3.6		3.1	2.8			3.4
	火輪	高	7.2		5.1	(1.5)		6.2	7.3	6.4		5.5
		軒高 1	4.3		3.4			4.1	4.2	(4.2)		
		軒高 2	2.4		2.3			2.7	2.3	2.6		
		幅	−		10.7	−		−	−	−		−
		奥行	−		9.2	−		−	−	−		−
	水輪高		6.5	(1.8)	5.9			7.2	6.0	5.8		6.1
	地輪	高	9.6	18.0			20.0	19.9	24.7	22.3	28.0	19.1
		幅	11.8	11.8			10.9	11.7	12.0	13.3	14.1	10.5
		奥行	11.5	10.6			8.7	11.0	11.2	11.9	12.0	9.3
石材			閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等			逆修 妙善禅定尼 据置	宗□禅定門 □月七日 天正十四年 刺込			理譽童女 五月十九日 元和四年 刺込	春清禅定門 正月十五日 慶長八年 刺込	行保貞心信女 六月十八日 正保四年 据置	高音道順信士 閏三月廿九日 元和四年 据置	妙徳禅定尼 十月廿日 元和二年 刺込	妙春童女 正月四日 慶長七年 刺込
観察備考												

報告番号		61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群 16 a S T 460	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157
寸法（cm）	総高	(28.7)	(18.3)	43.9	48.6	(31.3)	(41.3)	43.1	37.1	48.0	(20.3)
	空輪高	7.6	7.0	6.4	6.8		(7.0)	6.1	5.4	8.8	(5.1)
	風輪高	5.2	4.3	3.2	4.2		3.4	3.1	2.5	3.2	3.1
	火輪 高	7.6	(7.0)	6.3	7.2	6.8	6.3	5.7	4.3	6.1	5.4
	火輪 軒高1	5.6	−	4.5	5.0	4.6	4.1	4.3	4.3	5.2	3.6
	火輪 軒高2	2.8	(3.0)	2.8	3.1	2.6	3.0	2.3	3.8	2.3	2.3
	火輪 幅	14.1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	火輪 奥行	11.2	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	水輪高	8.3		6.8	7.2	7.8	6.2	6.1	4.5	7.8	6.7
	地輪 高			21.2	23.2	16.7	18.4	22.1	20.4	22.1	
	地輪 幅			10.5	12.2	11.6	10.2	12.0	10.0	12.8	
	地輪 奥行			8.8	11.3	10.2	10.2	9.5	7.4	11.0	
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等				妙永禅定尼 元禄(カ)□年 □月□日 据置	姓月誓法禅定門 慶長四年(カ) 五月七日 据置	萬譽□法禅定 慶長十五年 三月十二日 刺込	宗雲禅定門 寛永二年 二月廿二日 刺込	茂林道楽禅定門 元和四年 三月十二日 据置	壽滴童子 万治二年 六月廿一日 刺込	雪秀栄樹信女 寛永九年 十一月十八日 据置	
観察備考											

報告番号		71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群 16 b S K 157	墓群 16 b S K 157	墓群 17 a S T 198 下層	墓群 17 a S T 198 下層	墓群 17 b S T 122	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層	S K 99 上層
寸法（cm）	総高	(27.0)	43.3	(19.8)	(19.0)	(23.6)	(19.5)	(18.8)	38.7	(19.2)	(27.8)
	空輪高		6.7					5.3	6.5		
	風輪高		3.4					2.5	3.0		
	火輪 高		6.4					5.5	4.2		(5.5)
	火輪 軒高1		4.6					3.7	3.1		4.3
	火輪 軒高2		3.2					2.4	1.9		2.4
	火輪 幅		−					10.0	−		−
	火輪 奥行		−					8.2	−		−
	水輪高		6.7				4.5	5.5	6.0		5.0
	地輪 高	27.0	20.1	19.8	19.0	23.6	15.0		19.0	19.2	17.3
	地輪 幅	16.5	11.8	11.0	8.7	13.2	9.0		10.3	10.0	10.5
	地輪 奥行	14.9	9.5	9.9	8.9	12.3	8.0		9.0	8.0	9.0
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		六親 了尊禅定門 寛永二年 十一月七日 妙永禅定尼逆修 据置	妙玉禅定尼 寛永二年 八月廿七日 刺込	妙賀童女 元和三年 十一月十三日 据置	□善童女 文禄二年 十二月朔日 刺込	妙圓禅定尼 慶長五年 三月廿九日 逆修 宗清禅定門 据置	善貞童子 慶長九年 十二月十一日		妙西禅尼 慶長八年 八月廿日 刺込	意故童子(カ) 寛永元年 五月十七日 刺込	杏宗童子 元和三年 八月六日 刺込
観察備考											

報告番号		81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK99 上層	SK99 上層	SK99 上層	SK99 上層	SK99 上層	SK99 上層	SK99 上層	SK99 上層	SK99 上層	SK99 上層	SK99 中層
寸法（cm）	総高	(9.5)	29.4	37.0	48.0	40.7	42.0	(13.0)	(19.4)	(4.9)	(13.7)	40.4
	空輪高	6.5	6.7	6.0	7.5	6.5	7.0		5.7			
	風輪高	3.0	4.0	2.5	3.5	3.0	4.0		2.6	4.9		
	火輪 高		7.0	6.0	7.0	6.2	6.5		5.3			8.5
	火輪 軒高1		4.5	3.2	4.1	4.7	5.5		3.7			5.3
	火輪 軒高2		2.3	2.6	2.2	2.8	3.0		2.3			3.7
	火輪 幅		−	−	−	−	−		9.5			−
	火輪 奥行		−	−	−	−	−		8.4			−
	水輪高		5.7	5.0	7.5	6.5	5.0		5.8			7.4
	地輪 高		6.0	17.5	22.5	18.5	19.5	13.0			13.7	24.5
	地輪 幅		10.5	10.3	14.0	11.5	12.3	9.5			8.9	12.3
	地輪 奥行		9.0	8.5	11.5	9.5	11.5	9.5			7.9	11.4
石材		閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等			慶長八年 道覚禅定門 四月十四日 刺込	慶長九年 妙西禅定尼 三月八日 刺込	慶長十二年 林香庵了徹大徳 二月十四日 据置	慶長二年 道久大徳 八月廿八日 刺込	天□十年 妙花禅尼 九月十二日	文禄二年 妙清童子 八月廿日 刺込			天正十四年 妙順童女 二月五日 刺込	慶長十三年 正誉宗覚禅定門 八月十七日 据置
観察備考												

報告番号		92	93	94	95	96	97	98	99	100	101
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層
寸法（cm）	総高	(17.3)	47.9	54.1	38.3	43.1	57.5	51.1	39.5	55.0	49.4
	空輪高		6.4	8.4	6.2	5.6	8.5	8.8	6.5	9.2	7.7
	風輪高		3.9	4.4	2.7	3.5	3.6	3.1	3.2	5.0	4.0
	火輪 高		6.2	8.5	6.4	5.5	8.9	7.1	6.2	8.3	8.2
	火輪 軒高1		4.4	6.0	4.6	3.4	−	4.6	4.4	5.5	5.6
	火輪 軒高2		2.5	3.1	2.6	2	−	3.4	2.6	3.4	3.2
	火輪 幅		−	−	−	−	−	−	−	−	−
	火輪 奥行		−	−	−	−	−	−	−	−	−
	水輪高		8.1	8.9	5.2	6.2	8.5	8.6	6.7	8.2	7.0
	地輪 高	17.3	23.3	23.9	17.8	22.3	28.0	23.5	16.9	24.3	22.5
	地輪 幅	10.0	13.4	15.3	11.0	11.0	14.0	12.4	12.1	15.6	13.0
	地輪 奥行	8.5	11.5	12.8	9.0	9.2	14.0	12.4	11.4	13.8	12.0
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長九年 永壽童女 十一月六ヵ日	慶長三年 宗玉童子 十二月卅日 刺込	元和元年 徳□法師 十一月五日 据置	慶長十年 善貞童女 三月一日 据置	慶長九年 妙□童女 十月三日 据置	慶長七年 地天絆宗空禅定門 四月廿八日 刺込	逆修 妙安禅定尼 据置	文禄二年 妙祐禅尼 十二月廿七日 据置	逆修 花岳永春禅定尼 据置	慶長十二年 逆修 宗清信女 六月廿八日 妙清信女 刺込
観察備考							各部位に「空風火水地」			金泥	

報告番号		102	103	104	105	106	107	108	109	110	111
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層
寸法（cm）	総高	38.7	39.6	(6.7)	39.4	(13.2)	(30.7)	45.5	39.1	(27.7)	45.5
	空輪高	6.0	7.0	6.7	6.3			8.7	6.4		7.8
	風輪高	3.0	3.1		3.9			2.6	3.0		3.5
	火輪 高	5.2	5.2		5.5	4.6	(5.4)	7.3	5.5	(5.6)	7.5
	火輪 軒高1	3.5	3.2		3.9	2.8	3.9	3.5	3.7	3.7	5.0
	火輪 軒高2	2.6	2.1		2.3	1.6	2.0	2.3	2.2	2.3	2.6
	火輪 幅	−	−		−	−	−	−	−	−	−
	火輪 奥行	−	−		−	−	−	−	−	−	−
	水輪高	5.0	6.4		5.6	4.6	5.5	7.3	5.7	5.7	6.7
	地輪 高	19.5	17.9		18.1	(4.0)	19.8	19.6	18.5	16.4	20.0
	地輪 幅	10.8	10.7		10.5	(7.0)	11.0	11.8	10.0	10.7	12.5
	地輪 奥行	10.4	8.8		8.4	(2.0)	9.8	11.0	8.9	9.1	11.0
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長廿年 宗蓮禅定門 壬六月十六日 刺込	慶長六年 妙信童女 六月十日 据置		慶長二年三月六日 妙春童女 慶長七年 生□童子 慶長七年三月十四日 刺込		慶長七年 妙春童女 七月廿九日 刺込	慶長ヵ十七年 窓道□□□信士 三月□□日 刺込	慶長九年 妙誓童女 八月十四日 刺込	慶長六年 妙秀童女 九月十四日 刺込	慶長十八年 花長栄春信士 二月十八日 刺込
観察備考			金泥					摩滅激しい			

報告番号		112	113	114	115	116	117	118	119	120	121
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層
寸法（cm）	総高	44.5	43.7	(23.0)	(26.0)	41.6	(33.9)	(25.6)	38.2	(11.5)	51.3
	空輪高	8.6	7.0			6.8			6.2		6.9
	風輪高	3.6	3.7			3.4			3.1		4.2
	火輪 高	6.2	5.2		(5.0)	5.6	(6.8)	(3.8)	6.3	6.6	9.3
	火輪 軒高1	4.1	3.6		4.1	2.9	5.0	4.3	4.2	3.7	5.2
	火輪 軒高2	2.7	2.1		2.6	1.9	2.3	2.8	2.4	2.4	3.8
	火輪 幅	−	−		−	−	−	−	−	9.5	−
	火輪 奥行	−	−		−	−	−	−	−	9.5	−
	水輪高	7.6	6.8		6.2	6.5	7.0	8.4	4.6	4.9	8.2
	地輪 高	18.5	21.0	23.0	14.8	19.3	20.1	(13.4)	18.0		22.7
	地輪 幅	11.7	11.5	10.8	10.0	10.0	12.7	10.6	10.6		13.8
	地輪 奥行	9.6	10.3	9.6	7.9	11.1	10.7	8.0	10.0		12.0
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長五年 西誉浄永禅定門 五月十七日 据置	天正十六年 宗春禅ヵ定門 二月十五日 刺込	慶長十四年 宗哲童子 四月一日 刺込か	慶長七年 妙忠童女 □□四日 刺込	慶長五年 寶公首座比丘尼 四月二日 据置	壽珎ヵ童子 十月廿四日 慶長十七年 妙清童女 九月十一日 刺込	慶長□ 栄□童□ 七月□	元和三年 幻望童子 十二月四日 据置		慶長十四年 宋ヵ春宗悦禅定門 二月廿五日 据置
観察備考											

報告番号		122	123	124	125	126	127	128	129	130
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK99 中層	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2
寸法（cm）	総高	34.2	46.4	37.2	40.3	33.4	45.2	46.3	(11.0)	(24.2)
	空輪高	6.3	6.0	7.7	5.4	5.0	6.4	7.2	7.7	6.5
	風輪高	3.0	3.3	3.9	3.5	3.2	3.0	3.5	3.3	3.5
	火輪 高	5.2	7.0	6.0	6.0	5.0	6.6	6.8		7.5
	火輪 軒高1	4.5	4.4	4.4	3.4	3.4	4.2	4.8		5.4
	火輪 軒高2	2.5	2.6	2.7	1.9	2.2	2.5	2.5		3.5
	火輪 幅	−	−	−	−	−	−	−		12.7
	火輪 奥行	−	−	−	−	−	−	−		10.4
	水輪高	4.7	6.1	6.4	5.4	5.0	6.2	6.8		6.7
	地輪 高	15.0	24.0	13.2	20.0	15.2	23.1	22.0		
	地輪 幅	9.4	11.1	11.2	13.2	9.3	11.8	12.2		
	地輪 奥行	8.7	9.7	12.0	11.9	9.0	10.5	10.7		
石材		砂岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	砂岩	笏谷石	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長□ 永春童子 五月廿日 慶長□□ 妙清童女 十一月十七日	慶長十三年 道清禅定門 四月廿七日 妙清禅定尼 修逆	天正十七年 道慶禅門 五月廿二日	天正十八年カ 妙浄禅定尼 十月十五日	慶長三年 宗真童女 三月廿日	慶長十二年カ 宗悦カ童子 四月十五日	慶長十三年 宗永禅定門 二月十九日		
		据置	据置	据置	据置	据置	据置	刺込		
観察備考										

報告番号		131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2
寸法（cm）	総高	(10.4)	41.5	48.3	44.9	37.7	48.0	41.8	(16.5)	46.9	49.2
	空輪高	7.0	6.0	6.5	7.3	5.6	7.5	6.3		7.2	8.0
	風輪高	3.4	4.0	5.0	3.2	3.6	3.7	4.1	3.4	3.3	4.6
	火輪 高		6.3	6.5	6.6	5.6	7.8	5.9	7.3	6.7	9.8
	火輪 軒高1		3.2	4.2	4.2	3.1	5.1	3.8	5.1	4.1	6.5
	火輪 軒高2		2.7	2.0	2.3	1.9	3.1	2.2	2.4	2.3	3.5
	火輪 幅		−	−	−	−	−	−	10.4	−	−
	火輪 奥行		−	−	−	−	−	−	10.1	−	−
	水輪高		6.8	6.1	7.3	5.9	6.9	6.2	5.8	7.2	7.6
	地輪 高		18.4	24.2	20.5	17.0	22.1	19.3		22.5	19.2
	地輪 幅		11.0	12.7	12.5	10.8	12.5	11.6		13.0	14.4
	地輪 奥行		10.0	12.0	11.0	9.5	11.3	11.0		11.0	12.8
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等			元和三年カ 妙□禅定尼 □月□日	天正十七年 道源禅定門 正月四日	慶長七年 道永信士 壬六月廿四日 逆修妙春	文禄□年 永順□	慶長十三年 松林宗貞禅定門 十一月十六日	天正廿年 浄薫禅定門 六月六日		慶長十五年 寶樹妙見信女 四月廿七日	慶長十七年 弥譽浄源信士 六月十九日
			刺込	刺込	据置	刺込		据置		据置	据置
観察備考						金泥				金泥か	

報告番号		141	142	143	144	145	146	147	148	149	150
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2
寸法（cm）	総高	(31.2)	41.4	40.7	(45.5)	54.3	(11.4)	43.6	49.8	44.5	(19.7)
	空輪高		5.5	6.8		9.5		6.2	8.0	7.1	
	風輪高	3.2	3.2	2.8	4.0	4.1		4.0	4.0	3.8	
	火輪 高	5.3	6.5	6.6	8.5	7.3	5.5	6.2	7.6	6.7	
	火輪 軒高1	3.1	3.4	4.4	5.0	5.0	3.1	4.0	6.0	4.1	
	火輪 軒高2	1.9	2.2	2.7	3.5	3.0	1.9	2.2	3.4	1.9	
	火輪 幅	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
	火輪 奥行	–	–	–	–	–	8.2	–	–	–	
	水輪高	6.0	6.2	5.5	8.5	8.4	5.9	5.5	7.1	6.6	
	地輪 高	16.7	20.0	19.0	24.5	25.0		21.7	23.1	20.3	19.7
	地輪 幅	10.0	10.0	11.2	13.6	14.2		12.0	12.9	12.0	11.9
	地輪 奥行	9.0	8.0	10.5	11.7	13.0		10.5	11.9	11.5	10.8
石材		閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長十一年 妙忠童女 二月廿七日	文禄二年 妙法禅定尼 十二月四日	慶長三年 道慶禅定門 六月廿八日	慶長七年 月窓清鑑童子 三月十一日	道永禅定門 慶長三年 十二月十七日 妙慶禅定尼		慶長七年 妙存童女 八月九日	逆修 宗意禅定門	天正十五年 妙慶童女 三月廿五日	慶長四（十カ）年 春□□童子 四月十五日
		刺込	刺込	刺込	刺込	据置		刺込	据置	刺込	据置か
観察備考											金泥か

報告番号		151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 最下層	SK99	SK99 最下層	SK99 最下層	SK99 最下層
寸法（cm）	総高	46.3	44.4	(17.4)	(21.6)	35.6	34.7	(10.0)	(11.0)	(6.0)	55.3	49.1
	空輪高	7.6	6.8	3.9		5.5	5.0	6.4	6.0	6.0	8.8	7.4
	風輪高	4.3	3.7	7.2		2.8	2.8	3.0	3.5		4.0	4.1
	火輪 高	6.3	7.8	6.3		5.5	4.9	(0.6)	(1.5)		6.6	7.3
	火輪 軒高1	4.8	5.5	4.2		3.4	3.5				4.4	4.5
	火輪 軒高2	2.2	2.6	2.2		1.9	2.0				2.5	2.9
	火輪 幅	–	–	11.5		–	–	–	–		–	–
	火輪 奥行	–	–	10.0		–	–	8.0	–		–	–
	水輪高	7.1	6.7			5.3	5.6				9.6	6.7
	地輪 高	21.0	19.4		21.6	16.5	16.4				26.3	23.6
	地輪 幅	12.8	12.5		11.0	9.8	10.0				15.3	14.1
	地輪 奥行	10.9	10.0		9.0	8.0	9.0				14.0	12.4
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長九年 妙誓禅定尼 壬八月十六日	慶長十三年（カ） 峯月□□信士 十一月九日		慶長五庚子 明譽宗源大徳 十二月十三日	文禄四年 妙源童女 六月十九日	文禄二年 宗見（カ）童子 三月十五日				慶長五年 道讃禅定門 卯月十六日	慶長九年 宗春禅定門 七月十九日
		据置	刺込		刺込	刺込	刺込				刺込	据置
観察備考										摩滅著しい		金泥

報告番号		162	163	164	165	166	167	168	169	170	171
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層
寸法（cm）	総高	(25.0)	38.2	(31.3)	45.8	36.3	(8.5)	38.3	(10.4)	37.6	43.8
	空輪高	8.6	7.8		5.9	6.3	(8.5)	5.8	5.7	5.6	5.9
	風輪高	3.1	4.0		3.8	2.9		3.3	3.1	3.0	2.5
	火輪 高	6.2	6.5	(6.7)	6.5	5.5		6.7	(1.6)	5.4	7.8
	火輪 軒高1	4.1	3.9	4.1	4.2	3.9		4.5		4.5	4.7
	火輪 軒高2	2.9	2.5	3.6	2.4	2.0		2.8		3.0	2.9
	火輪 幅	10.4	−	−	−	−		−	−	−	−
	火輪 奥行	9.6	−	−	−	−		−	−	−	−
	水輪高	7.1	5.6	7.4	6.5	5.8		5.9		5.3	6.8
	地輪 高		14.3	17.2	23.1	15.8		16.6		18.3	20.8
	地輪 幅		11.9	10.8	13.4	11.3		10.7		10.0	11.4
	地輪 奥行		11.8	9.6	10.3	9.2		8.8		9.0	9.9
石材		閃緑岩	砂岩	−	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	笏谷石
紀年銘等			妙清童女 文禄二年 三月十日	妙春童女 慶長四年 正月四日	妙□禅定尼 元和二年 七月十六日	宗西童子 天正十三年 四月八日		露信童子 慶長八年 九月廿日		秋月宗弥童子 文禄三年 八月十二日	幻心童女 慶長十五年 十二月廿日
			据置	刺込	刺込	刺込		刺込		刺込か	刺込
観察備考											

報告番号		172	173	174	175	176	177	178	179	180	181
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層
寸法（cm）	総高	(9.7)	45.5	(17.1)	41.3	(21.2)	(19.8)	39.0	(17.6)	48.4	(22.2)
	空輪高	5.1	8.1		7.4			5.8	5.2	6.8	
	風輪高	(4.6)	4.9		3.9			3.2	3.2	3.8	
	火輪 高		6.4		8.0			5.2	4.7	7.9	
	火輪 軒高1		4.0		5.7			3.5	3.5	5.2	
	火輪 軒高2		2.1		3.9			2.1	1.9	3.1	
	火輪 幅		−		−			−	9.4	−	
	火輪 奥行		−		−			−	9.3	−	
	水輪高		7.0		6.6			6.3	4.5	7.8	
	地輪 高		19.1	17.1	15.5	21.2	19.8	18.6		22.1	22.2
	地輪 幅		13.3	10.4	10.1	10.5	10.1	9.5		12.3	13.3
	地輪 奥行		11.1	9.4	10.3	11.2	8.6	9.5		10.6	10.8
石材		砂岩	閃緑岩	閃緑岩	笏谷石	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等			幻永童女 慶長六年 九月廿九日	妙順童女 慶長十二年 七月一日	幸圓童子 天正廿年 六月十七日	妙性禅定尼 元和二年 正月朔日	香月芳雪童子 慶長五年 十二月三日	妙春童女 慶長三年 正月四日		西教妙悦童女 慶長十年 二月七日	林清童子 慶長十四年 八月十一日
			据置	据置	凹	刺込	刺込	刺込か		刺込	刺込
観察備考			金泥								

報告番号		182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SK 99 最下層	SE 100 上層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層
寸法（cm）	総高	(30.7)	50.8	46.0	(20.8)	55.5	(15.2)	(24.0)	(13.4)	(12.8)	(11.1)	(34.5)
	空輪高	(0.5)	8.7	7.2	5.9	7.8	5.3	6.2	7.0	5.2	6.3	8.6
	風輪高	3.0	3.6	4.1	3.2	4.7	2.9	2.8	3.7	3.3	2.9	4.0
	火輪 高	5.7	7.4	5.9	5.1	8.0	5.6	5.7	(2.7)	(4.3)	(1.9)	9.1
	火輪 軒高1	3.5	4.8	4.0	3.2	6.1	3.1	4.0	–	–	–	5.6
	火輪 軒高2	2.4	3.1	2.5	2.0	3.1	2.2	2.4	–	–	–	3.3
	火輪 幅	–	–	–	10.7	–	(3.8)	5.8	–	–	–	–
	火輪 奥行	–	–	–	8.5	–	8.3	11.0	–	–	–	–
	水輪高	4.9	8.0	7.1	6.6	7.6	(1.4)	9.3				8.8
	地輪 高	16.6	23.1	21.7		27.4						(4.0)
	地輪 幅	9.9	15.0	11.8		13.5						14.0
	地輪 奥行	8.9	15.0	10.0		11.4						13.5
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	–	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	–	砂岩
紀年銘等		慶長十一年 宗清童子 六月八日	慶長四年 芳月道祐禅定門 二月十二日	慶長三年 慶安禅定門 正月四日		元和三年 休意禅定門 六月十五日						
		欠損	据置	据置		刺込						
観察備考											金泥（わずか）	

報告番号		193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層
寸法（cm）	総高	(6.9)	(15.5)	(9.9)	(21.0)	(12.7)	(21.6)	(16.2)	(35.8)	(12.8)	(6.2)	(16.6)	(12.0)
	空輪高	6.9		9.9	8.2	8.6	6.8		9.5			(1.0)	(7.2)
	風輪高		3.2		3.8	4.1	3.7		4.9		6.2	3.5	3.7
	火輪 高		5.6		9.0		6.3	8.8	9.4	6.6		5.5	(1.1)
	火輪 軒高1		3.2		5.3		4.1	5.5	5.3	5.5		3.8	–
	火輪 軒高2		2.6		3.0		2.3	3.2	3.0	2.7		2.5	–
	火輪 幅		10.8		12.8		–	13.5	16.8	12.3		–	–
	火輪 奥行		8.9		10.0		–	11.2	15.5	10.2		–	–
	水輪高		6.7				4.8	7.4	12.0	6.2		6.6	
	地輪 高												
	地輪 幅												
	地輪 奥行												
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等													
観察備考		194と接合	193と接合										

報告番号		205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100 中層	SE 100	SE 100	SE 100	SE 100	SE 100	SE 100	SE 100
寸法（cm）	総高	(18.2)	(14.9)	26.2	(27.2)	(12.3)	(20.0)	(21.5)	(18.3)	38.9	(18.7)	(15.5)
	空輪高	7.4	9.9	6.3	8.8	6.7				7.2		
	風輪高	4.0	3.8	3.2	4.0	3.8				3.6		
	火輪 高	6.8	(1.2)	5.8	6.8	(1.8)				5.5		(7.0)
	火輪 軒高1	4.5	−	4.8	4.6	−				3.6		5.6
	火輪 軒高2	2.1	−	2.7	3.1	−				2.5		3.1
	火輪 幅	9.4	−	−	11.8	−				−		14.5
	火輪 奥行	9.4	−	−	11.0	−				−		(6.7)
	水輪高			5.0	7.6			(1.2)		5.6		8.5
	地輪 高			5.9			20.0	20.3	18.3	17.0	18.7	
	地輪 幅			9.5			10.8	11.1	10.2	10.1	9.1	
	地輪 奥行			8.7			10.6	9.5	8.4	10.3	9.4	
石材		砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩
紀年銘等				宗□童女 慶長□年 十二月十二日 刺込			心西童子 十月十日 刺込	道西禅定門 天正十八年 八月十六日 刺込	妙玉童女 天正十五年 七月廿日 刺込	法悦童子 文禄四年 四月七日 刺込	妙安禅定尼 慶長二年 五月廿七日 据置	
観察備考		金泥			金泥		金泥					

報告番号		216	217	218	219	220	221	222	223	224	225
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 100	SE 100	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 最下層
寸法（cm）	総高	(19.1)	(17.3)	(20.3)	(14.0)	(25.0)	(15.7)	(23.9)	(22.6)	(28.1)	(20.3)
	空輪高	5.3		7.9				5.5	6.0		
	風輪高	2.6		3.3				3.2	3.2		3.3
	火輪 高	6.0	(7.2)	5.5	(6.7)			9.0	8.0		9.2
	火輪 軒高1	3.7	(5.2)	3.8	(4.1)			3.9			5.3
	火輪 軒高2	2.7	3.4	2.4	2.8			2.4	2.7		3.2
	火輪 幅	10.0	13.2	8.1	−			9.7	−		−
	火輪 奥行	8.3	(11.5)	10.2	−			−	−		−
	水輪高	5.2	10.1		7.3	(2.3)	(1.3)	6.2	5.4	(1.6)	(7.8)
	地輪 高					22.7	14.4			26.5	
	地輪 幅					12.1	11.0			14.0	
	地輪 奥行					11.1	10.5			13.9	
石材		砂岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等						妙善禅定尼 慶長六年 八月廿六日 刺込	芳屋秋頼信士 寛永十三年 七月十六日 刺込			心誉清源禅定尼位 慶長十三年 十月廿六日 据置	
観察備考		金泥				金泥	漆（わずか）		金泥	225と接合	224と接合

報告番号		226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 上層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層
寸法（cm）	総高	(35.6)	(24.8)	(8.7)	(39.9)	(13.7)	(24.8)	(13.2)	(26.0)	(25.5)	27.8	35.7
	空輪高		7.8			7.4					8.8	6.4
	風輪高		4.0			2.8					4.3	3.2
	火輪 高	(7.6)	7.1	(7.5)	8.0	(3.5)	(5.8)				6.7	5.5
	火輪 軒高1	3.7	5.5	6.0	5.2	−	(3.6)				4.0	3.5
	火輪 軒高2	3.0	2.8	3.2	2.7	−	(2.7)				2.5	1.8
	火輪 幅	−	−	−	−	−	−				13.5	−
	火輪 奥行	−	−	−	−	−	−				12.5	−
	水輪高	7.8	5.9	(1.2)	8.2		5.0			(5.0)	8.0	5.6
	地輪 高	20.2			23.7		14.0	(13.2)	26.0	20.5		15.0
	地輪 幅	13.2			14.5		10.5	12.5	13.0	12.4		10.3
	地輪 奥行	11.6			12.7		10.0	9.5	10.4	11.5		8.9
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		文禄五年 宗立禅定門 六月十八日			慶長五年 寶誉宗樹信士 十一月廿九日		慶長二年 宗玉童子 十二月廿九日	□六年 □禅定尼 □月廿七日	元和八年 光山祐心信女 八月廿日	慶長十八年 行窓休徳禅定門 九月廿八日		天正十八年 寿永禅門 三月十二日
		刺込			据置			刺込	据置	刺込		据置
観察備考		金泥				漆（少）			地輪上部欠損			

報告番号		237	238	239	240	241	242	243	244	245	246
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113	SE 113 中層	SE 113 最下層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 最下層
寸法（cm）	総高	(34.6)	(36.9)	(18.0)	(29.6)	(12.0)	(23.3)	(21.0)	19.9	6.1	7.5
	空輪高					7.8	6.7		4.4		7.5
	風輪高					4.2	3.2		3.0	3.7	
	火輪 高	7.8	(7.0)		(7.8)		6.4		6.4	(2.4)	
	火輪 軒高1	4.5	(4.1)		4.5		4.0		4.5	−	
	火輪 軒高2	2.4	2.9		3.1		2.5		2.5	−	
	火輪 幅	−	−		−		−		−	−	
	火輪 奥行	−	−		−		−		−	−	
	水輪高	5.8	6.9	(1.5)	6.6		7.0		6.1		
	地輪 高	21.0	23.0	16.5	15.2			21.0			
	地輪 幅	11.5	13.2	10.5	12.5			11.8			
	地輪 奥行	11.0	11.8	10.0	11.7			10.3			
石材		−	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	−	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		西應早修禅定尼（カ） 八月十日	天正十五年 道言禅門 十月十五日	天正十八年（カ） 貞徳童女 四月十七日	文禄二年 照源禅定門 正月十六日			天正十九年 妙金禅尼 八月四日			
		据置	刺込	据置				刺込			
観察備考		金泥			241と接合	240と接合	243と接合	242と接合		246と接合	245と接合

報告番号		247	248	249	250	251	252	253	254	255	256
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113 最下層	SE 113 中層	SE 113	SE 113 中層	SE 113 中層	SE 113	SE 113 中層
寸法（cm）	総高	(15.5)	39.3	(26.5)	(9.3)	33.0（20.1）	(14.1)	(37.1)	(27.9)	(9.4)	(21.3)
	空輪高	5.5			(5.8)		6.3			6.0	
	風輪高	3.5	4.4		3.5		2.7			3.4	
	火輪 高	6.5	7.4	(4.8)			5.1	9.0	(5.5)		
	火輪 軒高1	5.0	5.0	3.8			3.9	(5.8)	3.0		
	火輪 軒高2	2.6	3.1	2.0			1.8	3.3	1.9		
	火輪 幅	−	−	−			−	−	−		
	火輪 奥行	−	−	−			−	−	−		
	水輪高		6.5	5.8		6.3		7.1	6.0		(0.8)
	地輪 高		21.0	15.9		13.8		21.0	16.4		(20.5)
	地輪 幅		13.2	10.2		9.9		13.2	10.9		12.3
	地輪 奥行		12.2	11.0		8.5		13.0	9.0		12.0
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等			浄室道頓信士 慶長十四年 壽貞童子 卯月八日 卯月廿日 慶長二年 据置	慶長六年 八月 妙通童女 二月十日 刺込		八月 妙福童女 三日 刺込		浄室□ 八月□□ 欠損	慶長三年 慶光信女 七月廿一日		天正十五年 妙珎(カ)禅定尼 十一月十六日 刺込
観察備考			金泥	250と接合	249と接合	252と接合	251と接合	地輪全面火を受け割れる	255と接合	254と接合	

報告番号		257	258	259	260	261	262	263	264	265	266
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113 中層	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113	SE 113 中層2
寸法（cm）	総高	(12.3)	(18.5)	(16.7)	(15.0)	(35.5)	(21.6)	(13.4)	(28.1)	(8.0)	(17.7)
	空輪高						5.2			5.0	5.2
	風輪高					(3.5)	2.8			3.0	2.2
	火輪 高	6.8		9.2		7.3	7.1	(6.2)	5.5		4.7
	火輪 軒高1	4.3		5.4		(4.6)	(4.4)	4.7	3.1		3.2
	火輪 軒高2	2.4		3.0		3.0	2.3	2.7	2.0		1.7
	火輪 幅	−		14.5		−	11.0	12.7	−		−
	火輪 奥行	−		11.2		−	9.5	12.3	−		−
	水輪高	5.5		7.5		6.9	6.5	7.2	5.2		5.6
	地輪 高		18.5		15.0	17.8			17.4		
	地輪 幅		10.5		10.5	11.0			10.5		
	地輪 奥行		9.9		9.4	9.8			10.5		
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	−	閃緑岩	閃緑岩	砂岩
紀年銘等			還華(カ)宗清禅定□ 元和五年 三月七日 刺込		玉貞童子 慶長十□年 三月廿二日 刺込	妙悦信女 慶長十一年 十月十六日 据置			徳蔵童子 慶長十八年 七月十九日 刺込		
観察備考		金泥、258と接合	金泥、257と接合						265と接合	264と接合	267と接合

報告番号		267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113 中層2	SE 113	SE 113	SE 113 最下層	SE 113	SE 113 最下層
寸法（cm）	総高	(18.5)	(14.2)	(19.7)	(19.1)	(29.3)	(12.9)	(10.2)	(12.4)	(29.7)	(11.4)	(27.7)
	空輪高		8.5		5.9		(8.5)	(6.8)			7.5	
	風輪高		4.0		3.4		4.4	3.4			3.9	
	火輪 高		(1.7)	5.4	6.1	4.9			6.7	6.7		5.9
	火輪 軒高1		−	3.5	3.8	3.2			4.2	3.4		3.5
	火輪 軒高2		−	2.0	2.2	1.8			2.5	2.3		2.0
	火輪 幅		−	−	10.5	−			12.0	−		−
	火輪 奥行		−	−	9.8	−			10.7	−		−
	水輪高			6.2	(3.7)	5.9			5.7	4.2		5.6
	地輪 高	18.5		8.1		18.5				18.8		16.2
	地輪 幅	9.4		10.5		10.5				10.7		11.0
	地輪 奥行	8.8		8.9		8.5				9.3		9.3
石材		砂岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩
紀年銘等		天正十二年 道林禅定門 三月七日 刺込		慶長七年 妙蓮禅定尼 正月十七日 据置		慶長十二年カ 妙訓童女 八月十六日 据置				慶長六年 道祐禅尼 三月七日 妙祐逆修 刺込		慶長七年 妙蓮童女 六月七日 刺込
観察備考		266と接合			漆少			274と接合	273と接合	276と接合	275と接合	278と接合

報告番号		278	279	280	281	282	283	284	285	286	287
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113	SE 113	SE 113 最下層	SE 113	SE 113	SE 113 最下層	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113 最下層
寸法（cm）	総高	(9.6)	(18.5)	(10.4)	(9.2)	(10.6)	(23.5)	(14.9)	42.6	(11.7)	(30.4)
	空輪高	6.4	7.8		5.4				6.2	6.5	
	風輪高	3.2	3.7		3.8				3.4	3.0	
	火輪 高		7.0	5.4				7.2	6.5	(2.2)	5.8
	火輪 軒高1		4.1	4.6				4.9			5.4
	火輪 軒高2		2.9	2.2				2.9			2.3
	火輪 幅		12.2	−				−	−	−	−
	火輪 奥行		11.6	−				−	−	−	−
	水輪高			5.0				7.7	6.0		6.6
	地輪 高					10.6	23.5		20.5		18.0
	地輪 幅					10.5	12.2		11.0		11.2
	地輪 奥行					9.2	11.7		9.7		10.5
石材		閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等						天正十六年 妙祐禅尼 七月十四日 据置	文禄四年未カ□ 法圓大徳 二月五日		天正十年六月□□ 道清禅定門 寛永六年 妙正禅定尼 霜月晦日 刺込		文禄五年 □言童女カ 八月廿八日 刺込
観察備考		277と接合		281・282と接合	280・282と接合	280・281と接合	284と接合	283と接合		金泥	288と接合

報告番号		288	289	290	291	292	293	294	295	296	297
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層
寸法（cm）	総高	40.8（10.8）	（11.2）	（8.3）	（28.5）	（7.2）	（7.8）	（10.6）	13.2	29.1	36.8（17.3）
	空輪高	6.8		5.5		（7.2）	（7.8）		7.2	4.8	
	風輪高	4.0		2.8					4.3	3.1	
	火輪 高		5.7		5.5			5.4	（1.7）	4.6	
	火輪 軒高1		3.5		3.2			2.8	−	3.4	
	火輪 軒高2		2.3		2.0			1.8	−	1.9	
	火輪 幅		9.9		−			9.5	−	−	
	火輪 奥行		8.9		−			8.9	−	−	
	水輪高		5.5		5.2			5.2		4.6	
	地輪 高				17.8					12.0	17.3
	地輪 幅				9.8					9.0	10.3
	地輪 奥行				10.0					7.8	8.0
石材		閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等					文禄五年 宗月童子 九月八日 据置					天正九年 慶玉童□ 十一月十□ 刺込か	慶長十五年 妙秋童女 七月十七日 刺込
観察備考		287と接合		291と接合	金泥、地輪台形、290と接合		金泥				298と接合

報告番号		298	299	300	301	302	303	304	305	306	307
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113	SE 113 最下層	SE 113	SE 113
寸法（cm）	総高	（18.9）	36.4	36.0（15.6）	（20.5）	（21.2）	37.3（18.0）	（19.5）	（18.2）	（6.8）	（23.4）
	空輪高	5.4	4.5	4.6		5.3		5.6	5.0		
	風輪高	2.8	3.3	2.8		3.1		2.6	3.3		
	火輪 高	5.3	5.5	4.5		6.7		6.1	4.9		
	火輪 軒高1		3.8	2.7		4.1		4.4	3.4		
	火輪 軒高2	2.6	2.2	1.8		2.5		2.4	1.7		
	火輪 幅	−	−	−		10.3		−	−		
	火輪 奥行	−	−	−		9.2		−	−		
	水輪高	5.4	7.3	3.7		6.1		5.2	5.0		（4.6）
	地輪 高		15.8		20.5		18.0			6.8	18.8
	地輪 幅		11.0		8.2		9.7			10.7	11.3
	地輪 奥行		12.0		7.3		9.2			10.0	10.2
石材		閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩
紀年銘等			天正六年 妙福禅尼 三月一日 刺込		慶長三年カ 宗□童子 二月十八日 刺込		寛永三年 妙金信女 十一月十六日 据置			慶長二年 妙祐童女 八月十九日	寛永十五年 林月慶保信女 十月十三日 据置
観察備考		297と接合		301と接合	金泥、300と接合		304と接合	303と接合	306と接合	305と接合	

報告番号		308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113 最下層	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113	SE 113
寸法（cm）	総高	(28.6)	(23.6)	(17.3)	(25.8)	(22.6)	(18.7)	(8.8)	(22.1)	(16.5)	(10.5)	(12.0)
	空輪高			5.5					6.0		7.0	
	風輪高			2.5					3.4		3.5	
	火輪 高	(6.0)		4.7				(4.7)	6.5	8.2		6.0
	火輪 軒高1	(3.7)		3.2	4.2			4.5	4.3	6.3		3.7
	火輪 軒高2	2.0		1.8	2.0			2.3	2.5	3.3		2.5
	火輪 幅	−		9.1				9.2	12.0	15.1		11.0
	火輪 奥行	−		8.7				9.0	10.0	13.1		9.0
	水輪高	5.6		4.6	6.8			4.1	6.2	8.3		6.0
	地輪 高	17.0	23.6		19.0	22.6	18.7					
	地輪 幅	10.5	13.6		13.5	12.5	11.7					
	地輪 奥行	8.5	12.1		10.4	10.5	9.5					
石材		砂岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長六年 清存童子 二月廿二日 刺込	慶長九年 心光清安禅定門 六月十一日 据置		慶長十五年 花鎮道春禅定門 六月十七日 据置	元和三年 智徳禅定門 三月朔日	慶長七年 寶宗徳信士 十一月十四日 据置					
観察備考												

報告番号		319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		SE 113	SE 113	SE 113	SE 113	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	総高	(12.1)	(10.6)	(11.8)	(14.3)	51.9	(31.0)	44.8	(26.1)	41.4	(31.7)	(16.0)
	空輪高		5.6	6.8		8.4	8.4	7.0	7.4	6.8		
	風輪高		3.0	3.6		3.1	4.1	3.1	3.7	3.4		
	火輪 高	(6.4)	2.0	(1.4)	6.3	6.4	8.4	5.9	8.2	5.5	(6.5)	(8.0)
	火輪 軒高1	5.0	−		4.0	4.2	5.1	4.0	5.9	4.0	(3.9)	6.0
	火輪 軒高2	3.1	−		2.2	2.7	3.1	2.5	3.0	2.4	2.5	3.2
	火輪 幅	11.0	−	−	10.0	−	−	−	−	−	−	15.4
	火輪 奥行	9.5	−	−	8.7	−	−	−	−	−	−	13.0
	水輪高	5.7			5.0	8.3	10.1	6.8	6.8	6.0	6.2	(8.0)
	地輪 高				(3.0)	25.7		22.0		19.7	19.0	
	地輪 幅					13.6		12.3		10.9	11.0	
	地輪 奥行					13.2		9.9		9.9	10.0	
石材		閃緑岩	閃緑岩	−	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等						文禄三年 正阿弥陀佛 十月廿八日 逆修妙祐禅定尼 刺込		寛永五年 妙玉信女 六月十一日 据置		逆修 宗永禅門 十月十五日 刺込	天正十七年 道善禅門 正月十三日 刺込	
観察備考												

報告番号		330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	総高	(19.4)	33.4	(29.7)	(32.3)	(12.7)	(20.9)	(27.7)	(25.9)	(19.5)	(19.8)	(8.7)
	空輪高		4.5						6.0	6.0	5.1	6.2
	風輪高		2.7						4.2	2.3	3.3	2.5
	火輪 高	(5.6)	5.5		(6.6)	6.7		(6.2)	8.5	4.7	5.4	
	火輪 軒高1	3.7	4.2		(3.8)	4.2		(4.3)	(5.0)	3.2	(3.5)	
	火輪 軒高2	2.3	2.2		2.7	2.6		2.1	3.0	1.7	2.0	
	火輪 幅	−	−		−	11.1		−	−	−	9.5	
	火輪 奥行	−	−		−	9.1		−	−	−	8.3	
	水輪高	6.5	4.5	8.0	6.4	6.0		6.5	7.2	6.5	6.0	
	地輪 高	7.3	16.2	21.7	19.3		20.9	(15.0)				
	地輪 幅	11.4	9.4	12.6	11.2		11.2	12.5				
	地輪 奥行	8.8	6.4	11.7	10.0		9.3	9.5				
石材		閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長四年 妙幻禅定尼 正月廿八日 刺込	正保五年 妙教童女 壬正月十三日 刺込	慶長七年 梅室宗黒禅定門 十二月五日 据置	逆修 宗林禅定門 刺込		天正十八年 妙貞禅定尼 六月廿□□	寛永				
観察備考						漆、335と接合	334と接合	地輪下半欠損				

報告番号		341	342	343	344	345	346	347	348	349
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	総高	(28.3)	(21.9)	34.1	(29.8)	(39.5)	(35.4)	(28.1)	(22.9)	(11.4)
	空輪高				8.8			8.5	6.2	6.5
	風輪高		(1.3)		3.8	(3.5)		3.9	3.8	4.9
	火輪 高	(4.0)	6.3	5.6	7.5	7.5	(6.2)	8.0	6.0	
	火輪 軒高1	(3.3)	(3.3)	3.6	(6.2)	5.5	4.4	5.0	4.0	
	火輪 軒高2	2.6	2.4	2.3	3.0	2.4	2.4	3.0	2.3	
	火輪 幅	−	−	−	15.5	−	−	15.0	12.2	
	火輪 奥行	−	−	−	12.0	−	−	12.6	12.2	
	水輪高	6.8	4.8	6.7	7.0	6.5	6.0	7.7	6.9	
	地輪 高	(17.5)	9.5	21.8	(2.7)	22.0	23.2			
	地輪 幅	12.0	9.7	10.0	−	11.8	12.3			
	地輪 奥行	10.0	9.0	9.0	−	11.0	11.2			
石材		閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長三年 秀正童子 七月四日	慶長七年 妙安禅尼 十二月廿七日 妙□童女 四月十一日 刺込	寛永三年 秀貞童子 九月四日 刺込		慶長十五年 壽侘禅定門 十二月十一日 刺込	元和□年 泰誉妙安信女 十月□日 慶長八年 □□信士 八月五日 刺込			
観察備考										

報告番号		350	351	352	353	354	355	356	357	358
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	総高	(25.6)	(22.3)	(21.4)	(14.0)	(25.0)	(24.0)	(24.0)	(17.5)	(18.0)
	空輪高	8.0	6.7	6.0						
	風輪高	4.1	3.6	3.4						
	火輪 高	7.5	6.4	6.6	(7.8)					
	火輪 軒高1	6.0	4.2	(4.5)	5.0					
	火輪 軒高2	3.3	2.1	2.4	2.7					
	火輪 幅	12.2	10.3	12.9	11.2					
	火輪 奥行	8.9	9.5	11.5	8.1					
	水輪高	6.0	5.6	5.4	6.2					
	地輪 高					25.0	24.0	24.0	17.5	18.0
	地輪 幅					14.1	13.6	13.4	11.4	11.3
	地輪 奥行					13.3	13.5	11.6	10.0	10.0
石材		閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	砂岩	閃緑岩	−	−	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等						妙□禅定尼 妙往大姉 権少僧都 栄壽大姉 善西禅定門 七月十五日 慶長□年 刺込	□ 修 妙樹信女 据置	□寶児喜禅定門 七月四日 寛永元年 据置	元和五年 清眼遠□禅定門 十月十二日 刺込	慶長五年 妙仁童女 八月七日 刺込
観察備考				摩滅著しい						

報告番号		359	360	361	362	363	364	365	366	367	368
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	総高	(20.4)	(14.0)	(20.0)	(23.0)	(35.0)	33.7	(17.4)	(27.2)	(26.0)	31.9
	空輪高					9.2	7.1	4.9	8.5		7.0
	風輪高					5.5	3.5	2.8	4.4		3.6
	火輪 高					9.3	6.2	5.7	7.4		7.2
	火輪 軒高1					7.6	4.3	3.5	4.5		4.0
	火輪 軒高2					4.3	2.7	2.0	2.5		2.3
	火輪 幅					16.7	−	8.9	13.5		−
	火輪 奥行					14.8	−	7.2	11.5		−
	水輪高					11.0	7.5	4.0	6.9		6.4
	地輪 高	20.4	(14.0)	(20.0)	(23.0)		9.4			26.0	7.7
	地輪 幅	11.2	12.5	13.2	13.5		11.3			12.3	13.1
	地輪 奥行	8.3	10.5	10.7	12.5		10.7			10.8	12.3
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		寛文三年 覚月秋圓童□ 十ヵ月□二□ 刺込	慶長□ 宗□□ 十一月十□	和三年 祐 禅定尼 月卅日 刺込	慶長十七年 見屋壽清大童 七月廿九 刺込		慶長六年 妙順禅定尼 五月九日 据置			慶長七年 松山妙林大姉 閏三月廿九日	慶長十五年 □□禅定門 □□廿日 逆修 妙永禅定尼 据置
観察備考			地輪下部欠損	地輪上部欠損	地輪上部下部欠損						

報告番号		369	370	371	372	373	374	375	376	377	378
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	総高	(34.1)	42.8	45.4	38.6	61.1	(28.0)	47.1	(12.2)	15.0	(16.6)
	空輪高		6.5	6.0	5.8	12.7		7.0	6.8		
	風輪高		4.0	3.7	3.1	5.3		3.1	3.5		
	火輪 高	(7.2)	6.5	7.2	4.8	7.7		7.0	(1.9)	8.2	(3.6)
	火輪 軒高1	4.6	4.9	5.0	3.5	−		4.0		4.7	−
	火輪 軒高2	2.5	2.6	2.3	2.0	−		2.4		3.1	
	火輪 幅	−	−	−	−	−		−		11.9	−
	火輪 奥行	−	−	−	−	−		−		10.1	−
	水輪高	6.5	5.8	6.3	5.5	7.5		7.7		6.8	6.0
	地輪 高	20.4	20.0	22.2	19.4	27.9	28.0	22.3			7.0
	地輪 幅	12.5	12.2	11.9	10.3	15.2	15.0	13.8			11.7
	地輪 奥行	11.0	11.0	10.8	8.5	14.5	12.2	12.8			10.5
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	−	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩
紀年銘等		元和四年 月保妙正禅定尼 七月五日	慶長九年 妙祐禅尼 八月十二日	元和七年 道雲禅定門霊位 五月十八日	万女	天正十七年 □賀宗清禅定門 妙正(カ)禅定尼 十月朔日 文禄五年 九月廿一日	逆修 誉圓信士 元和元年 妙通信女 十月四日	文禄五年 長山浄法(カ)禅定門 九月廿日			天正十八年 妙浄月淙西禅定門 三月三日
		据置	刺込		刺込		刺込	据置			据置
観察備考				朱入り							

報告番号		379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	総高	(22.3)	(22.0)	(22.9)	(16.8)	(21.0)	(14.8)	(13.6)	(11.2)	(11.4)	(9.4)	(15.7)
	空輪高									7.8	6.4	
	風輪高									(3.6)	3.0	
	火輪 高							(6.2)	(5.4)			(8.0)
	火輪 軒高1							4.3	(4.3)			5.8
	火輪 軒高2							2.6	2.3			3.0
	火輪 幅							11.0	(10.9)			13.5
	火輪 奥行							9.8	(9.0)			11.8
	水輪高						5.8	(7.4)	(5.8)			7.7
	地輪 高	22.3	22.0	22.9	16.8	(21.0)	(9.0)					
	地輪 幅	13.0	13.2	11.9	10.3	12.7	(9.1)					
	地輪 奥行	12.0	11.4	9.5	9.5	11.0	(11.0)					
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	−	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		慶長十七(カ)年 道春禅定門 七月十四(カ)日	慶長六年 月心道性禅定門 八月廿日	明暦二年 逆修 方譽林西信士 三月十四日 花譽栄春信女	文禄五年 道慶禅定門 九月二日	寛永四年 西禅定門 四月廿三日 法禅定尼						
		刺込	据置	据置	刺込	刺込						
観察備考						地輪上半欠損						

報告番号		390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	総高	(9.0)	(12.5)	(6.0)	36.0	(13.0)	(8.5)	(13.2)	(13.8)	(6.2)	33.1	(16.5)	(14.4)	(11.3)
	空輪高				4.5	8.5			9.5		5.2	5.5	7.7	7.3
	風輪高				2.5	(4.5)			4.3		2.2	3.6	4.2	(4.0)
	火輪 高		7.5	(6.0)	6.5		(8.5)			(6.2)	4.9	6.0	(2.5)	
	火輪 軒高 1		4.9	4.0	3.5		5.5			(4.2)	4.4	3.5	–	
	火輪 軒高 2		2.0	2.2	2.5		3.5			2.7	2.2	2.9		
	火輪 幅		–	11.0	–		13.0			8.8	–	10.3	–	
	火輪 奥行		–	10.0	–		12.0			–	–	10.2	–	
	水輪高		5.0		6.0						4.8	(1.4)		
	地輪 高	(9.0)			16.5			13.2			16.0			
	地輪 幅	12.0			11.0			9.5			9.2			
	地輪 奥行	10.5			11.0			7.7			8.4			
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	笏谷石	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等								妙慶童女 卅ヵ日 七月			貞雲童女 酉ヵ七月一日 寛永十一年			
					据置			刺込			据置			
観察備考											金泥			

北地区ほか出土一石五輪

報告番号		403	404	405	406	407	408
トレンチ		6	6	6	3 トレンチ東側	3 トレンチ東側	3 トレンチ東側
出土地点		SK 10	SK 10	SK 10	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	総高	(18.0)	(25.5)	(30.4)	(29.0)	(26.0)	(14.0)
	空輪高		8.2	8.3		6.5	7.0
	風輪高		4.3	4.6		4.0	4.0
	火輪 高		6.0	9.0		6.5	(3.0)
	火輪 軒高 1		3.9	5.4		4.0	
	火輪 軒高 2		2.4	3.3		3.0	
	火輪 幅		11.0	14.4		–	(10.0)
	火輪 奥行		10.4	12.3		–	–
	水輪高		7.0	8.5		9.0	
	地輪 高	18.0			29.0		
	地輪 幅	11.0			17.0		
	地輪 奥行	11.0			16.0		
石材		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	–	–	–
紀年銘等		天正十二年 覚窓壽仙禅定尼 壬五月十日			慶安五壬辰年 光傳権大僧都法印大和尚 五月二十八日		
		刺込					
観察備考							

南地区出土石碑

報告番号	碑1	碑2	碑3	碑4	碑5	碑6	碑7
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群1a ST97	墓群2b SK66	墓群3a SK78	墓群3a ST193	墓群3b ST42	墓群3b ST42	重機掘削
形式	板碑	舟形	舟形	櫛形	板碑	櫛形	櫛形
額型式				⌐¬			⌒
状態	完存	破片	上半分	完存	完存	下半分	上半分
高	(46.5)	(16.0)	(23.5)	60.5	36.8	107.0（46.5）	(60.5)
幅	25.0	(24.9)	25.0	24.5	18.0	36.3	36.0
奥　行	12.4	(9.1)	(11.0)	14.5	8.7	22.0	18.5
石　材	閃緑岩	花崗岩	－	花崗岩	－	花崗岩	花崗岩
紀年銘等	梵 六親眷属等道光禅定門 逆　八月廿七日 梵 道圓禅定門 慶長三年 梵 逆　修 妙圓禅定尼 修		梵 道禅定 十一月 元□ 梵 妙教禅定 二月	慶長カ （正面）　華岳慶甫信女 （左側面）寛文三癸卯九月廿五日	梵 光譽西心信士 寛永十一年 四月廿九日 □譽妙西信女逆 修 底部に凸	一入浄源信士 三月二日 明暦二乙卯癸年 一夢栄閑信女 万治元戊戌年 五月廿八日	
線刻	二条線	－	－	－	なし	－	－
備考						碑7と接合	碑6と接合

報告番号	碑8	碑9	碑10	碑11	碑12	碑13	碑14
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群3b ST42	墓群3b ST104	墓群3b ST190	墓群4 ST24	墓群5a SK30	墓群5a SK30	墓群5a SK30
形式	櫛形	板碑	舟形		板碑	舟形	舟形
額型式	⌒						
状態	完存	上半分	上端のみ	破片	上端・下部欠	左上端欠	完存
高	45.1	63.0	(15.2)	(6.0)	(20.5)	(58.5)	64.2
幅	20.5	41.0	(23.0)	(9.5)	14.6	26.0 [22.0]	30.5
奥　行	11.0	17.0	(7.9)	(9.0)	8.5	19.0	13.0
石　材	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等	梵 妙安信女　妙春信女 浄薫信士　霊位 春清信女 壽正カ信女	㊗ 六親眷属 □月栄源信女 元和九年 性譽宗調信女 四月十七日 □月□西□信士 元和九年 □□□裕月信士 十一月三日			梵 天正□年 妙春童女 七月十□	□□□年九月七日　明暦二年甲四月廿日 □秋圓信士　春梅信女 譽貞本信女　秋賀童子 □□三年五月八日　正保三年九月十二日 底部に凸	梵 明暦四戌年五月廿一日 崇覚正春信士 梵 心月栄春信女 明暦六□年五月廿二日 底部に凸
線刻	－	なし	－	－	－	－	－
備考							

報告番号	碑15	碑16	碑17	碑18	碑19	碑20
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群5a SK30	墓群5a SK30	墓群5a ST58	墓群5a ST58	墓群5a ST58	墓群7b ST49
形式	櫛形	笠塔婆	舟形	舟形	板碑	舟形
額型式						
状態	完存	完存	完存	完存	完存	完存
高	56.8	34.3	58.4	54.2	35.6	39.0
幅	24.0	33.4	25.0 [19.1]	26.4 [20.1]	17.0	21.8 [15.5]
奥　行	17.7	15.5	10.2	12.0	6.5	11.0
石　材	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	南無阿弥陀佛 松岳葉樹信女 十一月廿八日 妙徳 元和元酉年 道西	南無阿弥陀佛 法堂宗介（カ）信士 拾月二日 慶安四年 逆修 花渓貞繁信女	梵 寛永十六年卯九月晦日 證譽行善信士 承應二年 梵 心覚妙善信女 賀滴童子 六月廿二日 寛永十年戊七月十五日	梵 性譽栄法信女 十二月廿三日 万治□年	梵 道春禅定門 八月廿六日 元和二年 妙春禅定尼 七月十五日 元和二年	梵 梵 用業妙轉信女 七月廿九日 寛文十二年壬子天
備考	頭頂・底部に凸		底部に凸	底部に凸		底部に凸
線刻	－	－	－	－	一条線	－
備考						

報告番号	碑21	碑22	碑23	碑24	碑25	碑26	碑27
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群8 SK40	墓群8 SK40	墓群8 SK40	墓群8 SK40	墓群8 SK40	墓群8 SK40	墓群8 SK40
形式	笠塔婆	舟形	笠塔婆	板碑	舟形	笠塔婆	笠塔婆
額型式							
状態	完存	完存	上端のみ	完存	完存	完存	完存
高	44.2	40.2	8.7	40.5	45.4	36.6	26.0
幅	23.2	21.5	6.2	18.1	23.0 [15.2]	20.0	12.3
奥　行	13.2	10.2	8.5	8.7	9.4	9.0	10.1
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩
紀年銘等	（正面） 梵 智光妙恵信女 （左側面） 寛文五乙巳年三月二日	梵 梵 宗理禅定門 元和元年 六月九日 妙理禅定尼 元和二年 九月廿日	梵 頭頂部に凸	梵 妙蓮禅定尼 寛永十三年 十月六日	梵 清譽浄□禅定門 元和七年 九月四日 □慶妙圓禅定尼	梵 梵 浄屋幻清童女 明暦四年 四月廿七日 鷹見石庵娘 おかめ三さい 頭頂・底部に凸	梵 春壽宗延信士 元禄五申年 三月十一日
線刻	－	－	－	なし	－	－	－
備考							

報告番号	碑 28	碑 29	碑 30	碑 31	碑 32	碑 33
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群 8 ＳＫ 40	墓群 8 ＳＫ 40	墓群 8 ＳＴ 324 上面	墓群 9 b ＳＫ 38	墓群 10 b ＳＫ 50	墓群 10 b ＳＫ 50
形式	笠塔婆	笠塔婆	板碑	舟形	舟形	舟形
額型式	⌐¬	⌐¬				
状態	完存	完存	完存	完存	右半分	左半分
高	60	51.6	46.0	40.5	(44.0)	62.9
幅	33.5	59.2	22.4	20.8	(11.8)	(12.8)
奥　行	16.6	21.2	7.5	8.3	(10.5)	(8.6)
石　材	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	梵 梵 方譽桑西信士　蓮宅浄昭信士 霊峯カ周椿 浄譽秋夏信女 西月妙法信女 頭頂・底部に凸	寛永十七年三月六日　慶安二年七月十六日 春花童子　普巌妙壽信女 寛永元年二月六日　心徹妙善信女 陽月春清信士 慶安元年 □譽宗□信女　正月九日 四月四日　□安道慶信士 三界万六親眷属　正月七日 逆修 順譽妙慶信女 逆修 安宗栄壽信女　昌安浄圓信士 正保三年　六月十九日 智清童女　心想妙意信女 六月六日　十月八日 頭頂・底部に凸	梵 天正八年 道忠 十二月廿一日 天正十五年 妙性 七月廿八日	為六親眷属等法月道霊位　寛文六年 十二月十一日 底部に凸	寛文七年 □妙智信女 底部に凸	梵 理蕊□ 未七月八日
線刻	−	−	一条線	−	−	−
備考		台 14・笠 4 とセット			碑 33 と同一か	碑 32 と同一か

報告番号	碑 34	碑 35	碑 36	碑 37	碑 38	碑 39	碑 40
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群 10 b ＳＫ 50	墓群 10 b ＳＫ 50	墓群 13 b ＳＴ 127	墓群 13 b ＳＴ 144	墓群 13 b ＳＴ 144	墓群 13 b ＳＴ 144	墓群 13 b ＳＴ 144
形式	舟形	櫛形	板碑	舟形	舟形	舟形	笠塔婆
額型式		⌒					⌒
状態	完存	完存	完存	完存	完存	上部のみ	完存
高	36.3	50.0	47.8	39.9	32.6	(20.2)	34.5
幅	22.0 [13.4]	22.0	22.0	24.7 [18.0]	16.0 [13.1]	(17.4)	17.7
奥　行	12.7	11.0	7.0	12.4	8.0	(4.4)	11.7
石　材	花崗岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩
紀年銘等	梵 春季童子　延宝三年卯二月十四日	(右側面) 延宝□巳年　十二月十四日 (正面) 梵 西屋宗貞信士　隻圓童女 松屋貞雲信女　露幻童女 慶甫童女	梵 逆修 宗貞禅定門 文禄二年 妙善禅定尼 十月十七日	梵 妙裕信女 梵 宗佐信士 隻林童女	梵 寛文十年 還雪童女 戌十一月廿九日 底部に凸	妙法□	梵 寛文十二年 露幻童女 子六月廿七日
線刻	−	−	一条線	−	−	−	−
備考							

報告番号	碑41	碑42	碑43	碑44	碑45	碑46	碑47
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群14 b ＳＫ61	墓群14 b ＳＫ61	墓群14 b ＳＫ61	墓群14 b ＳＴ138	墓群15 b ＳＴ231	墓群16 b ＳＫ157	墓群16 b ＳＫ157
形式	櫛形	舟形	舟形		板碑	舟形	舟形
額型式	⌒						
状態	完存	完存	ほぼ完存	破片	完存	完存	完存
高	79.0	43.5	(42.5)	(12.4)	48.4	42.1	71.9
幅	33.5	19.5 [16.0]	23.8 [17.1]	(23.0)	23.4	24.9 [21.2]	38.2
奥　行	18.5	12.5	11.1	(8.3)	14.2	13.0	16.4
石　材	花崗岩	砂岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等	（右額内） 元禄二己巳天三月十七日 （正面） 三界万霊六親心譽清圓比丘尼 浄和信士　宗春信士 浄清信士　高受信女 （左額内） 元禄三庚午天八月十九日	寛永十三年 緣月源三禅定門 二月十五日 養学寶樹修逆	寛文元年 晴□昆□信士 正月十八日 寛文元年 □峯妙恵信女 六月廿三日 底部に凸		文禄三年 □穏(カ)宗永禅定門 九月二日 □譽妙清逆修	寛文元年 光屋秋貞童女 八月十日	寛永七年 帝□良蓮信士　霊央妙壽信女 七月二日 三界萬霊六親眷属 一譽道清信士□□妙安信女 底部に凸
線刻	－	－	－	－	二条線	－	－
備考							

報告番号	碑48	碑49	碑50	碑51	碑52	碑53
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	墓群17 ＳＴ122	墓群17 ＳＴ122	墓群17 ＳＴ122	墓群17 ＳＴ122	墓群17 ＳＴ188	墓群17 b ＳＴ200
形式	舟形	板碑	笠塔婆	笠塔婆	笠塔婆	板碑
額型式			⌒	⌒	⌐	
状態	下半分	完存	完存	完存	完存	上半分
高	(17.0)	45.9	25.5	34.3	44.1	(21.2)
幅	23.1	21.4	14.0	13.5	27.9	19.6
奥　行	11.7	10.5	9.2	8.5	13.1	7.2
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	－
紀年銘等	□三年 □門 □八日 □年 □尼 □三日 底部に凸	文禄五年 宗林禅門 正月九日 妙善逆修	（右側面） 延宝元年 丑十月廿九日 （正面） 圓室道仙信士 端窓夢的童女 （左側面） 延宝三年 卯四月七日	万治二年 淨覚圓清信女 子十二月十二日 笠　巾　19.5cm 笠奥行　11.2cm 底部に凸	□故法羅覚位 南無妙法蓮華經 文明□六月六□ 妙□□位 修逆 南無妙法蓮華經 頭頂・底部に凸	妙□
線刻	－	一条線	－	－	－	一条線
備考						

報告番号	碑 54	碑 55	碑 56	碑 57	碑 58	碑 59	碑 60
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＫ 99	ＳＫ 99	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層
形式	板碑	舟形	板碑	板碑	板碑	板碑	板碑
額型式							
状態	完存	完存	完存	完存	完存	完存	完存
高	46.5	45.2	42.5	47.1	43.0	38.9	43.0
幅	21.1	24.3 [20.0]	20.0	22.6	19.8	18.0	21.0
奥　行	9.5	11.6	10.0	10.0	13.8	7.8	10.0
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	南無阿弥陀佛　道泉逆修 永禄九年 妙金禅尼 五月七日	道忠禅門　逆修 文禄四年 妙弥禅尼 四月十一日 底部に凸	宗策禅門（カ）　文禄三年 二月七日 天正五年 妙春禅定尼 五月廿三日	慶長十六年 宗祐禅定門 六月廿日 逆修妙泉信女	道西禅門　文禄二年 二月廿日 慶長十一年 妙慶禅尼 十月八日	永教童子　文禄四年 九月廿九日	元亀元年 道西禅定門 逆修　九月廿　日 妙祐禅定尼
線刻	一条線	－	一条線	一条線	一条線	一条線	一条線
備考							

報告番号	碑 61	碑 62	碑 63	碑 64	碑 65	碑 66	碑 67
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層	ＳＫ 99 上層
形式	板碑	板碑	板碑	板碑	板碑	板碑	板碑
額型式							
状態	完存	完存	完存	完存	完存	完存	完存
高	47.0	44.8	53.0	42.8	34.5	41.0	49.5
幅	20.8	21.0	23.0	17.1	18.0	20.5	21.5
奥　行	10.5	10.7	15.5	10.2	8.0	11.0	8.5
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	道祐禅定門　慶長六年 逆　四月十八日 妙□禅定尼 修	清雲浄喜禅定門　慶長六年 四月九日 清月妙喜禅定尼	善西禅定門　天正七巳卯六月廿九日 祐西童子　慶長五年 十二月廿八日 妙久禅定尼 天正四丙子十二月四日	妙祐禅定尼 元亀元年 宗永禅定門 □月十八日	文禄五年 妙西禅尼 六月五日	道圓禅定門 天正十六年 妙慶禅定尼 卯月廿日	道忠禅定門　文禄四年 四月廿五日 妙勝禅定尼　文禄四年 七月十八日
線刻	一条線	一条線	一条線	一条線	一条線	一条線	一条線
備考		朱入り					

報告番号	碑68	碑69	碑70	碑71	碑72	碑73	碑74
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層	SK99 中層2	SK99 中層2
形式	板碑		板碑	板碑	板碑	舟形	板碑
額型式							
状態	完存	額のみ	完存	完存	完存	完存	完存
高	51.6	(9.0)	41.5	45.2	50.3	43.6	41.5
幅	22.8	(3.0)	16.2	20.1 [18.5]	23.0	20.8 [16.2]	16.8
奥　行	10.4	(6.0)	9.6	9.7	12.7	11.0	10.3
石　材	閃緑岩	−	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	宗祐禅定門 逆修 文禄四年 妙慶禅定尼 二月四日		文禄二年 宗永童子 七月十八日	永禄十一年 道普禅門 五月□五日 元亀三年 妙正禅尼 八月六日	慶長二年 六親眷属等道入禅定門 五月廿一日 逆修 妙□禅定尼 逆修 道見禅定門	寛永五年 妙薫信女 五月十五日	文禄五年 道心禅定門 十月廿日 逆修 妙蓮禅定尼
線刻	一条線	−	一条線	一条線	一条線	−	一条線
備考							

報告番号	碑75	碑76	碑77	碑78	碑79	碑80
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 中層2	SK99 最下層	SK99 最下層
形式	舟形	板碑	板碑	板碑	舟形	板碑
額型式						
状態	完存	完存	完存	完存	完存	完存
高	41.3	46.0	39.3	42.9	48.6	50.1
幅	24.1 [15.6]	20.3	19.8	19.6	24.2 [15.6]	21.7
奥　行	11.6	12.6	12.6	10.6	11.3	12.4
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	慶長十六年 妙壽信女 十月十九日 妙林信女 底部に凸	八月 妙蓮禅尼 廿七日 逆修□	九月廿日 道海禅定門 慶長七年 妙加禅定尼 卯月廿三日	天正廿年 妙心童女 六月十九日	慶長十六年 長兌 □月□日 宗心 春花	慶長八年 西月道永信士 十二月廿三日 妙祐逆修
線刻	−	一条線	一条線	一条線	−	一条線
備考	朱・金泥					

報告番号	碑 81	碑 82	碑 83	碑 84	碑 85	碑 86	碑 87
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＫ 99 最下層	ＳＫ 99 最下層	ＳＫ 99 最下層	ＳＫ 99 最下層	ＳＫ 99 最下層	ＳＫ 99 最下層	ＳＫ 99 最下層
形式	板碑	舟形	舟形	板碑	板碑	板碑	舟形五輪塔
額型式							┌─┐
状態	完存	上端欠損	完存	ほぼ完存	完存	完存	完存
高	41.7	(41.4)	42.1	40.4	52.4	49.9	52.6
幅	16.4	22.4	22.5	20.3	24.4	22.1	23.9
奥　行	12.8	10.1	11.4	12.3	15.8	15.3	15.7
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	－	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	天正十八年 八月廿日 文禄四年 三月廿四日 徳善童子 宗祐童子	慶長八年 十月十一日 慶長二年 三月十三日 妙長禅定門 道心禅定門 底部に凸	天正十八年 七月十四日 天正十九年 正月十六日 妙善禅尼 道西禅門	□年 □子 三月六日 摩滅著しい	天正十四年 二月十二日 逆修 妙福 道善禅門	善智禅定門逆修 天正九年 妙善禅定尼 六月廿日	文禄二年 二月二十五日 宗春大徳　修 妙正禅尼　逆 高さ (cm) 空輪　4.0 風輪　2.4 火輪　4.7 水輪　4.0 地輪　13.9
線刻	一条線	－	－	一条線	二条線	二条線	二条線
備考							五輪塔２体、金泥か

報告番号	碑 88	碑 89	碑 90	碑 91	碑 92	碑 93	碑 94	碑 95
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＥ 100 下層	ＳＥ 100 下層	ＳＥ 113 上層	ＳＥ 113 最下層	ＳＥ 113 上層	ＳＥ 113 上層	ＳＥ 113 上層	ＳＥ 113 上層
形式	板碑	板碑か	舟形	舟形	笠塔婆	笠塔婆	板碑	舟形
額型式					┌─┐	┌─┐		
状態	完存	下半分	下半分	上半分	上半分	下半分	上半分	上半分
高	43.5	(21.0)	46.1 (23.6)	(22.5)	37.5	－	(19.0)	(30.5)
幅	23.0	22.0	22.5 [－]	24.2	23.0	－	23.0	23.8
奥　行	6.6	8.5	11.6	11.6	11.5	－	10.0	11.5
石　材	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩
紀年銘等	文禄三年 清圓禅定門 四月廿四日 文禄三年 宗善禅定門 四月廿四日	□禅門 天正十七年 □尼 八月廿六日	寛永五年 月光涼禅定尼 七月尓六日		寛永九年 月休了無信士 六月□八日 心月妙哲信女 頭頂に凸	底部に凸		元□ 光譽如善信女 逆□ □□禅定門 慶□ 五月□
線刻	一条線	－	－	－	－	－	なし	－
備考		金泥	碑 91 と接合	碑 90 と接合	碑 93 と接合	碑 92 と接合		金泥、楔痕３か所

報告番号	碑96	碑97	碑98	碑99	碑100	碑101	碑102	碑103
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	SE113 上層	SE113 上層	SE113 上層	SE113 上層	SE113 上層	SE113 上層	SE113 上層	SE113 上層
形式	舟形	板碑	板碑か	舟形	板碑	不明	不明	舟形
額型式								
状態	上半分	頂部欠	下半分	上半分	上端欠損	下半分	下半分	下半分
高	(23.8)	(46.5)	(18.7)	(26.3)	(38.0)	(28.0)	(27.0)	47.2（17.5）
幅	27.4	24.0	19.6	25.4	19.0	23.0	24.0	23.6 [19.3]
奥　行	9.2	12.0	7.0	8.6	13.0	12.0	11.0	11.0
石　材	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩
紀年銘等	善譽□ 性譽□	慶長二年 □□禪門 二月十八日 逆修 妙心禪尼	逆修 □修	元和六□ 道春信□□ 正月カ□	天正十九年 道　泉 六月四日 逆修妙心	□長□七年 □禪定門 □日	□ □信士 十□七日	萬治三庚子年 新華臺泰岳良□信士 十二月三日 底部に凸
線刻	−	二条線	−	−	−	−	−	−
備考	楔痕3か所		楔痕1か所	漆あり、楔痕1か所				碑104と接合

報告番号	碑104	碑105	碑106	碑107	碑108	碑109	碑110
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	SE113 中層2	SE113 中層	SE113 中層2	SE113 中層	SE113 中層	SE113 中層	SE113 中層
形式	舟形	舟形	舟形	不明	不明	不明	不明
額型式							
状態	上半分	下半分	上半分	上半分	下半分	右上半分	破片
高	(29.7)	47.7（25.0）	(22.7)	(9.5)	(23.0)	(23.0)	(15.0)
幅	(30.0)	(21.0)	22.3	27.0	16.0	(19.4)	(18.4)
奥　行	11.0	10.0	10.0	13.0	8.0	6.5	10.6
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	底部に凸	寛永元年 源珠禪定門 九月廿一日 明暦元年 妙春禪定尼 十月六日		□妙 □□	天正十八年 □子 三月十八日 文禄四年 □九月六日	六親 道西禪□ 妙□大□ 宗州道□ 宗□	元禄カ 摩滅著しい
線刻	−	−	−	−	−	−	−
備考	碑103と接合	碑106と接合、わずかに金泥、楔痕1か所	碑105と接合				

報告番号	碑 111	碑 112	碑 113	碑 114	碑 115	碑 116	碑 117
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層２	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層２	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層２
形式	舟形	舟形	板碑	板碑	不明	舟形	舟形
額型式							
状態	下半分	上半分	上半分	下半分	下半分	下半分	上半分
高	45.4（22.4）	（23.0）	49.1（29.3）	（31.1）	31.9	44.5（24.5）	（21.1）
幅	21.3 [17.9]	23.6	20.6	20.6	20.7	19.1 [17.9]	20.3
奥　行	8.8	8.8	6.0	7.4	11.7	7.0	6.5
石　材	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	砂岩	閃緑岩	砂岩	砂岩
紀年銘等	逆浄永禅定門 修妙慶禅定尼 慶長九年 八月十五日		□□禅定門 妙福禅定尼 天正元ヵ年 六月一日 文禄二年 □月廿九日		修逆 道圓禅定門 □圓禅定尼 天正十四年 卯月廿七日	花林宗永禅定門 清功徳禅定尼 慶長十　七月十九日 慶長十二年□月十九	
線刻	－	－	一条線	－	－	－	－
備考	碑 112 と接合	碑 111 と接合	碑 114 と接合	碑 113 と接合	楔痕１か所	碑 117 と接合	碑 116 と接合

報告番号	碑 118	碑 119	碑 120	碑 121	碑 122	碑 123	碑 124
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層	重機掘削	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層２
形式	舟形	舟形	舟形	板碑	板碑	舟形	舟形
額型式							
状態	上半分	下半分	上端欠損	下半分	上半分	下半分	上半分
高	53.2（28.0）	（27.8）	（34.0）	（23.5）	54.5(31.0)	47.8（20.0）	（27.8）
幅	22.5 [14.5]	19.0 [14.5]	20.5 [13.5]	25.5	25.8	[20.0]	24.8
奥　行	11.5	10.5	8.0	9.0	8.6	13.0	13.0
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	逆修 妙永禅定尼 浄西禅定門 慶長十一年 六月廿八日		逆修玉仙宗永信士 清壽妙永禅定尼 慶長三年 三月十日 底部に凸	逆修 妙清 宗清禅定ヵ □		逆修 真斗信士 妙正禅定尼 天正十七年 八月八日	
線刻	－	－	－	－	なし	－	－
備考	碑 119 と接合	碑 118 と接合	楔痕２か所	碑 122 と接合、朱入り、楔痕３か所	碑 121 と接合、朱入り	碑 124 と接合、楔痕２か所	碑 123 と接合

報告番号	碑 125	碑 126	碑 127	碑 128	碑 129	碑 130	碑 131
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 最下層	ＳＥ 113 中層２	ＳＥ 113 中層２	ＳＥ 113 中層２
形式	舟形	不明	板碑	板碑	不明	不明	舟形
額型式							
状態	上半部	破片	上半分	下半分	下半分	中央右半分	下半分
高	29	(15.0)	42.6（20.0）	(22.6)	(41.3)	(26.8)	42.7（20.0）
幅	30.4	(13.5)	12.4	21.6	32.9	(25.5)	7.3
奥　行	12.2	(7.0)	8.8	14.8	15.5	(11.6)	9.3
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	南無阿弥陀佛 逆修妙道 禅譽正	寛	逆修妙慶 宗源禅定門 天正十九 八月十二日 浄春禅定門 天正十八 七月朔日		松比丘尼 巌童 常猷法師 壽貞童女 童女 信女 林夢童女 童女	摩滅著しい	妙蓮禅定尼 逆修 養鎮禅定門 六月十日 寛永二年 六月六日 浄圓禅定門 慶長十八年 底部に凸
線刻	－	－	一条線	－	－	－	－
備考	楔痕４か所		碑 128 と接合	碑 127 と接合			碑 132 と接合、金泥

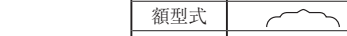
報告番号	碑 132	碑 133	碑 134	碑 135	碑 136	碑 137	碑 138	碑 139
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＥ 113 中層２	ＳＥ 113 中層２	ＳＥ 113 中層２	ＳＥ 113 中層２	ＳＥ 113	ＳＥ 113	ＳＥ 113	ＳＥ 113
形式	舟形	不明	不明	不明	不明	櫛形	不明	不明
額型式								
状態	上半分	左下半分	破片	破片	上端左半分	上半分	上部右半分	下半分
高	(22.7)	(10.8)	(16.9)	(27.8)	(11.8)	(18.8)	(10.6)	(17.3)
幅	9.3	(17.4)	(22.0)	(15.6)	(11.4)	(28.0)	(11.5)	18.0 [13.5]
奥　行	9.3	12.4	－	(8.5)	(9.6)	12.5	8.7	7.3
石　材	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	砂岩	花崗岩	閃緑岩
紀年銘等	底部に凸	廿九日 定尼 五年	安ヵ				元和ヵ	五日 年
線刻	－	－	－	－	－	－	－	－
備考	碑 131 と接合、金泥							

報告番号	碑 140	碑 141	碑 142	碑 143	碑 144	碑 145
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＥ 113	ＳＥ 113 最下層	ＳＥ 113	ＳＥ 113 最下層	ＳＥ 113	ＳＥ 113
形式	板碑	板碑	舟形	舟形	舟形五輪塔	不明
額型式						
状態	上半分	下半分	下半分	上半分	下半分	下半分
高	51.4（26.4）	（26.8）	48.4（26.0）	（24.8）	（28.4）	（33.9）
幅	23.5	23.4	[21.3]	29.9	15.9 [14.4]	23.5
奥　行	13.9	13.9	11.1	10.4	8.9	12.2
石　材	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩
紀年銘等	道□禅定門　慶長二年 二月六日 妙言禅定尼　慶長八年 八月廿七日		照月妙慶信女　寛永十八年 八月朔日 隆屋道順信士　寛永十六年 十二月十七日		□ 春貞童子　元和三年 十二月五日 高さ (cm) 火輪　2.6 水輪　3.9 地輪　15.9	涼雲浄西禅定門　寛永十三年 □月七日 春貞信女霊位　慶安四年 正月廿七日
線刻	一条線	－	－	－	－	－
備考	碑 141 と接合	碑 140 と接合	碑 143 と接合、楔痕 ２か所	碑 142 と接合、 金泥		

報告番号	碑 146	碑 147	碑 148	碑 149	碑 150	碑 151
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＥ 113 最下層	ＳＥ 113	ＳＥ 113 最下層	ＳＥ 113	ＳＥ 113 最下層	ＳＥ 113 井戸掘形内
形式	板碑	板碑	板碑	板碑	不明	舟形五輪塔
額型式						
状態	上半分	下半分	下半分	上半分	下半分	頂部のみ
高	32.4（16.1）	（20.8）	47.0（22.3）	（24.5）	（29.0）	（6.8）
幅	18.9	18.9	20.8	20.4	19.5	14.0
奥　行	10.4	10.4	13.7	14.2	11.7	6.5
石　材	砂岩	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩
紀年銘等	道祐禅門　天正七年 十月廿八日 妙弥禅尼　天正十年 二月十二日		浄本禅定門　天正十年 十月廿日 妙本禅定尼　天正十一年 七月四日		善故童子　文禄五年 九月十九日 幻光童女　天正十八年 八月九日	阿 高さ (cm) 空輪（3.7）
線刻	－	－	－	一条線	－	－
備考	碑 147 と接合、楔 痕３か所	碑 146 と接合	碑 149 と接合	碑 148 と接合		

報告番号	碑 152	碑 153	碑 154	碑 155	碑 156
トレンチ	4	4	4	4	4
出土地点	ＳＥ 113 井戸掘形内	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	板碑	笠塔婆	笠塔婆	板碑	板碑
額型式					
状態	左中央のみ	完存	完存	完存	完存
高	(9.5)	35.2	40.0	44.2	46.5
幅	9.7	21.5	21.5	21.0	22.5
奥　行	(5.2)	11.0	11.5	11.0	9.0
石　材	砂岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等		如幻童女 寛文元年 九月十日 説宗春賀 寛文二年 三月十二日 空玉童女 寛文二年 正月五日 底部に凸	新婦□□貞童子霊位 寛文二年八月六日 新□故□春信女霊位 寛文元年 □臺栄讃童子霊位 三月十日 寛文七年□二月九日 底部に凸	三界万霊 秋貞童女霊位 六親眷属	元和元年 西岸浄業信士 十月十四日 逆□□妙春信女 修
線刻	–	–	–	一条線	一条線
備考					

報告番号	碑 157	碑 158	碑 159	碑 160	碑 161	碑 162
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	舟形	板碑か	舟形	板碑	舟形	笠塔婆
額型式						
状態	下半分	下半分	下半分	上半分	上端欠損	完存
高	23.2	(27.3)	(22.0)	(23.0)	(55.5)	73.0
幅	底部 19.4	25.8	(22.3)	16.0	32.0 [22.0]	39.0
奥　行	12.2	10.1	10.0	7.5	14.5	17.5
石　材	–	閃緑岩	閃緑岩	–	花崗岩	花崗岩
紀年銘等	□月十八日 □一切 慶長三年 □月十四日 底部に凸	定門 天正□年 □姉 七月十八日 □定門 □定門	□正九年 □月十二日 □禄五年 □月十九日	□ □圓冂 □宝冂	梅霞徳庵信士 寛永十六年 正月十一日 林室妙壽信女 底部に凸	妙□禅定尼 正保二年 受法妙博信士 浄音信士 南無阿弥陀佛 宗源信士 宗林禅定門 妙林信女 水壽道明信士 二月廿七日
線刻	–	–	–	一条線	–	–
備考						

報告番号	碑 163	碑 164	碑 165	碑 166	碑 167	碑 168
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	笠塔婆	板碑	笠塔婆	板碑か	板碑	板碑か
額型式						
状態	完存	完存	完存	下半分	完存	下半分
高	45.0	71.8	58.8	(19.0)	46.0	(27.6)
幅	22.5	33.3	29.0	21.5	23.8	18.5
奥　行	10.5	15.0	15.0	9.0	16.0	12.0
石　材	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	梵 寛文八年 梵 浄山良清信士 八月五日	梵 寛永四年 梵 宗負信士 九月廿九日 梵 妙善信女 修逆 底部に凸	梵 南無阿弥陀佛 寛文四年 秋巌宗貞信士 辰十月十三日 梵 本月枕元信女 逆修 信心施主 敬白 （左側面） 寛文十二年子十一月七日 頭頂部に凸	寛永八年 □源信士 □月十八日 □妙慶逆修	梵 掌福□士 梵 妙□信女	寛永十三年 □譽□圓信士 八月廿七日 □譽妙圓信女逆修
線刻	－	なし	－	－	一条線	－
備考						

報告番号	碑 169		碑 171	碑 172	碑 173	碑 174	碑 175
トレンチ	4		4	4	4	4	4
出土地点	重機掘削		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	舟形		舟形	笠塔婆	舟形	舟形	舟形
額型式							
状態	下半分		完存	ほぼ完存	ほぼ完存	右上半分	下半分
高	(36.3)		51.0	45.0	64.0	(25.0)	25.5
幅	22.5 [15.0]		25.8 [18.5]	32.4	32.4 [20.5]	(13.5)	24.5 [20.0]
奥　行	8.0		13.0	13.8	15.0	5.2	12.0
石　材	閃緑岩		閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	－	閃緑岩
紀年銘等	元和二年 西應浄□信士 正月十八日 □蓮華経 正保二年 春□妙法信女 正月□二日	欠 番	梵 元禄六酉年 珠松妙林信女 十月十四日	梵 寛永六年霜月朔日 □正信女 梵 寛永十七年 一□了句信士 十二月十一日 梵 □利童女 頭頂・底部に凸	梵 天鏡道見禅定門 九日　七世 梵 南無阿弥陀佛　六親□属　等 天正十五年　父母 松□妙貞禅定尼 西十二月五日 底部に凸	梵 妙泉□	□禅定尼 □八年 □日 □女 底部に凸
線刻	－		－	－	－	－	－
備考							

報告番号	碑176	碑177	碑178	碑179	碑180	碑181	碑182	碑183
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	板碑か	櫛形	舟形	板碑	舟形	舟形	舟形	不明
額型式								
状態	上端下半欠損	完存	右上部欠損	上半分	下半分	上半分	中央部のみ	右下部のみ
高	19.0	28.0	57.5	(29.0)	24.0	(27.0)	(16.0)	(15.0)
幅	21.5	19.5	27.7 [21.4]	24.8	24.5 [21.3]	27.6	25.8	(9.8)
奥　行	7.5	11.0	14.0	10.7	11.5	8.5	11.8	11.8
石　材	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	梵 梵 □	梵 天和二壬戌年 棄(カ)報浄掬(カ)信士霊位 九月五日	梵 元室□□信士 正保四年 五月十四日 逆修 昌月(カ)妙故法(カ)信女 底部に凸		□子暦 童女 十九日 底部に凸	梵 夢 □ 七	禅定門 禅定尼	□□四天
線刻	−	−	−	二条線	−	−	−	−
備考								

報告番号	碑184	碑185	碑186	碑187	碑188	碑189	碑190
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	板碑	舟形	舟形	櫛形	板碑	板碑	板碑
額型式							
状態	完存	下半分	下半分	完存	完存	上半分	完存
高	37.0	(28.5)	(23.8)	68.8	31.0	(33.0)	45.3
幅	17.5	24.0 [21.0]	24.2 [21.8]	30.5	18.0	23.5	25.0
奥　行	6.5	6.0	16.0	14.0	10.5	13.7	10.0
石　材	砂岩	砂岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩
紀年銘等	梵 梵 妙譽禅 □ 六月□□ 宗法 □ □	禅定尼 慶長□□年 七月廿八日 禅定門 逆修	年 底部に凸	(右側面) 伊勢山田渡会郡久留郷 (正面) 南無阿弥陀佛 含鐵信士 延宝九年辛酉歳 七月廿九日 (左側面) 大工門井猪兵衛	梵 妙法信女 寛文九年 七月廿九日	梵 西譽□休 寛永□ 十一月 覺(カ)□林真(カ)□	妙(カ)譽(カ)禅(カ) 摩滅著しい
線刻	一条線	−	−	−	−	なし	一条線
備考					頂部尖る		

報告番号	碑 191	碑 192	碑 193	碑 194	碑 195	碑 196
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	笠塔婆	笠塔婆	板碑	舟形	舟形	舟形
額型式	⌐¬	⌐¬				
状態	ほぼ完存	完存	完存	完存	完存	上半分
高	50.0	30.5	48.8	(29.5)	42.2	(27.0)
幅	36.0	20.4	24.0	18.4 [13.5]	20.0 [16.0]	55.8
奥　行	16.0	8.7	13.7	9.0	12.0	11.7
石　材	花崗岩	閃緑岩	－	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	（右側面）寛文十三癸丑年九月廿九日 （正面） 霜譽淨春信士 花譽清春信女 霊位 （左側面）寛文九己酉年九月廿五日 底部に凸	窓月浄秋信士 正譽妙覺□霊位 慶存(カ)法□ 底部に凸	四月七日 □心禅定門 慶長四年 宗雲禅定 八月□日 逆修妙善禅定尼	元和三年 道林信士 三月一日	妙善禅定尼 慶長十一年 道善禅定門 十一月四日	冬玄律師 妙珍禅定尼　妙□ 妙慶禅定尼 方誉浄西禅定門 逆修妙慶禅定尼 正□宗慶禅定門□ 妙幻童女　善□
線刻	－	－	一条線	－	－	－
備考						

報告番号	碑 197	碑 198	碑 199	碑 200	碑 201	碑 202	碑 203
トレンチ	4	4	4	4	4	4	4
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	板碑	舟形	舟形	不明	笠塔婆	板碑	舟形
額型式					⌒		
状態	完存	完存	完存	右下部のみ	完存	完存	完存
高	44.5	48.0	46.8	(27.0)	66.0	39.0	48.0
幅	20.0	22.0 [14.5]	29.3 [21.0]	(18.8)	29.8	18.0	25.0 [19.3]
奥　行	12.0	11.8	11.0	12.5	22.0	9.0	14.5
石　材	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	－	花崗岩	砂岩	花崗岩
紀年銘等	道圓禅門 元和□□ □月十八日 妙栄逆修	幻賀童子 底部に凸	妙順信女 寛文二年 十二月七日 秋哲童女 寛文三年 二月廿二日 底部に凸	（右側面）□十三辰年十月十九日 （正面） □霜正圓信士 □信女 霊	（正面） 澄岳清芳信女 壽轉浄入信士 霊位 （左側面）貞享二乙丑年三月十日	浴□□□□ 文禄二(カ)年 正月四日 妙祐逆修	承應元年 □□屋妙仕信女菩提 十二月十六日
線刻	一条線	－	－	－	－	二条線	－
備考							

報告番号	碑 204	碑 205	碑 206	碑 207	碑 208	碑 209
トレンチ	4	4	4	4	4	4
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	舟形	笠塔婆	舟形	不明	不明	舟形
額型式						
状態	完存	完存	完存	右下半のみ	破片	完存
高	57.0	40.0	60.8	(13.0)	(24.0)	75.0
幅	31.0 [22.0]	23.1	33.8 [24.4]	(11.5)	(17.5)	36.5
奥　行	14.0	14.5	15.0	(7.9)	10.5	21.0
石　材	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等	秋屋妙慶信女 清譽浄昌信士 底部に凸	善譽妙讃信女 頭頂・底部に凸	天正二十年 宗泉禅定門　七月十一日 六親眷属菩提也　寛永七庚午年 逆修妙徳禅定尼　良玉宗雲信士 六月十八日 清化妙春信女　心月妙清信女 慶長十六辛亥十一月尓一日慶長二丁酉七月尓八日 底部に凸	□士		方譽西宗信士　□□二年八月□ 宅庵栄□信女　寛永十年九月三日
線刻	–	–	–	–	–	–
備考						

報告番号	碑 210	碑 211	碑 212	碑 213	碑 214
トレンチ	4	4	4	4	2
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
形式	舟形	笠塔婆	笠塔婆	笠塔婆	不明
額型式					
状態	完存	完存	完存	完存	下半分
高	69.6	83	67.8	70.5	(22.6)
幅	43.1	45.2	37.0	47.2	17.5
奥　行	20.2	20.5	18.1	21.5	8.5
石　材	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩
紀年銘等	□月秀洞信士　寛永五年七月九日 梅譽宗春信士　寛永十年八月十二日 賢超童子　妙春童女 慶長七年正月四日　慶長十二年六月廿八日 底部に凸	寛永十九年 歎譽浄讃信士　心月浄安信士　祐作童子 七月十八日 南無阿弥陀佛　超岸宗隆 逆修清譽壽三 寛永十二年 景岳智誓信女　寛永廿年 普玉照安信女　秋哲童女 十一月十三日　拾月廿八日 頭頂・底部に凸	(右額内)正保二カ年三月廿一日 逆松雪休庵信士　長山恵久信女 修月窓清圓信女　逆修智光盛恵信女 傾譽宗□　寛永十六年 (正面)南無阿弥陀佛　浄月林清信士 寛永三年　十一月十日 旧閑宗入信士 六月十四日　法秀童女 逆修空岸妙源信女　春珎童女 頭頂・底部に凸	慶安二年 秋月宗圓禅定門 九月三日 南無阿弥陀佛　長屋英久禅定尼　慶安二年 八月十二日 花岳宋春禅定尼 頭頂・底部に凸	
線刻	–	–	–	–	–
備考					

北地区ほか出土石碑

報告番号	碑 215	碑 216	碑 217	碑 218	碑 219	碑 220	碑 221
トレンチ	3 トレンチ東側	3 トレンチ東側	3 トレンチ東側	3 トレンチ東側	6	不明	不明
出土地点	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	ＳＫ 10	不明	不明
形式	舟形	笠塔婆	舟形	舟形	灯籠か	板碑	板碑
額型式							
状態	完存	完存	上端欠損	完存		完存	完存
高	45.0	100.0	48.0	45.0		54.0	54.0
幅	(17.5)	53.0	25.0 [21.0]	20.0		24.3	24.7
奥　行	11.9	25.0	9.5	13.0		12.0	13.0
石　材	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	－	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩
紀年銘等	梵 潔溪宗月禅定門　天正十二年 峯庵廣秀禅定尼　二月廿一日 六月二日　文禄三年	梵　寛永廿一甲申年 梵　高徳院殿前形□善譽源了居士 卅　九月廿一日　取□院□法	梵 逆修 妙順禅定尼 □□法師□□ 周西童女 底部に凸	（右側面）俗名 中村氏三良兵衛 （正面） 閑窓冷室墓 （左側面）天和二壬戌七年十八日		梵 寶譽□安信士　元和七年 三月七日 逆修妙教信女	梵 寛永四年 春窓浄祐信士 正月六日 逆修花屋栄春信士
線刻	－	－	－	－	－	なし	－
備考				成形なし	火袋か		

南地区出土組合式五輪塔

報告番号			組１	組２	組３	組４	組５	組６	組７	組８	組９
トレンチ			4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点			墓群２ａ ＳＫ 14	墓群２ａ ＳＫ 14	墓群２ａ ＳＫ 14	墓群２ｂ ＳＫ 66	墓群２ｂ ＳＫ 66	墓群２ｂ ＳＫ 66	墓群２ｂ ＳＫ 66	墓群５ａ ＳＫ 30	墓群８ ＳＫ 40
総高			(24.8)	19.5	24.9	(32.8)	36.1	27.8	20.5	26.9	(25.2)
寸法（cm）	空輪	高	(15.8)			22.6	24.2				(13.0)
		先端高	(4.0)			18.0	9.5				(0.5)
		幅	16.5			21.5	20.1				16.5
	風輪	高	9.0			(10.2)	11.9				12.2
		ホゾ高	0.8			(1.0)	(1.8)				1.0
		幅	16.0			19.8	21.4				19.4
	火輪	高		19.5					20.5		
		軒高１		(10.4)					12.5		
		軒高２		6.4					6.4		
		上面 幅		13.0					15.0		
		上面 奥行		12.8					14.6		
		下面 幅		31.9					36.6		
		下面 奥行		32.0					36.5		
	水輪	高			24.9			27.8			
		幅			30.2			36.7			
		火 接地幅			15.5			17.0			
		地 接地幅			15.0			16.7			
	地輪	高								26.9	
		幅								33.2	
		奥行								34.1	
梵字（面）			1	1		1	4	1	1	1	1
石材			花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等										大くろ於（カ）うい 慶長十九年 寔秀院休邁道偲（カ）居士 七月十三日	
観察備考			下面凸	上面凹		下面凸	下面凸			上面わずかに膨らむ	下面凸

報告番号				組 10	組 11	組 12	組 13	組 14	組 15	組 16	組 17	組 18
トレンチ				4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点				墓群 10 b ＳＫ 50	墓群 16 ＳＫ 157	墓群 17 ＳＴ 122	ＳＫ 12	ＳＥ 100 中層	ＳＥ 100 中層	ＳＥ 113 中層	ＳＥ 113 中層２	重機掘削
総高				(19.3)	12.7	(23.7)	(27.3)	(16.6)	(14.8)	12.2	(19.2)	(27.8)
寸法（cm）	空輪	高		(11.0)		(15.0)	(13.5)	(9.0)				(19.2)
		先端高		(2.1)		(5.5)	(6.3)	−				(6.8)
		幅		12.5		17.2	14.5	(12.0)				18.2
	風輪	高		8.3		8.7	13.8	7.6				(8.6)
		ホゾ高		1.5		(0.4)	1.4	0.2				(0.9)
		幅		12.1		(16.0)	18.3	12.7				18.8
	火輪	高			12.7					12.2		
		軒高１			7.0					6.5		
		軒高２			4.3					4.0		
		上面	幅		11.2					8.3		
			奥行		11.3					9.0		
		下面	幅		22.6					16.3		
			奥行		22.6					16.8		
	水輪	高							(14.8)		(19.2)	
		幅							(23.0)		24.5	
		火	接地幅						−		(17.6)	
		地	接地幅						−		13.0	
	地輪	高										
		幅										
		奥行										
梵字（面）				1	なし	不明瞭	1	1	なし	不明瞭	なし	不明瞭
石材				閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等				下面凸	上面凹	下面凸	下面凸	下面凸			上・下面凸	
観察備考					下面やや膨らむ	摩滅著しく梵字不明瞭						

報告番号				組 19	組 20	組 21
トレンチ				4	4	4
出土地点				重機掘削	重機掘削	重機掘削
総高				30.8	32.5	24.7
寸法（cm）	空輪	高				
		先端高				
		幅				
	風輪	高				
		ホゾ高				
		幅				
	火輪	高				
		軒高 1				
		軒高 2				
		上面	幅			
			奥行			
		下面	幅			
			奥行			
	水輪	高				
		幅				
		火	接地幅			
		地	接地幅			
	地輪	高		30.8	32.5	24.7
		幅		36.0	39.5	30.8
		奥行		36.0	39.5	31.8
梵字（面）				1	1	1
石材				花崗岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等				元和三年　正保三年 久貞信士　生屋閑秋信女 七月二日　正月九日 三界万霊六親眷属等 正保二年 妙貞信女　果屋妙閑信女 十一月廿七日 道春信士	寛永十三年 宗祐信士　妙慶信□ 逆 生譽宗得信士　休意信□ 修 三界萬霊六親眷属 寛永十九年 逆 得譽妙福信女　心覚妙□信□ 修 三月六日 浄安信士　妙玄信女 五月六日	□長十二年 春□信士 二月六日 □親眷属等 妙栄信尼
観察備考						上面わずかに膨らむ、 前面上半剝離

報告番号			組 22	組 23	組 24	組 25	組 26	組 27	組 28	組 29
トレンチ			4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点			重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
総高			23.1	26.2	26.0	17.8	18.5	34.2	19.0	27.0
寸法（cm）	空輪	高								
		先端高								
		幅								
	風輪	高								
		ホゾ高								
		幅								
	火輪	高	23.1			17.8	18.5		19.0	
		軒高1	(10.9)			7.6	11.5		12.5	
		軒高2	7.8			4.6	5.8		7.3	
		上面 幅	16.2			16.1	14.3		15.0	
		上面 奥行	16.1			16.2	14.2		15.2	
		下面 幅	39.2			43.4	32.0		34.5	
		下面 奥行	39.4			43.4	31.0		34.5	
	水輪	高						34.2		27.0
		幅						38.1		35.0
		火 接地幅						19.5		16.0
		地 接地幅						19.3		15.5
	地輪	高		26.2	26.0					
		幅		31.4	33.9					
		奥行		30.4	32.4					
梵字（面）			4	1	1	なし	1	4	1	なし
石材			花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等				元和六年 月窓秀□信士 七月十七日 月山英□信女	寛永十三年 玉扇閑貞禅定門 二月十九日	上面凹	上面凹		上面凹	
観察備考				上面わずかに膨らむ	上面わずかに膨らむ		下面やや膨らむ		下面中央わずかに膨らみ、ホゾ状になる	

北地区ほか出土組合式五輪塔

報告番号				組 30	組 31	組 32	組 33	組 34	組 35	組 36	組 37
トレンチ				4	2	6	6	6	8	不明	不明
出土地点				重機掘削	重機掘削	ＳＫ 10	ＳＫ 10	重機掘削	河川堆積	不明	不明
総高				23.5	13.3	(20.1)	(26.7)	14.3	24.0	(36.9)	(39.6)
寸法（cm）	空輪	高				(10.6)	(14.9)		15.0	24.5	(25.3)
		先端高				(2.0)	(1.9)		−	9.9	(4.9)
		幅				12.4	17.8		16.0	21.4	23.7
	風輪	高				9.5	(11.8)		9.0	(12.4)	(14.3)
		ホゾ高				1.4	(1.9)		1.0	(1.5)	(0.9)
		幅				13.0	19.4		17.0	20.8	23.3
	火輪	高			13.3			14.3			
		軒高 1			8.0			5.5			
		軒高 2			5.0			3.5			
		上面	幅		24.0			9.0			
			奥行		22.8			9.4			
		下面	幅		−			21.0			
			奥行		−			21.6			
	水輪	高									
		幅									
		火	接地幅								
		地	接地幅								
	地輪	高		23.5							
		幅		28.9							
		奥行		27.8							
梵字（面）				1	1	なし	4	不明	不明	1	4
石材				花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩
紀年銘等				一法清正信士 長山清休信士 正覚道本信士 西岸方雲信士 花詠妙春信女 念誉浄憶信士 釋妙空信女	上面凹	下面凸	下面凸	上面凹	下面凸	下面凸	下面凸
観察備考								下面わずかに膨らむ			梵字四面全てに漆残る

南地区出土台座

報告番号		台1	台2	台3	台4	台5	台6	台7	台8	台9	台10	台11
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群3a SK78	墓群3a SK78	墓群3b ST55	墓群3b ST55	墓群3b ST190	墓群3b ST190	墓群3b SX363	墓群4 ST24	墓群4 ST24	墓群4 ST24	墓群5a SK30
型式		−	−	C−b	Fか	−	−	A−a	B−a	F−a	G	B or D
水鉢・花生タイプ		−	−	−	−	−	−	−	2	1	−	−
寸法（cm）	総奥行	(11.5)	12.7	20.6	34.5	7.9	(26.6)	41.7	38.1	42.5	20.9	(18.6)
	総幅	(28.8)	33.0	32.2	49.8	10.5	(26.4)	43.6	46.9	42.8	29.5	(11.5)
	総高	(16.8)	9.5	15.1	(19.0)	16.1	(12.2)	11.4	25.4	19.1	7.6	−
	下高	−	−	10.7	−	−	−	7.6	20.2	−	3.7	13.0
	上奥行	−	−	15.9	−	−	−	29.8	17.0	−	15.2	−
	上幅	−	−	22.0	−	−	−	32.0	31.0	−	20.5	(5.0)
	前部高	−	−	−	−	−	−	−	19.7	−	−	11.2
ホゾ		−	−	凹	−	−	−	−	−	−	−	−
石材		花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	−	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩
観察備考		加工痕あり（9.1×5.4）			風化激しい		1か所楔痕あり(7.3×4.1)			楔痕あり（計測不可）		

報告番号		台12	台13	台14	台15	台16	台17	台18	台19	台20	台21	台22
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群5a ST58	墓群7b ST49	墓群8 SK40	墓群8 SK40	墓群9b SK38	墓群10b SK50	墓群11a ST74	墓群12 ST196	墓群12 a	墓群13b ST144	墓群13b ST144
型式		F−b	F−b	D−a	−	E−b	F−b	F−a	−	I	F−a	−
水鉢・花生タイプ		1	3	1	−	−	3	3	−	1	3	−
寸法（cm）	総奥行	33.2	26.0	56.8	(9.5)	21.2	24.8	25.4	(9.5)	18.2	28.4	(11.0)
	総幅	35.5	27.4	77.0	(13.9)	22.7	27.2	32.4	(17.1)	34.2	31.7	(24.0)
	総高	13.1	9.2	28.6	(14.5)	10.5	10.8	10.8	(18.7)	15.2	11.5	(8.0)
	下高	−	−	23.7	−	−	−	−	−	−	−	−
	上奥行	−	−	26.5	−	−	−	−	−	−	−	−
	上幅	−	−	61.5	−	−	−	−	−	−	−	−
	前部高	−	−	21.8	−	−	−	−	−	−	−	−
ホゾ		凹	凹	−	−	凹	凹	−	−	−	−	−
石材		閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	−	閃緑岩	花崗岩	豊島石
観察備考				碑29・笠4とセット	花生一部残る				2か所楔痕あり（5.3×3.6）（3.6×3.4）			台座でない可能性有

報告番号		台23	台24	台25	台26	台27	台28	台29	台30	台31	台32
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群14b SK61	墓群14b SK61	墓群14b SK61	墓群14b SK61	墓群14b SK61	墓群14b ST138	墓群14 ST138・424	墓群15 SK89	墓群15 SK89	墓群15b ST231
型式		F−b	F−b	D−a	C−a	B−b	I	A or C	F−a	A or C	A−a
水鉢・花生タイプ		3	3	1	−	1	1	−	1	−	−
寸法（cm）	総奥行	23.5	32.8	30.5	20.2	61.5	22.5	(10.1)	33.5	(16.2)	19.3
	総幅	28.6	26.4	35.0	23.6	52.5	45.6	(19.2)	38.5	22.0	20.8
	総高	17.7	15.7	21.2	8.0	−	16.5	7.3	18.0	9.5	12.9
	下高	−	−	18.4	5.5	−	−	5.7	−	6.4	11.6
	上奥行	−	−	14.4	14.2	25.0	−	(9.7)	−	(12.2)	13.8
	上幅	−	−	26.5	14.5	47.3	−	12.0	−	14.0	12.4
	前部高	−	−	13.3	−	−	−	−	−	−	−
ホゾ		凹	凹	−	−	凹	−	−	−	−	−
石材		花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	砂岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩
観察備考								2辺に反花残る			

報告番号		台33	台34	台35	台36	台37	台38	台39	台40	台41	台42	台43
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群15ｂ ＳＴ231	墓群16 ＳＫ157	墓群16 ＳＫ157	墓群16 ＳＫ157	墓群16 ＳＫ157	墓群17 ＳＴ188	墓群17 ＳＴ188	墓群17ａ ＳＴ198下層	ＳＫ99 中層	ＳＫ99 中層２	ＳＫ99 中層２
型式		Ｆ－ｂ	Ⅰ	Ⅰ	－	－	－	Ｃ－ａ	Ｃ－ｂ	Ｃ－ａ	Ｃ－ｃ	Ｃ－ａ
水鉢・花生タイプ		1	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－
寸法（cm）	総奥行	29.9	(13.9)	13.0	(18.6)	(14.1)	(11.0)	30.8	22.6	20.5	19.0	20.0
	総幅	34.9	(33.8)	(18.0)	(26.1)	(28.4)	(15.0)	36.8	33.7	22.4	27.3	19.4
	総高	14.9	(14.8)	15.0	(26.3)	(11.0)	(7.0)	9.3	15.2	8.9	12.3	8.6
	下高	－	－	－	－	－	－	6.1	11.1	7.4	9.3	5.8
	上奥行	－	－	－	－	－	－	24.9	22.5	13.5	13.3	13.5
	上幅	－	－	－	－	－	－	24.8	－	15.7	18.1	13.5
	前部高	－	－	－	－	－	－	－	16.4	－	－	－
ホゾ		凹	－	－	－	－	－	－	凹	－	凹	－
石材		花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	豊島産	閃緑岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
観察備考					1か所楔痕あり(5.6×4.1)						Ａ－ｃの可能性有	

報告番号		台44	台45	台46	台47	台48	台49	台50	台51	台52	台53	台54
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		ＳＥ100 下層井戸	ＳＥ113 上層	ＳＥ113 上層	ＳＥ113 中層２	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
型式		Ｃ－ａ	－	－	Ｃ－ａ	Ａ－ａ	Ｃ－ｃ	Ｆ－ｂ	Ⅱ	Ｂ－ｂ	Ｄ－ａ	Ａ－ａ
水鉢・花生タイプ		－	－	花入有	－	－	－	1	1	1	3	－
寸法（cm）	総奥行	19.8	(14.9)	(10.0)	17.0	52.5	39.7	34.7	26.1	50.6	31.1	49.5
	総幅	22.9	(18.3)	(20.6)	16.5	55.0	44.9	(29.0)	82.0	53.5	34.9	52.3
	総高	9.7	(10.4)	(14.7)	13.3	16.4	14.7	20.1	19.2	24.5	15.0	15.8
	下高	7.0	－	－	11.5	12.2	9.8	－	－	19.2	13.0	11.0
	上奥行	15.2	－	－	10.2	40.6	31.5	－	－	23.4	12.0	36.0
	上幅	16.0	－	－	10.3	41.0	31.0	－	－	37.9	23.2	47.2
	前部高	－	－	－	－	－	－	－	－	18.0	12.7	－
ホゾ		－	－	－	凹	－	凹	凹	－	凹	－	凹
石材		閃緑岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	花崗岩
観察備考			風化激しい				ホゾ穴背面に寄る					

報告番号		台55	台56	台57	台58	台59	台60	台61	台62	台63	台64	台65
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
型式		Ｃ－ｃ	Ｄ－ｂ	Ｆ－ａ	Ｆ－ａ	Ｃ－ａ	Ｆ－ａ	Ｄ－ｂ	Ｄ－ｂ	Ｃ－ｂ	Ｃ－ａ	Ｆ－ｂ
水鉢・花生タイプ		－	1	3	3	－	3	2	2	－	－	1
寸法（cm）	総奥行	35.0	45.3	20.0	23.3	24.6	23.8	41.2	50.3	16.2	13.8	35.8
	総幅	54.4	55.0	22.5	30.9	25.1	30.1	48.4	60.4	30.0	21.4	42.0
	総高	22.0	23.0	8.5	14.9	7.4	13.0	26.7	33.4	9.0	1.7	11.1
	下高	20.8	18.3	－	－	5.1	－	22.5	28.1	6.3	11.2	－
	上奥行	25.4	21.1	－	－	19.3	－	20.5	25.0	12.7	10.4	－
	上幅	42.6	40.6	－	－	16.8	－	35.5	47.8	22.2	13.2	－
	前部高	－	14.7	－	－	－	－	15.5	24.2	－	－	－
ホゾ		凹	凹	－	－	－	－	凹	凹	凹	－	凹
石材		花崗岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	花崗岩
観察備考												

報告番号		台 66	台 67
トレンチ		4	4
出土地点		重機掘削	重機掘削
型式		F	−
水鉢・花生タイプ		1	−
寸法（cm）	総奥行	32.0	(33.2)
	総幅	(21.5)	(20.2)
	総高	13.7	(9.2)
	下高	−	−
	上奥行	−	−
	上幅	−	−
	前部高	−	−
ホゾ		−	−
石材		花崗岩	閃緑岩
観察備考			

北地区ほか出土台座

報告番号		台 68	台 69	台 70	台 71
トレンチ		3 トレンチ東側	3 トレンチ東側	3 トレンチ東側	3 トレンチ東側
出土地点		重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
型式		F − b	D − b	F − b	F − b
水鉢・花生タイプ		1	1	3	3
寸法（cm）	総奥行	32.0	−	24.0	−
	総幅	40.0	−	−	−
	総高	19.0	34.0	12.0	11.0
	下高	−	−	−	−
	上奥行	−	30.0	−	−
	上幅	−	44.0	−	−
	前部高	−	−	−	−
ホゾ		凹	凹	凹	凹
石材		花崗岩	花崗岩	花崗岩	花崗岩
観察備考					

南地区出土笠塔婆（笠部）

報告番号		笠 1	笠 2	笠 3	笠 4	笠 5	笠 6	笠 7	笠 8	笠 9	笠 10
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群 4 S T 24	墓群 4 S T 24	墓群 5 a S K 30	墓群 8 S K 40	墓群 8 S K 40	墓群 10 b S K 50	墓群 13 S T 144	墓群 15 a S K 167	墓群 15 a S K 167	墓群 16 b S K 157
寸法（cm）	幅	52.2	47.3	45.6	76	66.1	21.2	28.9	33.1	34.3	33.2
	高	20.6	15.9	22	18.2	25.9	7	9.2	12.9	13.6	12.0
	奥行	33.3	22	24.5	34.6	37.6	14.9	15.8	18.3	21.4	18.7
	a	8.7	8.5	8.5	10.9	9.2	1.8	2.6	6.1	6.4	7.3
	b	6.0	4.5	4.7	5.9	6.1	1.8	2.6	5.0	3.5	5.2
	c	−	−	−	−	−	−	−	2.6	−	2.6
ホゾ			凹	凹	凹	凹	−	−	凹	凹	凹
観察備考			一部未調整		碑 29・台 14 とセット				背面調整雑		

報告番号		笠 11	笠 12	笠 13	笠 14	笠 15	笠 16	笠 17
トレンチ		4	4	4	4	4	4	4
出土地点		墓群 16 b S K 157	墓群 16 a S T 240	墓群 16 S T 460	重機掘削	重機掘削	重機掘削	重機掘削
寸法（cm）	幅	37.2	31.3	49	34	32.9	48.3	62.8
	高	13.5	11.2	21.1	15	11	17.5	28.2
	奥行	23.9	17.9	33.9	22.5	21.5	37.9	36.6
	a	2.3	7.3	8.1	7.7	2.3	6.5	12.2
	b	2.3	4.7	4.3	5.7	2.3	4.5	7.3
	c	−	2.3	−	3.1	−	−	−
ホゾ		−	凹	−	−	凹	−	−
観察備考		背面調整雑、一部欠損	側面に溝無				一部未調整	

南地区出土石仏

元番号		仏 1	仏 2	仏 3	仏 4
トレンチ		4	4	4	4
出土地点		S E 113	重機掘削	重機掘削	−
寸法（cm）	幅	36.8	31.1	38.4	38.1
	高	31.9	43.6	58.8	24.1
	仏高	20.5	21.6	52.5	19.8
	奥行	17	17.6	21.5	19.5
	仏奥行	3.6	計測無	6.9	8.7
観察備考		口に紅あり			

北地区出土石仏

元番号		仏 5
トレンチ		6
出土地点		S X 10
寸法（cm）	幅	12.8
	高	14.9
	仏高	9.7
	奥行	12.6
	仏奥行	1.1
観察備考		

図　　版

図版第１　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区北西部(６トレンチ)全景(北西から)



(2)北地区北西部(６トレンチ)全景(南西から)

図版第２　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区北西部(６トレンチ)全景(南東から)



(2)北地区中央部(１トレンチ)全景(北から)

図版第３　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区溝ＳＤ18(南から)



(2)北地区溝ＳＤ18(北から)

図版第４　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区溝ＳＤ18断面(北から)



(2)北地区溝ＳＤ18(南西から)

図版第５　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区土坑ＳＫ20(東から)



(2)北地区土坑ＳＫ20(北から)



(1)北地区土坑ＳＫ01・02(東から)



(2)北地区土坑ＳＫ03(西から)



(1)北地区柱穴ＳＰ13 ～ 17、土坑ＳＫ10(西から)



(2)北地区土坑ＳＫ10断面(南から)



(1)北地区土坑ＳＫ09・21(南から)



(2)北地区土坑ＳＫ21断面(南から)

図版第９　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区土坑ＳＫ08断面(南から)



(2)北地区土坑ＳＫ08(南から)



(1)北地区井戸ＳＥ29(南から)



(2)北地区井戸ＳＥ29(北西から)

図版第 11　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区溝ＳＤ12・23(西から)



(2)北地区土坑ＳＫ19断面(西から)

図版第 12　寺町旧域・法成寺跡

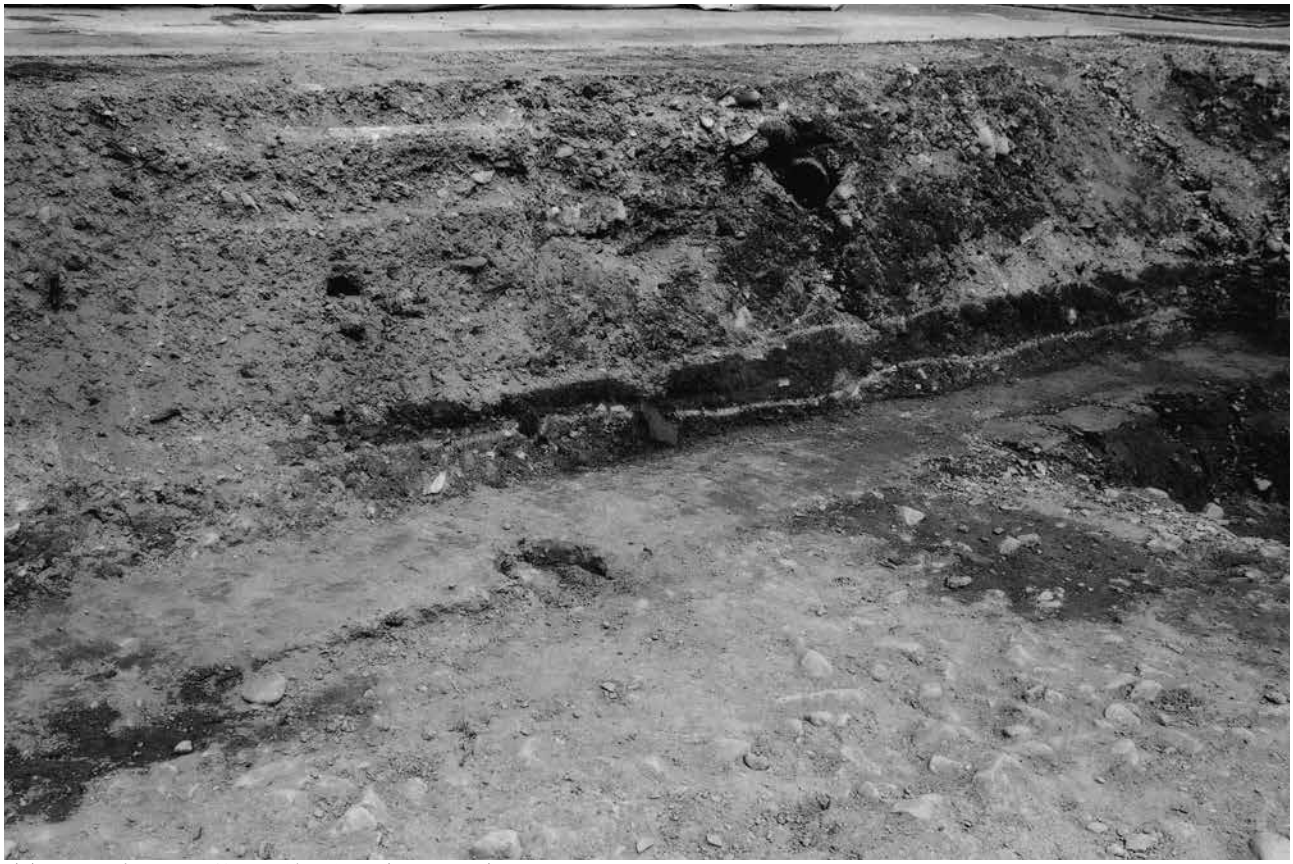


(1)北地区土坑ＳＫ04(南から)



(2)北地区土坑ＳＫ04(北西から)

図版第 13　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区寺町旧域整地面検出状況(北西から)



(2)北地区寺町旧域整地面検出状況(北西から)

図版第 14　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区土坑ＳＫ01(南から)



(2)北地区柱穴ＳＰ15(南から)



(3)北地区柱穴ＳＰ11(南から)

図版第 15　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区柱穴ＳＰ06(南から)



(2)北地区柱穴ＳＰ05(東から)

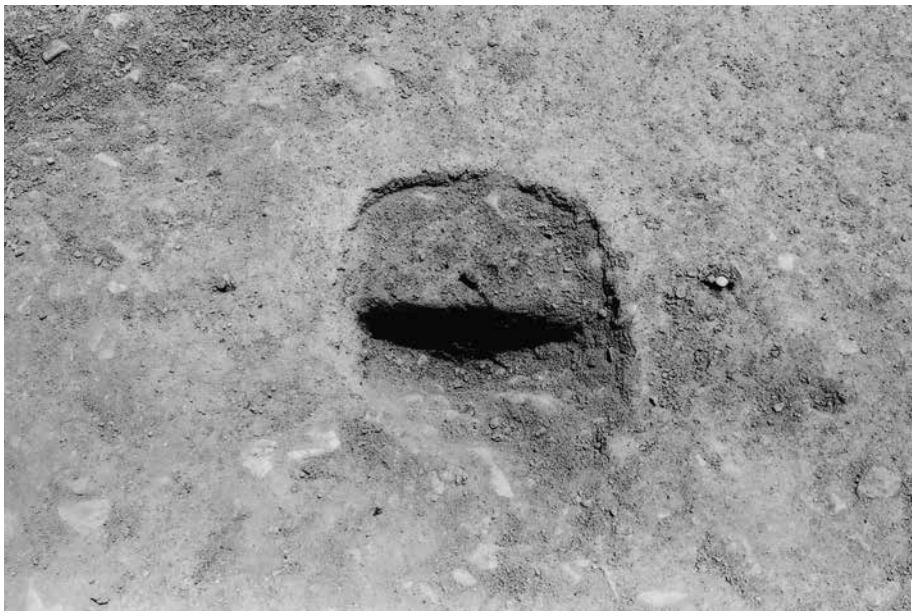


(3)北地区柱穴ＳＰ07(北から)

図版第 16　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区柱穴ＳＰ17(南から)

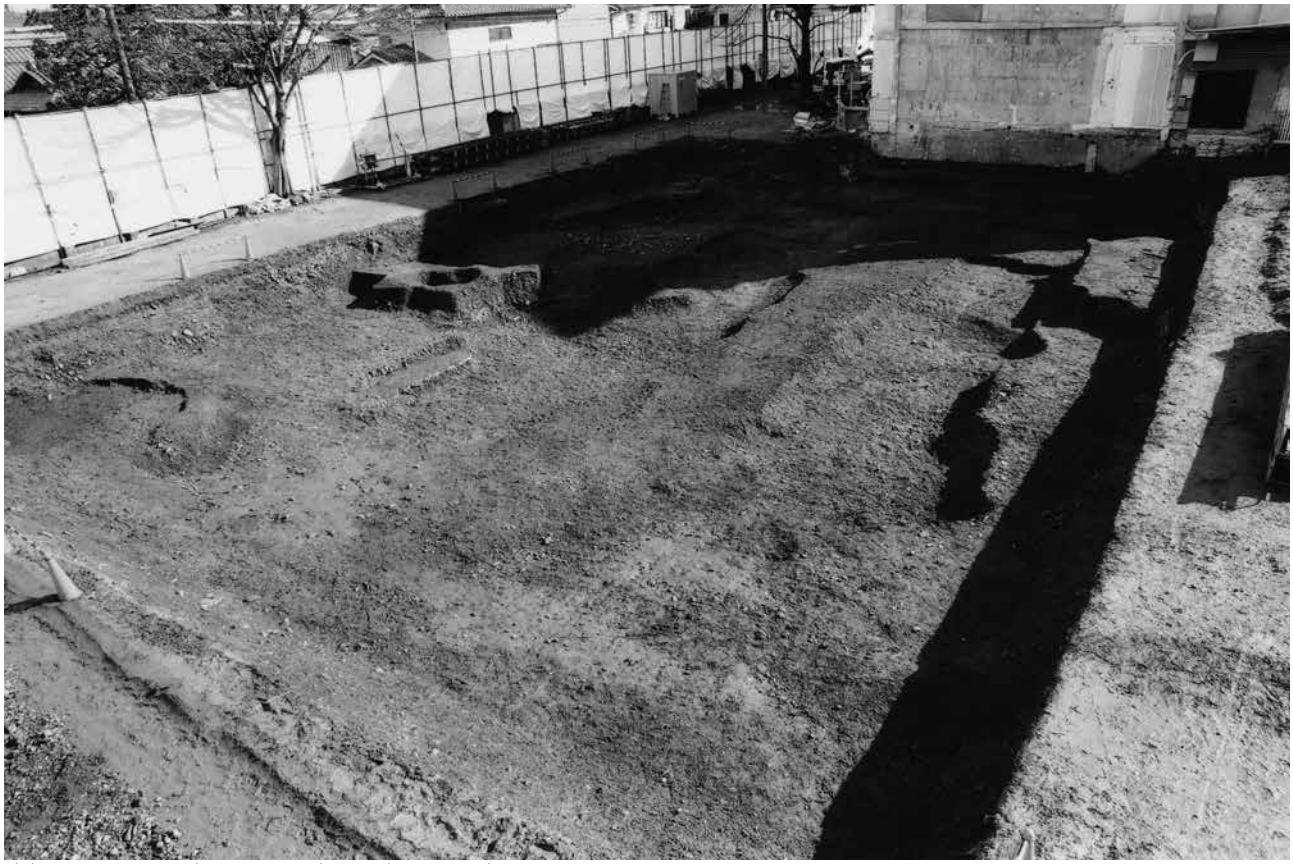


(2)北地区柱穴ＳＰ51(西から)



(3)北地区柱穴ＳＰ54(西から)

図版第 17　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区北東部(３トレンチ)全景(北西から)



(2)北地区北東部(３トレンチ)全景(南東から)



(1)北地区柱穴ＳＰ31 ～ 33・土坑ＳＫ30・34・35検出状況(西から)



(2)北地区土坑ＳＫ36(南西から)



(1)北地区溝ＳＤ37(南から)



(2)北地区土坑ＳＫ42・43、柱穴ＳＰ44・45(南東から)

図版第 20　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区溝ＳＤ91、柱穴ＳＰ92・93(南東から)



(2)北地区土坑ＳＫ97・99、溝ＳＤ100(北西から)



(1)北地区土坑ＳＫ96(南から)



(2)北地区土坑ＳＫ96断面(西から)



(1)北地区土坑ＳＫ96礎石(南東から)



(2)北地区土坑ＳＫ96(西から)



(1)北地区土坑ＳＫ96(南から)



(2)北地区土坑ＳＫ97・99(西から)



(1)北地区土坑ＳＫ99断面(西から)



(2)北地区土坑ＳＫ97(西から)



(1)北地区溝ＳＤ100(東から)



(2)北地区溝ＳＤ100断面(東から)



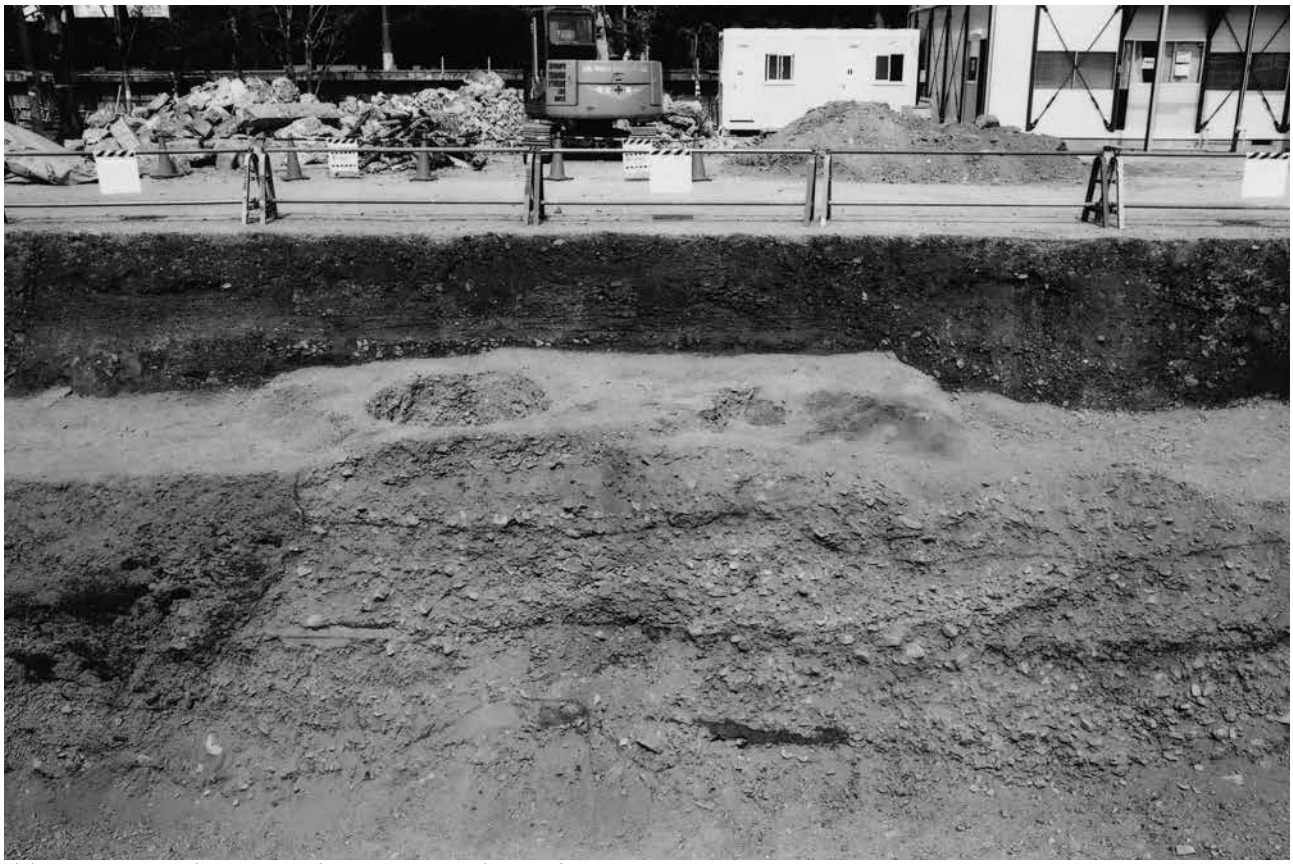
(1)北地区土坑ＳＫ101(東から)



(2)北地区土坑ＳＫ101断面(東から)



(1)北地区北西部(６トレンチ)断ち割り状況(南東から)



(2)北地区北西部(６トレンチ)断ち割り断面(東から)

図版第 28　寺町旧域・法成寺跡



(1)北地区中央部(３トレンチ)断面(東から)



(2)北地区北東部(３トレンチ)断ち割り状況(西から)

図版第 29　寺町旧域・法成寺跡



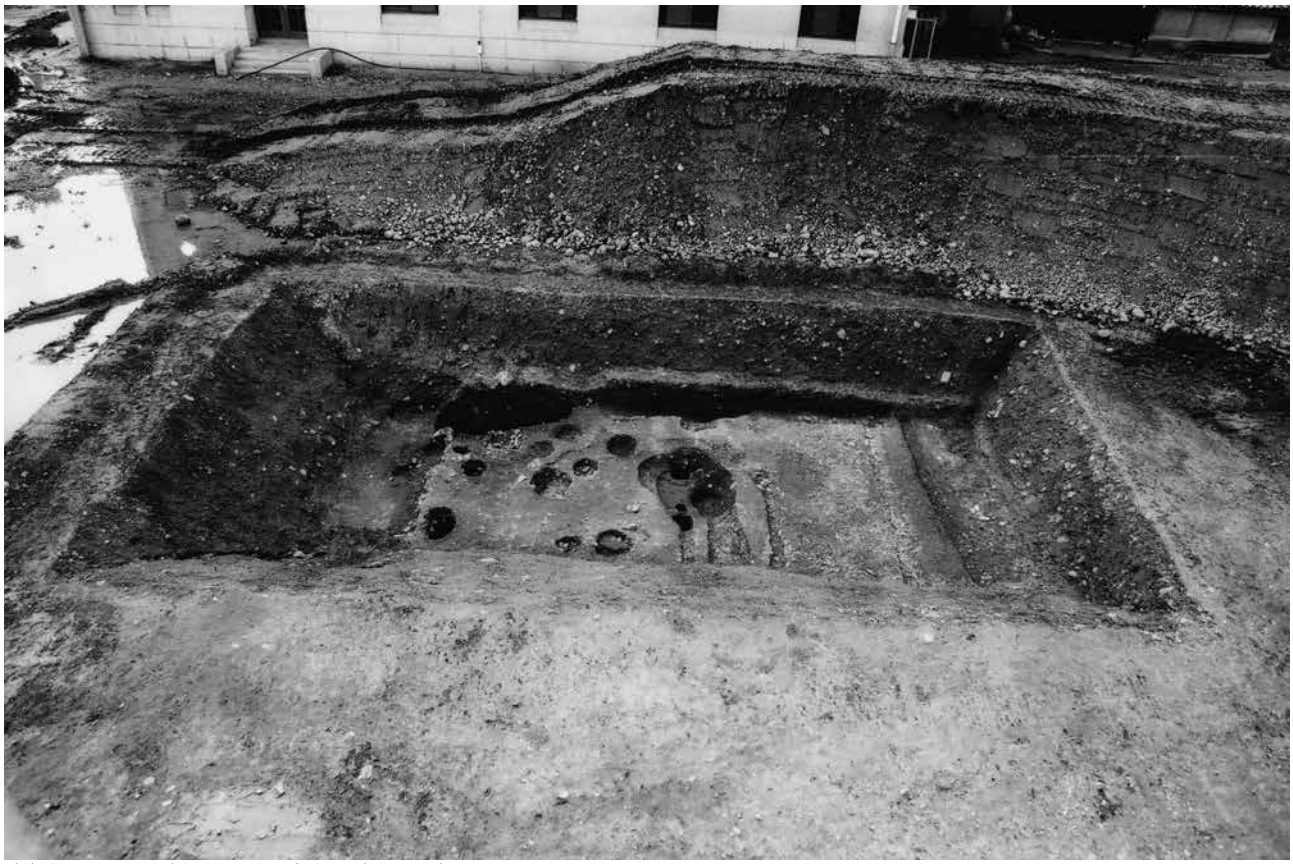
(1)北地区南部(８トレンチ)断ち割り状況(北西から)



(2)北地区西部(11トレンチ)断面(南から)



(1)南地区北部(５トレンチ)全景(北から)



(2)南地区北部(５トレンチ)全景(東から)

図版第 31　寺町旧域・法成寺跡



(1)南地区中央部（２トレンチ西半）（南から）



(2)南地区中央部（２トレンチ東半）（南から）



(1)南地区柵列ＳＡ01(東から)



(2)南地区中央部(２トレンチ東半)柱穴群(東から)



(1)南地区建物ＳＢ01(西から)



(2)南地区瓦敷ＳＸ529(東から)



(1)南地区瓦列ＳＸ629(西から)



(2)南地区瓦列ＳＸ629(東から)



(1)南地区瓦列ＳＸ630(南から)



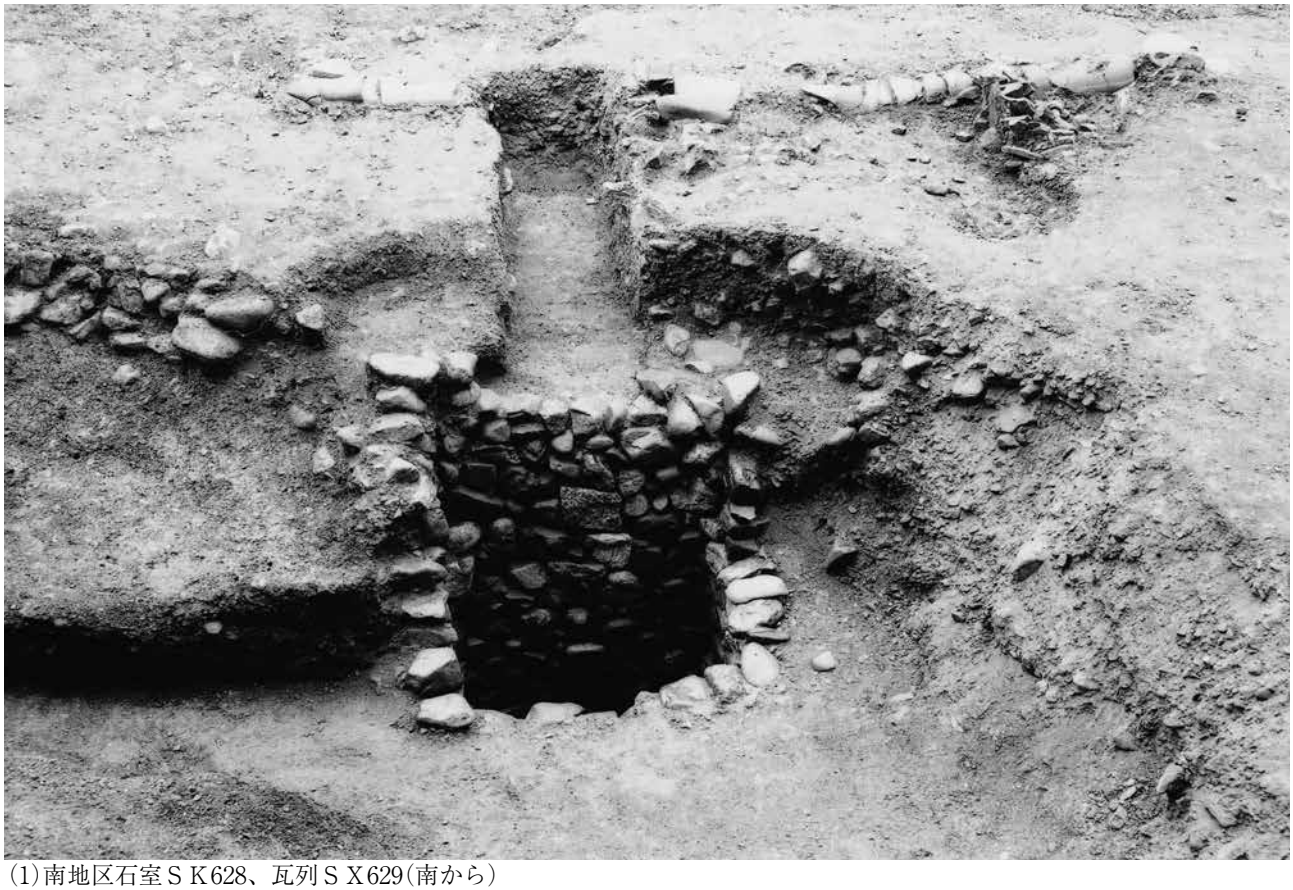
(2)南地区瓦列ＳＸ630(北から)



(1)南地区瓦列ＳＸ630(西から)



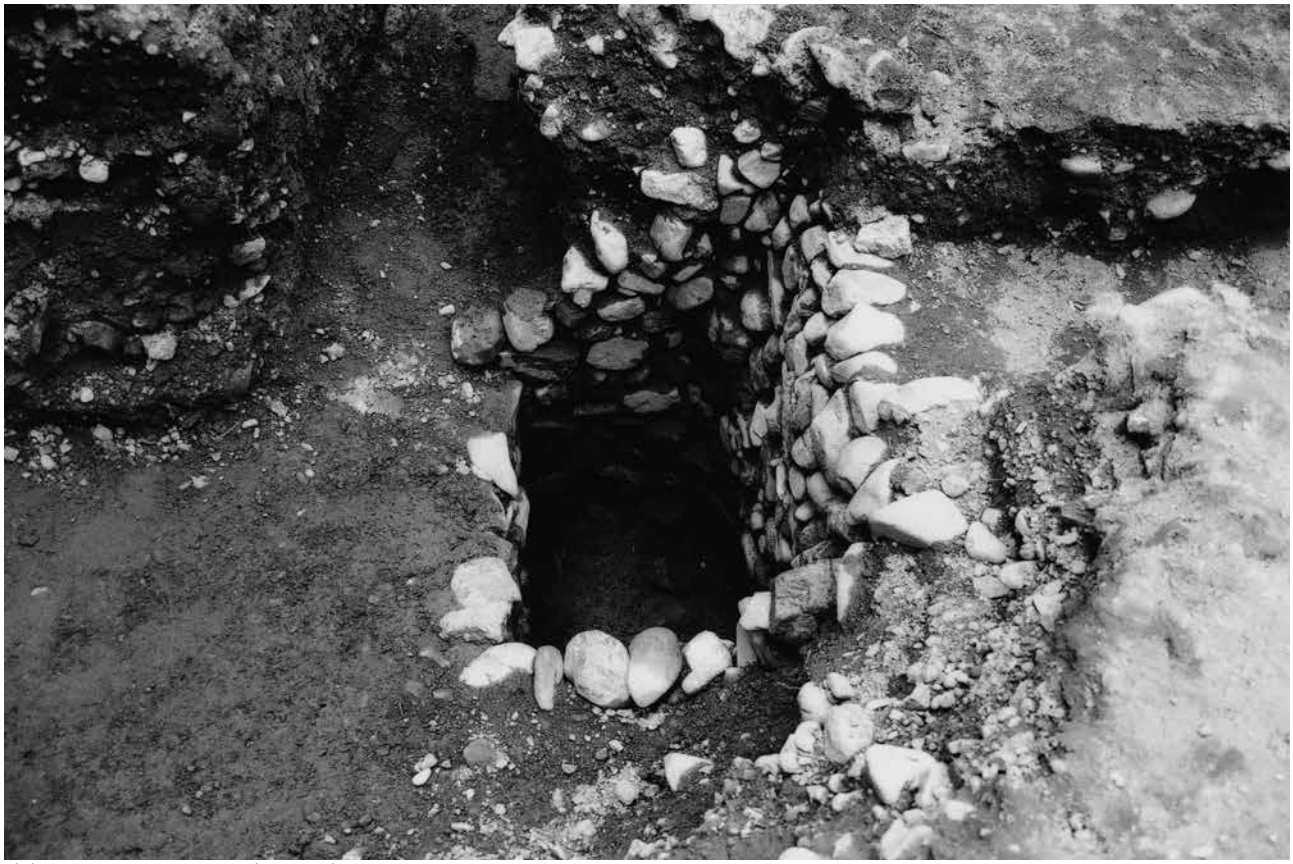
(2)南地区石室ＳＫ628断面(南から)



(1)南地区石室ＳＫ628、瓦列ＳＸ629(南から)



(2)南地区石室ＳＫ628(南から)



(1)南地区石室ＳＫ628(東から)



(2)南地区不明遺構ＳＸ609(南から)



(1)南地区不明遺構ＳＸ631(西から)



(2)南地区土坑ＳＫ526東半(西から)



(1)南地区土坑ＳＫ526東半(東から)



(2)南地区土坑ＳＫ526断面(東から)

図版第 41　寺町旧域・法成寺跡



(1)南地区南西部(７トレンチ)(東から)



(2)南地区南西部(７トレンチ)(東から)



(1)南地区溝ＳＤ738、礫敷ＳＸ739、溝ＳＤ741(南東から)



(2)南地区溝ＳＤ738、礫敷ＳＸ739(南東から)



(1)南地区溝ＳＤ741(東から)



(2)南地区溝ＳＤ741(南東から)

図版第 44　寺町旧域・法成寺跡



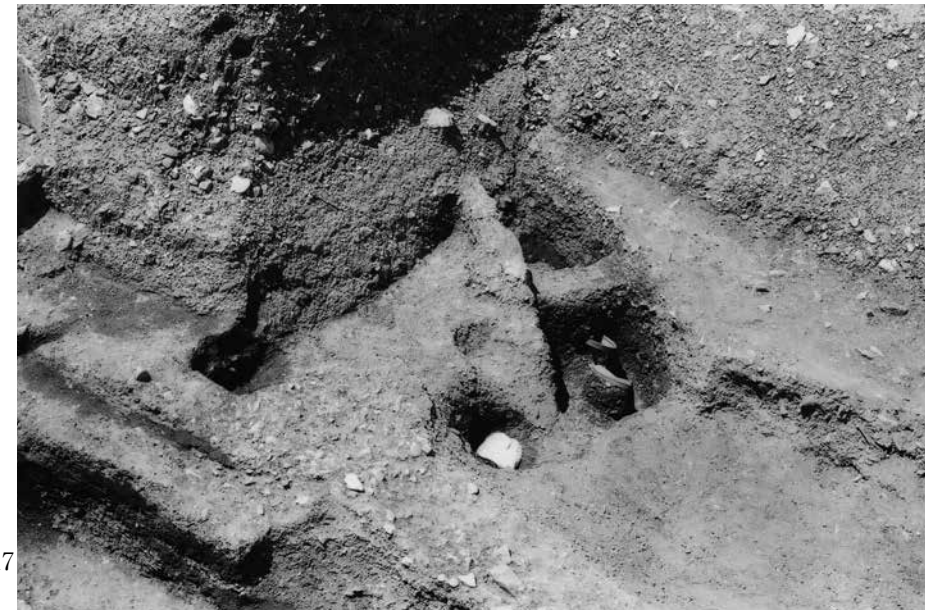
(1)南地区溝ＳＤ738断面
（第42図ａ－ａ’・西から）



(2)南地区溝ＳＤ741断面
（第43図ｂ－ｂ’・東から）



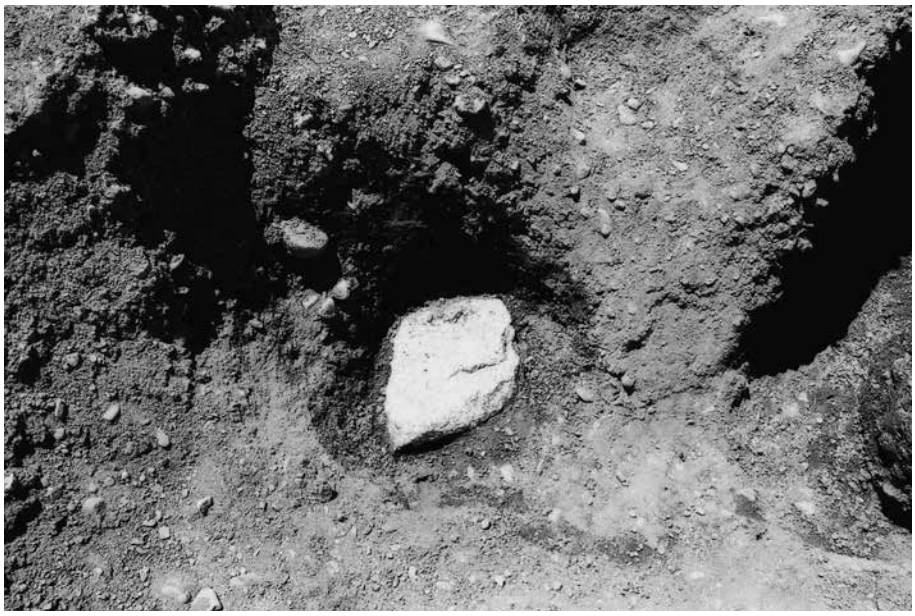
(3)南地区溝ＳＤ741断面
（第43図ａ－ａ’・東から）



(1)南地区柱穴ＳＰ714、溝ＳＤ817
（南東から）



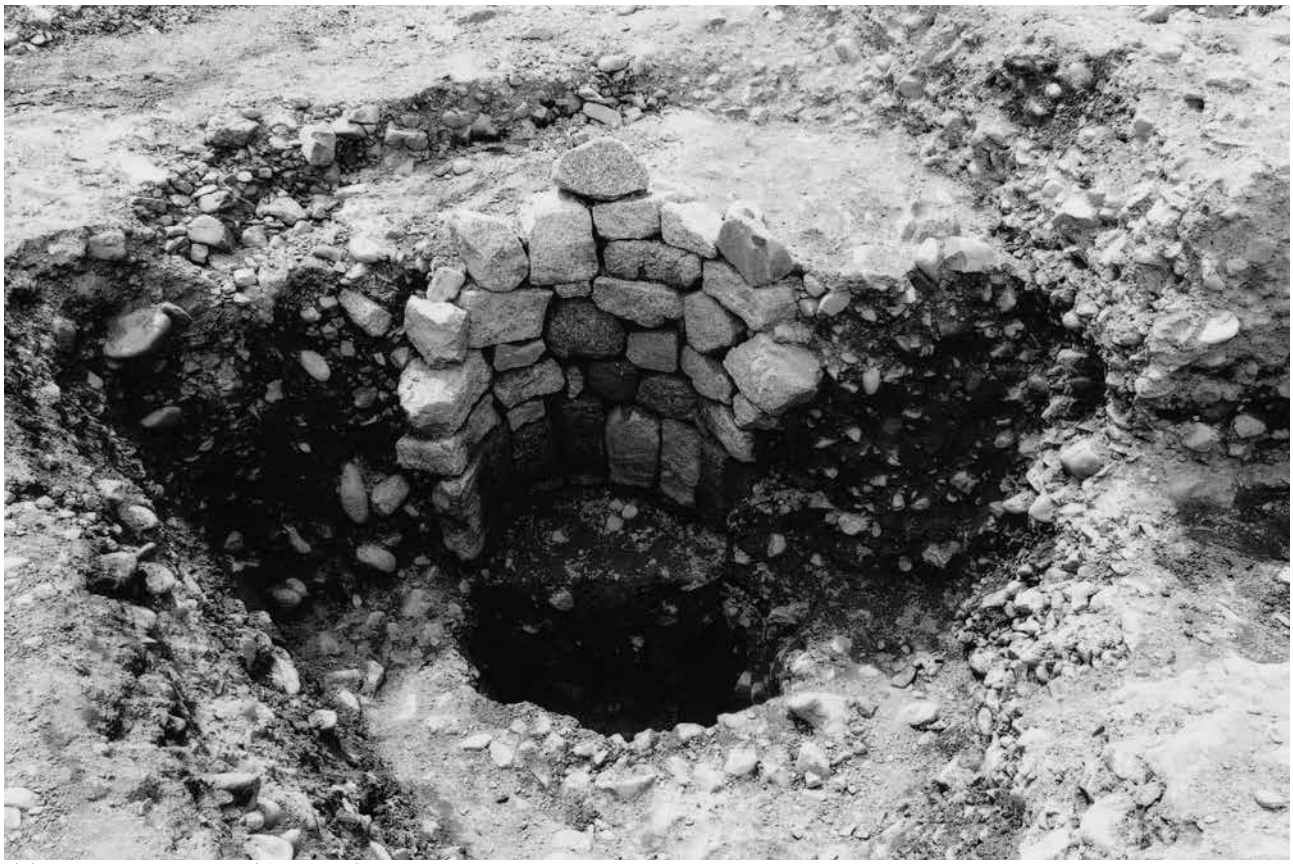
(2)南地区溝ＳＤ817
（南東から）



(3)南地区柱穴ＳＰ714
（南東から）



(1)南地区井戸ＳＥ711(南東から)



(2)南地区井戸ＳＥ711(南東から)



(1)南地区井戸ＳＥ706・707(東から)



(2)南地区井戸ＳＥ706(西から)



(1)南地区溝ＳＤ124(北から)



(2)南地区溝ＳＤ124(北東から)



(1)南地区溝ＳＤ124(北から)



(2)南地区南西部(７トレンチ)断面(南東から)

図版第 50　寺町旧域・法成寺跡



(1)南地区北部(９トレンチ)全景
（北西から）



(2)南地区北部(９トレンチ)断面
（北西から）



(3)南地区北部(10トレンチ)断面
（東から）

図版第 51　寺町旧域・法成寺跡



(1)南地区北東部(４トレンチ)検出状況(南西から)

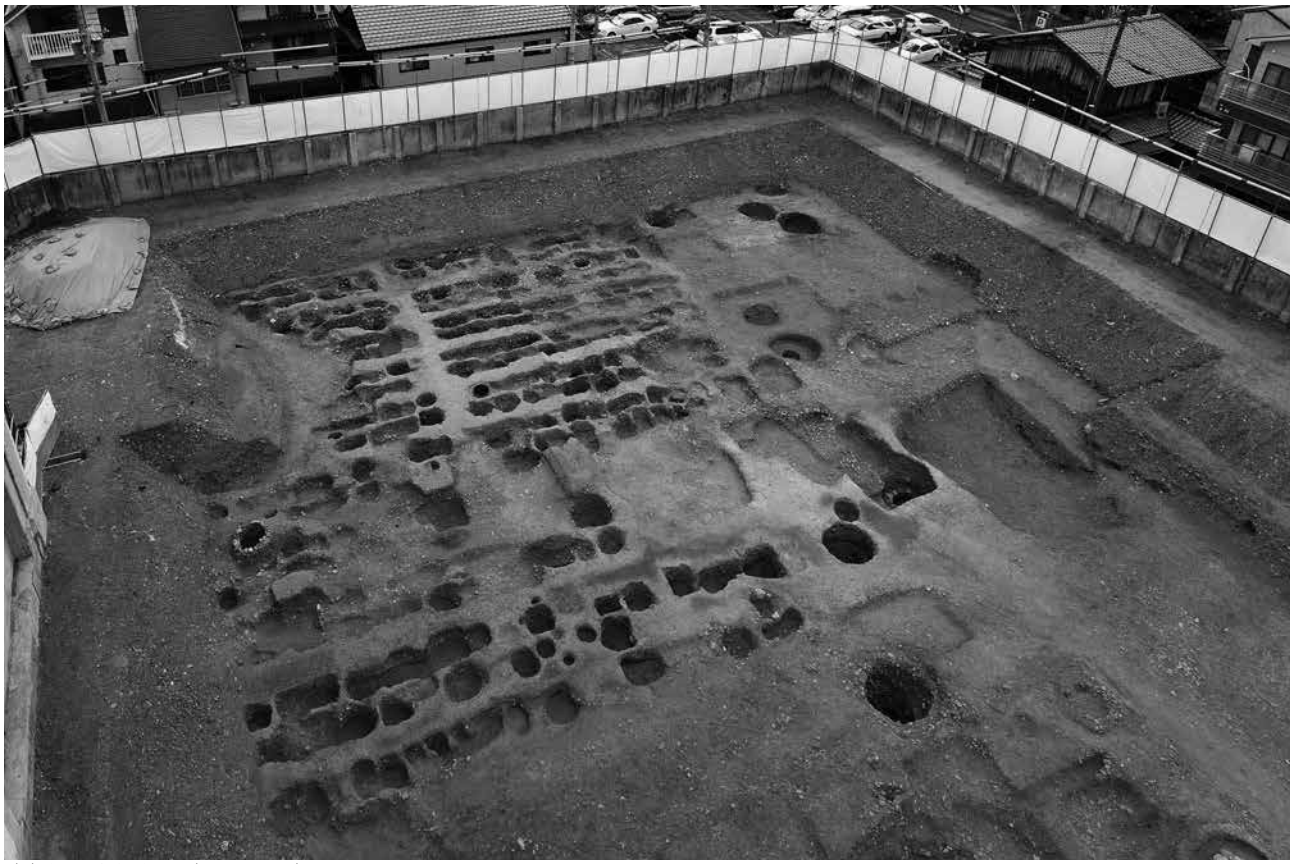


(2)墓地完掘状況(北から)

図版第 52　寺町旧域・法成寺跡



(1)墓地完掘状況(西から)



(2)墓地完掘状況(北西から)

図版第 53　寺町旧域・法成寺跡



(1)墓地東壁断面(南西から)



(2)墓地東壁断面(西から)

図版第 54　寺町旧域・法成寺跡



(1)墓地墓群２検出状況(北から)



(2)墓地墓群２墓穴ＳＴ87付近断面(北東から)



(1)墓地墓群２墓穴ＳＴ85(北西から)



(2)墓地墓群２墓穴ＳＴ85(北西から)



(1)墓地墓群２墓穴ＳＴ85遺物出土状況(北から)



(2)墓地墓群２墓穴ＳＴ21人骨・遺物出土状況(北から)



(1)墓地墓群２墓穴ＳＴ47銭貨出土状況(北西から)



(2)墓地墓群２土坑ＳＫ66墓石出土状況(北から)



(1)墓地墓群３不明土坑ＳＸ363断面(西から)



(2)墓地墓群３墓穴ＳＴ55墓石出土状況(東から)



(1)墓地墓群３墓穴ＳＴ55甕棺出土状況(東から)



(2)墓地墓群３墓穴ＳＴ55甕棺内墓石出土状況(東から)

図版第 60　寺町旧域・法成寺跡



(1)墓地墓群３墓穴ＳＴ55甕棺完掘状況(東から)



(2)墓地墓群３墓穴ＳＴ355遺物出土状況(西から)



(1)墓地墓群３墓穴ＳＴ190墓石出土状況(西から)



(2)墓地墓群３土坑ＳＫ78遺物出土状況(北から)



(1)墓地墓群４墓穴ＳＴ24墓石出土状況(東から)



(2)墓地墓群４墓穴ＳＴ24断面(南から)



(1)墓地墓群４墓穴ＳＴ24断面(南から)



(2)墓地墓群４墓穴ＳＴ24棺痕跡(南から)



(1)墓地墓群４墓穴ＳＴ197遺物出土状況(南から)



(2)墓地墓群４墓穴ＳＴ197遺物出土状況(南から)



(1)墓地墓群５土坑ＳＫ30上層墓石出土状況(南から)



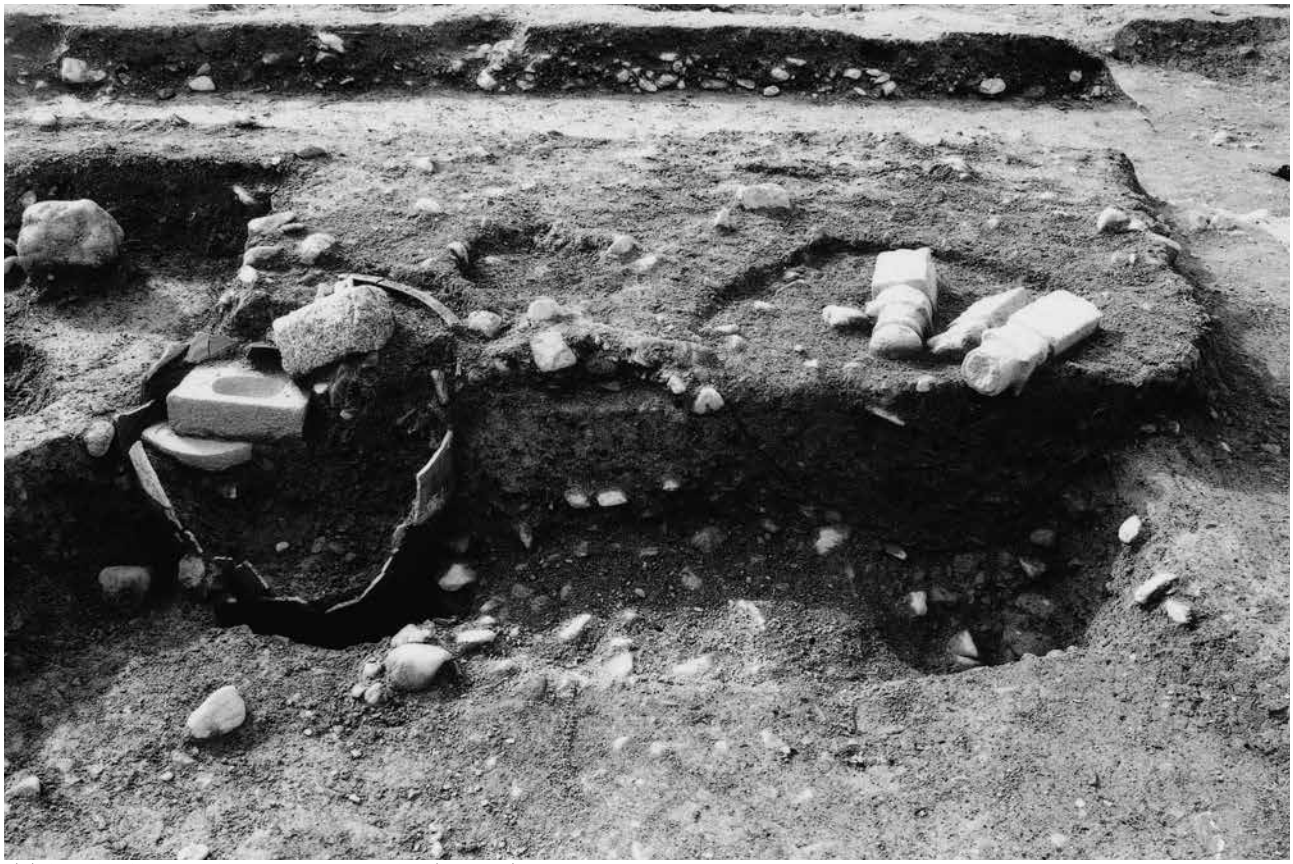
(2)墓地墓群５土坑ＳＫ30下層墓石出土状況(東から)



(1)墓地墓群５墓穴ＳＴ31人骨出土状況(西から)



(2)墓地墓群５墓穴ＳＴ31木質断面(北西から)



(1)墓地墓群６・７墓穴ＳＴ48・49断面(北から)



(2)墓地墓群７墓穴ＳＴ49甕棺検出状況(北から)



(1)墓地墓群７墓穴ＳＴ49甕棺内断面(北から)



(2)墓地墓群７墓穴ＳＴ49甕棺完掘状況(北から)



(1)墓地墓群８土坑ＳＫ40墓石出土状況(北から)



(2)墓地墓群９墓穴ＳＴ29断面(北から)



(1)墓地墓群９墓穴ＳＴ29甕棺内断面(北から)



(2)墓地墓群９墓穴ＳＴ29甕棺完掘状況(北から)



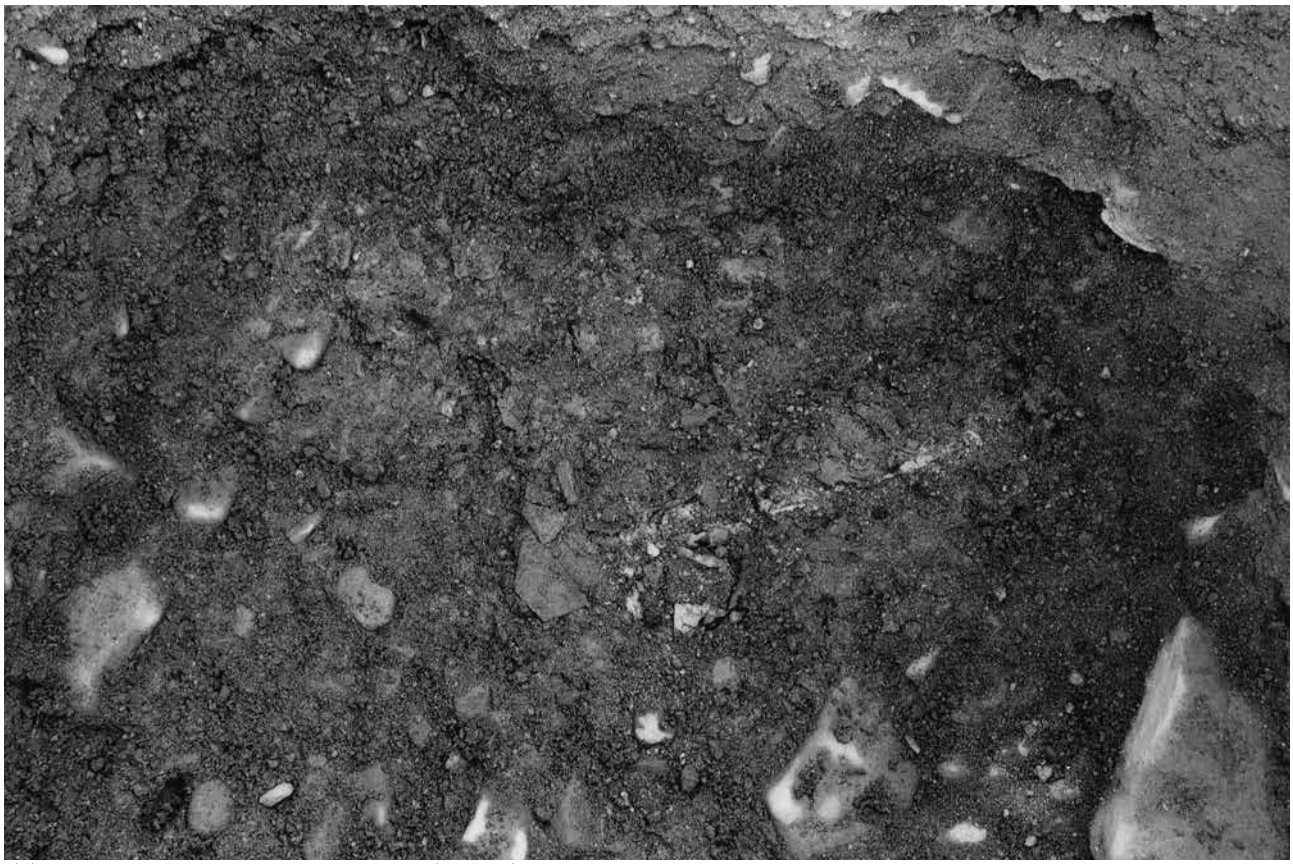
(1)墓地墓群10墓穴ＳＴ50断面(西から)



(2)墓地墓群10墓穴ＳＴ50蔵骨器出土状況(西から)



(1)墓地墓群11墓穴ＳＴ69木質出土状況(東から)



(2)墓地墓群11墓穴ＳＴ69漆器出土状況(東から)

図版第 73　寺町旧域・法成寺跡



(1)墓地墓群11墓穴ＳＴ70木質・遺物出土状況(東から)



(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ62付近断面(北東から)



(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ62人骨出土状況(東から)



(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ54(東から)



(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ54甕棺検出状況(東から)



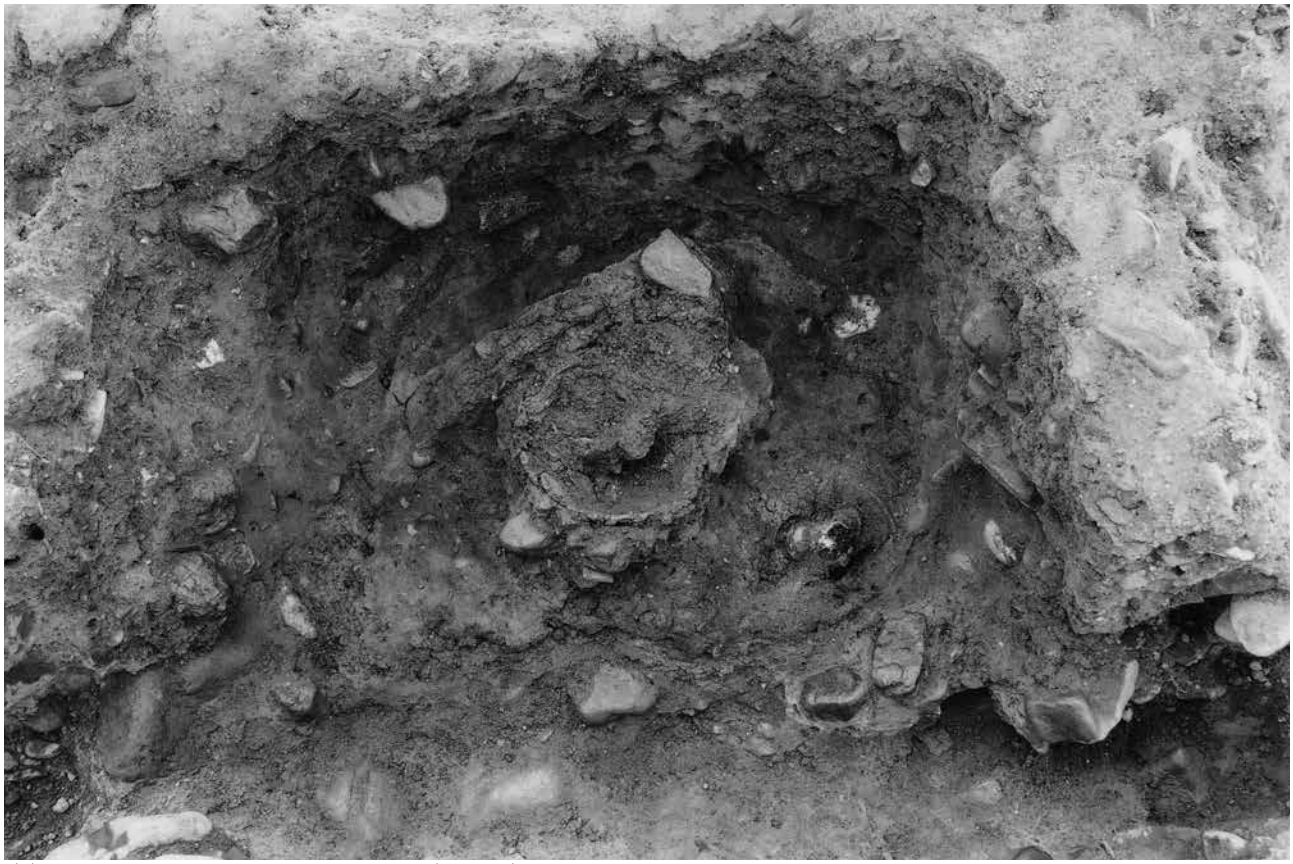
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ54甕棺内人骨出土状況(東から)



(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ54甕棺完掘状況(東から)



(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ54断面(東から)



(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ63人骨出土状況(東から)



(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ56・57断面(東から)



(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ56人骨・遺物出土状況(西から)



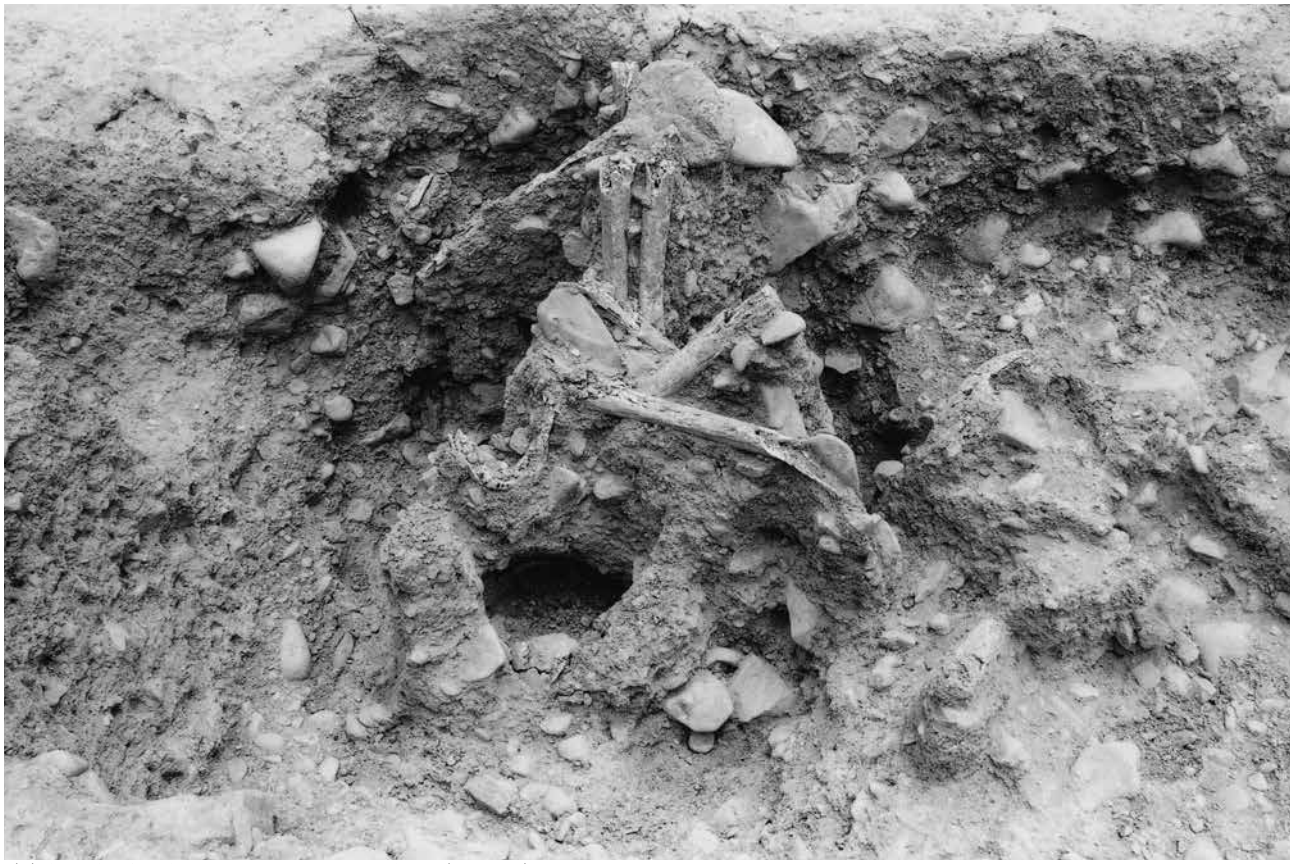
(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ196付近断面(北西から)



(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ218人骨出土状況(西から)



(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ219人骨・遺物出土状況(西から)



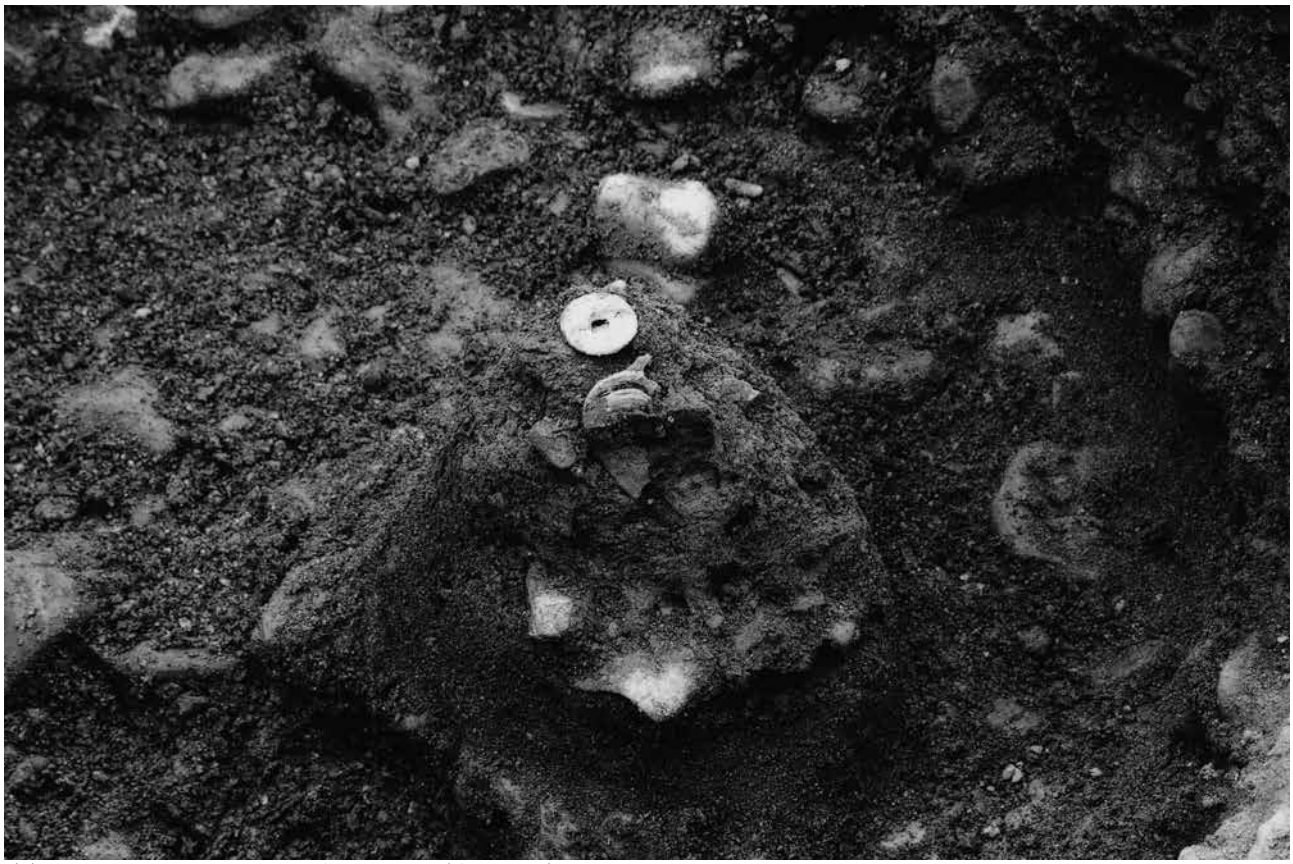
(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ162人骨出土状況(西から)



(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ162人骨出土状況(西から)



(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ162人骨・遺物出土状況(西から)



(2)墓地墓群12墓穴ＳＴ174銭貨出土状況(南西から)



(1)墓地墓群12墓穴ＳＴ164木質出土状況(東から)



(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ414付近断面(北東から)



(1)墓地墓群13墓穴ＳＴ144墓石出土状況(西から)



(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ215・226遺物出土状況(西から)



(1)墓地墓群13墓穴ＳＴ215断面(西から)



(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ215遺物出土状況(西から)



(1)墓地墓群13墓穴ＳＴ215遺物出土状況(北から)



(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ226遺物出土状況(西から)



(1)墓地墓群13墓穴ＳＴ140・141人骨出土状況(北から)



(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ140人骨出土状況(東から)



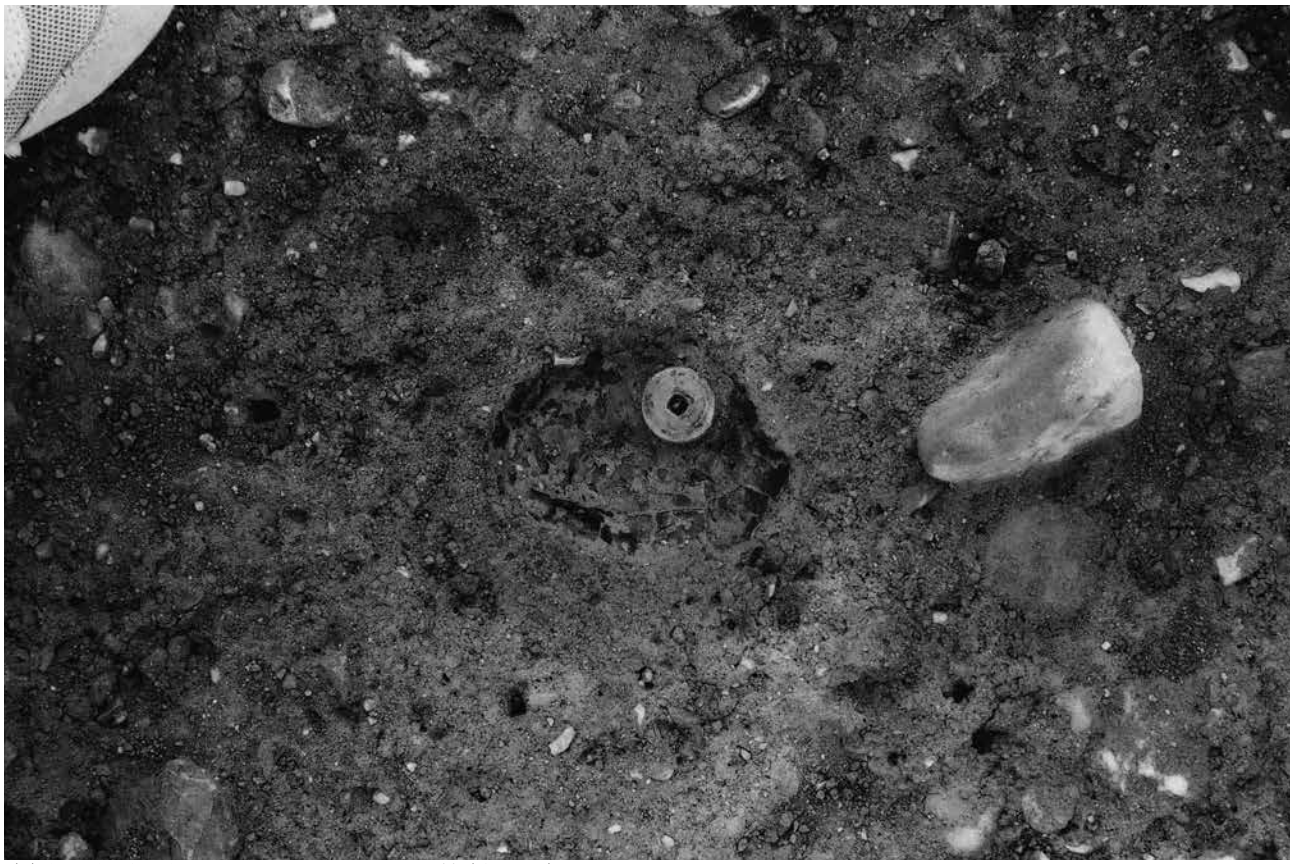
(1)墓地墓群13墓穴ＳＴ141人骨出土状況(南東から)



(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ158遺物出土状況(東から)



(1)墓地墓群13墓穴ＳＴ158南側出土漆器椀(東から)



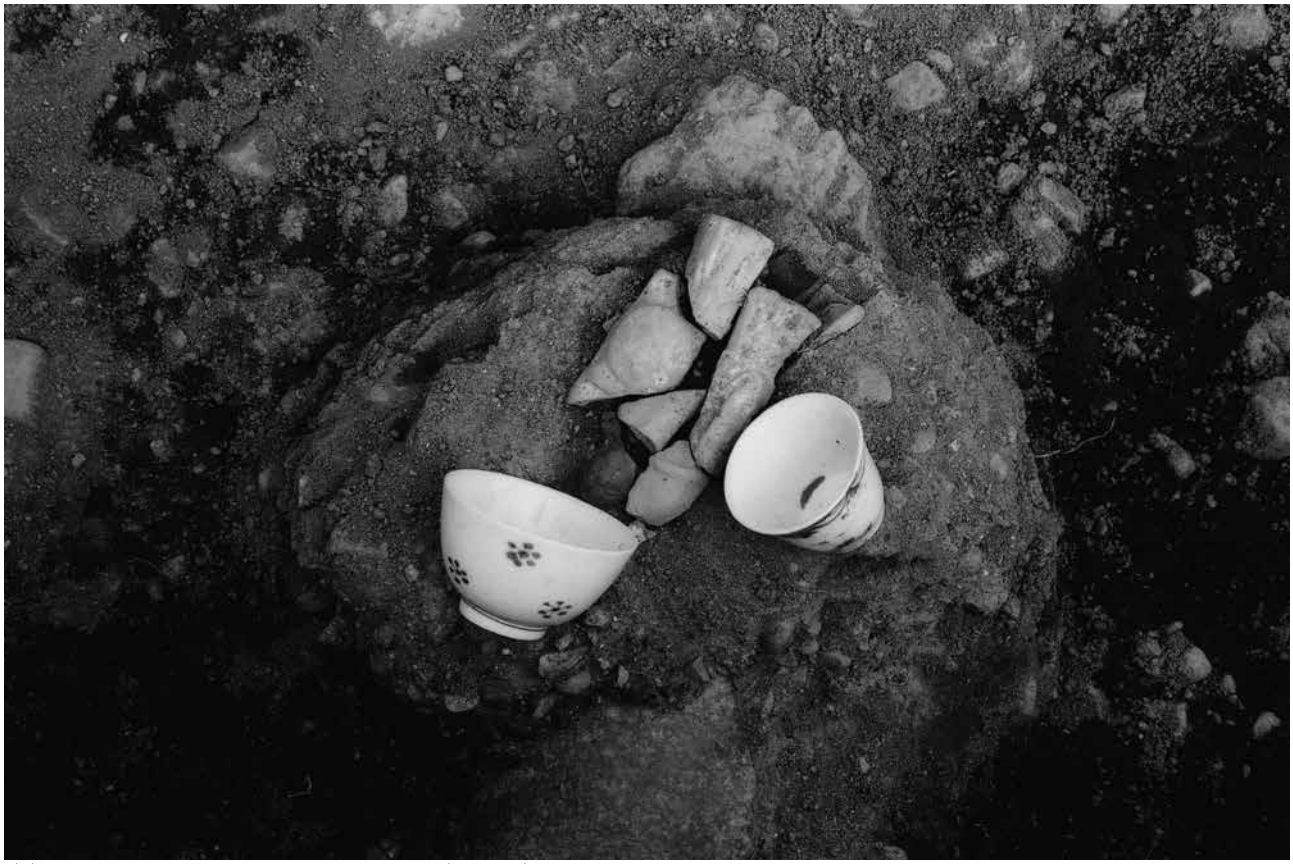
(2)墓地墓群13墓穴ＳＴ158北側出土漆器椀(東から)



(1)墓地墓群14土坑ＳＫ61上層墓石出土状況(北から)



(2)墓地墓群14土坑ＳＫ61下層墓石出土状況(南から)



(1)墓地墓群14墓穴ＳＴ424遺物出土状況(西から)



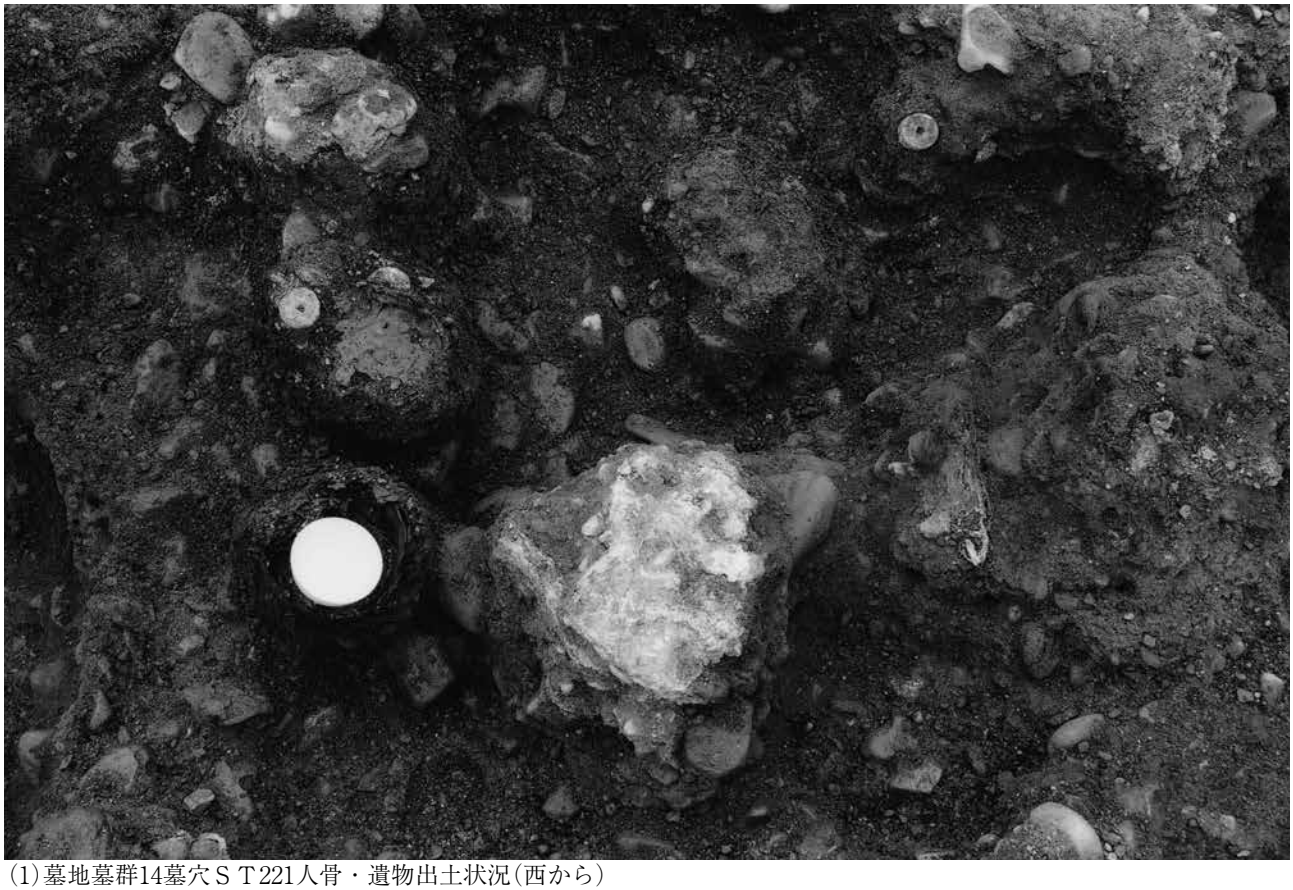
(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ191遺物出土状況(西から)



(1)墓地墓群14墓穴ＳＴ238蔵骨器出土状況(南から)



(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ224銭貨出土状況(東から)



(1)墓地墓群14墓穴ＳＴ221人骨・遺物出土状況(西から)



(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ207人骨・遺物出土状況(北東から)



(1)墓地墓群14墓穴ＳＴ201・202人骨・遺物出土状況(東から)



(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ201人骨出土状況(東から)



(1)墓地墓群14墓穴ＳＴ201人骨出土状況(北から)



(2)墓地墓群14墓穴ＳＴ189人骨・木質出土状況(西から)



(1)墓地墓群15土坑ＳＫ89墓石出土状況(南から)



(2)墓地墓群15墓穴ＳＴ148付近断面(北東から)



(1)墓地墓群15墓穴ＳＴ180人骨出土状況(西から)



(2)墓地墓群15墓穴ＳＴ179断面(東から)



(1)墓地墓群15墓穴ＳＴ179蔵骨器出土状況(東から)



(2)墓地墓群15墓穴ＳＴ179人骨出土状況(西から)



(1)墓地墓群15墓穴ＳＴ179南側人骨出土状況(西から)



(2)墓地墓群15墓穴ＳＴ179北側人骨出土状況(西から)



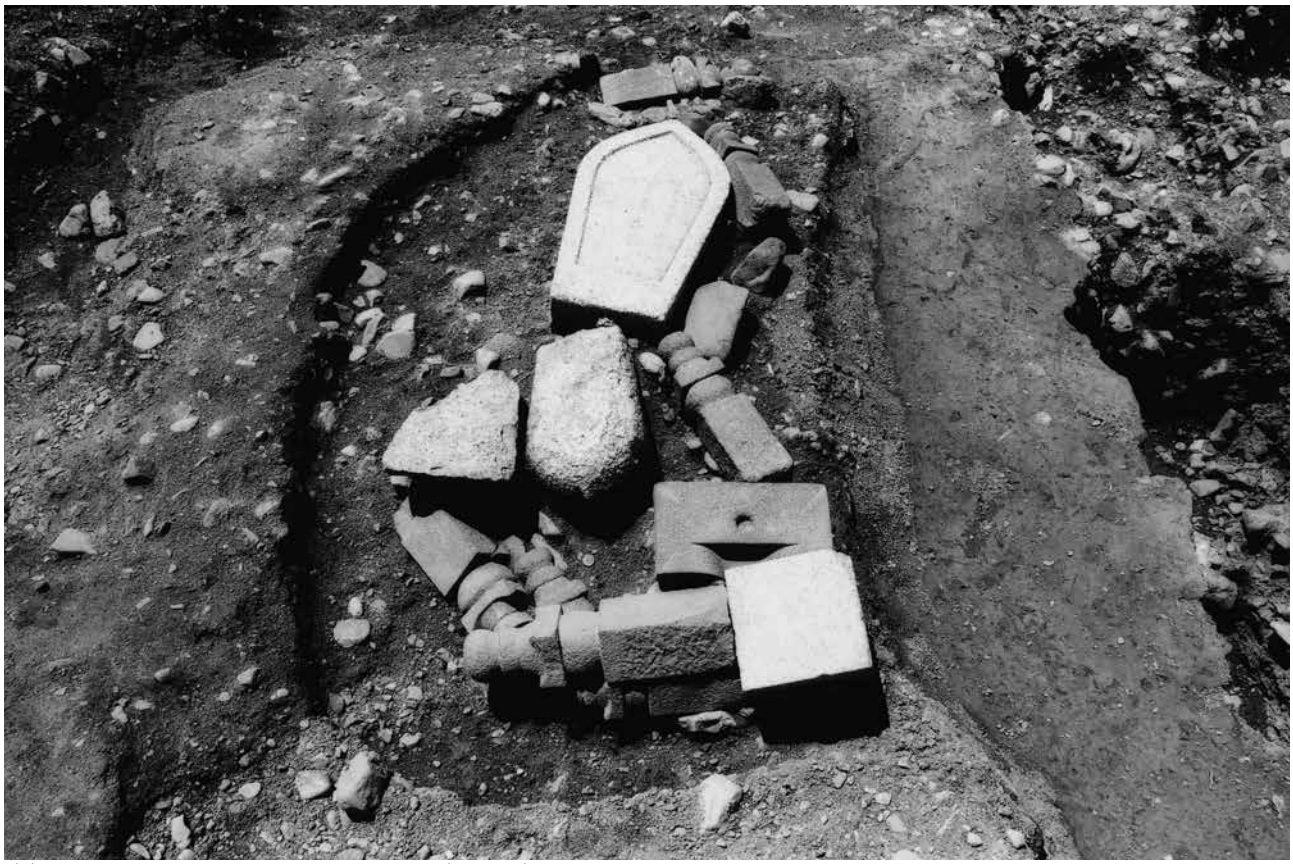
(1)墓地墓群15墓穴ＳＴ231・232・234・235人骨出土状況(南西から)



(2)墓地墓群15土坑ＳＫ167断面(南から)



(1)墓地墓群15墓穴ＳＴ192人骨出土状況(南から)



(2)墓地墓群16土坑ＳＫ157墓石出土状況(北から)



(1)墓地墓群16土坑ＳＫ157下層断面(南西から)



(2)墓地墓群16墓穴ＳＴ239・240人骨出土状況(西から)



(1)墓地墓群16墓穴ＳＴ239・240人骨出土状況(西から)



(2)墓地墓群16墓穴ＳＴ208断面(東から)



(1)墓地墓群16墓穴ＳＴ208人骨出土状況(東から)



(2)墓地墓群16墓穴ＳＴ456胞衣壺出土状況(西から)



(1)墓地墓群17墓穴ＳＴ81・469断面(南から)



(2)墓地墓群17墓穴ＳＴ81・469人骨出土状況(西から)



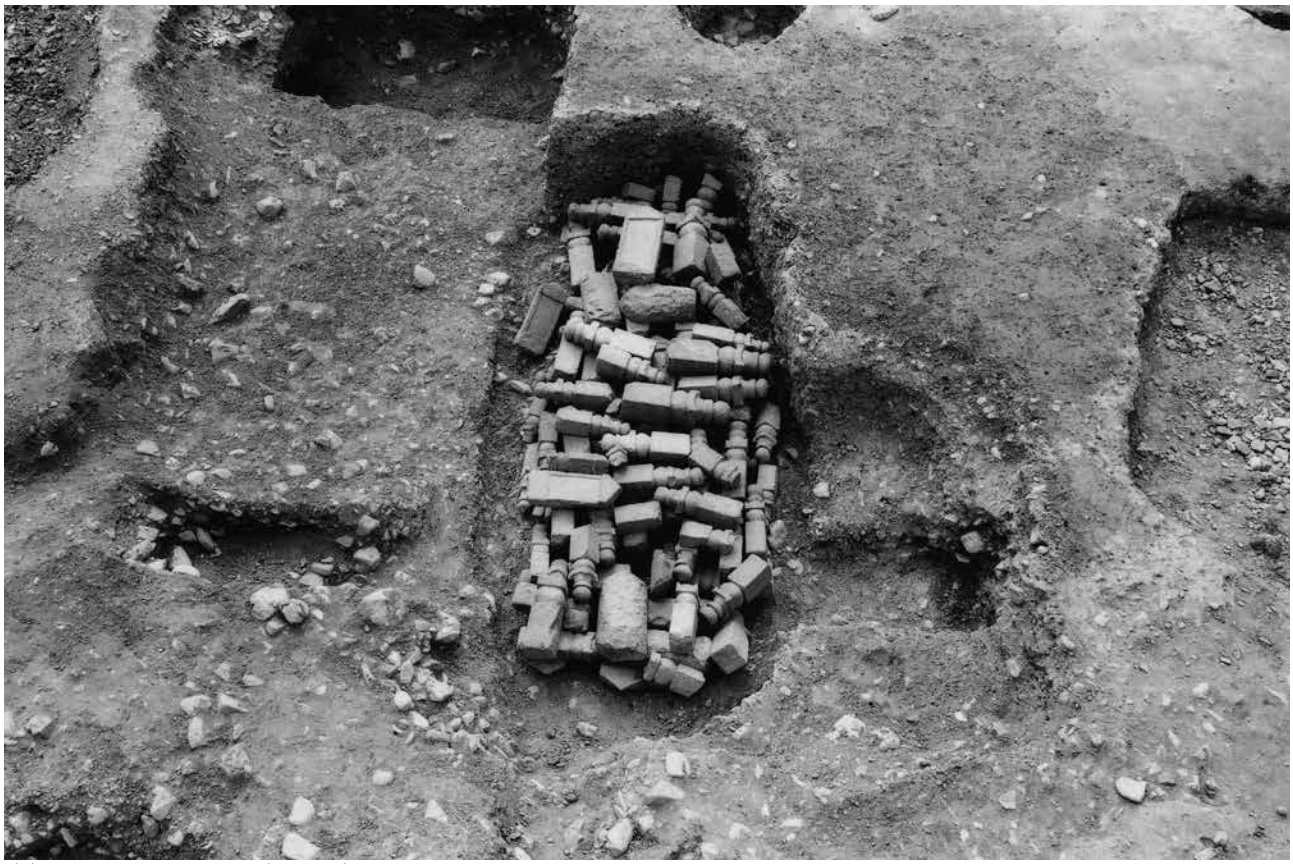
(1)墓地墓群17墓穴ＳＴ81人骨出土状況(南から)



(2)墓地墓群17墓穴ＳＴ81木質出土状況(西から)



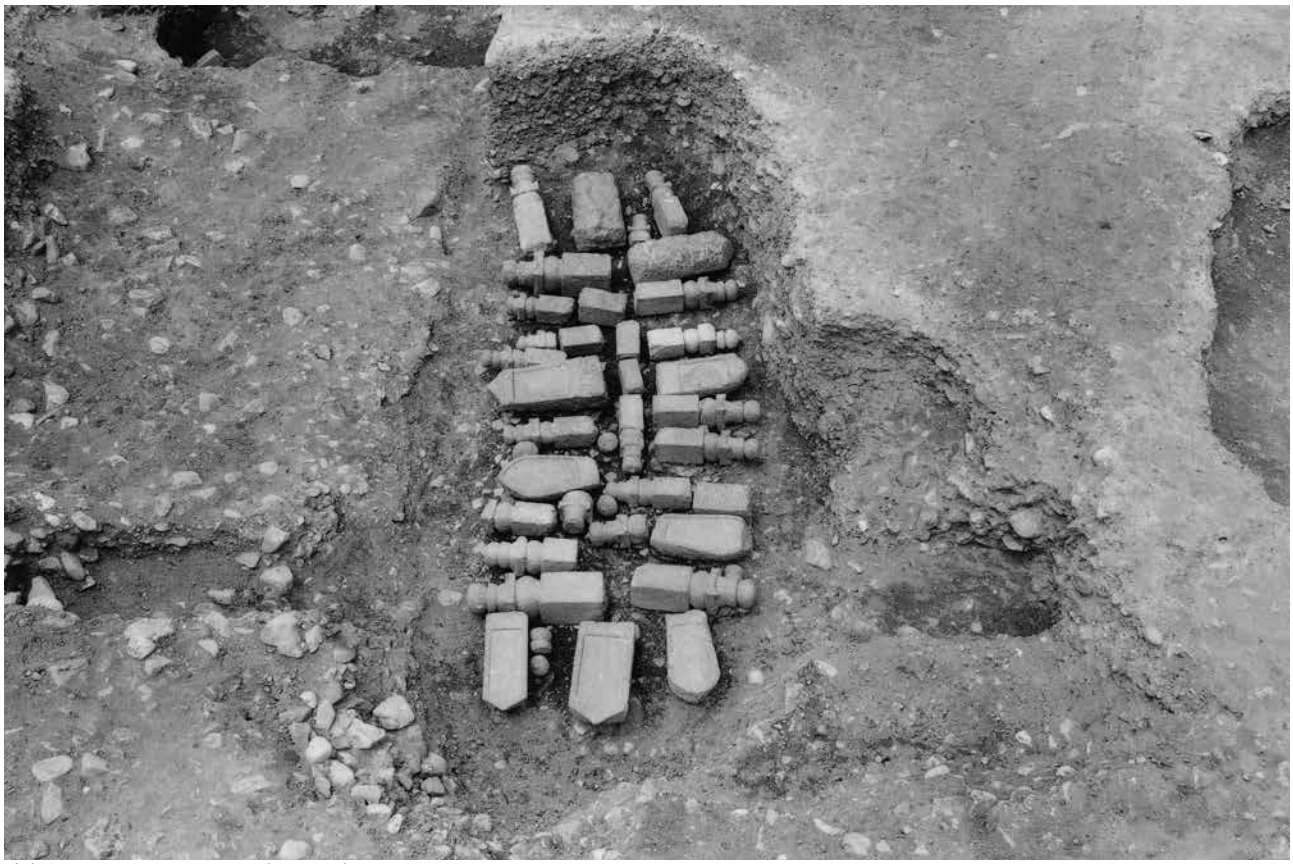
(1)墓地土坑ＳＫ99上層(東から)



(2)墓地土坑ＳＫ99中層(東から)



(1)墓地土坑ＳＫ99中層２(東から)



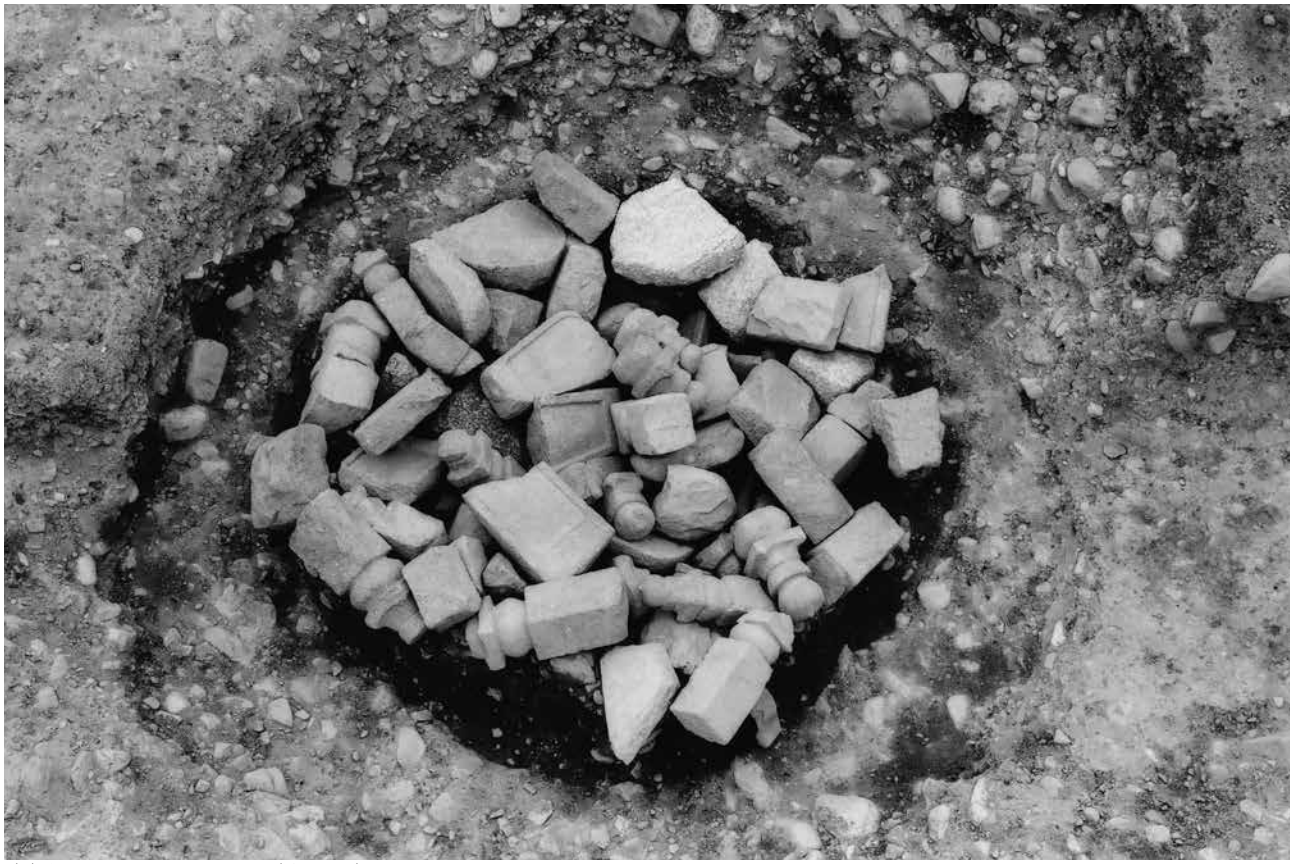
(2)墓地土坑ＳＫ99下層(東から)



(1)墓地土坑ＳＫ99完掘状況(東から)



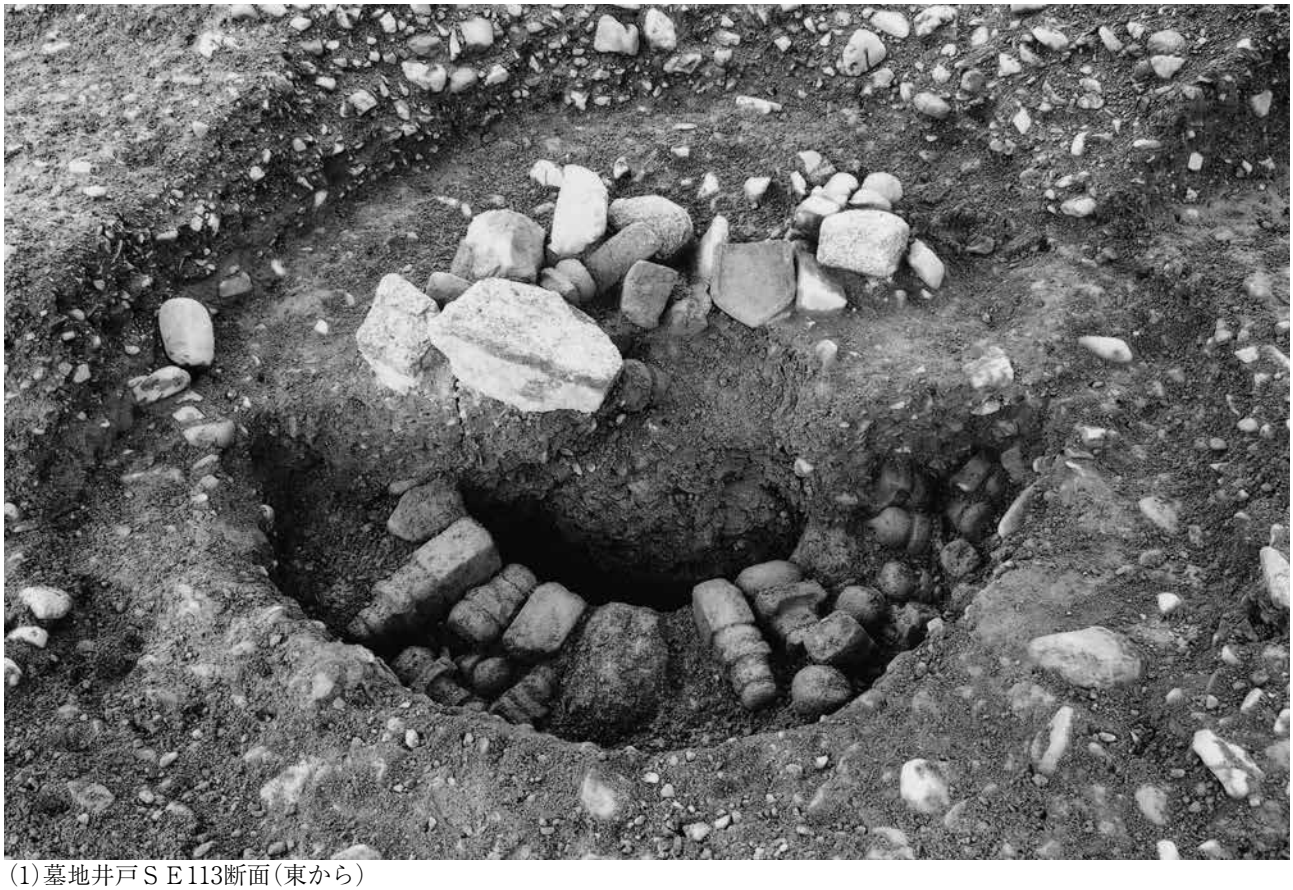
(2)墓地井戸ＳＥ113上層(東から)



(1)墓地井戸ＳＥ113中層(東から)



(2)墓地井戸ＳＥ113中層２(東から)



(1)墓地井戸ＳＥ113断面(東から)



(2)墓地井戸ＳＥ113最下層(東から)



(1)墓地井戸ＳＥ113完掘状況(東から)



(2)墓地土坑ＳＫ471・井戸ＳＥ100断面(西から)



(1)墓地土坑ＳＫ471・井戸ＳＥ100断面(西から)



(2)墓地井戸ＳＥ100上層墓石出土状況(北から)



(1)墓地井戸ＳＥ100(北から)



(2)墓地土坑ＳＫ139(西から)



(1)墓地土坑ＳＫ80断面(西から)



(2)墓地土坑ＳＫ80遺物出土状況(東から)



(1)墓地土坑ＳＫ80遺物出土状況(西から)



(2)墓地土坑ＳＫ111断面(東から)

図版第 116　寺町旧域・法成寺跡



(1)南地区(４・７トレンチ)断ち割り状況(東から)



(2)南地区(４・７トレンチ)断ち割り状況(南西から)

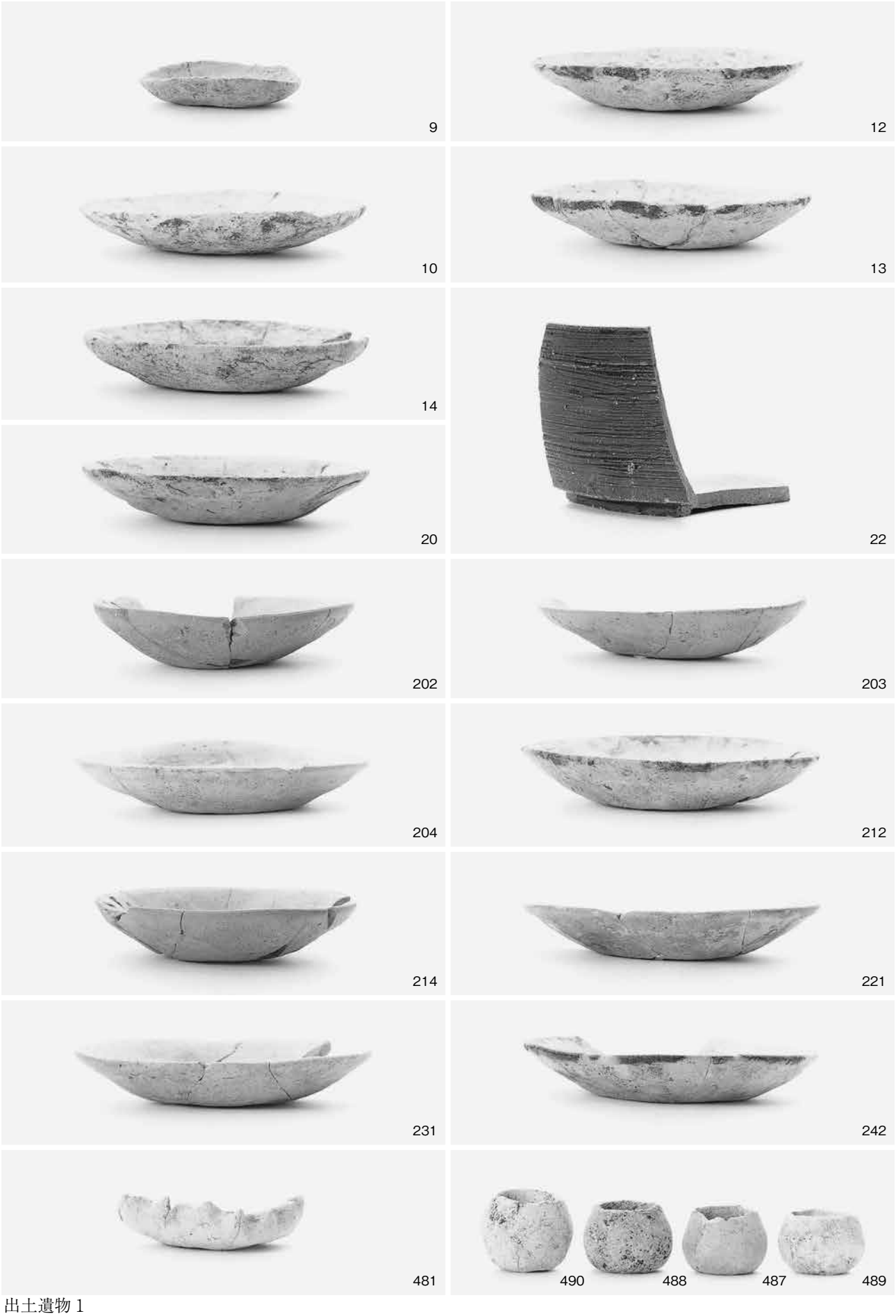


(1)南地区中央部(２トレンチ東半)断ち割り断面(東から)



(2)南地区中央部(２トレンチ西半)断ち割り断面(東から)

図版第 118　寺町旧域・法成寺跡



出土遺物 1

図版第 119　寺町旧域・法成寺跡


252


255


499


484


482


484


482


500


483


485


423


青銅1


青銅2


青銅3


青銅4

出土遺物 2

図版第 120　寺町旧域・法成寺跡


620


621


693


701


770


771


677


720


707


712


820


711


882

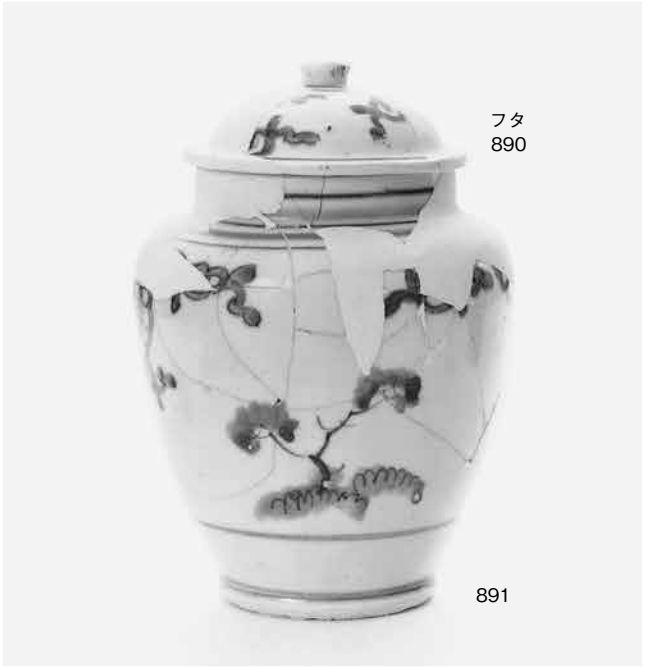

884

出土遺物 3


889


887


885


フタ
890
891


893


892

出土遺物 4


894


895

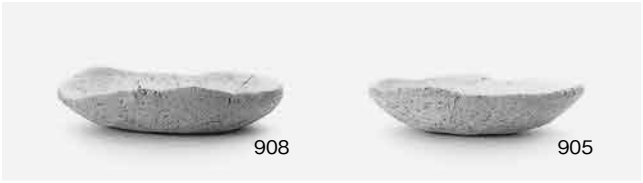

896


897


901


902

出土遺物 5


908
905


904
909


906
910


925


924


921


922


927


926


917


915


920


918


936


937


938


939


956


958


959


994


1000


989


990


1064


1066


964


965


1023


1025


1017


1069


1067


1068

出土遺物 7


1108


1110


1115


1116


1117


1118


1086


1087


1119


1120


1122

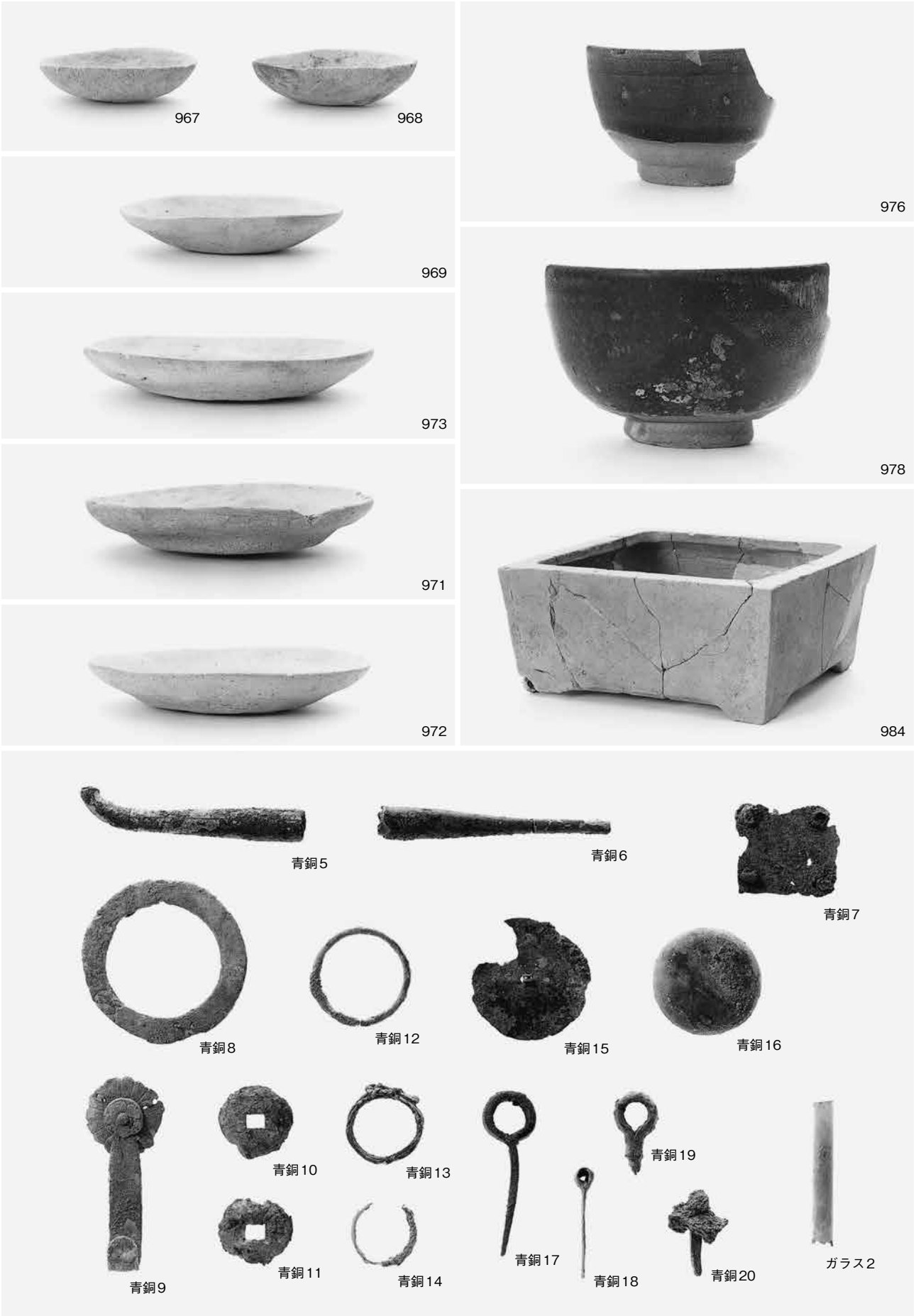

1123


1124


1088


1089

図版第 126　寺町旧域・法成寺跡



出土遺物 9


62


64


63


65


61


66


60


67



図版第 128　寺町旧域・法成寺跡

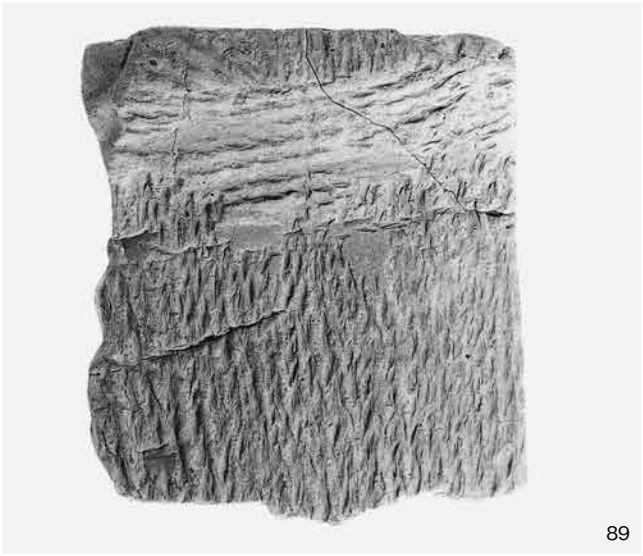

86

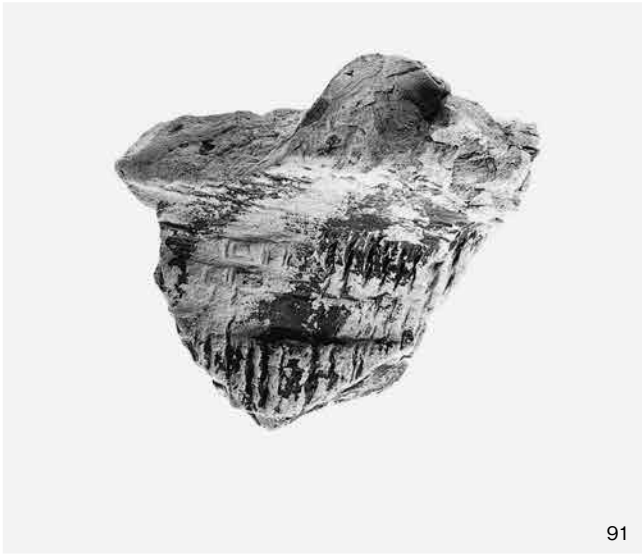

581


579


89


91


89


91


90


585

出土遺物11

図版第 129　寺町旧域・法成寺跡



100



98



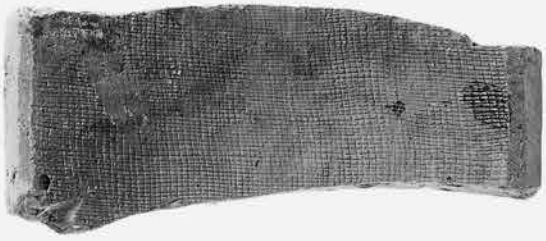
103



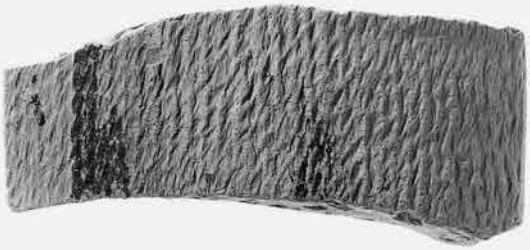
94



94



104



104

出土遺物12

図版第 130　寺町旧域・法成寺跡


1160


1161


1163


1162


1164

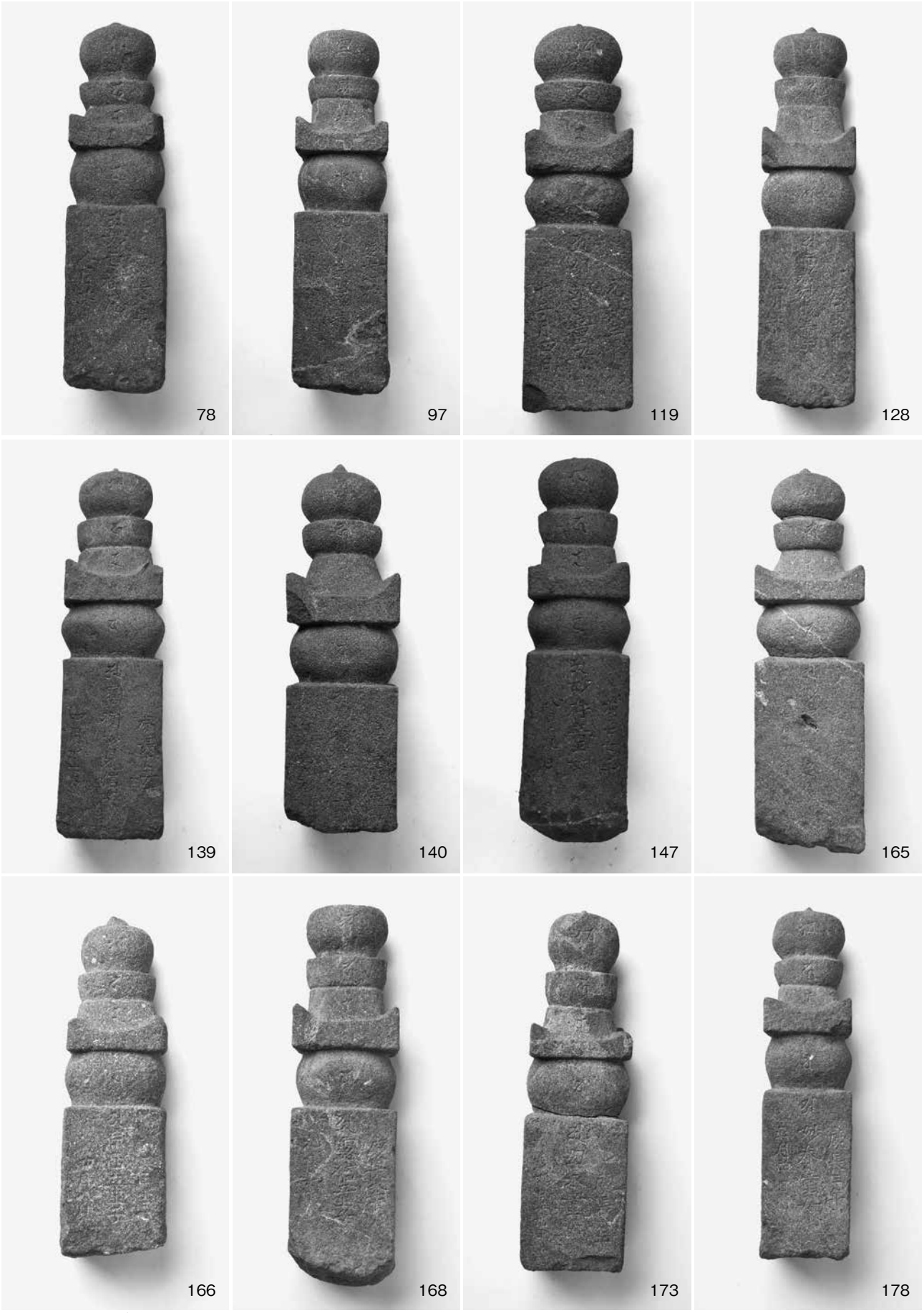

1164

出土遺物13

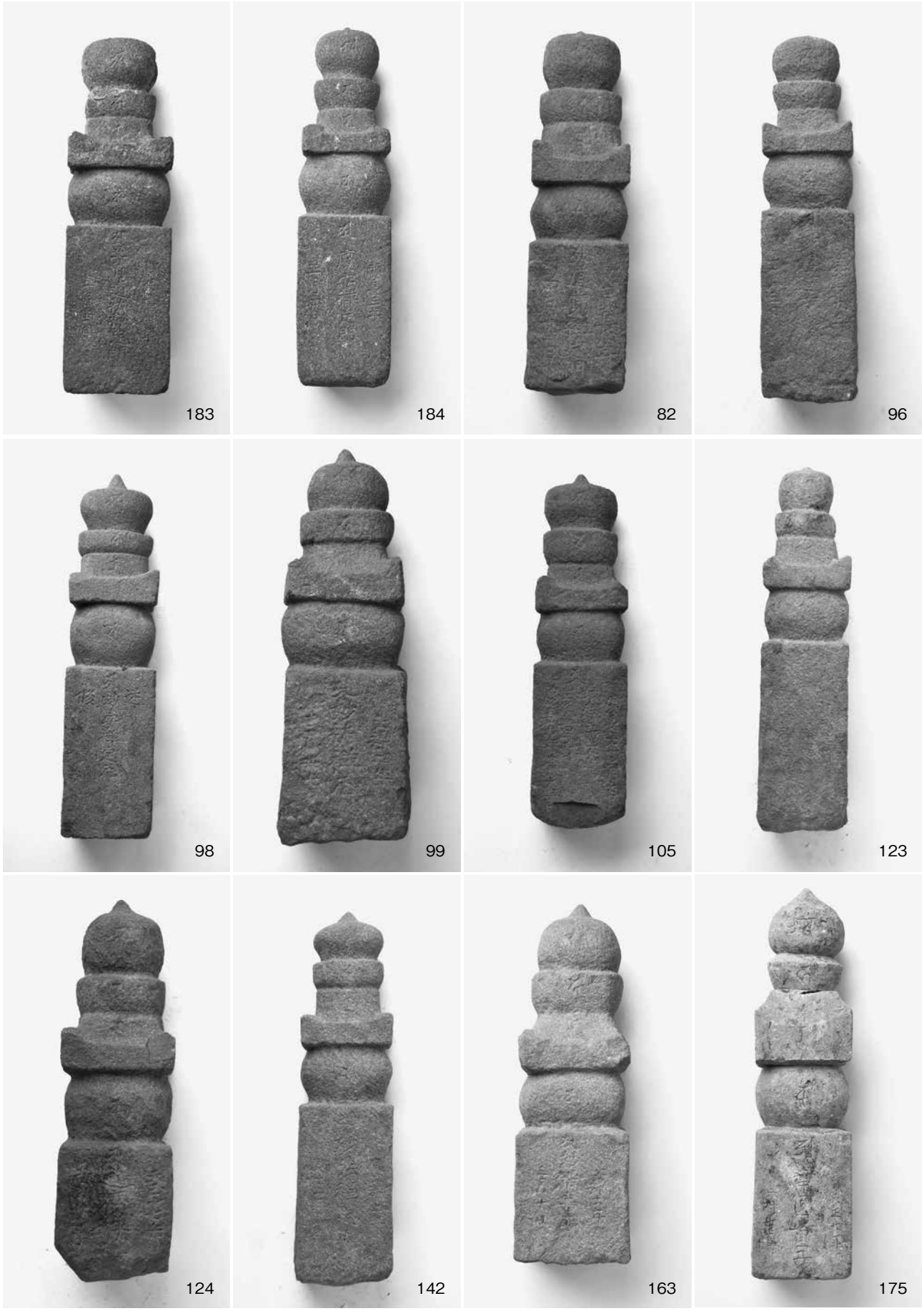
図版第 131　寺町旧域・法成寺跡



出土遺物14



S K99　一石五輪塔 1



ＳＫ99　一石五輪塔２

図版第 134　寺町旧域・法成寺跡



碑 57



碑 63



碑 74



碑 80



碑 85



碑 87



碑 55



碑 73



碑 83

ＳＫ99　板碑


240・241


251


254・255


275・276


277・278


285


296


300・301


297・298


299


303・304

ＳＥ113　一石五輪塔



碑 113・114



碑 127・128



碑 148



碑 90・91



碑 111・112



碑 116
・117



碑 118
・119



碑 131・132



碑 92・93

ＳＥ113　墓標・板碑


2


11


12


15


20


21


23


25


32


44


50


68

その他　一石五輪塔

図版第 138　寺町旧域・法成寺跡


碑 1


碑 5


碑 24


碑 30


碑 36


碑 86


碑 17


碑 18


碑 20

その他　板碑 1

図版第 139　寺町旧域・法成寺跡


碑 22


碑 25


碑 38


碑 42


碑 43


碑 8


碑 51


碑 51


碑 26


碑 154

その他　板碑 2



仏 1



仏 4



仏 2



仏 3



笠 14



笠 14



台 32



台 13

石仏その他

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちょうさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第172冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第172冊
編著者名	中川和哉・綾部侑真・引原茂治・岡崎研一・清水早織
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002　京都府向日市寺戸町南垣内40番の3　TEL 075(933)3877
発行年月日	西暦2018年3月30日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
てらまちきゅういき・ほうじょうじあと 寺町旧域・法成寺跡	きょうとしかみぎょうくてらまちこうじんぐちさがるまつかげちょう 京都市上京区寺町荒神口下ル松蔭町131他	26102	170 242	35° 01′ 14″	135° 46′ 04″	20140609 ～ 20160802	5,210	建物建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺町旧域・法成寺跡	寺院跡	安土桃山～江戸	柱穴・溝・土坑・井戸・墓	土師器･須恵器･陶磁器･漆器･瓦･銭貨･石製品・鉄製品・銅製品	

所収遺跡名	要　約
寺町旧域・法成寺跡	藤原道長が寛仁４(1020)年に創建した法成寺跡の境内付近にあたるが、寺に関連する遺構の検出には至らなかった。寺町旧域の基盤となる鴨川の河川堆積土内から緑釉瓦片が出土した。豊臣秀吉は、天正18(1590)年に京都の町割りを再編成し、京都市中に散在していた寺院を加茂川西岸に移転させて形成した寺町の一画にもあたる。寛永14(1637)年の「洛中絵図」には、行願寺(革堂)・専念寺・常念寺・三福寺が描かれる。今回の調査で、これらの寺境がわかるとともに、常念寺の本堂と墓域などの配置が明らかになるなど、秀吉が形成した寺町の土地利用や、安土桃山時代から近世にかけての葬墓制の実態がわかる貴重な調査事例となった。

京都府遺跡調査報告集 第172冊

平成30年３月30日

発行　公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40番の３
Phone（075）933-3877（代）　Fax（075）922-1189
http://www.kyotofu-maibun.or.jp

印刷　三星商事印刷株式会社
〒604-0093　京都市中京区新町通竹屋町下ル
Phone（075）256-0961（代）　Fax（075）231-7141